

房谷戸遺跡 II

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第40集 —
《第II・III文化層編》

1992

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

房谷戸遺跡 II

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第40集—
《第II・III文化層編》

1992

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

凡 例

1. 調査区域内には、工事用基準杭(センター杭)を使用して2m×2mのグリッドを設定し、各グリッドには東西、南北ラインともにアラビア数字を付与し、その呼称は北東隅をあてた。このグリッドの設定に関しては、本遺跡の調査全体を通して使用したものであり、各グリッドの国家座標位置については、付図の全体図中に記載した。
2. 挿入図中に使用した方位は、真北を示す。
3. 本書における各図の縮尺は、各々に示した。特に石器の実測図は、単体資料については原則として $s = 4/5$ としているが、大形となる敲石・原石等については $s = 1/3$ とした。接合資料については、 $s = 1/2$ で掲載した。また、写真図版中の遺物の縮尺は、概ね $s = 1/2$ に統一した。
4. 挿入図中の番号の後ろに付した()内のは、石材の略称と遺物取り上げNo(遺物No)を示す。この遺物取り上げNoは、計画値一覧表中の遺物Noと同一のものを指す。
5. 遺物実測図中の矢印は、使用痕が確認できる範囲を示している。
6. 本文中の遺物の説明にみられる記号で、⇒および→は共に剝離順を示すが、⇒は面転移を、→は同一面からの剝離を示す。+は折れによる場合ないしは折断・分割を示し、…?…は不明であることを示す。
7. 石器の器種・石材の略称については、次のとおりである。

器種	槍先形尖頭器……槍先	ナイフ形石器……ナイフ	楔形石器……楔形
	搔器・削器……搔・削	抉入状石器……抉入	斧形石器……斧形
	加工痕を有する剥片…加削	使用痕を有する剥片…使剝	錐形石器……錐器

石材	黒色頁岩……黒頁	珪質頁岩……珪頁	砂質頁岩……砂頁	点紋頁岩……点頁
	赤色頁岩……赤頁	黒色安山岩…黒安	変質安山岩……変安	粗粒安山岩…粗安
	細粒安山岩…細安	灰色安山岩…灰安	ガラス質安山岩…ガ安	黒曜石……黒石
	チャート……チ	流紋岩……流紋	珪質変質岩……珪変	ダイサイト…ダイ
	変質玄武岩…変玄	溶結凝灰岩…溶凝	雲母石英片岩……雲片	紋象斑岩……紋斑
	橄欖岩……橄欖	閃緑岩……閃緑	ホルンフェルス…ホル	石英閃緑岩…石閃
	輝緑岩……輝緑			

8. 遺物分布図に使用した器種および石材の各記号は、下記に示す通りである。

器 種	石 材
◆ ナイフ形石器	● 黒色頁岩
▲ 搔・削器	○ 珪質頁岩
△ 彫 器	□ 頁 岩
○ 錐形石器	● 砂粒質頁岩
○ 楔形石器	● 点紋頁岩
○ 抉入状石器	▲ 黒色安山岩
● 斧形石器	▲ 変質安山岩
● 石 槌	△ 粗粒安山岩
■ 加工痕を有する剥片	● 灰色安山岩
□ 使用痕を有する剥片	● 黒曜石
● 剥 片	● チャート
● 碎 片	☆ 粉 岩
● 雑 器	★ 流紋岩
● 敲 石	○ 砂 岩
☆ 小 礫	● 珪質変質岩
☆ 礫	◆ ダイサイト
★ 原 石	○ 変質玄武岩
☆ 台 石	△ 粗粒安山岩
▲ 槍先形尖頭器	○ 溶結凝灰岩
	● 雲母石英片岩
	○ 紋象斑岩
	● 橄欖岩
	☆ ★ 輝岩
	★ 輝緑岩
	☆ ホルンフェルス
	● 赤色頁岩

目 次

凡 例

第3章 第Ⅱ文化層

第1節 第Ⅱ文化層の概要	3
第2節 石器の分布	4
第3節 出土石器	56
第4節 石器の接合	192
第5節 母岩別・接合別資料の分布	368
第6節 出土石器群の分析	410

第4章 第Ⅲ文化層

第1節 第Ⅲ文化層の概要	457
第2節 石器の分布と出土石器	457

第Ⅱ文化層 石器計測一覧表	466
Ⅱ 器種別一覧表	478

挿 図 目 次

第 1 図	1号ブロック石材別グラフ	4	第 44 図	〃	-2 ... 43
第 2 図	第II文化層 1号ブロック遺物分布図	5	第 45 図	第II文化層19号ブロック遺物分布図-1	44
第 3 図	第II文化層 2号ブロック遺物分布図-1	6	第 46 図	〃	-2 ... 45
第 4 図	〃	-2 ... 7	第 47 図	第II文化層20号ブロック遺物分布図-1	46
第 5 図	2号ブロック石材別グラフ	8	第 48 図	〃	-2 ... 47
第 6 図	3号ブロック石材別グラフ	8	第 49 図	20号ブロック石材別グラフ	47
第 7 図	第II文化層 3号ブロック遺物分布図	9	第 50 図	第II文化層21号ブロック遺物分布図-1	49
第 8 図	第II文化層 4号ブロック遺物分布図-1	10	第 51 図	〃	-2 ... 51
第 9 図	〃	-2 ... 11	第 52 図	第II文化層22号ブロック遺物分布図-1	52
第 10 図	4号ブロック石材別グラフ	12	第 53 図	〃	-2 ... 53
第 11 図	5号ブロック石材別グラフ	13	第 54 図	21号ブロック石材別グラフ	54
第 12 図	第II文化層遺物分布図	14	第 55 図	22号ブロック石材別グラフ	55
第 13 図	第II文化層 6号ブロック遺物分布図	15	第 56 図	ナイフ形石器	69
第 14 図	6号ブロック石材別グラフ	16	第 57 図	〃	70
第 15 図	7号ブロック石材別グラフ	16	第 58 図	槌・削器	71
第 16 図	8号ブロック石材別グラフ	17	第 59 図	〃	72
第 17 図	第II文化層 7号ブロック遺物分布図	18	第 60 図	〃	73
第 18 図	第II文化層 8号ブロック遺物分布図	19	第 61 図	〃	74
第 19 図	第II文化層 9号ブロック遺物分布図	20	第 62 図	〃	75
第 20 図	9号ブロック石材別グラフ	21	第 63 図	〃	76
第 21 図	第II文化層10号ブロック遺物分布図-1	22	第 64 図	〃	77
第 22 図	〃	-2 ... 23	第 65 図	〃	78
第 23 図	10号ブロック石材別グラフ	23	第 66 図	楔形石器・彫器	79
第 24 図	11号ブロック石材別グラフ	24	第 67 図	錐形石器・抉入石器・斧形石器	80
第 25 図	第II文化層11号ブロック遺物分布図-1	25	第 68 図	加工痕を有する割片	81
第 26 図	〃	-2 ... 27	第 69 図	〃	82
第 27 図	第II文化層12号ブロック遺物分布図	28	第 70 図	〃	83
第 28 図	12号ブロック石材別グラフ	29	第 71 図	〃	84
第 29 図	13号ブロック石材別グラフ	29	第 72 図	〃	85
第 30 図	第II文化層13号ブロック遺物分布図	30	第 73 図	〃	86
第 31 図	第II文化層14号ブロック遺物分布図-1	31	第 74 図	〃	87
第 32 図	〃	-2 ... 32	第 75 図	〃	88
第 33 図	第II文化層15号ブロック遺物分布図	33	第 76 図	〃	89
第 34 図	第II文化層16号ブロック遺物分布図-1	34	第 77 図	〃	90
第 35 図	〃	-2 ... 35	第 78 図	〃	91
第 36 図	14号ブロック石材別グラフ	36	第 79 図	〃	92
第 37 図	15号ブロック石材別グラフ	36	第 80 図	〃	93
第 38 図	16号ブロック石材別グラフ	37	第 81 図	加工痕・使用痕を有する割片	94
第 39 図	17号ブロック石材別グラフ	38	第 82 図	使用痕を有する割片	95
第 40 図	第II文化層17号ブロック遺物分布図	39	第 83 図	〃	96
第 41 図	18号ブロック石材別グラフ	41	第 84 図	〃	97
第 42 図	19号ブロック石材別グラフ	41	第 85 図	石 核	98
第 43 図	第II文化層18号ブロック遺物分布図-1	42	第 86 図	〃	99

第87圖	〃100	第134圖	〃147
第88圖	〃101	第135圖	〃148
第89圖	〃102	第136圖	〃149
第90圖	〃103	第137圖	〃150
第91圖	〃104	第138圖	〃151
第92圖	〃105	第139圖	〃152
第93圖	〃106	第140圖	〃153
第94圖	〃107	第141圖	〃155
第95圖	〃108	第142圖	〃157
第96圖	〃109	第143圖	〃159
第97圖	〃110	第144圖	〃161
第98圖	〃111	第145圖	〃163
第99圖	〃112	第146圖	〃165
第100圖	〃113	第147圖	〃167
第101圖	〃114	第148圖	〃169
第102圖	〃115	第149圖	剥片171
第103圖	〃116	第150圖	〃172
第104圖	〃117	第151圖	〃173
第105圖	〃118	第152圖	〃174
第106圖	〃119	第153圖	〃175
第107圖	〃120	第154圖	〃176
第108圖	〃121	第155圖	〃177
第109圖	〃122	第156圖	〃178
第110圖	〃123	第157圖	鑿器179
第111圖	〃124	第158圖	〃180
第112圖	〃125	第159圖	〃181
第113圖	〃126	第160圖	敲石182
第114圖	〃127	第161圖	〃183
第115圖	〃128	第162圖	〃184
第116圖	〃129	第163圖	〃185
第117圖	〃130	第164圖	〃186
第118圖	〃131	第165圖	〃187
第119圖	〃132	第166圖	台石・鑿・原石188
第120圖	〃133	第167圖	原石189
第121圖	〃134	第168圖	〃190
第122圖	〃135	第169圖	〃191
第123圖	〃136	第170圖	接合・母岩別資料197
第124圖	〃137	第171圖	〃199
第125圖	〃138	第172圖	〃201
第126圖	〃139	第173圖	〃203
第127圖	〃140	第174圖	〃204
第128圖	〃141	第175圖	〃205
第129圖	〃142	第176圖	〃207
第130圖	〃143	第177圖	〃208
第131圖	〃144	第178圖	〃209
第132圖	〃145	第179圖	〃210
第133圖	〃146	第180圖	〃211

第181图	#213	第228图	#276
第182图	#215	第229图	#277
第183图	#216	第230图	#278
第184图	#217	第231图	#279
第185图	#219	第232图	#280
第186图	#221	第233图	#281
第187图	#222	第234图	#282
第188图	#223	第235图	#283
第189图	#224	第236图	#284
第190图	#225	第237图	#285
第191图	#226	第238图	#286
第192图	#227	第239图	#287
第193图	#228	第240图	#288
第194图	#229	第241图	#289
第195图	#230	第242图	#290
第196图	#231	第243图	#291
第197图	#232	第244图	#292
第198图	#233	第245图	#293
第199图	#234	第246图	#294
第200图	#235	第247图	#295
第201图	#236	第248图	#296
第202图	#237	第249图	#297
第203图	#238	第250图	#299
第204图	#239	第251图	#300
第205图	#240	第252图	#301
第206图	#241	第253图	#302
第207图	#242	第254图	#303
第208图	#243	第255图	#304
第209图	#244	第256图	#305
第210图	#245	第257图	#306
第211图	#246	第258图	#307
第212图	#247	第259图	#308
第213图	#248	第260图	#309
第214图	#249	第261图	#310
第215图	#250	第262图	#311
第216图	#251	第263图	#312
第217图	#255	第264图	#313
第218图	#257	第265图	#314
第219图	#258	第266图	#315
第220图	#259	第267图	#316
第221图	#267	第268图	#317
第222图	#269	第269图	#318
第223图	#271	第270图	#319
第224图	#272	第271图	#320
第225图	#273	第272图	#321
第226图	#274	第273图	#322
第227图	#275	第274图	#323

第275図	#	324	第321図	9・10・11号ブロック接合分布図.....	391	
第276図	#	325	第322図	11号ブロック接合分布図.....	392	
第277図	#	326	第323図	#	393
第278図	#	327	第324図	13・14号ブロック接合分布図.....	394	
第279図	#	333	第325図	15・16号ブロック接合分布図.....	395	
第280図	#	335	第326図	16号ブロック接合分布図.....	396	
第281図	#	336	第327図	17・18号ブロック接合分布図.....	397	
第282図	#	337	第328図	18号ブロック接合分布図.....	398	
第283図	#	338	第329図	#	399
第284図	#	339	第330図	19号ブロック接合分布図.....	400	
第285図	#	340	第331図	#	401
第286図	#	341	第332図	#	402
第287図	#	342	第333図	20・21号ブロック接合分布図.....	403	
第288図	#	343	第334図	#	404
第289図	#	344	第335図	21号ブロック接合分布図.....	405	
第290図	#	345	第336図	#	406
第291図	#	346	第337図	#	407
第292図	#	347	第338図	22号ブロック接合分布図.....	408	
第293図	#	348	第339図	1号ブロックの器種組成.....	419	
第294図	#	349	第340図	2・3号ブロックの器種組成.....	420	
第295図	#	350	第341図	4号ブロックの器種組成.....	421	
第296図	#	351	第342図	5号ブロックの器種組成.....	422	
第297図	#	352	第343図	6・7号ブロックの器種組成.....	423	
第298図	#	353	第344図	8・9号ブロックの器種組成.....	424	
第299図	#	354	第345図	10・11号ブロックの器種組成.....	425	
第300図	#	355	第346図	12・13・14号ブロックの器種組成.....	426	
第301図	#	356	第347図	15・16号ブロックの器種組成.....	427	
第302図	#	357	第348図	17・18号ブロックの器種組成.....	428	
第303図	#	358	第349図	19号ブロックの器種組成.....	429	
第304図	#	359	第350図	20号ブロックの器種組成.....	430	
第305図	#	360	第351図	21号ブロックの器種組成.....	431	
第306図	#	361	第352図	22号ブロックの器種組成.....	432	
第307図	#	362	第353図	接合資料にみるブロック相互の関係図.....	436	
第308図	#	363	第354図	剥片形状の分類と形状集合図.....	443	
第309図	#	364	第355図	接合資料にみる剥片形状集合図(1).....	444	
第310図	#	365	第356図	接合資料にみる剥片形状集合図(2).....	445	
第311図	#	366	第357図	接合資料にみる剥片形状集合図(3).....	446	
第312図	1号ブロック接合分布図.....	377	第358図	第II文化層の主な石器とその関連資料.....	451		
第313図	2号ブロック接合分布図.....	378	第359図	第III文化層A地点出土遺物分布図.....	458		
第314図	#	379	第360図	第III文化層D地点出土遺物分布図.....	459	
第315図	2・3号ブロック接合分布図.....	381	第361図	第III文化層出土石器.....	460		
第316図	4号ブロック接合分布図.....	382	第362図	下蝕牛伏遺跡第II文化層出土の 片岩製局部磨製石斧.....	461		
第317図	#	383	第363図	群馬県勢多郡新里村入ノ沢遺跡出土石器.....	461	
第318図	#	387	第364図	各地にみる3万～5万年に 位置づけられる斧形石器.....	462	
第319図	5・7号ブロック接合分布図.....	389					
第320図	7・8号ブロック接合分布図.....	390					

写真図版目次

図版1 第II文化層遺物出土状態全景 (北から望む)	図版29	//
// (南から望む)	図版30	//
図版2 第II文化層遺物出土状態全景	図版31	//
第II文化層拡張区試掘全景	図版32	//
図版3 第II文化層東側道遺物出土状態	図版33	//
第II文化層8号ブロック遺物出土状態	図版34	//
// 1号ブロック遺物出土状態	図版35	//
図版4 style="text-align: center;">// 11号ブロック遺物出土状態	図版36	//
// 4号ブロック遺物出土状態	図版37	//
図版5 style="text-align: center;">// 21号ブロック遺物出土状態	図版38	//
// 22号ブロック遺物出土状態	図版39	//
// 16号ブロック遺物出土状態	図版40	//
図版6 第II文化層5号ブロックNo.699出土状態	図版41	//
// 6号ブロックNo.641出土状態	図版42	//
// 16号ブロックNo.498出土状態	図版43	//
// 20号ブロックNo.170出土状態	図版44	//
// 6号ブロックNo.642出土状態	図版45	//
// // No.637出土状態	図版46	//
// 4号ブロックNo.907出土状態	図版47 第II文化層出土石器 接合資料	
// 6号ブロックNo.636出土状態	図版48	//
図版7 第III文化層遺物出土状態	図版49	//
土層剥ぎ取り作業	図版50	//
図版8 第II文化層出土石器	図版51	//
図版9 style="text-align: center;">//	図版52	//
図版10 style="text-align: center;">//	図版53	//
図版11 style="text-align: center;">//	図版54	//
図版12 style="text-align: center;">//	図版55	//
図版13 style="text-align: center;">//	図版56	//
図版14 style="text-align: center;">//	図版57	//
図版15 style="text-align: center;">//	図版58	//
図版16 style="text-align: center;">//	図版59	//
図版17 style="text-align: center;">//	図版60	//
図版18 style="text-align: center;">//	図版61	//
図版19 style="text-align: center;">//	図版62	//
図版20 style="text-align: center;">//	図版63	//
図版21 style="text-align: center;">//	図版64	//
図版22 style="text-align: center;">//	図版65	//
図版23 style="text-align: center;">//	図版66	//
図版24 style="text-align: center;">//	図版67	//
図版25 style="text-align: center;">//	図版68	//
図版26 style="text-align: center;">//	図版69	//
図版27 style="text-align: center;">//	図版70	//
図版28 style="text-align: center;">//	図版71	//

図版72	〃	図版78	〃
図版73	〃	図版79	〃
図版74	〃	図版80	〃
図版75	〃	図版81	〃
図版76	〃	図版82	第III文化層出土石器
図版77	〃		

目 次

表1	1号ブロック器種別・石材別出土量表	4	表14	14号ブロック	〃	36	
表2	2号ブロック	〃	8	表15	15号ブロック	〃	36
表3	3号ブロック	〃	8	表16	16号ブロック	〃	37
表4	4号ブロック	〃	12	表17	17号ブロック	〃	38
表5	5号ブロック	〃	13	表18	18号ブロック	〃	41
表6	6号ブロック	〃	16	表19	19号ブロック	〃	41
表7	7号ブロック	〃	16	表20	20号ブロック	〃	46
表8	8号ブロック	〃	17	表21	21号ブロック	〃	54
表9	9号ブロック	〃	21	表22	22号ブロック	〃	55
表10	10号ブロック	〃	22	表23	器種別・石材別出土量表	416	
表11	11号ブロック	〃	24	表24	ブロック別・器種別出土量表	417	
表12	12号ブロック	〃	29	表25	ブロック別・石材別出土量表	418	
表13	13号ブロック	〃	29	表26	ブロック間接合の関係	437	

第I文化層編 略 目 次

巻頭写真

序

例 言

凡 例

第1章 遺跡の立地

第1節 遺跡の立地と周辺遺跡	1
第2節 調査区の設定と調査の方法	7
第3節 基本土層	8

第2章 第I文化層

第1節 第I文化層の概要	12
第2節 石器の分布	13
第3節 出土石器	16
第4節 石器の接合	41
第5節 個別別・接合別資料の分布	99
第6節 出土石器群の分析	126

石器計測一覧表	140
---------------	-----

付 図 目 次

1 第I文化層試掘トレンチ調査地点配置図	12 第I文化層2号ブロック個別別資料分布図(2)
2 第II文化層試掘トレンチ調査地点配置図	13 第II文化層石器出土分布図
3 第III文化層試掘トレンチ調査地点配置図	14 第II文化層母岩別資料分布図(1)
4 第I文化層石器出土分布図	15 第II文化層母岩別資料分布図(2)
5 第I文化層1号ブロック遺物平面・垂直分布図	16 第II文化層母岩別資料分布図(3)
6 第I文化層2号ブロック遺物平面・垂直分布図	17 第II文化層母岩別資料分布図(4)
7 第I文化層1号ブロック個別別資料分布図(1)	18 第II文化層母岩別資料分布図(5)
8 第I文化層1号ブロック個別別資料分布図(2)	19 第II文化層母岩別資料分布図(6)
9 第I文化層1号ブロック個別別資料分布図(3)	20 第II文化層母岩別資料分布図(7)
10 第I文化層1号ブロック個別別資料分布図(4)	21 第II文化層母岩別資料分布図(8)
11 第I文化層2号ブロック個別別資料分布図(1)	

第3章 第II文化層

第1節 第II文化層の概要

本遺跡における第II文化層としたものは、基本土層の第XIV層 (As-BP) の下位から第XVII層 (暗色帯) までの間に出土した石器群を包括した。

この第II文化層を形成する石器群については、側道部分の先行調査の時点でその存在が確認されていたため、調査対象地全体に範囲確認のための試掘を行い、調査区の設定および調査の進行を図った。その結果、本文化層の石器群の分布は、調査対象地の南側の南斜面が広く広がる南端付近に位置し、設定された調査区全体に22ヶ所の石器集中部 (ブロック) が、互いに隣接するような形で検出された。

この第II文化層とした石器群をとりまく土層は、第X層から第XVII層とした一連の浅間一板鼻褐色軽石 (As-BP) グループの軽石層が間層 (風化土) をはさみつつ堆積し、その下の第XVI層の中位には始良Tn火山灰の極大値部の存在が確認されている。この第XVI層の下に、「暗色帯」とされる第XVII層が30~40cmの厚さで台地全体に堆積している。さらに下には、近年この赤城山西麓で調査されたそれぞれの遺跡で、その存在 (堆積) が確認された、約25,000~30,000年前の降下とされる榛名一八崎火山灰 (Hr-HA)、第XIX・XX層が続く。検出された多くの石器群の出土した層位は、先の第XVI層とした始良Tn火山灰の極大値部を含む層の下部から第XVII層とした暗色帯の中位にかけて主体を成すもので、いわゆる始良Tn火山灰降下以前の石器群である。

ただし、これら第II文化層を形成する多くの石器群とは別に、台地中央部付近の53C00グリッドにおいて、ナイフ形石器が1点のみ単独で出土している。このナイフ形石器の出土層位は、第IX層の下位にあり、ここで取り上げた本来の第II文化層の石器群の出土層位とは、第X層から第XIV層までの一連のAs-BPグループの軽石層をはさみ、明らかに異なる時間帯の所産によるものと考えられる。しかし、本遺跡における第IX層中の遺物は、このナイフ形石器のみで他の石器は出土しておらず、その文化内容については不明であるため、あえてこの項の中でその石器の説明を加えることにした。

検出された22ヶ所のブロックから出土した石器の総数は1,352点を数えるが、これら出土した石器の石材には、黒色頁岩や黒色安山岩、チャートをはじめとする24種類もの多くの石材が用いられており、その中でも黒色頁岩の占める割合が最も多く、ついで黒色安山岩の使用頻度が高い。赤城山西麓に位置する始良Tn火山灰降下以前の多くの遺跡では、この2種類の使用頻度の高いことが一般的であるが、中でも黒色安山岩の方が占める割合が多いことが通常である。しかし、本遺跡においては、黒色安山岩よりも黒色頁岩の方が多く出土している点で、他遺跡と異なり特徴的である。

出土した石器の器種組成は、ナイフ形石器を主体に掻・削器、彫器、鏃形石器、楔形石器、斧形石器、抉入状石器、加工痕および使用痕を有する刮片、石核、礫器、敲石、台石のほか多くの刮片等により、バラエティーに富んだ内容となっている。ナイフ形石器としたものの中には、従来のものとは異なる形態の、肉厚で大形のものが含まれるが、「台形 (楕) 石器」とされるものは含まれていない。この点も、周辺の遺跡の組成内容とは異なる。また、器種の中で削器と掻器の区別がつけ難いことや、加工痕を有する刮片が多いことなど、この時期におけるこの地域の特徴の一つでもある。斧形石器とした小形の石器については、県内での類例はみられず、関東地方の中でも少ない。今後の検討を要する石器である。

石器の接合資料は146例確認されているが、その総数は629点を数え、本遺跡出土石器総数の約46.5%にも達する。これら接合資料の分布をみると、各ブロック間の接合率の高さもさることながら、ブロックを飛び越え40m前後の距離をもち接合するものも数多くある。母岩別資料の分布をみても、一母岩別資料が複数のブ

第3章 第II文化層

ロックに分布することが普遍的にみられる。こうしたことから、この第II文化層の石器群が同一時間帯内の所産によるものであることがうかがえる。(谷藤)

第2節 石器の分布

本遺跡における第II文化層から検出された多くの石器群は、それぞれが数m単位のまとまりをもった22ヶ所の各ブロックに分別でき、ナイフ形石器を主体とする石器製作の場として認めることができた。また、従来跡・焼跡がまぎらって検出されるものを跡群、大きめの跡が数個残されるものを配石と呼び、旧石器時代の遺構として重要視されてきた。本遺跡では、このような跡群は検出されていない。しかし、配石とも思われる大きめの跡が検出されているが、ブロックの範囲と重複することから当該ブロックの中で述べる。

1号ブロック (第2図)

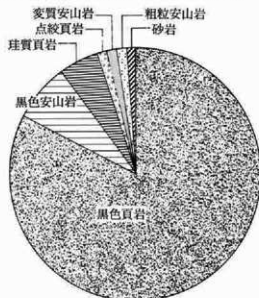
本ブロックは、調査地点A区の北端に検出され、西側に4mほど離れて2号ブロック、南側に4号ブロック、東側に4mほど離れて5号ブロックと隣接し、50～52B31～34グリッドに位置する。ブロックは、径が約7.7mほどの円に近い形状を呈し、約49.3m²程の範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、51B33グリッドと52B32グリッドを中心とする2つに分離することも可能であるが、石器の接合、母岩別資料の分布等の要素から、同一なブロックにあるものと認定した。石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層の上半にかけて出土し、その高低差はおおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

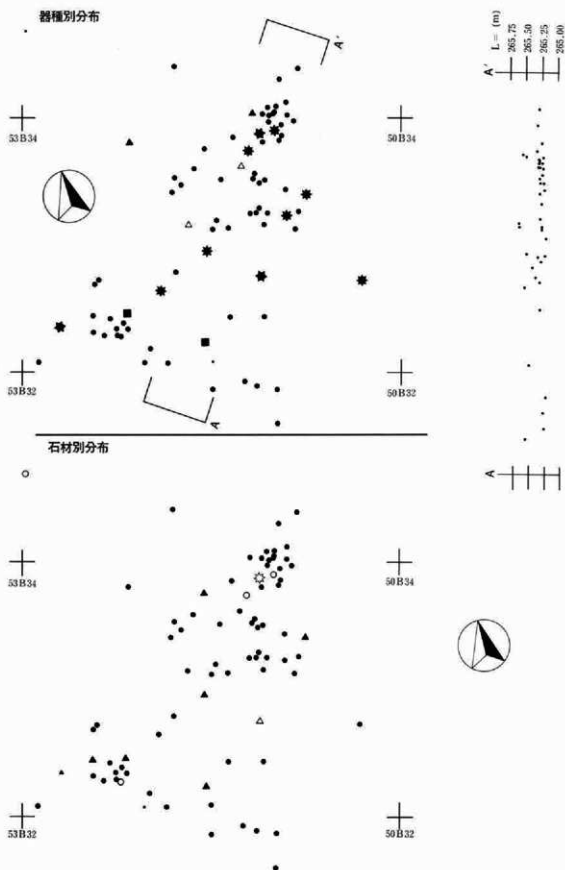
このブロックからは、総計80点の石器が出土しており、表1に示すようにに槌・削器2点、彫器2点、石核7点、加工痕を有する剥片2点、剥片・砕片64点、敲石3点で組成される。使用される石材は7種類で、その出土量をみると、黒色頁岩が最も多く66点、ついで黒色安山岩6点、珪質頁岩4点とつづく(第1図)。

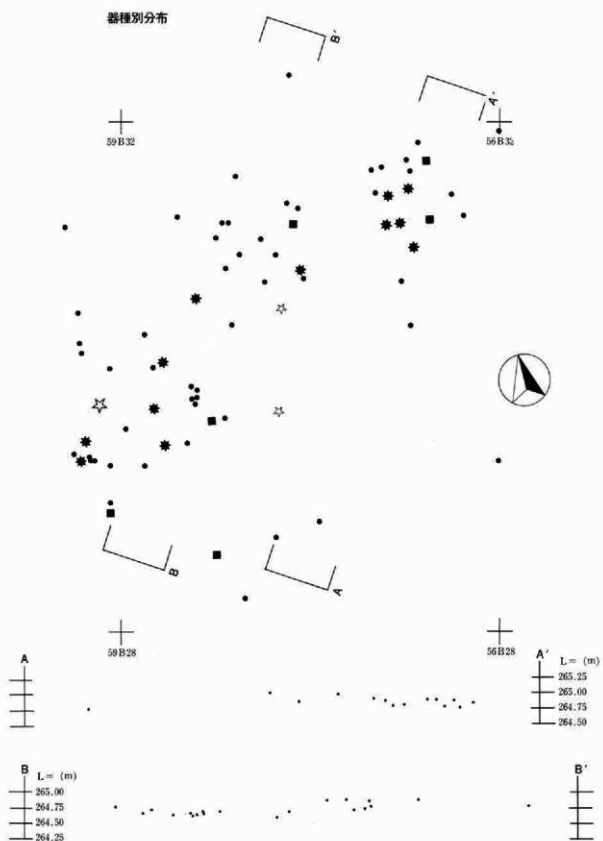
母岩別資料として分別できたものには4種類あげられ、黒色頁岩によるもの4例(母岩別資料4・8・28・36)が確認されている。また、石器の接合資料は6例あり、本ブロック内のみ接合するもの3例(接合資料2・3・5)、11号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料10)、20号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料11)、2・5号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料1)が確認されている。

表1 1号ブロック器種別・石材別出土量表

器種別	槌削	彫器	石核	加削	剥片	砕片	敲石	合計	%
黒頁	2	2	3		58	1		66	82.50
黒安			2	2	2			6	7.50
珪頁			2		1	1		4	5.00
点頁					1			1	1.25
安安							1	1	1.25
彫安							1	1	1.25
砂岩							1	1	1.25
合計	2	2	7	2	62	2	3	80	100.00

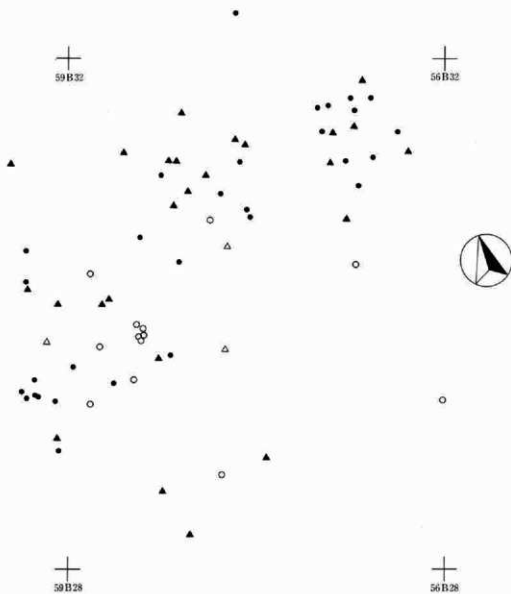






第3図 第II文化層2号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

石材別分布



第4図 第II文化層2号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

第3章 第II文化層

2号ブロック (第3・4図)

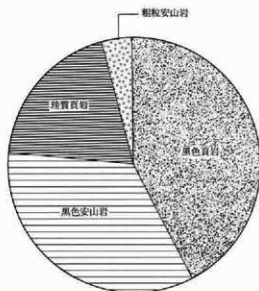
本ブロックは、調査地点A区の北西隅に検出され、南側に3号ブロック、東側に4号ブロックと隣接し、56-59B28-32グリッドに位置する。ブロックは長軸10.4m×短軸7.4mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約64.8m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、56B31グリッド、57-58B30グリッド、58-59B29グリッドを中心とする。3つに分離することも可能であるが、石器の接合、母岩別資料の分布等の要素から、同一のブロックにあるものと認定した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部)からXVII層(暗色帯)の上半にかけて出土し、その高低差はおよそ40cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのはXVII層中にみられる。

このブロックからは、総計73点の石器が出土しており、表2に示すように石核12点、加工痕を有する剥片6点、剥片52点、小礫2点、礫1点で組成される。定形的な石器種が含まれていない。使用される石材は4種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く、次いで黒色安山岩、珪質頁岩とつづく。(第5図)。

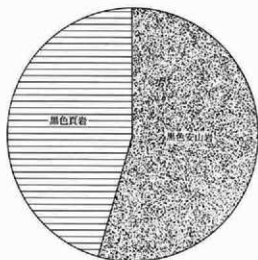
母岩別資料として分別できたものは8種類あげられ黒色頁岩によるもの5例(母岩別資料10・21・31・33・64)、黒色安山岩によるもの1例(母岩別資料44)、珪質頁岩によるもの2例(母岩別資料2・17)が確認されている。また、石器の接合資料は10例あり、ブロック内でのみ接合されるもの5例(接合資料16・18・135・15・17)、4号ブロックと接合関係にあるもの2例(接合資料13・14)、10号および17号ブロックの両ブロッ

表2 2号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	石核	加刺	剥片	小礫	礫	合計	%
黒頁	7	4	20			31	42.50
黒安	4	2	19			25	34.20
珪頁	1		13			14	19.20
粗安				2	1	3	4.10
合計	12	6	52	2	1	73	100.00



第5図 2号ブロック石材別グラフ

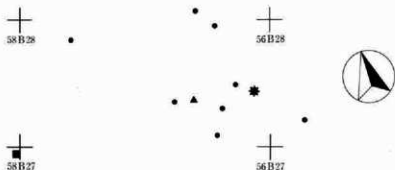


第6図 3号ブロック石材別グラフ

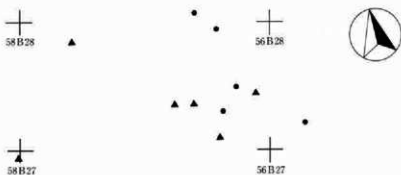
表3 3号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	標本	石核	加刺	剥片	合計	%
黒安	1	1	1	3	6	54.50
黒頁				5	5	45.50
合計	1	1	1	8	11	100.00

器種別分布



石材別分布



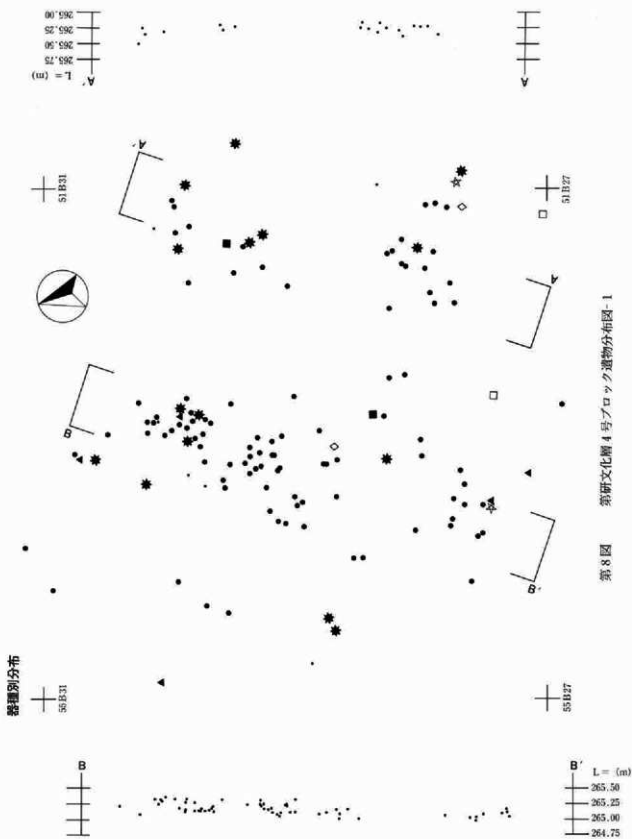
第7図 第II文化層3号ブロック遺物分布図 S=1/60

クと接合関係にあるもの1例（接合資料12）が確認されている。

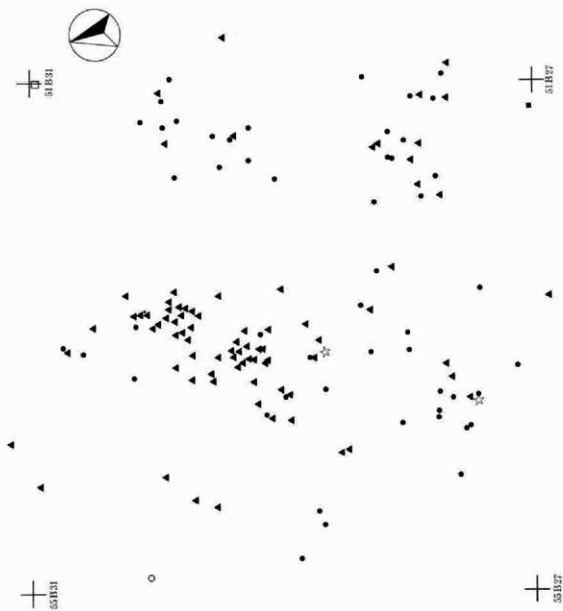
3号ブロック（第7図）

本ブロックは、調査地点A区の西側北寄りに検出された。北側に隣接した2号ブロック、東側にやや間をおいた4号ブロック、南側に2mほど離れた10号ブロックに挟まれ、55～58 B 26～28グリッドに位置する。ブロックは、長軸6.0m×短軸3.0mの小形な楕円形状を呈し、約15.2mほどの範囲をもち、石器が散漫に分布する。出土した石器は、第XVII層の下部（始良Tn火山灰極大値部）から第XVII層（暗色帯）の上半にかけて出土し、その高低差はおよそ27cmを測るが、最も安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。このブロックからは、総計11点の石器が出土しており、表3に示すように鏃・削器1点、石核1点、加工痕を有する刮片1点、刮片8点で組成される。使用される石材は黒色頁岩と黒色安山岩の2種類で、黒色安山岩が6点出土し、量的には黒色頁岩と比べ多い（第6図）。

母岩別資料として分別できるものに1種類あり、黒色安山岩の1例（母岩別資料43）のみである。また石器の接合資料についても母岩別資料と同一のものが1例（接合資料86）確認されている。



第8図 第II文化層4号ブロック遺物分布図-1



第9図 第II文化層4号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

第3章 第II文化層

4号ブロック (第8・9図)

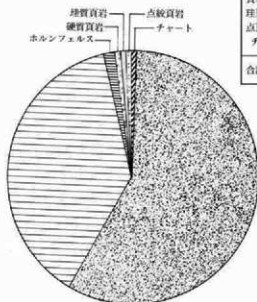
本ブロックは、調査地点A 区の中央北寄りに検出され、北側に1号ブロック、西側に2・3号ブロック、南側に2mほど離れて9号ブロック、東側に8号ブロックおよび2mほど離れて5号ブロックに囲まれ、50～54B26～31グリッドに位置する。ブロックは径が10m前後となるほぼ円に近い形状を呈し、約85.4m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、51B27・28グリッド、51B29グリッド、53B27グリッド、53・52B29グリッドを中心とする。4ないしは5つに分離することも可能であるが、石器の接合、母岩別資料等の要素から、同一なブロックにあるものと認定した。出土した石器は第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中間にかけて出土し、その高低差はおおよそ55cmを測るが、石器が最も多く出土しているのは第XVII層中に見られる。

このブロックからは、総計137点の石器が出土しており、表4に示すように掻・削器5点、楔形石器2点、石核15点、加工痕を有する剥片2点、使用痕を有する剥片2点、剥片・砕片108点、礫器2点、小礫1点で組成される。使用される石材は7種類で、その出土量をみると黒色安山岩が最も多く79点、ついで黒色頁岩52点、ホルンフェルス2点と続く(第10図)。

母岩別資料として分別できたものには9種類あげられ、黒色安山岩によるもの3例(母岩別資料24・87・88)、黒色頁岩によるもの6例(母岩別資料19・20・21・22・23・143)が確認されている。また石器の接合資料は9例あり、本ブロック内でのみ接合するもの3例(接合資料22・23・24)、9号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料20)、9号および10号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料19)、2号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料21)、22号ブロックと接合関係にあるもの2例(接合資料88・143)、2号・5号および21号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料87)が確認されている。

表4 4号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	掻削	楔形	石核	加工	使用	剥片	砕片	礫器	小礫	合計	%
黒安	2	2	6			66	3			79	57.70
黒頁	2		9	2	1	34	3	1		52	38.00
ホル 頁岩						1		1		2	1.50
珪頁	1								1	1	0.70
珪頁						1				1	0.70
点頁					1					1	0.70
チ										1	0.70
合計	5	2	15	2	2	102	6	2	1	137	100.00



第10図 4号ブロック石材別クラブ

5号ブロック (第12図)

本ブロックは、調査地点A区の中央北寄りに検出され、西側に2~4mほど離れて1号・4号ブロック、南側に4mほど離れて8号ブロック、東側に6号ブロックが近接し、46~48B29~31グリッドに位置する。ブロックは、長軸7.4m×短軸5.0mの比較的小形な楕円となる形状を呈し、約31m²ほどの範囲をもち、石器が散漫に分布する。出土した石器は、第XVII層の中位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおよそ60cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中みられる。

このブロックからは総計34点の石器が出土しており、表5に示すようにナイフ形石器、極・削器が各1点、石核6点、使用痕を有する剥片4点、剥片21点、敲石1点で組成される。使用される石材は6種類で、その出土量は黒色頁岩が19点、ついで黒色安山岩が5点、珪質頁岩4点、チャート3点と続く(第11図)。

母岩別資料として分別されたものには3種類あげられ、黒色頁岩によるもの1例(母岩別資料12)、珪質頁岩によるもの1例(母岩別資料56)、チャートによるもの1例(母岩別資料62)が確認されている。また石器の接合資料は母岩別資料と同様に3例あり、本ブロック内でのみ接合するもの2例(接合資料26・127)、1号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料25)が確認されている。

6号ブロック (第13図)

本ブロックは、調査地点A区の北東の隅に検出され、西側に5号ブロックと、南側に3mほど離れて7号ブロックと接し、43~45B28~31グリッドに位置する。ブロックは、長軸10.0m×短軸4.6mほどの長楕円な形状を呈し、約37.5m²の範囲をもち、石器が散漫に分布する。出土した石器は第XVII層の中位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の上位にかけて出土し、その高低差はおよそ30cmを測り、石器が最も安定して出土しているのは、第XVII層中みられる。

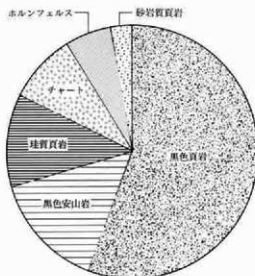
このブロックからは、総計17点の石器が出土しており、表6に示すようにナイフ形石器1点、小形の斧形石器1点、使用痕を有する剥片1点、剥片2点、敲石1点、大形の礫11点で組成される。使用される石材は4種類で、最も多いのは大形の礫に用いられた粗粒安山岩11点で、ついで黒色頁岩4点と続く(第14図)。

母岩別資料として分別されるものや、接合資料となるものは確認されなかった。

なお、本遺跡(第II文化層)において、大形の礫が比較的まとまっている場合は本ブロックのみであるが、その出土状態は1ヶ所に集中するのではなく、ブロック内に散漫に点在するような状況で、焼礫とされるものも含まれていない。1,500g前後の人头大ほどの大形の礫が数個単位でまとまるような形で、ある程度

表5 5号ブロック器種別・石材別出土量表

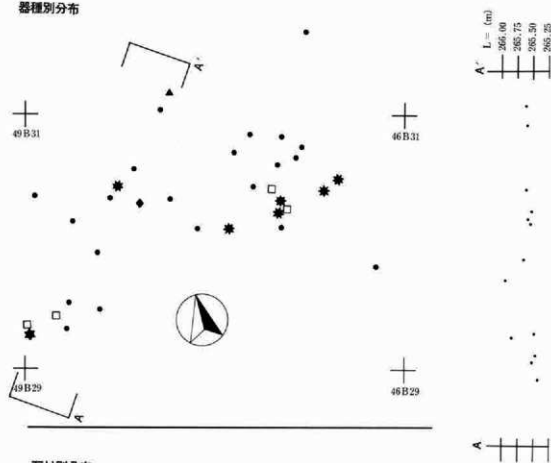
器種 石材	ナイフ	極削	石核	使用痕 剥片	剥片	敲石	合計	%
黒頁		1	2	2	14		19	55.90
黒安					5		5	14.70
珪頁	1		1	2			4	11.80
チ			2		1		3	8.80
ホル			1			1	2	5.90
砂頁					1		1	2.90
合計	1	1	6	4	21	1	34	100.00



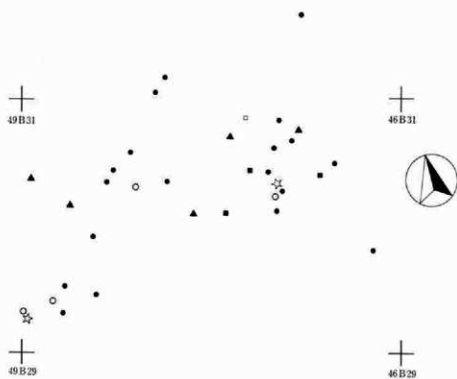
第11図 5号ブロック石材別クラブ

第3章 第II文化層

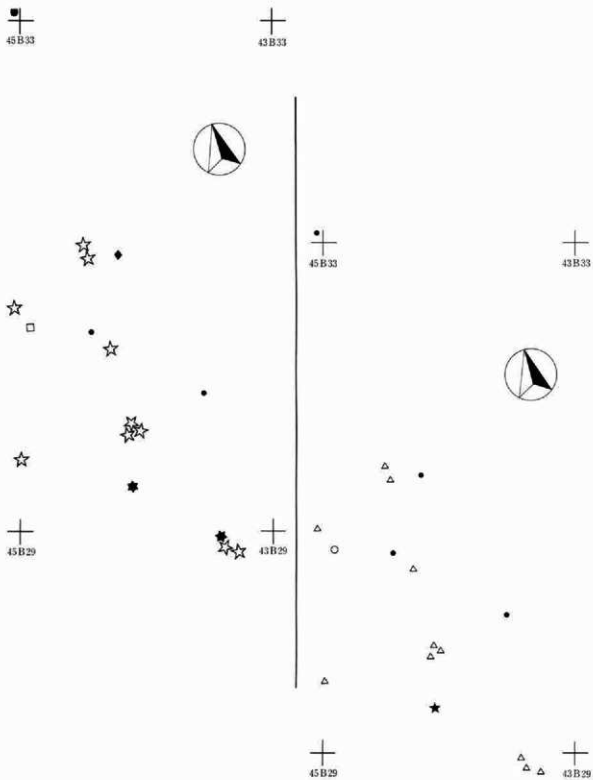
器種別分布



石材別分布



第12図 第II文化層5号ブロック遺物分布図 S=1/60

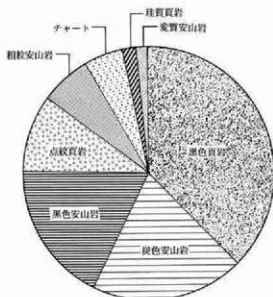


第13図 第II文化層6号ブロック遺物分布図 S=1/60

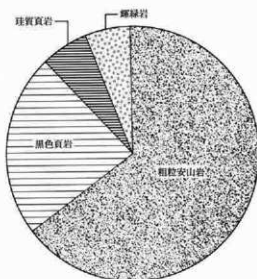
第3章 第II文化層

表6 6号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	ナイ	鐮形	使割	剥片	敲石	礫	合計	%
粗安						11	11	64.70
黒頁	1	1		2			4	23.50
埴頁			1				1	5.90
輝緑					1		1	5.90
合計	1	1	1	2	1	11	17	100.00



第15図 7号ブロック石材別グラフ



第14図 6号ブロック石材別グラフ

表7 7号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	ナイ	鐮形	石核	加割	剥片	砕片	敲石	小礫	合計	%
黒頁		1	2	1	16	3			23	37.70
灰安			2		9	1			12	19.70
黒安			1	1	7	2			11	18.00
点頁					6				6	9.90
粗安			1				1	2	4	6.60
チ	1		1	1					3	4.90
埴頁					1				1	1.60
安安							1		1	1.60
合計	1	1	7	3	39	6	2	2	61	100.00

の間隔をおき検出されている。これはいわゆる「配石」としてとらえることが十分に可能である。

7号ブロック (第17図)

本ブロックは、調査地点A区の中央東側に検出され、北側に6号ブロック、西側に8号ならびに11号ブロック、南側に12号ブロックとそれぞれ2～3mほど離れて接し、42～45B23～26グリッドに位置する。ブロックは長軸9.3m×短軸6.7mほどの概ね楕円となる形状を呈し、約49.1m²ほどの範囲をもち、石器が分布している。石器の集中部は、ブロックの西側45B24・25グリッドにその中心がみられる。出土した石器は、第XVII層の下位(始良Tn火山灰の極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計61点の石器が出土しており、表7に示すようにナイフ形石器1点、鐮形石器1点、石核7点、加工痕を有する剥片3点、剥片・砕片45点、敲石2点、小礫2点で組成される。使用される石材は8種類で、その出土量を見ると黒色頁岩が最も多く23点、ついで灰色安山岩が12点、黒色安山岩11点、点紋頁岩6点、粗粒安山岩4点、チャート3点と続く(第15図)。

母岩別資料として分別できたものには5種類あげられ黒色頁岩によるもの2例(母岩別資料20・85)、他はそれぞれ1例づつ珪質頁岩(母岩別資料32)、灰色安山岩(母岩別資料53)、黒色安山岩(母岩別資料75)によるものが確認されている。また石器の接合資料は5例で、本ブロック内でのみ接合するもの4例(接合資料29・90・91・144)、8号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料30)が確認されている。

8号ブロック(第18図)

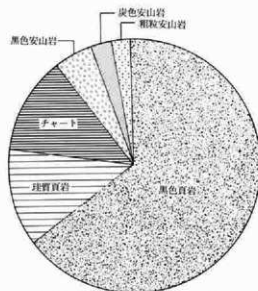
本ブロックは、調査地点A区の中央よりやや北寄りに検出され、北側に5号ブロックが4mほど離れ、西側は4号ブロックと近接し、南側に11号ブロック、東側に7号ブロックと3mほど離れて接し、47~50B25~27グリッドに位置する。ブロックは、長軸6.7m×短軸4.2mほどの楕円となる形状を呈し、約24.0㎡ほどの比較的小さな範囲をもち、石器が散漫に分布する。出土した石器は第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中段にかけて出土し、その高低差はおおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計40点の石器が出土しており、表8に示すようにナイフ形石器1点、楺・削器1点、石核7点、加工痕を有する剥片3点、剥片・砕片26点、礫1点、原石1点で組成される。使用される石材は6種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く26点、ついで珪質頁岩5点、チャート5点、黒色安山岩2点と続く(第16図)。

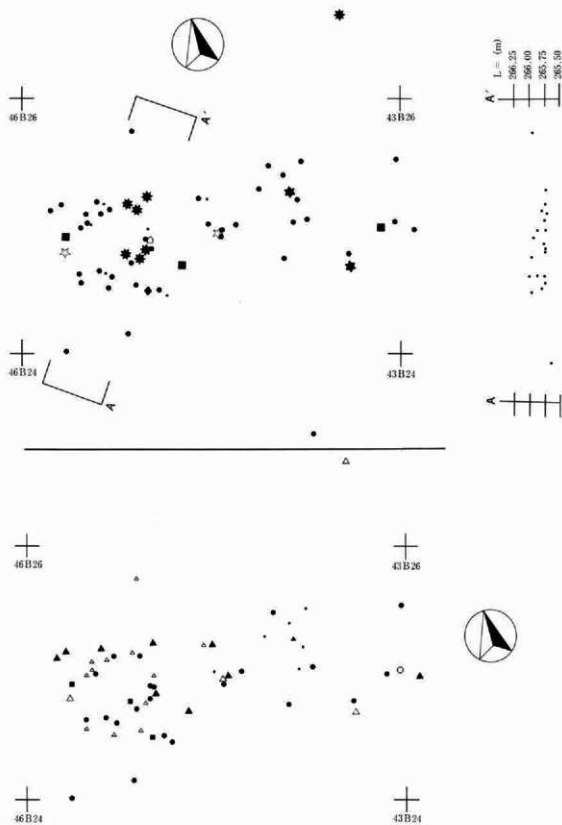
母岩別資料として分別できたものには5種類あげられ、黒色頁岩によるもの3例(母岩別資料28・66・83)、珪質頁岩によるもの1例(母岩別資料32)、チャートによるもの1例(母岩別資料61)が確認されている。また、石器の接合資料は母岩別資料と同様に5例あり、ブロック内でのみ接合されるもののみ5例(接合資料31・32・34・128・136)が確認されている。

表8 8号ブロック器種別・石材別出土量表

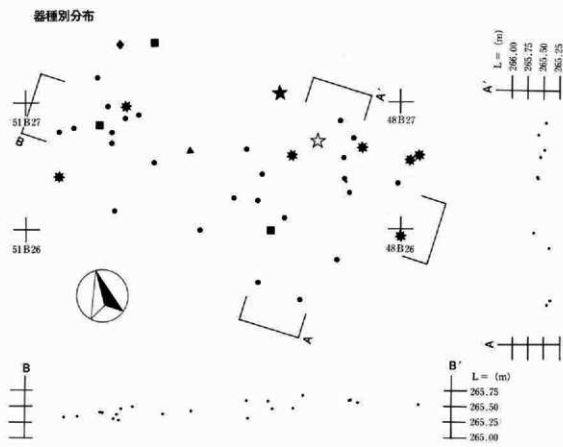
器種 石材	ナイフ	楺削	石核	加刺	剥片	砕片	礫	原石	合計	%
黒頁			1	5	2	17	1		26	65.00
珪質						5			5	12.50
ナ	1		2		2				5	12.50
黒安				1	1				2	5.00
灰安								1	1	2.50
粗安							1		1	2.50
合計	1	1	7	3	25	1	1	1	40	100.00



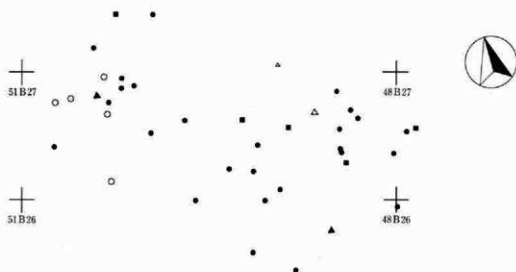
第16図 8号ブロック石材別グラフ



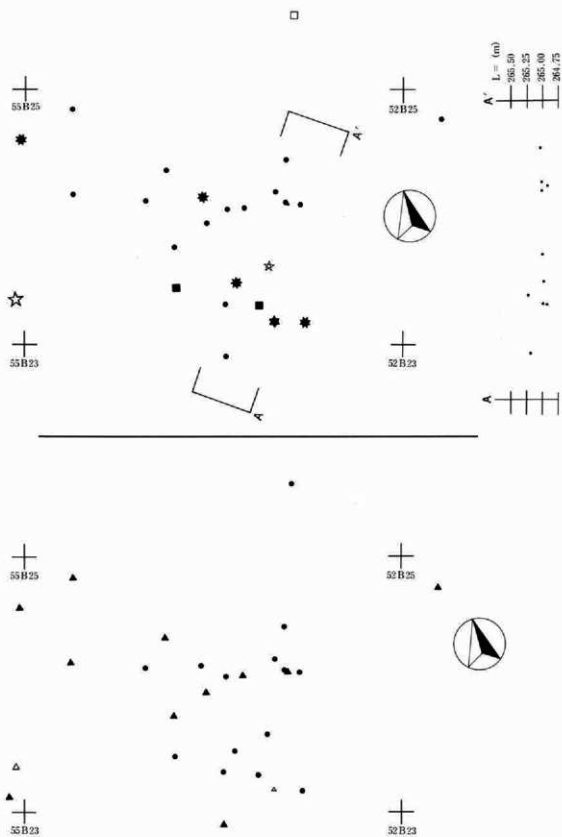
第17図 第II文化層7号ブロック遺物分布図 S=1/60



石材別分布



第18図 第II文化層8号ブロック遺物分布図 S=1/60



第19図 第II文化層9号ブロック遺物分布図 S=1/60

9号ブロック (第19図)

本ブロックは、調査地点A区の中央近くに検出され、周囲に4・10・16・11・8号ブロックと近接ないしは2mほど離れて接し、51～55B22～24グリッドに位置する。ブロックは、長軸8.7m×短軸5.4mほどの楕円となる形状を呈し、約38.4m²の範囲をもち石器が散漫に分布する。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の上位にかけて出土し、その高低差はおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定しているのは第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計27点の石器が出土しており、表9に示すように石核4点、加工痕を有する剥片2点、使用痕を有する剥片1点、剥片・砕片17点、礫器1点、敲石1点、礫1点で組成される。使用される石材は4種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く14点、ついで黒色安山岩11点と続く(第20図)。

母岩別資料として分別できたものには、2種類あげられ、黒色頁岩によるもの1例(母岩別資料67)、黒色安山岩によるもの1例(母岩別資料52)が確認されている。また、石器の接合資料は母岩別資料と同様に2例あり、ブロック内でのみ接合されるものである(接合資料35・93)。

表9 9号ブロック器種別・石材別出土量表

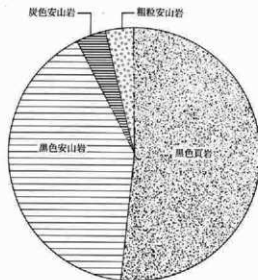
器種 石材	石核	加工	使用	剥片	砕片	礫器	敲石	礫	合計	%
黒頁	3	2	1	7		1			14	51.90
黒安	1			9	1		1		11	40.70
灰安								1	1	3.70
粗安								1	1	3.70
合計	4	2	1	16	1	1	1	1	27	100.00

10号ブロック (第21・22図)

本ブロックは、調査地点A区の中央西端に検出され、北側に2～3mほど離れ、南および東側に9・16号ブロックと近接し、56～59B21～24グリッドに位置する。ブロックは、長軸10.2m×短軸6.4mほどの楕円となる形状を呈し、約52.9m²ほどの範囲をもち石器が分布する。石器が比較的集中するのは、57・58B22・23グリッドを中心とする部分であるが、全体的に散漫である。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の上半にかけて出土し、その高低差はおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計52点の石器が出土しており、表10に示すようにナイフ形石器1点、撞・削器1点、石核1点、加工痕を有する剥片5点、使用痕を有する剥片1点、剥片・砕片38点、敲石2点、小礫1点、礫1点、原石1点で組成される。使用される石材は7種類で、その出土量は黒色頁岩が26点と最も多く、ついで黒色安山岩19点、粗粒安山岩3点と続く(第23図)。

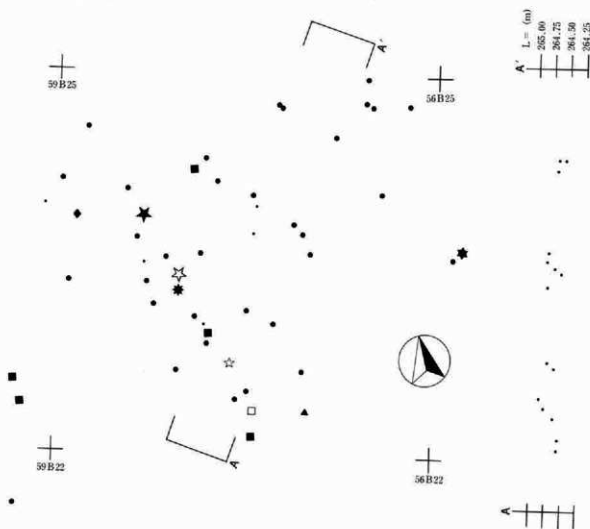
母岩別資料として分別できたものには2種類あげられ、黒色頁岩によるもの(母岩別資料15)と黒色安山岩によるもの(母岩別資料43)が、それぞれ1例づつ確認されている。また、石器の接合資料は母岩別資料と同様に2例あり、いずれもブロック内でのみ接合されるもの(接合資料36・94)が確認されている。



第20図 9号ブロック石材別グラフ

第3章 第II文化層

器種別分布

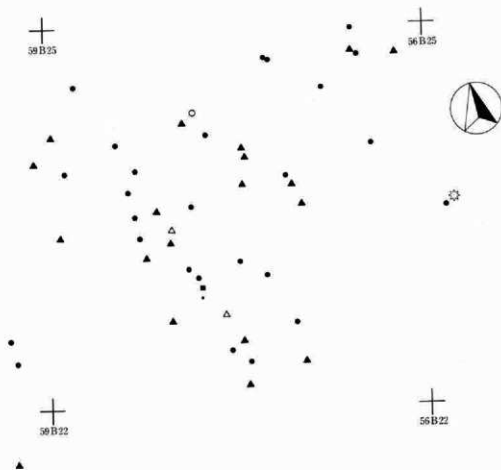


第21図 第II文化層10号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

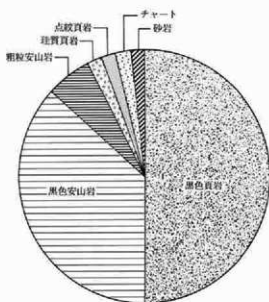
表10 10号ブロック器種別・石材別出土量表

新編 石材	ナイ	撰削	石核	加削	徒削	割片	砕片	敲石	小礫	礫	原石	合計	%
黒頁	1			2	1	19	2				1	26	50.00
黒安		1	1	2		12	3					19	36.60
粗安								1	1	1		3	5.80
珪頁						1						1	1.90
点頁						1						1	1.90
チ				1								1	1.90
砂岩								1				1	1.90
合計	1	1	1	5	1	33	5	2	1	1	1	52	100.00

石材別分布



第22図 第II文化層10号ブロック遺物分布図-2 S=1/60



第23図 10号ブロック石材別グラフ

第3章 第II文化層

11号ブロック (第25・26図)

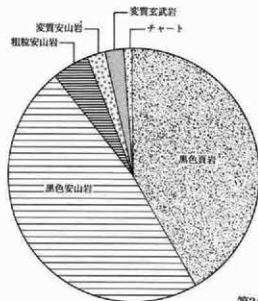
本ブロックは、調査地点A区中央に検出され、周囲に7・8・9・12・16・17・19号ブロックが隣接ないしは2mほどの距離をもち接し、47～52B19～24グリッドに位置する。ブロックは長軸14.0m×短軸9.5mほどの概ね楕円となる形状を呈し、約103.3㎡の比較的広い範囲に石器が分布する。石器の集中部は、49・50B22・23グリッドを中心とする部分で、他はブロック全体にかなり散漫に分布する。特に16号ブロックとのブロック分別に関しては明確さにかけるが、石器の接合、母岩別資料の分布等の要素を考慮した。出土した石器は、第XVI層の中位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおよそ80cmを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることと、分布範囲が広いことに起因して高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

このブロックからは総計86点の石器が出土しており、表11に示すように擗・削器2点、石核9点、加工痕を有する剥片4点、剥片・砕片64点、小礫3点、礫3点、原石1点で組成される。使用される石材は6種類で、その出土量は黒色安山岩が41点と最も多く、ついで黒色頁岩36点、粗粒安山岩4点、変質安山岩2点、変質玄武岩2点と続く(第24図)。

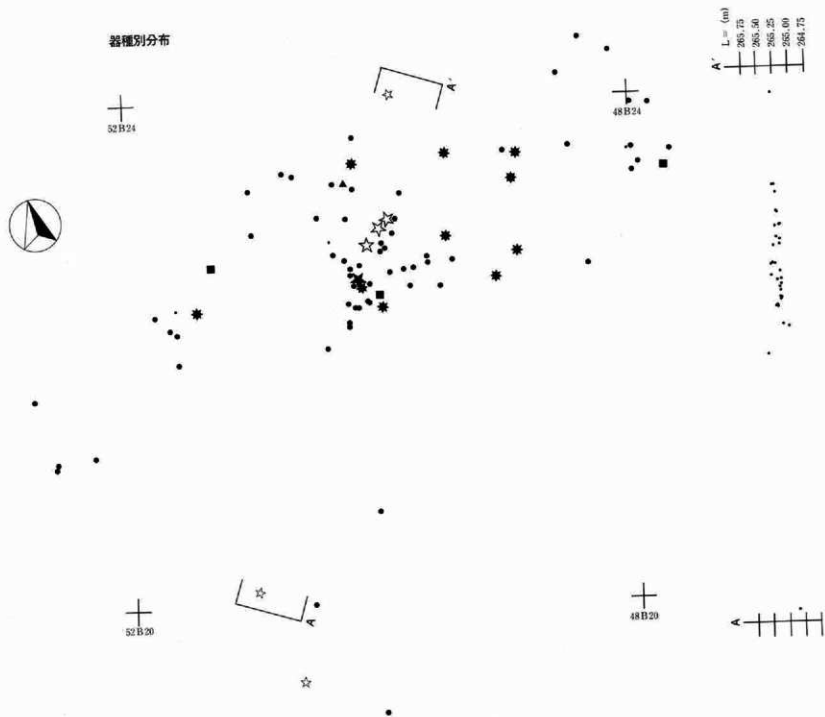
母岩別資料として分別できたものには4種類あげられ、黒色安山岩によるもの2例(母岩別資料43・76)、黒色頁岩によるもの2例(母岩別資料28・35)が確認されている。また、石器の接合資料は7例あり、ブロック内でのみ接合されるもの5例(接合資料39・98・99・100・131)、1号ブロックおよび9号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料40)、16号および22号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料96)が確認されている。

表11 11号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	種類	石核	加削	剥片	砕片	小礫	礫	原石	合計	%
黒頁	2	3	2	29					36	41.90
黒安		5	2	31	3				41	47.70
粗安						3	1		4	4.60
変安							2		2	2.30
変玄				1				1	2	2.30
チ		1							1	1.20
合計	2	9	4	61	3	3	3	1	86	100.00

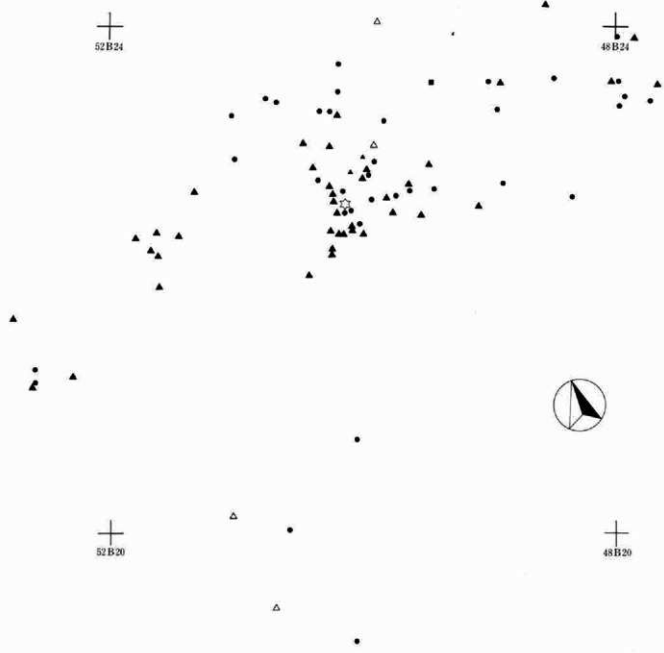


第24図 11号ブロック石材別グラフ



第25図 第II文化層11号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

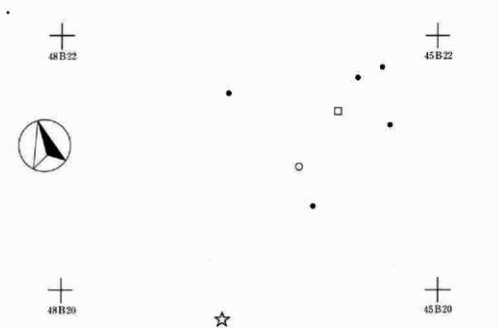
石材別分布



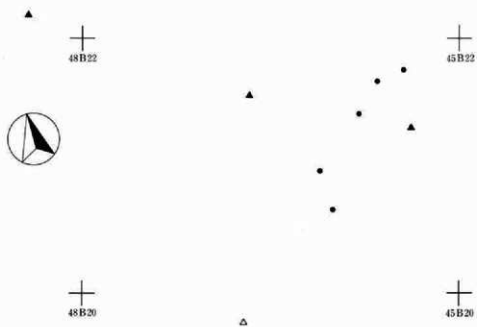
第26図 第II文化層11号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

第3章 第II文化層

器種別分布



石材別分布



第27図 第II文化層12号ブロック遺物分布図 S=1/60

12号ブロック (第27図)

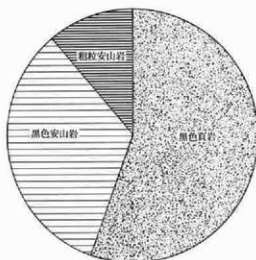
本ブロックは、調査地点A区の中央やや東寄りに検出され、周囲に7・11・13・14・19号の各ブロックが2～6mほどの距離をもって接し、45・46B19～21グリッドに位置する。ブロックは、長軸7.0m×短軸4.2mほどの楕円となる形状を呈し、約22.7㎡ほどの比較的小きな範囲に石器が散漫に分布する。出土した石器は、第XVI層の低位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の上位にかけて出土し、その高低差はおおよそ30cmを測る。石器が最も安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計9点の石器が出土しており、表12に示すように挟入状石器1点、使用痕を有する剥片1点、剥片・碎片6点、礫1点で少ないながらも組成する。石器の出土量が少ないこともあるが、石核等も含まれておらず器種組成がかなり貧困である。使用される石材は3種類で、黒色頁岩が5点、黒色安山岩が3点、粗粒安山岩が1点である(第28図)。

母岩別資料の分別および石器の接合資料となるものは、確認されていない。

表12 12号ブロック器種別・石材別出土量表

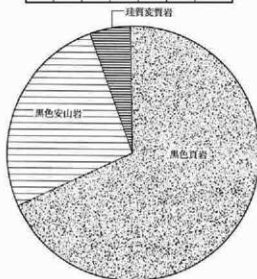
器種 石材	挟入	使用	剥片	碎片	礫	合計	%
黒頁	1	1	3			5	55.60
黒安			2	1		3	33.30
粗安					1	1	11.10
合計	1	1	5	1	1	9	100.00



第28図 12号ブロック 石材別グラフ

表13 13号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	石核	加工	剥片	小礫	合計	%
黒頁		1	12		13	68.40
黒安	1		4		5	26.30
粗安				1	1	5.30
合計	1	1	16	1	19	100.00



第29図 13号ブロック 石材別グラフ

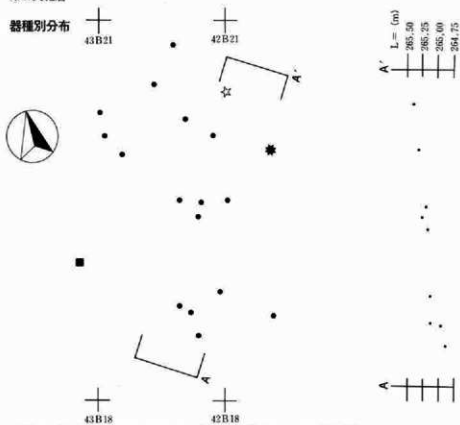
13号ブロック (第30図)

本ブロックは調査地点A区の東側南寄りに検出され、西側に3mほど離れて12号ブロック、南側に3～4mほど離れて14号ブロックと接し、41～43B18～20グリッドに位置する。ブロックは径が約6mほどのほぼ円形となる形状を呈し、約27.3㎡ほどの範囲をもち石器が散漫に分布する。出土した石器は第XVI層の中位(AT極大値部)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ1.2mを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

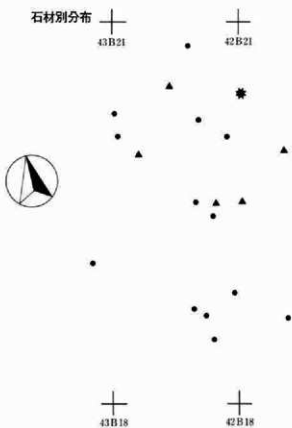
このブロックからは、総計19点の石器が出土しており、表13に示すように石核1点、加工痕を有する剥片

第3章 第II文化層

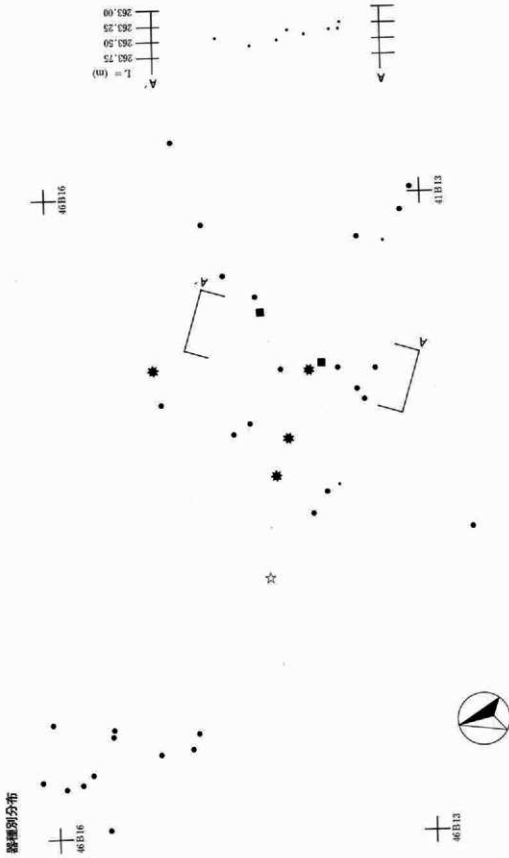
器種別分布



石材別分布



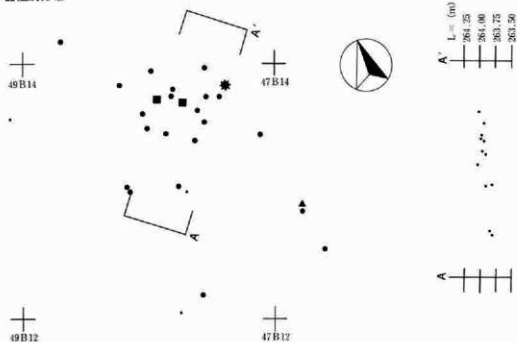
第30図 第II文化層13号ブロック遺物分布図 S=1/60



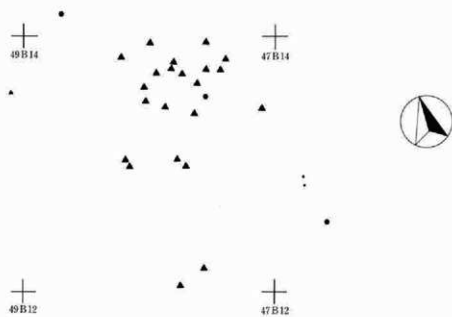
第31圖 第II文化層14号ブロック遺物分布図-1 S=1/60



器種別分布



石材別分布

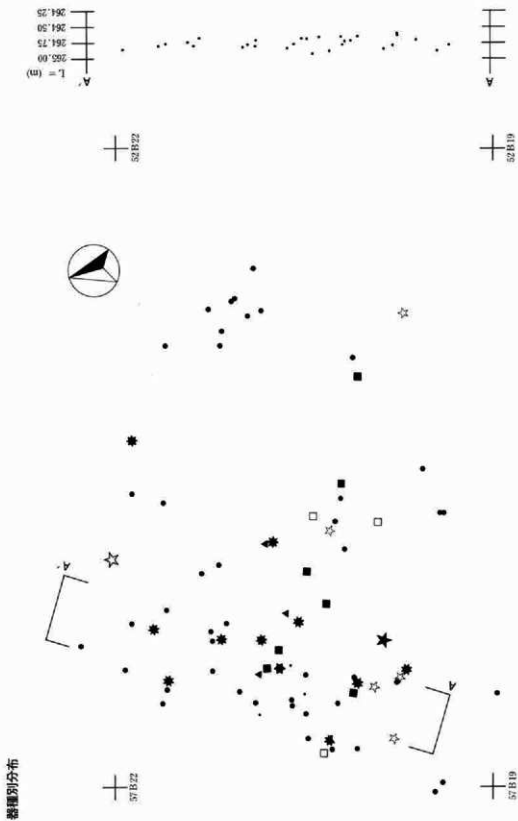


第33図 第II文化層15号ブロック遺物分布図 S=1/60

石材別分布



第34図 第II文化層16号ブロック遺物分布図-2 S=1/60



第35図 第II文化層16号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

第3章 第II文化層

1点、割片16点、小礫1点で組成される。出土量の少なきもあるが、器種構成に乏しい。使用される石材は3種類でその出土量は黒色頁岩が13点と多く、ついで黒色安山岩5点、珪質変質岩1点である（第29図）。

母岩別資料として分別できたものには黒色頁岩によるもの1例（母岩別資料68）が確認された。また、石器の接合資料は母岩別資料と同一のもので、ブロック内で接合となるもの（接合資料42）が確認された。

14号ブロック（第31図）

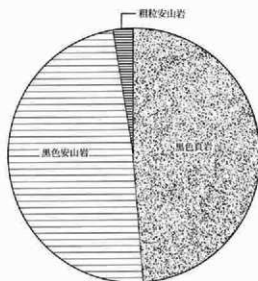
本ブロックは調査地点A区の南東隅に検出され、西側に2～3mほど離れて15・19号ブロック、北側に13号ブロックが2～3mほど離れて接し、40～45B12～16グリッドに位置する。ブロックは、長軸13.3m×短軸9.2mほどの概ね楕円となる形状を呈し、約94.7m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、ブロックの西側45B15グリッドを中心とするものと、42B13・14グリッドを中心とするものとの2ヶ所に大きく分かれるが、接合資料および母岩別資料等から同一のブロックにあるものとした。出土した石器は、第XVII層の下位（AT極大値部下）から第XVII層（暗色帯）の中位にかけて出土し、その高低差は1.5mを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることと、分布範囲が広いことに起因して高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは第XVII層中にみられる。

表14 14号ブロック器種別・石材別出土量表

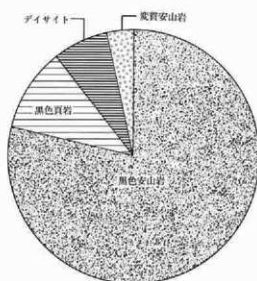
器種 石材	石核	加割	割片	砕片	小礫	合計	%
黒頁	2		17			19	48.70
黒安	2	3	12	2		19	48.70
粗安					1	1	2.60
合計	4	3	29	2	1	39	100.00

表15 15号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	石核	加割	割片	砕片	合計	%
黒安	1	2	17	2	22	78.60
黒頁			3		3	10.70
デイ	1		1		2	7.10
粗安				1	1	3.60
合計	1	1	21	3	28	100.00



第36図 14号ブロック石材別グラフ



第37図 15号ブロック石材別グラフ

このブロックからは、総計39点の石器が出土しており、表14に示すように石核4点、加工痕を有する剥片3点、剥片・砕片31点、小礫1点で組成されるが、器種構成に乏しい。使用される石材は3種類で、黒色頁岩および黒色安山岩がそれぞれ19点、粗粒安山岩1点である（第36図）。

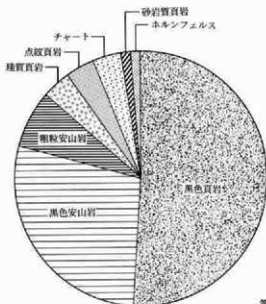
母岩別資料として分別できるものには2種類あげられ、黒色頁岩によるもの（母岩別資料16）および黒色安山岩によるもの（母岩別資料51）の1例づつが確認されている。また、石器の接合資料は3例ありブロック内でのみ接合されるもの2例（接合資料43・102）、15号ブロックと接合関係にあるもの1例（接合資料101）が確認されている。

15号ブロック（第33図）

本ブロックは、調査地点A区の北端に検出され、東側に14号ブロック、北側に19号ブロック、西側に20・21号ブロックとそれぞれ2mほどの距離をもって接し、46～49 B12～14グリッドに位置する。ブロックは、径が6.7mほどの円形となる形状を呈し、約34.6㎡ほどの範囲をもち石器が分布する。石器の集中部は、47 B13グリッドを中心とした部分に、1ヶ所認められる。出土した石器は、第XVII層の下位（始良Tn火山灰極大値部下）から第XVII層（暗色帯）の上半にかけて出土し、その高低差はおよそ80cmを測るが、これは本ブロックが

表16 16号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	標別	石核	加削	使用	剥片	砕片	礫石	小礫	礫	原石	合計	%
黒頁		3	4	3	1	27	2	1		1	42	51.20
黒安			4	1		17	1				23	28.00
粗安								5			6	7.30
塊頁				1		2					3	3.70
点頁	1			1		1					3	3.70
チ		1			2						3	3.70
砂頁				1							1	1.20
ホル					1						1	1.20
合計		4	9	7	3	48	3	1	5	1	82	100.00



第38図 16号ブロック石材別グラフ

第3章 第II文化層

傾斜地に位置していることに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

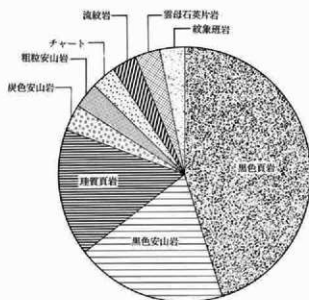
このブロックからは、総計28点の石器が出土しており、表15に示すように撻・削器、石核各1点、加工痕を有する剥片2点、剥片・砕片24点で組成される。出土量の少なさまもあるが、器種構成に乏しい。使用される石材は4種類で、その出土量は黒色安山岩が22点、黒色頁岩3点、デイサイト2点と続く(第37図)。

母岩別資料として分別できたものは1種類で、黒色安山岩の1例(母岩別資料51)のみである。また、石器の接合資料には3例(接合資料104・105・106)あり、いずれもブロック内でのみ接合されるものである。

16号ブロック(第35図)

本ブロックは、調査地点A区の中央西寄りに検出され、周囲に9・10・11・17・18号ブロックと接し、52~57 B18~22グリッドに位置する。ブロックは、長軸10.6m×短軸7.0mほどの楕円に近い形状を呈し、約58.7m²の範囲をもち石器が分布する。石器の集中部は、55・56 B20・21グリッドを中心とするものと、53 B21グリッドを中心とするものとに分けられる。特に、後者の53 B21グリッドにあるものは、11号ブロックとの関連もあるが、石器の接合資料および母岩別資料の分布等の要素から、同一なブロックにあるものと認定した。出土した石器は、第XVII層の中位(給良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ40cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計82点の石器が出土しており、表16に示すように撻・削器4点、石核9点、加工痕を有する剥片7点、使用痕を有する剥片3点、剥片・砕片51点、敲石1点、小礫5点、礫1点、原石1点で組成される。使用される石材は8種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く42点、ついで黒色安山岩23点、

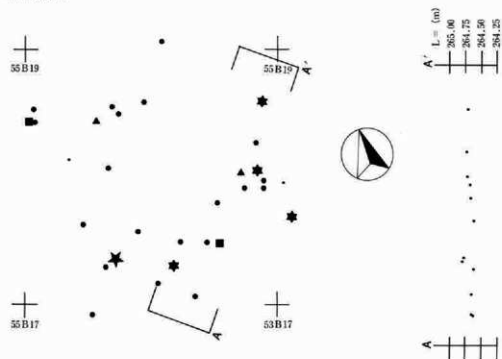


第39図 17号ブロック石材別グラフ

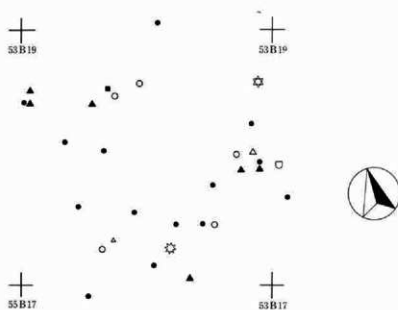
表17 17号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	撻削	加削	剥片	砕片	敲石	原石	合計	%
黒頁		1	11	1	1		14	45.20
黒安	1		5			6	6	19.40
珪頁	1	1	3				5	16.20
灰安						1	1	3.20
粗安					1		1	3.20
チ			1				1	3.20
流岩					1		1	3.20
葉片				1			1	3.20
紋斑					1		1	3.20
合計	2	2	20	2	4	1	31	100.00

器種別分布



石材別分布



第40図 第II文化層17号ブロック遺物分布図 S=1/60

第3章 第II文化層

粗粒安山岩6点、珪質頁岩、点紋頁岩、チャートがいずれも3点と続く(第38図)。

母岩別資料として分別できたものは9種類あり、黒色頁岩によるもの4例(母岩別資料9・19・26・33)、黒色安山岩によるもの4例(母岩別資料43・48・52・77)、点紋頁岩によるもの1例(母岩別資料25)が確認された。また、石器の接合資料は10例あり、ブロック内でのみ接合されるもの7例(接合資料47・48・108・109・112・113・138)、10号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料45)、18号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料46)、21号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料110)が確認された。

17号ブロック(第40図)

本ブロックは、調査地点A区の中央よりやや南西寄りに検出され、周囲に11・16・18・19・20・21号ブロックと隣接ないしは3~4mほど離れて接し、52~54B16~19グリットに位置する。ブロックは、径が5mほどとなる比較的小形な円形に近い形状を呈し、約19.5mほどの範囲をもち、石器がブロック全体に分布する。特に、ブロックの分別については、16・18・20・21号ブロックと近接しており、平面分布からは不明確な点もあるが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として分別した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の上位にかけて出土し、その高低差はおおよそ30cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計31点の石器が出土しており、表17に示すように撚・削器2点、加工痕を有する剥片2点、剥片・砕片22点、敲石4点、原石1点で組成される。使用される石材は9種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く14点、ついで黒色安山岩6点、珪質頁岩5点と続く(第39図)。

母岩別資料として分別できたものは1種類であり、黒色頁岩によるもの1例(母岩別資料14)のみである。また、石器の接合資料は2例(接合資料49・50)あり、いずれもブロック内でのみ接合する。

18号ブロック(第43・44図)

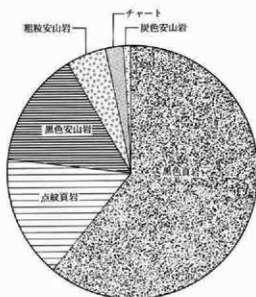
本ブロックは、調査地点A区の中央寄り西南に検出され、北側に16号ブロック、東側に17号ブロック、南側に21・22号ブロックと隣接し、55~57B14~18グリットに位置する。ブロックは、長軸9.4m×短軸5.5mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約45.5mほどの範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、55・56B15グリットを中心に、北側の解放する馬蹄形状にある。特に、ブロックの分別については、16・17・21・22号ブロックとは隣接ないしは重複するような形となり、平面分布からは不明確であるが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として認定した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ50cmを測るが、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計95点の石器が出土しており、表18に示すように撚・削器2点、石核10点、加工痕を有する剥片3点、使用痕を有する剥片2点、剥片・砕片71点、小礫4点、礫1点、原石2点で組成される。使用される石材は6種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く58点、ついで点紋頁岩15点、黒色安山岩14点、粗粒安山岩5点、チャート2点と続く(第41図)。

母岩別資料として分別できたものは7種類あり、黒色頁岩によるもの6例(母岩別資料11・12・26・34・37・69)、黒色安山岩によるもの1例(母岩別資料78)が確認された。また、石器の接合資料は8例あり、ブロック内で接合するもの6例(接合資料52・53・54・55・57・116)、4号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料115)、1号および22・11号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料51)が確認された。

表18 18号ブロック器種別・石材別出土量表

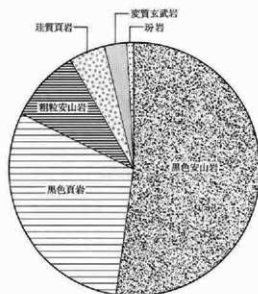
器種 石材	標削	石核	加削	使削	剥片	砕片	小礫	礫	原石	合計	%
黒頁	2	9	3		42	1			1	58	61.10
点頁		1			14					15	15.80
黒安					9	5				14	14.70
粗安				2			4	1		5	5.30
チ										2	2.10
灰安									1	1	1.00
合計	2	10	3	2	65	6	4	1	2	95	100.00



第41図 18号ブロック石材別グラフ

表19 19号ブロック器種別・石材別出土量表

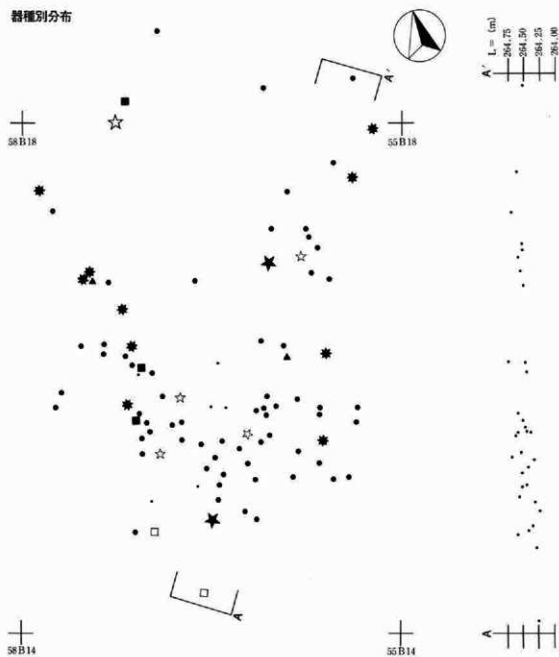
器種 石材	石核	剥片	砕片	敲石	小礫	礫	合計	%
黒安	1	44	11				56	52.30
黒頁	7	25					32	29.90
粗安				1	3	6	10	9.40
斑頁		5					5	4.70
安玄		2		1			3	2.80
砂岩				1			1	0.90
合計	8	76	11	3	3	6	107	100.00



第42図 19号ブロック石材別グラフ

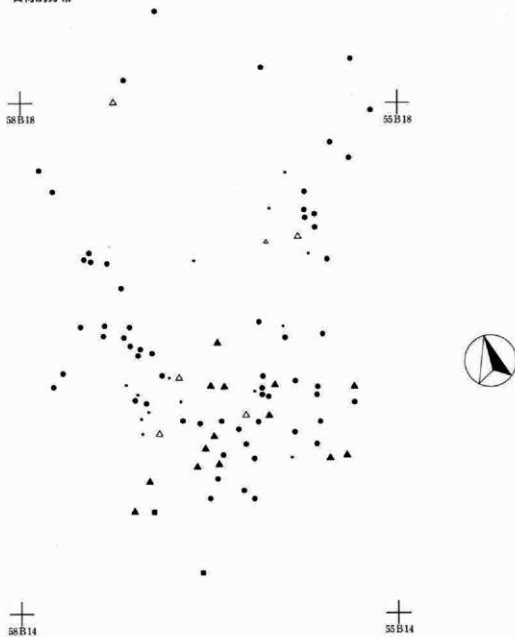
第3章 第II文化層

器種別分布



第43図 第II文化層18号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

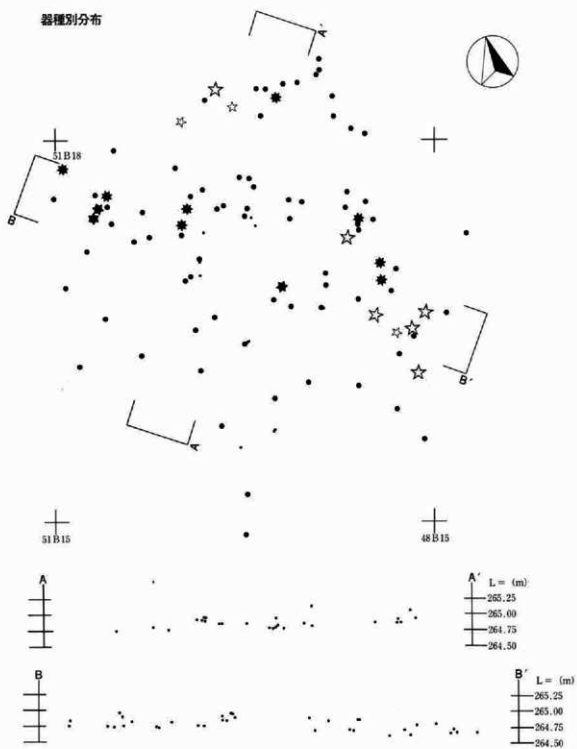
石材別分布



第44図 第II文化層18号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

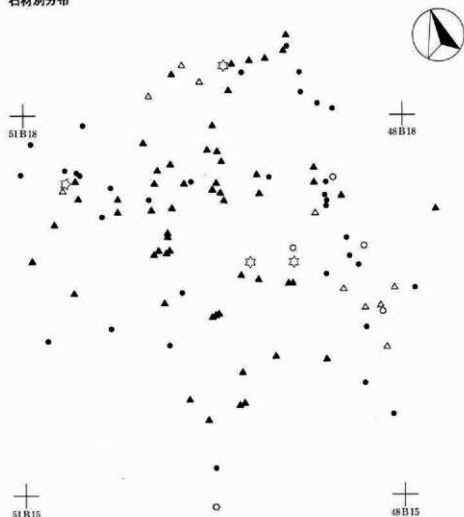
第3章 第II文化層

器種別分布



第45図 第II文化層19号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

石材別分布



第46図 第II文化層19号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

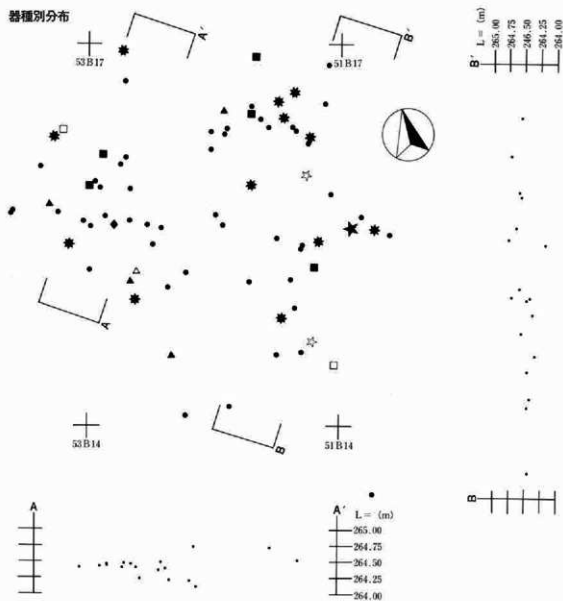
19号ブロック (第45・46図)

本ブロックは、調査地点A区の中央南側に検出され、周囲に11・12・14・15・20号ブロックと隣接しないしは2～3mほど離れて接し、47～51B14～18ブロックに位置する。ブロックは、長軸8.3m×短軸6.5mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約46.9m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器の集中部は、49・50B17グリットを中心にブロック内全体に分布すると共に、48B16グリットに大小の礫が数個まとまって検出されており、いわゆる「配石」の可能性もある。ブロックの分別については、20号ブロックと隣接するような形となっているが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として分別した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおよそ90cmを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計107点の石器が出土しており、表19に示すように石核8点、剥片・砕片87点、敲石3点、小礫3点、礫6点で組成される。出土量の割には、器種構成に乏しい。使用される石材は6種類で、

第3章 第II文化層

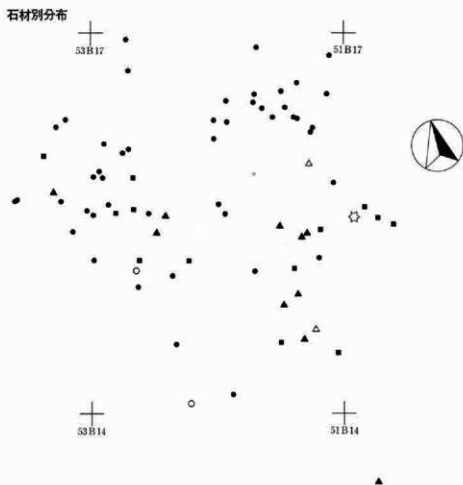
器種別分布



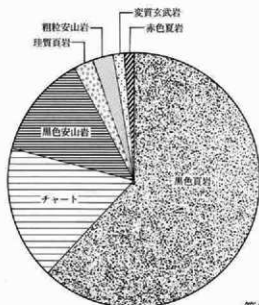
第47図 第II文化層20号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

表20 20号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	ナイ	鎌形	形器	石核	加刺	使刺	刺片	小鎌	原石	合計	%
黒頁		2		8	5	1	32			48	62.30
チ	1		1	2		1	8			13	16.90
黒安		1		1			8			10	13.00
珪頁		1					1			2	2.60
明安								2		2	2.60
黄玄									1	1	1.30
赤頁				1						1	1.30
合計	1	4	1	12	5	2	49	2	1	77	100.00



第48図 第II文化層20号ブロック遺物分布図-2 S=1/60



第49図 20号ブロック石材別グラフ

第3章 第II文化層

その出土量は黒色安山岩が最も多く56点、ついで黒色頁岩32点、粗粒安山岩10点、珪質頁岩5点、変質玄武岩3点、玢岩1点と続く(第42図)。

母岩別資料として分別できたものには7種類あげられ、黒色頁岩によるもの4例(母岩別資料24・36・40・70)、黒色安山岩によるもの2例(母岩別資料47・54)、珪質頁岩によるもの1例(母岩別資料42)が確認されている。また、石器の接合資料には13例あり、ブロック内でのみ接合されるもの11例(接合資料59・60・61・117・118・119・120・121・132・133・142)、16号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料141)、20号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料58)が確認されている。

20号ブロック(第47・48図)

本ブロックは、調査地点A区の中央南側に検出され、周囲に15・17・19・21号ブロックと隣接・重複ないしは3mほど離れ接し、50～53B13～16グリッドに位置する。ブロックは、長軸7.3m×短軸5.7mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約35.9m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器はブロック全体に広がるが、その中でも比較的集中しているのは、51B16グリッドを中心にあるものと、51B15グリッドを中心にあるもの、52・53B15を中心とする3ヶ所に分けられる可能性もある。ブロックの分別については、21号ブロックと重複するような形となっているが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として分別した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ60cmを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中に見られる。

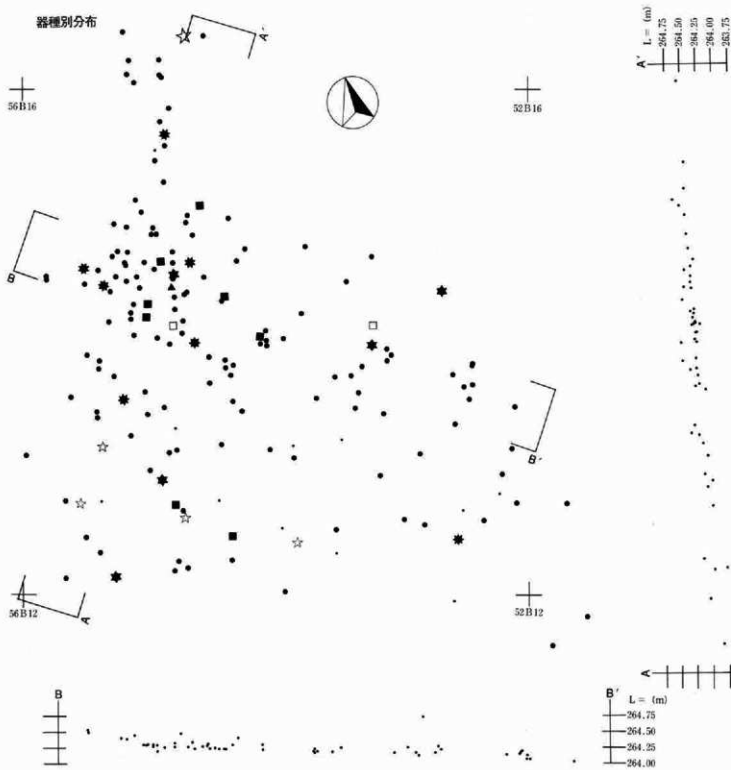
このブロックからは、総計77点の石器が出土しており、表20に示すようにナイフ形石器1点、播・削器4点、彫器1点、石核12点、加工痕を有する剥片5点、使用痕を有する剥片2点、剥片49点、小礫2点、原石1点で組成される。使用される石材は7種類でその出土量は黒色頁岩が最も多く48点、ついでチャート13点、黒色安山岩10点、珪質頁岩2点、粗粒安山岩2点とつづく(第49図)。

母岩別資料として分別できたものには5種類あげられ、黒色頁岩によるもの2例(母岩別資料1・41)、チャートによるもの2例(母岩別資料59・60)、黒色安山岩によるもの1例(母岩別資料79)が確認されている。また、石器の接合資料は5例あり、ブロック内でのみ接合するもの4例(接合資料65・122・129・130)、11号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料62)が確認されている。

21号ブロック(第50・51図)

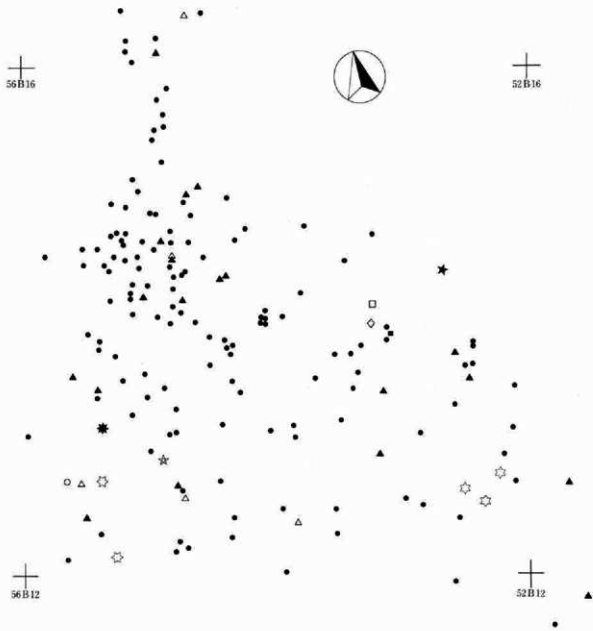
本ブロックは、調査地点A区の南端に検出され、周囲に15・17・18・20・22号ブロックと隣接・重複ないしは2mほどの距離をもって接し、51～55B11～16グリッドに位置する。ブロックは長軸13.2m×短軸9.5mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約80.4m²ほどの範囲をもって石器が分布する。石器は54・55B14グリッドを中心として、ブロック内全体に広がる。また、ブロックの南側には小礫が数個点在する。ブロックの分別については、18・20号ブロックと重複するような形となっているが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として分別した。出土した石器は、第XVI層の下位(始良Tn火山灰極大値部)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおおよそ1.3mを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることと、範囲が広いことに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土しているのは、第XVII層中に見られる。

このブロックからは、総計176点の石器が出土しており、表21に示すように播・削器1点、石核7点、加工



第50図 第II文化層21号ブロック遺物分布図-1 S=1/60

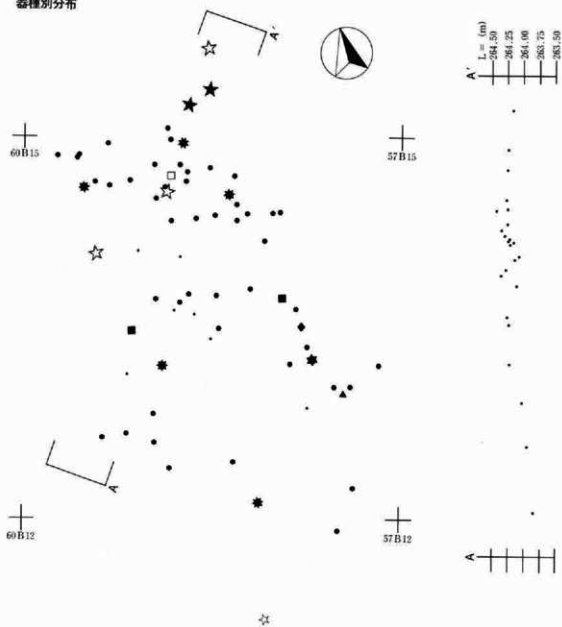
石材別分布



第51図 第II文化層21号ブロック遺物分布図 S=1/60

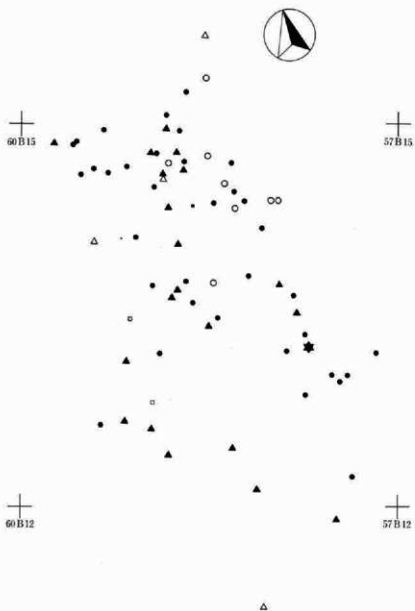
第3章 第II文化層

器種別分布



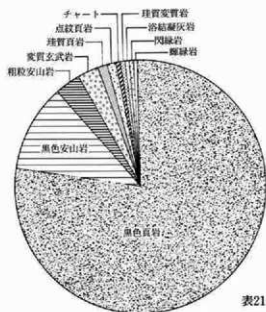
第52図 第II文化層22号ブロック遺物分布図 S=1/60

石材別分布



第53図 第II文化層22号ブロック遺物分布図-2 S=1/60

第3章 第II文化層



第54図 21号ブロック石材別グラフ

表21 21号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	種別	石核	加割	使用痕	剥片	砕片	敲石	小礫	礫	合計	%
黒頁	1	7	3	1	117	8				137	77.80
黒安			5		15					20	11.40
粗安							1	3	1	5	2.80
変玄					1	3	1			5	2.80
珪頁			1		1					2	1.10
点頁					2					2	1.10
チ					1					1	0.60
珪表								1		1	0.60
溶凝							1			1	0.60
閃緑							1			1	0.60
輝緑							1			1	0.60
合計	1	7	8	2	137	11	5	4	1	176	100.00

痕を有する剥片8点、使用痕を有する剥片2点、剥片・砕片148点、敲石5点、小礫4点、礫1点で組成される。使用される石材は11種類でその出土量は黒色頁岩が最も多く137点、ついで黒色安山岩20点、粗粒安山岩5点、変質玄武岩5点、珪質頁岩2点、点紋頁岩2点とつづく（第54図）。

母岩別資料として分別できたものには10種類あげられ、黒色頁岩によるもの8例（母岩別資料3・6・24・27・28・30・71・72）、黒色安山岩によるもの2例（母岩別資料80・81）が確認されている。また、石器の接合資料は13例あり、ブロック内でのみ接合されるもの9例（接合資料67・70・72・74・76・77・123・124・134）、22号ブロックと接合関係にあるもの2例（接合資料69・70）、4号および22号ブロックと接合関係にあるもの1例（接合資料66）、18号および22号ブロックと接合関係にあるもの1例（接合資料68）が確認されている。

22号ブロック（第52・53図）

本ブロックは、調査地点A区Aの西南隅に検出され、東側に18・21号ブロックと隣接し、57～59 B11～15グリッドに位置する。ブロックは長軸10.5m×短軸6.2mほどの概ね楕円に近い形状を呈し、約53.3m²ほどの範囲をもち、石器が分布する。石器はブロック全体に広がるが、その中でも比較的集中しているのは、58・59

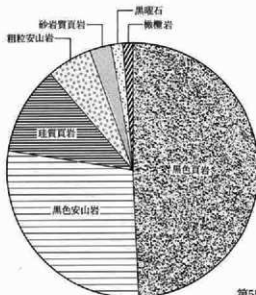
B14グリッドを中心にするものと、58B13グリッドを中心以南側が解放する馬蹄形状に分布するものとに分けられる。ブロックの分別については、18・21号ブロックと隣接しているが、石器の接合資料および母岩別資料の分布を要素として分別した。出土した石器は、第XVII層の低位(始良Tn火山灰極大値部下)から第XVII層(暗色帯)の中位にかけて出土し、その高低差はおよそ80cmを測るが、これは本ブロックが傾斜地に位置していることに起因して、高低差が大きくなっている。実際には、石器が最も多く安定して出土するのは、第XVII層中にみられる。

このブロックからは、総計71点の石器が出土しており、表22に示すようにナイフ形石器1点、搔・削器1点、石核5点、加工痕を有する剥片2点、使用痕を有する剥片1点、剥片・砕片54点、敲石1点、台石1点、小礫1点、礫2点、原石2点で組成される。使用される石材は7種類で、その出土量は黒色頁岩が最も多く、ついで黒色安山岩、珪質頁岩、粗粒安山岩、砂岩質頁岩と続く(第55図)。

母岩別資料として分別できたものには6種類あげられ、黒色頁岩によるもの3例(母岩別資料29・73・74)、黒色安山岩によるもの1例(母岩別資料82)、珪質頁岩によるもの1例(母岩別資料5)、砂岩質頁岩によるもの1例(母岩別資料57)が確認されている。また石器の接合資料は6例あり、ブロック内でのみ接合されるもの5例(接合資料79・80・81・82・125)、13号ブロックと接合関係にあるもの1例(接合資料137)が確認されている。(谷藤)

表22 22号ブロック器種別・石材別出土量表

器種 石材	ナイフ	搔削	石核	加工	使用	剥片	砕片	敲石	台石	小礫	礫	原石	合計	%
黒頁		1	3			27	3					1	35	49.30
黒安	1		1	1		13	4						20	28.20
珪頁			1		1	5						1	8	11.30
粗安						1			1	1		2	4	5.60
砂頁						1							2	2.80
黒石						1							1	1.40
礫								1					1	1.40
合計	1	1	5	2	1	47	7	1	1	1	2	2	71	100.00



第55図 22号ブロック石材別グラフ

第3節 出土石器

ナイフ形石器 (第56・57図、図版8)

出土したナイフ形石器は8点である。広義の石刃技法を技術基盤として得られた縦長剥片を縦位に使用し、両側面に調整加工を施すものが主体をなすが、横長剥片を縦位使用するものもある。認定にあたっては、かなり肉厚な大形のものも含め、使用痕が認められる機能部の位置を重視した。

1 (No699)

片側面に礫表皮を残す、小形の縦長剥片を素材とする。基部側の両側面には、丁寧な調整加工が施される。特に左側面の調整加工は、基部から先端にまで及んでいる。調整加工は、裏面側から表面側へ向け急斜度に施され、打面および打瘤は調整加工により除去されている。石器形状は柳葉形を呈し、断面形状は三角形となる。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部には、微細な刃こぼれ状の使用痕が認められる。石材には珪質(硬質)頁岩が用いられ、長さ5.7cm、幅1.9cm、重さ6.54gを測る。5号ブロックより出土。

2 (No588)

表面に礫表皮を残す縦長剥片を素材とする。基部側の両側面にやや粗い調整加工が施される。調整加工は、裏面側から表面側へ向け急斜度に施される。打面および打瘤は、除去されることなく残存している。刃部となる左側面には、微細な刃こぼれが認められる。基部は平坦で、三角形の断面形状を示す。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。石材にはチャートが用いられ、長さ6.6cm、幅3.5cm、重さ26.2gを測る。7号ブロックより出土。

3 (53-C-00 IX層 No1)

小形の縦長剥片を素材とする。基部側の両側面に丁寧な調整加工が施される。左側面の調整加工は、基部から先端部にまで及んでいる。調整加工は、裏面側から表面側へ向け急斜度に施されている。基部は、打面・打瘤ともに調整加工により除去されている。石器形状は、ほぼ柳葉形を呈する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部には明瞭な使用痕は認められない。石材には黒色安山岩が用いられ、長さ4.4cm、幅1.5cm、重さ5.31gを測る。なお、このナイフ形石器の出土位置・層位については、台地のほぼ中央で53-C-00グリッドに位置し、板鼻褐色軽石(As-BP)グループ第X層の上層にあたる第IX層中より1点のみ出土したもので、本来ならばこの第II文化層に含まれるものではない。

4 (No641)

左側面先端に礫表皮を残す縦長剥片を素材とする。調整加工は、主に左側面に施される。左側面の基部近くでは表面側から裏面側へ向け、また先端部近くでは裏面側から表面側へ向け急斜度に施される。打面は調整加工により除去されるが、打瘤の一部は遺存する。断面形状は、三角形を呈する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部となる右側面には、使用によると思われる剝離が認められる。石材には黒色頁岩が用いられ、長さ7.8cm、幅3.4cm、重さ27.6gを測る。6号ブロックより出土。

5 (No1178)

表面に礫表皮を多く残した縦長剥片を素材とする。調整加工は、基部から先端部までの右側面および先端部に、裏面側から表面側へ向け急斜度に比較的細かく丁寧に施されている。打面および打瘤は、除去されることなく残存している。基部は平縁となり、先端部にまで調整加工が及ぶことにより、基部と先端部とが平行となる。断面形状は、三角形を呈する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部となる左側面には、使用に伴う刃こぼれがかなり顕著に認められる。石器形状から削器とする考えもあるが、この使用痕位置を

刃部と考案ナイフ形石器と認定した。石材にはチャートが用いられ、長さ5.9cm、幅4.6cm、重さ33.19gを測る。20号ブロックより出土。

6 (No270)

表面の一部に礫表皮を残した大形で、しかも厚みのある縦長剥片を素材とする。基部および右側縁に調整加工が施されるが、先端部には表皮が一部残される。調整加工は、はじめに表裏両面より大きく施した後、主に右側縁に裏面側から表面側へ向け急斜度に細かく調整加工が施される。打面は調整加工により除去されている。断面形状は、肉厚な三角形を呈する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部となる左側縁の先端側は、調査時に欠損したため刃部の詳細については不明な点もあるが、7と同類なものと考えられる。石材には黒色安山岩が用いられ、長さ8.0cm、幅4.7cm、重さ85.68gを測る。22号ブロックより出土。なお、このナイフ形石器は、本遺跡で唯一接合資料として、後述する接合資料96(母岩43)に含まれるものである。

7 (No1263)

表面の一部に礫表皮を残した、大形でしかも厚みのある縦長剥片を素材とする。基部側の両側縁に調整加工が施される。調整加工は、左側縁では表裏両面から施された可能性もあるが、主に裏面側から表面側へ向け急斜度に施され、右側縁にはやや粗い調整加工が施される。打面は調整加工により除去されるが、打瘤の一部は残存する。断面形状は、肉厚な三角形を呈する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。刃部となる右側縁には、刃こぼれ状の微細な剝離が認められる。石材には黒色頁岩が用いられ、長さ7.8cm、幅4.0cm、重さ77.06gを測る。10号ブロックより出土。

8 (No932)

端部に礫表皮を残す横長剥片を素材とし、これを縦位に使用し左右両側縁に調整加工を施す。調整加工は、両側縁ともに表面側から裏面側へ向け急斜度に施される。打面は調整加工により除去される。剥片の長軸と石器の長軸とは90度相違し、剥片の側縁部を刃部としている。刃部には、刃こぼれ状の細かな剝離が認められる。通常のナイフ形石器にみられる背潰し状の細部調整加工はみられないが、とりあえずこの範疇に含めた。石材にはチャートが用いられ、長さ5.1cm、幅2.5cm、重さ10.29gを測る。8号ブロックより出土。

掻・削器 (第58～65図, 図版8～10)

ここで掻器・削器として扱った資料は、剥片の縁辺に連続した調整加工が加えられており、それを機能部として用いた石器をまとめた。本来、掻器(エンド・スクレイパー)とされる石器は、縦長剥片の端部に急角度な調整加工を施したものを言う。削器(サイド・スクレイパー)とされる石器は、剥片の側縁に連続した調整加工を施したものを言う。本遺跡から出土した掻器・削器に分類される石器は、先の掻器・削器とされる定義で分類することが難しいため、あえてその区別をしていない。

9 (No264)

やや幅広い縦長剥片を素材とし、打面部に調整加工を施すことで刃部を作出している。調整加工は表面側から裏面側へ向けやや急斜度に粗く施した後、細かな調整を加えている。打面は調整加工により除去されるが、打瘤の一部は残存する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。石材は黒色頁岩を用い、長さ6.4cm、幅6.0cm、重さ94.00gを測る。なお、この石器は母岩別資料6に分別され、接合資料69に含まれる。22号ブロックより出土。

10 (No864)

表面の一部に礫表皮を残すやや肉厚な剥片を素材とし、下端部に調整加工を施すことで刃部を作出してい

第3章 第II文化層

る。調整加工は、下端部の裏面側面に施されるが、主に裏面側から表面側へ向けやや急斜度に施される。また左側縁にも、表面側から裏面側へ向けやや急斜度に調整加工が施される。打面および打瘤の一部は、調整加工により除去される。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.1cm、幅4.9cm、重さ42.06gを測る。11号ブロックより出土。

11 (No1227)

やや肉厚な縦長剥片を素材とし、下端部に調整加工を施すことにより刃部を作出している。調整加工は、表面側から裏面側へ向けやや急斜度に連続的に施した後、細調整を行っている。打面および打瘤は、そのまま残存する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.2cm、幅5.3cm、重さ67.40gを測る。18号ブロックより出土。

12 (No1104)

薄身な、やや幅のある縦長剥片を素材とし、右側縁に調整を施すことにより刃部を作出している。調整加工は裏面側から連続的に鋭角に施されている。打面および打瘤は、そのまま残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ4.5cm、幅4.6cm、重さ12.51gを測る。なお、この石器は母岩別資料4に分別される。1号ブロックより出土。

13 (No1076)

表面に礫表皮を大きく残す縦長剥片を素材とし、左側縁に調整加工を施すことで刃部が作出される。調整加工は、表面側から裏面側へ向け粗く施される。打面および打瘤は除去されることなくそのまま残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ6.7cm、幅4.2cm、重さ47.91gを測る。1号ブロックより出土。

14 (No170)

側縁に表皮を残した、比較的平坦な打面をもつ薄身で方形に近い剥片を素材とする。剥片下端に連続的な浅い剝離が丁寧に施されている。打面および打瘤は、そのまま残存している。また基部寄りの右側縁に若干の調整加工が加えられ、その下方には微細な刃こぼれによる剝離も認められる。石材は珪質頁岩を用い、長さ4.5cm、幅4.2cm、重さ19.50gを測る。20号ブロックより出土。

15 (No1137)

平坦な剝離面を打面とした同一の剥片剝離工程により作出される縦長剥片を素材とし、剥片の左側縁に調整加工を施すことで刃部を作出している。調整加工は左側縁全体に及び、裏面側から表面側へ向け連続的に施される。石器の断面形状は、三角形を呈する。打面および打瘤は除去されることなくそのまま残存する。右側縁の一部は欠損する。石材は黒色頁岩を用い、長さ6.5cm、幅4.6cm、重さ59.98gを測る。8号ブロックより出土。

16 (No799)

比較的平坦な打面をもつ薄身のやや幅のある剥片を素材とし、両側縁に角度の浅い剝離を連続的に施している。打面および打瘤は、そのまま残存する。石材は珪質頁岩を用い、長さ5.9cm、幅4.7cm、重さ25.39gを測る。なお、この石器は母岩別資料17に分別され、接合資料14に含まれる。4号ブロックより出土。

17 (No1001)

比較的平坦な打面をもつ剥片を素材とし、左右両側縁に裏面側から表面側に向け角度のある粗い剝離を連続的に施したもので、打面および打瘤は残存する。石材は黒色安山岩を用い、長さ4.7cm、幅3.8cm、重さ32.25gを測る。なお、この石器は母岩別資料54に分別され、接合資料87に含まれる。4号ブロックより出土。

18 (No451)

やや肉厚な端部欠損の剥片を素材とし、左右両側縁に表裏両面から粗く微細な調整加工を施したもので、折れ面からも一部剥離が加えられている。石材は黒色安山岩を用い、長さ4.3cm、幅4.0cm、重さ23.46gを測る。なお、この石器は母岩別資料51に分別される。17号ブロックより出土。

19 (No706)

素材となる剥片形状は不明であるが、両側縁に粗く薄い調整剥離を施し、器体を整えている。その後、下端部に浅く連続的な剥離を施し、刃部を作出している。石材は黒色頁岩を用い、長さ7.3cm、幅5.1cm、重さ58.37gを測る。5号ブロックより出土。

20 (No779)

やや肉厚な横長剥片を素材とし、打面および側縁に調整加工を施すもの。調整は打面から右側縁にかけて表面側から連続的に粗い剥離が施され、また下端にも連続した細かな調整を加え刃部を作出している。石材は黒色安山岩を用い、長さ4.2cm、幅10.5cm、重さ82.31gを測る。なお、この石器は母岩別資料43に分別され、接合資料86に含まれる。3号ブロックより出土。

21 (No425)

かなり肉厚な大形の縦長剥片を素材とし、剥片の左側縁に調整加工を施すことで刃部を作出している。調整加工は表面側から裏面側へ向け施す。基部近くに打面を一部除去するかのようによく、さらに細かく連続的に施される。また右側縁の一部には、裏面側から表面側へ向け急斜度に施されている。断面形状は一応三角形を呈する。石材は黒色頁岩を用い、長さ7.3cm、幅6.4cm、重さ140.62gを測る。18号ブロックより出土。

22 (No506)

一部に節理面をもつ、比較的裏面の平坦な石核を素材としたもので、片側縁に連続的に角度のある剥離を施し、刃部を作出しているもの。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.1cm、幅6.6cm、重さ64.87gを測る。16号ブロックより出土。

23 (No906)

やや幅の広い肉厚な剥片を素材とし、側縁に調整加工を施したものの。調整は、裏面の基部に近い両側縁に数度の加工を施した後、表面下端の両側縁に角度のある浅い剥離を連続的に施している。打面および打瘤は、調整により一部欠すが、そのほとんどが残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.5cm、幅5.3cm、重さ70.71gを測る。4号ブロックより出土。

24 (No165+196)

比較的平坦な打面をもつ、薄身な横長剥片を素材とする。調整加工は、打面部を作業面として表面に連続的な細かい調整加工を施すことにより、鋭角な刃部を作出している。剥片中央部で欠損する。打面に調整加工が施されるものの、大半は残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ1.7cm、幅4.7cm、重さ5.71gを測る。なお、この石器は接合資料63に含まれる。20号ブロックより出土。

25 (No724)

比較的薄身な横長剥片を素材とし、上端および側縁に調整加工が施されているもの。調整は、素材剥片の打面および右側縁に表面側から連続的に細かく剥離が施される。打面が除去されるが、打瘤は残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ2.3cm、幅5.8cm、重さ8.01gを測る。なお、この石器は母岩別資料31に分別される。16号ブロックより出土。

26 (No16)

肉厚な縦長剥片を素材とし、剥片の右側縁の比較的平坦な剥離面を作業面とし、裏面側へ粗く深い剥離を

第3章 第II文化器

数度施す。左側縁には、表面側から裏面側へ向け粗い調整加工を施した後に、さらに細かな調整加工を連続的に施すことで刃部を作出する。なお、石器先端は右側縁からの剝離後欠損し、刃部となる左側縁についても、調整加工後に節理面より欠損している。打面は残存する。石材はデイサイトをを用い、長さ5.9cm、幅4.7cm、重さ63.15gを測る。なお、この石器は母岩別資料49に分別される。15号ブロックより出土。

27 (No741)

表面に表皮を残す上下両端の折れた剥片を素材としたもので、両側縁に表面側から裏面側に向け、角度の浅い粗い剝離調整を施すと共に、微細な加工をも施す。また石器上端にも表面側から微細な加工が連続的に施されている。石材は黒色安山岩を用い、長さ3.5cm、幅3.5cm、重さ20.98gを測る。なお、この石器は母岩別資料43に分別され、接合資料94に含まれる。10号ブロックより出土。

28 (No188)

幅広い横長剥片を素材とし、石器の上端および側縁に調整加工を加えたもの。調整はまず素材剥片の打面を大きく除去するかたちで裏面側から剝離され、その後表面側から上端および側縁に粗く連続的に施される。なお、側縁など一部欠損している。石材は黒色安山岩を用い、長さ4.3cm、幅5.0cm、重さ33.18gを測る。20号ブロックより出土。

29 (No239)

表面に節理面を大きくもち、比較的平坦な打面をもつ、やや肉厚な縦長剥片を素材とする。調整加工は、左側縁に表面側から裏面側へ向け、連続的に粗く、深い調整をした後、細加工を行い刃部を作出する。下部の欠損によりその全様は不明である。打面および打瘤は残存する。石材は珪質頁岩を用い、長さ3.5cm、幅4.8cm、重さ42.25gを測る。なお、この石器は母岩別資料56に分別される。17号ブロックより出土。

30 (No504)

先端に表皮を残す厚みのある剥片を素材とし、両側縁に加工を施したもので、その形状は一見尖頭器を思わせる。調整加工は、両側縁の裏面側から深く粗い剝離が施される。また、裏面側にも浅い剝離が施される。特に石器下端より大きく剝離が施されている。石材は点紋頁岩を用い、長さ5.3cm、幅4.0cm、重さ43.42gを測る。なお、この石器は母岩別資料25に分別され、接合資料48に含まれる。16号ブロックより出土。

31 (No905)

断面三角形の厚みのある剥片を素材とし、側縁ならびに基部側に裏面側から連続的に粗く調整加工を施している。このため素材剥片の打面は、調整加工により除去されている。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.9cm、幅4.6cm、重さ67.70gを測る。4号ブロックより出土。

32 (No498)

表面に大きく礫表皮を残す肉厚な縦長剥片を素材とし、左側縁に調整加工を施すことにより刃部を作出している。調整加工は、剥片の左側縁全体に裏面側から表面側へ向け粗く、そして細かく施される。さらに打面部には、打面を除去するかのように表面側から裏面側へ向け調整加工が施されている。断面形状は、台形ないし三角形を呈する。石材は黒色頁岩を用い、長さ11.2cm、幅4.2cm、重さ118.50gを測る。16号ブロックより出土。

33 (No327)

表面に大きく礫表皮を残す肉厚な縦長剥片の折断した剥片を素材に、剥片の側縁へ連続した調整加工を施すことにより刃部を作出している。調整加工は、表面側から裏面側へ向け比較的平坦に施されるもので、鈍角な刃部である。石材には黒色頁岩を用い、長さ5.7cm、幅5.4cm、重さ98.54gを測る。なお、この石器は母

岩別資料28に分別され、接合資料67に含まれる。

34 (No.866)

肉厚な剥片を素材とし、左側縁に調整加工が施され刃部が作出されている。調整加工は、裏面側から表面側へ向けやや粗く連続的に施されている。打面および打瘤は除去されることなく残存する。石材は黒色頁岩を用い、長さ5.9cm、幅5.3cm、重さ85.54gを測る。11号ブロックより出土。

35 (No.1026)

礫表皮を打面とした肉厚な剥片を素材とする。調整加工は右側縁にのみ施されるもので、表裏両面に角度のある連続的な剝離が施される。また、石器下端は折断されている。石材は黒色安山岩を用い、長さ4.5cm、幅4.5cm、重さ45.96gを測る。4号ブロックより出土。

楔形石器 (第66図, 図版10)

剥片の上下両端に、対向する剝離面の存在を重視し認定した。

36 (No.925)

側縁に礫表皮を残す、ほぼ正方形に近い剥片を素材とし、剥片の上下両端に対向する剝離が石器長軸に平行してみられる。調整加工は、上端では剥片の打面を作業面とし表裏両面に浅く連続的に施される。下端には表面側から裏面側へ向け浅く施される。石器形状はほぼ正方形で、縦断面形状は凸レンズ状を呈する。打面は調整加工により除去されるが、打瘤の一部は残存する。石材には黒色安山岩を用い、長さ5.0cm、幅6.0cm、重さ48.29gを測る。なお、この石器は母岩別資料45に分別され、接合資料88の中に含まれる。4号ブロックより出土。

37 (No.954)

やや幅広い剥片を素材とし、剥片の上下両端に対向する剝離が石器長軸に平行してみられる。調整加工は、石器の上下両端ともに裏面に大きく剝離を施した後に、細かな加工が表裏両面に施される。石器の上下両端はほぼ平行するが、両側縁はゆがむ。縦断面形状はおおむねレンズ状を呈し、打面および打瘤は調整加工により除去されている。石材には黒色安山岩が用いられ、長さ5.2cm、幅4.3cm、重さ36.64gを測る。4号ブロックより出土。

形器 (第66図, 図版10)

38 (No.1173)

平坦な剝離面を打面とし、同一の剥片剝離工程により作出される縦長剥片を素材とする。剥片形状は、左右両側縁がほぼ平行し台形状の断面形状を呈する。素材剥片の端部に、右側縁から一方方向のみに二条の極状剝離を施すことで機能部が作出される。石器先端は彫刻刃面を作出した後に欠損している。剥片の打面及び打瘤はそのまま残存する。石器の長軸と剥片の長軸は一致する。剥片の両側縁には、使用による刃こぼれが認められ、特に右側縁に顕著である。石器先端が欠損しているが、明らかに石器の先端に剥片の剝離方向に対向する剝離面が認められることから、形器として認定した。石材にはチャートを用い、長さ8.4cm、幅3.5cm、重さ27.41gを測る。20号ブロックより出土。

39 (No.1085)

断面三角形の厚みのある剥片を素材とする。剥片の右側に素材打面から剝離させることにより作業面を作出した後、そこから素材剥片の打面部を除去するかのようになど調整が加えられ、機能部が作り出され

ている。石材には黒色頁岩を用い、長さ3.5cm、幅2.4cm、重さ10.20gを測る。1号ブロックより出土。

40 (No1073)

幅広剥片を横位に折断したものを素材とし、この平坦な折断面を作業面として左側縁に機能部が作出され、連続的に数度の調整が施されている。また、同じ作業面から石器の表裏両面には、角度の浅い剝離が施されるとともに、対向する下端にも表裏両面への細かな剝離が施されている。石器の上下端はほぼ平行となる。石材には黒色頁岩を用い、長さ2.9cm、幅3.7cm、重さ9.66gを測る。1号ブロックより出土。

錐形石器 (第67図、図版10)

41 (No586)

平坦な剝離面を打面とした肉厚な大形の横長剥片を素材とし、縦位に使用する。調整加工は、まず刃部とする部分の厚みを除去するように折断し、ほぼ方形状に形状を整える。その後機能部の両側に裏面側から表面側へ向け機能部作出のための粗い剝離を袂状に施し、さらに細かな調整加工を施す。機能部の断面形状は、三角形を呈する。打面および打瘤は、調整加工により一部除去されるが、残存する。剥片の長軸と石器の長軸は、90度相違する。石材には黒色頁岩を用い、長さ6.6cm、幅5.9cm、重さ102.78gを測る。なお、この石器は母岩別資料85に分別され、接合資料144に含まれる。7号ブロックより出土。

挟入状石器 (第67図、図版10)

42 (No645)

やや肉厚で不定形な縦長剥片を素材とし、剥片下端に挟入状に細かな調整剝離を施したもの。他に調整は加えられていない。打面および打瘤はそのまま残存している。石材には黒色頁岩を用い、長さ5.2cm、幅3.6cm、重さ22.10gを測る。2号ブロックより出土。

斧形石器 (第67図、図版10)

43 (No642)

平坦な剝離面を打面として作出される、側縁に礫表皮を残す横長剥片を素材とし、縦位に使用する。石器上半ではまず裏面に比較的大きな剝離を粗く施すことにより打面・打瘤を除去する。その後表面の両側縁に裏面側から表面側へ向けて大小の剝離を施し形状を調整する。下半では特に下部に比較的小さな剝離を裏面側から表面側に向け連続的に施し、平坦な刃部を作出している。縦断面は上端から下端にかけて薄くなっていく形状で、片刃である。横断面は上半が凸レンズ状、下半では細長い方形状を呈する。刃部付近には、磨き痕等は認められない。石材には黒色頁岩を用い、長さ6.3cm、幅4.1cm、器厚1.4cm、重さ37.13gを測る。6号ブロックより出土。

加工痕を有する剥片 (第68～81図 44～97、図版11～14)

ここに含めた石器は、いわゆる定形石器とは異なり、剥片の周囲に部分的ないしは不連続的に細かな剝離による調整が加えられているもの計54点をまとめた。この中には、先の掻・削器あるいは石核に含まれる可能性をもつものもあるが、部分的に施された調整加工のあり方から、この類に含め説明を加える。これらの石器は、幅広な縦長剥片を主に、横長あるいは不定形な剥片を素材としたもので構成される。使用される石材には、黒色頁岩が最も多く、それに続く黒色安山岩で主体を占め、チャート・珪質頁岩・砂質頁岩・点

紋頁岩が少量用いられている。これら加工痕を有する剥片は、剥片に施された調整加工の位置から、次のように分類できる。

A類

剥片の側縁に加工が施されるもので、その調整加工のあり方から次の4種に分類できる。

- 1) 比較的幅広となる縦長剥片を素材とし、側縁の一部に部分的に細かな剝離による調整加工が施されるもの(50・52・53・55・56・66・69・77~81・83)。この中には、側縁の中央部ないしは端部ちかくの表面側に調整を加えるものと、裏面側に調整を加えるものがある。いずれの調整加工も比較的浅い剝離によるもので、あまり連続的には施されていない。資料53・66は、打面部の除去がなされているようである。また、横長となるやや不定形な剥片を素材とし、縦長となる剥片と同様に側縁の一部に細かな調整加工を施すものもある(82・87)。資料82は、右側縁の打面ちかくに裏面側から数度の調整加工が加えられている。
- 2) やや不定形な幅広となる縦長剥片・横長剥片を素材とし、側縁に大きめの剝離による調整加工を施したもの(63・68・76)。資料63は打面部が欠損しているが、剥片の左側縁に裏面側から大きめの剝離を連続的に施し、右側縁の裏面の一部には平坦な剝離が施されている。また資料76は、左側縁の裏面側に大きな剝離を施した後、さらに細かな調整加工を部分的に施している。
- 3) 幅広い縦長となる剥片を素材とし、その側縁にやや連続的に細かな剝離による調整加工を施したもの(47・49・54・59~61・64・65)。資料54・59・60・61は、剥片の側縁に浅く細かな調整加工を表面に連続的に施したもので、資料49は側縁の裏面に大小の剝離を施したものである。また、資料47は欠損品であるが側縁並びに端部にも調整加工が及んでいる。

B類

ある程度連続した大小の調整加工が端部にまで及び、剥片形状を変えているもの(51・71~74・96)。資料51は、やや大きめの剝離を打面部および両側縁に施し、資料73はその後細かな調整加工を施す。また、資料72・74は、剥片の打面および側縁・下端部に大小の剝離を施すものである。

C類

素材となる剥片の、角となる部分に調整加工を施すもの(62・67・84・86)。やや大形の縦長状となる剥片の打面部を大きく除去したものを素材に、その角となる側縁部に比較的小きな剝離を連続的に施したものの(62・67)と、横長状となる素材剥片の角となる部分に若干の剝離を加えたもの(84・86)とがある。

D類

剥片の端部に加工が施されるもので、その調整加工のあり方から次の2種に分類できる。

- 1) やや横長となる剥片素材を主に、その上端の打面部ないしは下端に若干の調整加工を施しているもの(58・70・75・85・88~91・97)で、資料85は縦長となる剥片の上端が欠損したものを素材に、欠損面を作業面とした剝離が施されるとともに、下端部割から裏面にやや大きめの剝離を加えた後、細かな調整を施している。
- 2) 素材となる剥片の上ないしは下端部にある程度連続した調整加工を施しているもの(44~46・48・57・92~95)。資料44・45は欠損品であるが、横長剥片を素材にその端部に連続した調整加工を加えているもので、器種の認定が難しいためこの類に含めた。また資料46は、小振りな縦長剥片を素材にその下端部の表裏面に調整加工が施されていることから、楔形石器の可能性もある。資料48は、破損した横長剥片を素材に、左側縁を除いた周囲の表面に調整加工が施されている。資料94は、方形となる横長剥片を素材としたもので、打面部を除去するように大きめの剝離を施した後、細かな調整加工を連続的に施している。さら

第3章 第II文化層

に資料95は表裏面に大きな剥離面を残すもので、石核とも考えられるが、その一端に細かな調整加工が施されているため、この類に含めた。

使用痕を有する剥片 (第81~84図 98~116, 図版14・15)

剥片の周囲に、微細な刃こぼれ状の剥離痕が連続して認められるもの計17点をまとめた。縦長剥片ないしはやや幅広い縦長となる剥片、横長あるいは不定形な小形の剥片を素材としたもので構成されるが、縦長剥片素材のものが主体をなす。使用される石材には、黒色頁岩、珪質(硬質)頁岩、チャートがほとんどを占める。黒色安山岩製のものについては、その性質上使用痕の認定が難しく含まれていない。

これらの剥片の機能部である使用痕位置から、次のように分類した。

A類 (98・101・102・103・106・108・110・112・113・115・116)

素材剥片の右ないしは左の片側縁に使用痕が認められるもので、縦長となる剥片を素材としたものと、横長ないしは不定形な剥片を素材とするものがある。使用痕は、素材剥片の片側縁の全体に及ぶもの(98・101・102・103・108・110・115・116)が主をなし、側縁および下部にまで及ぶもの(113)、側縁上半に認められるもの(112)とがある。また剥片の折断面の一部にも使用痕が認められるもの(106)もある。

B類 (99・105・107・109・111)

素材剥片の両側縁に使用痕が認められるもので、特に使用される素材剥片に長幅比の大きい、側縁がほぼ平行する縦長剥片(99・109・111)が特徴的である。

C類 (100・104)

素材剥片の下部に使用痕が認められるもので、やや幅広い縦長剥片と不定形な横長剥片とが素材に用いられている。

石核 (第85~148図 117~232, 図版15~35)

本遺跡より出土した石核は多く、計126点を数える。これは出土石器総数の約1パーセントに及ぶもので、赤城山西麓地域での遺跡の中では、一番高い出土率である。使用される石材には、黒色頁岩が最も多く用いられ、次いで黒色安山岩が、さらにチャート、珪質頁岩等が用いられる。言うまでもなく、ここに示された石核から本文化層の多くの石器が製作されるわけであるが、これらの石核にはその形状ならびに目的とされる剥片によって、多くのバリエーションがある。そこで、ここでは以下のA類からG類の7種に分類した。

A類 (129・151・156~158・180・216~219・220・226・232)

石刃状の縦長剥片ないしは幅広い縦長剥片を目的として、剥片剥離がなされたと考えられる石核である。やや大きめの裸を分割し、その分割面に剥離を施し作業面とし、そこから同一方向へ連続的に縦長剥片を作出しながら後退していくもの(216~218)。剥片を素材に、平坦な面を作業面とし縦長となる剥片を剥離させるもの(156・219・232)。このうち資料156・219は接合資料52に含まれるもので、表面に礫表皮を残す大形の剥片を分割し、それぞれ縦長剥片を目的に剥片剥離を行っている。また、資料129・157・158のように一定した同一打面から作業を行うものや、資料226のようにある段階で打面転移することにより剥片剥離のあり方を変え、それまでは横長となる剥片を主としていたのに対し、縦長剥片作出へと変化しているものもある。

B類 (120・123・126~128・131・143・146・148・149・152・154・155・159・161~163・171・172・175~177・181・182・186・189・191~199・206・213・229)

その形状が亀状となるもので、素材の周囲から剥片剥離がなされている石核である。礫表皮を残した大形

の剥片ないしは分割礫を素材に、その周囲から素材の剥離面側へ、浅い角度による剥離を繰り返し、寸詰まりな剥片を作出するものや、さらにその剥離面を作業面として下方向へ剥離を施すものがある。その代表例として、前者には資料148・154・161・199が、後者には資料127・163・182・193・213が上げられる。また、資料152・172・175・181・189・192・194・196は、後者と同様な剥片剥離が施されたものであるが、その素材に大形の剥片を用いたものである。これらの石核から剥離された剥片は、寸詰まりな比較的幅広となる縦長もしくは横長の形状を呈するもので、横長剥片の作出が主体となるものと思われる。

C類 (119・121・130・133・135～137・141・150・164～166・168・169・179・183・188・190・208・215)

その形状がサイコロ状となるもので、打面転移を頻繁に繰り返し作業が行われたことにより、剥離面が石核のほぼ全体を覆っているもの。この類に属する石核は、B類としたものに近いものも含まれるが素材形状に大きな相違点がある。一部に礫表皮を残すが、厚みのある角状な素材の比較的平らな面を作業面に、1ないしは2・3度の剥離を行って打面を90～180度転移させ作業を進らせていく。その代表的なものに、資料119・164・166・169・179・183が上げられる。作出される剥片は、剥片剥離作業が進むほど寸詰まりのものとなり、縦長ないしは横長となる幅広で不定形な剥片が主体をしめる。

D類 (122・124・125・132・138・140・142・144・145・153・160・174・184・185・200・202・203・205・207・219～211・219・221・224・227・228)

中形の薄身な剥片を素材に、小さい剥片を剥離させたもので、素材の主要剥離面を残している石核をまとめた。これらの石核は、一見するとB類としたものに近いが、使用される素材および剥片剥離に大きな違いがみられる。その多くものは、素材となる剥片の裏面側へ、上端部側縁・打面部の一部に単独ないしは数度の剥離を行っている。中には資料153・203・207のように、素材剥片の下端部にまで及ぶものもある。また、資料184・207のように剥離が連続し、種・兩器ないしは加工痕を有する剥片と区別し難いものもある。このような石核から剥片剥離された剥片は、いずれも比較的小さく寸詰まりなものが考えられる。

E類 (187・214・222・223・225)

石核の辺に平行して上下に剥片剥離作業を繰り返し、両刃状となるもの。この作業から作出される剥片は、そのほとんどのものが幅広となるものが予測できる。なお、資料225については、礫器と区別し難い点もあるが、接合資料22から石核としてこの類に含めた。

F類 (134・167・212)

E類が両刃状となるのに対して、このF類は片刃状となるものである。作出される剥片は、B類やE類と同様なものが考えられる。

G類 (117・118・139・147・170・173・178・201・204)

上記したAからFの、各類に含まれないものを一括した。このうち資料117は、礫表皮を多く残すがC類としたサイコロ状に近いもの。資料139は接合資料96に含まれるものであるが、一連の剥片剥離作業の中で作出された大振りな剥片を素材に、その左側縁に表裏面側から連続した剥離を繰り返すものである。資料170は、敲石とも考えられるが、大きい剥離面を有することから石核として、この類に含めた。また、資料178については、素材となる剥片の上端部に表裏面側への細かい剥離を施しており、楔形石器としての可能性もあるが、下端部に表皮を残していることから、とりあえずこの類に含めた。

剥片 (第149～156図 233～259, 図版35～37)

出土した多くの剥片は、規則性のある一定した剥片剥離技術から剥離された定形的な剥片とは異なり、その剥片形状はかなり不定形なものが多くバラエティーに富んでいる。先に述べてきた加工痕、使用痕等を有する剥片以外の剥片について、次のようにA～D類に分類したが、ここに図示した剥片は、比較的その類を代表するものの一部を掲載した。

A類 (233・234・235・236・237・242・249・250・251・252)

長幅比が1.5以上に大きくなる、いわゆる縦長となる剥片であり、中には長さ12.9cmに達するもの(233)もある。また、剥片の両側縁が比較的平行となるものもこの類に多い。なお、この類の中に、前述した使用痕を有する剥片とした多くの素材剥片が含まれる。これら縦長剥片の剥片剥離の代表例として、接合資料26などの剥片が上げられる。剥片表面に1ないし2・3条の稜をもち、同一方向からの連続的な剥離面を有するなどの剥片のあり方から、単設あるいは両設打面の石核から剥離された剥片であると考えられるが、中には一定しない石核からの偶発的な剥離とも思われるものも含まれる。

B類 (239・240・241・243・244・245・246・253)

長幅比が1から1.5となる、やや幅広い縦長となる剥片である。その剥片形状は、A類に似て縦長となるものの、幅があり、幅に比べて長さのないものや、A類とは異なり比較的不定形となるものが多くみられる。また、量的にもA類に比べ、このB類の方がはるかに多い。代表例としては、接合資料62・1・25などにみられる剥片が上げられる。なお、原石の礫表皮剥ぎ取り例も存在する。これらの剥片は、A類と似た剥片剥離作業の中に位置づけられるものが、多く存在すると思われる。

C類 (247・248・254・259)

長幅比が1ないしはそれ以下となり、打面が平坦で剥片の幅とあまりかわらず、端部が打面とほぼ平行で、両側縁が比較的平行となる、方形に近い形状を呈する横長な剥片である。その代表例としては、接合資料68・87などにみられる剥片が上げられる。また、スクレイパー等の素材剥片としても、縁辺に加工を加えた数例の使用例が認められる。しかし、このような横長剥片は、量的にはあまり多くはない。その剥片剥離については、剥片形状の観察から単設打面の比較的偏平な厚みの少ない石核を用い、それから連続的に同一方向へ剥片剥離がなされたものと考えられる。

D類 (238・255・256・257・258)

長幅比が1ないしはそれ以下の、不定形な幅広となる横長な剥片である。剥片は、表面に残された剥離面の剥離方向が一定していないものや、同一方向から剥離されていても打面に比べ最大幅が広く不定形となるものが主体をなし、原石の礫表皮剥ぎ取りのための剥片もこの類に多く存在する。その代表例としては、接合資料68・87などにみられる剥片が上げられる。量的には、B類に次いで多い。考えられる剥片剥離については、大方の剥片は剥片の表面と裏面の剥離方向が一致せず、一定した打面をもつ石核から剥離されていないと思われるものが主体を占める。また、B類と同様な石核からの剥片剥離作業の中で作出される剥片と思われるものもあり、さらには偏平な礫を素材に、片刃状ないしは両刃状に剥片剥離を施した際に作出されたものと思われるものも含まれている。

礫器 (第157～159図 260～262, 図版37・38)

ここで礫器として扱ったものは、石器の端部に片刃状ないしは両刃状の刃部が作出されているものである。出土した礫器は、計3点であるが、片刃・両刃状の刃部を有する両者共に存在する。

260 (Na929)

縦長で厚みのある礫を素材にしたもので、上端部付近の両側縁から表・裏面に向けて、数度にわたる剥離痕が認められる。刃部となる下端部には、端部の裏面側から大きく二度の剥離が施された後、刃部調整のための比較的細かい剥離により、直線的に刃部が作出されている。このため刃部形状は、片刃状となる。なお、上端部付近にみられる剥離痕は、比較的大形の剥片が剥離されているものと思われるが、その作業面が全体に潰れていることなどから、石器製作にかかわる剥離とは考え難く、むしろ敲石の使用の後、礫器としての転用が図られたものと考えられる。石材には黒色頁岩を用い、長さ14.3cm、幅8.3cm、厚さ5.8cm、重さ884.5gを測る。母岩別資料65、接合資料23に含まれる。4号ブロックより出土。

261 (Na875)

やや厚みのある偏平な礫を素材に、下端部ならびに側縁方向から裏面側が大きく剥離を施した後、その剥離面を作業面として表面側にやや大ききめな剥離を施す。その後、比較的細かい剥離により、刃部が作出される。作出された刃部形状は、両刃状の先端が尖ったものとなり、他の2点とは異なった形状を示す。なお、この礫器とよく似た形状を呈するものに、石核とした225（接合資料22）がある。資料225の場合は、接合する剥片等のあり方から石核としたが、この礫器とした資料261についても石核としての可能性であろう。石材には黒色頁岩を用い、長さ13.2cm、幅9.3cm、厚さ5.7cm、重さ799.0gを測る。9号ブロックより出土。

262 (Na907)

やや厚みのある方形に近い偏平な礫を素材に、周囲から表裏面に剥離を施すが、上端部および両側縁から施した剥離は比較的細かいもので打面は潰れている。特に左側縁からの剥離は、数度にも及んでいる。下端の刃部については、裏面側から大きく剥離がなされた後、その剥離面を作業面に比較的細かい剥離を施すことで刃部の作出がなされている。刃部形状は、直線的な片刃状となり、資料260と同様の形状を呈している。なお、右側縁部については、節理面による剥落のため欠損している。石材にはホルンフェルスが用いられ、長さ12.9cm、幅9.2cm、厚さ4.0cm、重さ711.9gを測る。4号ブロックより出土。

敲石（第160～165図 263～288、図版39～44）

本遺跡から出土した敲石は、出土位置不明なものも含め計26点が確認されている。これらの使用された石材には、粗粒安山岩7点をはじめとし、黒色頁岩・変質安山岩・砂岩・変質玄武岩・輝緑岩が各々2点、灰色安山岩・玢岩・流紋岩・溶結凝灰岩・紋象斑岩・橄欖岩・閃緑岩・ホルンフェルスが各々1点の14種類がみられる。以下、素材の形状別に3種類の分類をおこなった。

A類（263・264・266・267・269・277・280・282・286・288）

比較的縦長となる礫素材のものをまとめた。縦長となる素材礫の上下両端に敲打痕が認められるものと、端部の一方にのみその痕跡が認められるもの二者がある。前者については、卵形の素材の両端に敲打痕をもつもの（267・269・277）や、やや大ぶりな礫の両端に敲打の際に生じた剥離痕を有するもの（266・282・284）がある。後者には縦長となる円礫素材の一端に、敲打による潰れ痕をもつもの（263・264・278・280・286・288）がほとんどで、一部側縁付近にも同様な痕跡をもつものもある。このうち288は、敲石のなかでも最大のもので、長さ30.4cm、重さ2070.0gを測る。

B類（271～275・285・287）

比較的偏平な礫素材のものをまとめた。素材礫の一方のみに敲打痕が認められるものと、周縁の多方向からの敲打痕が認められる二者がある。前者には、偏平な円礫を素材に敲打痕が認められる287がある。後者

第3章 第II文化層

については、偏平な素材礫の角となる部分を中心に、敲打が繰り返行われた痕跡をもつもの（271～275・285）で、敲打の際に生じた剝離も多く認められる。また、274は敲打の際に、表裏面が大きく分割してしまったものと思われる。

C類（265・268・270・276・279・281・283）

厚みのある角状の礫を素材としたものをまとめた。素材礫の角になる部分を利用し、多方向からの敲打痕が認められる。このうち270については、礫の平坦面にも潰れ痕があり、台石としての可能性もある。

台石（第166図 289、図版45）

粗粒安山岩の礫を素材としたもので、表面の比較的平坦な面および裏面に顕著な凹面をもつ。長さ13.8cm、幅11.6cm、重さ1264.30gを測る。22号ブロックより出土。

原石（第160～169図 291～300、図版44～46）

本遺跡内に持ち込まれた石器製作の素材となる原材としての原石は、多くのものが石器製作に使用されているが、それ以外の未だ製作には使用されないままに出土したものも11点検出された。これら原石の石材は、黒色頁岩、珪質頁岩、灰色安山岩、変質玄武岩とされるもので、黒色頁岩の次に出土量のある黒色安山岩が欠けている。原石の形状から、次のように分類した。

A類（291・290）

棒状に縦長となるもの。291は、上端部より打撃が加えられ剥片が剥がされているが、その際に表裏が大きく節理により剥がされている。また、290は原石の途中で大きく分割している。

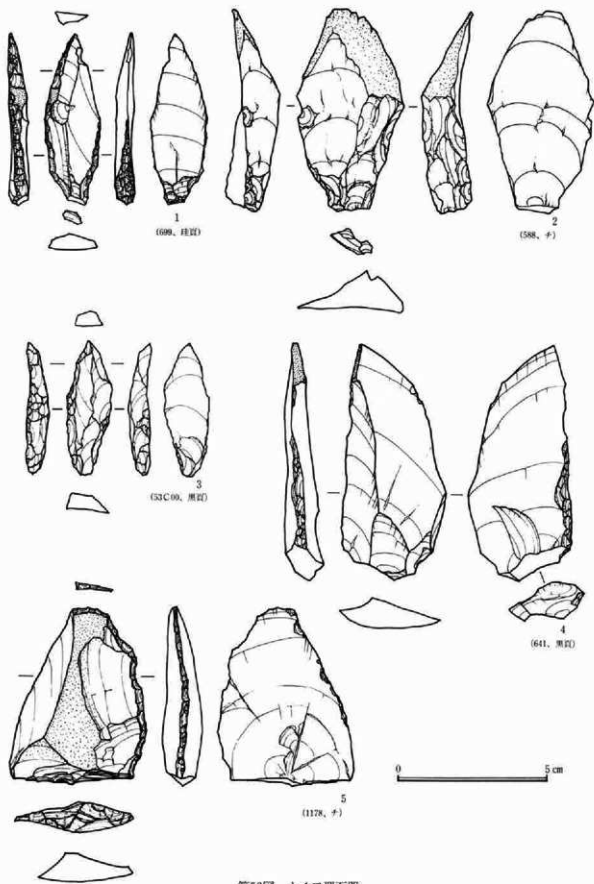
B類（292・293・294・297）

比較的縦長な形状を呈するもの。

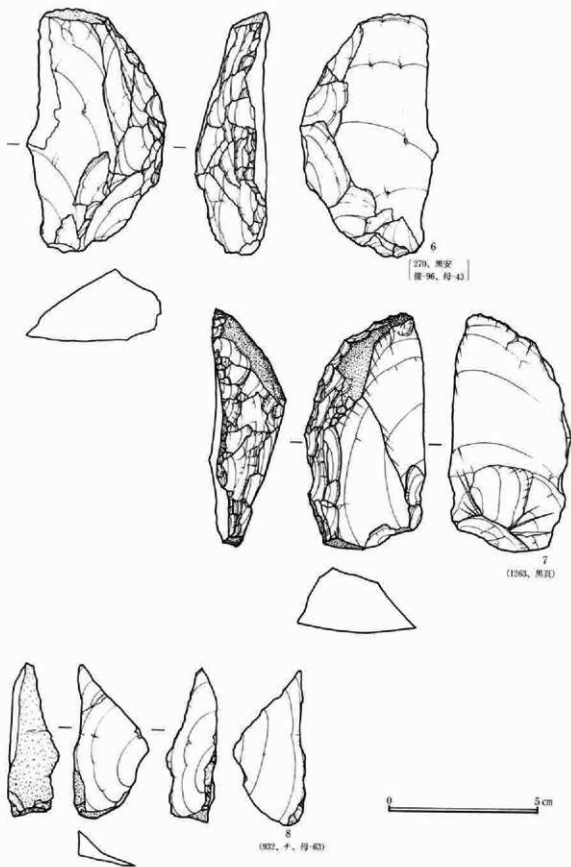
C類（295・296・298・299・300）

円礫状ないしは寸詰まり的な形状を呈するもの。

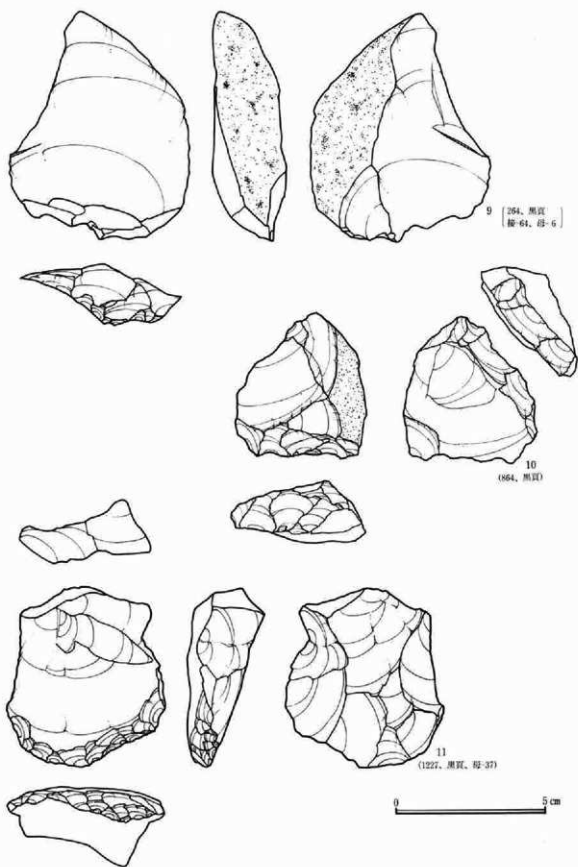
（谷藤）



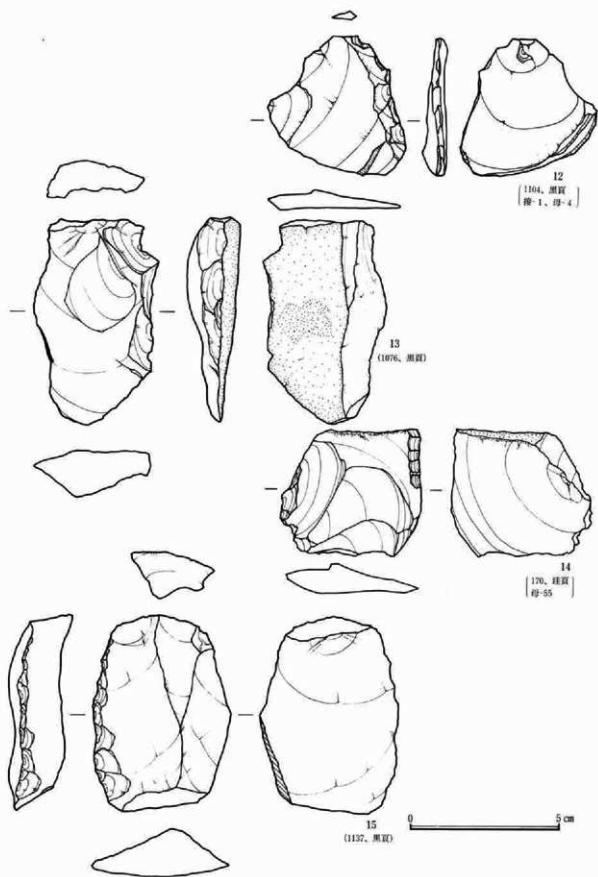
第56図 ナイフ型石器



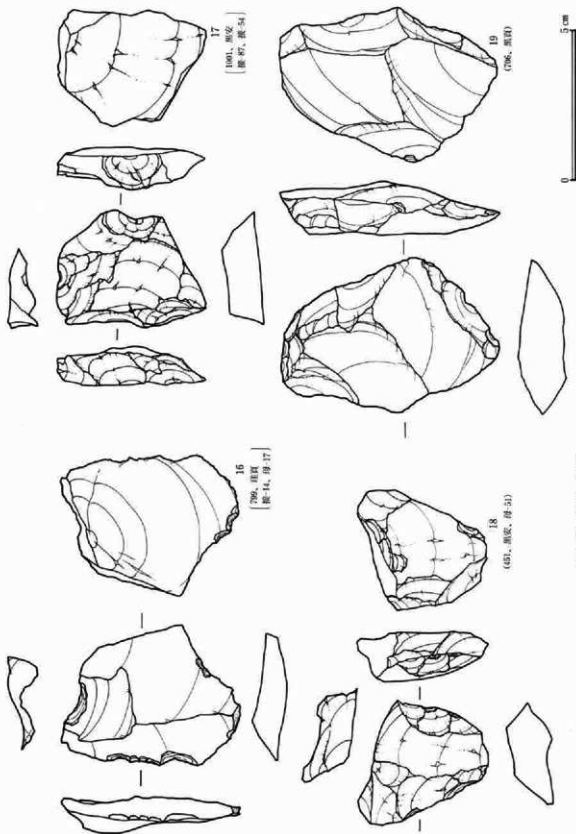
第57図 ナイブ形石器



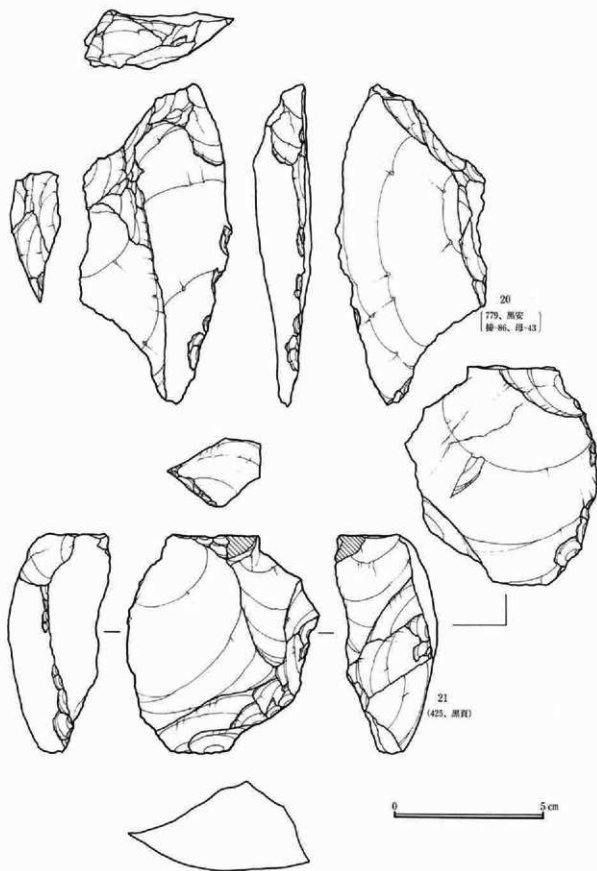
第58図 撻器・削器



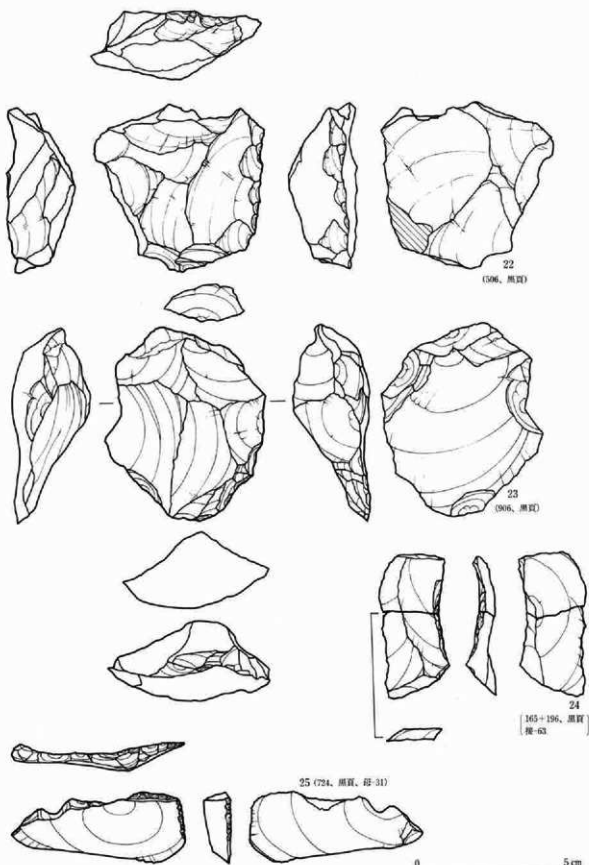
第59図 掻器・削器



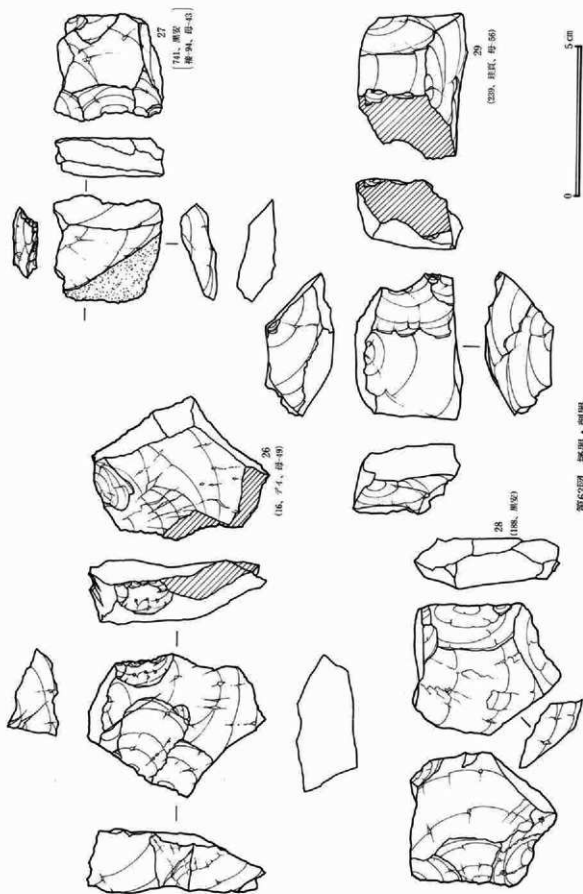
第60圖 標器・削器



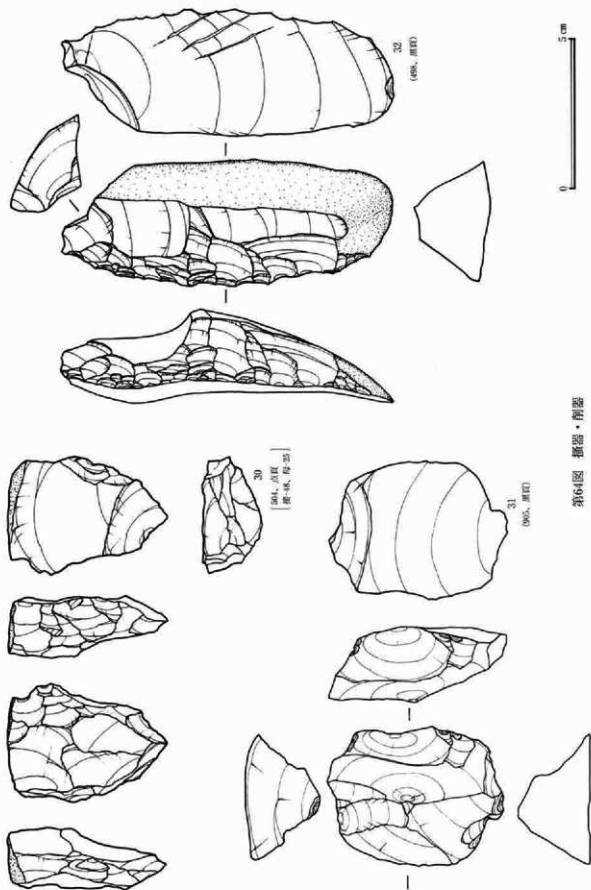
第61図 攝器・削器



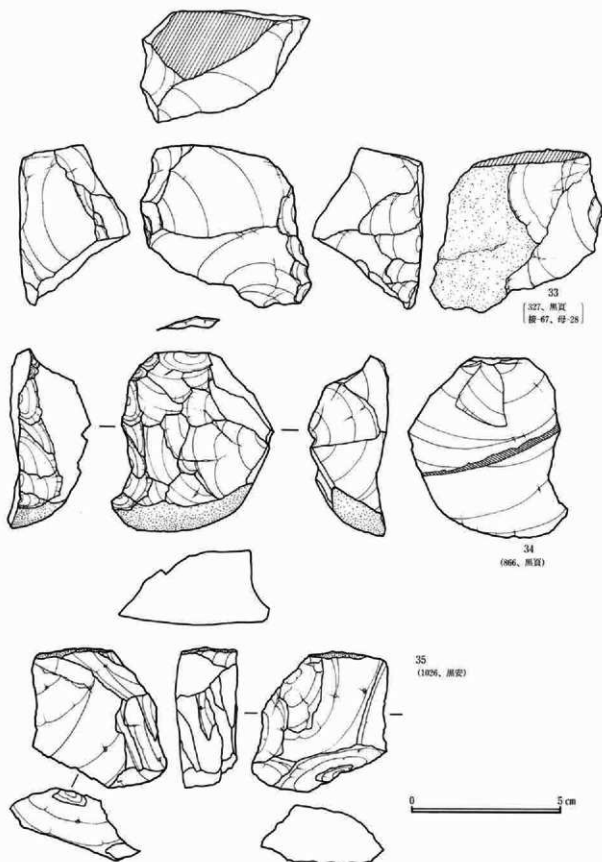
第62圖 搔器・削器



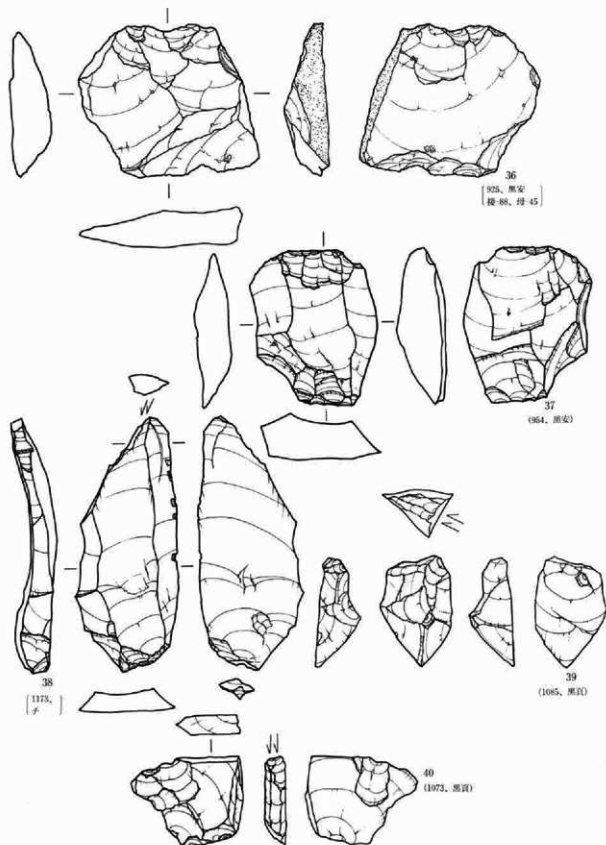
第63図 石器・石器



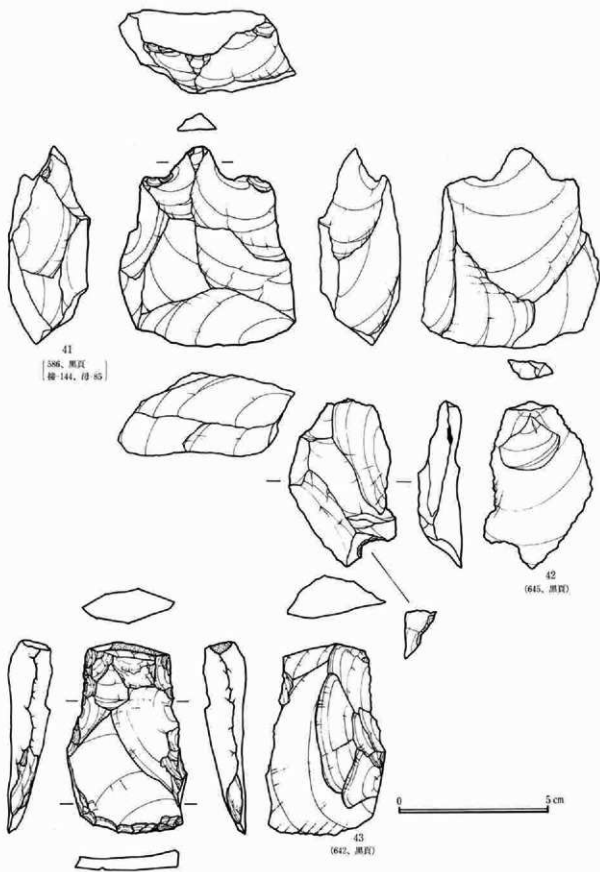
第64圖 槌器・磨器



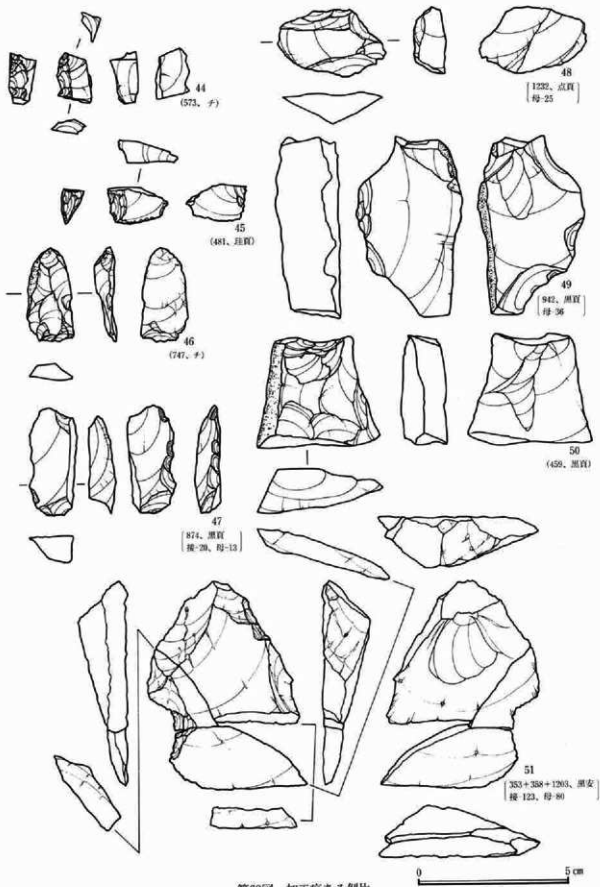
第65図 掻器・削器



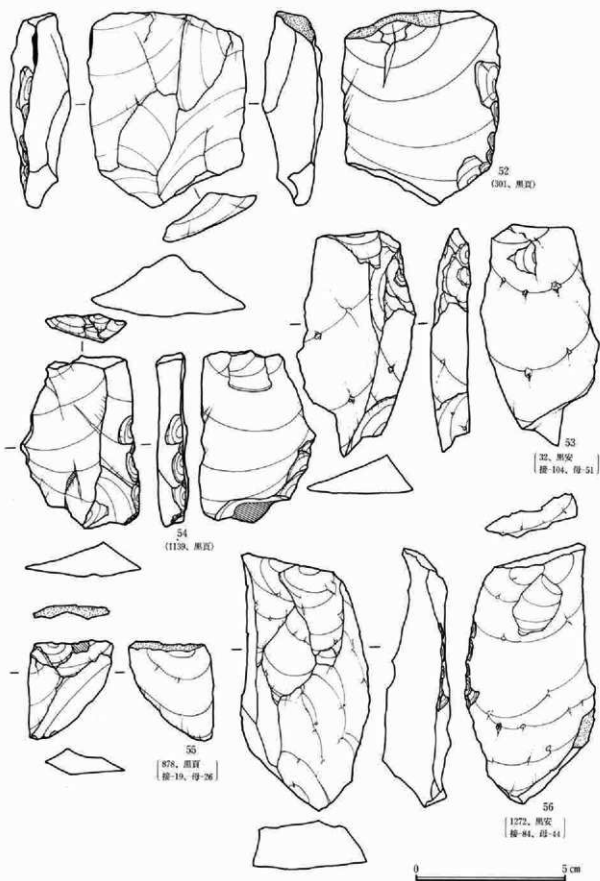
第66图 楔形石器·形器



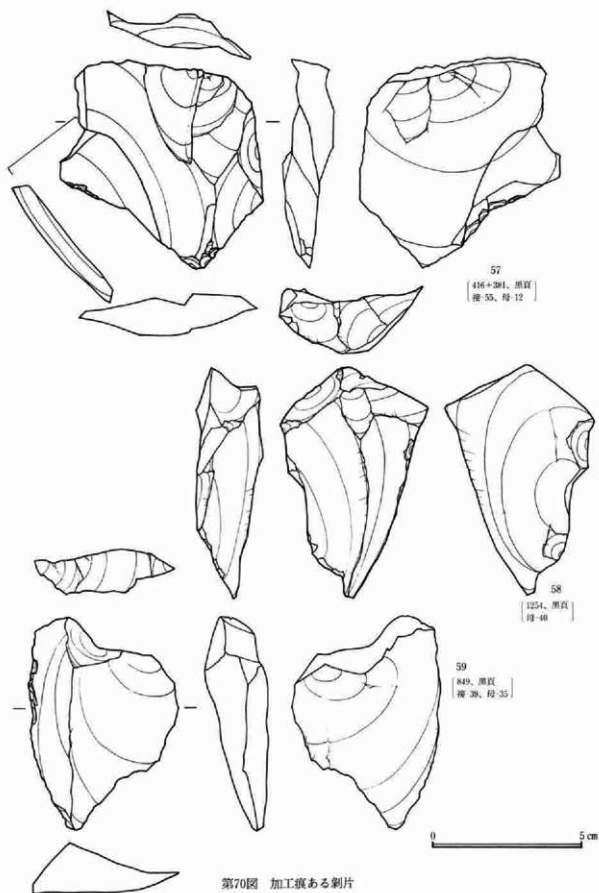
第67図 石鏃・拵入石器・斧形石器

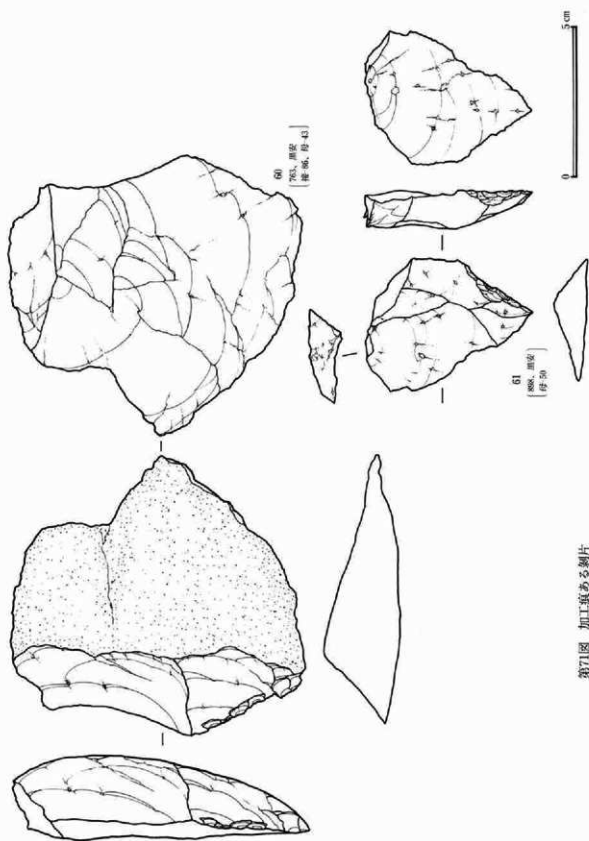


第68図 加工痕ある剥片

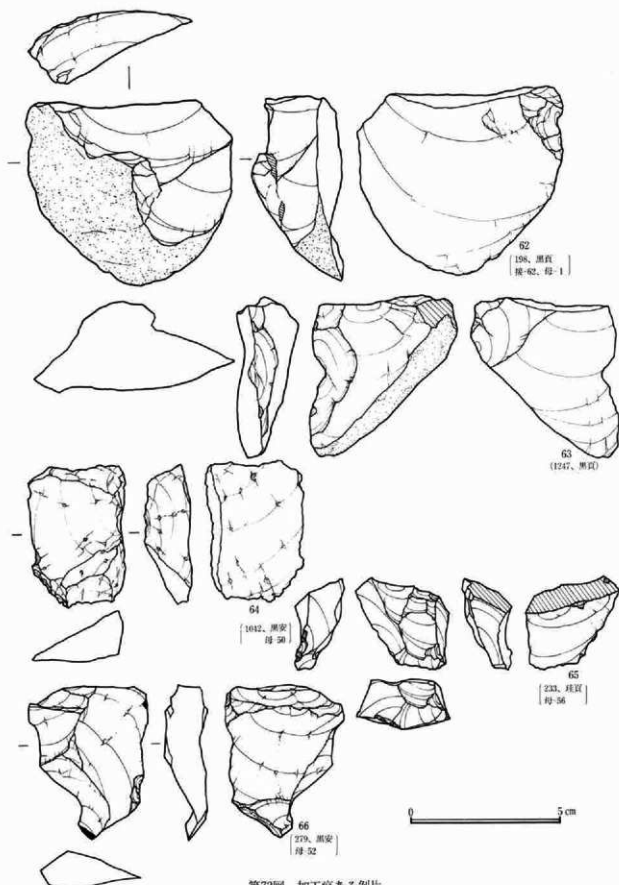


第69図 加工痕ある剥片

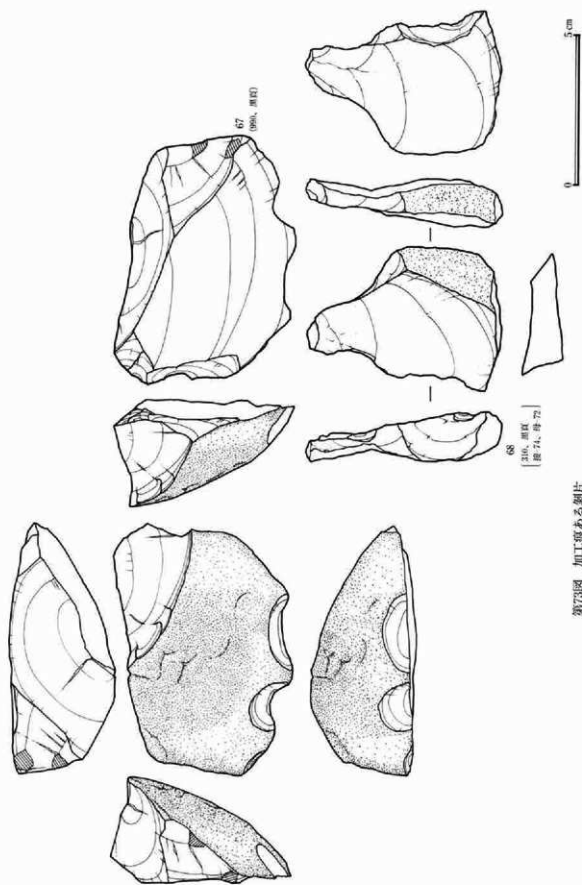




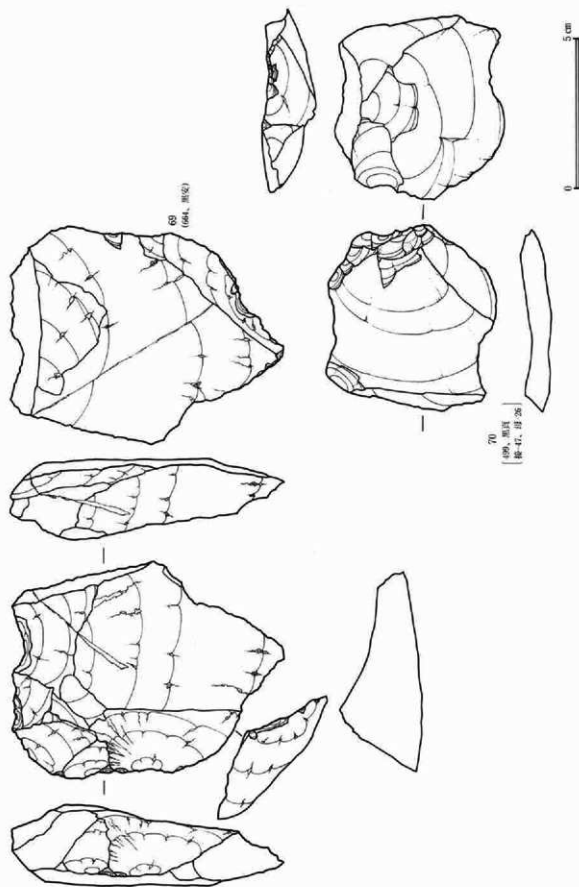
第71圖 加工痕ある銅片



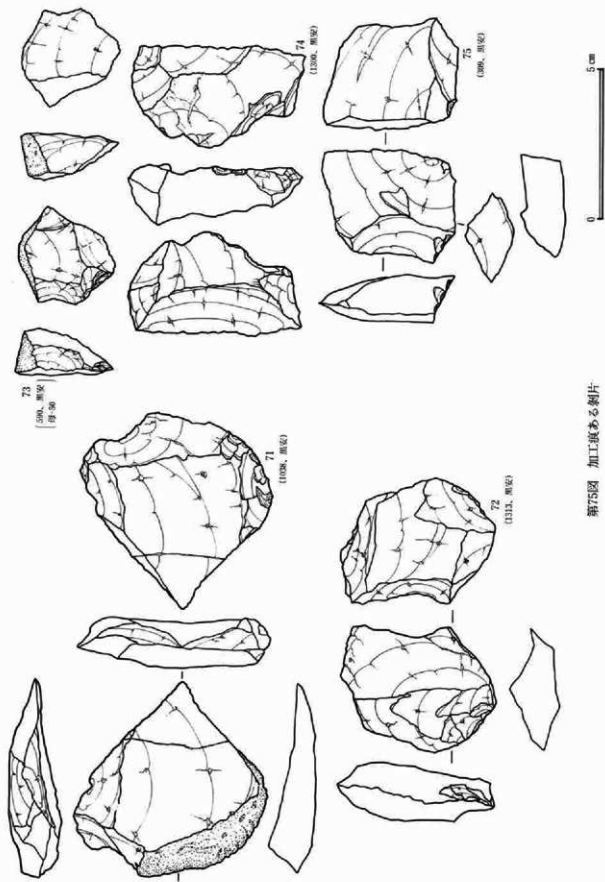
第72図 加工痕ある剥片



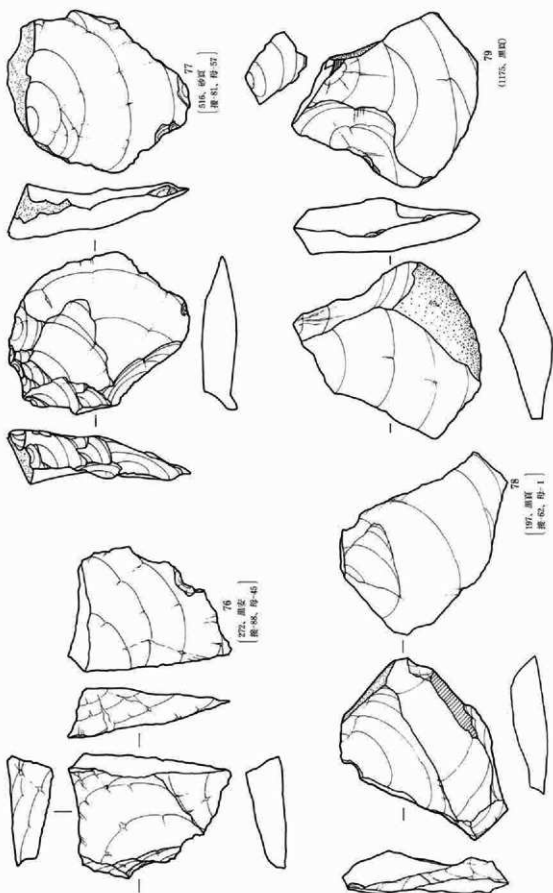
第73図 加工痕ある剥片



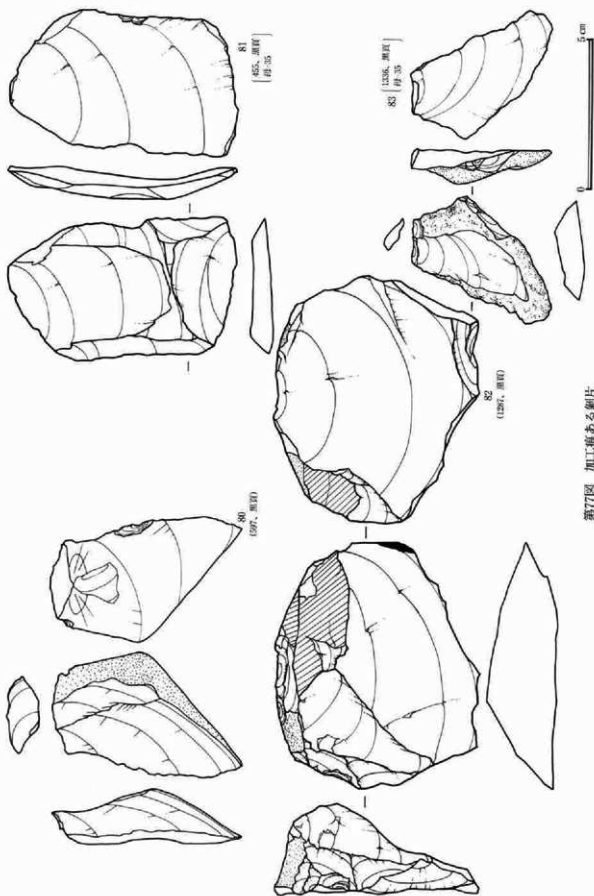
第74図 加工痕ある剥片



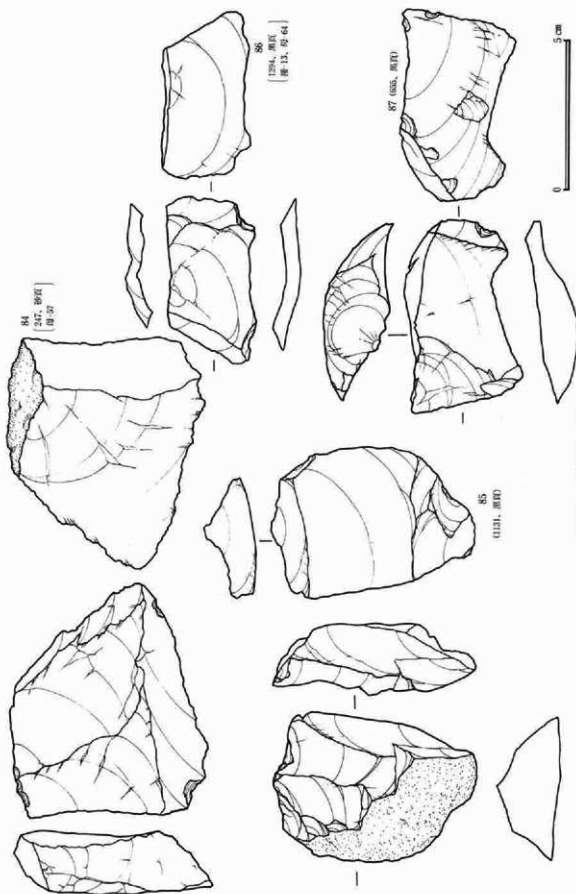
第75図 加工痕ある剥片



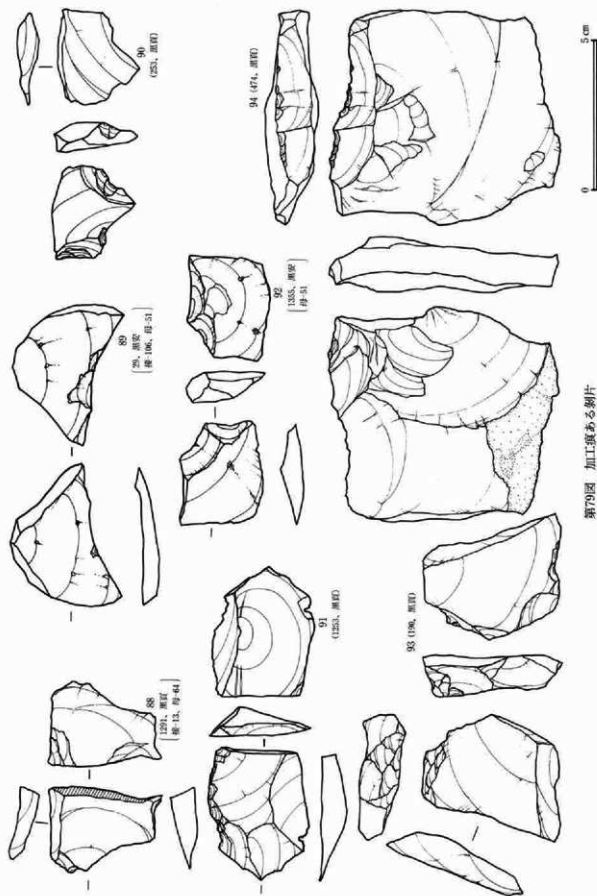
第76図 加工痕ある剥片



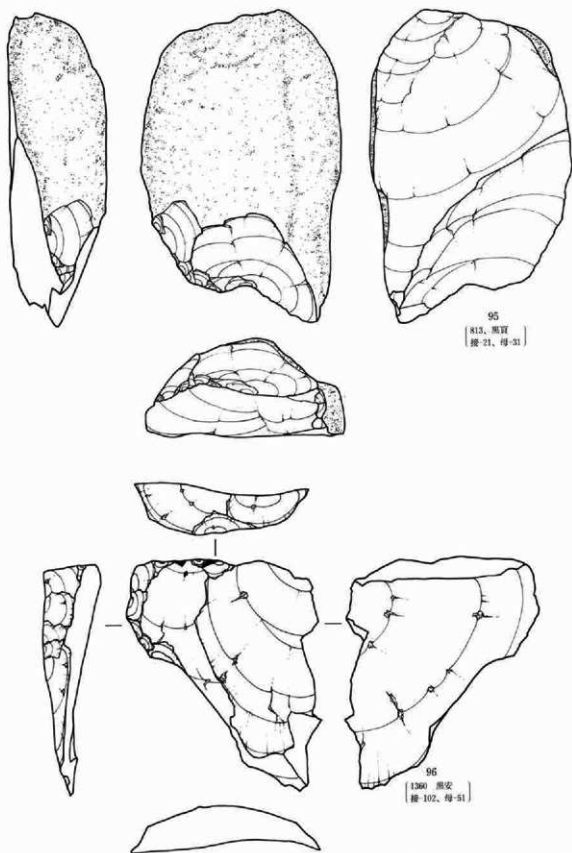
第77図 加工痕ある断片



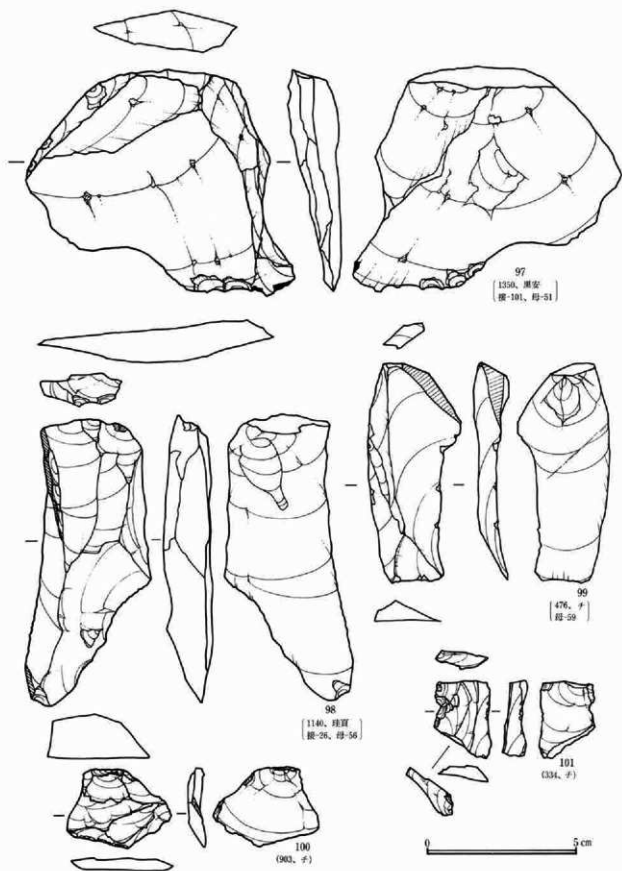
第78圖 加工痕ある剥片



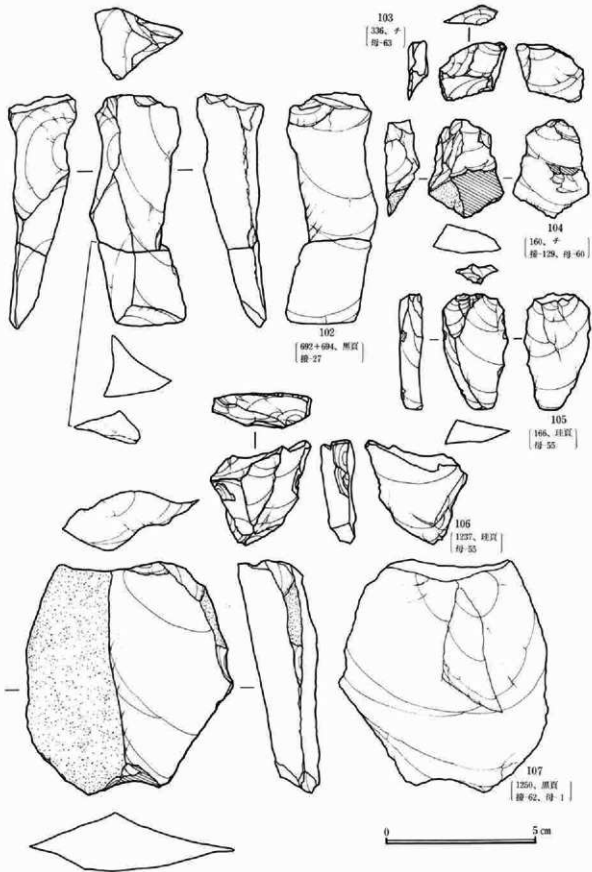
第79図 加工痕ある剥片



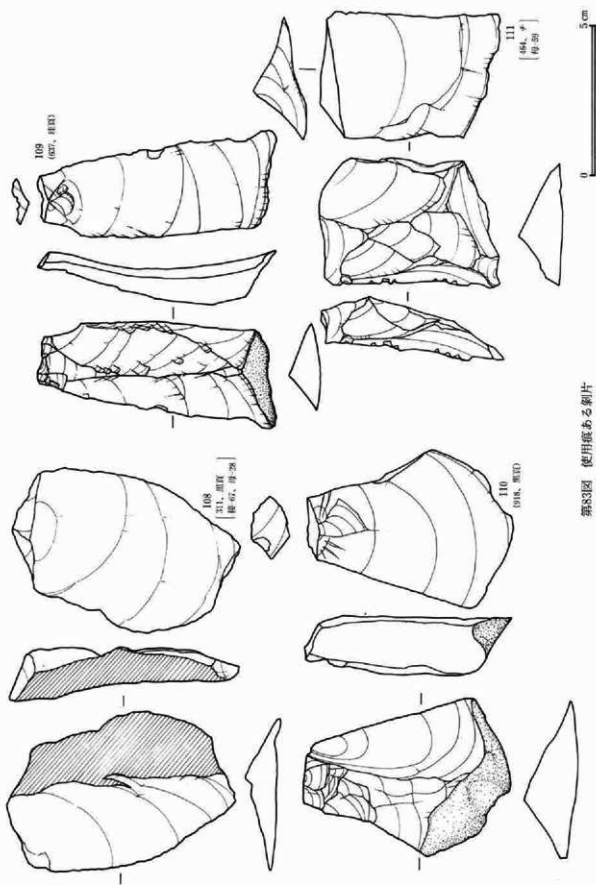
第80図 加工痕ある剥片



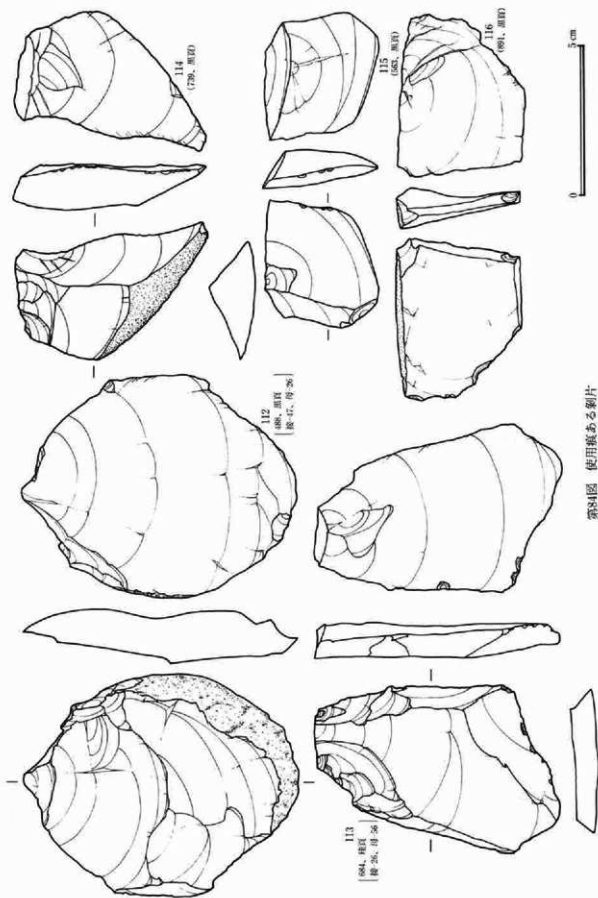
第81図 加工痕・使用痕ある剥片

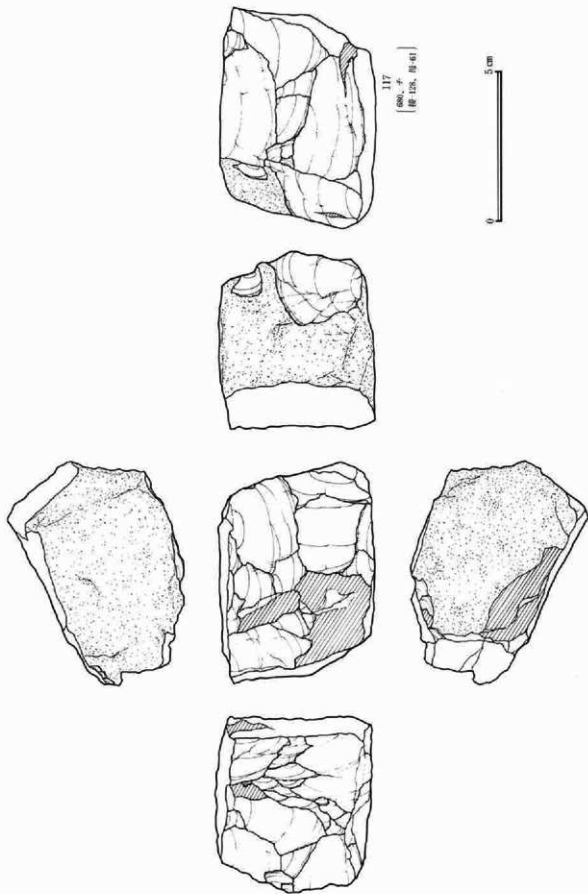


第82図 使用痕ある剥片

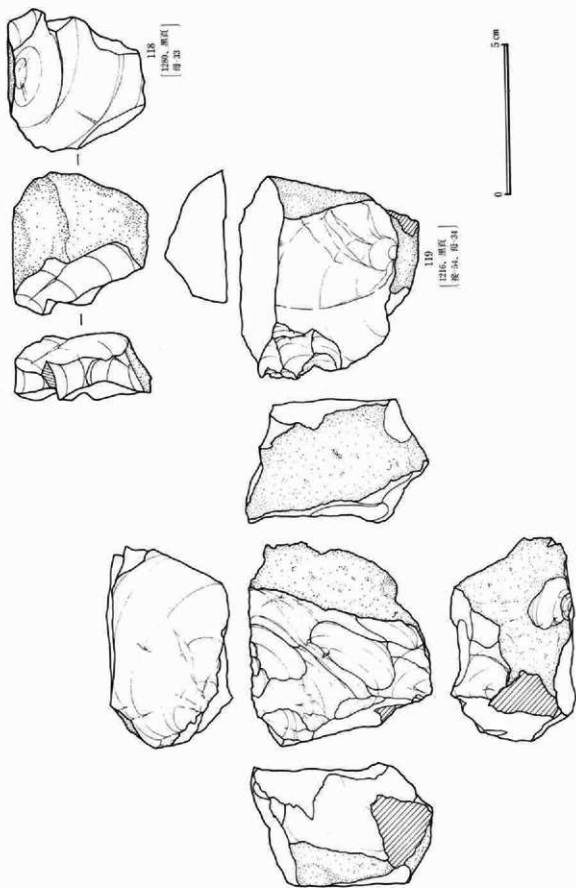


第33図 使用痕ある剥片

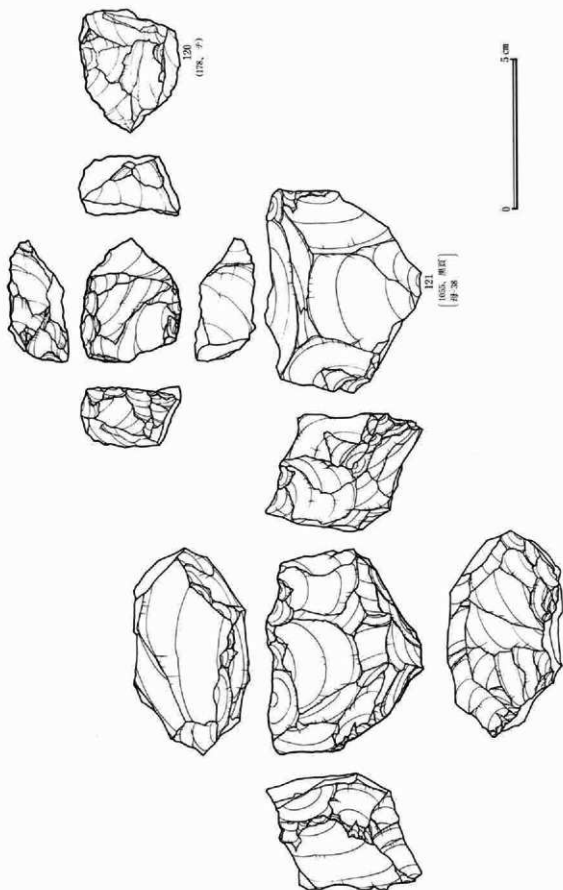




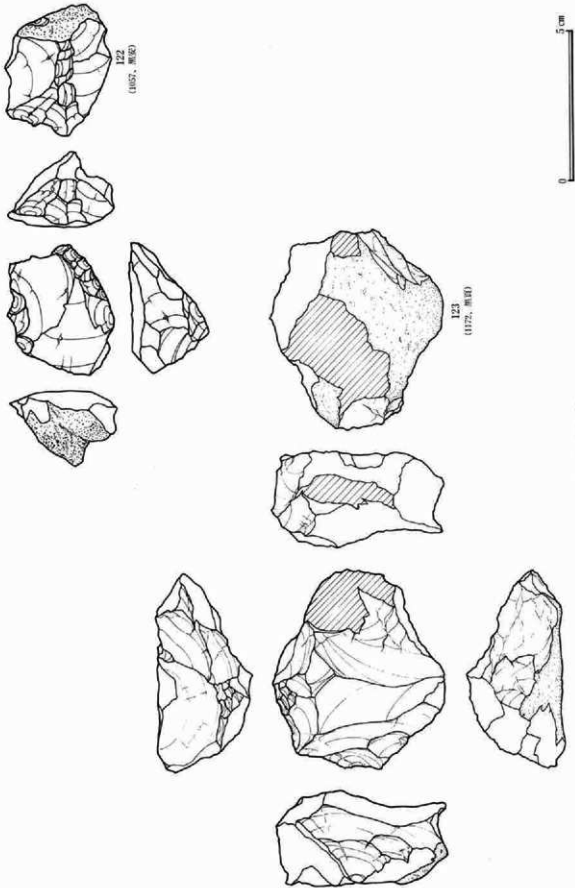
第85圖 石核



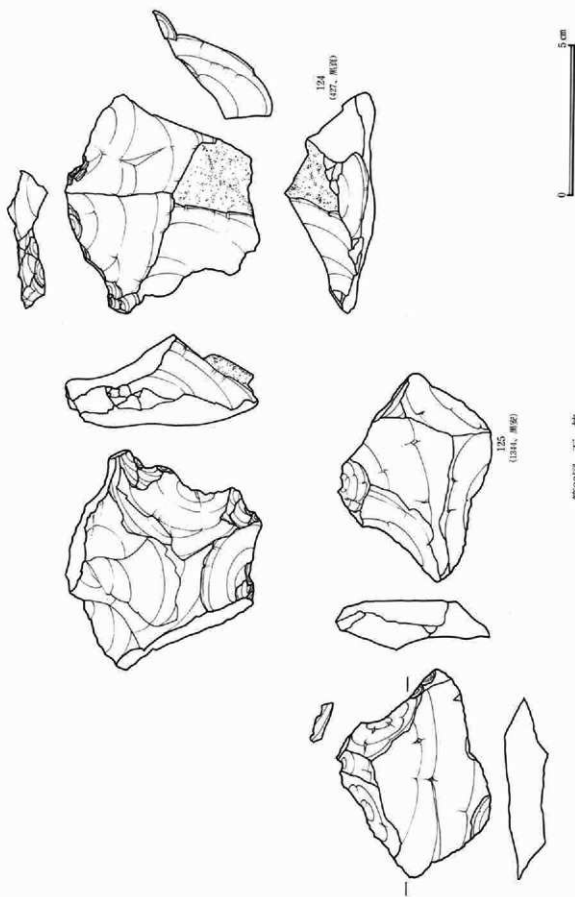
第86圖 石核



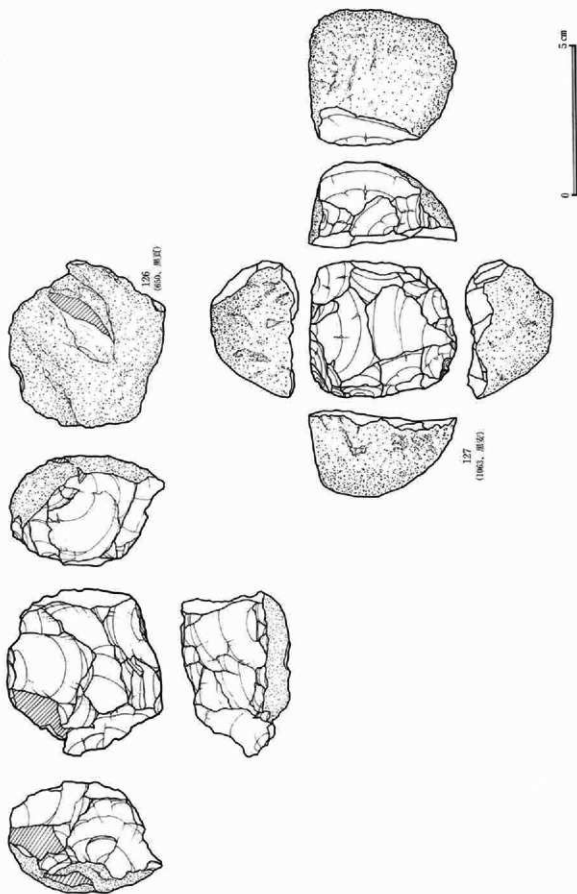
第87回 石 槌



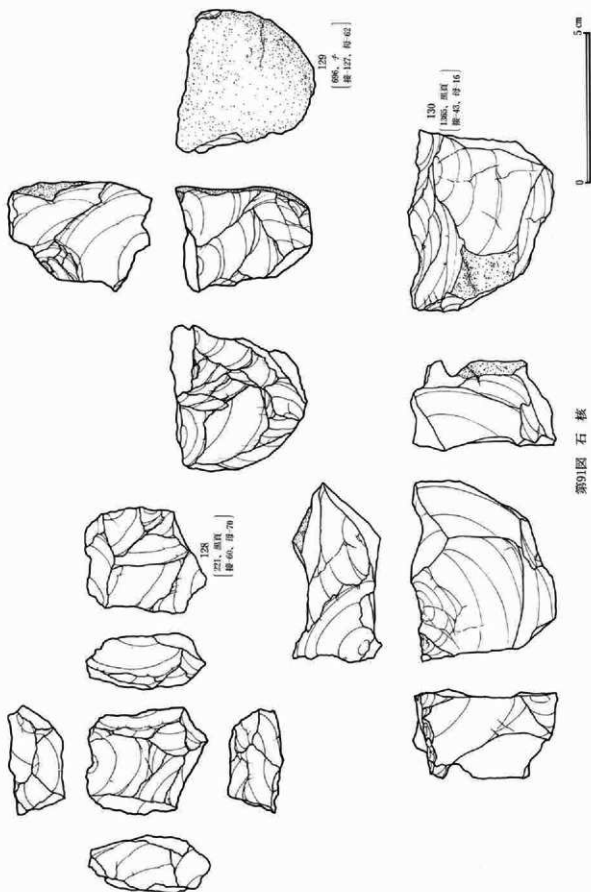
第38図 石核



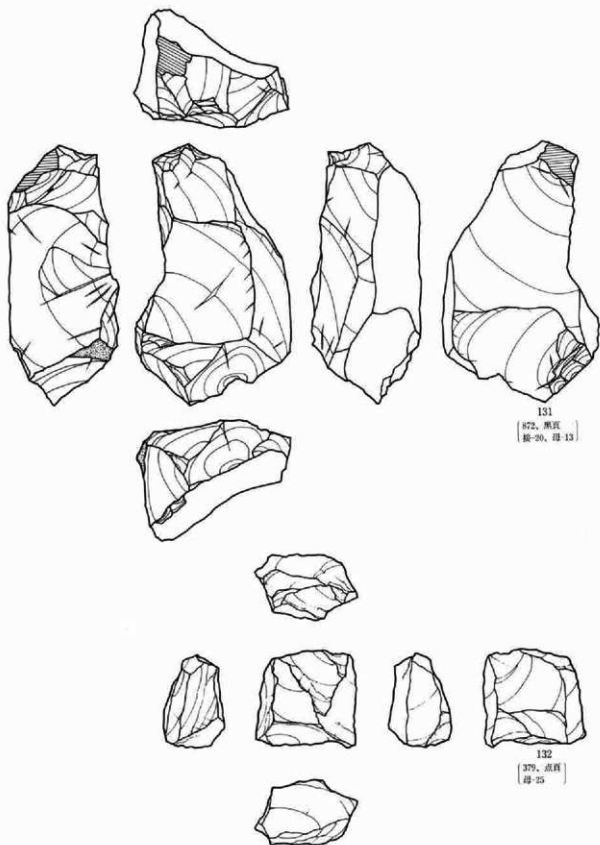
第89圖 石核



第90圖 石核



第91図 石核

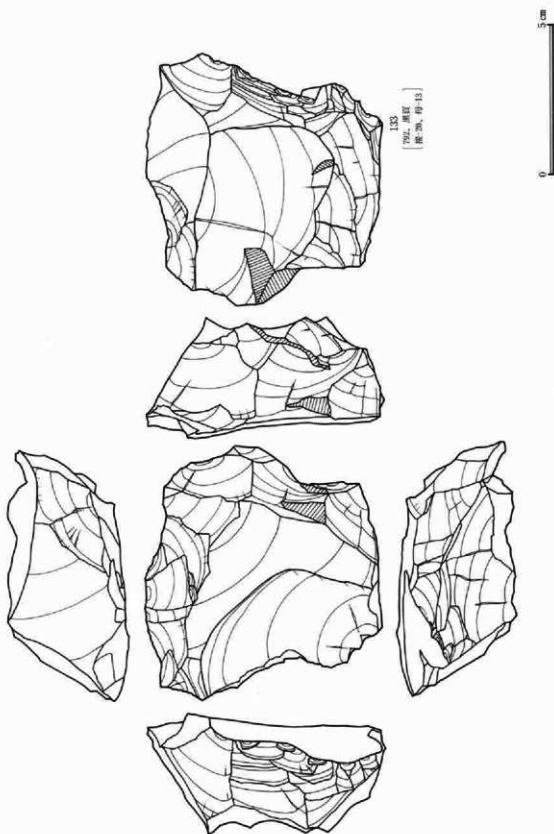


131
〔872, 黑頁〕
〔接-20, 母-13〕

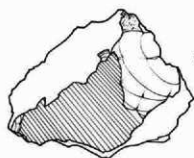
132
〔379, 点頁〕
〔母-25〕

0 5 cm

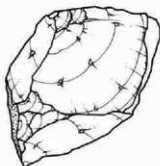
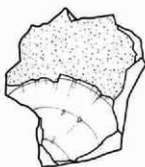
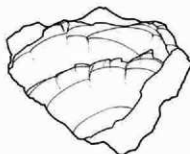
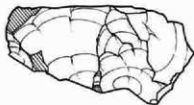
第92圖 石核



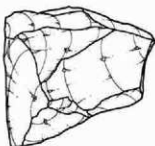
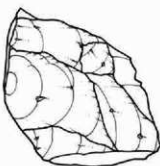
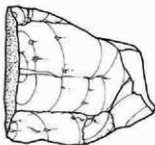
第93圖 石核



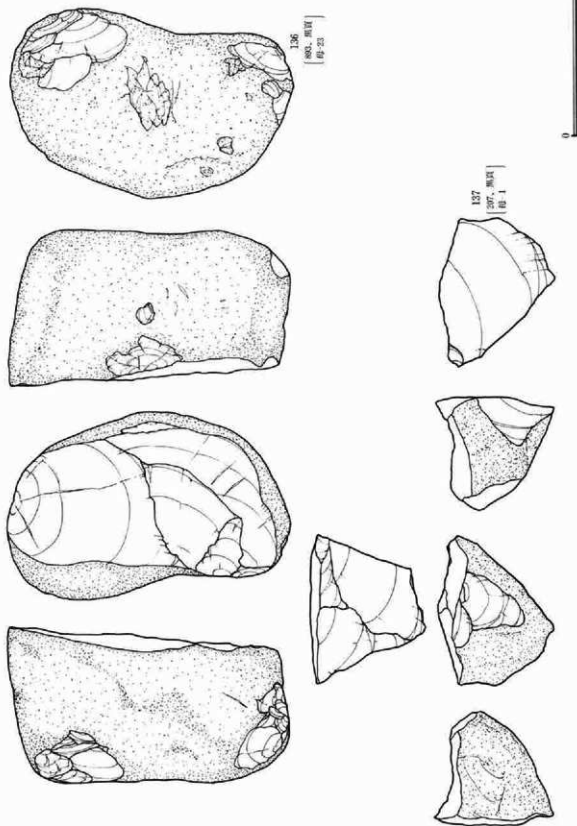
134
(1127. #)



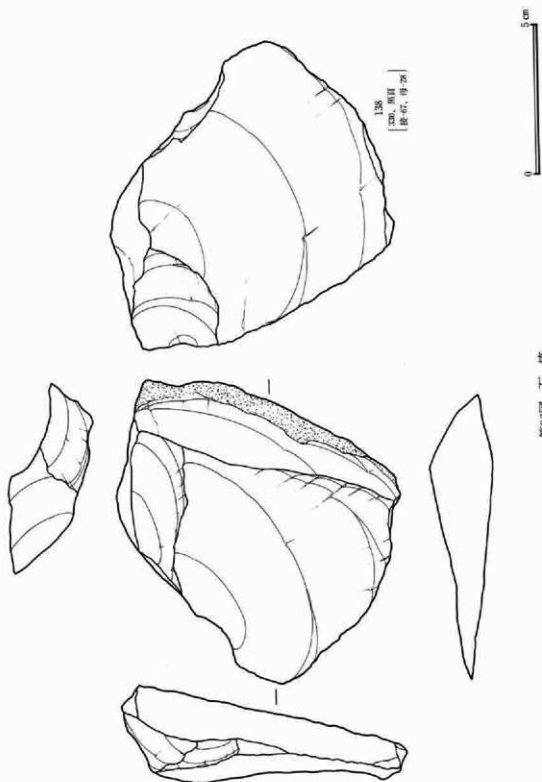
135
(896. 原形)
(原 87. 原 84)



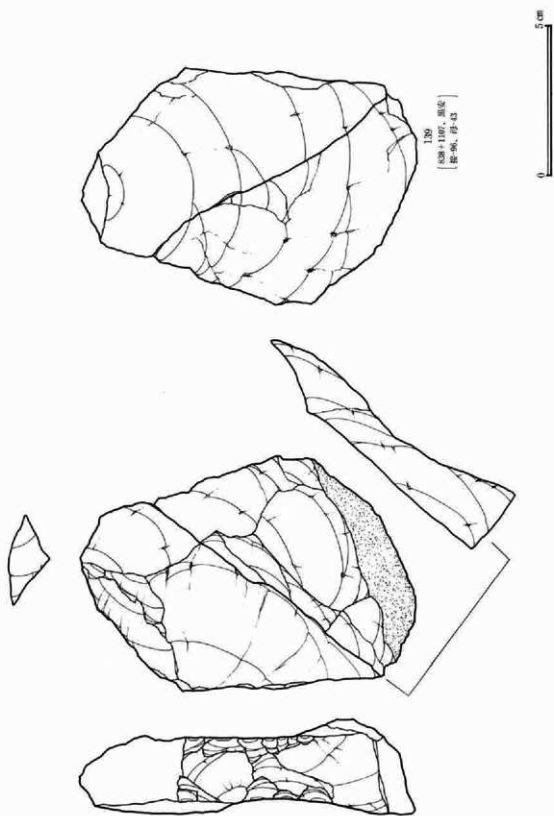
第94圖 石核

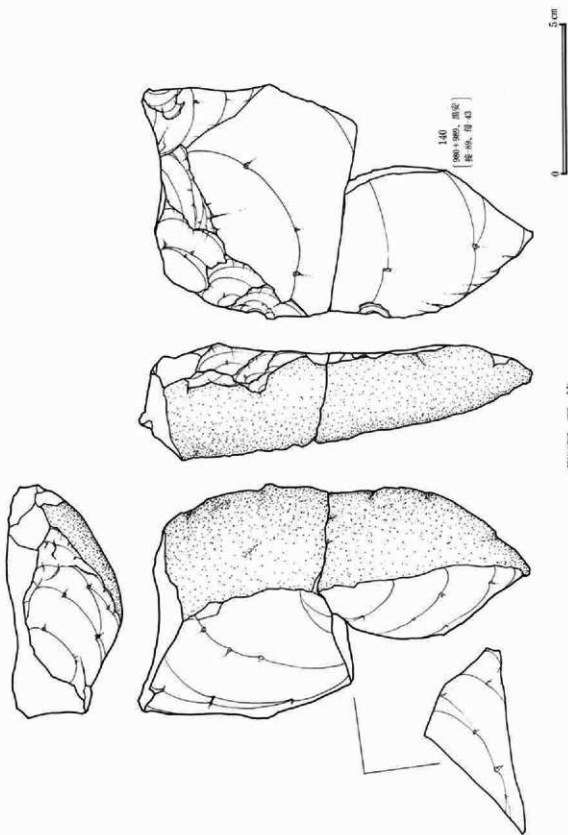


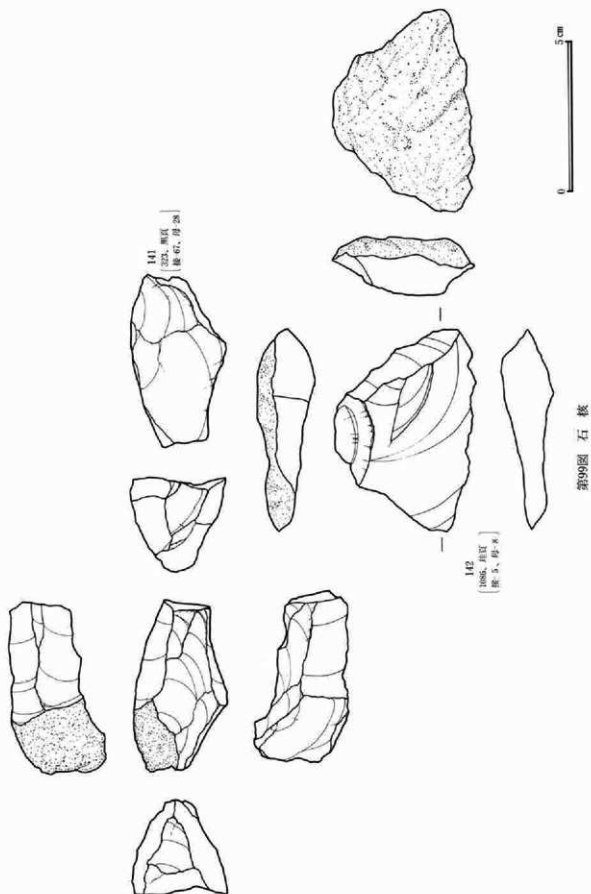
第95圖 石核

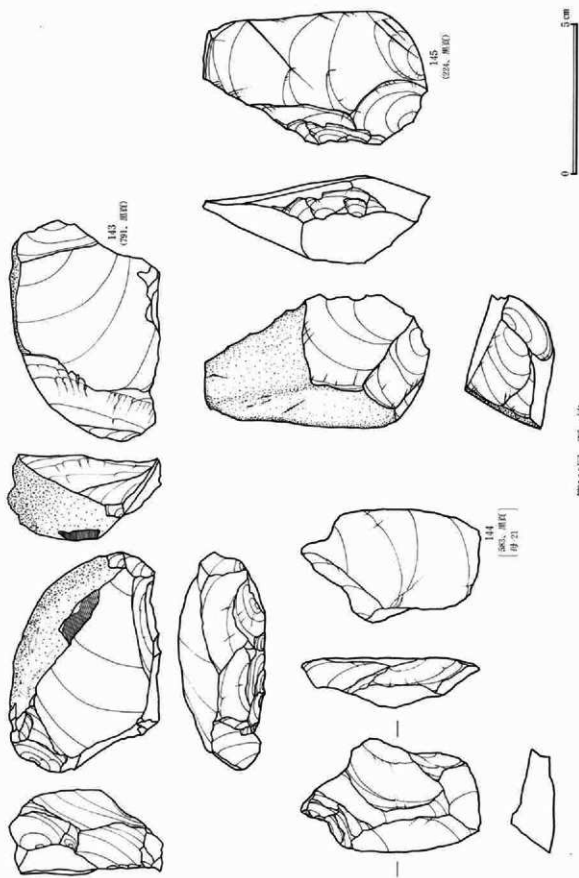


第96圖 石核

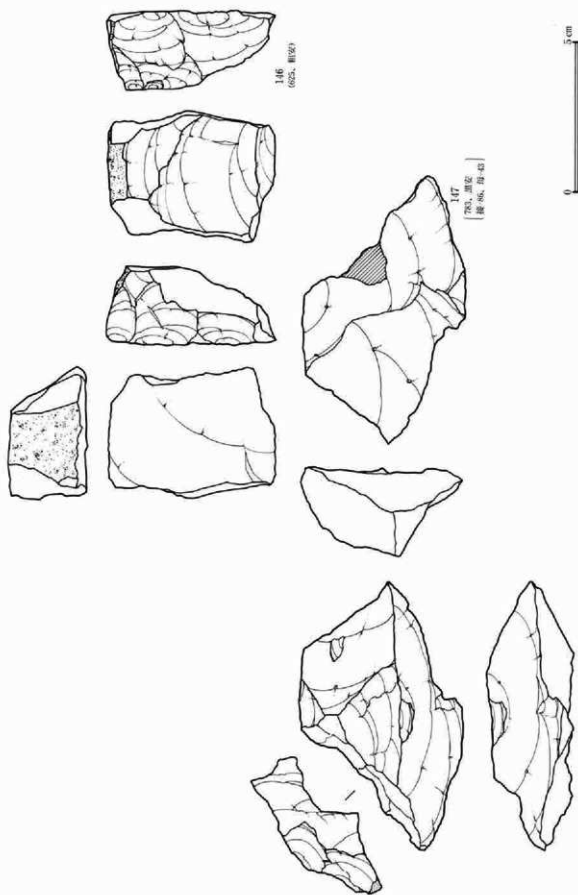




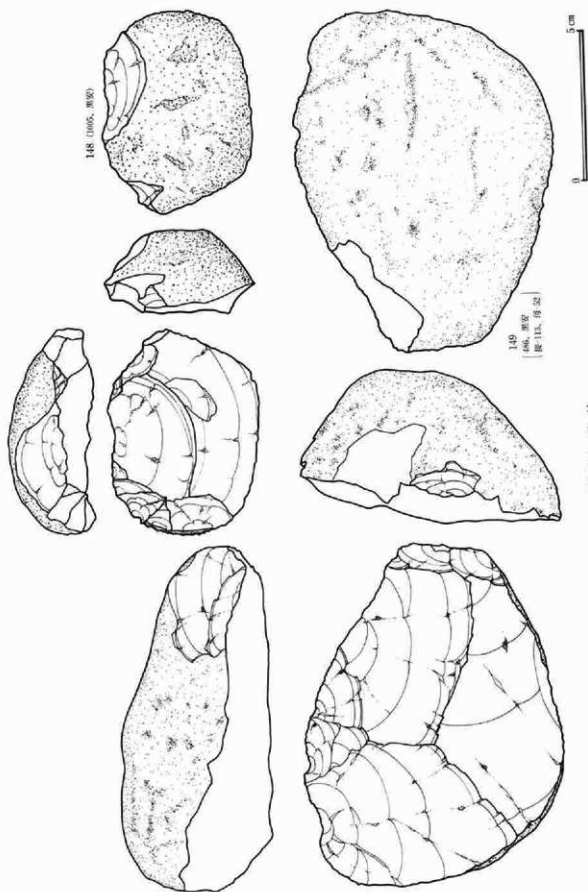




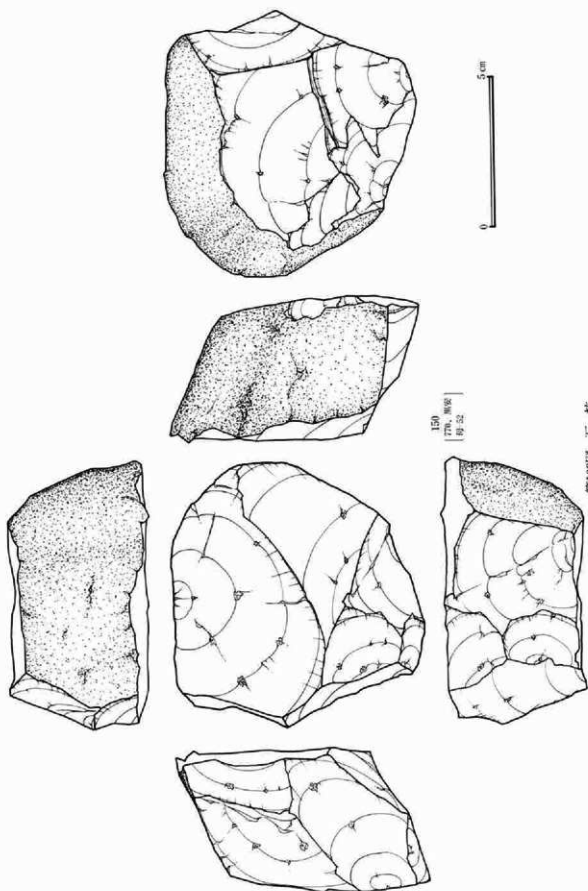
第100圖 石核

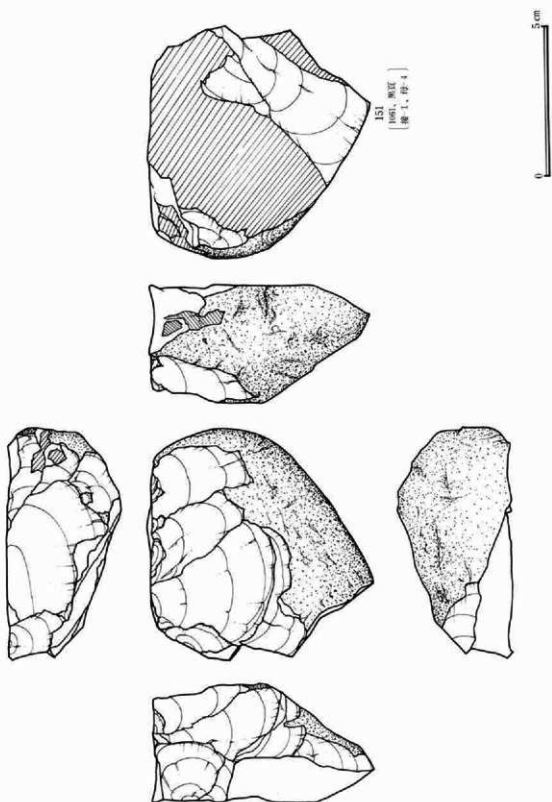


第101圖 石核

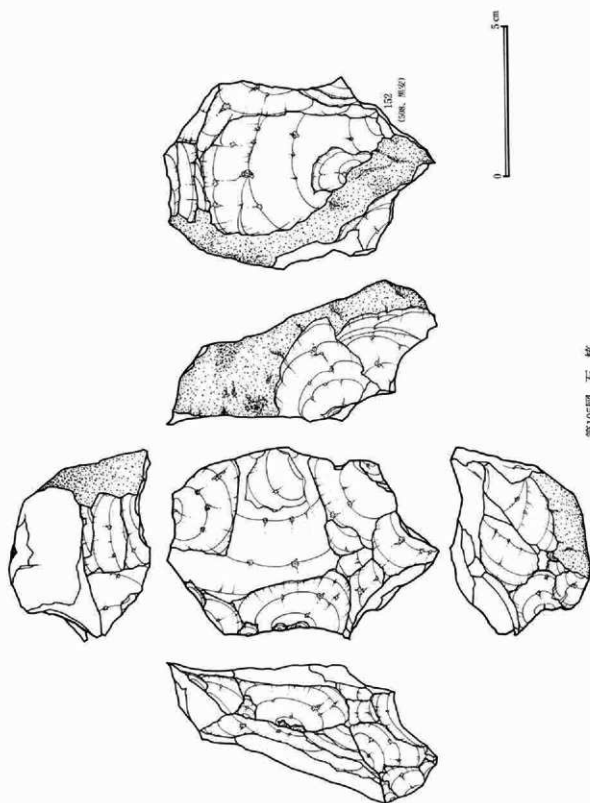


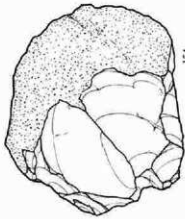
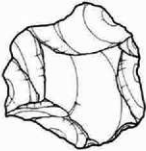
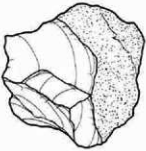
第102圖 石核



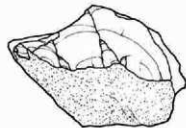
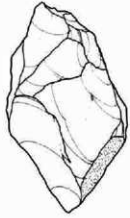
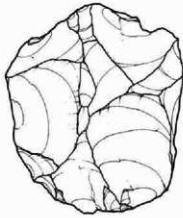
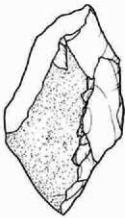
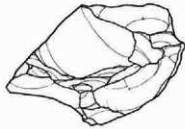


第104圖 石核

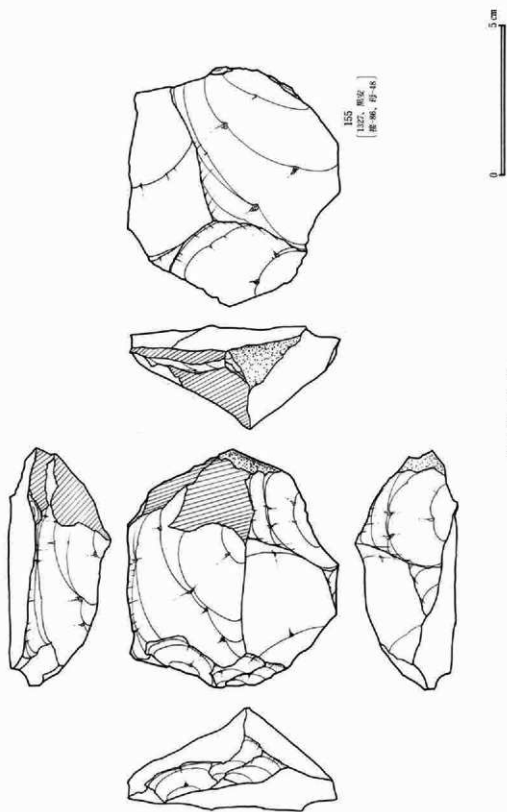


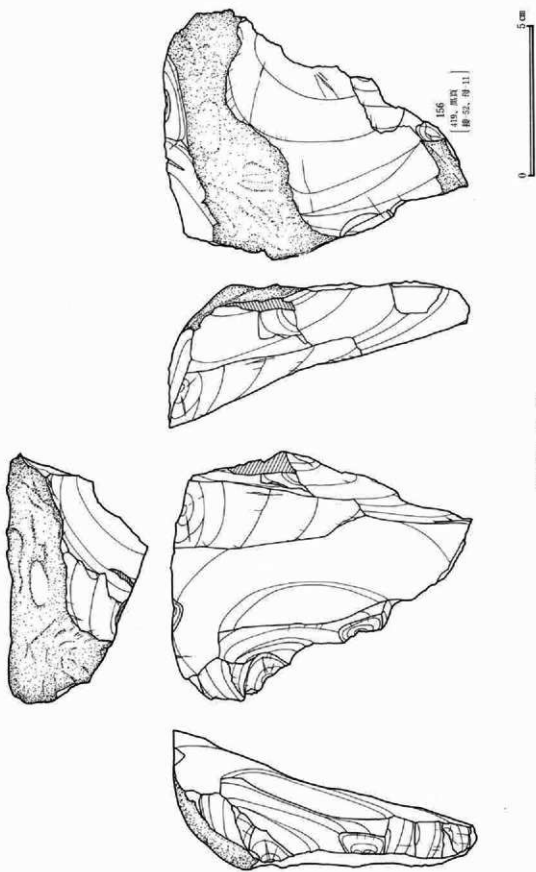


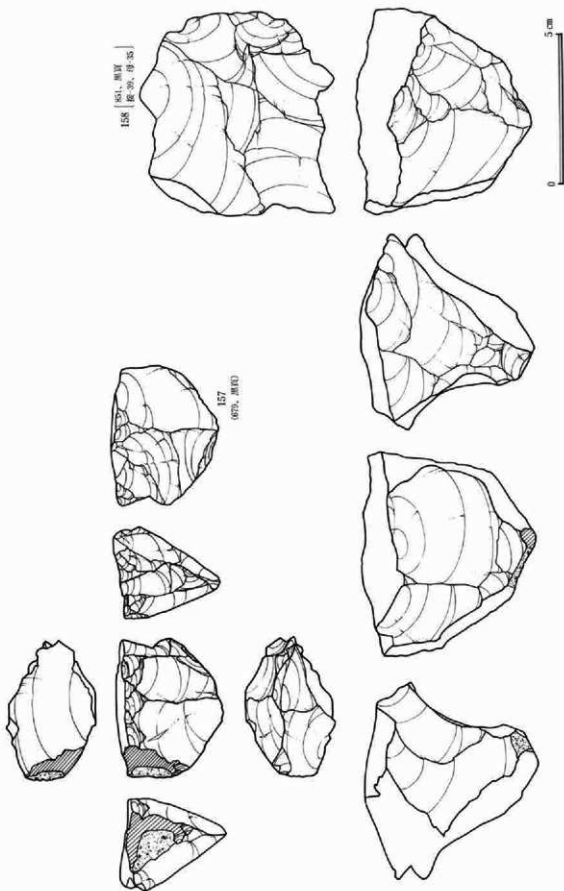
154
(440, 原図)

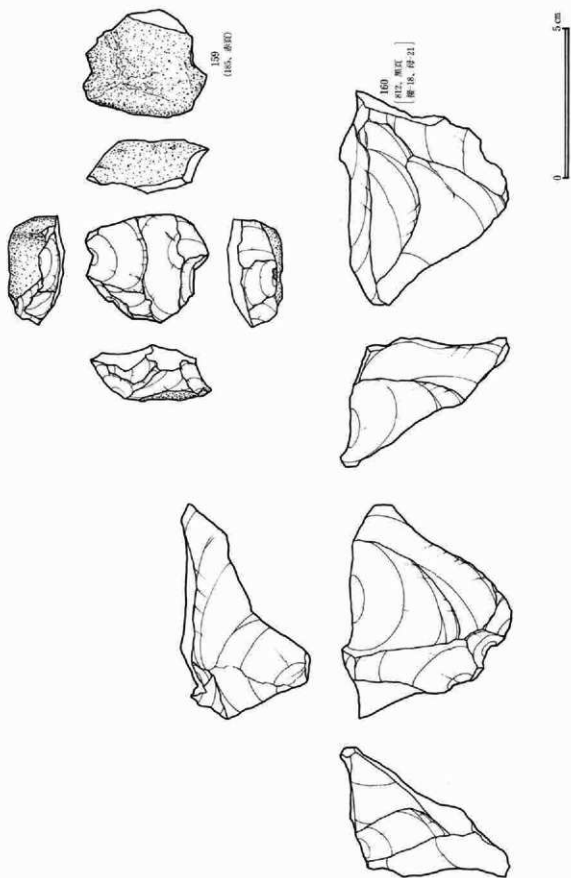


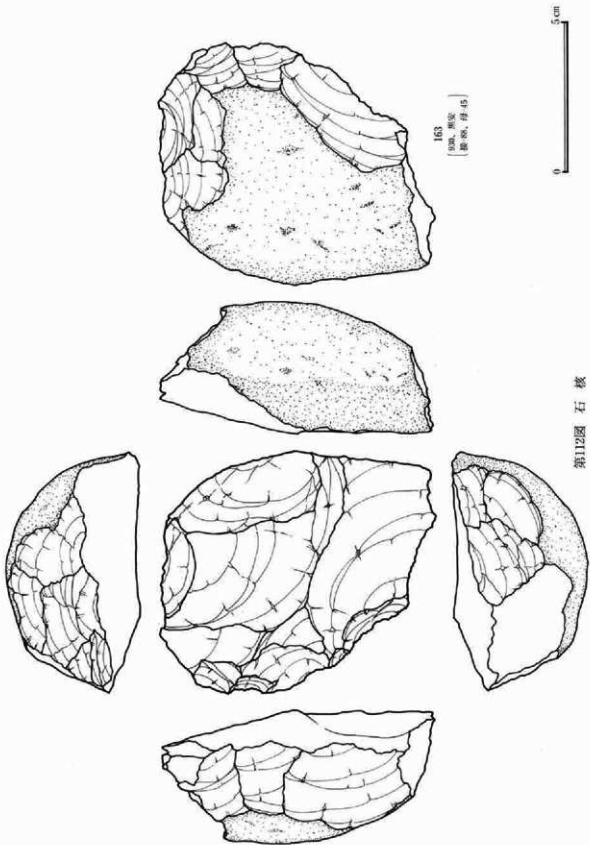
第106圖 石核

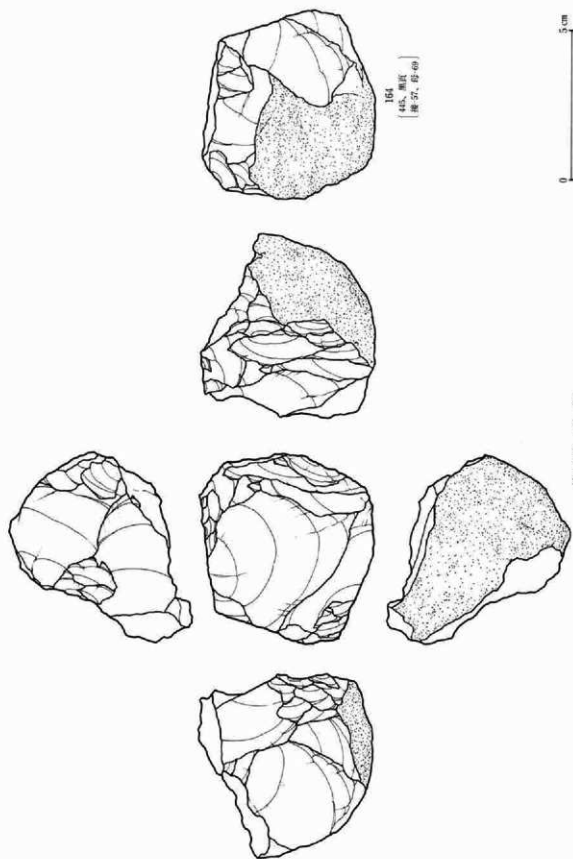


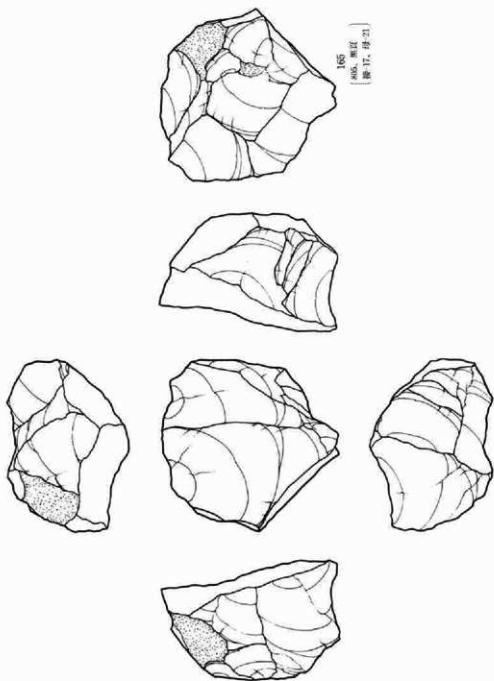




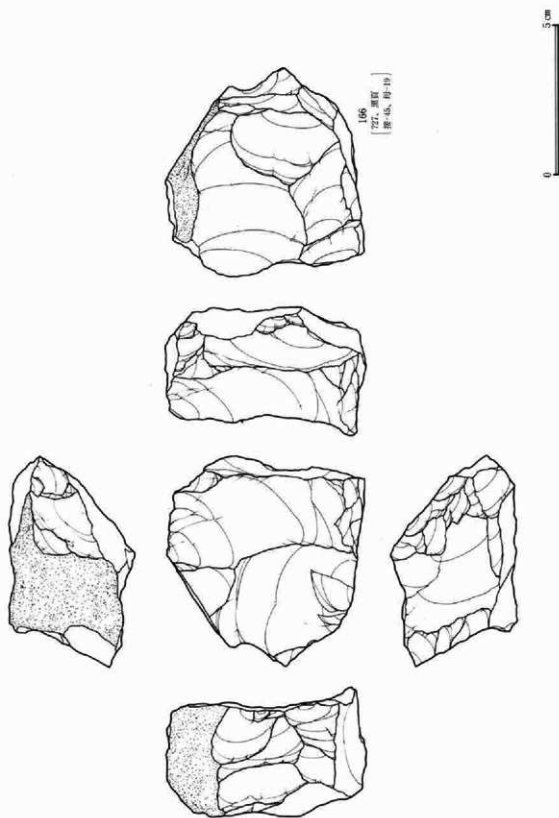




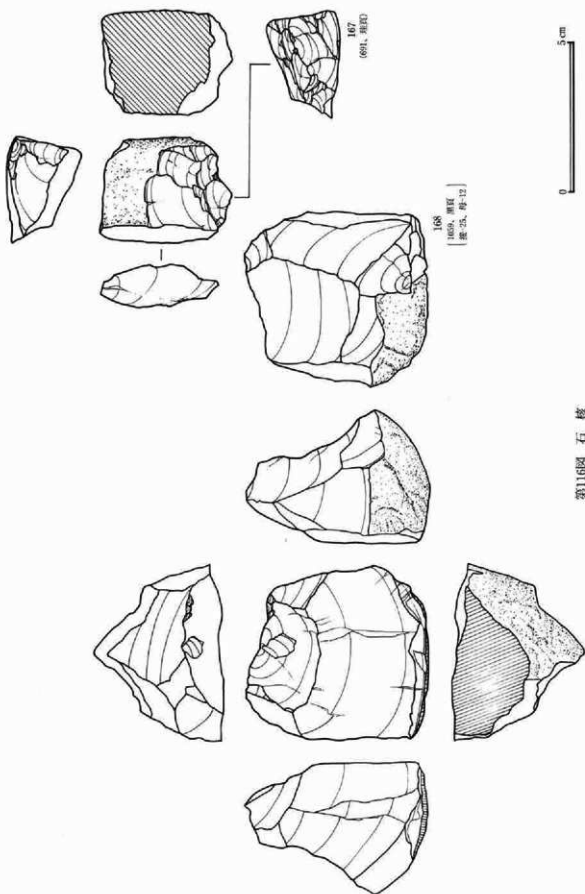


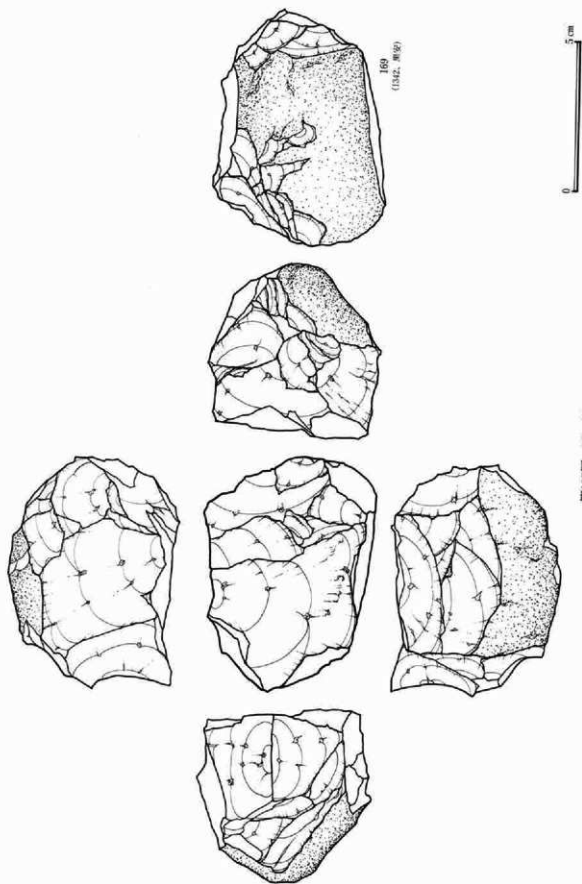


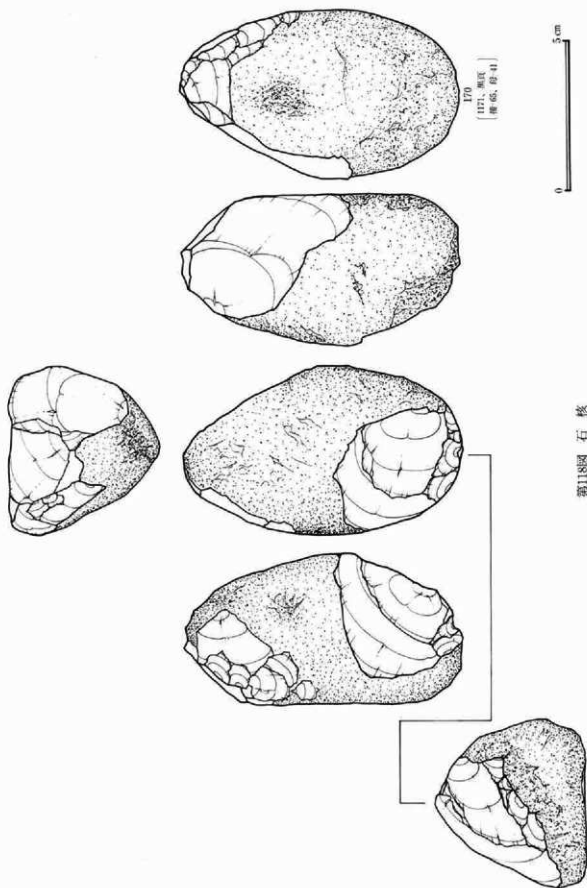
第114圖 石器



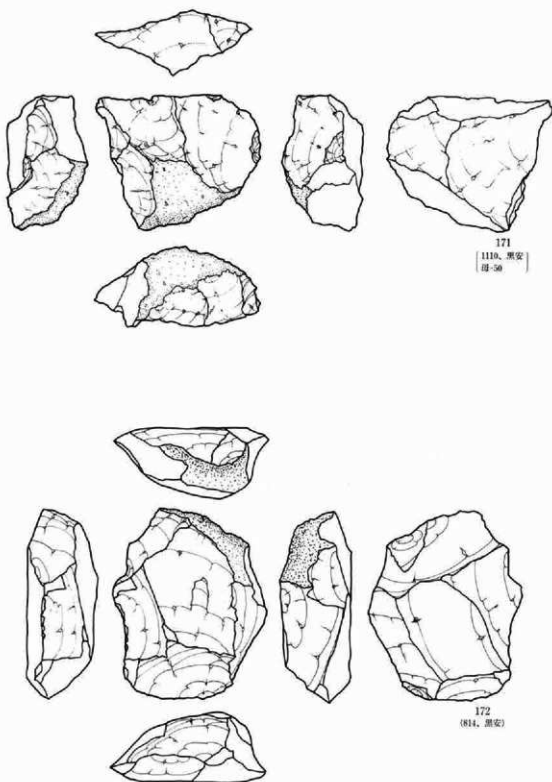
第115圖 石核





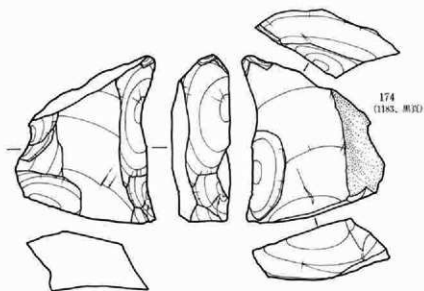
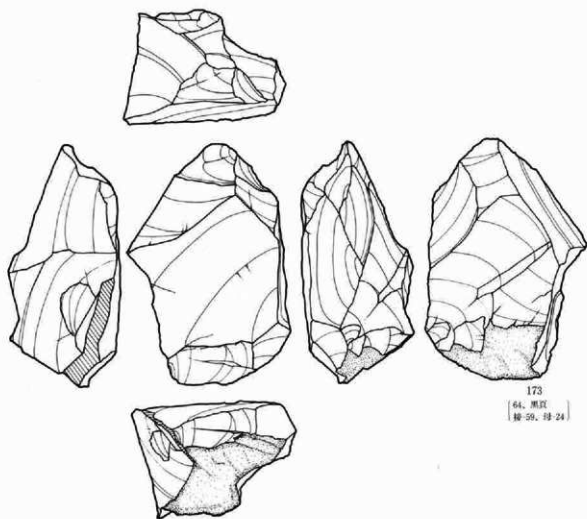


第118圖 石核



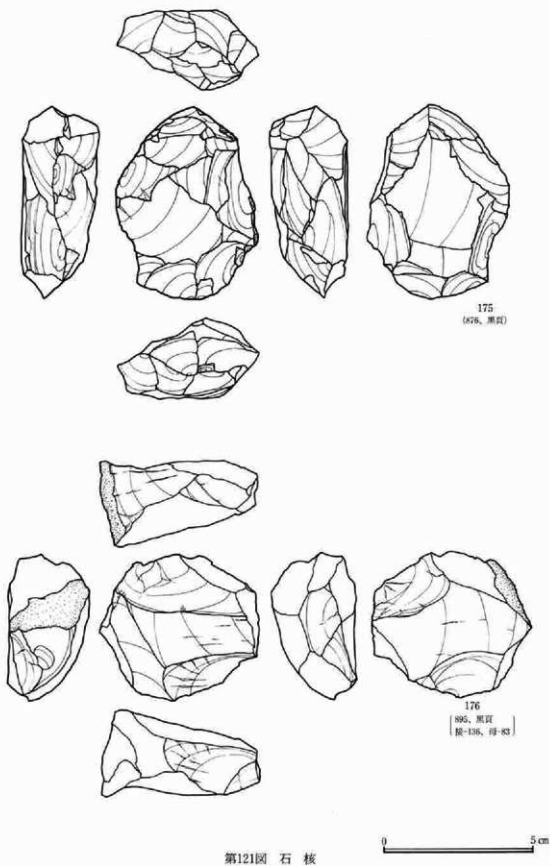
第119圖 石核

0 5 cm

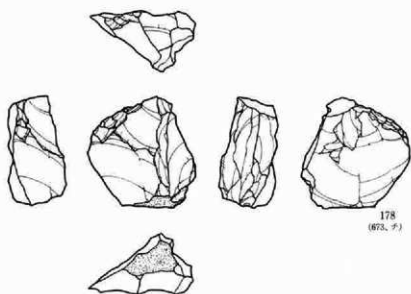
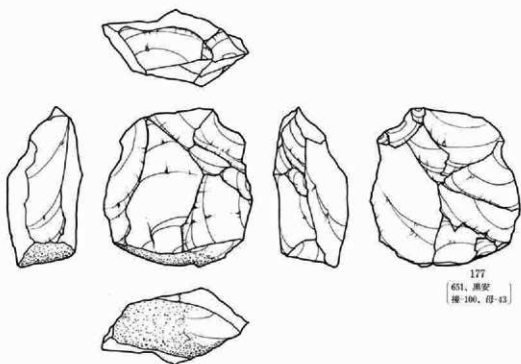


0 5 cm

第120圖 石核

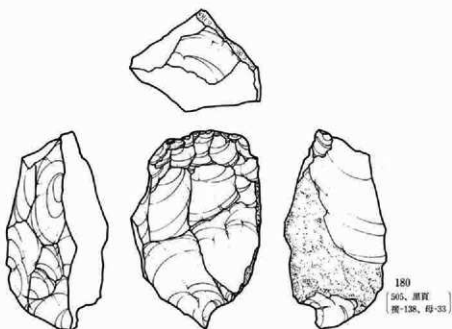
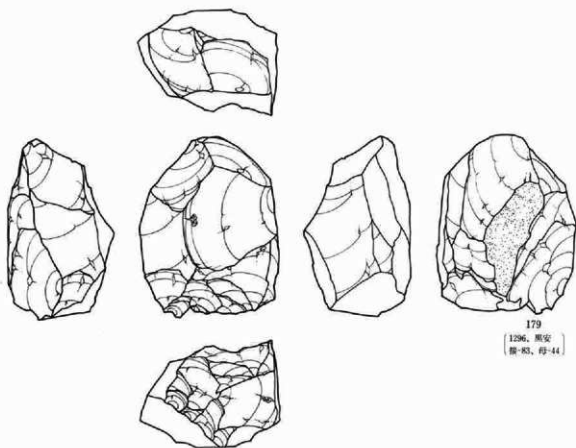


第121図 石核

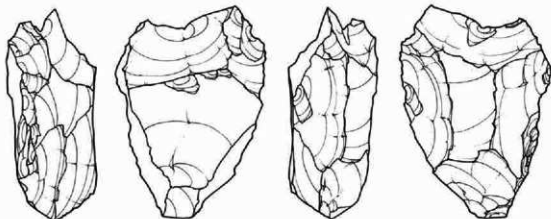


第122圖 石核



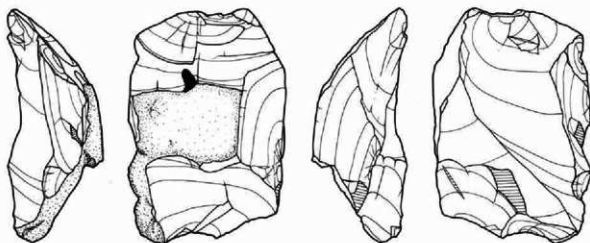


第123圖 石核



181

1282、黑頁
標-15、母-31

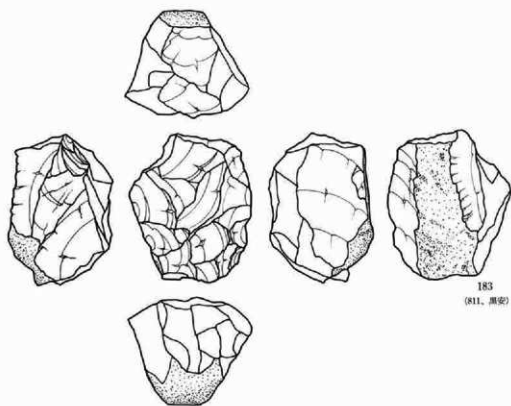


182

101、黑頁
標-42、母-24

0 5 cm

第124圖 石核

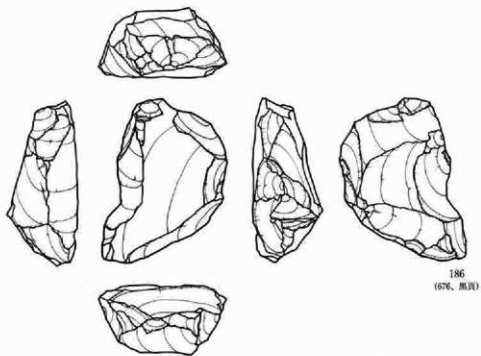
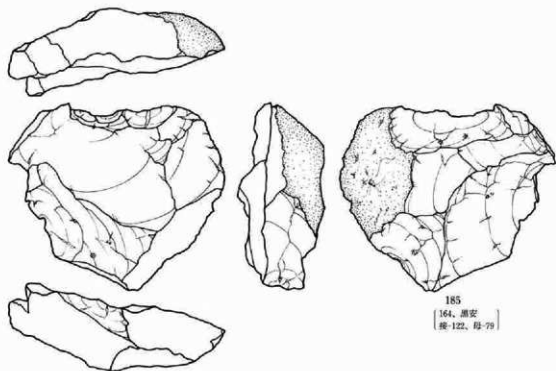


183
(811, 黒皮)

184
(688, 黒頁)
[23-27]

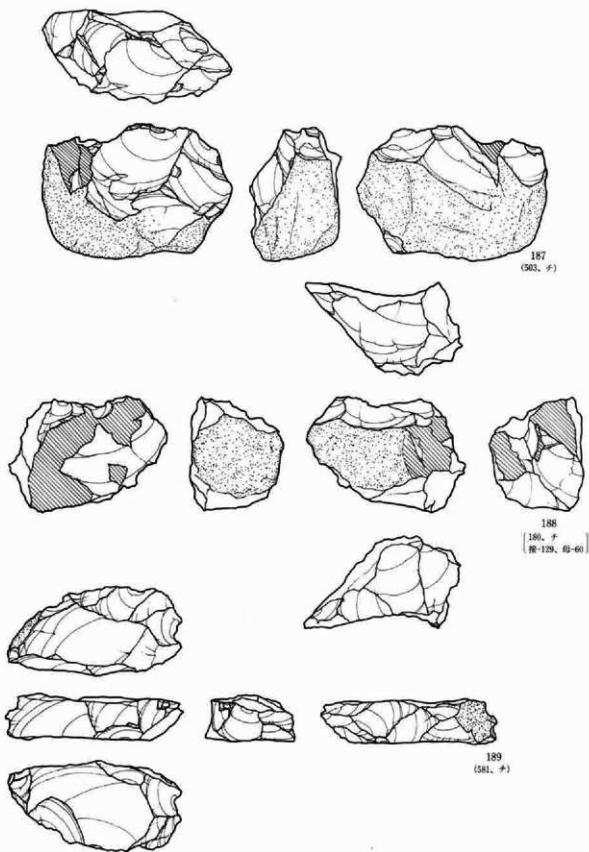


第125圖 石核

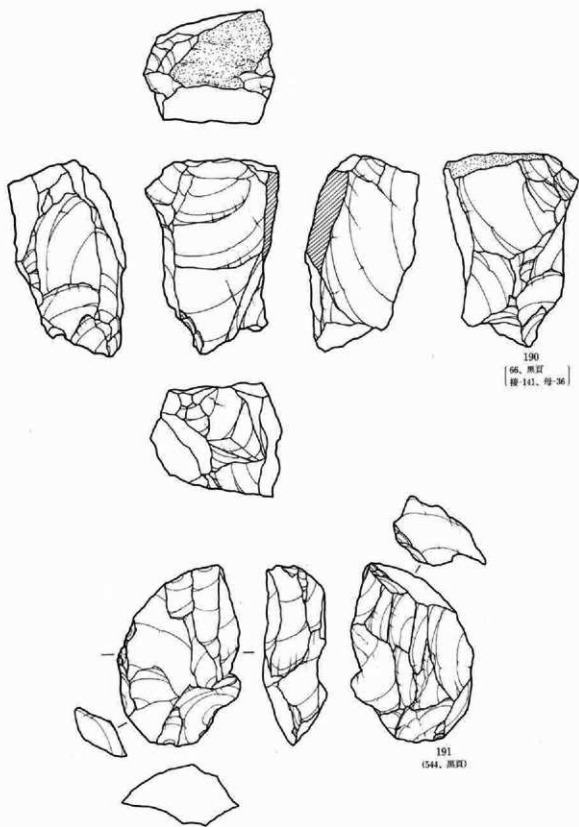


第126圖 石核

0 5 cm



第127図 石核

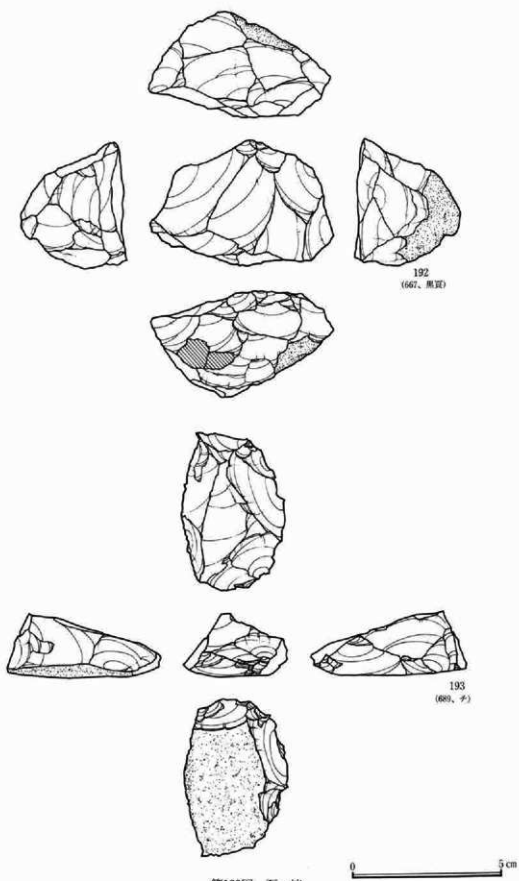


190
66, 黑江
採 141, 母 36

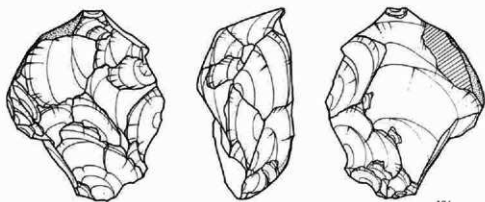
191
544, 黒田



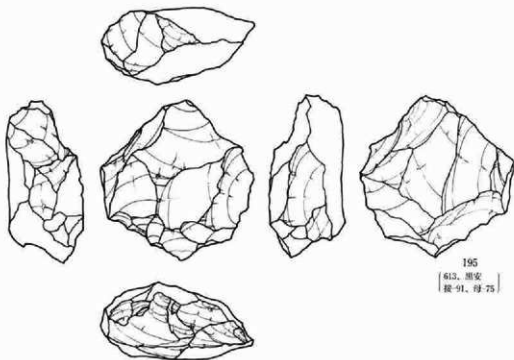
第128圖 石核



第129圖 石核



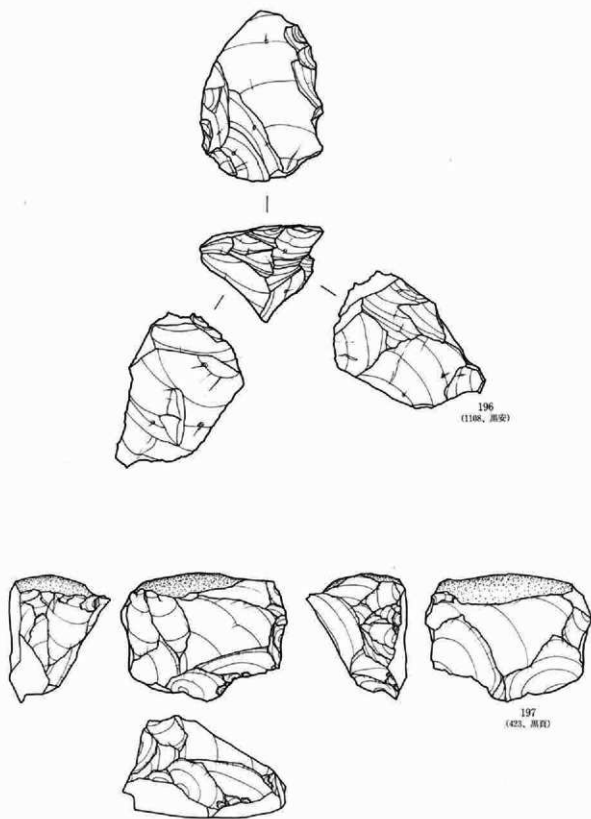
194
945, 黑四



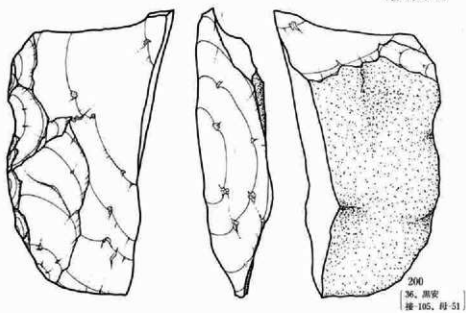
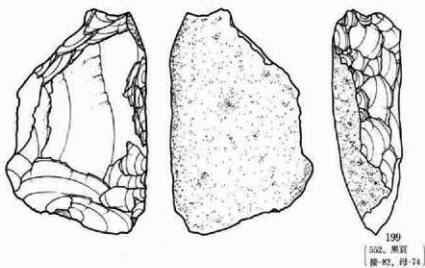
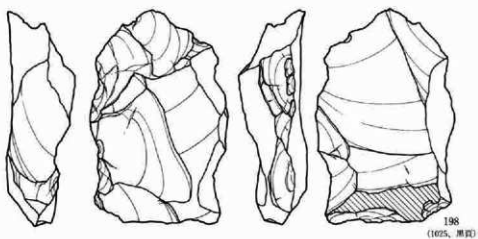
195
613, 黑安
接91, 母75



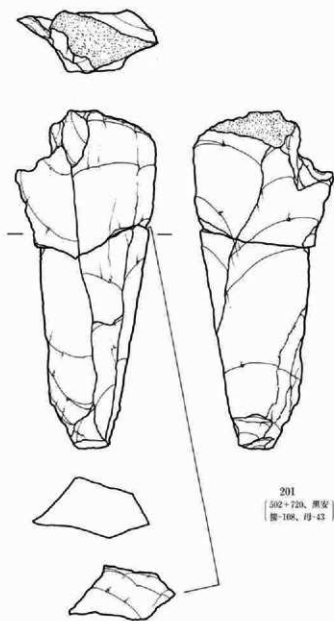
第130圖 石核



第131圖 石核

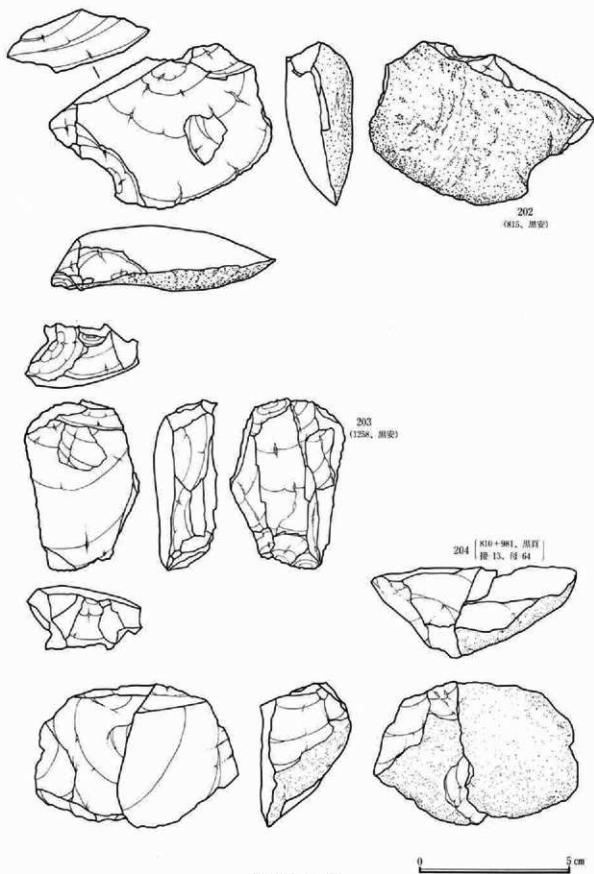


第132圖 石核

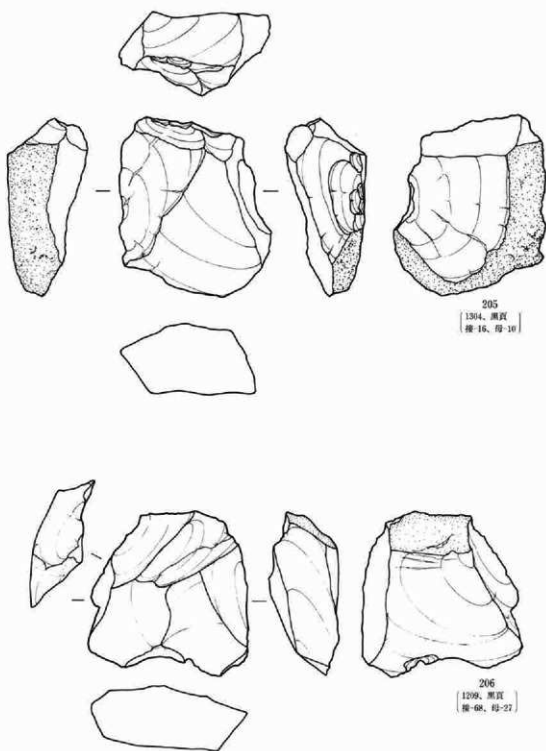


第133圖 石核

0 5 cm

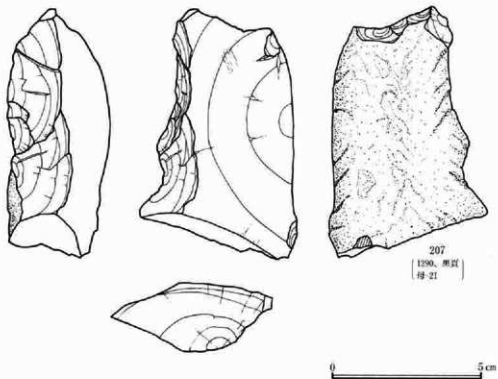


第134圖 石核

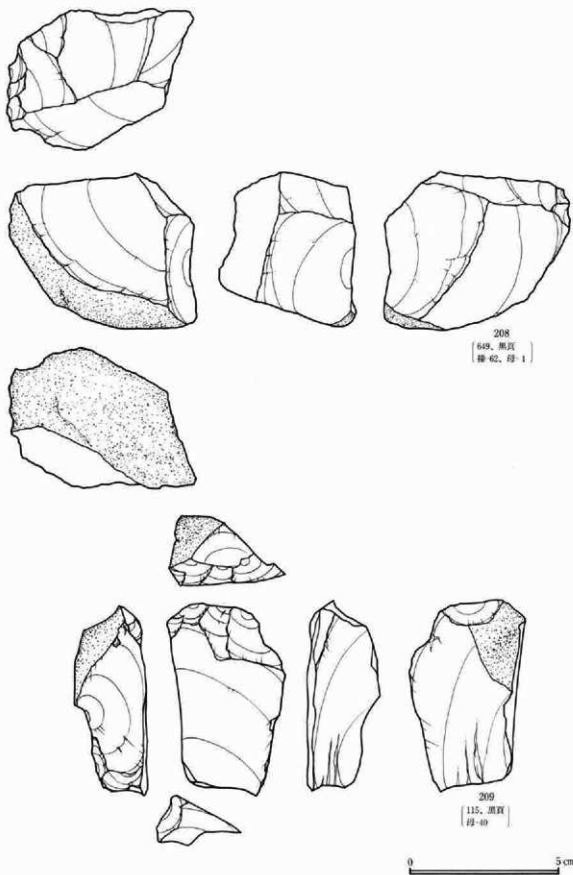


第135圖 石核

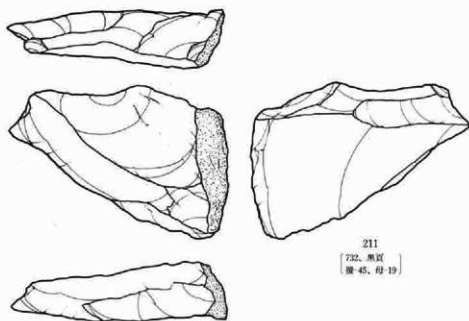
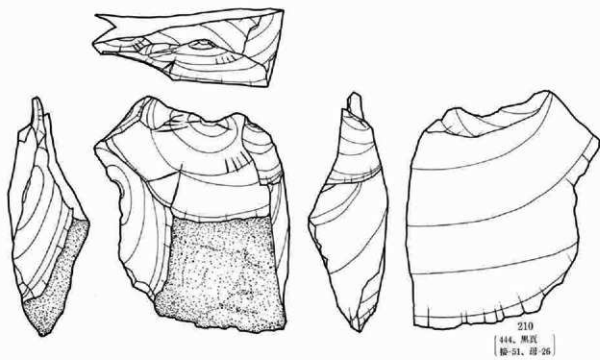
0 5 cm



第136図 石核

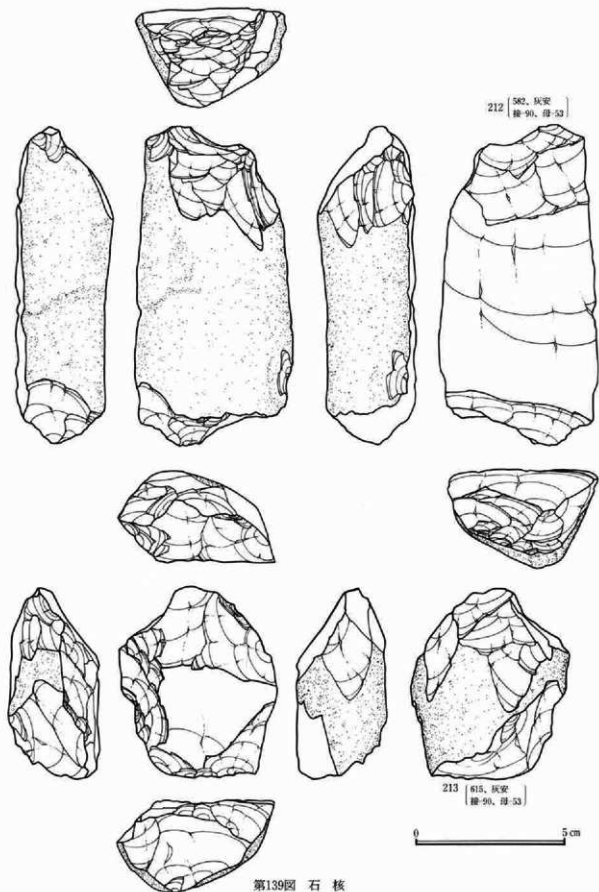


第137圖 石核

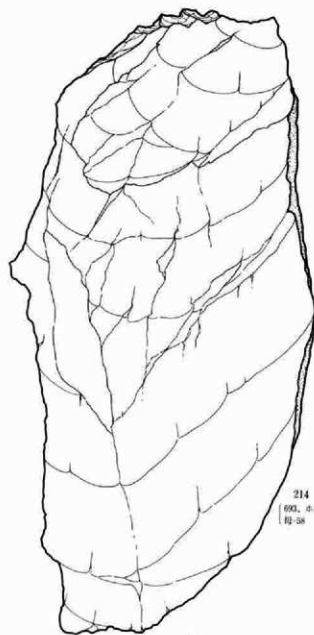
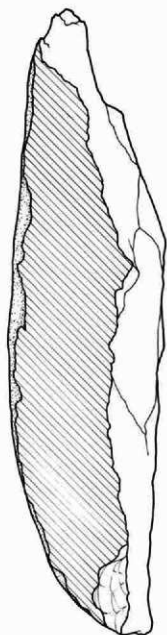
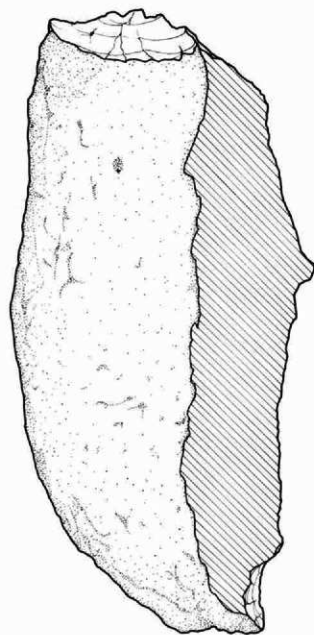
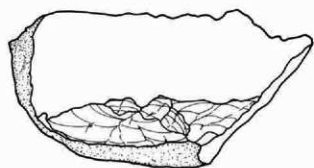


第138圖 石核





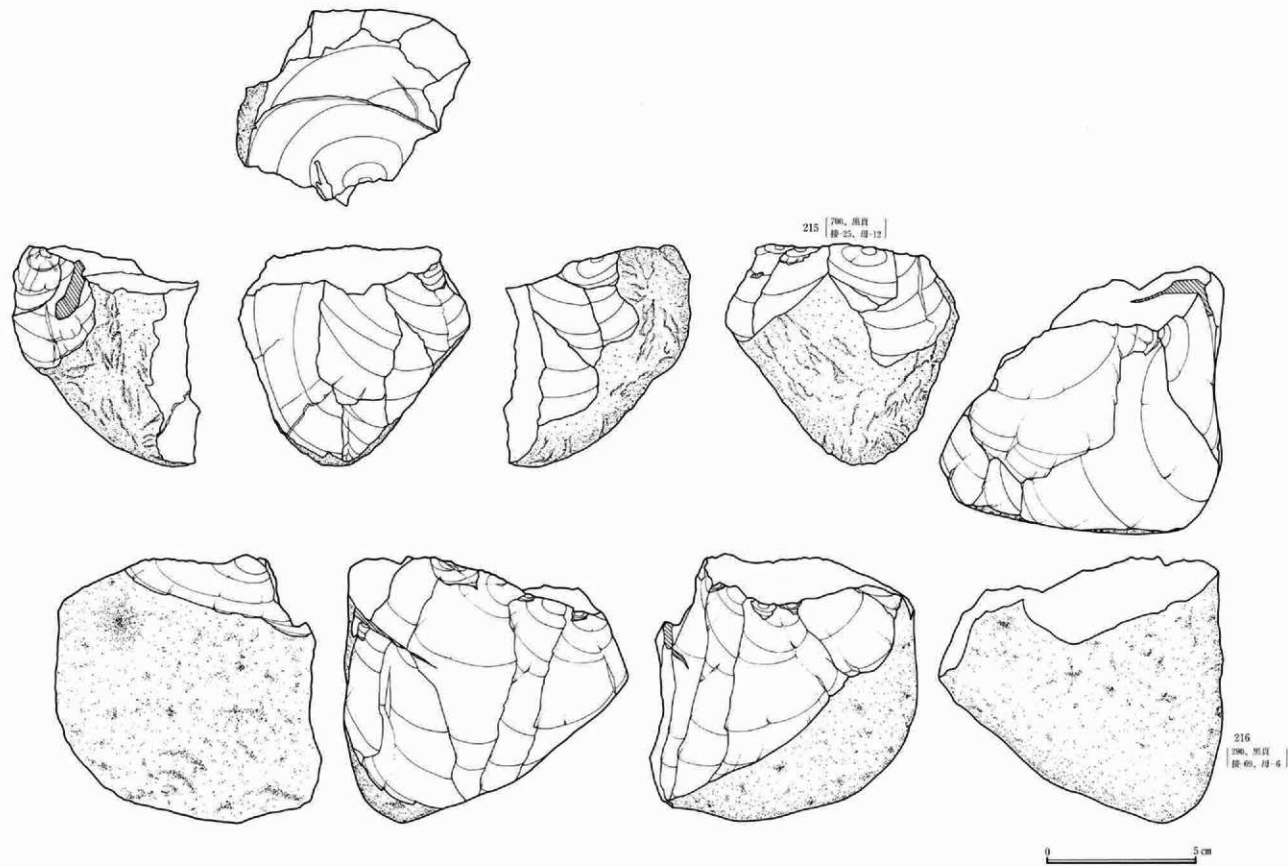
第139図 石核



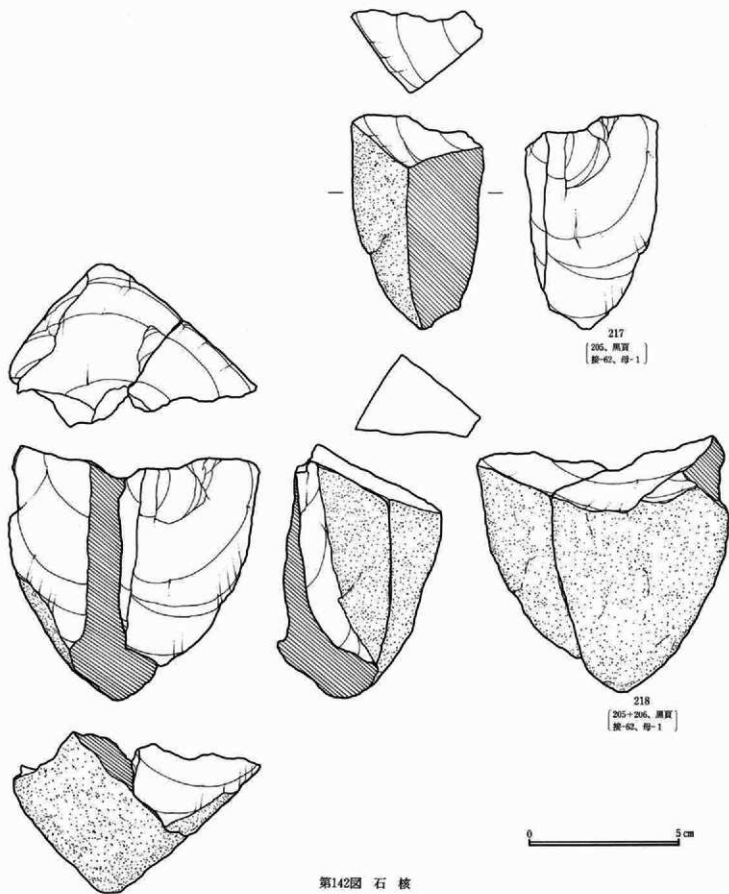
214
[60, 6-6]
[9-58]

0 5 cm

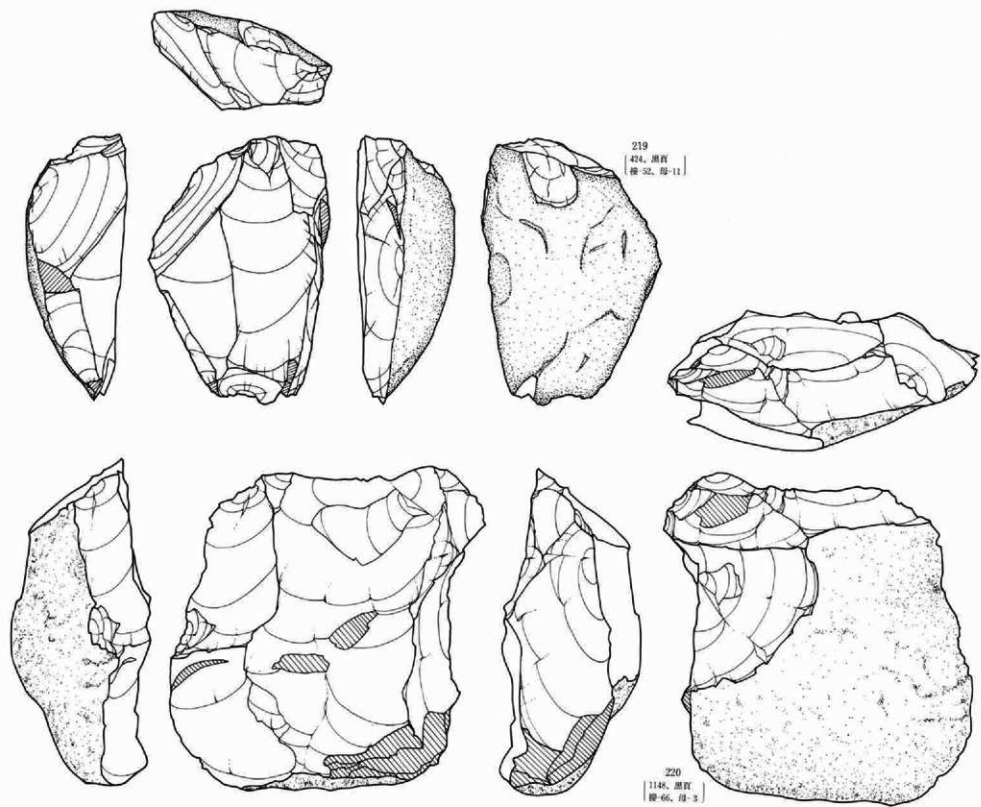
第140图 石核



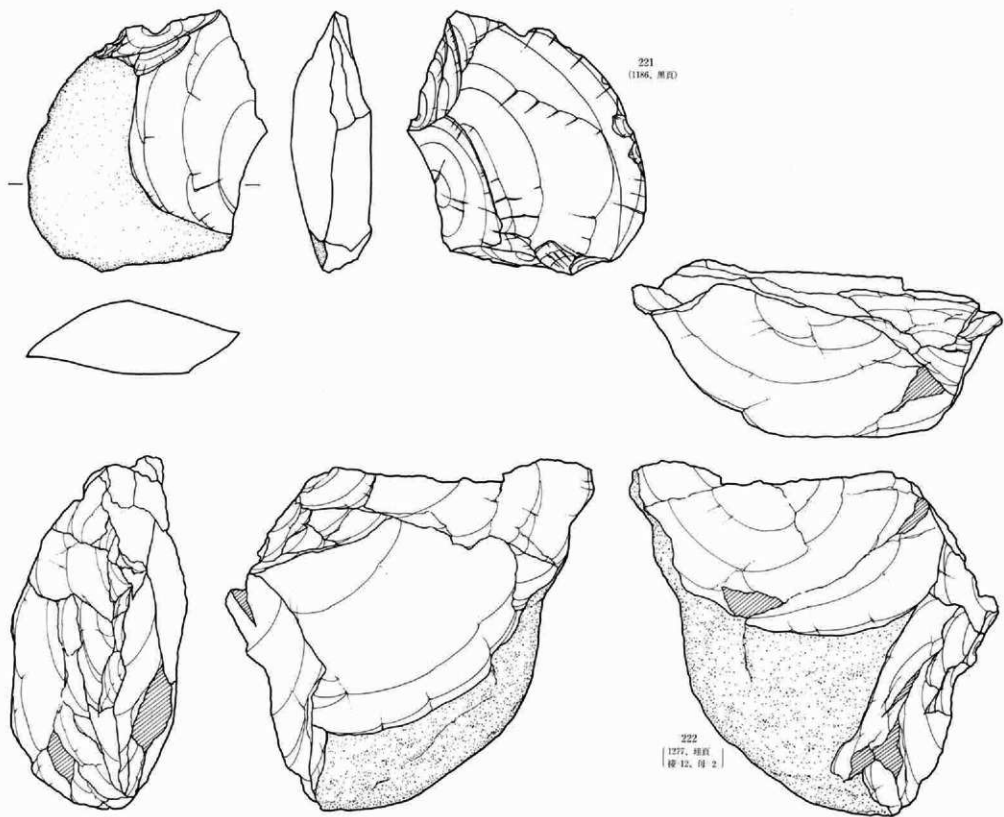
第141圖 石核



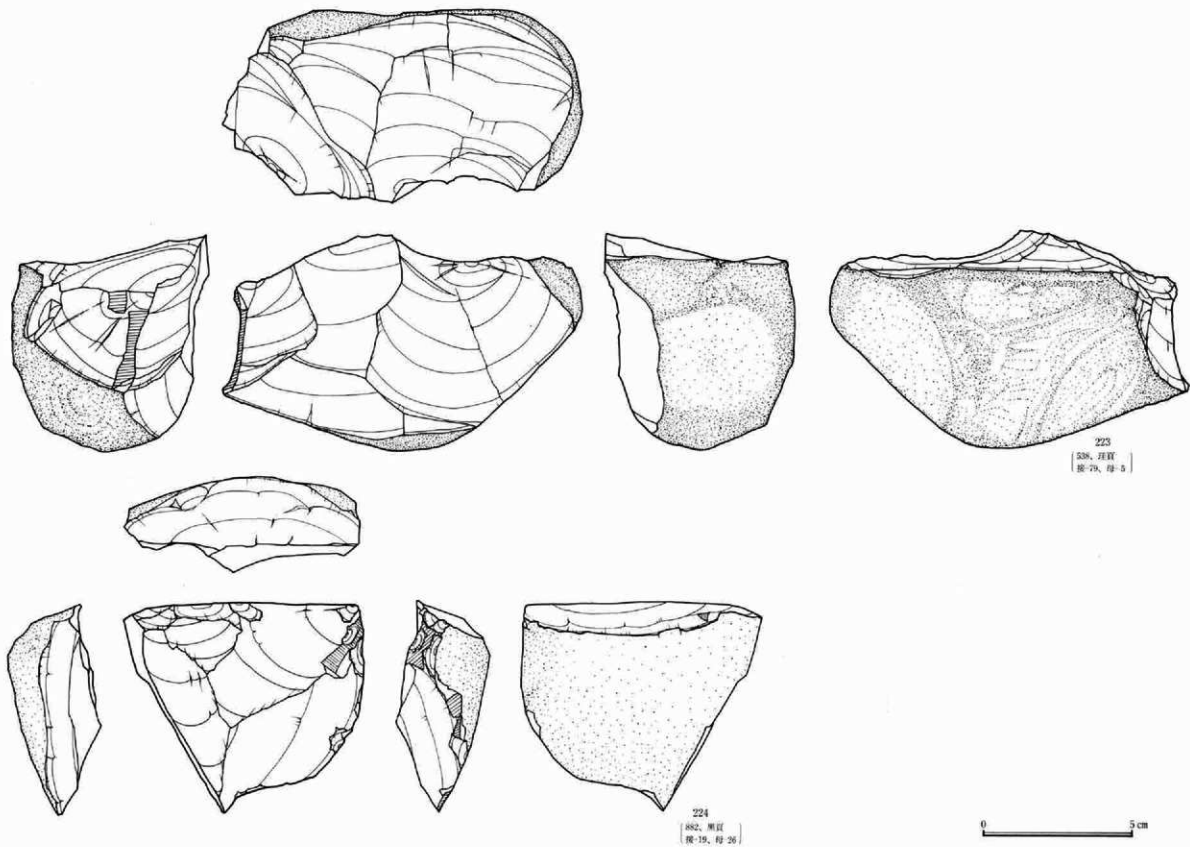
第142圖 石核



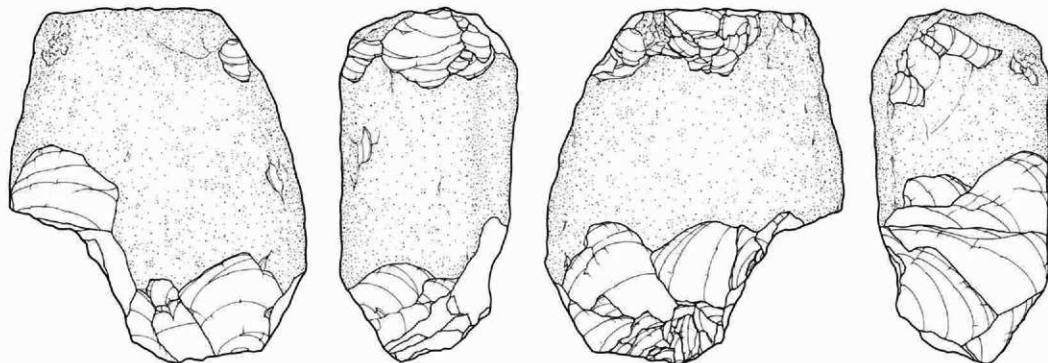
第143图 石核



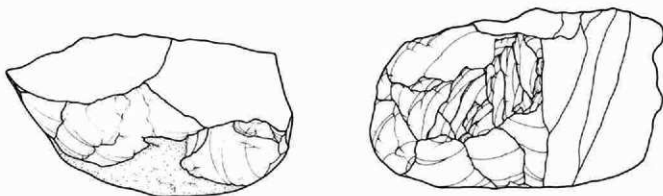
第144圖 石核



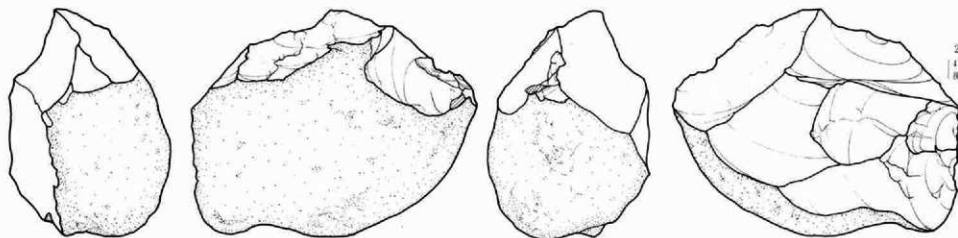
第145圖 石核



225
 982, 黑石
 繪-22, 頁-7

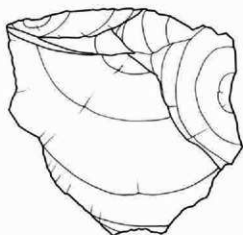
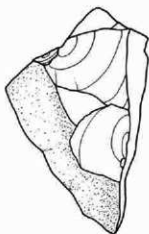
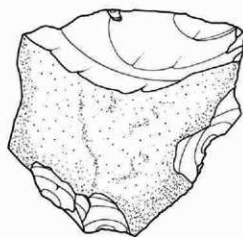


226
 410, 黑石
 繪-68, 頁-27

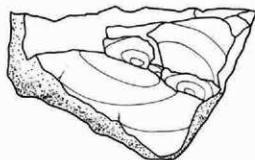


0 5 cm

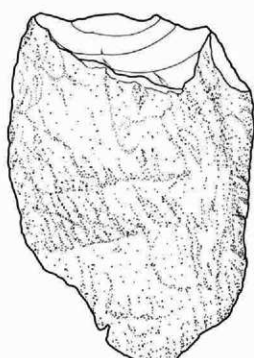
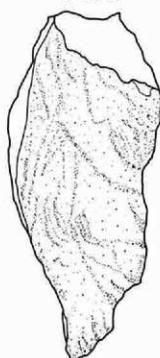
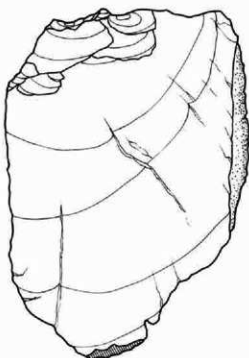
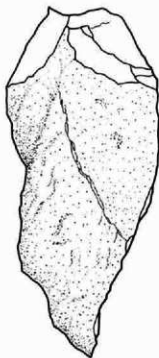
第146图 石核



227
614, 黑頁
層-29, 母-20

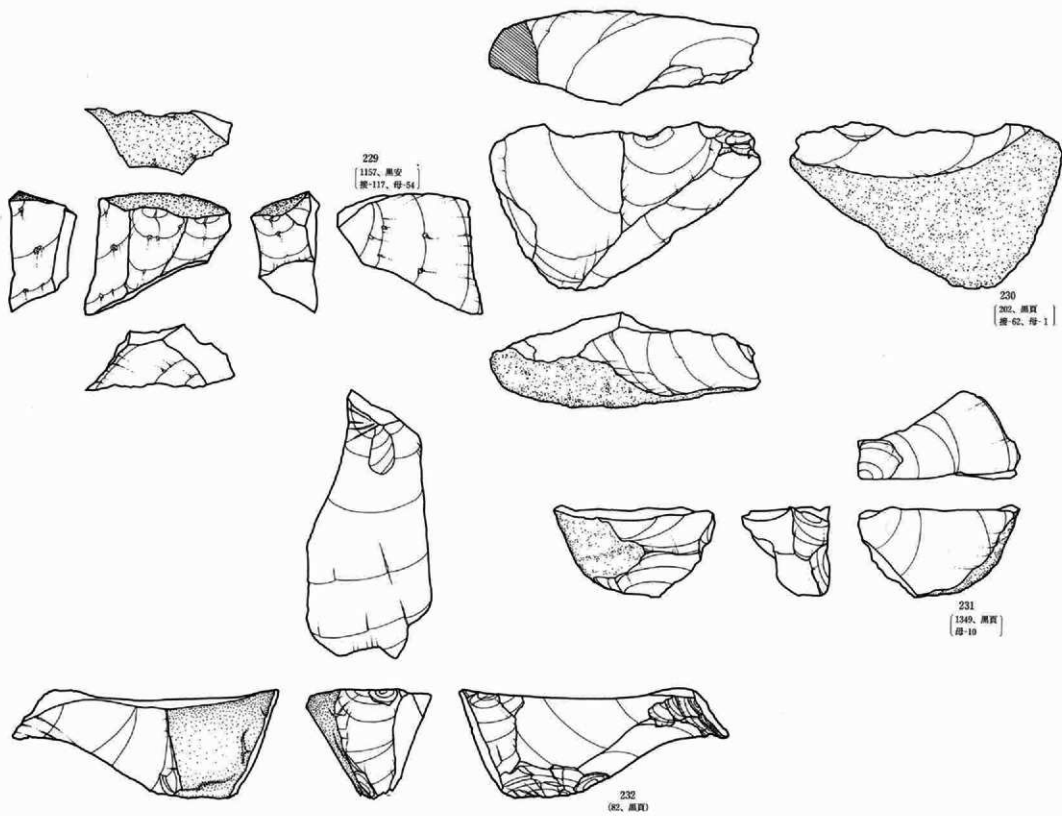


228
1091, 綠頁
層-5, 母-8

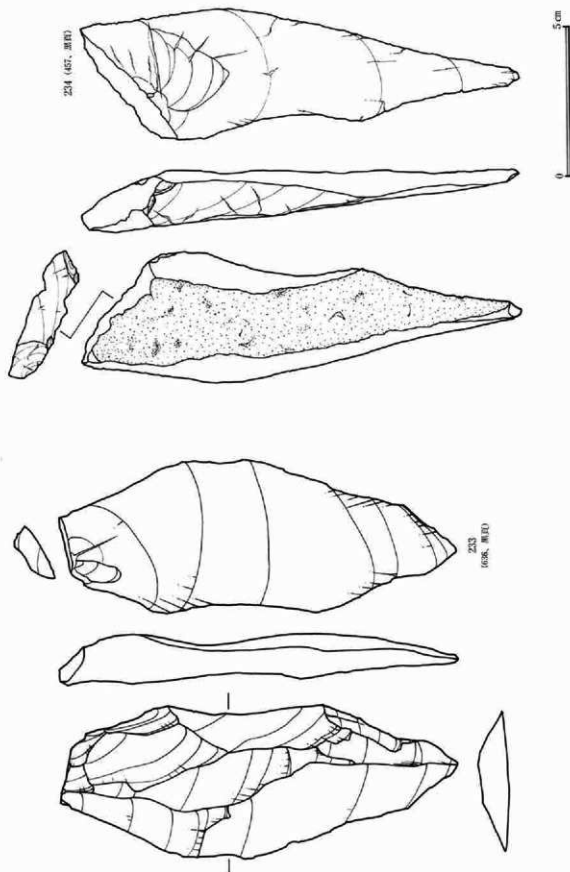


0 5cm

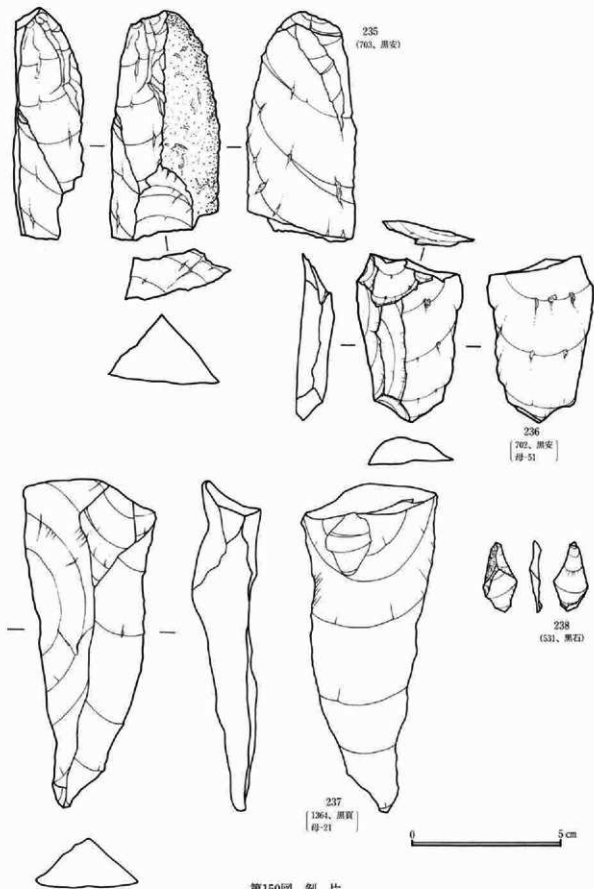
第147圖 石核

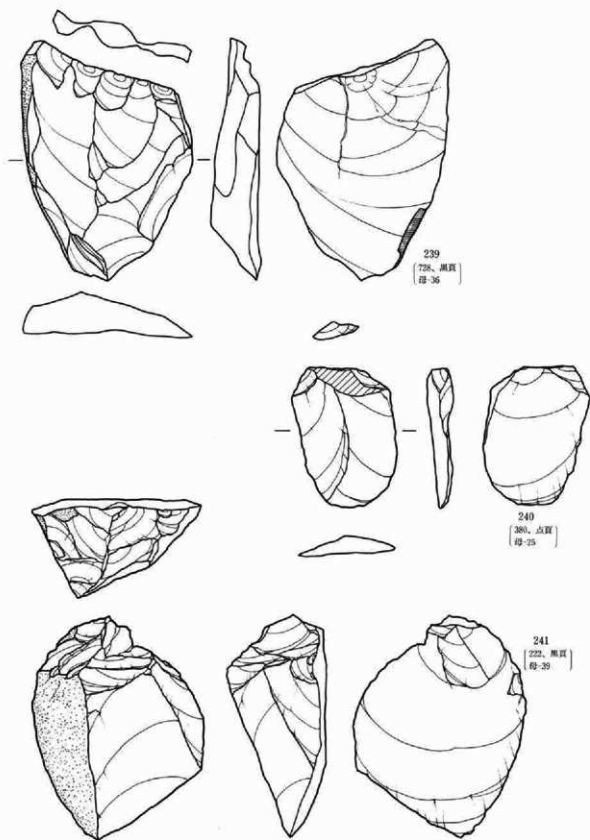


第148圖 石核

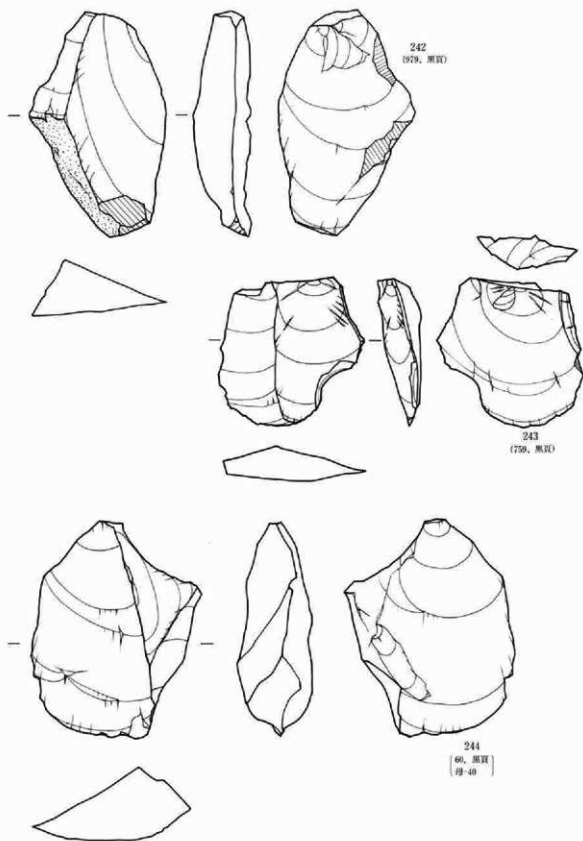


第149圖 剝片

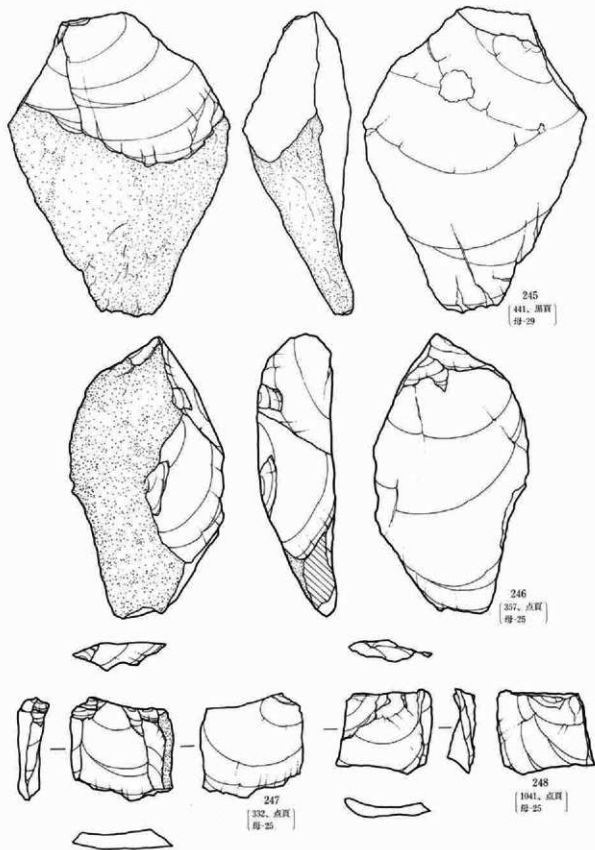




第151圖 石核

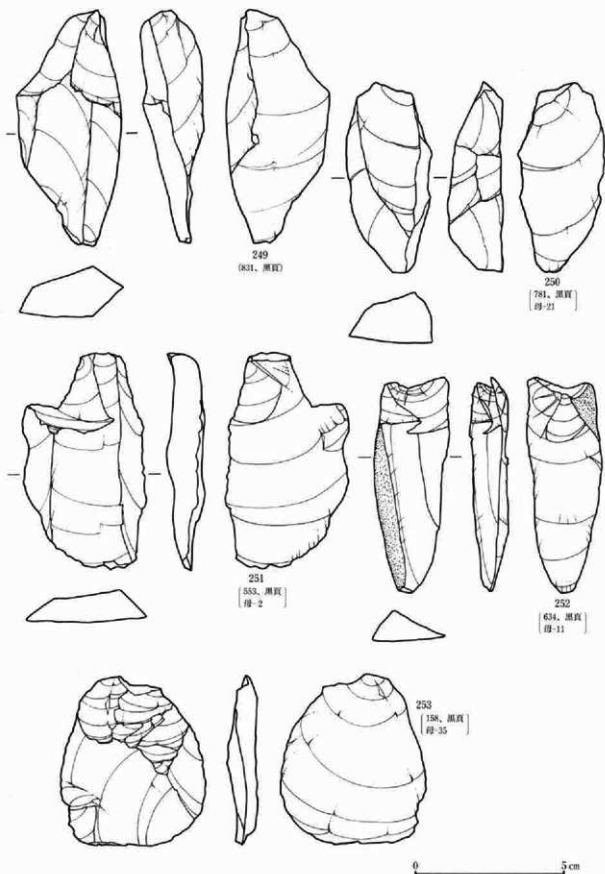


第152図 剥片

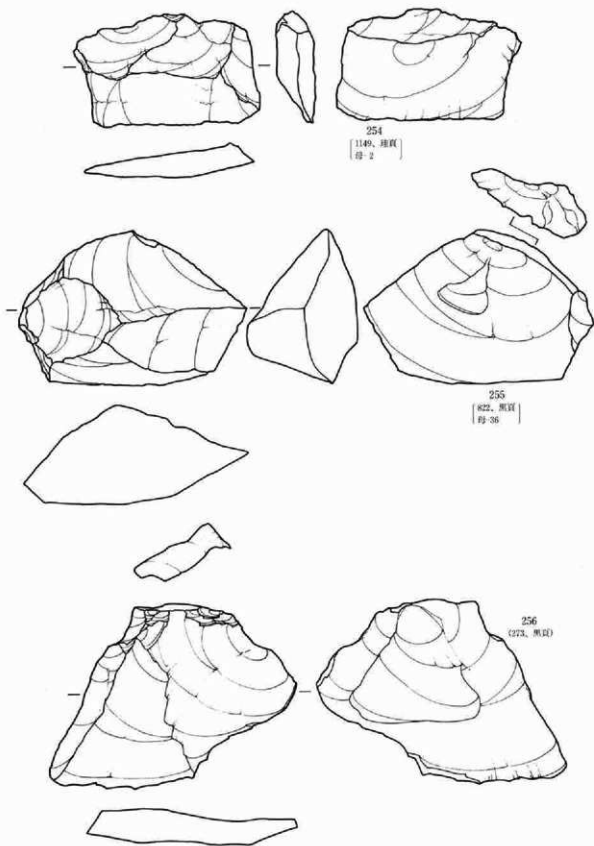


0 ————— 5 cm

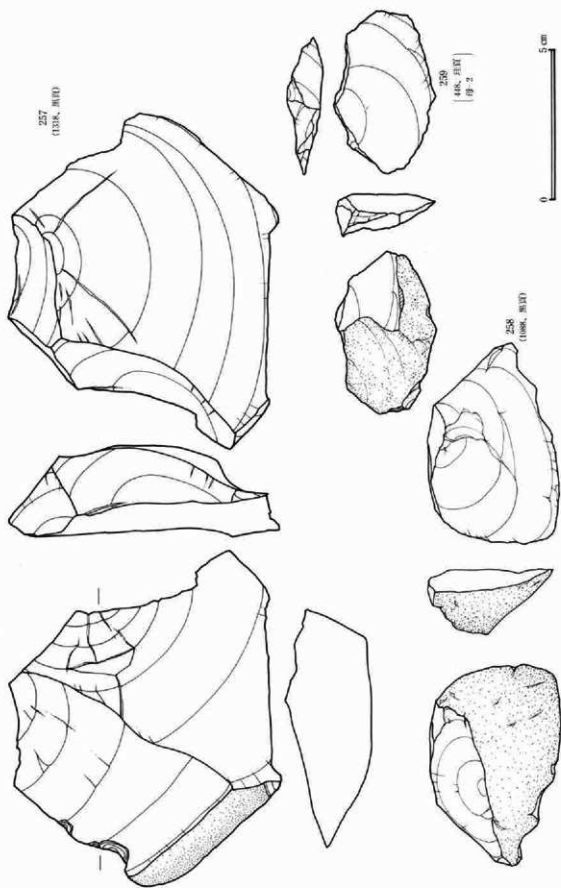
第153圖 剝片



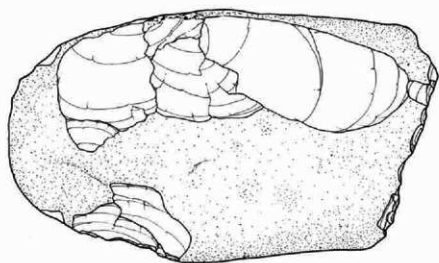
第154図 剥片



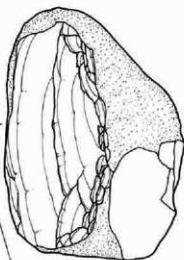
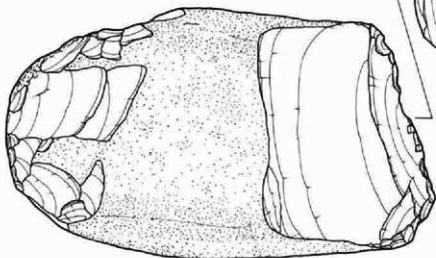
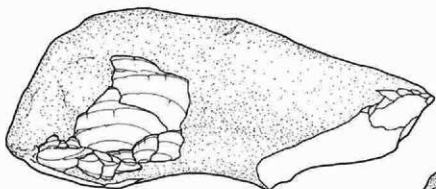
第155圖 剝片

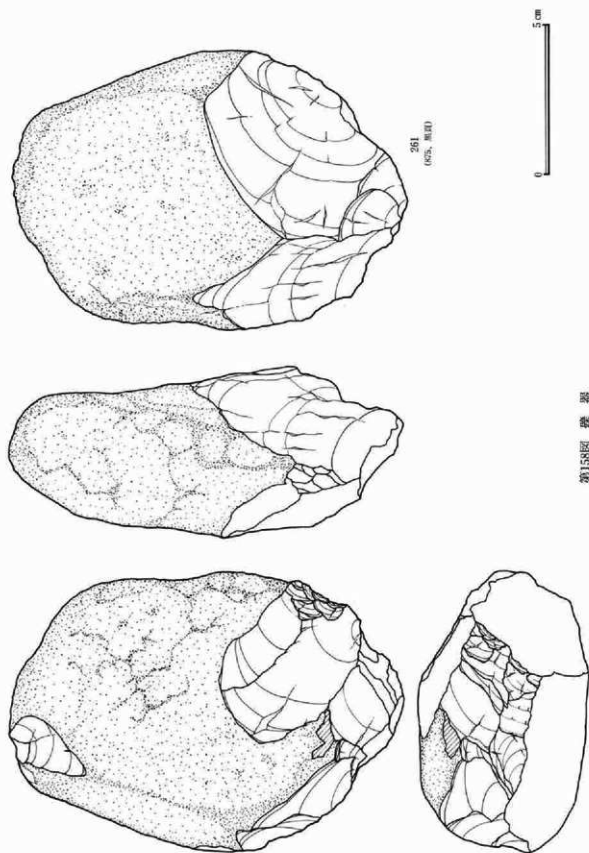


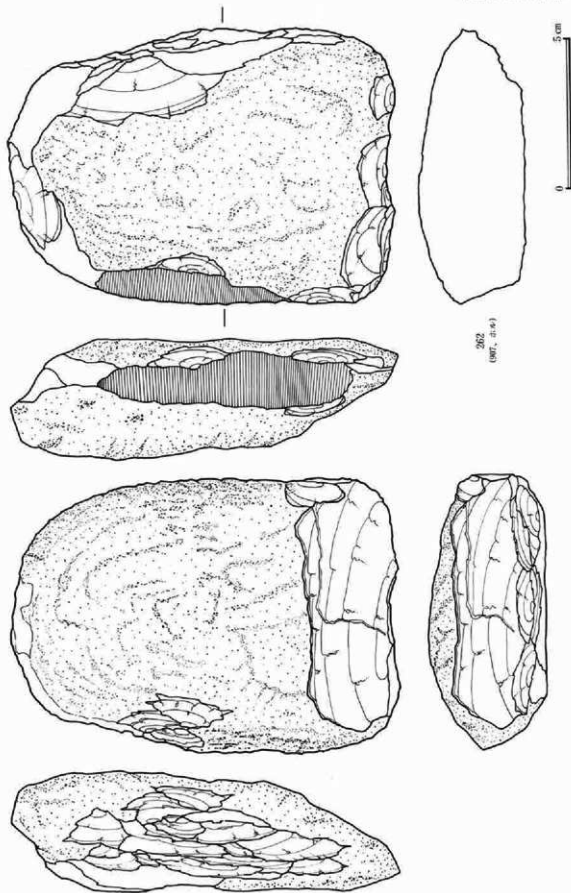
第156圖 剝片



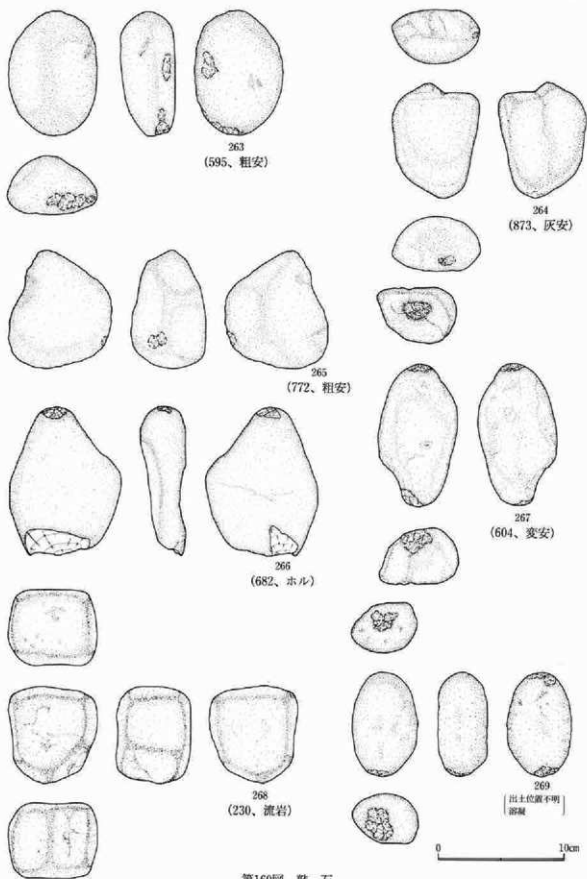
260
90% 原寸
（图23、图46）



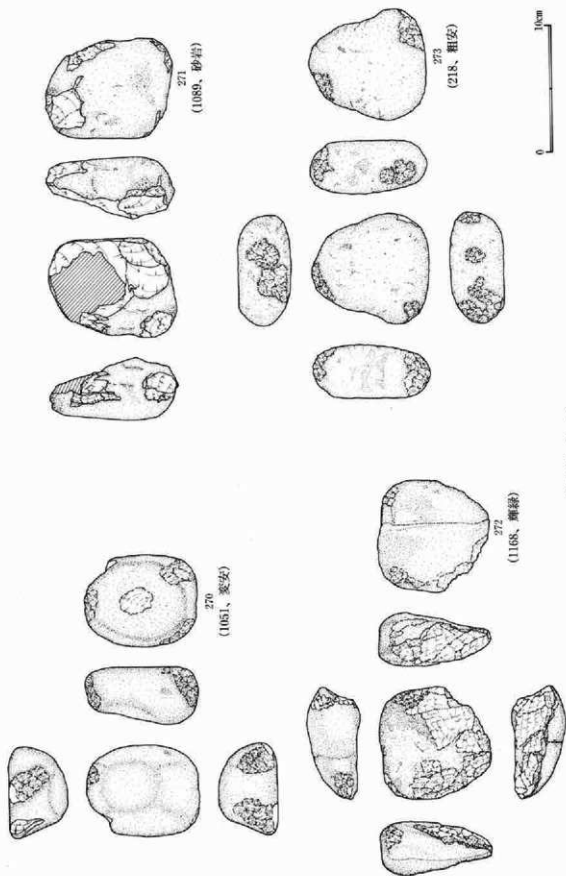




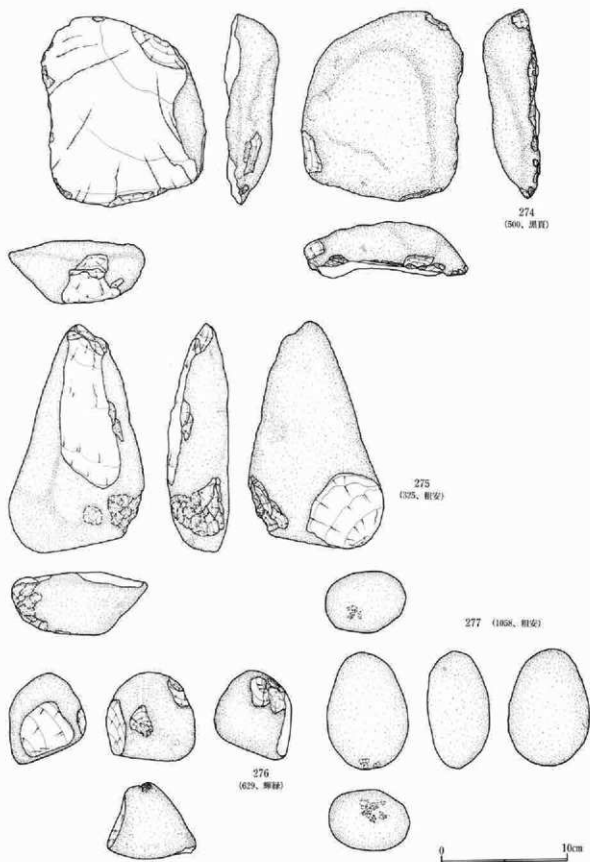
第1598号 石器



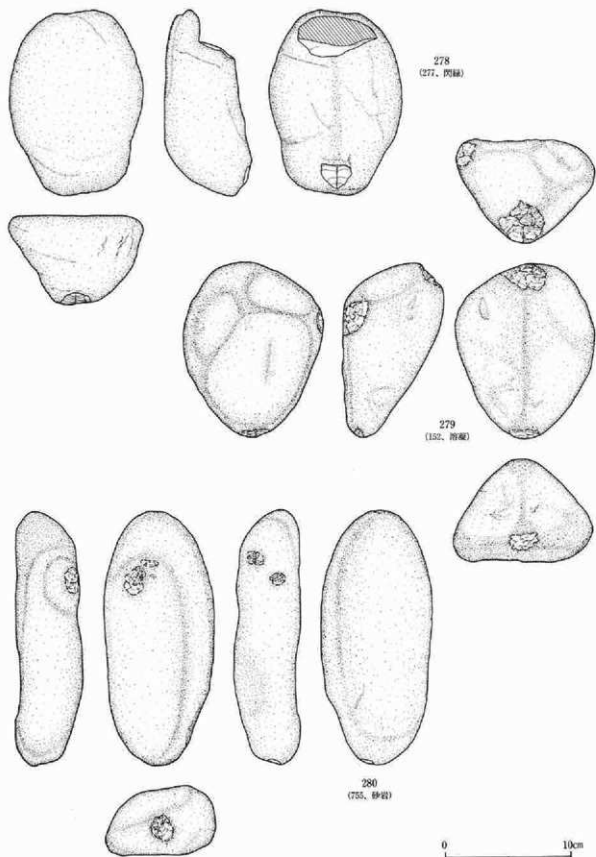
第160図 燧石



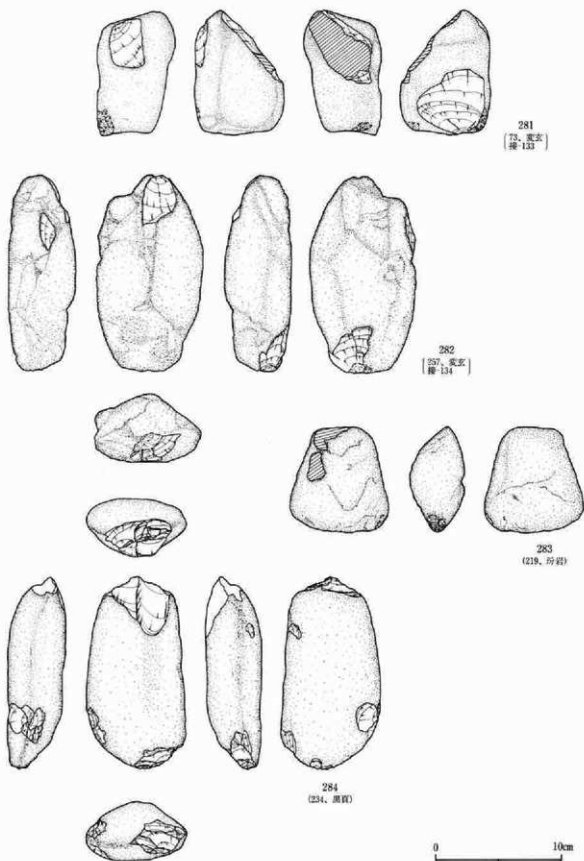
第161圖 礮石



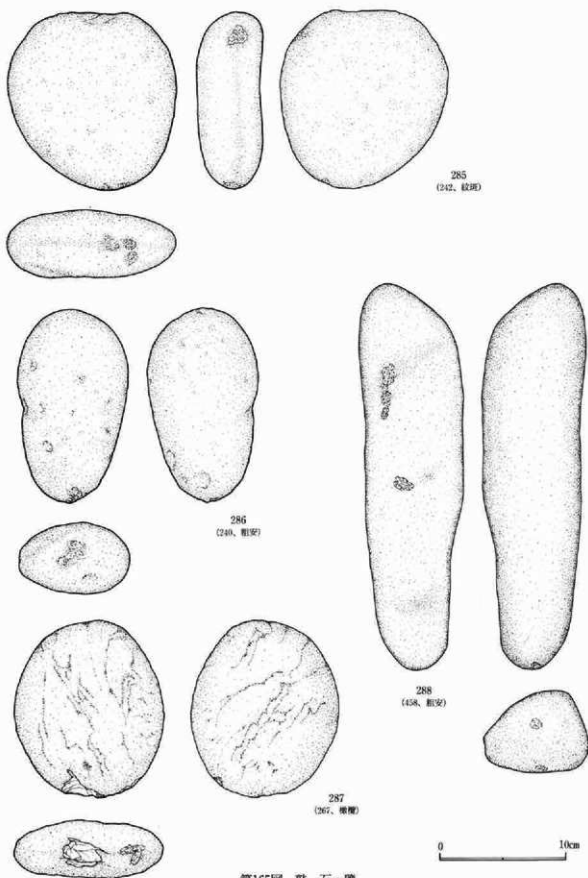
第162図 敲石



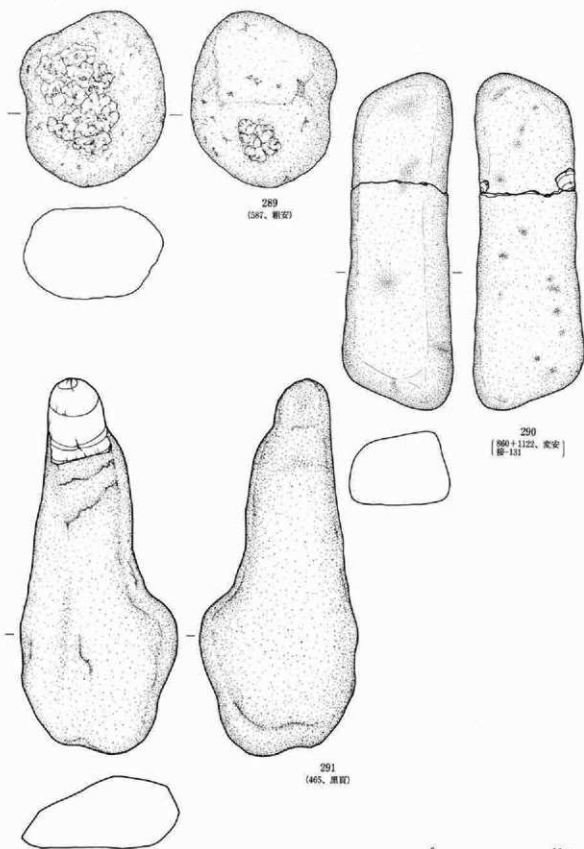
第163圖 敲石



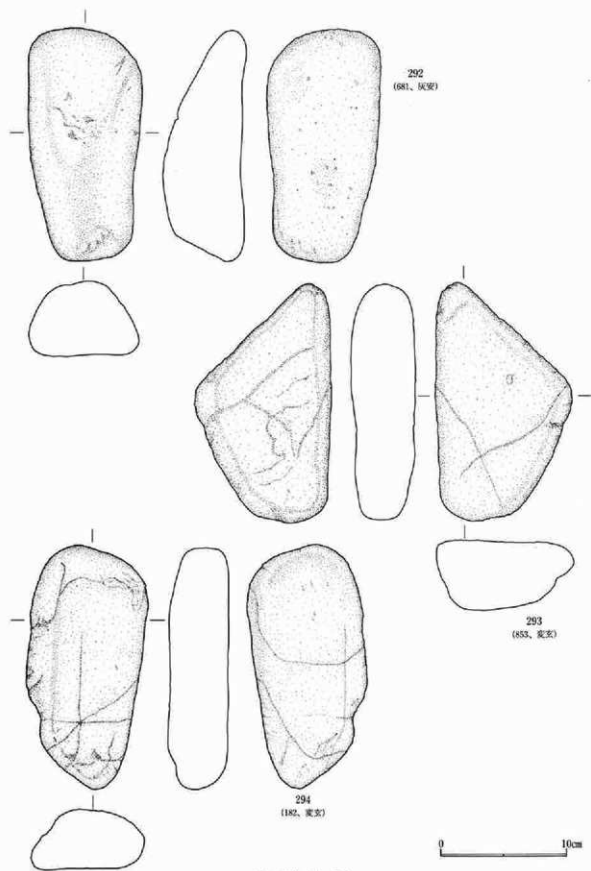
第164圖 蔽石



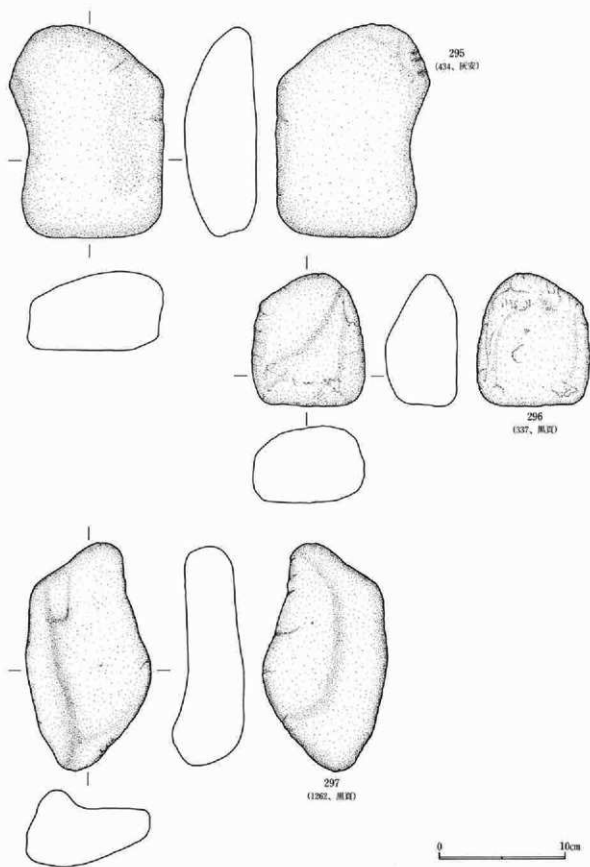
第165図 敲石・鏢



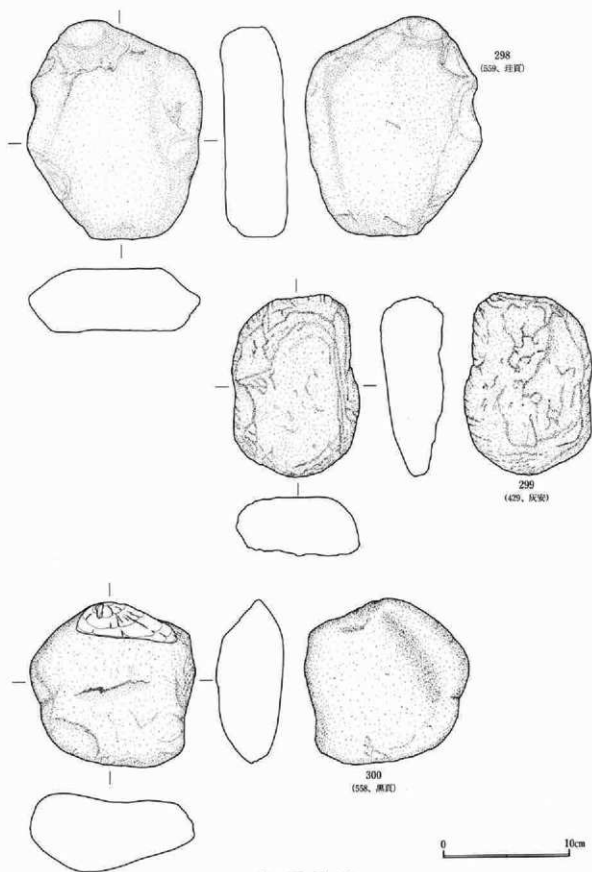
第166図 台石・礫・原石



第167圖 原石



第168圖 原石



第169圖 原石

第4節 石器の接合

検出された22のブロックから出土した多くの石器には、146例629点もの接合資料が確認された。接合率で見ると、出土石器全体の46パーセントにも昇る高い数値であることが知れる。こうした接合資料の中には、元の原石にまで復元されたものも数例あり、当時の剥片剥離技術を知ることでできる良好な資料と言える。

なお、記述にあたっては、母岩別に個々の接合資料の説明を加えることとした。このため、同一の母岩別資料の中に、いくつもの接合資料が含まれることもある。また、剥片剥離の順を示す記載については、→は同一打面からの剥離を示し、⇒は打面転移を行ったことを示す。+は欠損ないしは折断を示し、?は不明であることを示している。この剥離順にあたっては遺物№を用いたが、文章中では挿図掲載№で説明を加えている。

接合資料62（母岩別資料1 第170・171図，図版47）

865+○→○→○→649

○…?⇒○→1250⇒○→197+1185⇒○+198⇒○⇒201→192+1176→1184→187→202
 ↓
 206+205

本資料は母岩別資料1に分別され、加工痕・使用痕を有する剥片3点と石核4点を含む計14点の接合資料で、黒色頁岩による長さ18cm、幅9.5cm、厚さ7.5cmほどの原石を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず原石の長軸方向から剥片剥離が開始され、次いで上下に大きく分割し、その一方の分割面を打面として剥片剥離を行い302が作出され、その後作業が進められていく中で208が石核として残される。また、一方の分割された素材には、分割面に剥離を加えることで打面とし(転換)、そこから表面に表皮を剥ぎ取る形で縦長剥片が作出され、次いで同一打面から107が作出される。その後打面が90度転移され、301が剥離される。さらに打面が転移され、剥片剥離が進められていく中で62が作出され、303・304・305・307は同一打面から、306は305ないし307が剥離された際に、217から節理面で分割し大方の作業は止まるが、再度剥片307を素材に、その主要剥離面を打面として数度の剥離が施される。

接合資料12（母岩別資料2 第172～174図，図版48）

○→449+1267⇒○→803⇒1276+1275+1314+1315+1274⇒○→1029+1289+○+1298⇒788→1277

本資料は、母岩別資料2に分別される剥片と石核1点を含む計13点の接合資料で、黒色頁岩による長さ16cm、幅16.5cm、厚さ7cmほどの原石を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず際の上端から表裏面方向へ打面を転じながら剥離を開始する。この剥離作業により309・311が剥離される。つづいて打面を際の側面に転じ、同様な剥離を施すことで314が剥離される。その後さらに打面は転じられ、312・313等の剥片が剥離される。その結果、222が残核として残されている。この一連の剥片剥離作業から作出された剥片は、大形となる剥片が主体となるが、節理等による石材の悪さから、その後の二次的な加工が加えられたものはない。なお、この剥片剥離作業の初期の段階では、その石核形状は両刃状を呈していたことがうかがえる。

接合資料66（母岩別資料3 第175～179図，図版49）

○→315⇒148+○⇒1205+○+350→314→○→○+342→○→298→○⇒○→344+304→○+258→252+288→1164→○+312→○→329→265+348→○→303→○→1192+287→1148

本資料は、母岩別資料3に分別される剥片と石核1点を含む計21点の接合資料で、黒色頁岩による長さ18

cm、幅14cm、厚さ7cmほどの原石を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず礫の側面から薄く表皮を剥ぎ取るように剥離させた面を打面に2～3度の剥離を施し、大形の横長となる315を作出させ、大きな平坦となる剥離面を確保する。その後、この剥離面を打面として318を剥離させた打面へもどり、316・317・319と同一打面から連続剥離がなされ、第176図の姿となる。次の段階では、先の319らの剥離された面へ打面が転移され、321・326・324・327・322・325・329・323・328の剥片が次々に連続して剥離される。そして220がそれらの残核として残される。この一連の剥片剥離作業から作出された剥片は、縦長となる剥片が含まれるが、節理等による石材の悪さから、その後の二次的な加工が加えられたものはない。

接合資料1 (母岩別資料4 第180・181図, 図版50)

○→○+690→713→1098→1090→○→1096→1105→1065→1068→○→1064+820→1152→○→○→1099→1092→○→1095+1103→1097→?
 ↓
 1077→○→1104→○→1078→1069→1061

本資料は母岩別資料4に分別される、槌・削器1点と石核1点を含む計21点の接合資料で、黒色頁岩による長さ16cm、幅11cm、厚さ7.5cmほどの原石を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず礫の右側から剥離を開始し、その剥離面を打面に338・331が剥離され、その後打面転移による剥片剥離が繰り返され、336・332が剥離される。さらに打面を転移し、それ以降の打面作出を行う。その後335・339・343・340・333を剥離させた、5～6回の剥離が同一打面から施された後、再度打面を90度転移させ、341・342・344の他数点の剥片を剥離させる。さらに打面を転移させながら337・330等の剥片を剥離させるが、この間に石核は節理により分離する。作業は、なおも打面転移を繰り返しながら進められ、334・12・345・346が剥離された結果、残核として151が残される。なお、この剥片剥離作業より作出された剥片のうち、現存するものでは12の1点のみが槌・削器として使用されている。

接合資料79 (母岩別資料5 第182・183図, 図版51)

○→1251→537→○→521+540→534→538

本資料は、母岩別資料5に分別される剥片と石核1点を含む計6点の接合資料である。珪質頁岩による河床礫を素材に、打面を90度転移させながら連続的に剥片剥離を行ったもので、353・351・352等の剥片にみられるように幅広いものが多く剥離されたと考えられる。これらの剥片剥離を終え、223が残核として残されている。なお、この剥片剥離作業により作出された剥片使用の石器はない。

接合資料69 (母岩別資料6 第184・185図, 図版52)

○→1194→1201+300→○…?…○→1166→316+317→1206→○→291→○→299→264→○→146→290

本資料は、母岩別資料6に分別される槌・削器1点と石核1点を含む計12点の接合資料で、黒色頁岩による長さ11cm、幅15cm以上、厚さ10cmほどの原石を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず礫の平坦な面を打面に大形の剥片を連続的に剥離させる。この時点で作出された剥片は357・358・356・359・355である。続いて、355が剥離された面に打面が転移され、比較的縦長となる剥片360・361・9・362が連続的に同一打面から剥離される。その結果、216が残核として残される。これらの剥片剥離作業から作出された剥片のうち、9が槌・削器として使用されている。

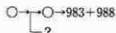
接合資料22 (母岩別資料7 第186・187図, 図版53)

○→987+985→○→○→982

本資料は、母岩別資料7に分別される剥片と石核1点を含む計3点の接合資料で、黒色頁岩による長さ13cm以上、幅10cm、厚さ6cmほどの原石を素材に剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず礫の上下端

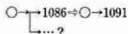
に打面作出のための剥離を施すが、上端からの剥離を優先し作業が進められていく。剥片剥離は、礫の上端方向から表裏面へ剥離を施すように、打面を転移させながら連続的に交互に剥離した後、打面をそれまでの転移方向とやや異なる位置へ転移させ、364・363の剥片を剥離させる。その結果225が残核として残される。なお、この接合資料については先の礫器の項の中でも若干触れたように、石核形状が両刃状の礫器に近い形状にあるが、その刃部となる部分が一定していない点、また剥片364・363が剥離された段階では交互剥離となっていない点から、礫器とは分別した。

接合資料24 (母岩別資料7 第187図 365)



本資料は、先の接合資料22と同じ、母岩別資料7に分別される剥片と石核1点の計2点の接合資料である。接合資料22の剥片剥離作業の中で作出された剥片を素材に、剥片の側縁から主要剥離面側へ平坦剥離を施した石核で、この平坦剥離を連続的に加えた際に、破損したものの接合体である。

接合資料5 (母岩別資料8 第188図、図版54)



本資料は、母岩別資料8に分別される石核2点の接合資料である。黒色頁岩を石材とする素材礫からの、剥片剥離作業の初段階に剥離された大形剥片を素材に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず素材となる剥片の主要剥離面を打面に142を剥離させ、次にこの142の剥離面に打面を転移させ、比較的小さい剥片を数度剥離し作業を終えている。その結果228が残核となる。また、この作業中に作出された剥片142にも、その後一部に礫面を打面とした剥離が加えられている。

接合資料46 (母岩別資料9 第189図、図版54)

1231→○→460+472→○→466

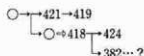
本資料は、母岩別資料9に分別される石核1点を含む計4点の接合資料で、黒色頁岩による長さ10.5cm、幅6.5cm、厚さ3.8cmほどのやや扁平な河床礫を素材に剥片剥離を行ったものである。まず素材礫の端部側面から剥離を開始し、367が剥離された後に打面を平坦な礫正面に転移させ剥離を施す。さらにその剥離面に打面を転じ、縦長となる剥片を剥離させるように368・370等が数度剥離されるが、目的とされた形状の剥片は作出されていない。これらの剥片剥離の結果、369が残核として残される。なお、368と370は本来同一の剥片であったものである。

接合資料16 (母岩別資料10 第190図、図版54)

○→1292→○→1304

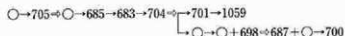
本資料は、母岩別資料10に分別される剥片と石核1点の計2点の接合資料である。黒色頁岩による剥片を素材に剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、素材となる剥片の主要剥離面側へ、周縁から平坦な剥離を連続的に施すものであるが、途中で打面を転じて素材剥片の表面側へ剥離を施し371を剥離させた後、打面を371の剥離面へ転移させ、剥離作業を継続させている。その結果、205が残核として残される。この剥片剥離作業により作出された剥片は、大方のものが寸詰まりとなる幅広なものと考えられる。

接合資料52 (母岩別資料11 第191・192図, 図版54)



本資料は、母岩別資料11に分別される剥片と石核2点を含む計5点の接合資料で、黒色頁岩による初期段階で作出された大形剥片を素材に、剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、まず素材となる大形剥片の主要剥離面側へ周縁からの剥離を施した後、素材剥片の表面の稜面から上下に大きく分割する。そして分割した一方に、分割面に沿うような形で本来の素材剥片の平坦な側縁を打面として374を剥離させ、156を残骸に剥離を終える。またもう一方の分割した剥片へは、さらに表の稜面から打撃を加え左右に分割する。そして、両者の分割した素材の平坦な剥離面（最初に分割した際の面）を打面として、372や373が各々剥離される。372を剥離させた石核には219が、373を剥離させた石核は不明である。なお、これら分割した素材から剥離された剥片は総て縦長剥片であるが、連続的な縦長剥片の剥離はなされていない。

接合資料25 (母岩別資料12 第193～195図, 図版55)



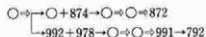
本資料は、母岩別資料12に分別される剥片と石核2点を含む計9点の接合資料で、黒色頁岩による分割際を素材に剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、まず素材となる分割際の分割面を打面とし、剥離が開始される。その後、打面を稜面へ転じて剥片375を剥離させ、次に先に剥離させた剥離面を打面として、縦長剥片を目的とした378・376・380等にみられる数度の連続した剥離作業を行う。そして打面は380の剥離面へ転移され、数度の剥離を行うが、この作業により剥離された肉厚な剥片を素材に、周辺から381が剥離され168が残骸となる。一方、石核168となる素材剥片を剥離させた面を打面に、なおも作業は進行し377等の剥片を剥離させた後、打面を90度転移させそれまでの打面側へ剥離を施し、379を作出させ作業を終える。その結果、215が残骸として残される。

接合資料55 (母岩別資料12 第195図, 図版55)



本資料は、先の接合資料25と同一の母岩別資料に分別されるもので、加工痕を有する剥片1点と剥片との計3点が接合する。しかし、この接合資料は先の接合資料とは接合関係にない。剥片剥離は、平坦な分割面とも考えられる面へ、稜面を打面として周辺から連続的に作業が行われたものと考えられる。

接合資料20 (母岩別資料13 第196・197図, 図版56)



本資料は、母岩別資料13に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点、石核2点を含む計6点の接合資料で、黒色頁岩を素材に剥片剥離作業がかなり進んだ資料である。この接合資料にみられる剥片剥離は、打面転移を繰り返しながら剥片剥離が進行してきたものへ、さらに打面を転移し肉厚な剥片を作出する。この肉厚な剥片を素材に、主要剥離面側に端部方向から加工痕を有する剥片となる47を剥離させた後、その剥離面へ打面を転移させ、さらなる剥離を施し131が残骸として残される。一方、本来の石核への作業は、先の131素材剥片の剥離面を打面として、384をはじめとする数度の剥片が剥離されたのち、打面を90度転移させ383等を剥離させ作業を終了する。その結果、133が残骸として残される。

接合資料49 (母岩別資料14 第198図, 図版56)

○→433⇨○→241⇨○…?…○⇨231…?

本資料は、母岩別資料14に分別される剥片3点の接合資料で、黒色頁岩を素材とする剥片剥離により作出されたものである。剥片剥離は、打面転移を繰り返しながら進められるもので、接合した3点の剥片はそれぞれ打面が異なっている。なお、これにともなう石核は出土していない。

接合資料50 (母岩別資料14 第198図, 図版57)

○⇨446+447→229+○…?

本資料は、先の接合資料49と同一な母岩別資料に分別されるもので、剥片3点による接合資料である。これらの剥片は、接合資料49と直接的な接合関係にはないが、同一打面から剥離された比較的縦長となる剥片である。

接合資料36 (母岩別資料15 第199図, 図版57)

○→1261→777…?

本資料は、母岩別資料15に分別される剥片2点の接合資料で、黒色頁岩を素材とした剥片剥離により作出されたものである。この資料の剥片剥離は、平坦な剥離面を打面に連続的に剥離されたものである。

接合資料43 (母岩別資料16 第200図, 図版57)

○⇨1359→○⇨1358⇨○→1365

本資料は、母岩別資料16に分別される剥片と石核1点による計3点の接合資料で、黒色頁岩を素材に剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、打面転移を繰り返しながら進められるが、途中で剥片393を含むものと394・130を含むものとに分割される。その後、分割されたものを素材に打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業が進行し、394等の剥片が剥離され130が残核として残される。

接合資料14 (母岩別資料17 第199図, 図版57)

○→799→○→798⇨○⇨796…?

本資料は、母岩別資料17に分別される槌・削器1点と剥片2点による計3点の接合資料で、珪質頁岩を素材とした剥片剥離により作出されたものである。剥片剥離は、打面転移を繰り返しながら進められるもので、槌・削器となる16を剥離させた後、打面を転移させ392を剥離させる。さらに打面を大きく転移させ剥離を施した後、打面を90度転移させ391を剥離させる。この剥片剥離にともなう石核は出土していない。

接合資料75 (母岩別資料18 第201図 400)

○→1165+1167+129…?

本資料は母岩別資料18に分別されるもので、黒色頁岩による平坦な剥離面を打面に剥離させた不定形な横長剥片であるが、節理面により破損したものが接合したものである。

接合資料76 (母岩別資料18 第201図, 図版57)

○→130⇨1158…?

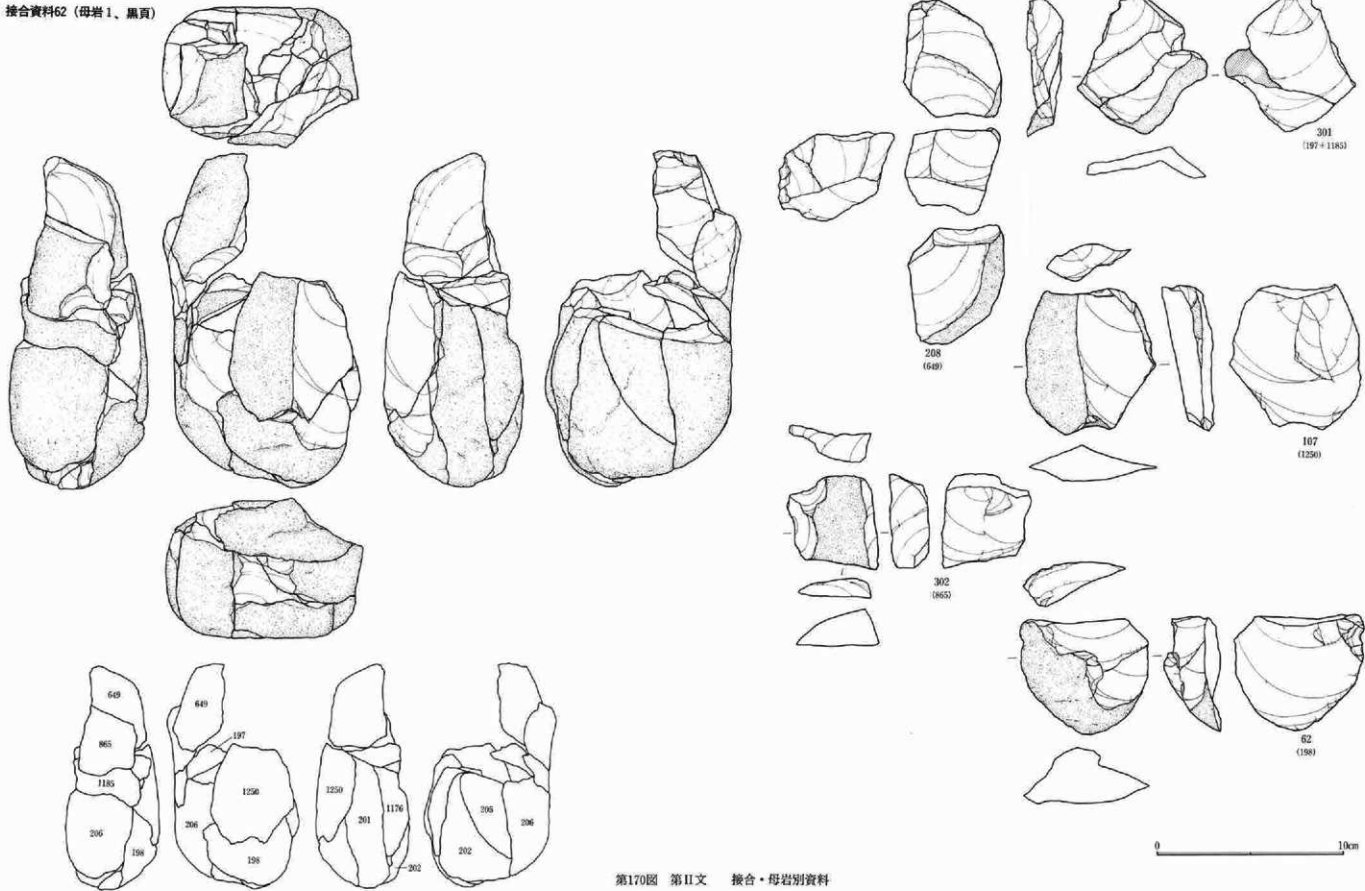
本資料は、接合資料75と同一な母岩別資料に分別されるもので、剥片2点の接合資料である。剥片剥離は、共に平坦な剥離面を打面とするが396を剥離させた後、打面を大きく転移させ397を剥離させたものである。

接合資料77 (母岩別資料18 第201図, 図版57)

○→125→○→1163…?

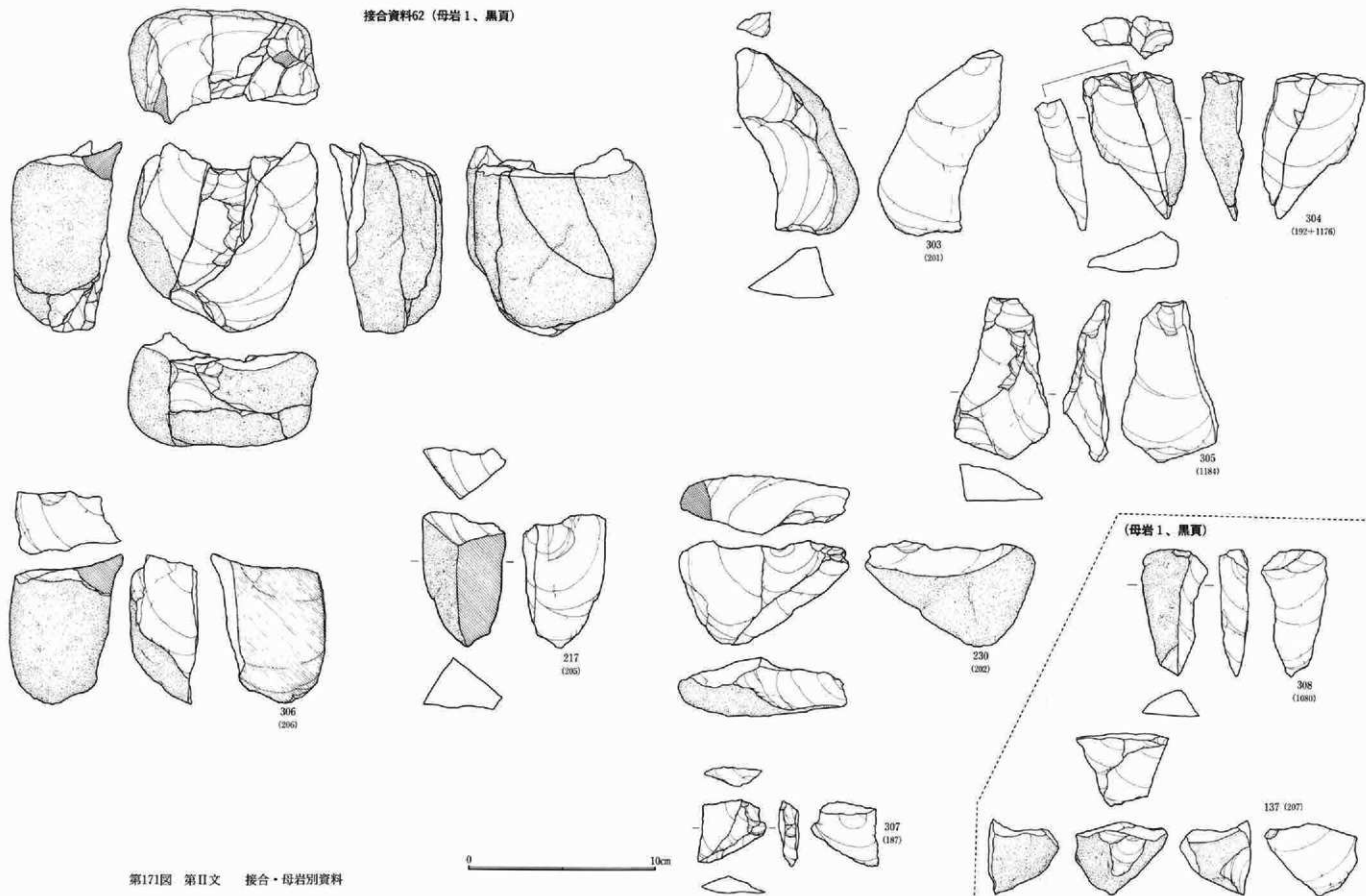
本資料は、接合資料75・76と同一な母岩別資料に分別されるもので、剥片2点の接合資料である。剥片剥離は、共に平坦な剥離面を同一打面として剥離されたもので、398は節理面により欠損している。

接合資料62 (母岩 1、黒頁)



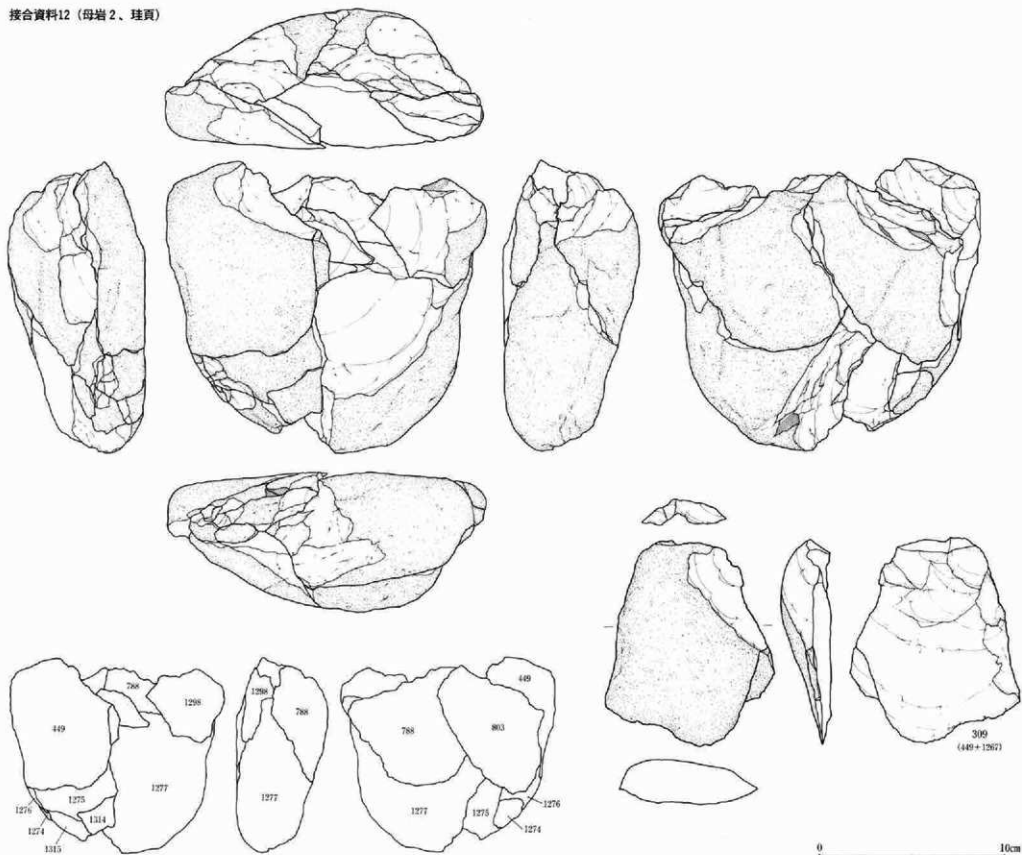
第170圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料62 (母岩 1、黒頁)



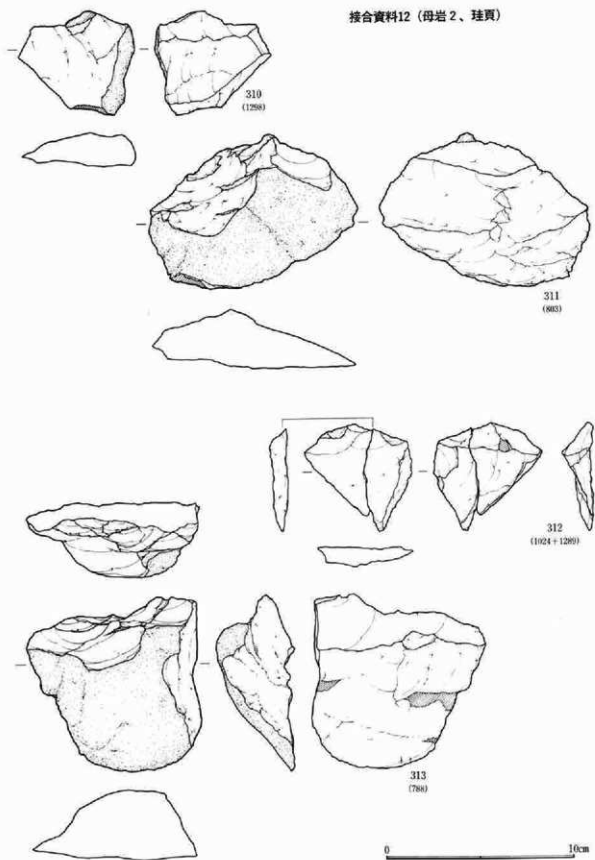
第171図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料12 (母岩 2、珪頁)



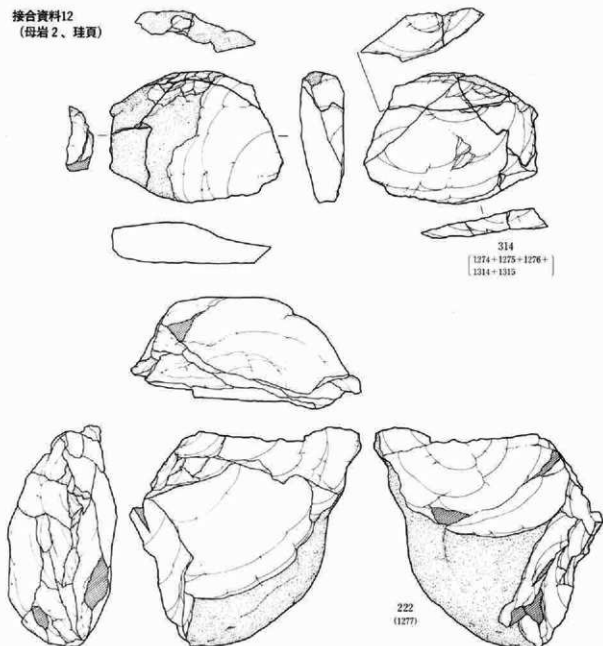
第172図 第11文 接合・母岩別資料

接合資料12 (母岩 2、珪質)

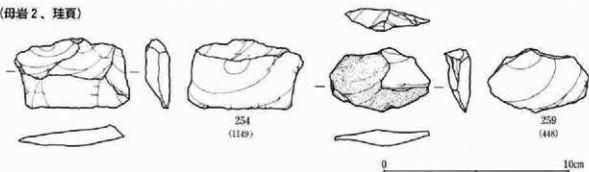


第173図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料12
(母岩 2、珪頁)

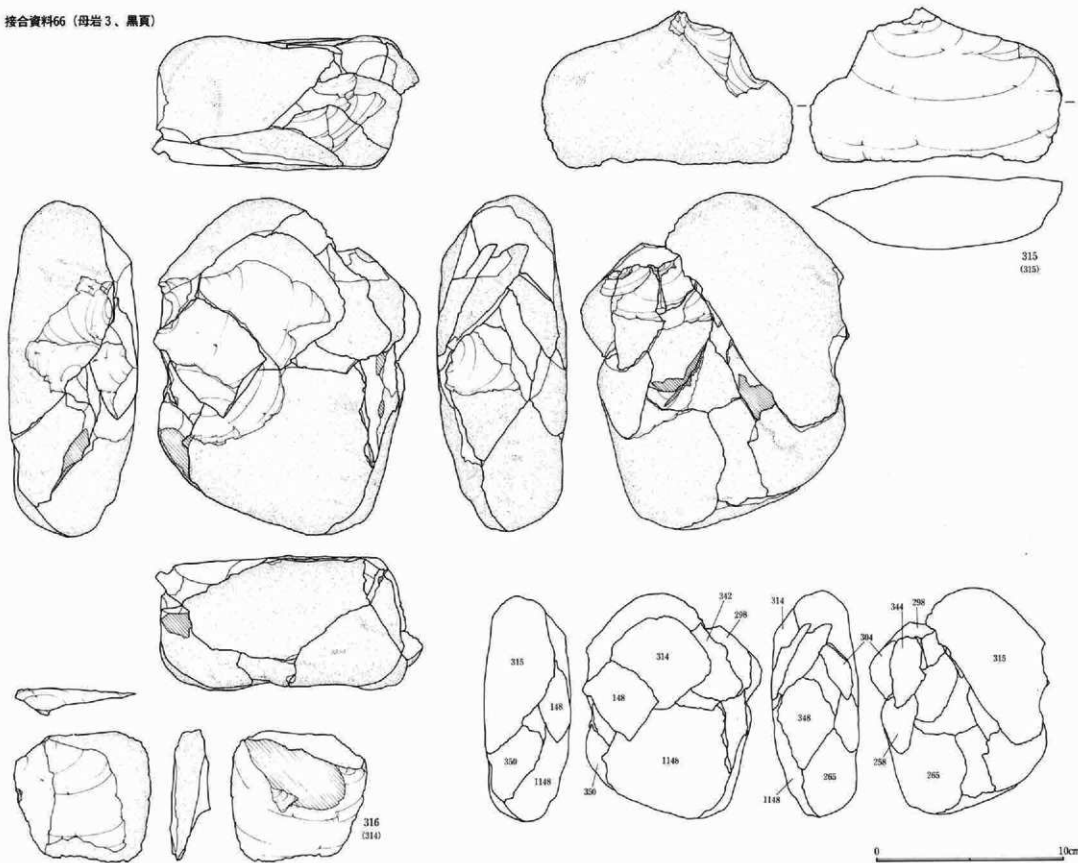


(母岩 2、珪頁)



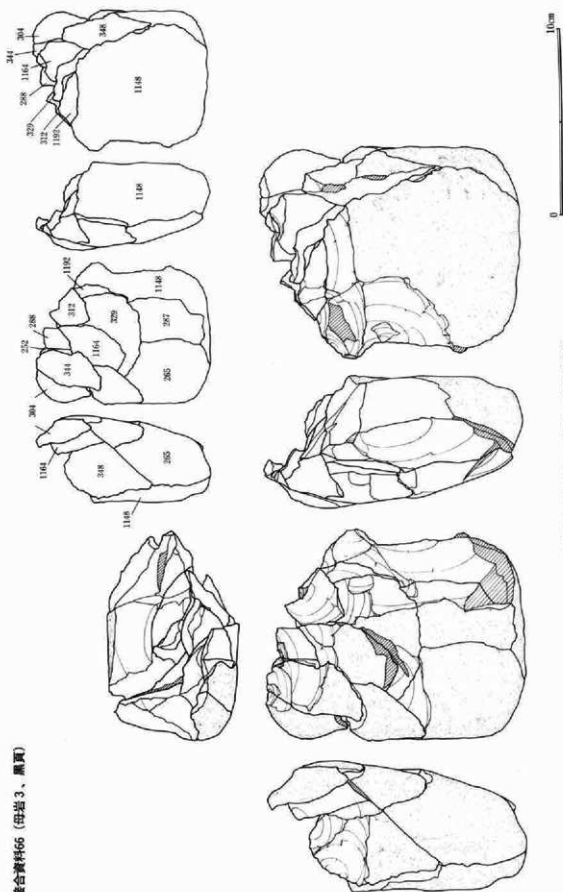
第174図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料66 (母岩3、黒頁)



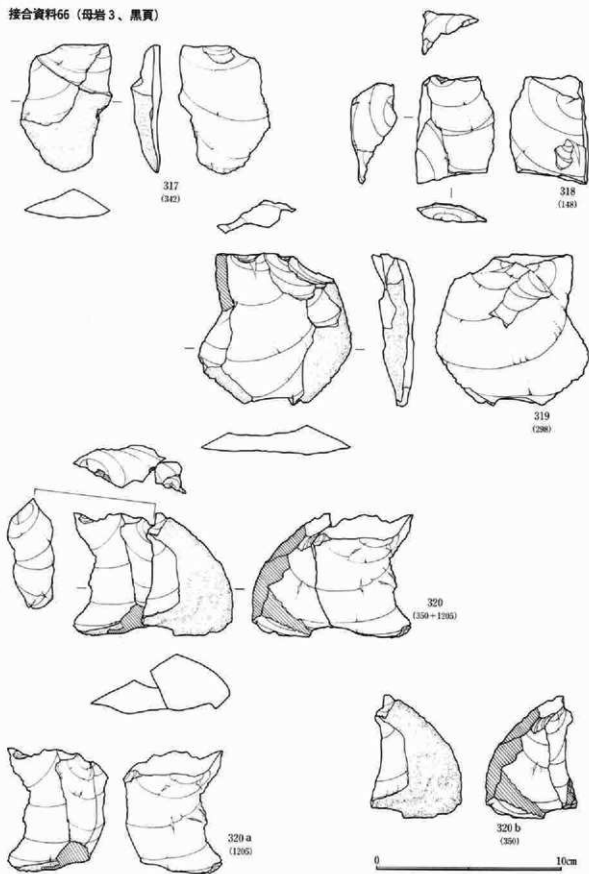
第175図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料66 (母岩3、黒頁)



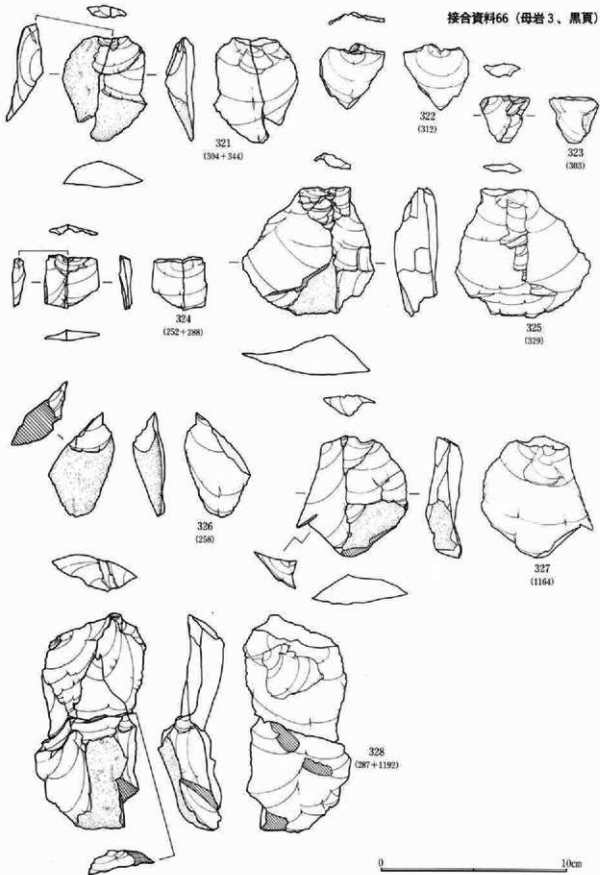
第176図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料66 (母岩3、黒頁)



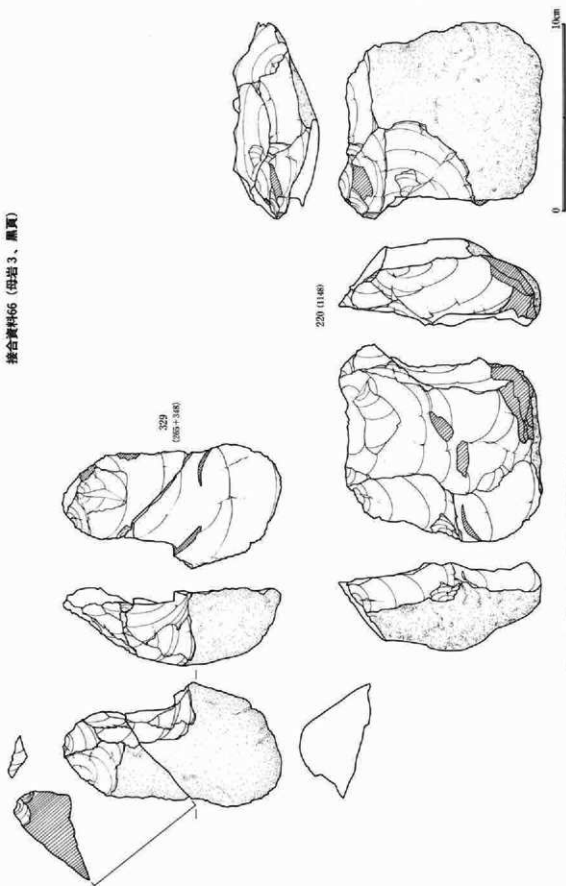
第177圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料66 (母岩3、黒頁)



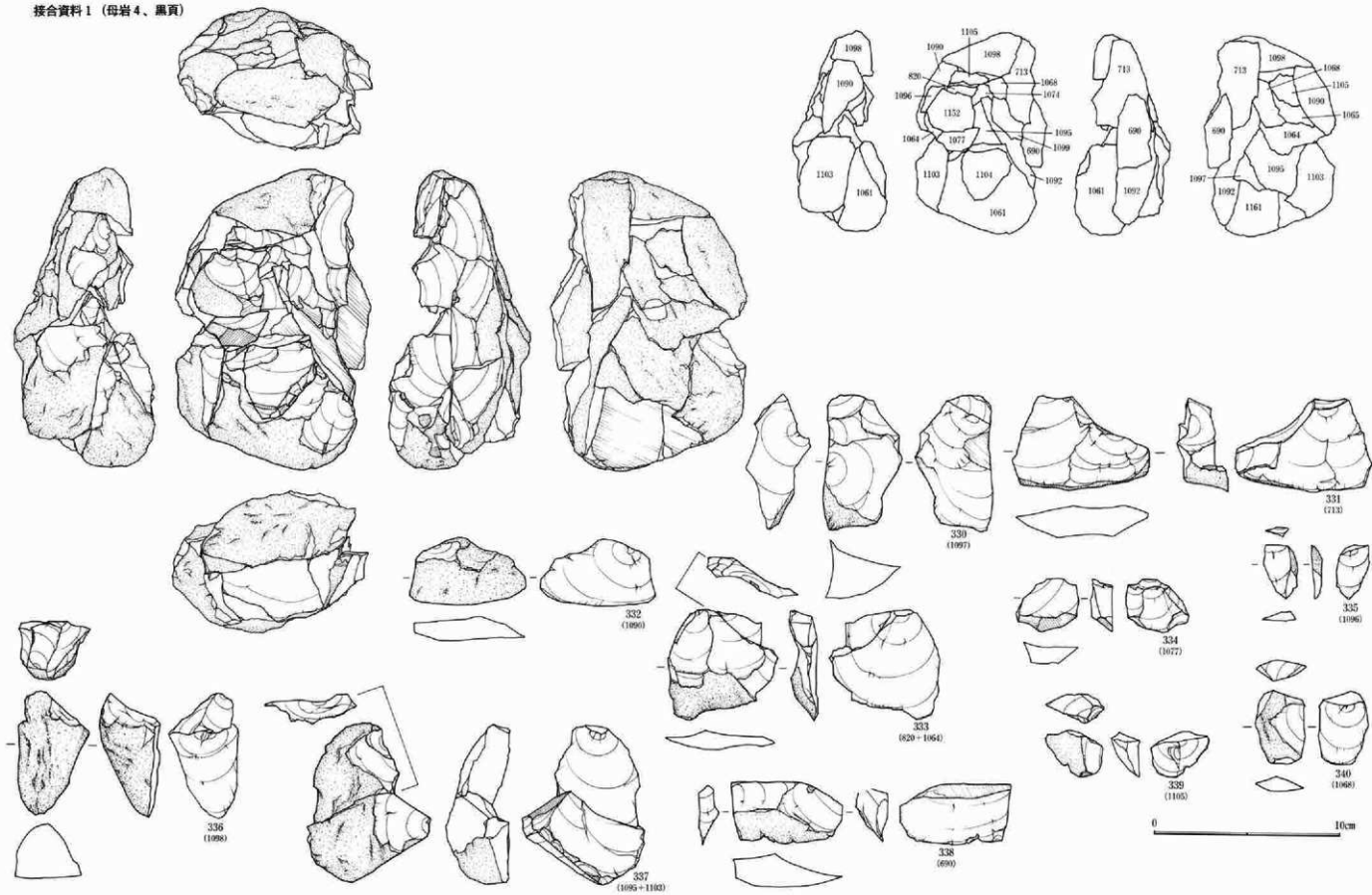
第178図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料66 (母岩3, 黒頁)



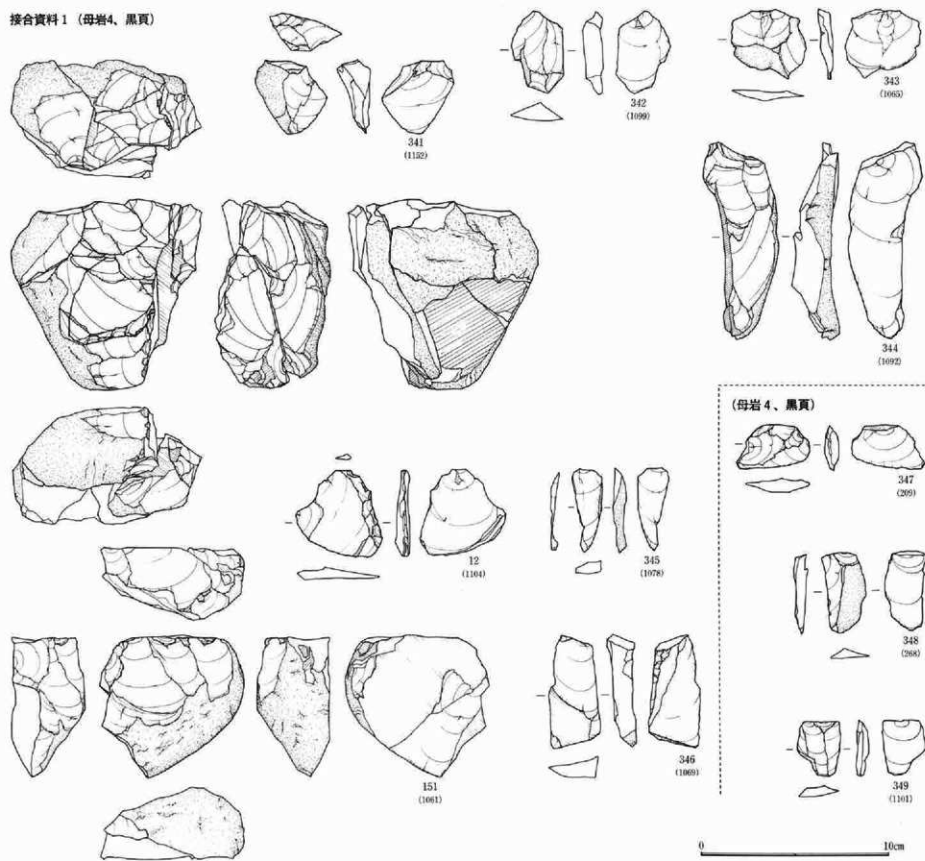
第179図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料 1 (母岩 4、黒頁)

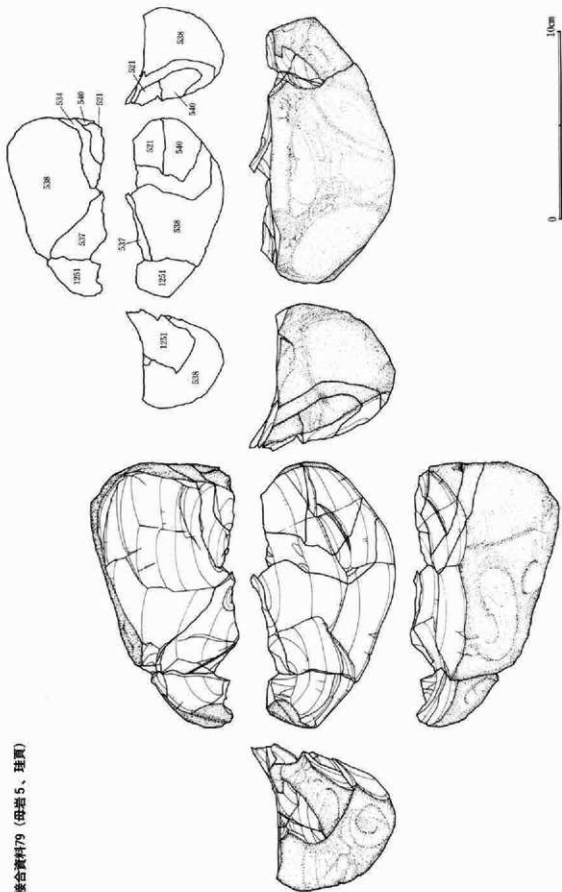


第180圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料 1 (母岩4、黒頁)

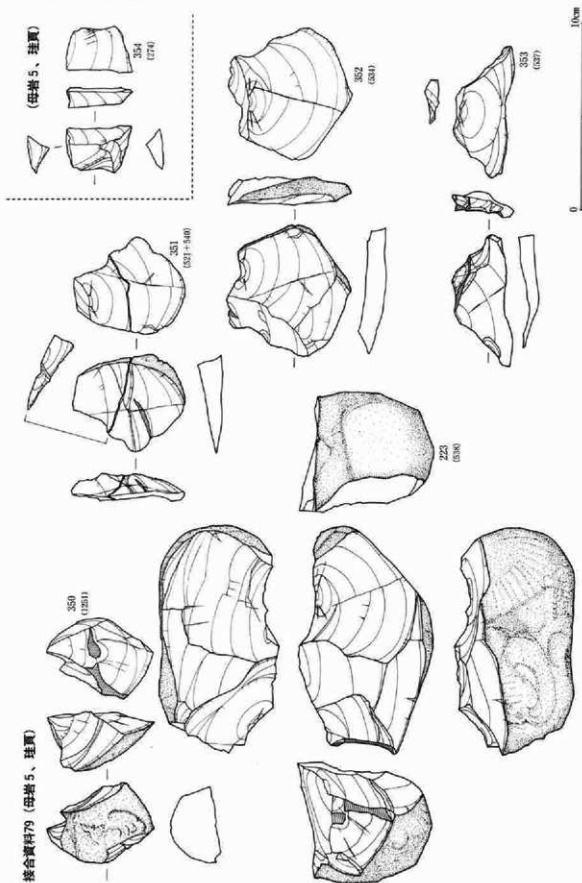


第181図 第Ⅱ文 接合・母岩別資料



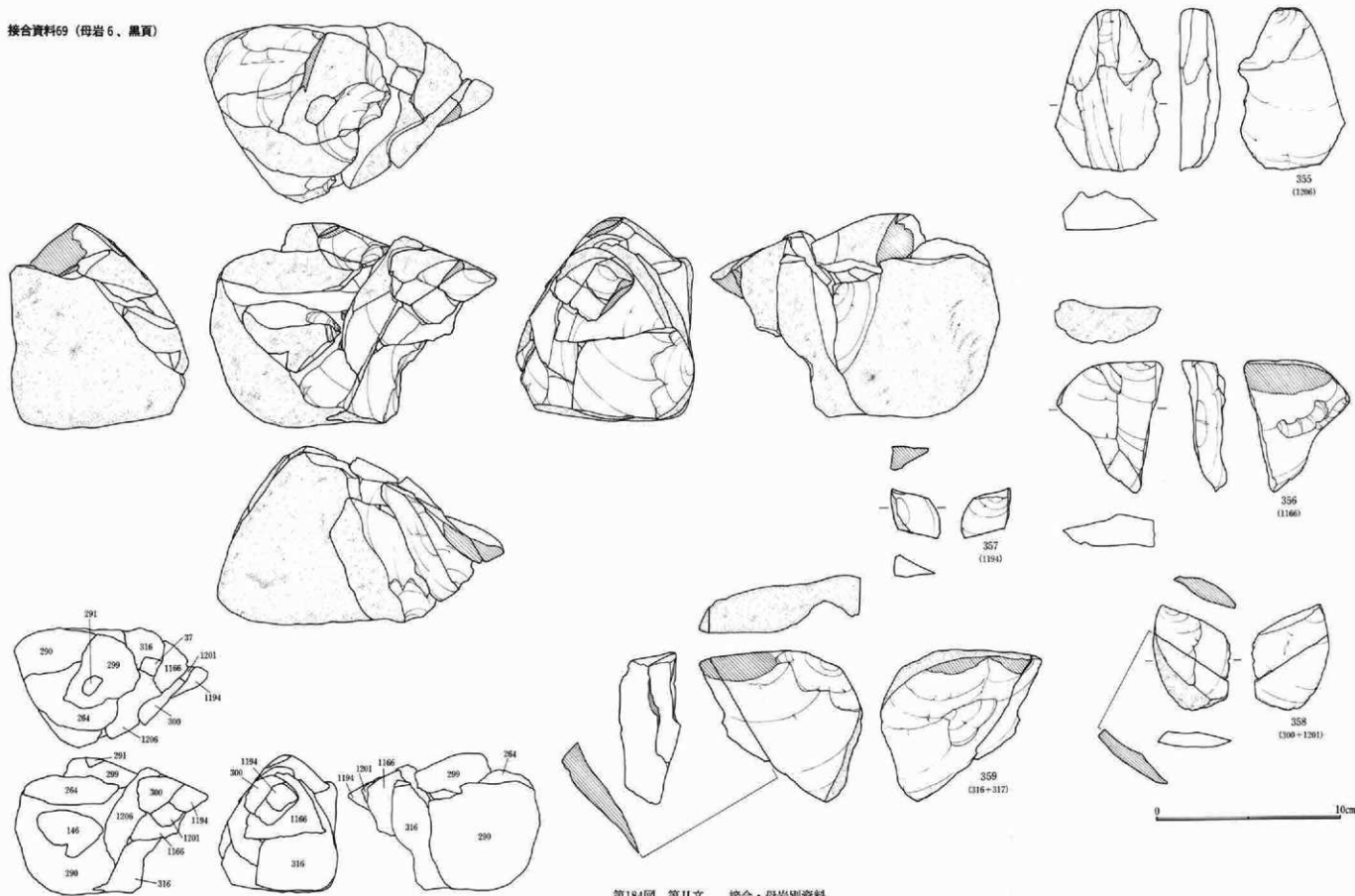
接合資料79 (母岩5、球面)

第182図 第II文 接合・母岩別資料



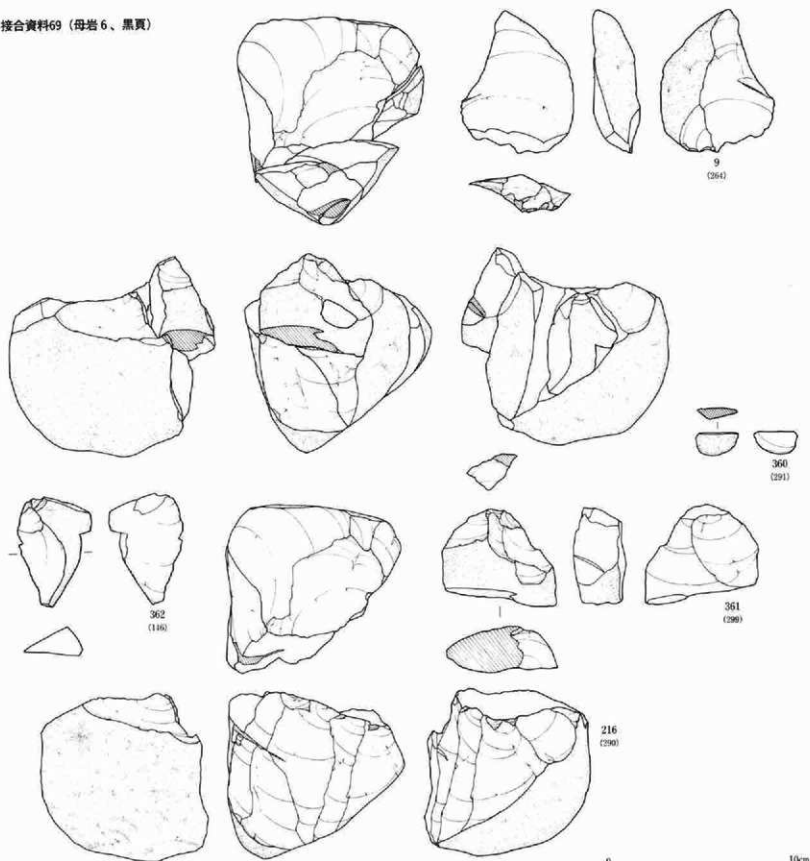
第183圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料69 (母岩 6、黒頁)



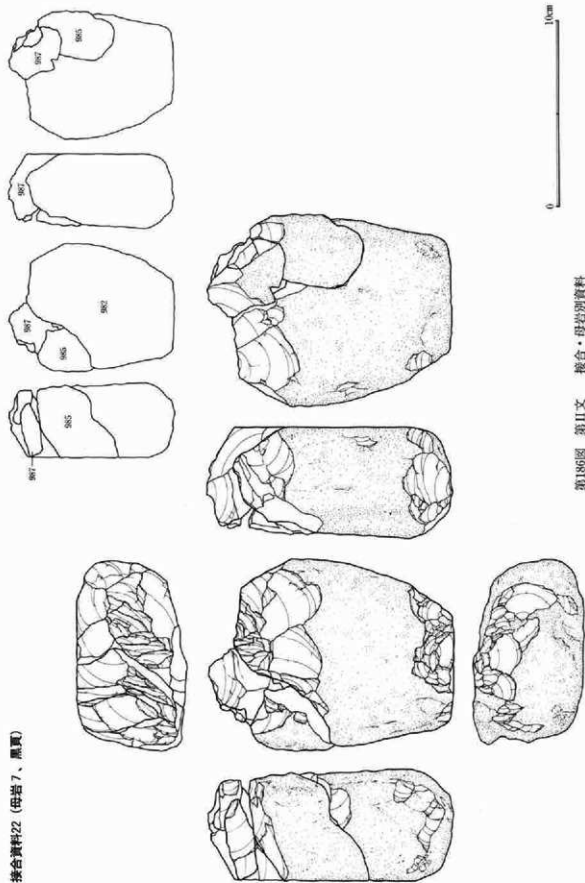
第184圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料69 (母岩6、黒頁)

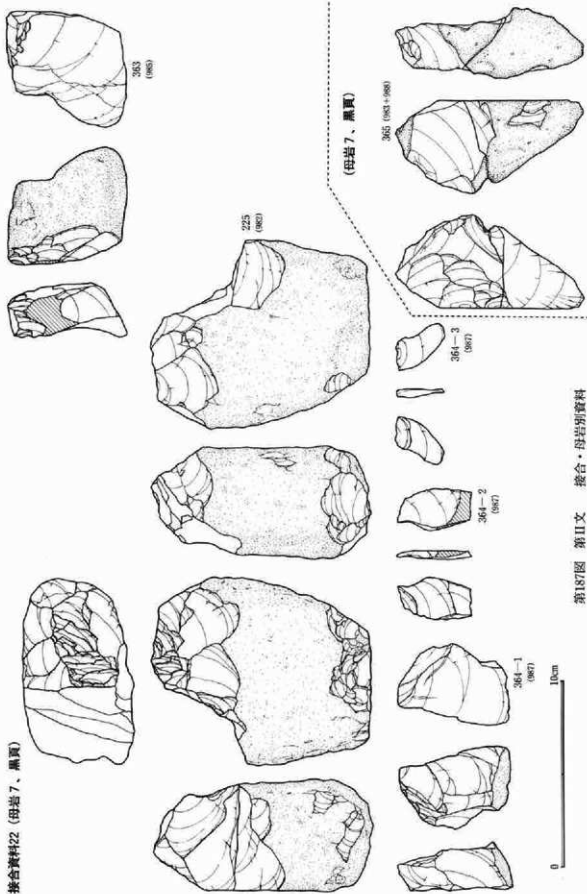


第185図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料22 (母岩7、黒頁)

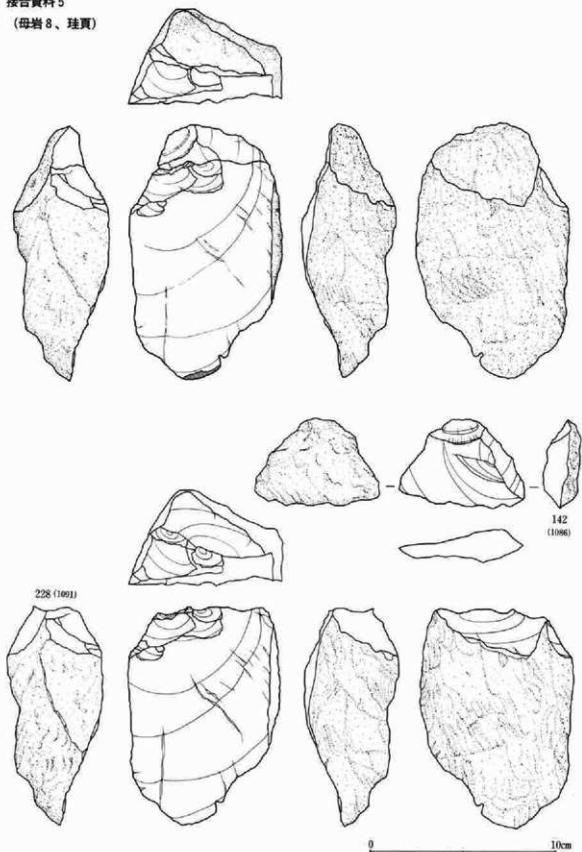


第186圖 第II文 接合・母岩別資料



第187圖 第II文 接合・母岩別資料

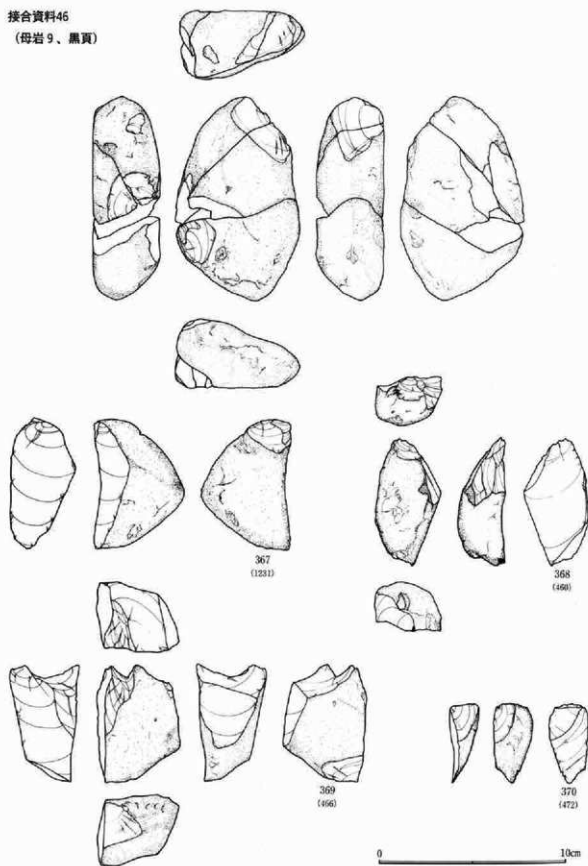
接合資料5
(母岩8、珪頁)



第188図 第II文 接合・母岩別資料

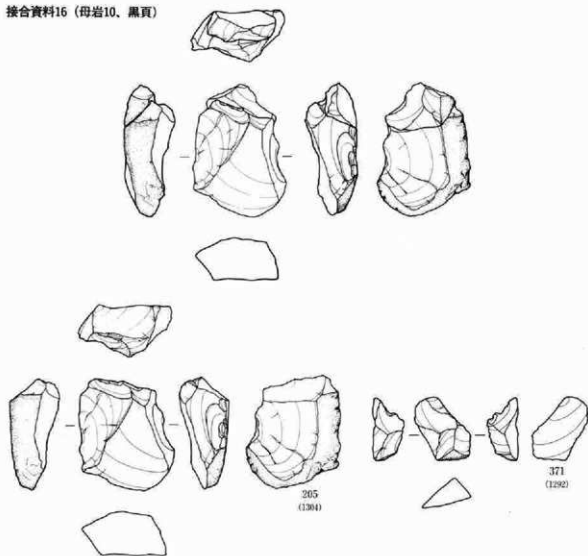
接合資料46

(母岩9、黒頁)



第189図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料16 (母岩10、黒頁)



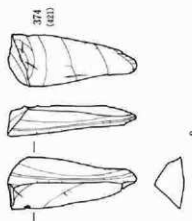
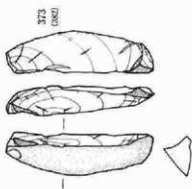
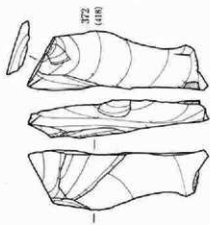
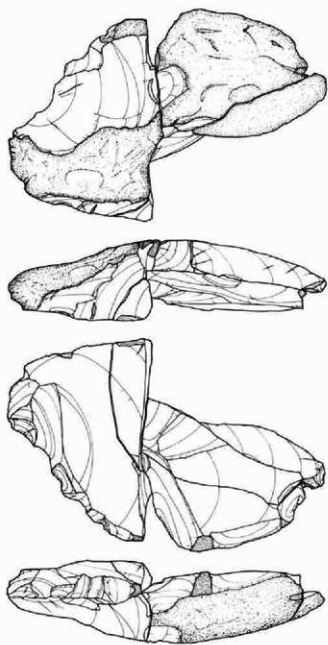
(母岩10、黒頁)



0 10cm

第190図 第II文 接合・母岩別資料

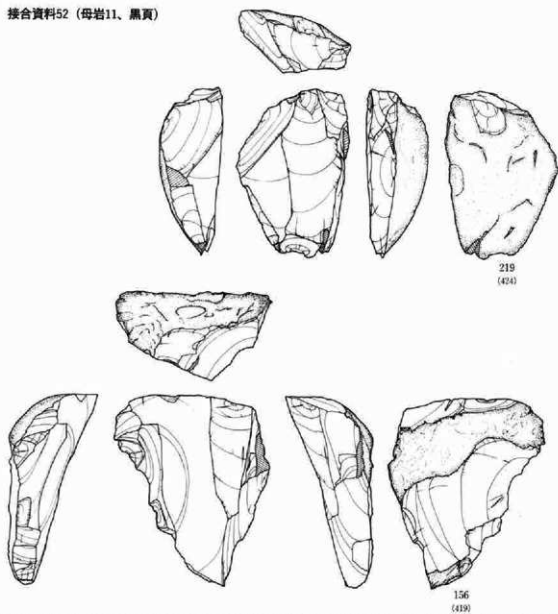
接合資料52 (母岩11, 黒頁)



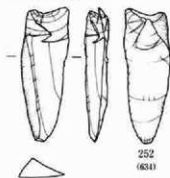
0 10cm

第191圖 第II文 接合・母岩別資料

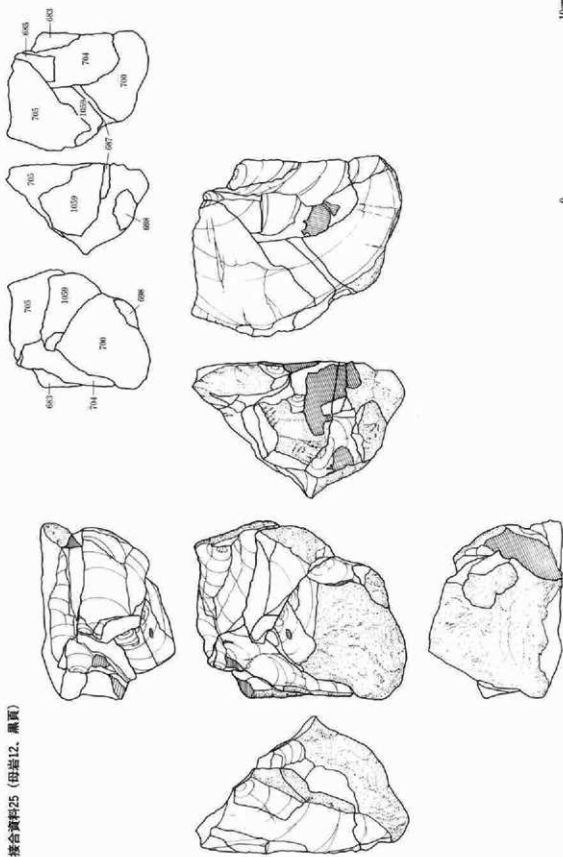
接合資料52 (母岩11、黒頁)



(母岩11、黒頁)



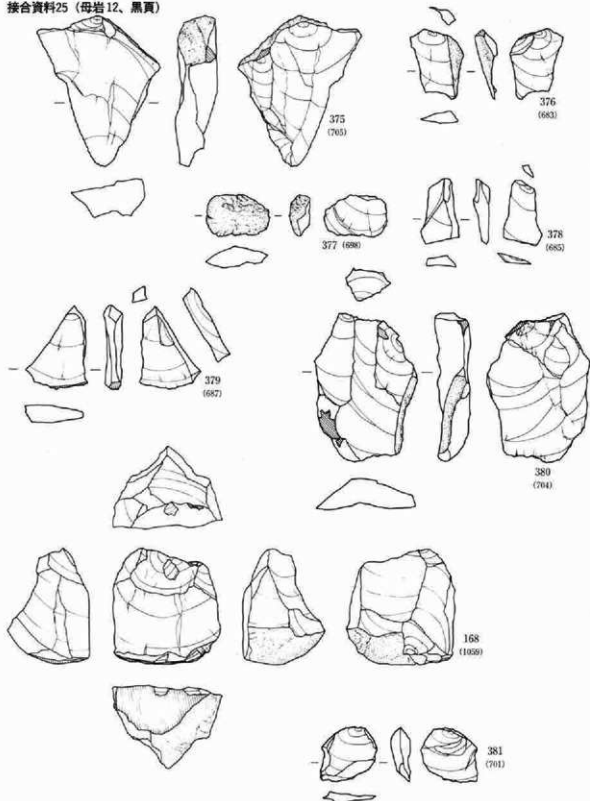
0 10cm



接合資料25 (母端12、黒頁)

第183図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料25 (母岩12、黒頁)

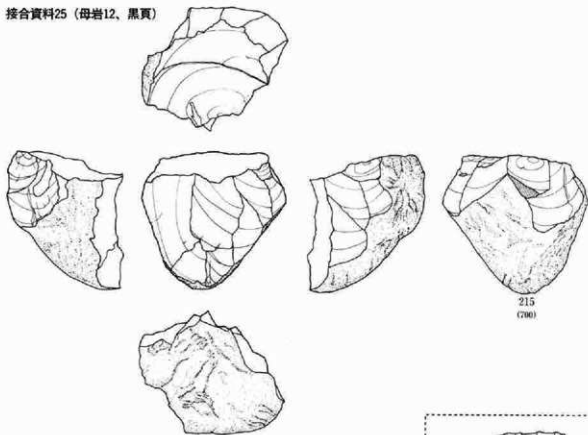


0 10cm

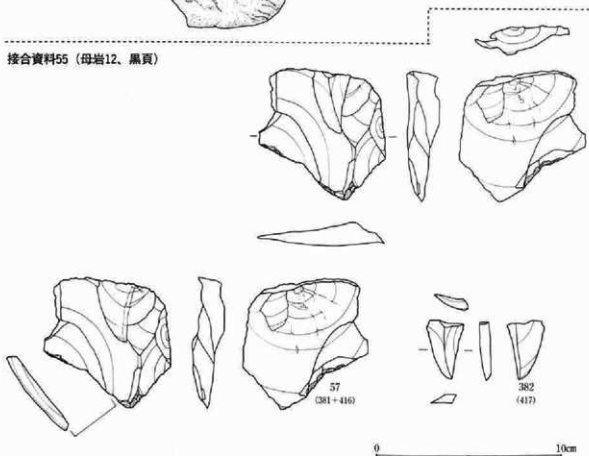
第194図 第II文 接合・母岩別資料

第3章 第II文化層

接合資料25 (母岩12、黒頁)

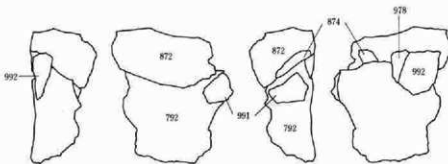
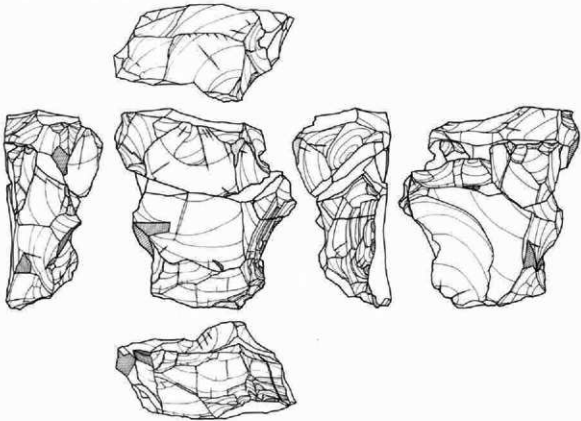


接合資料55 (母岩12、黒頁)



第195圖 第II文 接合・母岩別資料

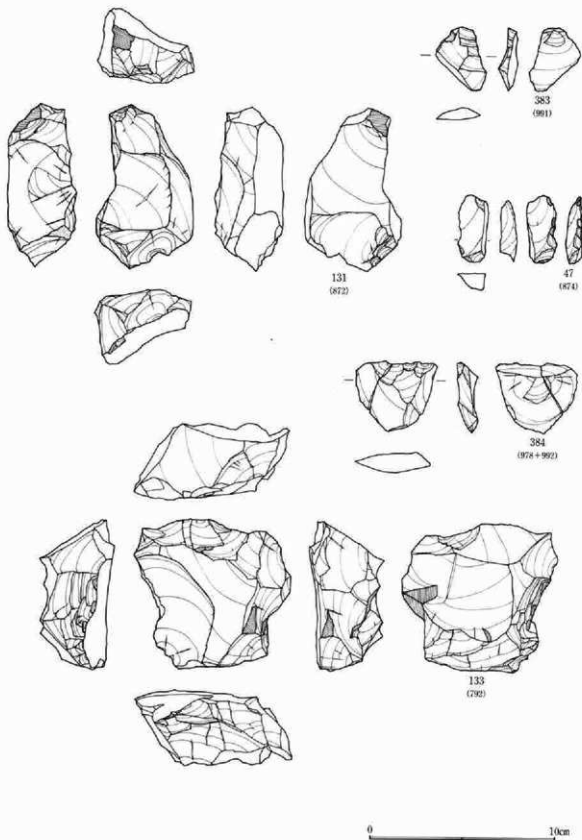
接合資料20 (母岩13、黒頁)



0 10cm

第196圖 第II文 接合・母岩別資料

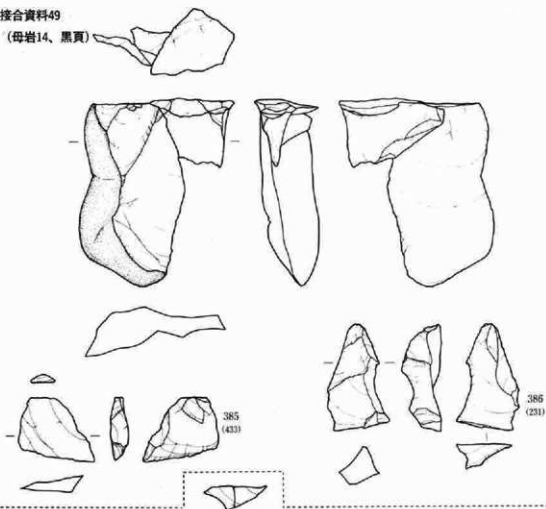
接合資料20 (母岩13、黒頁)



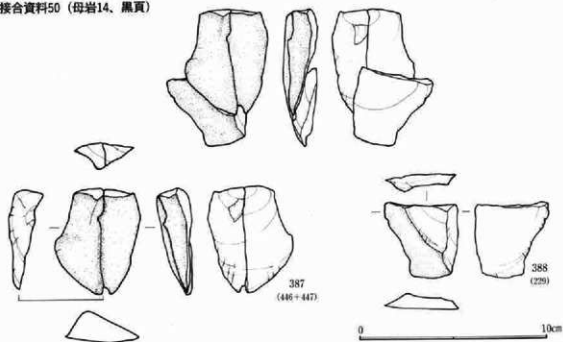
第197圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料49

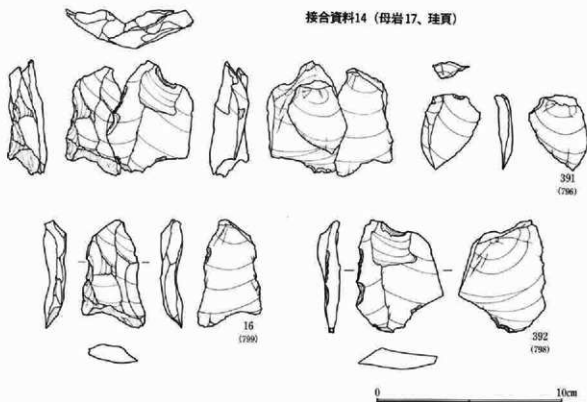
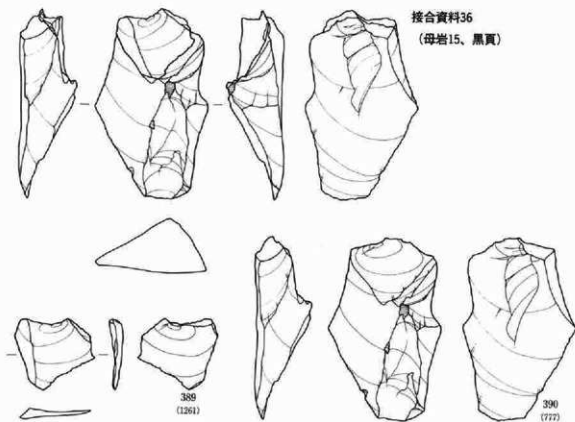
(母岩14、黒頁)



接合資料50 (母岩14、黒頁)



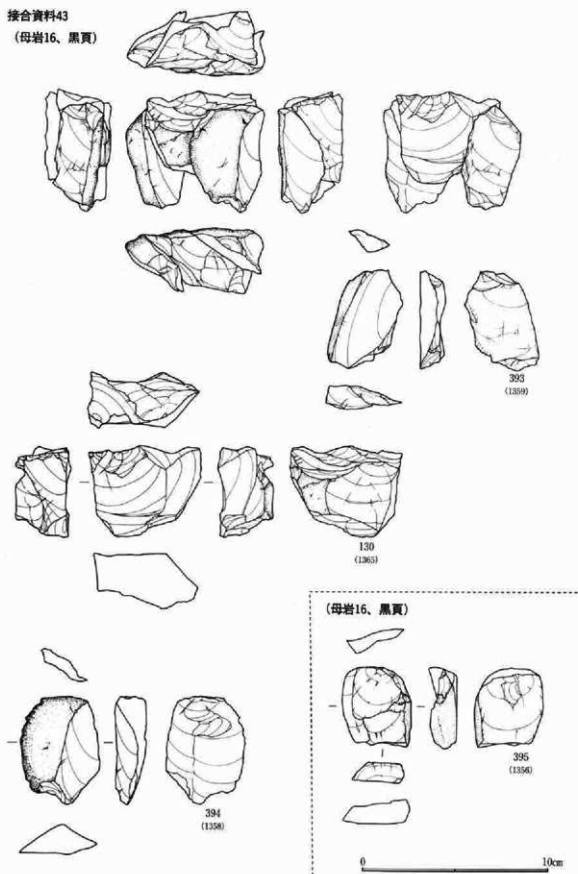
第198図 第II文 接合・母岩別資料



第199図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料43

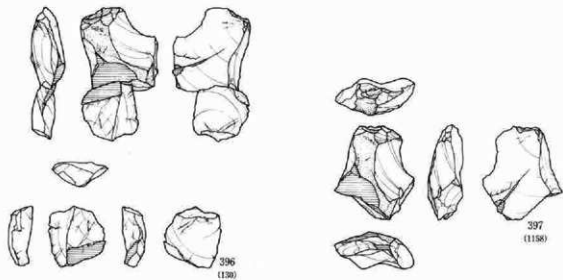
(母岩16、黒頁)



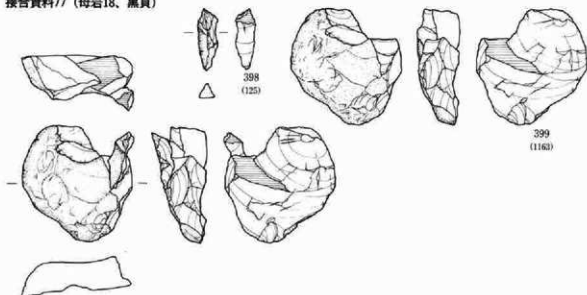
第200図 第II文

接合・母岩別資料

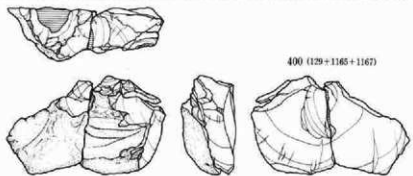
接合資料76 (母岩18、黒頁)



接合資料77 (母岩18、黒頁)



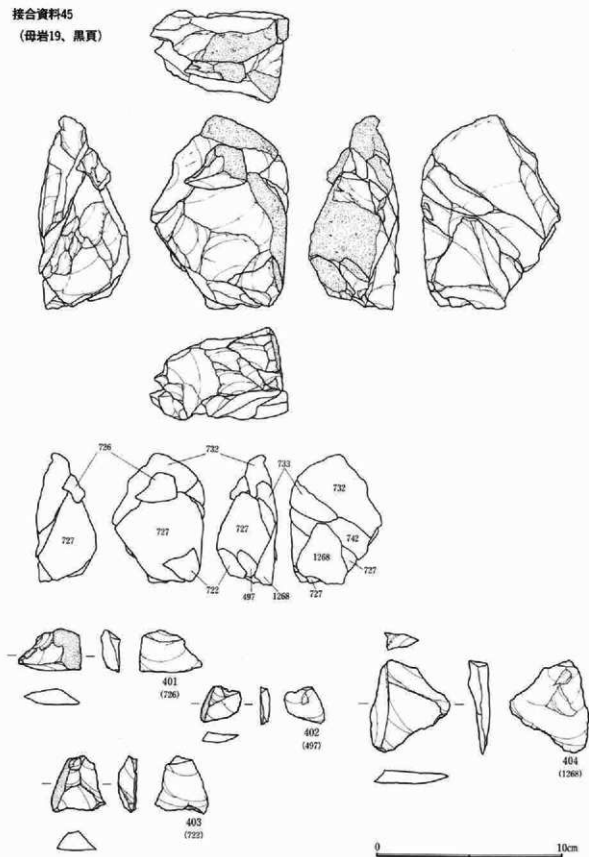
接合資料75 (母18、黒頁)



0 10cm

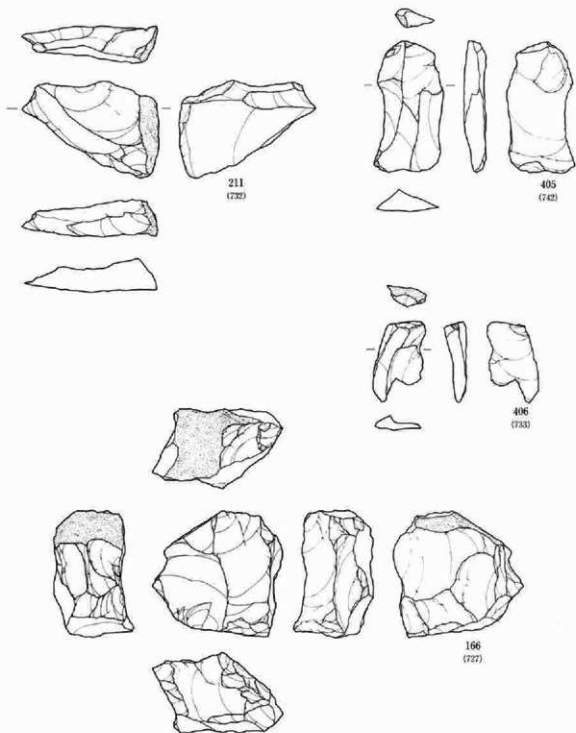
第201図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料45
(母岩19、黒頁)



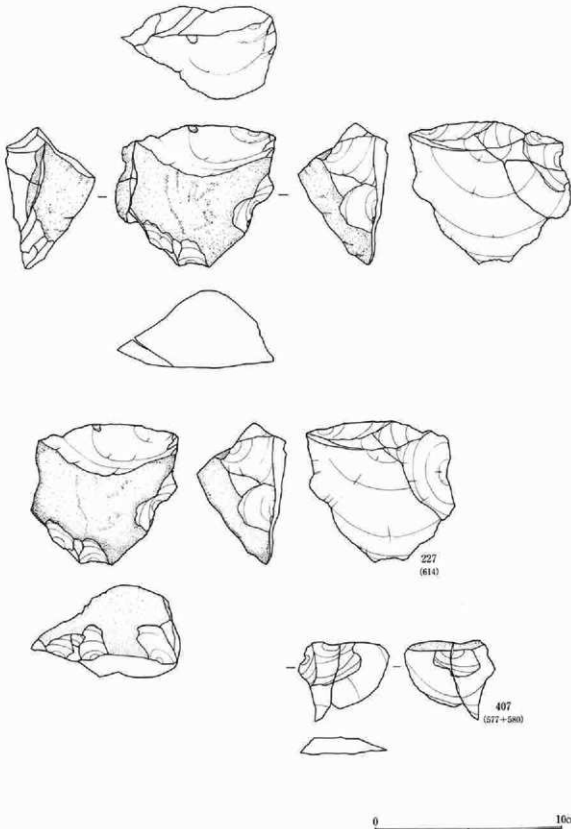
第202図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料45 (母岩19, 黒頁)



第203図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料29 (母岩20、黒頁)

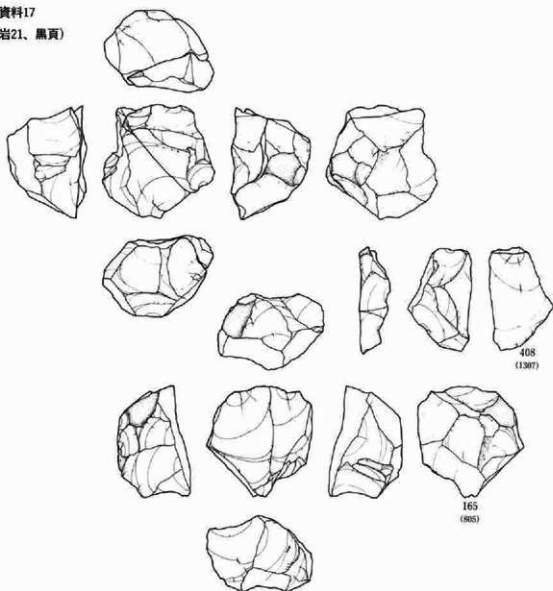


第204図 第II文 接合・母岩別資料

第3章 第II文化層

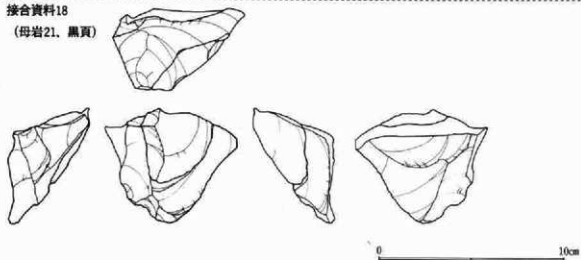
接合資料17

(母岩21、黒頁)



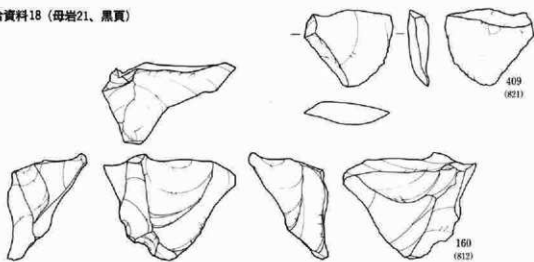
接合資料18

(母岩21、黒頁)

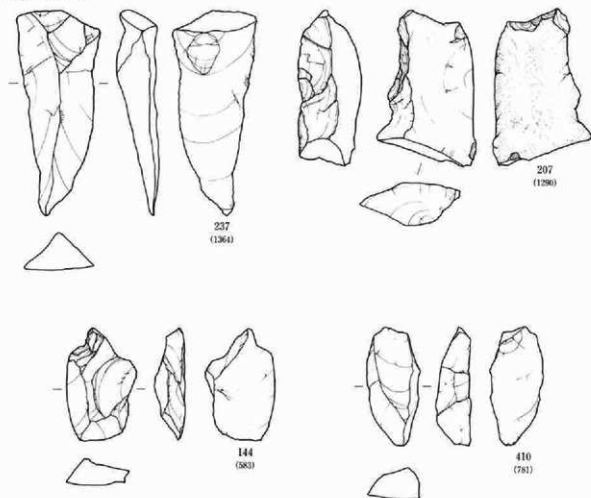


第205図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料18 (母岩21、黒頁)

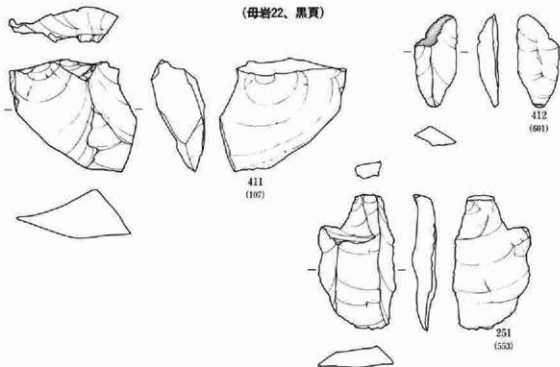


(母岩21、黒頁)

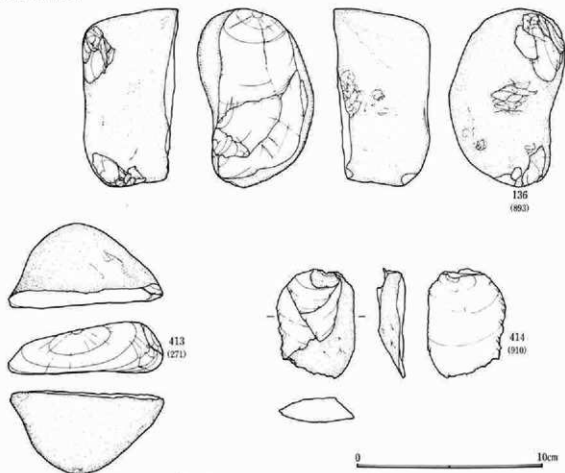


0 10cm

(母岩22、黒頁)

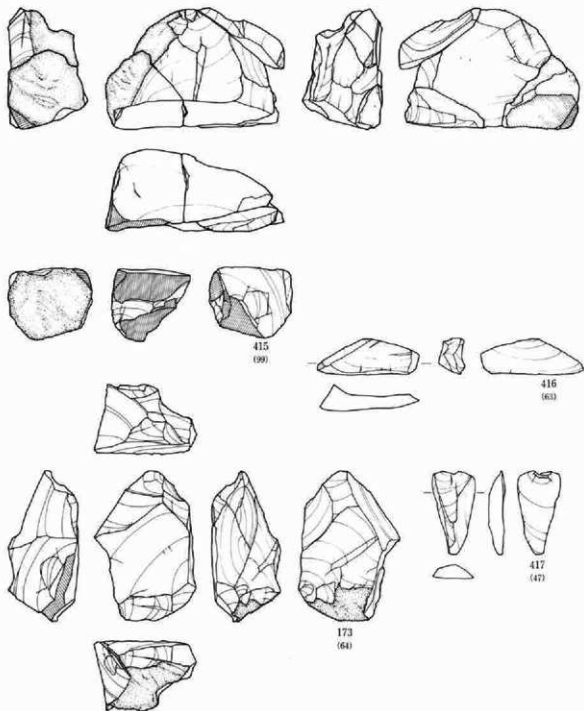


(母岩23、黒頁)



第207圖 第II文 接合・母岩別資料

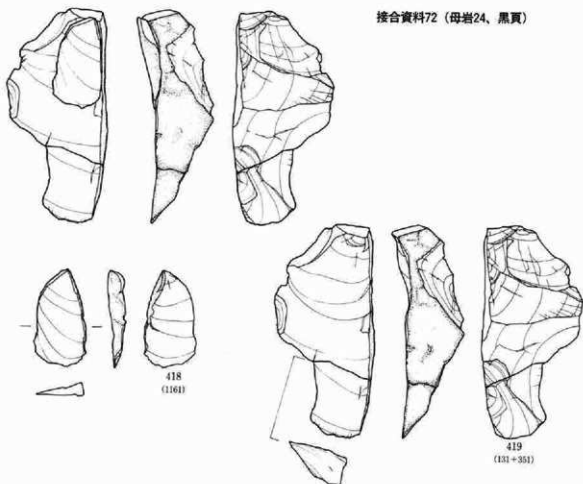
接合資料59 (母岩24、黒頁)



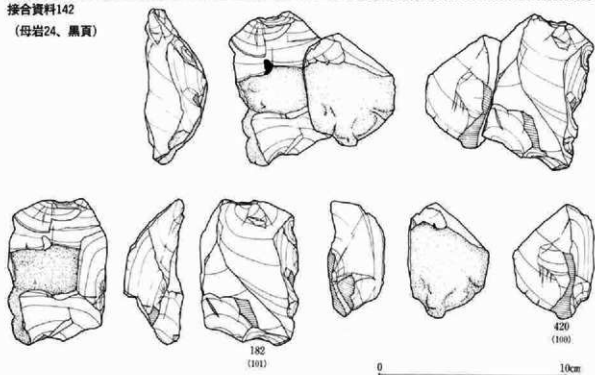
0 10cm

第208図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料72 (母岩24、黒頁)

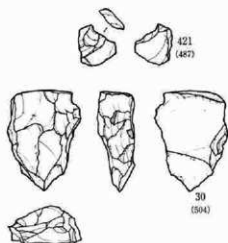
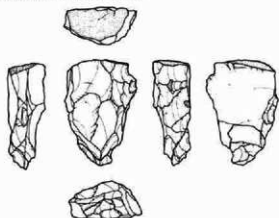


接合資料142
(母岩24、黒頁)

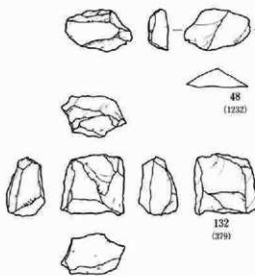
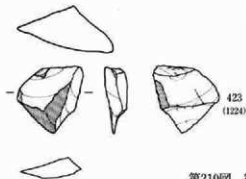
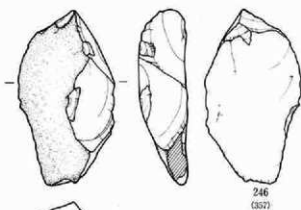
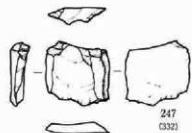
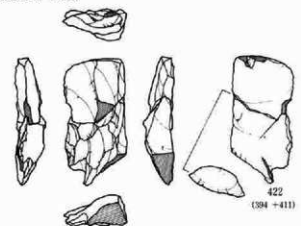


第209図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料48 (母岩25、点頁)



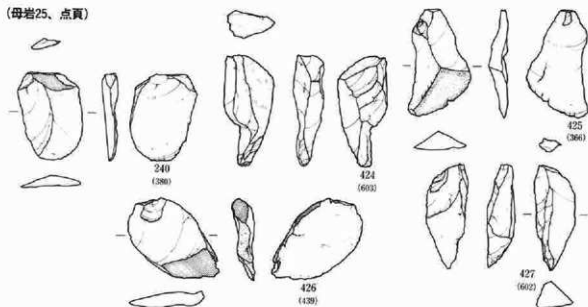
(母岩25、点頁)



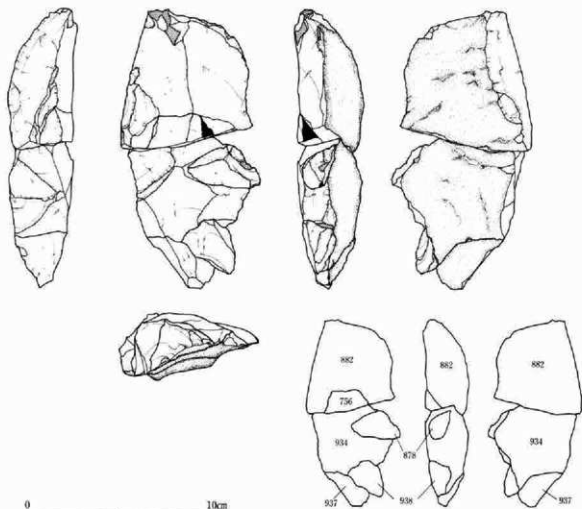
0 10cm

第3章 第II文化層

(母岩25、点頁)

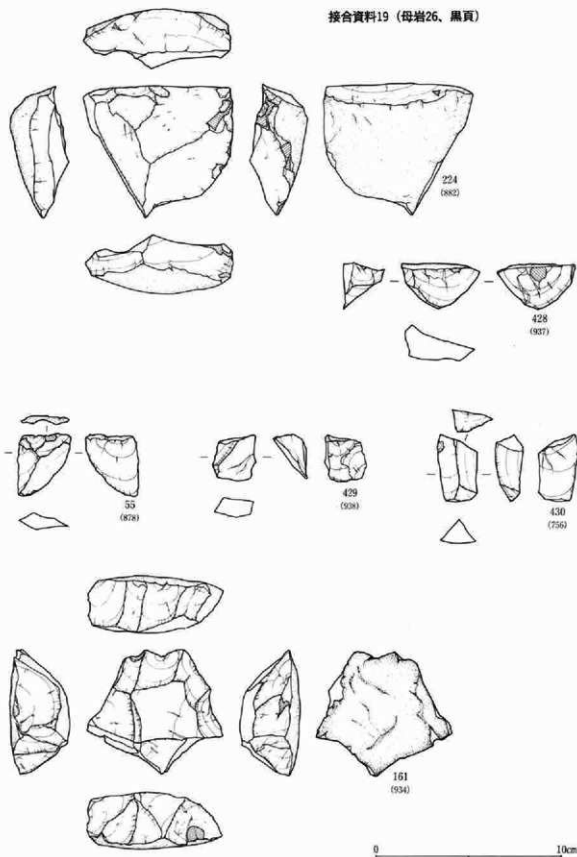


接合資料19 (母岩26、黒頁)



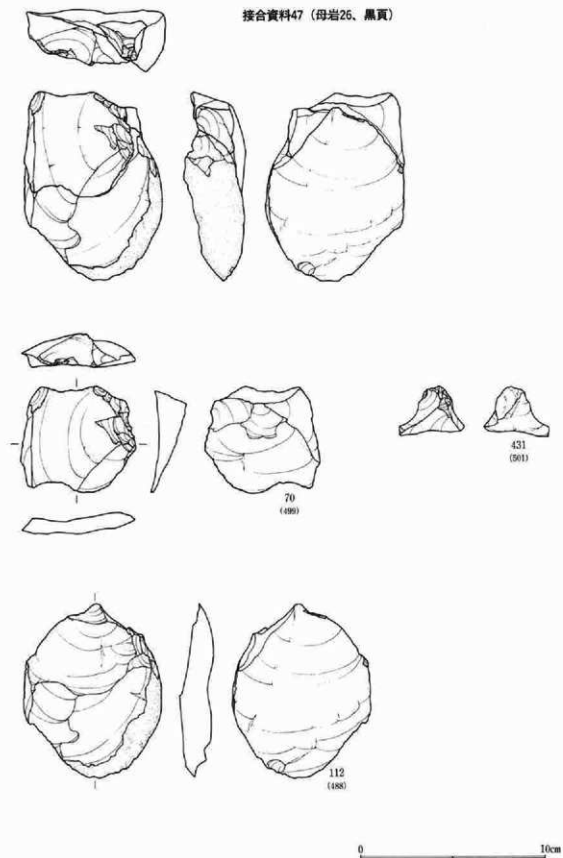
第211圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料19 (母岩26、黒頁)



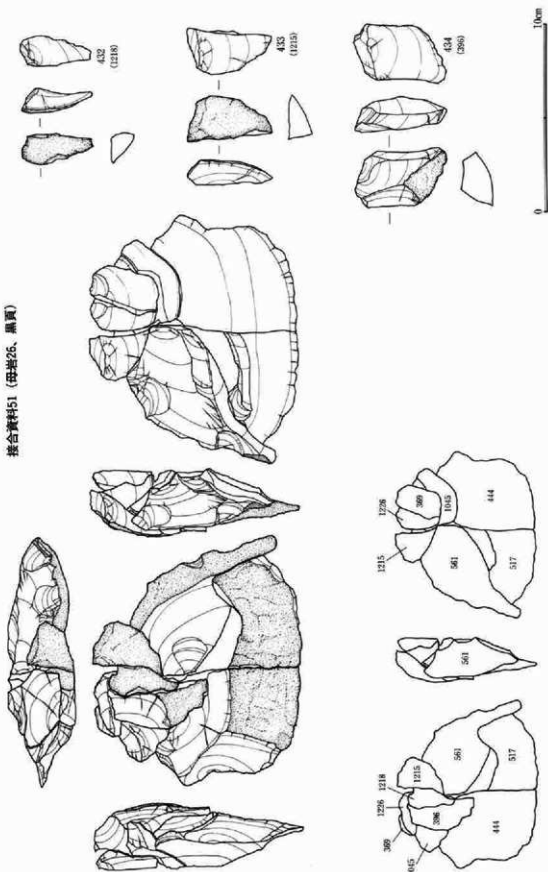
第212図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料47 (母岩26、黒頁)



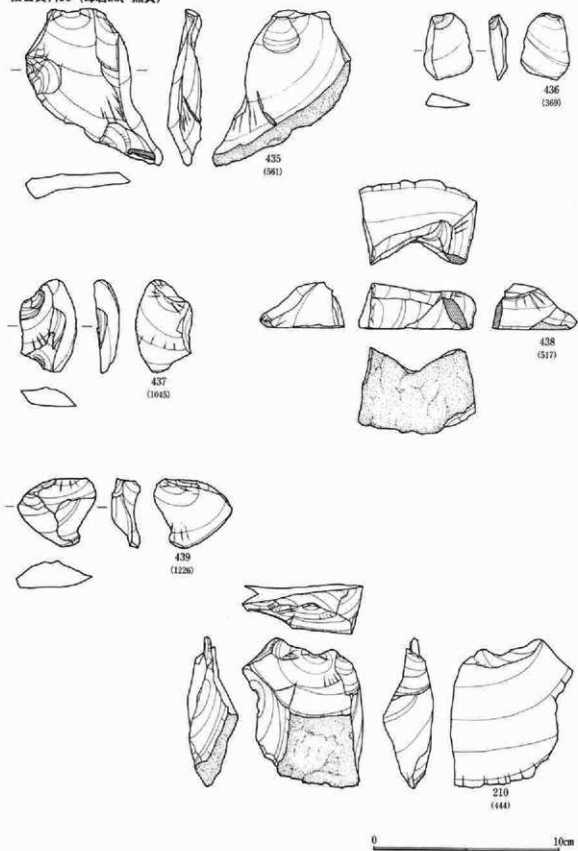
第213図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料51 (母塚26、黒頁)



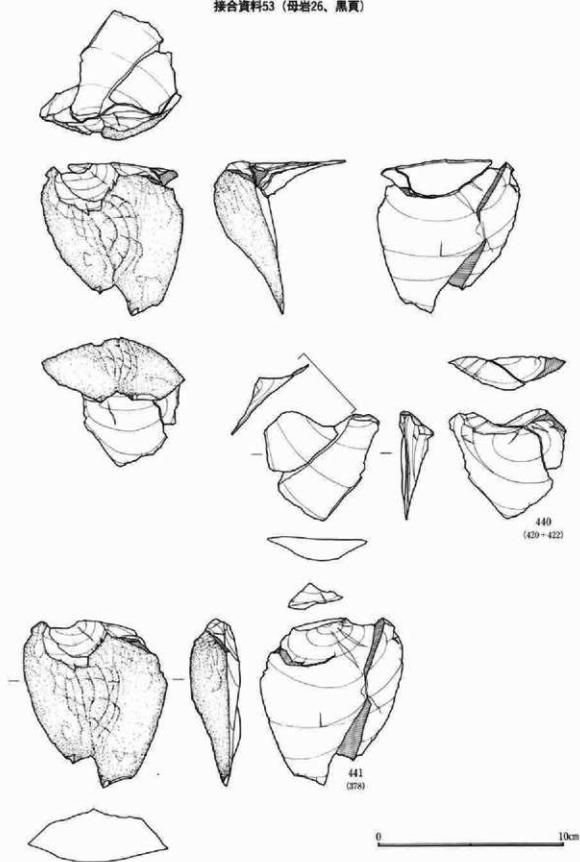
第214図 第II文 接合・母塚別資料

接合資料51 (母岩26、黒頁)



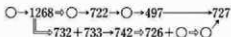
第215圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料53 (母岩26、黒頁)



第216図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料45 (母岩別資料19 第202・203図, 図版58)



本資料は、母岩別資料19に分別される剥片と石核1点を含む計8点の接合資料で、黒色頁岩を分割させたものを素材に剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、素材の比較的平坦な剥離面および礫面へ常に打面を転移させながら作業を進めていくもので、その結果166が残核として残される。なお、この剥片剥離で縦長となる剥片405が1点作出されている。

接合資料29 (母岩別資料20 第204図, 図版58)



本資料は、母岩別資料20に分別される剥片と石核1点を含む計3点の接合資料である。黒色頁岩による、かなり肉厚な剥片を素材に、剥片剥離を行ったものである。剥片剥離は、素材となる剥片の主要剥離面を打面として素材の周囲からある程度連続的に施した後、打面を素材剥片側縁の礫面へ転じて剥離を行い作業を終了している。

接合資料17 (母岩別資料21 第205図, 図版58)



本資料は、母岩別資料21に分別される石核1点と剥片1点の計2点の接合資料である。黒色頁岩による平坦な剥離面を打面に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業を進らせるものである。その結果、165が残核として残される。

接合資料18 (母岩別資料21 第205・206図, 図版59)



本資料は、接合資料17と同一の母岩別資料に分別され、石核1点と剥片1点の計2点による接合資料である。やや肉厚となる剥片を素材として、素材の主要剥離面側へ側縁方向から、平坦な剥離面を打面として剥離させたものである。

接合資料59 (母岩別資料24 第208図, 図版59)



本資料は、母岩別資料24に分別される石核1点と剥片3点の計4点による接合資料である。黒色頁岩による肉厚な剥片を素材に、素材剥片の表裏面ないしは剥離させた面へ打面を転移させ、剥片剥離作業を行っている。その結果、173が残核として残される。

接合資料72 (母岩別資料24 第209図, 図版59)



本資料は、接合資料59と同一の母岩別資料に分別され、剥片3点の接合資料である。他の資料と同様に、打面転移しながら剥片剥離を繰り返す中で、平坦な剥離面から剥離を行ったものである。

接合資料142 (母岩別資料24 第209図, 図版59)



本資料は、接合資料59・72と同一の母岩別資料に分別され、石核1点と剥片1点の計2点による接合資料である。先の同一母岩資料との接合関係にはないが、礫表皮面をもつ肉厚な剥片を素材に、素材の主要剥離面を打面に420を剥離させた後、182を素材として周囲に剥離を施したものである。

接合資料48 (母岩別資料25 第210図, 図版60)

○→487+○→504

本資料は、母岩別資料25に分別される、掻・削器1点と剥片1点の計2点による接合資料である。黒色頁岩による剥片を素材に、その両側縁に連続的な調整加工を施す掻・削器に分類されるものであるが、端部裏面への調整を加えた際に剥離した剥片が421である。

接合資料56 (母岩別資料25 第210図 422)

○→394+411…?

本資料は、接合資料48と同一の母岩別資料に分別され、剥片2点による接合資料である。一連の剥片剥離作業の中で剥離された、縦長となる剥片の欠損したものが接合したものである。

接合資料19 (母岩別資料26 第211・212図, 図版60)

○→756→882

↳?…○→878→937→938→934

本資料は、母岩別資料26に分別される剥片と、石核2点、加工痕を有する剥片1点を含む計6点の接合資料である。黒色頁岩による礫表皮を残すやや肉厚な剥片を素材に、側縁の平坦面を打面に上下に分割し、共に石核として剥片剥離を行う。224を残核とした剥片剥離は、分割した際の打面を共有し、数度の連続した剥離を施す。一方、161を残核とするものは、素材の礫表皮面を打面として主要剥離面側へ、球心的(亀状)に周辺剥離を施し、加工痕を有する剥片55のような小形の剥片を剥離させている。

接合資料47 (母岩別資料26 第213図, 図版60)

499+488+501

本資料は、接合資料19と同一の母岩別資料に分別され、加工痕を有する剥片2点と使用痕を有する剥片1点による計3点の接合資料である。他の同一母岩の資料とは接合関係にはないが、平坦な剥離面を打面に打面転移が繰り返されながら剥片剥離が進められ、作出されたものである。この資料は、打撃を加えた際に三つに分かれ剥離したもので、本来一つの剥片である。

接合資料51 (母岩別資料26 第214・215図, 図版60)

○→369→○→1226⇒1218→396⇒1045⇒○→444

↳○…?…○⇒1215⇒○→561→○→517→?

本資料は、接合資料19・47と同一の母岩別資料に分別される剥片と石核2点を含む計9点の接合資料である。他の同一母岩の資料とは接合関係にはないが、礫表皮をもつ大形で肉厚な剥片を左右に大きく分割し、その両者を素材に剥片剥離を行っている。210を石核とする剥片剥離は、本来の素材剥片の打面ないしは表皮面を打面に剥離を開始し、その剥離面を打面とするように打面転移を繰り返しながら作業を進め、436・439・432・434・437等の剥片が作出される。一方、438を石核とする剥片剥離は、先の436・439と同様な打面からの剥離で開始されるが、途中から打面を素材の分割面に転移させ、連続的に打点を後退させるように剥片剥離を行い、435等の剥片が作出されている。

接合資料53 (母岩別資料26 第216図, 図版61)

○⇒378⇒422→420…?

本資料は、接合資料19・47・51と同一の母岩別資料に分別される剥片3点による接合資料である。比較的平坦となる剥離面を打面に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業を進めている資料である。この資料にもなう石核は、不明である。

接合資料68 (母岩別資料27 第217~220図, 図版61)

○→1210→○→539→○→407→○→1228→403→○→302→1209+○→402→324+○→319+320→1208
→297+○→322→410

本資料は、母岩別資料27に分別される剥片と石核3点を含む計16点による接合資料で、黒色頁岩による長さ14cm、幅11cm、厚さ6~7cm前後程の河床礫を素材に剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず素材礫を扁平に大きく分割し、その分割面に周囲から平坦剥離を行い441・452らを剥離させ、その後打面を90度転移させ442を剥離させる。さらに大きく打面を転移させ、表皮を打面に連続的に443~449の剥片を剥離させていく。そして剥片447を剥離させた後、打面を90度転移することで453・451を剥離させ、さらに打面転移により450を剥離させ、作業を終了させる。その結果、226が残核として残される。また、この一連の作業より剥離されたもののうち445や206は、さらにそれを素材に若干の剥離が施される石核として使用されている。

接合資料2 (母岩別資料28 第224図, 図版63)

○→1150+1102→1094→1039…?

本資料は、母岩別資料28に分別される剥片4点による接合資料である。黒色頁岩を石材にしたもので、他の同一母岩資料との接合関係はないが、平坦な剥離面を同一打面に、連続的に表皮側を剥離させたものである。

接合資料3 (母岩別資料28 第224図, 図版63)

○→○+1037→1084+1083+1062

本資料は、接合資料2と同一の母岩別資料に分別される剥片4点による接合資料である。剥片に残された剥離面から、打面転移しながら剥片剥離を行っていることを知ることができる。平坦な打面から剥離させた縦長となる剥片であるが、節理面によりいくつか欠損するもの。

接合資料10 (母岩別資料28 第225図 477)

○→1128+1049…?

本資料は、接合資料2・3と同一の母岩別資料に分別される剥片2点による接合資料である。節理面により欠損したもので、本来同一の剥片である。

接合資料32 (母岩別資料28 第224図, 図版63)

○→671→665

本資料は、接合資料2・3・10と同一の母岩別資料に分別される剥片の計2点による接合資料である。やや小さめに分割された剥片素材の471の周囲に、剥片剥離を施し472等を剥離させる。

接合資料40 (母岩別資料28 第225図, 図版63)

○→○+1067→867+888…?

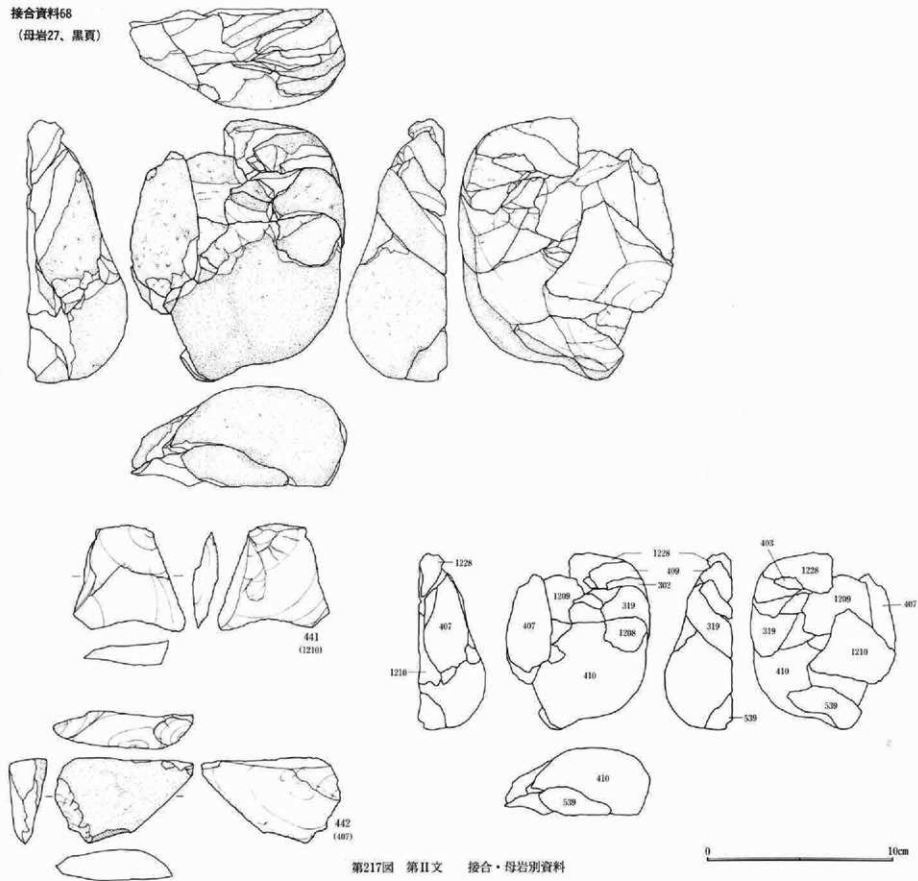
本資料は、接合資料2・3・10・32と同一の母岩別資料に分別される剥片3点による接合資料である。他の母岩別資料との接合関係にはないが、平坦な剥離面を同一打面に剥離させたものである。

接合資料67 (母岩別資料28 第221~223図, 図版62)

○→○
→362→○→○→330→311→○…?…○→135…?
→356→328→295→○→1204→323→327
→347+355

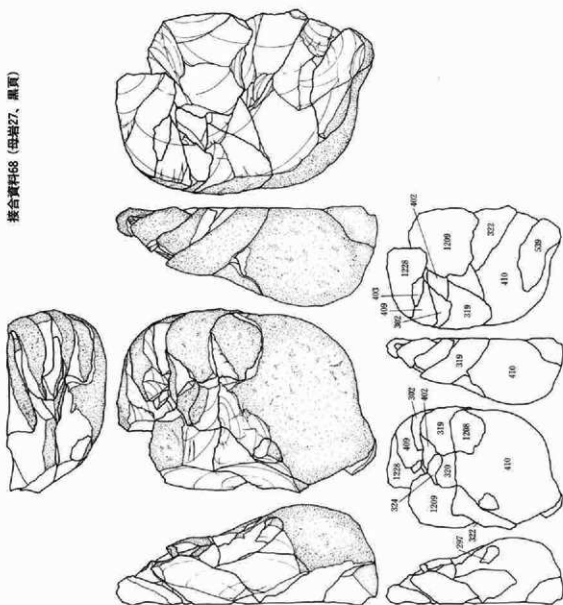
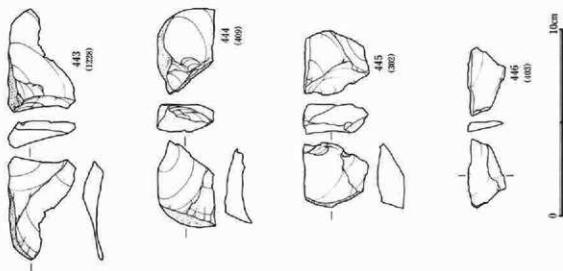
接合資料68

(母岩27、黒頁)



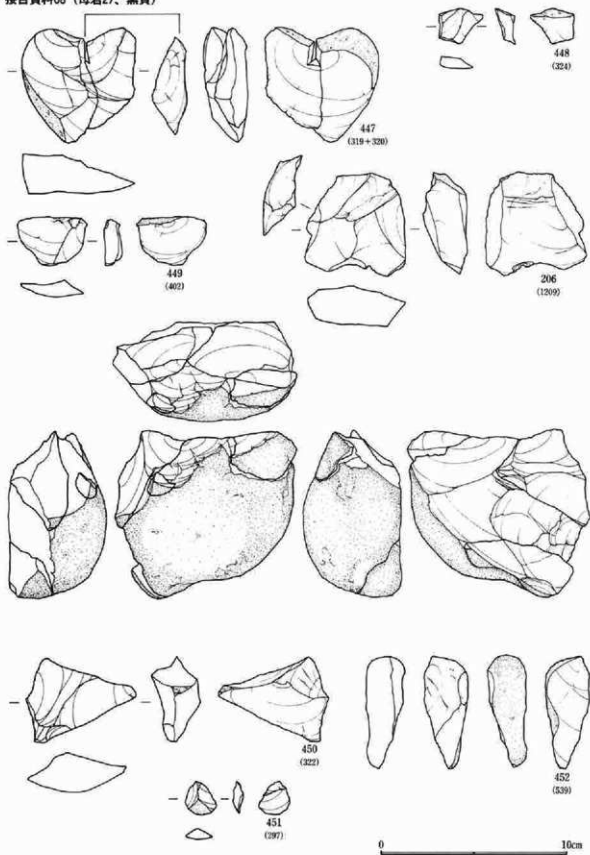
第217図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料68 (母岩27、黒頁)



第218圖 第II文 接合・母岩別資料

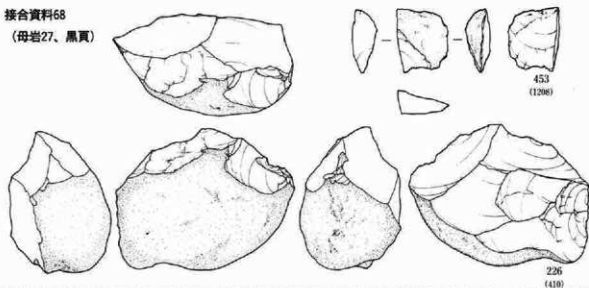
接合資料68 (母岩27、黒頁)



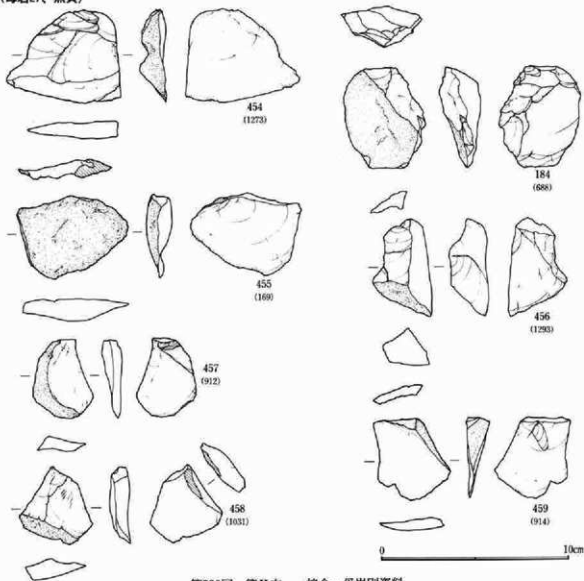
第219圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料68

(母岩27、黒頁)



(母岩27、黒頁)



第220回 第II文 接合・母岩別資料

本資料は、接合資料2・3・10・32・40と同一の母岩別資料に分別される剥片と使用痕を有する剥片1点、播・削器1点、石核2点を含む計13点の接合資料である。他の母岩別資料との接合関係にはないが、平坦な剝離面を打面に、打面転移を繰り返しながら剝離させたことがうかがえる良好な資料の一つである。第222図に示した接合資料は、一度の打撃により分離し剝離された剥片で、本来一つの剥片となるべきものである。これらの剥片および138は、同一の打面から剝離される大形の剥片で、その後その剝離面を打面に108が剝離され、さらに打面を転移し465が剝離されていく。この接合資料にともなう石核は不明であるが、一連の作業により作出された剥片のうち、108は使用痕を有する剥片に、138は主要剝離面側に464を剝離させる石核に、さらに分離し剝離した剥片を折断し、最後に連続した調整加工を施すことで播・削器に加工された33が存在する。

接合資料140 (母岩別資料29 第227図 486)

437+438

本資料は、母岩別資料29に分別される剥片2点による接合資料である。黒色頁岩を石材とし、打面転移を繰り返しながら剥片剝離を行う中で、平坦な剝離面を打面に剝離された肉厚な剥片であるが、節理面で欠損したものが接合した資料である。

接合資料137 (母岩別資料29 第226図、図版63)

○→16A⇒○…?…○⇒546⇒○…?→550

本資料は、接合資料140と同一の母岩別資料に分別される剥片3点による接合資料である。打面転移を繰り返しながら剥片剝離を行う中で、それぞれ平坦な剝離面を打面に剝離された剥片である。

接合資料70 (母岩別資料30 第228図、図版64)

○→406
└→343+360+1213

本資料は、母岩別資料30に分別される剥片4点による接合資料である。黒色頁岩を石材とし、平坦な剝離面を打面に、一度の打撃で2枚に分離し剝離した剥片の接合であるが、この内489とした剥片は三つに折断されている。

接合資料15 (母岩別資料31 第230図、図版64)

○→1285→1282

本資料は、母岩別資料31に分別される石核1点と剥片1点による計2点の接合資料である。灰白色系の黒色頁岩による剥片素材の石核181の周囲に、表裏面側へ打面を転移させながら連続的に剝離を施したもので、493もそうした一連の作業で作出された剥片である。その結果、残核となる181は亀状となり、作出された剥片の多くは、寸詰まりな幅広なものないしは横長剥片となる。

接合資料21 (母岩別資料31 第229図、図版64)

○→957→974→○→922→○→813

本資料は、接合資料15と同一の母岩別資料に分別される剥片と石核1点を含む計4点の接合資料である。剥片剝離作業の初期の段階で、素材線の端部に打撃を加え分割された縦長状の分割線素材に、その下端部から素材の表面と主要剝離面側への上下に剝離を施し、491・490・492等の剥片を作出する。その結果、95は両刃状の石核を呈し、残核となる。作出される剥片は、幅広な不定形なものを主とする。

接合資料30 (母岩別資料32 第231図、図版65)

○→599→○…?⇒○⇒○→892…?

本資料は、母岩別資料32に分別される剥片2点による接合資料である。節理が溝状に数本はいる珪質頁岩を石材に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行うもので、それぞれ平坦な剥離面を打面に剥離されている。他の同一母岩資料との接合関係はなく、石核は不明であるが、作出された剥片は不定形な横長・縦長剥片である。

接合資料31 (母岩別資料32 第231・232図, 図版65)

○→902→900→○→897…?

本資料は、接合資料30と同一の母岩別資料に分別される剥片3点による接合資料である。この資料に伴う石核が不明なため、その石核形状は知れないが、剥片剥離は平坦な剥離面を同一打面に、連続的に順次剥離させていることがうかがえる。作出される剥片は、縦長剥片が主体となる。

接合資料135 (母岩別資料33 第233図, 図版65)

1283→1316

本資料は、母岩別資料33に分別される剥片2点による接合資料である。節理の多い黄灰色系の黒色安山岩を石材に、同一の打面から剥離された幅広い剥片の接合である。

接合資料138 (母岩別資料33 第232・233図, 図版65)

○→1317→○…?…○→721→○→505

本資料は、接合資料135と同一の母岩別資料に分別される石核1点と剥片2点による計3点の接合資料である。剥片剥離作業の初期の段階に剥離された肉厚の大形の剥片を素材に、502を素材の裏面から折断して石核とし、その折断面側に数度の剥離を施した後、上下の両極から剥離を施すものである。作出される剥片は、比較的寸詰まりではあるが縦長の剥片が剥離されたと考えられ、結果として180が残核となる。

接合資料54 (母岩別資料34 第234図, 図版65)

370→○→1217→1216

本資料は、母岩別資料34に分別される石核1点と剥片2点による計3点の接合資料である。艶のある黒色頁岩の河床礫を原石に、剥片剥離作業の初期の段階で作出された大形の剥片を素材にしたもので、幾度か打面転移しながら剥片剥離を行い、507を剥離させる。その後、素材の主要剥離面側へ周囲から平坦剥離を施し、大きく打面を転じて508を剥離させる。さらに508の剥離面を打面に剥離を試みるが、作業を終了させている。作出された剥片は、大方不定形なもので、119がサイコロ状となる形状の残核として残される。

接合資料39 (母岩別資料35 第235～237図, 図版66)

○→1126→1119→○→1112→○→1109→840→858→○→○→1270→○→246→851
○→869→1124→849→1117+850

本資料は、母岩別資料35に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点、石核1点を含む計14点の接合資料である。黄灰色の黒色頁岩の河床礫を原石に、打面転移等による剥離を繰り返して、断面形が三角状となる長方体の石核に仕上げ、その作業面となる面に左右両方向から平坦な剥離を施し打面とする。この作出された打面の長軸の両端に、連続的な剥片剥離を施し、514・59・518・511のやや幅広い縦長剥片を剥離する。その後剥離させる位置を側面側に移し、510・516の不定形な横長・縦長剥片を剥離させ、大きく打面を転移させながら509・513を剥離することで、打面を再生する。さらに打面転移を繰り返して、512・515・517の横長ないしは縦長となる剥片を順次剥離させている。その結果、158は残核として残される。剥離された剥片は、横長となる剥片も作出されているが僅か、その主体は縦長となる剥片を目的に剥離がなされたものと思われる。

接合資料11 (母岩別資料36 第238図, 図版66)

○→1245→1043

本資料は、母岩別資料36に分別される剥片2点による接合資料である。節理の多く目立つ黒色頁岩を用い、打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業を進めたものであり、522のような縦長となる剥片も剥離されていたことがうかがえる。

接合資料141 (母岩別資料36 第238・239図, 図版66)

○→1155…?…477→66

本資料は、接合資料11と同一の母岩別資料に分別される石核1点と剥片2点による計3点の接合資料である。サイコロ形状を呈する石核190に、打面転移しながら剥離された不定形な剥片が接合したものである。

接合資料116 (母岩別資料37 第240図, 図版66)

○→412→1219→338+367+1221…?

本資料は、母岩別資料37に分別される剥片5点による接合資料である。節理が、白色の縞状に幾筋も入る黒色頁岩を石材とし、打面転移を行いつつ作業が進められているものと思われるが、この資料についてはやや平坦な剥離面を同一の作業面に、連続的に剥片剥離がなされたもので、いずれも幅広となる不定形な剥片である。

接合資料61 (母岩別資料40 第242図, 図版67)

○→○+51+106…?

本資料は、母岩別資料40に分別される剥片2点による接合資料である。黒色頁岩を石材に、礫表皮を残す大形の肉厚な剥片を素材としたもので、素材剥片の打面に主要剥離面側から剥離を施した後、大きく打面を転移し、端部の平坦な剥離面を打面として連続的に縦長となる剥片を剥離させたものである。

接合資料65 (母岩別資料41 第243図, 図版67)

○⇒1174→1171

本資料は、母岩別資料41に分別される石核1点と剥片1点による計2点の接合資料である。黒色頁岩を石材とする、拳大程の断面三角となる楕円状の河床礫を原石に、その両端部および稜の部分に打撃による潰れ痕ないしは表面の剥落が顕著に認められる他、平坦面の一部にも同様の潰れ痕が確認できる。また、両端には、大きく剥離された部分や、剥離した537が接合している。当初、敲石として使用されていたと考えられる。剥離は、敲石としての打撃による剥離とも考えられるが、その後剥離を開始したものとして捉えておく。

接合資料58 (母岩別資料42 第244・245図, 図版67)

○→103→1169→1154+67→65…?

本資料は、母岩別資料42に分別される剥片5点による接合資料である。節理を縞状にもつやや黄灰色な黒色頁岩で、長さ10cm以上、幅8cm、厚さ7cm前後の河床礫を原石に、剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず原石を大きく上下に分割し、一方にその分割面を同一の打面として、連続的に縦長剥片が作出できるように剥片剥離を繰り返すものであるが、これに伴う石核は残存していない。

接合資料86 (母岩別資料43 第246～248図, 図版68)

○→763→○…?…○→788→○⇒○→783
 └─○799→○→1324→1327
 └─○

本資料は、母岩別資料43に分別される石核2点と槌・削器1点、加工痕を有する剥片1点、剥片2点によ

る計6点の接合資料である。斑晶の多く含まれる人頭大以上の黒色安山岩の河床礫を原石に、大きく幾つかに分割し、その分割礫の一つを素材に剥片剥離を行ったものである。まず分割面を打面に礫表皮への剥離が開始され、その剥離面に打面が転じられ分割面側へ剥離が施される。さらに分割面へ施された剥離面へ打面を転じ、幅広い縦長剥片60を剥離させる。その後、先の60の剥離面へ打面を転移させ、不定形な横長剥片20および同一剥片であった542・543・155を剥離させる。さらに打面を転移し剥片剥離を行うが、147は石核から欠損する。また、剥離された剥片60は加工痕を有する剥片に、20は掻・削器として新たな調整加工が施される一方、155は石核として542・543等の剥片を剥離させている。

接合資料94 (母岩別資料43 第252図, 図版69)

738+741+740

本資料は、接合資料86と同一の母岩別資料に分別される剥片と掻・削器1点、加工痕を有する剥片1点を含む計3点の接合資料である。平坦な剥離面を打面に剥離された、礫表皮を残す縦長となる剥片であるが、これを折断することにより、側縁に連続的に平坦剥離を施した掻・削器27と、端部に若干の調整加工を施した加工痕を有する剥片558とが存在する。

接合資料96 (母岩別資料43 第249～252図, 図版69)

○→843+841→○→1113→848→725+857→855→835→○…?…○→833→○…?…○→836+830⇒○→846→852⇒1107+838⇒1114→828⇒270+○+839…?

845
862

本資料は、接合資料86・94と同一の母岩別資料に分別される剥片とナイフ形石器1点、加工痕を有する剥片1点、石核2点を含む計21点の接合資料である。分割された大形の礫を素材に、剥片剥離を行ったものである。工程の最初の段階は不明であるが、ある段階で分割面を打面に幅広い平坦な剥片を剥離し、その面を打面に転じて544・548を剥離させ、一旦打面を転じるが剥片を作出できずに打面を戻し、549・547を544と同一打面から剥離させる。その後、547の剥離面へ打面を移し545を剥離させ、さらに打面を転移させながら546等の剥片を剥離させる。その後打面を大きく転移させ553を剥離し、なおも打面転移を繰り返しながら550・552・551等の剥片が剥離される。続いて551の剥離面を打面として139の大形剥片が剥離され、なおも打面を転移し555を剥離させる。この段階に至ると、石核自体もかなり小型化してくると思われるが、なおも作業を続け、剥片555の剥離面を打面に縦長剥片を作出させている。この縦長剥片は、6と554が同一剥片であることが接合関係から確認されており、これを素材に、打面および打瘤の除去さらには片側縁への調整加工が施されるナイフ形石器6となる。この調整加工の際に剥離された調整剥片が、554・556・557である。なお、この剥片剥離作業に伴う石核は出土していないため不明であるが、作出された剥片は縦長剥片をも含むが、その多くは幅広い不定形な剥片が主体をなしている。また、ナイフ形石器以外にも使用された剥片としては、大形剥片の139が石核として用いられていることがあげられる。

接合資料98 (母岩別資料43 第253図, 図版68)

○→832⇒1111+844→○…?…○→1116→1120→○…?…○→847…?

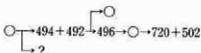
本資料は、接合資料86・94・96と同一の母岩別資料に分別される剥片6点による接合資料である。分割礫を素材に剥片剥離を行うもので、礫面を打面に一部打面を転移させながら分割面側へ剥離を施し560・559・561を剥離させる。その後も打面を転じながら、礫表皮を剥ぎ取るように562～564の剥片を順次剥離させている。

接合資料100 (母岩別資料43 第254図, 図版70)

○→863→○→651

本資料は、接合資料86・94・96・98と同一の母岩別資料に分別される石核1点と剥片1点による計2点の接合資料である。大形のやや肉厚な剥片を素材に、素材の両面へ剥離を施す中で565を剥離させ、その後も周囲に剥離を行い177が残核として残される。

接合資料108 (母岩別資料43 第254・255図, 図版70)



本資料は、接合資料86・94・96・98・100と同一の母岩別資料に分別される剥片および破片と石核2点を含む計5点の接合資料である。平坦な剥離面を打面に剥離された大形の剥片であるが、剥片の下端部の縁面を打面に打撃を加え折断したもので、その後その一方の201に、さらに剥離を施している。

接合資料83 (母岩別資料44 第255・266図, 図版70)

○→1306+1311→○→807→○→808→1299…?…1296

本資料は、母岩別資料44に分別される剥片と石核1点を含む計6点の接合資料である。斑品が多く節理面をもつ黒色安山岩の分割線ないしは大形剥片を素材に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業を行ったもので、570・575・568・569の剥片はそうした作業の中で作出されたものである。その結果、179はサイコロ状の形状となる残核として残され、作出された剥片の多くは幅広い剥片や不定形な横長剥片である。

接合資料84 (母岩別資料44 第256図, 図版70)

○→890→809+789→○→1272→1011…?

本資料は、接合資料83と同一の母岩別資料に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点を含む計5点の接合資料である。分割線素材としたものと考えられ、ある程度剥片剥離作業を進める中で形状が長方体となった石核へ、平坦な剥離面を同一打面に長軸方向へ連続した剥片剥離を行っている。この作業に伴う石核は出土していないため不明であるが、作出された571・573・56・572はいずれも縦長剥片である。このうち特に形状の整った縦長剥片56は、側縁の一部に調整加工を施した加工痕を有する剥片として使用されている。

接合資料88 (母岩別資料45 第257・258図, 図版71)

○→272→513→○…?…○→904→1145→925→919→930

本資料は、母岩別資料45に分別される剥片と楔形石器1点、加工痕を有する剥片1点、石核1点を含む計7点の接合資料である。斑品が大粒で節理が縞状に若干入る黒色安山岩を原石に、大きく分割した分割線素材とし剥片剥離を行ったものである。その工程は、まず分割面を打面とし、その周囲に礫表皮を剥ぎ取るような形で剥離を施す。その後、打面を大きく転じて分割面側へ剥離を施し76を剥離させ、その剥離面に打面を転じて577を剥離させる。さらに打面転移を繰り返しながら分割面側へ、575・574・36・576等の剥片を剥離させている。その結果、163は亀状の形状を呈する残核として残される。また作出された剥片は、分割面側へ剥離させたものと、分割面を打面として剥離させたもので若干の形状差があるが、幅広い縦長剥片ないしは不定形な横長剥片があり、後者の方が主体をなす。なお、これら作出された剥片のうち、76は周縁に加工を施す加工痕を有する剥片として、36は両側縁に対向する調整加工を施した楔形石器として使用されている。

接合資料118 (母岩別資料47 第259図, 図版71)

○→217→○…?…○→102→118→116+113+121→50+78…?

本資料は、母岩別資料47に分別される剥片8点による接合資料である。白色の細かな斑晶が節理状に線状に多く入り、大粒の斑晶をも含む黒色安山岩を石材に、剥片剥離を行ったものである。作業は、その打面を転移させながら剥離させていくもので、581・582・580の間での転移が認められ、その後580を含めた583・584は同一打面からの剥離によるものである。この作業にともなう石核は不明である。また、作出された剥片は、欠損しているが580・581のような縦長剥片も存在するほか、583・584の幅広い、ほぼ同形状のものがある。

接合資料119 (母岩別資料47 第260図, 図版71)

1156+226+88→211+83→○…?…○→71…?

本資料は、接合資料118と同一の母岩別資料に分別される、剥片および砕片の6点による接合資料である。この資料に伴う石核は不明であるが、礫面を打面に剥片剥離がなされ、不定形な剥片が作出される。

接合資料120 (母岩別資料47 第261図, 図版71)

213+215+220→114→○…?…○→112…?

本資料は、接合資料118・119と同一の母岩別資料に分別される、剥片5点による接合資料である。平坦な剥離面を打面に、打面転移を行いながら礫表皮剥ぎ取りのための剥片剥離を繰り返しているもので、不定形な剥片が作出されている。

接合資料121 (母岩別資料47 第261・262図, 図版72)

○→212→89…?

本資料は、接合資料118～120と同一の母岩別資料に分別される、剥片2点による接合資料である。礫面を打面に592を剥離させた後、その剥離面に打面を転移して591を剥離させ、礫面の除去を行ったものである。

接合資料112 (母岩別資料48 第263図, 図版72)

461→483

本資料は、母岩別資料48に分別される石核1点と剥片1点による計2点の接合資料である。黒色安山岩による長さ10cm、幅7.5cm、厚さ5.4cmの拳大程の礫を原石に、縁辺の角となる3箇所へ剥離を開始するもので、不定形な剥片595と石核596とが接合している。なお、この剥離については、敲石としての敲打によるものとも考えられるが、縁辺部への敲打による潰れ痕がほとんど認められないことから、剥片剥離作業の初期段階のものとして捉えたい。

接合資料101 (母岩別資料51 第265～267図, 図版72)○→1361+1347→1350→1341→1354
→33→1345→34

本資料は、母岩別資料51に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点を含む計8点の接合資料である。細かな斑晶が多く入る黒色安山岩による大形の分割礫を素材に、分割面側へ平坦な剥離面および礫面を打面とし、球心的に周囲から剥片剥離を連続的に繰り返したもので、幅広い不定形な剥片が多く作出されている。この資料に伴う石核は出土していないが、作出された剥片のうち97は加工痕を有する剥片として用いられている。

接合資料102 (母岩別資料51 第267図, 図版73)

○→1338+1346→1360

第3章 第II文化層

本資料は、接合資料101と同一の母岩別資料に分別される、剥片と加工痕を有する剥片1点を含む計3点の接合資料である。平坦な剥離面を打面に、剥片剥離のための打撃を加えた際に2分し、剥離したものである。このうち96の一部に調整加工が若干施され、加工痕を有する剥片として用いられている。

接合資料103 (母岩別資料51 第271図 616)

○→1340→1339…?

本資料は、接合資料101・102と同一の母岩別資料に分別される、剥片および砕片2点による接合資料である。平坦な剥離面を打面に打撃を加えた際、節理面で2分し剥離したものである。

接合資料104 (母岩別資料51 第268・269図、図版73)

○→13→○→30+31→○…?…○→26→23→18→37→20→32→35

本資料は、接合資料101～103と同一の母岩別資料に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点を含む計10点の接合資料である。先の接合資料101と同様に、大形の分割礫を素材とし、まず分割面側へ剥離を施すことで609・605を剥離させ、打面転移を行う中で608を剥離させる。さらに同一打面から607・604を剥離させ、打面転移を行った上で610・611・53を剥離させる。この資料に伴う石核は出土していないため不明であるが、作出された剥片は不定形な幅広剥片が主体とはなるものの、53のような縦長となる剥片も作出されている。特に剥片53には、打面部の除去およびその側縁部の一部に、裏面側から調整加工が施されており、ナイフ形石器の可能性もあるが、接合状況等から加工痕を有する剥片として扱った。なお、この資料は、接合資料101と同一個体であったものと、考えられるものである。

接合資料105 (母岩別資料51 第270図、図版73)

36…?…24+38…?

本資料は、接合資料101～104と同一の母岩別資料に分別される、剥片と石核1点を含む計3点の接合資料である。礫表皮をもつ大形の剥片を素材に、612等の剥片を剥離させた後、表面側から周縁に剥離を施した石核200が、折断され残核として残されている。

接合資料106 (母岩別資料51 第270図、図版73)

○→21→29→○…?→28…?

本資料は、接合資料101～105と同一の母岩別資料に分別される、加工痕を有する剥片1点と剥片2点による計3点による接合資料である。打面転移を繰り返しながら、剥片剥離作業を行う中で作出された剥片の接合である。

接合資料107 (母岩別資料51 第271図 617)

1348+19

本資料は、接合資料101～106と同一の母岩別資料に分別される剥片2点による接合資料である。平坦な剥離面を打面に打撃を加えた際、節理面で2分し剥離した礫表皮をもつ剥片である。

接合資料92 (母岩別資料52 第275図 624)

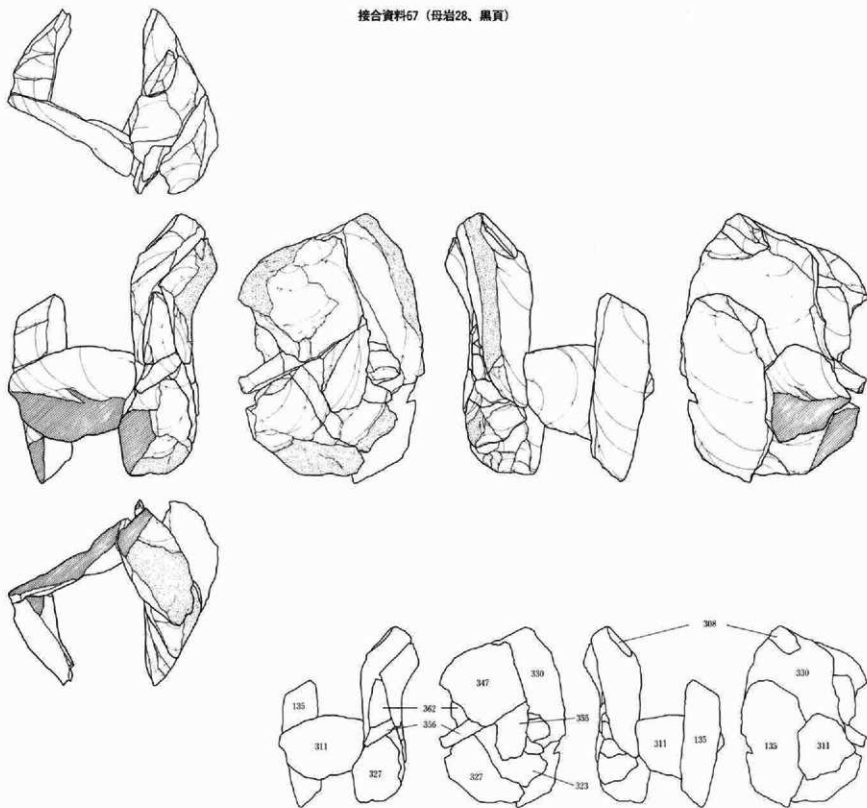
753+880

本資料は、母岩別資料52に分別される剥片2点による接合資料である。大き目の斑晶が含まれる安山岩を原石に、平坦な剥離面を打面とした、礫表皮をもつ肉厚な断面三角形の幅広剥片であるが、打撃を加えた際に、節理により2分したものである。

接合資料93 (母岩別資料52 第272図、図版74)

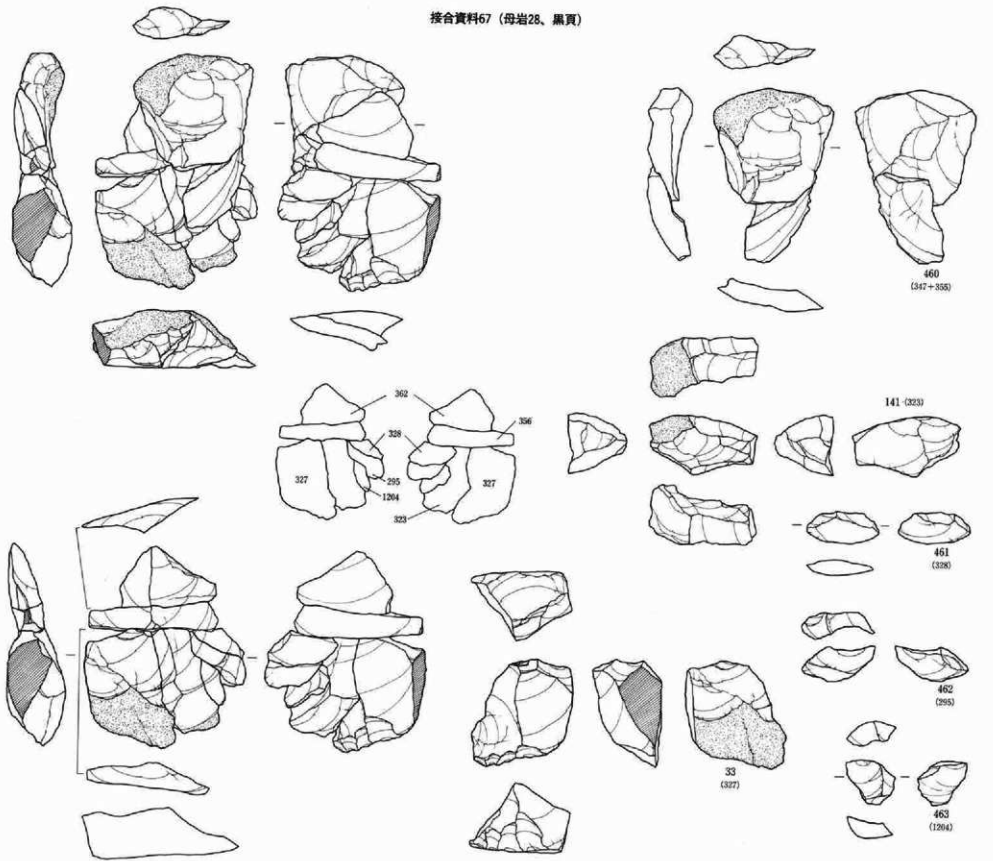
○→769→767…?

接合資料67 (母岩28、黒頁)



第221図 第II文 接合・母岩別資料

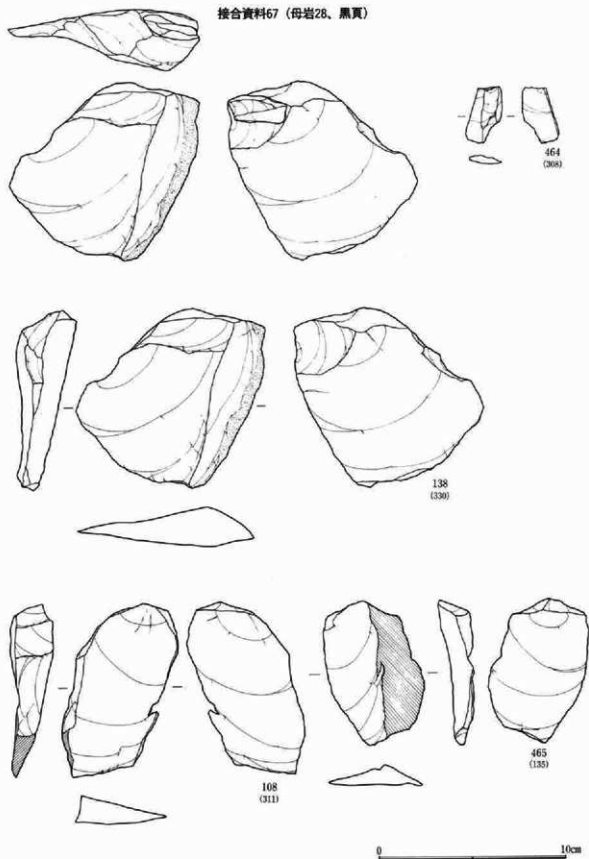
接合資料67 (母岩28、黒頁)



第222図 第Ⅱ文 接合・母岩別資料

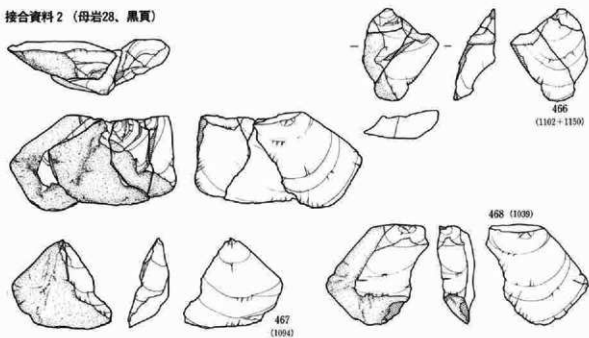
0 10cm

接合資料67 (母岩28、黒頁)

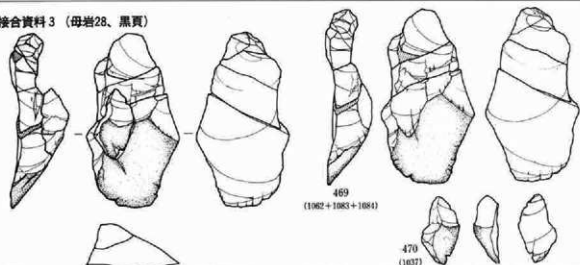


第223図 第II文 接合・母岩別資料

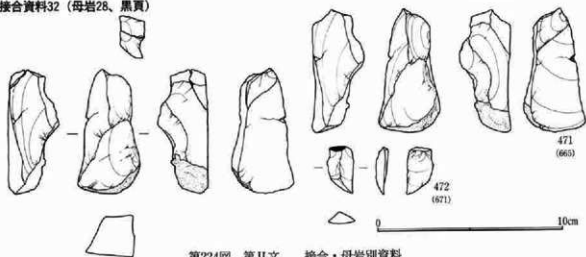
接合資料2 (母岩28、黒頁)



接合資料3 (母岩28、黒頁)

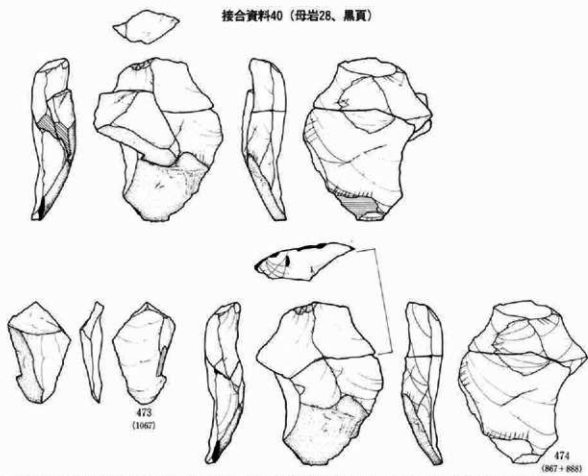


接合資料32 (母岩28、黒頁)

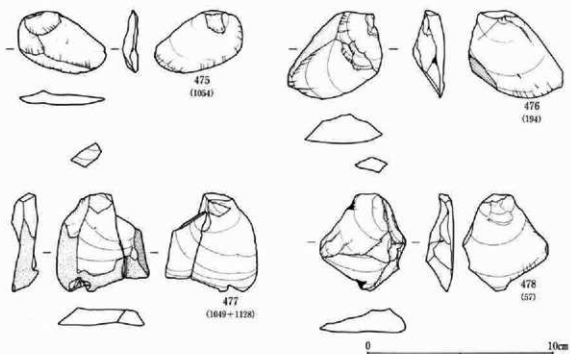


第224図 第II文 接合・母岩別資料

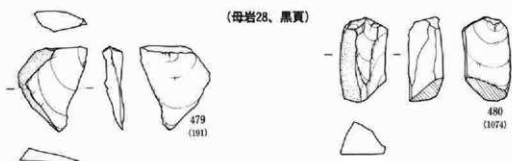
接合資料40 (母岩28、黒頁)



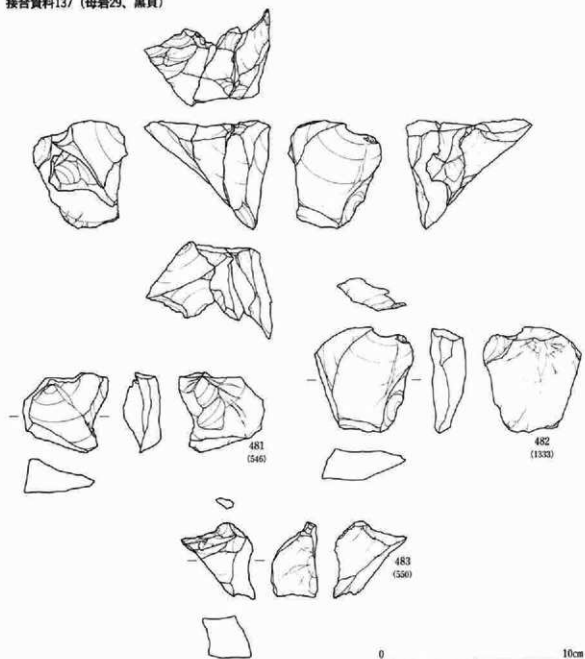
(母岩28、黒頁)



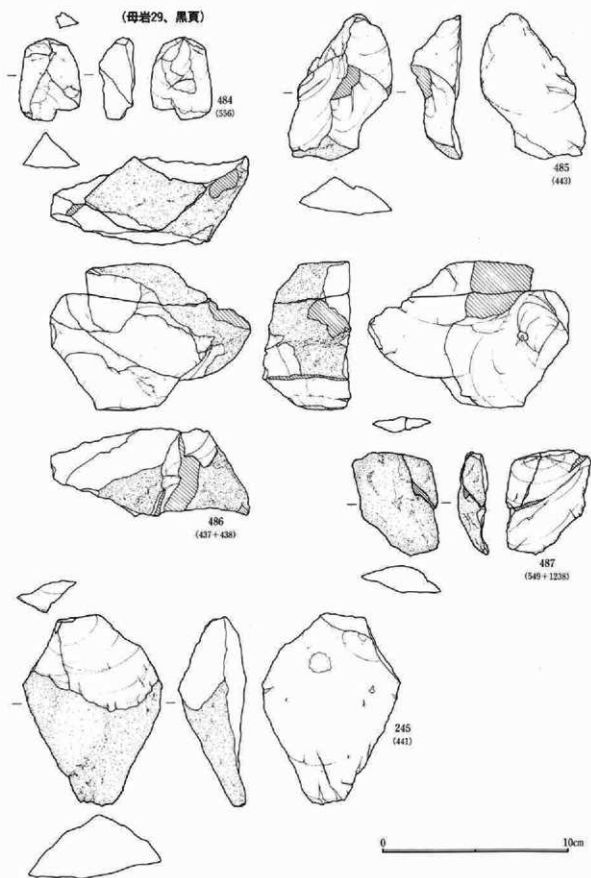
第225圖 第II文 接合・母岩別資料



接合資料137 (母岩29、黒頁)

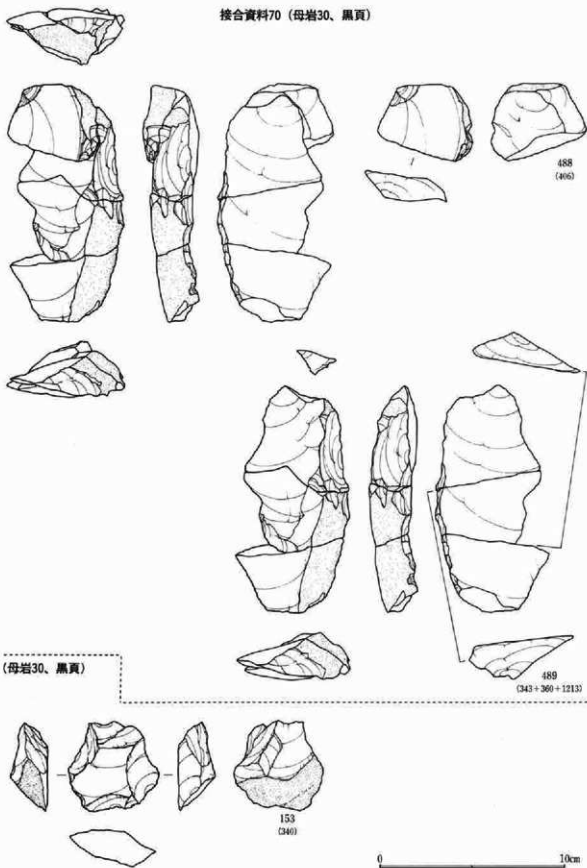


第226圖 第II文 接合・母岩別資料



第227図 第II文 接合・母岩別資料

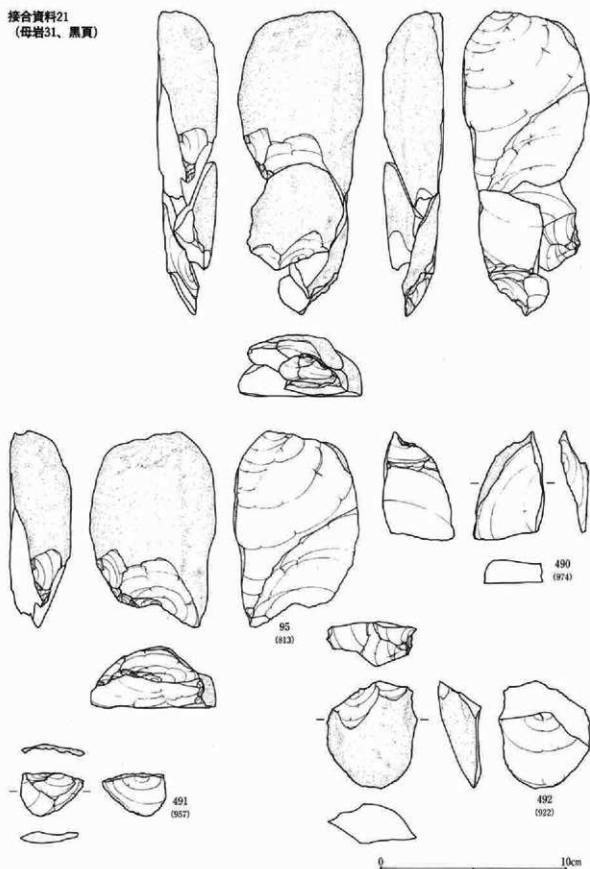
接合資料70 (母岩30、黒頁)



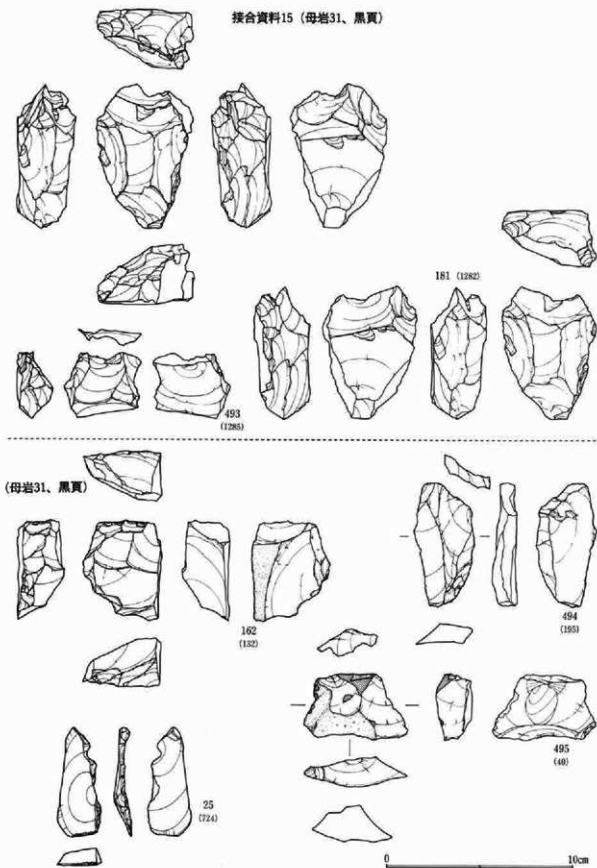
(母岩30、黒頁)

第228図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料21
(母岩31、黒頁)

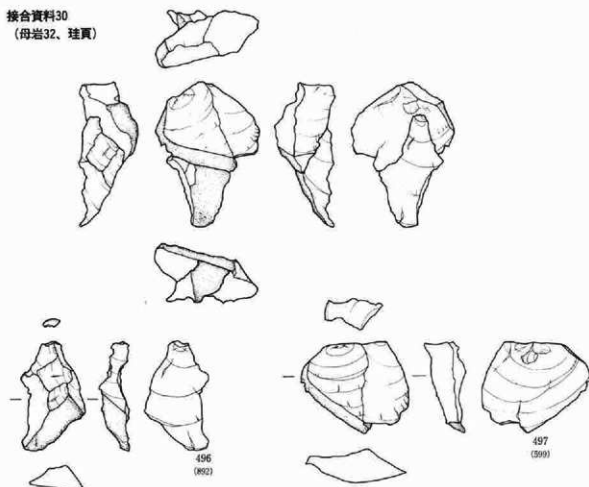


第229図 第II文 接合・母岩別資料

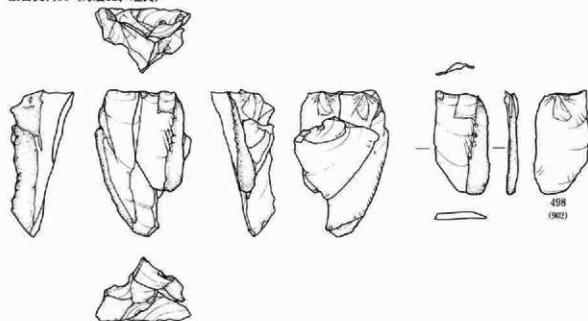


第230圖 第II文 接合・母岩別資料

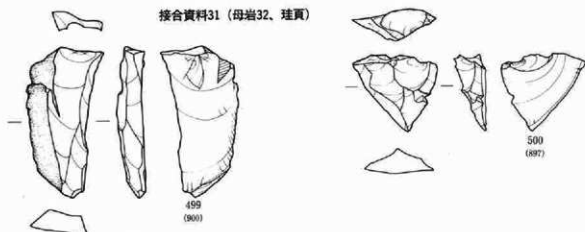
接合資料30
(母岩32、珪頁)



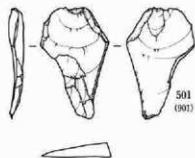
接合資料31 (母岩32、珪頁)



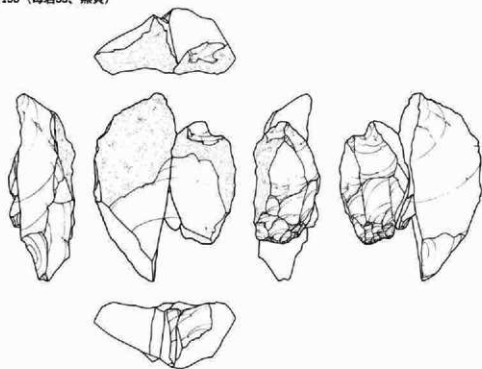
0 10cm



(母岩32、珪頁)



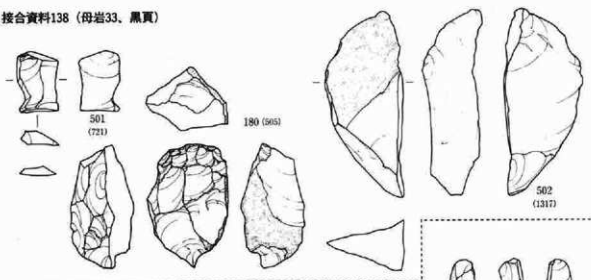
接合資料138 (母岩33、黒頁)



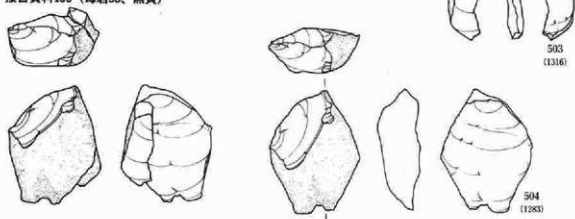
0 10cm

第232図 第II文 接合・母岩別資料

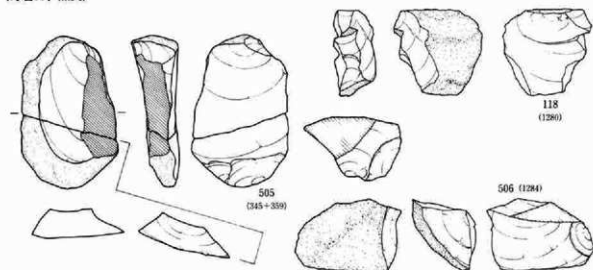
接合資料138 (母岩33、黒頁)



接合資料135 (母岩33、黒頁)

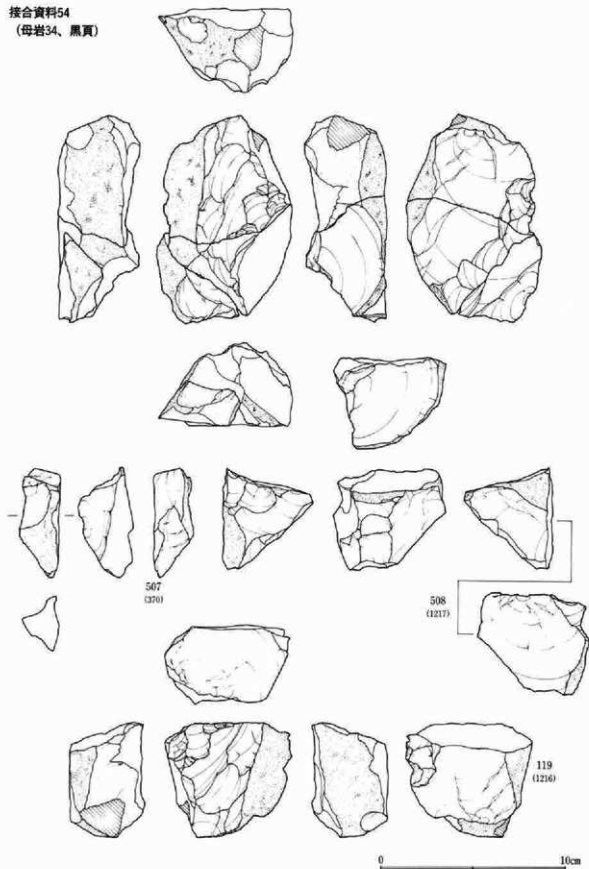


(母岩33、黒頁)



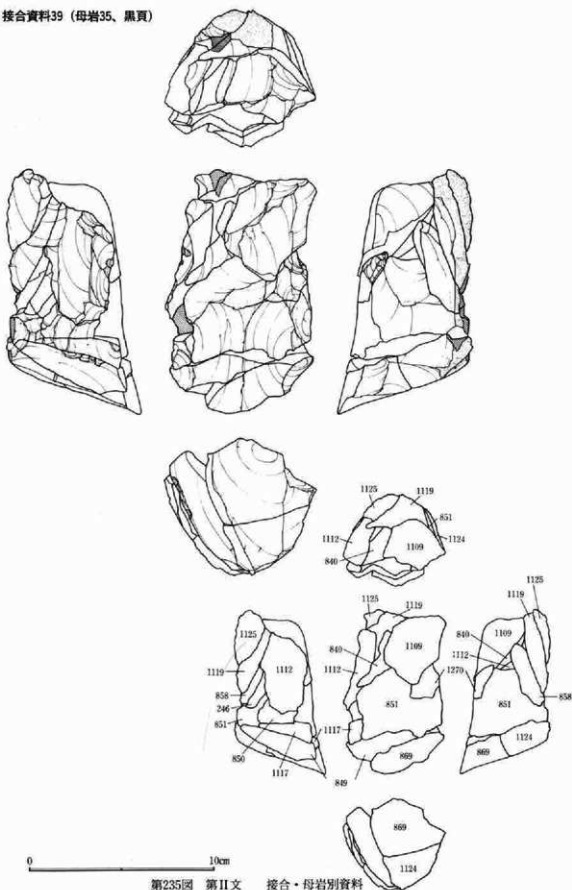
0 10cm

接合資料54
(母岩34、黑頁)



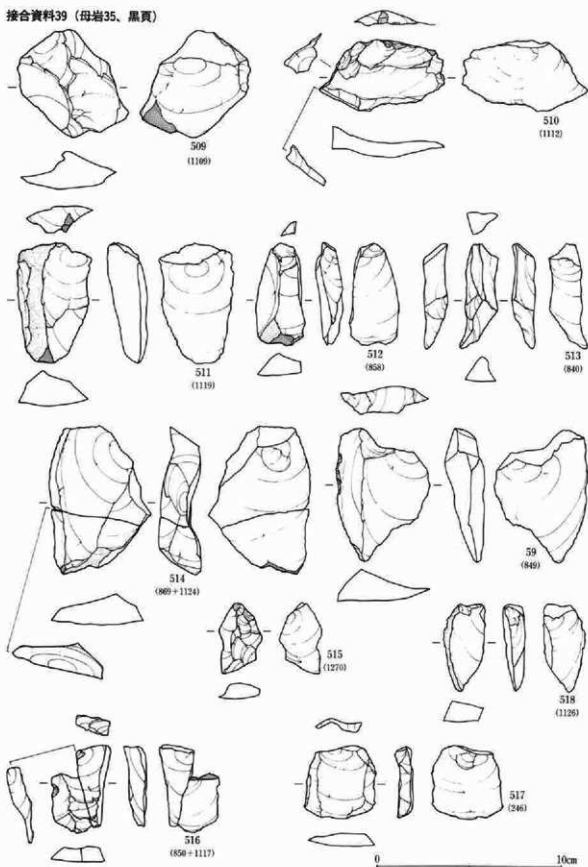
第234圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料39 (母岩35、黒頁)



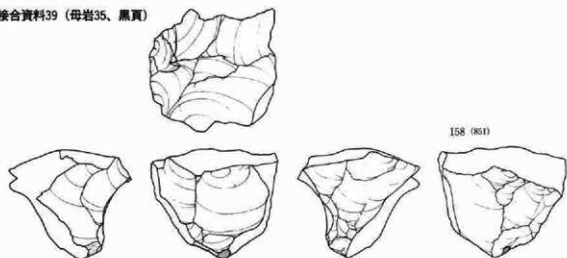
第235図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料39 (母岩35、黒頁)

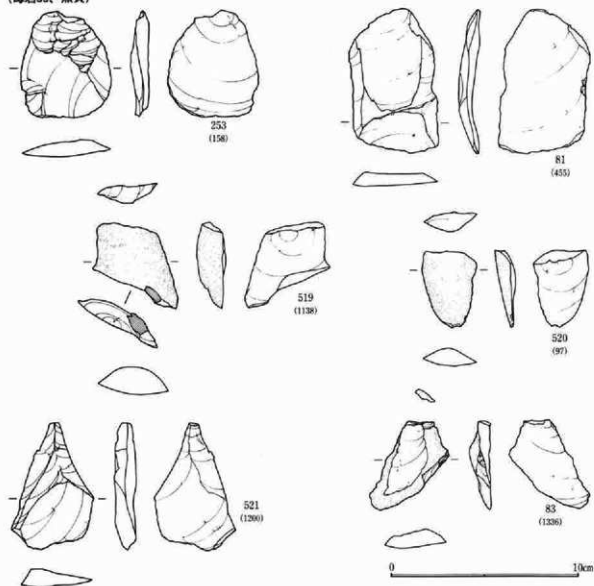


第236图 第II文 接合・母岩別資料

接合資料39 (母岩35、黒頁)

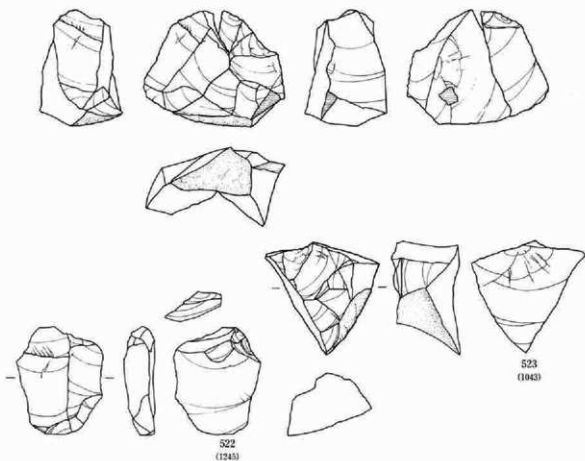


(母岩35、黒頁)

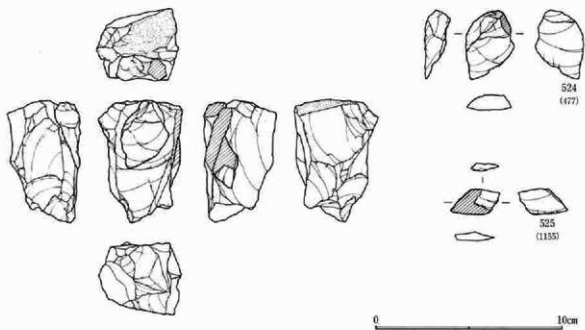


第237図 第II文 接合・母岩別資料

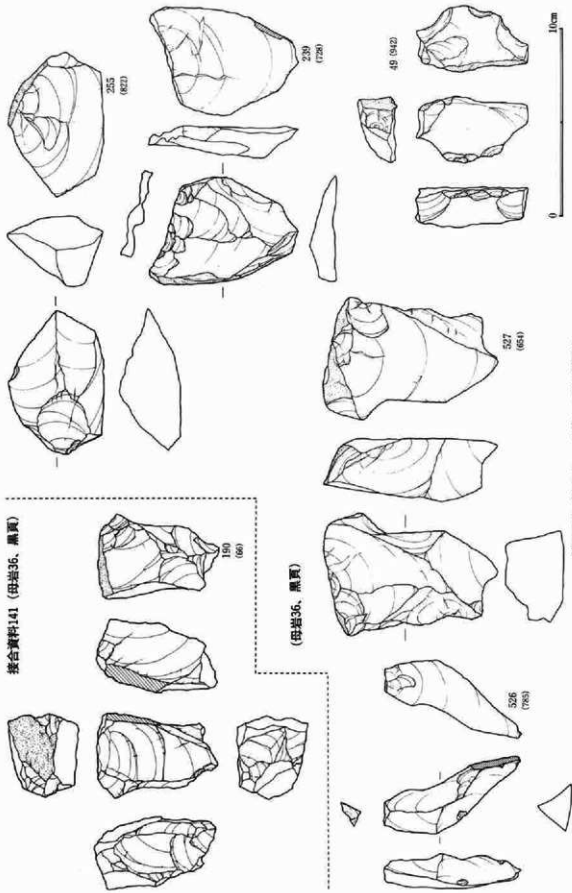
接合資料11 (母岩36、黒頁)



接合資料141 (母岩36、黒頁)

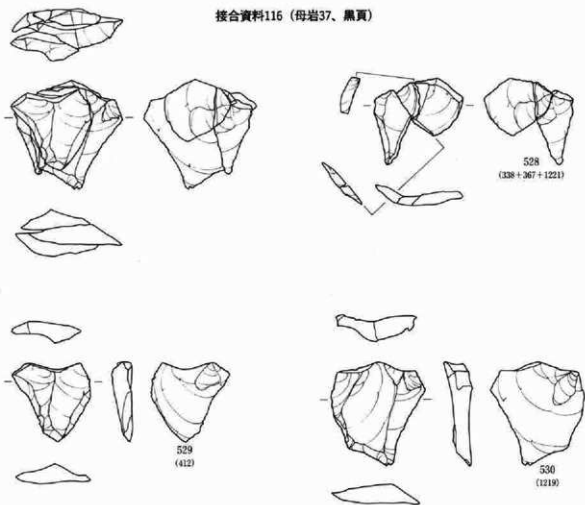


第238図 第II文 接合・母岩別資料

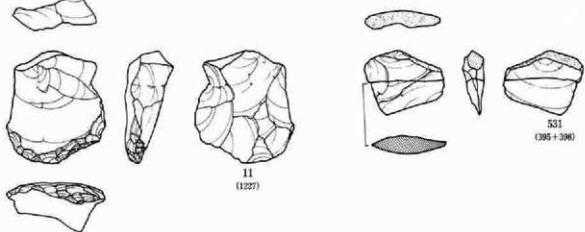


第239図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料116 (母岩37、黒頁)



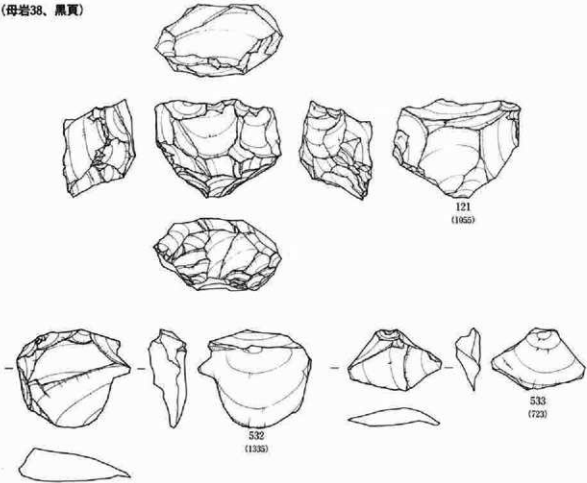
(母岩37、黒頁)



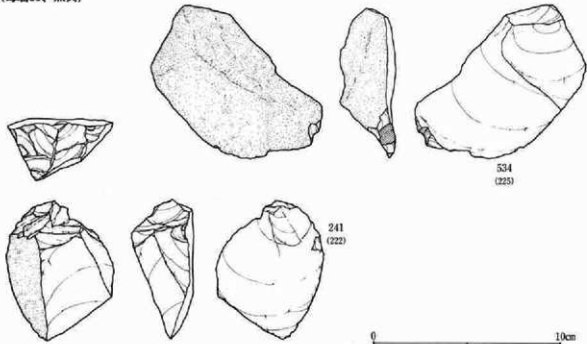
0 10cm

第240圖 第II文 接合・母岩別資料

(母岩38、黒頁)

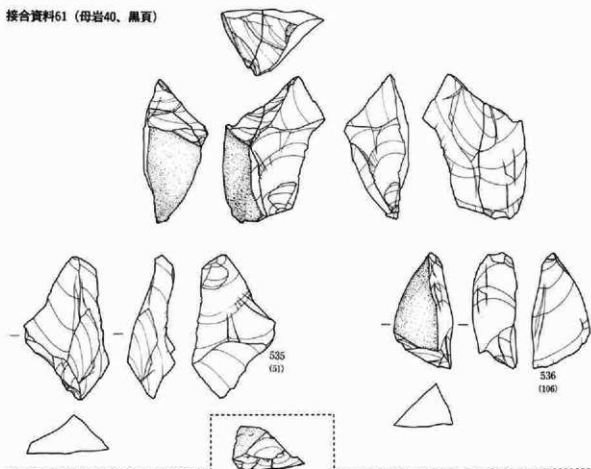


(母岩39、黒頁)

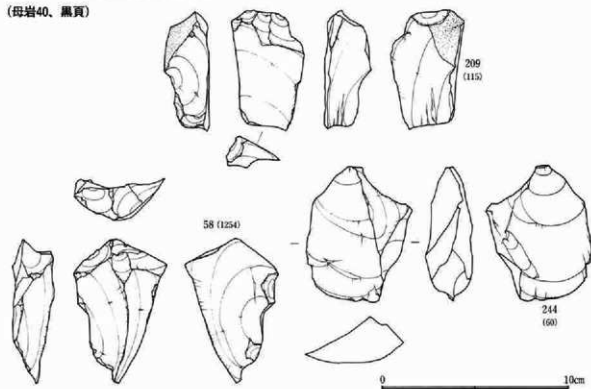


第241圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料61 (母岩40、黒頁)

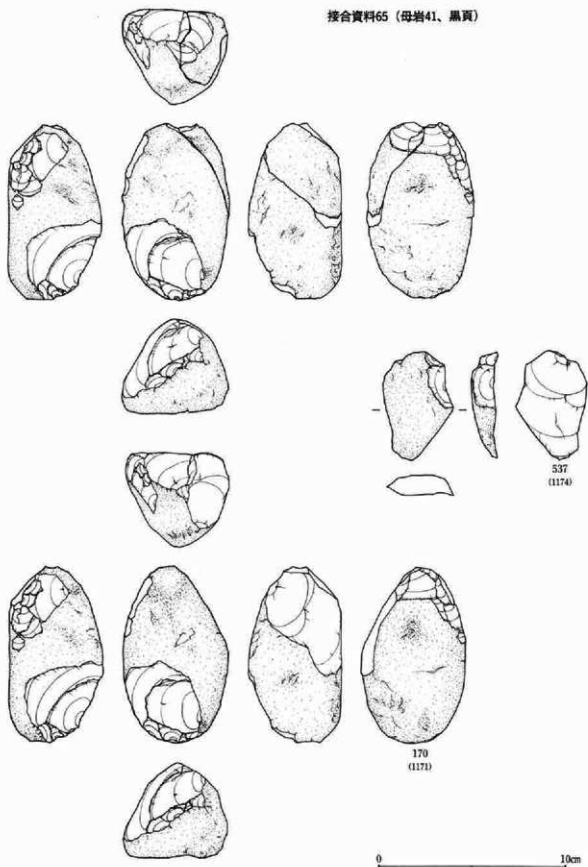


(母岩40、黒頁)



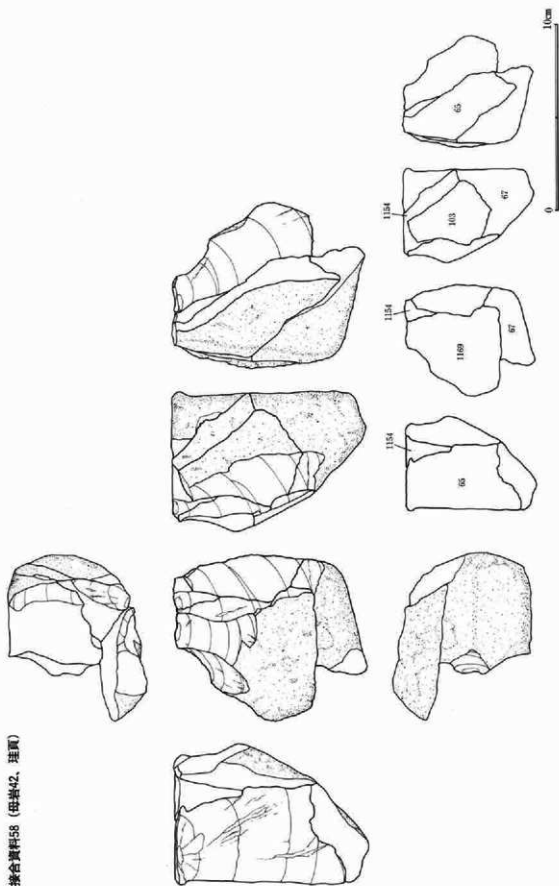
第242図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料65 (母岩41、黒頁)



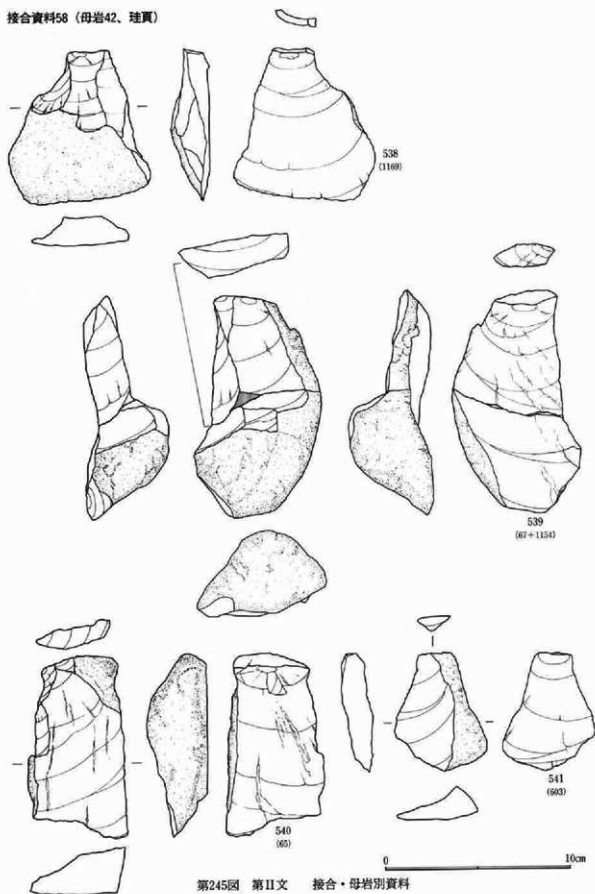
第243図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料58 (母岩42, 埋頂)

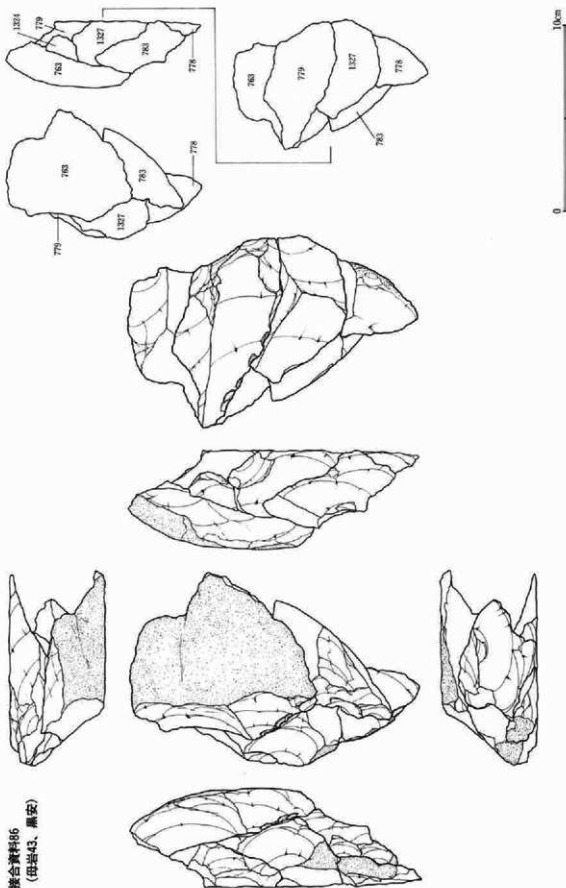


第244圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料58 (母岩42、珪頁)



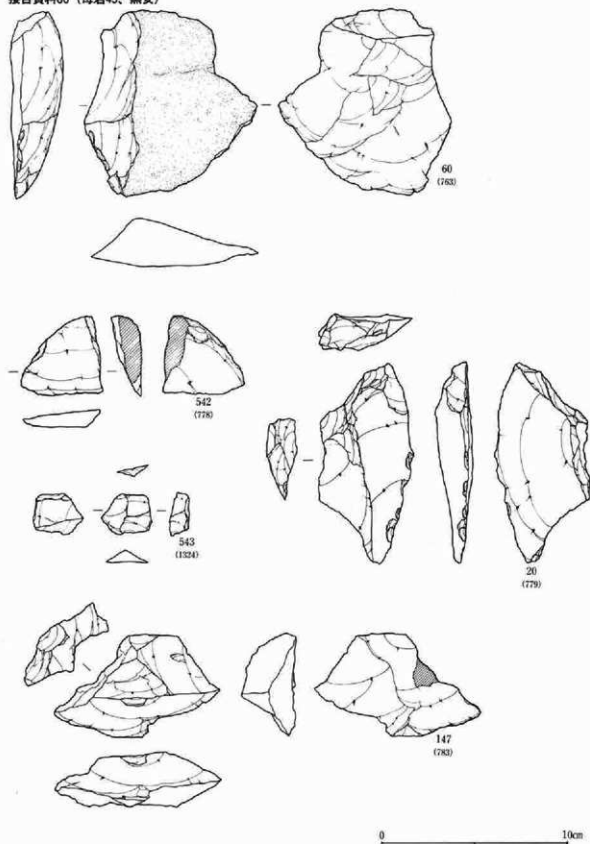
第245図 第II文 接合・母岩別資料



接合資料86
(出玉43、黒松)

第246図 第II文 接合・母岩別資料

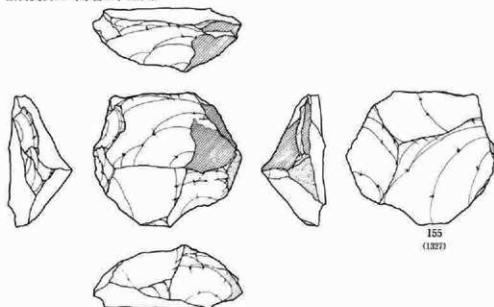
接合資料86 (母岩43、黒安)



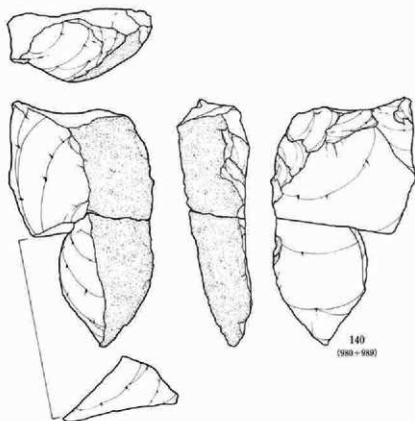
第247図 第II文 接合・母岩別資料

第3章 第II文化層

接合資料86 (母岩43、黒安)



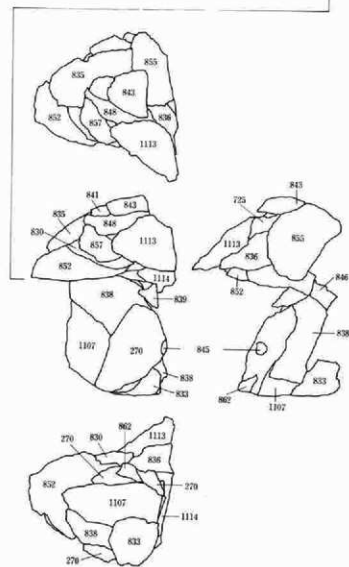
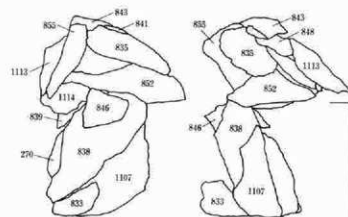
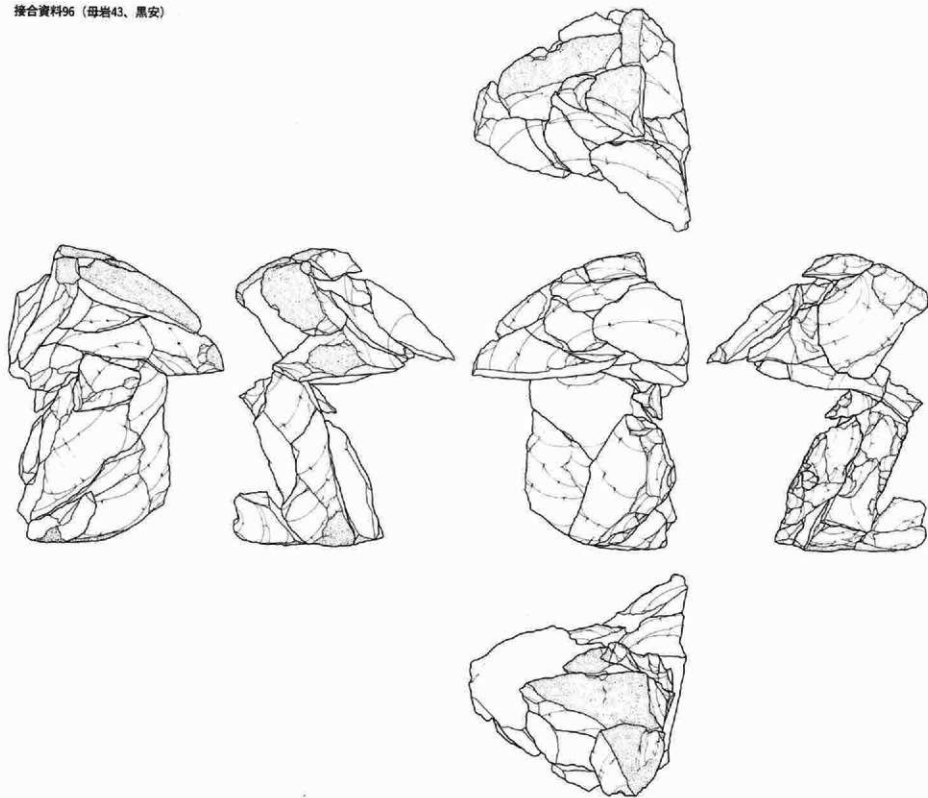
(母岩43、黒安)



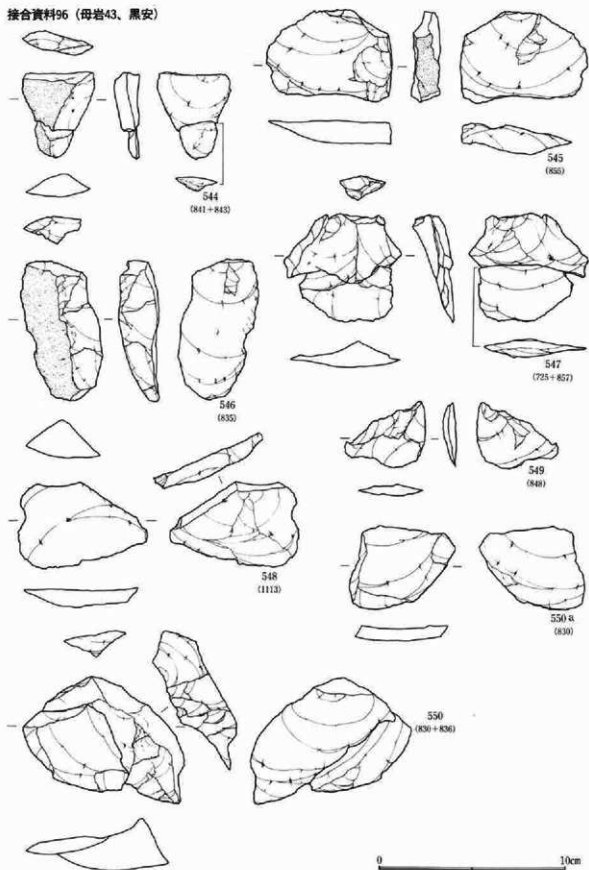
0 10cm

第248図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料96 (母岩43、黒安)

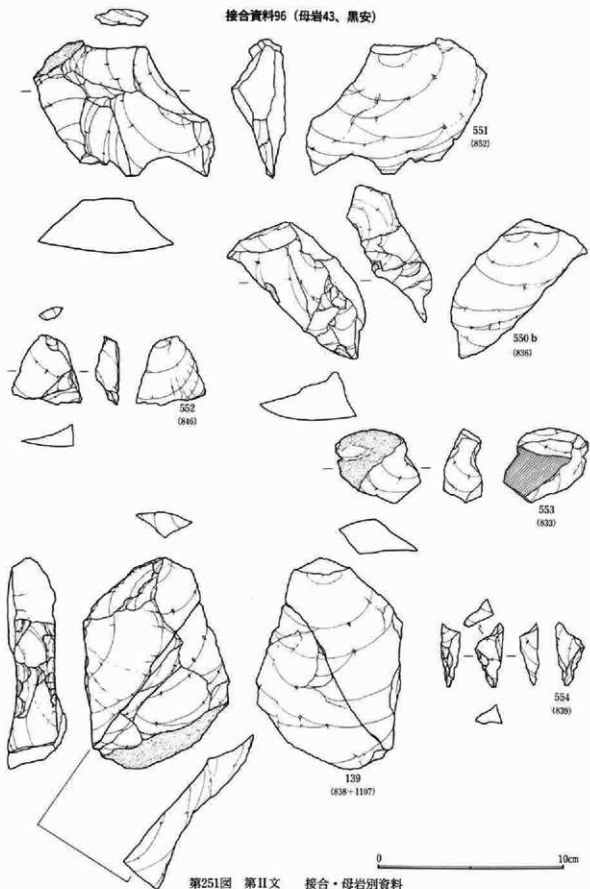


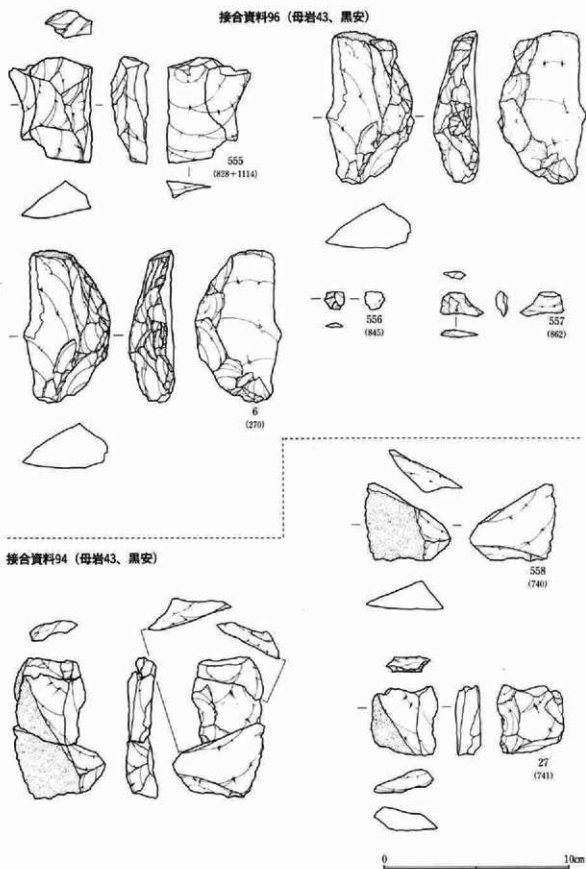
接合資料96 (母岩43、黒安)



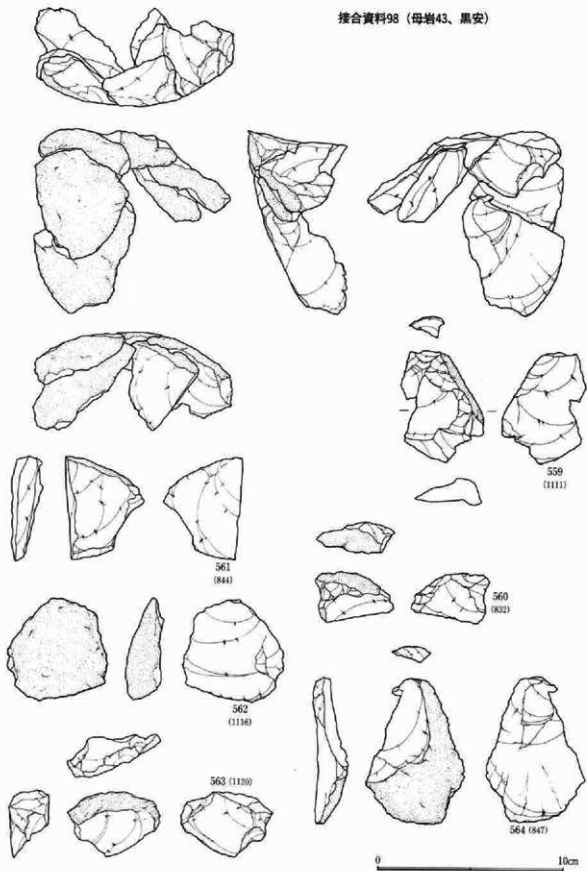
第250図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料96 (母岩43、黒安)



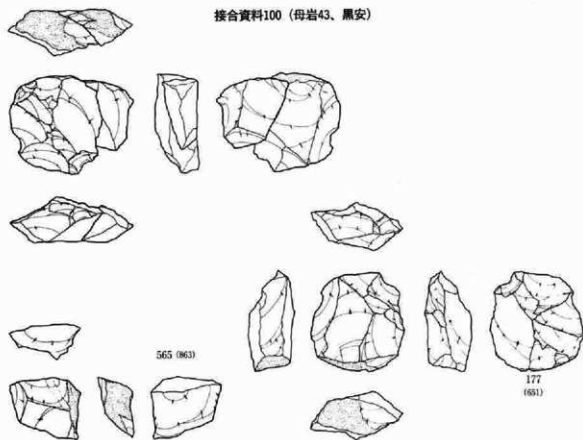


第252図 第II文 接合・母岩別資料

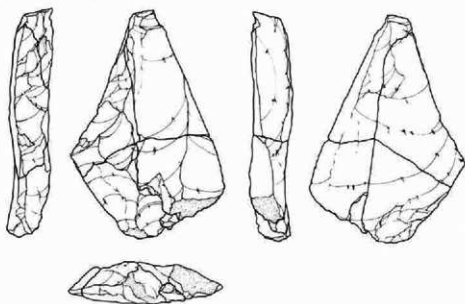


第253圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料100 (母岩43、黒安)

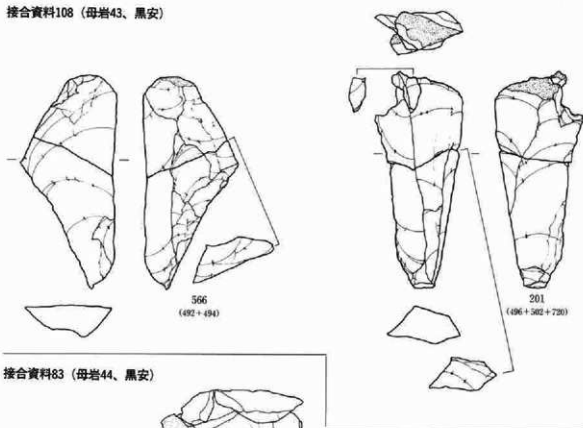


接合資料108 (母岩43、黒安)

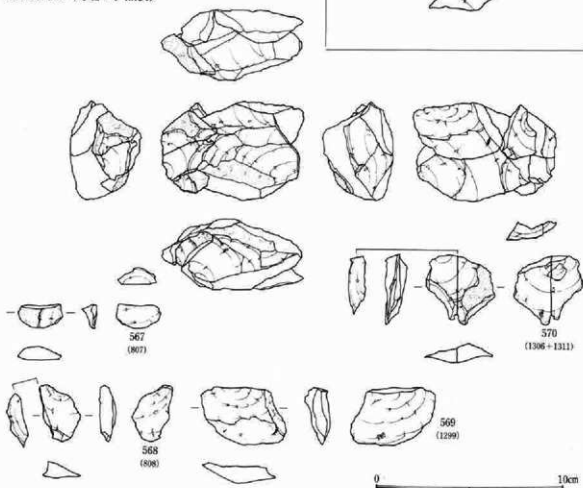


0 10cm

接合資料108 (母岩43、黒安)



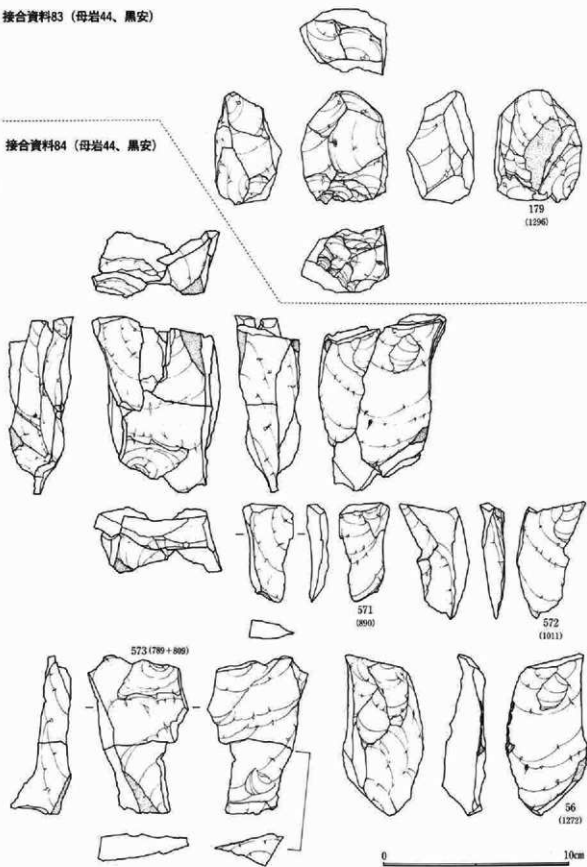
接合資料83 (母岩44、黒安)



第255圖 第II文 接合・母岩別資料

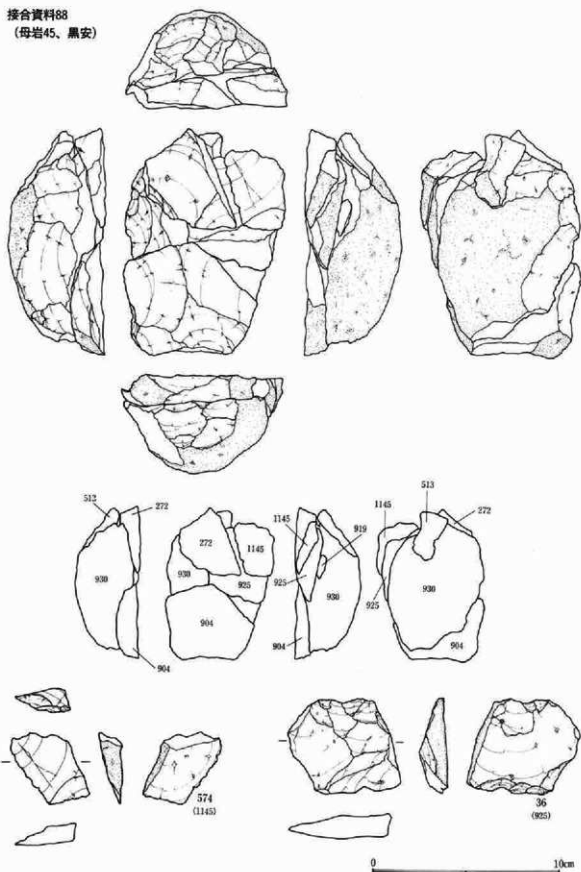
接合資料83 (母岩44、黒安)

接合資料84 (母岩44、黒安)



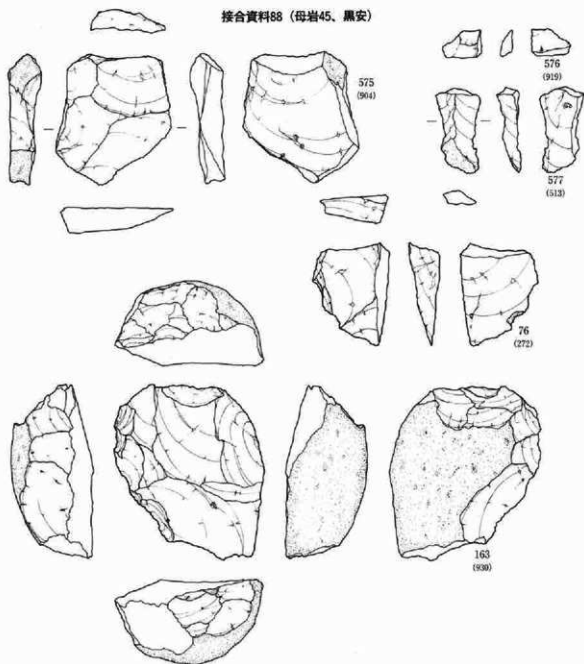
第256図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料88
(母岩45、黒安)

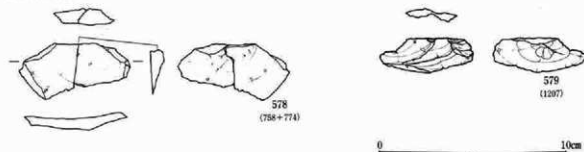


第257圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料88 (母岩45、黒安)

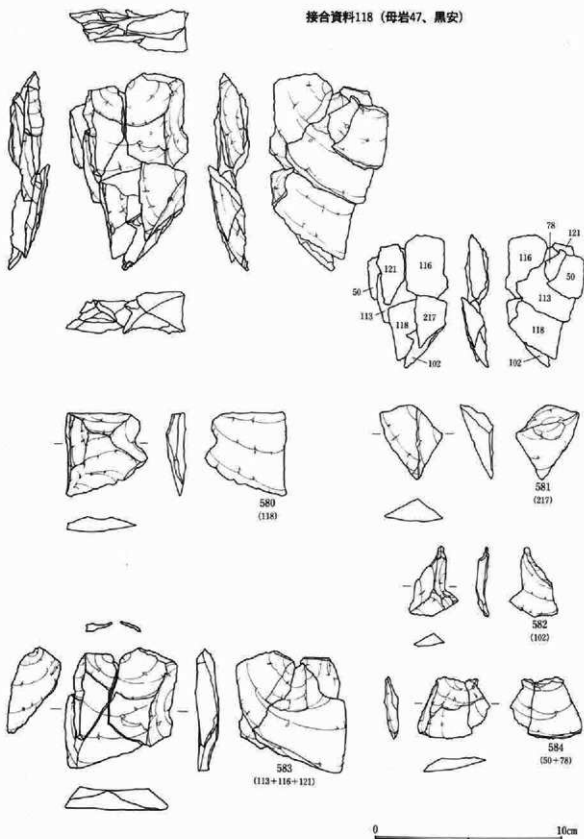


(母岩46、黒安)



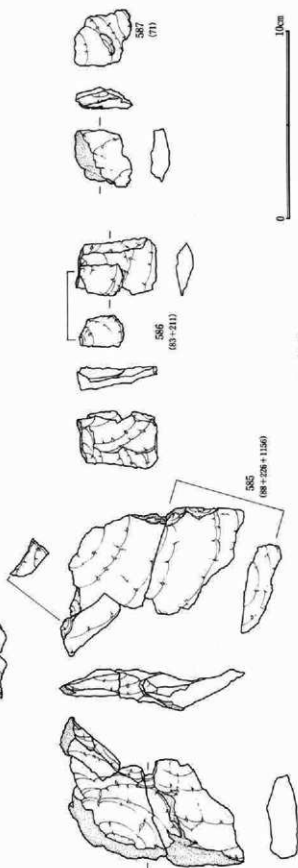
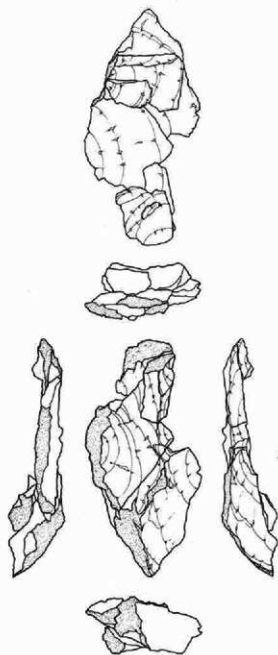
第258図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料118 (母岩47、黒安)



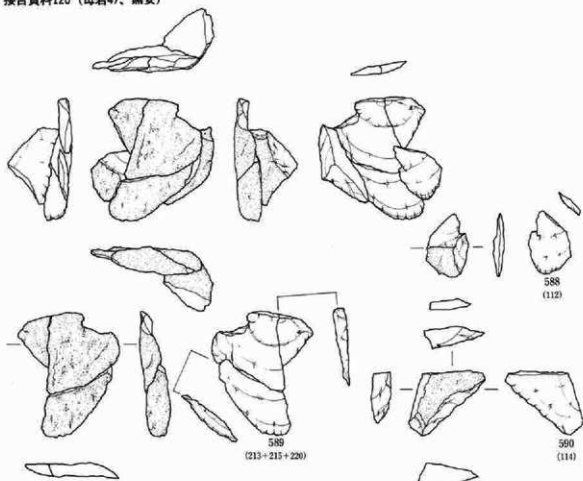
第259図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料119
(母岩47、黒安)

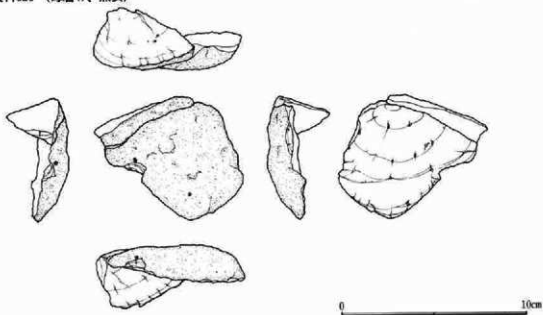


第260図 第11文 接合・母岩別資料

接合資料120 (母岩47、黒安)

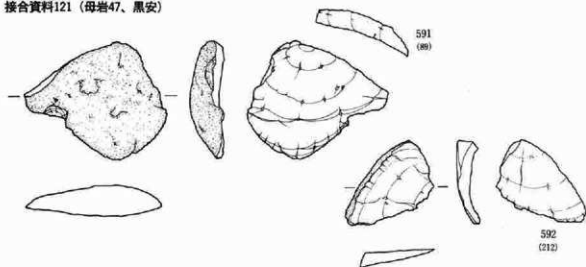


接合資料121 (母岩47、黒安)

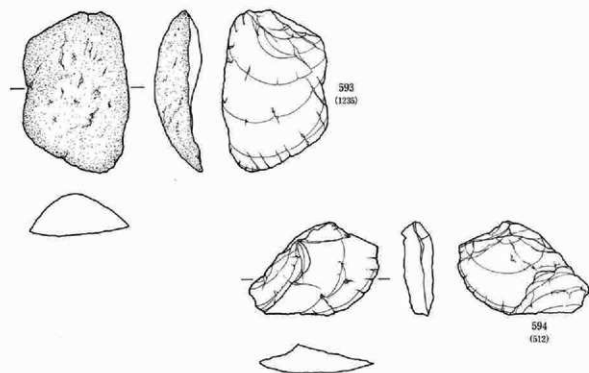


第261圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料121 (母岩47、黒安)

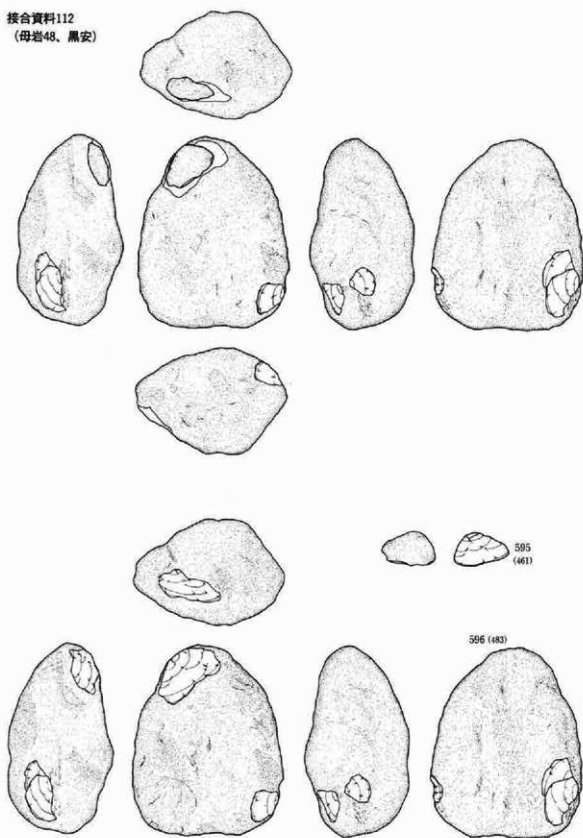


(母岩47、黒安)



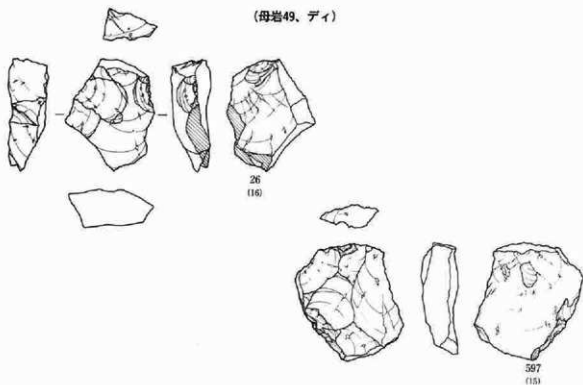
0 10cm

接合資料112
(母岩48、黒安)

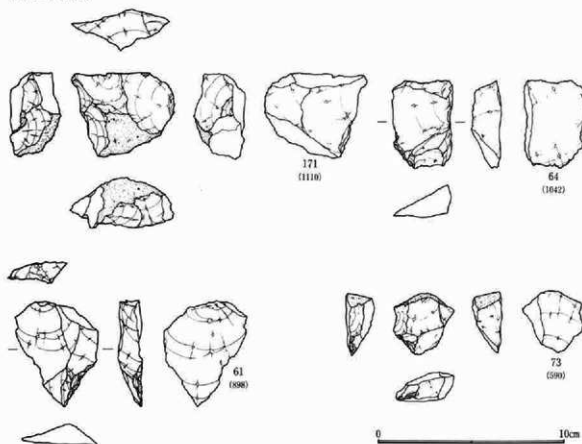


第263図 第II文 接合・母岩別資料

(母岩49、ディ)

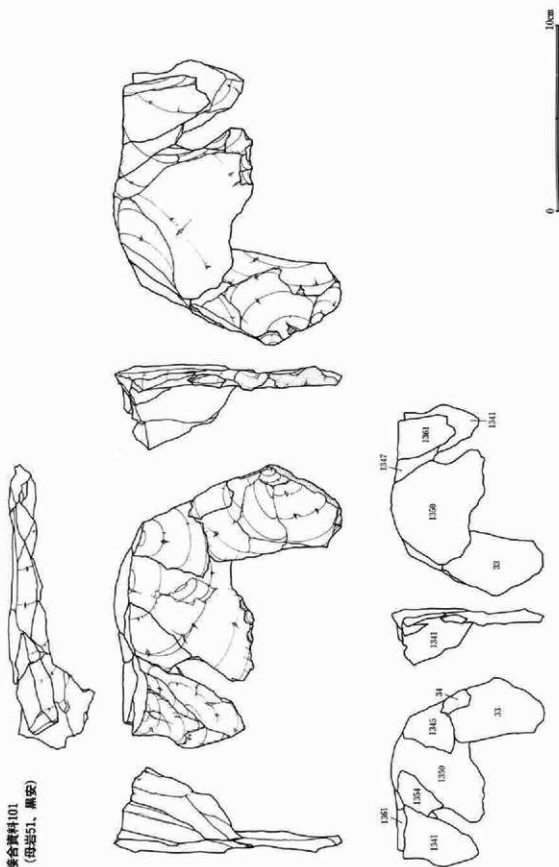


(母岩50、黒安)



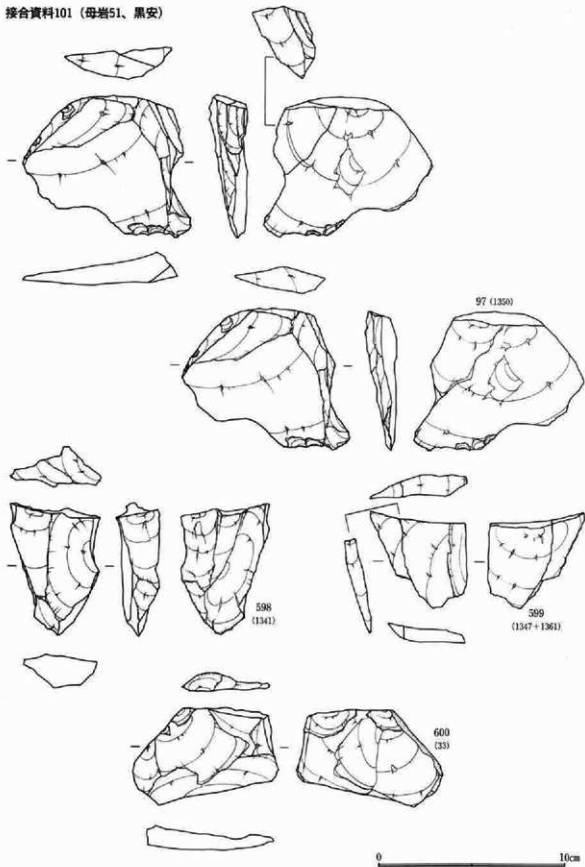
第264図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料101
(母基51、黒安)



第265図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料101 (母岩51、黒安)

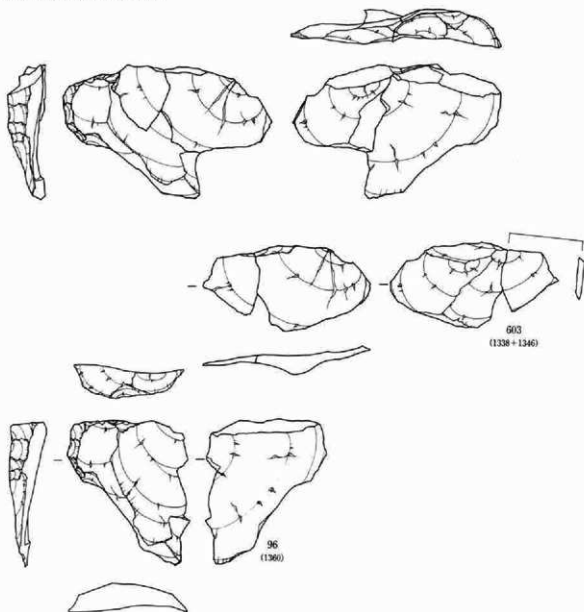


第266図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料101
(母岩51、黒安)



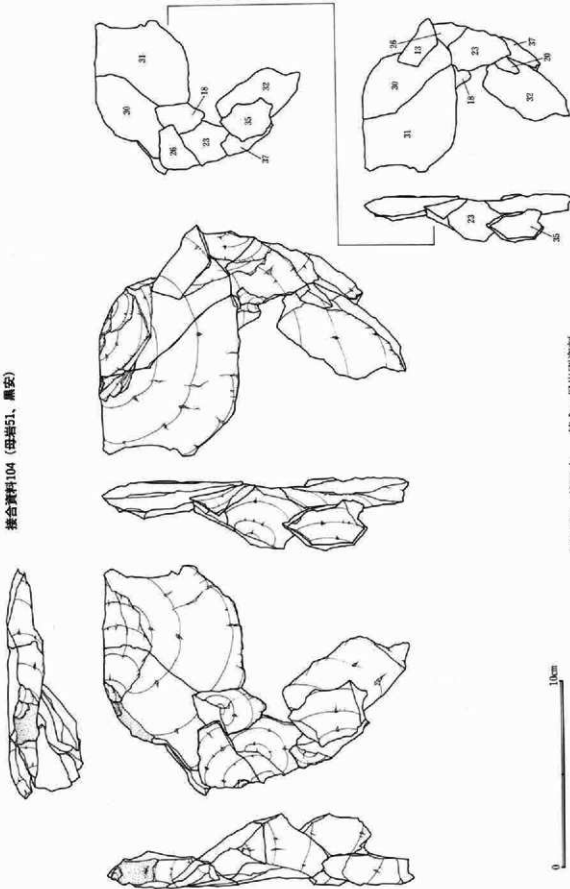
接合資料102 (母岩51、黒安)



0 10cm

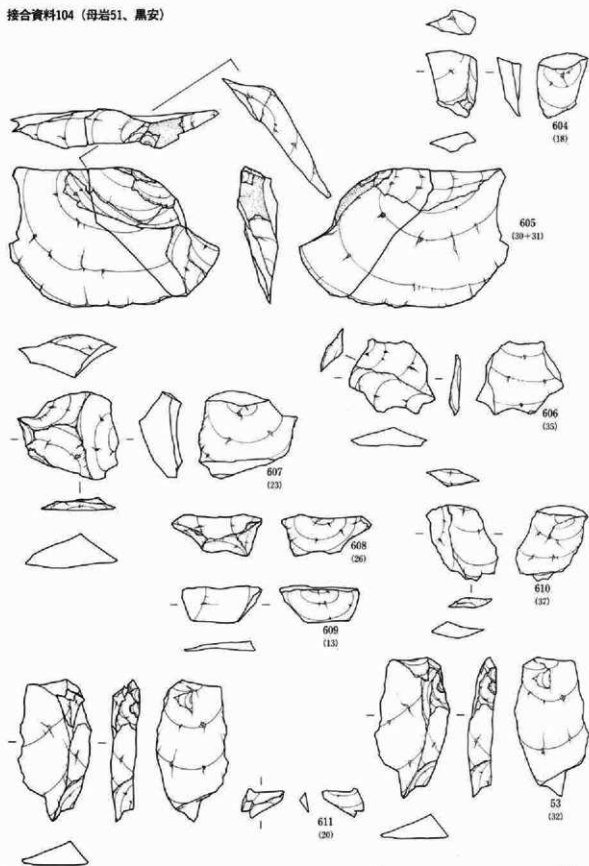
第267圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料104 (母岩51、黒安)



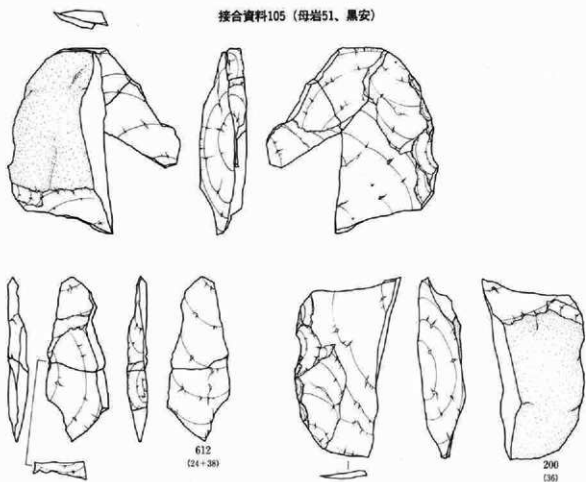
第268図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料104 (母岩51、黒安)

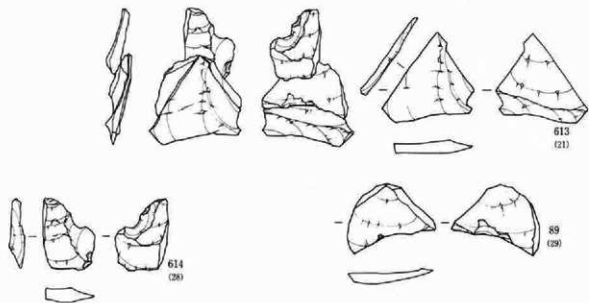


第269圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料105 (母岩51、黒安)

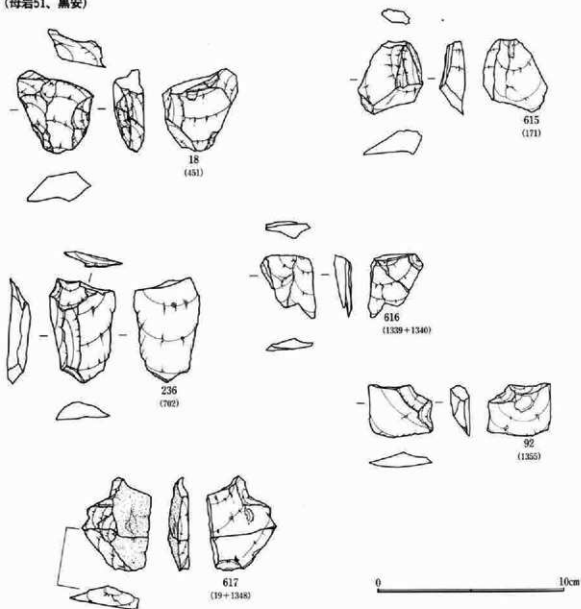


接合資料106 (母岩51、黒安)



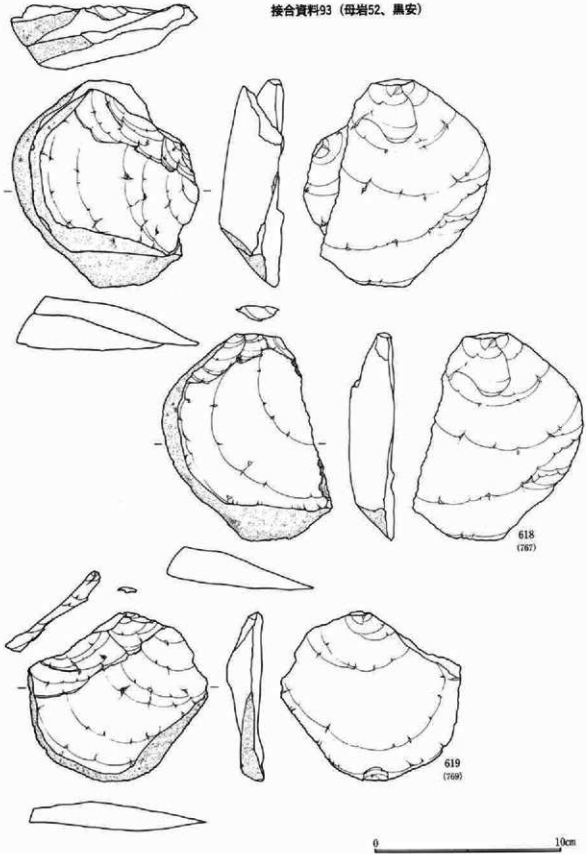
0 10cm

(母岩51、黒安)



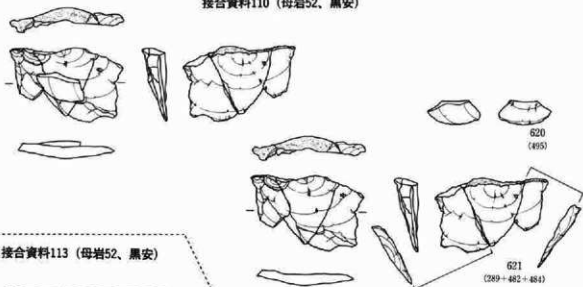
第271図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料93 (母岩52、黒安)

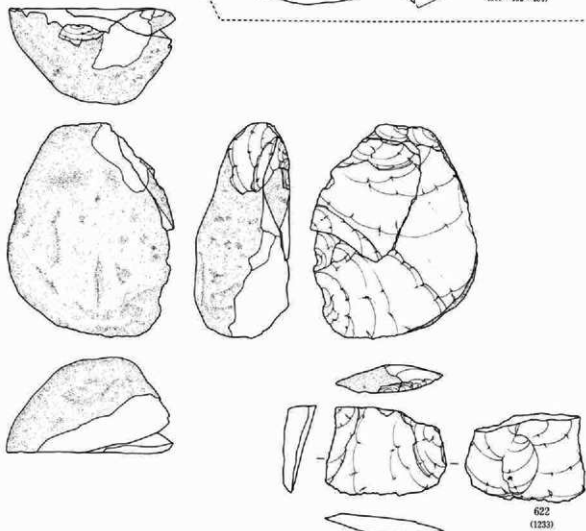


第272図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料110 (母岩52、黒安)

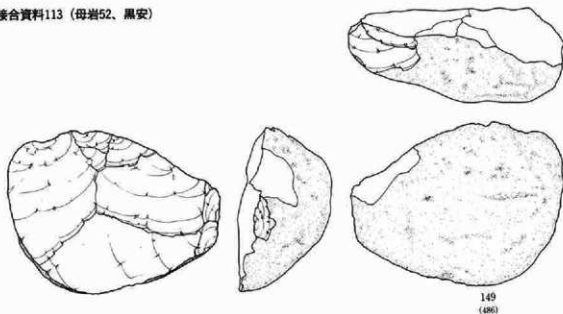


接合資料113 (母岩52、黒安)

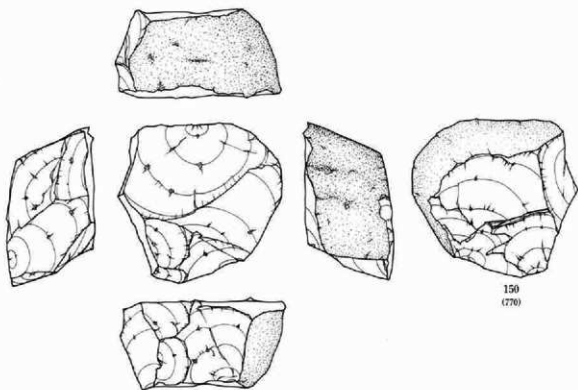


第273圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料113 (母岩52、黒安)

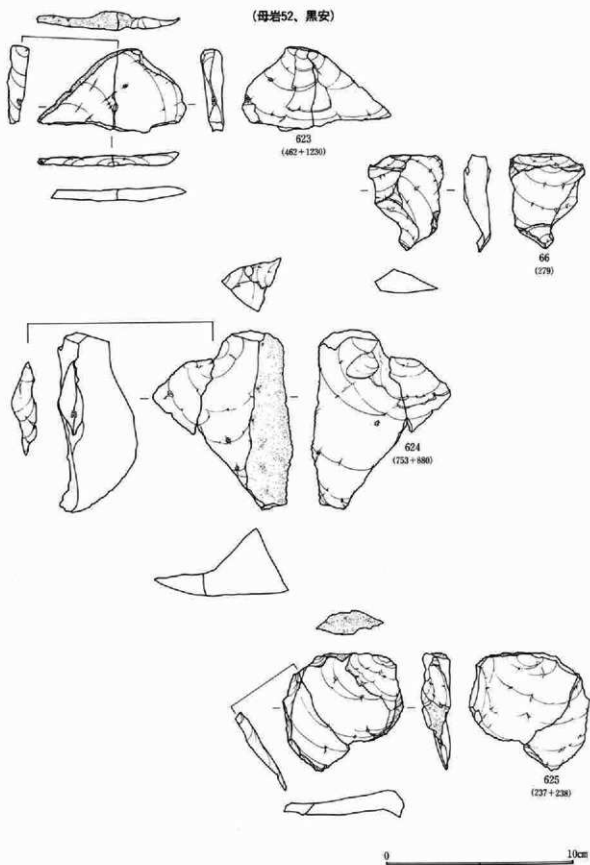


(母岩52、黒安)



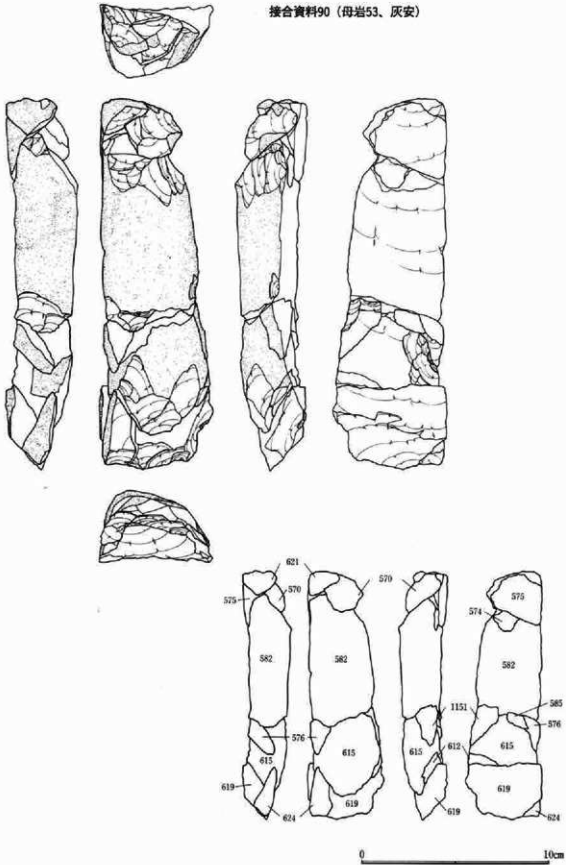
0 10cm

第274図 第II文 接合・母岩別資料



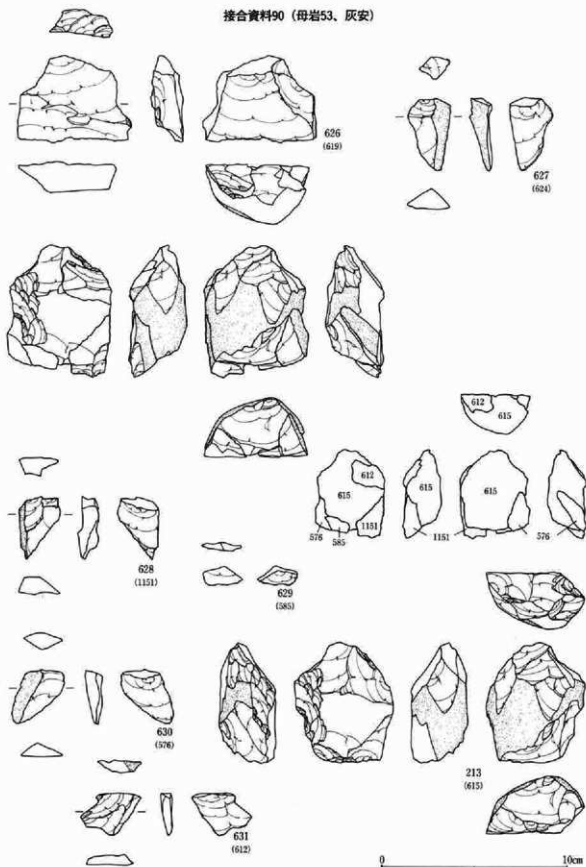
第275図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料90 (母岩53、灰安)



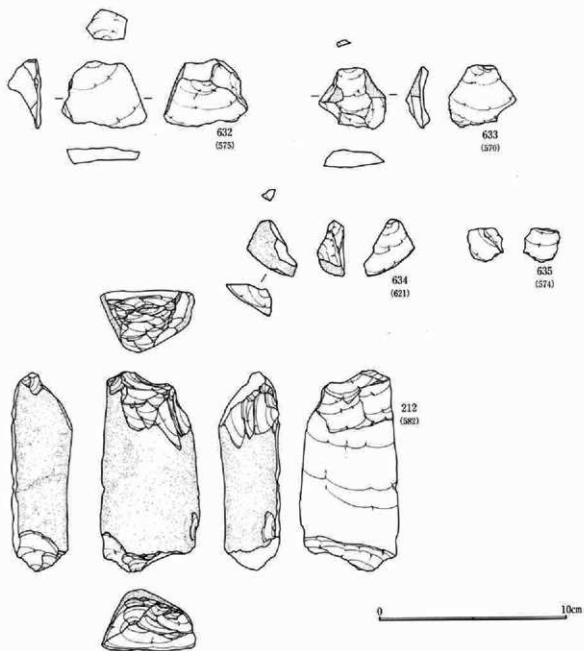
第276図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料90 (母岩53、灰安)



第277圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料90 (母岩53、灰安)



第278図 第II文 接合・母岩別資料

第3章 第II文化層

本資料は、接合資料92と同一の母岩別資料に分別される剥片2点による接合資料である。大形の素材を用い、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行うもので、剥片619と618とでは打面とした平坦な剥離面が異なり、またそれぞれ同一面からの剥離を数度行っている。作出されたこれらの剥片は、比較的大形のやや幅広なものである。

接合資料110 (母岩別資料52 第273図, 図版73)

○→495→482+484+289…?

本資料は、接合資料92・93と同一の母岩別資料に分別される剥片4点による接合資料である。稜面を打面として、連続的に剥離を行ったもので、621は同一剥片の欠損したものの接合であり横長剥片となる。

接合資料111 (母岩別資料52 第275図 623)

462+1230

本資料は、接合資料92・93・110と同一の母岩別資料に分別される剥片2点による母岩別資料である。稜面を打面に剥離を行ったもので、打撃を加えた際に大きく二分したものである。

接合資料113 (母岩別資料52 第273・274図, 図版74)

○→1233→○→486

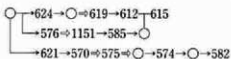
本資料は、接合資料92・93・110・111と同一の母岩別資料に分別される石核1点と剥片1点による計2点の接合資料である。やや大きめな分割礫を素材に、分割面を打面とした剥片剥離を部分的に数度行った後に、打面を稜面側へ転移させ分割面側へ剥離作業を連続的に施す。この作業中に出作された剥片が622で、横長剥片である。

接合資料114 (母岩別資料52 第275図 625)

237+238

本資料は、接合資料92・93・110・111・113と同一の母岩別資料に分別される剥片2点による接合資料である。稜面を打面に連続的に剥離を行った際に作出された剥片で、横長となるものであるが節理面で二分したものである。

接合資料90 (母岩別資料53 第276～278図, 図版74)



本資料は、母岩別資料53に分別される石核2点と剥片・碎片10点による計12点の接合資料である。斑品の少ないやや青みがかった灰色の灰色安山岩を石材に、長さ14.5cm、幅5.2cmほどのかなり縦長となる分割礫を素材に剥片剥離作業が行われたものである。作業は、棒状に長い分割礫の途中で大きく折断し、その両者に施される。213を残核とする作業は、素材の両端部方向にそれぞれ分割面ないしは折断面を打面とした剥片剥離が繰り返され、石核を含む7点の接合が確認される。また、もう一方の212を残核とする剥離作業も先の剥離作業のあり方と同様に素材の両端部に集中し作業が施される。なお、これらの作業から作出された剥片形状は、大方不定形なものが多い。

接合資料87 (母岩別資料54 第279～285図, 図版75)

○→961+962+976→959+1312+972→707+712+697→1012→956→○→949→968→973→963→○→○+795→
 1144→936+1002→○→958→1006→○…?…○→1004→○+995→998+999→○→1020→○→○→941+○
 →○→1001→993+○+1008→○→996

本資料は、母岩別資料4に分別される剥片と槌・削器1点、石核2点を含む計36点の接合資料である。珣晶が比較的少なく、節理が黒く縞状に多く入った黒色安山岩の大形の河床礫を石材としたものである。長さ20cm、幅10cmほどの分割礫を素材に剥片剥離作業が進められたもので、作業は第279図に示した下方方向から進められていく。礫表皮を同一打面に、連続的な剥片剥離が行われ、多くの横長となる剥片が作出される。その後、それまでの剥片剥離のあり方が大きく変化する。剥片645を剥離させる時点で打面を大きく転移させ、さらに645の剥離面へ打面を転移させるなど、その後の剥片剥離の素材形状を整えるための剥離がなされる(第282図)。その後、135を残核とした剥片剥離が進められていくが、その途中段階において653を残核とする接合体(第283図)が節理面で分割される。第284図に示した135を残核とする剥片剥離作業は、単設打面による連続的な剥片剥離により比較的縦長となる剥片を作出している。また、作業の途中においては、剥片657にみられるような、素材の形状整形のための打面を異にした作業もみられる。つまり、この接合資料では、同一の素材を用いながらも剥離方法をかえることにより、横長・縦長の両者の形状を呈する剥片を作出しているのである。なお、このような一連の作業により作出された剥片のうち縦長となる剥片17は、槌・削器と剥片の側縁に連続的な調整加工が施され、使用されている。

接合資料117 (母岩別資料54 第286・287図, 図版76)

○→80→45→96+92→○→84→81→77+85→1157

本資料は、接合資料87と同一の母岩別資料に分別される剥片と石核1点を含む計9点の接合資料である。礫表皮を打面とする剥離作業の後、打面を転移させながら剥離作業を行っているもので、このうち大形の剥片を素材にした一連の作業に伴う残核として229が残される。

接合資料146 (母岩別資料54 第287 665)

○→967+948+1147+○…?

本資料は、接合資料87・117と同一の母岩別資料に分別される剥片3点による接合資料である。礫表皮を打面に剥離させた際に、節理により分割したものである。

接合資料26 (母岩別資料56 第288図, 図版76)

○→1140→○→684…?

本資料は、母岩別資料56に分別される使用痕を有する剥片2点による接合資料である。節理が縞状にはいり節理面が茶色となる珣質頁岩を石材に、平坦な剥離面を打面として連続的な剥片剥離を行ったもので、作出された剥片は縦長剥片である。この作業に伴う石核は、出土していない。なお、作出された剥片98・113は、その側縁に使用痕を確認することができる。

接合資料81 (母岩別資料57 第289図, 図版76)

○→516→514…?

本資料は、母岩別資料57に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点による計2点の接合資料である。細かな不純物を多く含み、節理の目立つ黒っぽいホルンフェルスを石材とし、剥片剥離を行ったもので、礫面を打面に、さらにはその剥離面を打面に作業を行う。この作業に伴う石核は出土していない。また、作出された剥片のうち77は、側縁の一部に調整加工の施された加工痕を有する剥片として使用されている。

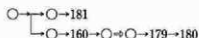
接合資料130 (母岩別資料59 第291図, 図版76)

○→1243→○→172

本資料は、母岩別資料59に分別される剥片2点による接合資料である。節理が幾条も入ったチャートを石材とする。剥片剥離は、素材礫の礫表皮を打面とし、さらには平坦な剥離面へ大きく打面を転移させて剥片

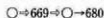
を作出している。

接合資料129 (母岩別資料60 第293図, 図版77)



本資料は、母岩別資料60に分別される剥片と使用痕を有する剥片1点、石核1点を含む計4点の接合資料である。節理面や不純物の多くはといった黒色のチャートを石材とし、拳大程の礫を素材に剥片剥離が行われている。作業は、最初の段階で礫表皮の一部を剥離させるが、その後大きく2つに分割する(分割面は節理面)。分割された一方には、数度の剥片剥離が行われているが、その多くは節理により剥離面がガタガタとなっている。さらにもう一方は、分割面を打面に数度の剥離を繰り返したのち、その剥離面へ打面を転移し剥離を行う。その後大きく打面を転移させ、179を剥離させて188が残核として残されている。なお、作出された剥片のうち104には、使用痕と思われる微細な剥離痕が観察できる。

接合資料128 (母岩別資料61 第292図, 図版76)



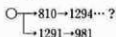
本資料は、母岩別資料61に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。節理の多く入った長方体状のチャートを原石に、節理面で大きく分割された分割礫を素材としたもので、平坦な礫面を打面に、数度の剥離を行ったもの。117は残核として残されているが、剥片剥離は余り進められていない。

接合資料127 (母岩別資料62 第294図, 図版77)



本資料は、母岩別資料62に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。節理の多く入った灰色っぽいチャートを石材とし、拳大程の原石を大きく分割した分割礫を素材とする。作業は、この分割面を打面に連続して剥離を施すことにより比較的縦長となる剥片を作出する。その結果、129が残核として残されている。

接合資料13 (母岩別資料64 第295図, 図版77)



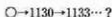
本資料は、母岩別資料64に分別される剥片と加工痕を有する剥片2点と石核2点を含む計4点の接合資料である。微化石を含む黒色頁岩を石材とするもので、素材の大きく剥離された平坦面を打面に連続した剥片剥離を行っている。剥離された肉厚な大形剥片は、節理により二分されるが、その一方を利用し節理面を打面として88を剥離させている。残核は出土していないため、その形状は不明であるが作出された剥片には横長となる剥片がみられる。なお、86・88は側縁の一部に調整加工が施され、加工痕を有する剥片として使用されている。

接合資料23 (母岩別資料65 第296図, 図版77)



本資料は、母岩別資料65に分別される礫器1点と剥片1点による計2点の接合資料である。長さ15cm以上、幅8cmの厚みのある黒色頁岩を原石に、礫器としての刃部作出時における調整剥片の接合した資料である。

接合資料34 (母岩別資料66 第295図, 図版77)



本資料は、母岩別資料66に分別される剥片2点による接合資料である。黒色頁岩を石材に素材の平坦な剥離面を打面に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離が行われたものである。接合した剥片は、いずれも縦長となる剥片である。

接合資料35 (母岩別資料67 第297・298図, 図版78)

○→768→○…?…○→877+889→885…?

本資料は、母岩別資料67に分別される剥片4点による接合資料である。大形の黒色頁岩の原石を大きく分割した分割礫を素材としている。作業は、分割面を打面に表皮側を剥ぎ取り、ついでその剥離面を打面に剥離を施す。その後、679の剥離面に対向する剥離面へ大きく打面を転移させ、肉厚な縦長剥片を連続的に剥離させている。この作業に伴う残核は出土していない。

接合資料42 (母岩別資料68 第298図, 図版78)

1319→○→1330

本資料は、母岩別資料68に分別される剥片2点による接合資料である。黒色頁岩を石材とするもので、平坦な剥離面を打面に剥離されたやや肉厚となる横長剥片を素材に、その打面を除去する様な形で2度の剥離を施している。

接合資料57 (母岩別資料69 第299図, 図版79)

○→436→445

本資料は、母岩別資料69に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。黒色頁岩を石材とする分割礫を素材に剥片剥離を行ったものである。作業は、分割面、剥離皮さらには平坦な剥離面を打面に順次打面転移を行って剥片剥離を行い、不定形な剥片を多く作出させている。その結果、164が残核として残されている。

接合資料60 (母岩別資料70 第300図, 図版79)

○→216→○…?…○→221

本資料は、母岩別資料70に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。黒色頁岩を石材に平坦な剥離面を利用し打面転移を繰り返しながら、素材の周囲から剥片剥離をおこなったもので128が残核として残されている。

接合資料71 (母岩別資料71 第300図, 図版79)

○→341+266→○→294…?

本資料は、母岩別資料71に分別される剥片3点による接合資料である。黒色頁岩を石材とした分割礫、ないしは肉厚な剥片を素材に剥片剥離が行われたもので、打面を90度転移させた後、平坦な剥離面を同一打面に連続した剥離がなされたもの。この作業に伴う残核は、出土していない。

接合資料74 (母岩別資料72 第301図, 図版79)

○→349→310…?

本資料は、母岩別資料72に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点による計2点の接合資料である。黒色頁岩を石材に剥片剥離されたもので、このうち幅広な縦長剥片68は、側縁の一部に調整加工を施した加工痕を有する剥片として使用されている。

接合資料80 (母岩別資料73 第301図, 図版79)

○→520→536+542…?

本資料は、母岩別資料73に分別される剥片3点による接合資料である。黒色頁岩を石材に、素材の平坦な

剝離面を打面に連続的に剝離させたもの。なお、作出された688は、その端部を2度ほど折断したものと考えられる。

接合資料82 (母岩別資料74 第302図, 図版80)

○→554→○→552

本資料は、母岩別資料74に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。黒色頁岩を石材とする内厚な剥片を素材とし、礫面を打面に素材の周囲から連続的な剥片剝離を行ったものである。作出される剥片は、比較的小形な横長となる不定形な剥片である。残核199は、その周囲の剥片により極・削器との識別が難しいが、個々では石核として分別した。

接合資料91 (母岩別資料75 第302図, 図版80)

○→587→○→613

本資料は、母岩別資料75に分別される剥片と石核1点による計2点の接合資料である。斑品や節理の目立つ黒色安山岩を石材としたもので、打面転移を繰り返しながら素材の周囲に剥片剝離を施したものである。195は、残核として残されたものであるが、その剝離面の観察からは小形な不定形な剥片が連続的に剝離されていたものと考えられる。

接合資料99 (母岩別資料76 第303図, 図版80)

○→659→○→663+861…?

本資料は、母岩別資料76に分別される剥片3点による接合資料である。比較的確品の多い黒色安山岩を石材とした分割礫を素材としたもので、打面転移を繰り返しながら剥片剝離されたものである。

接合資料109 (母岩別資料77 第303・304図, 図版80)

○→250+826→1188→○→251→480…?

本資料は、母岩別資料77に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点を含む計5点の接合資料である。斑品が多くはいはる黒色安山岩の内厚な剥片を素材に、礫面を打面に素材の周囲から剥片剝離を行ったものである。作出された剥片は横長となる不定形な剥片で、695の端部に若干の調整加工痕が認められる。

接合資料115 (母岩別資料78 第304・305図, 図版80)

○→389→○→1214→373→371→364+372+374→○→923+927+397…?

本資料は、母岩別資料78に分別される剥片と砕片による計10点の接合資料である。黒色安山岩を石材とする分割礫を素材に剥片剝離を行ったものである。礫面ないしは平坦な剝離面を打面に、打面転移を繰り返しながら剝離作業を行うものである。作出された剥片には不定形なものもあるが、比較的確長となる剥片が見られる。この作業に伴う残核は出土していない。

接合資料122 (母岩別資料79 第306図, 図版80)

○→1170+162→○→176→139→○→164

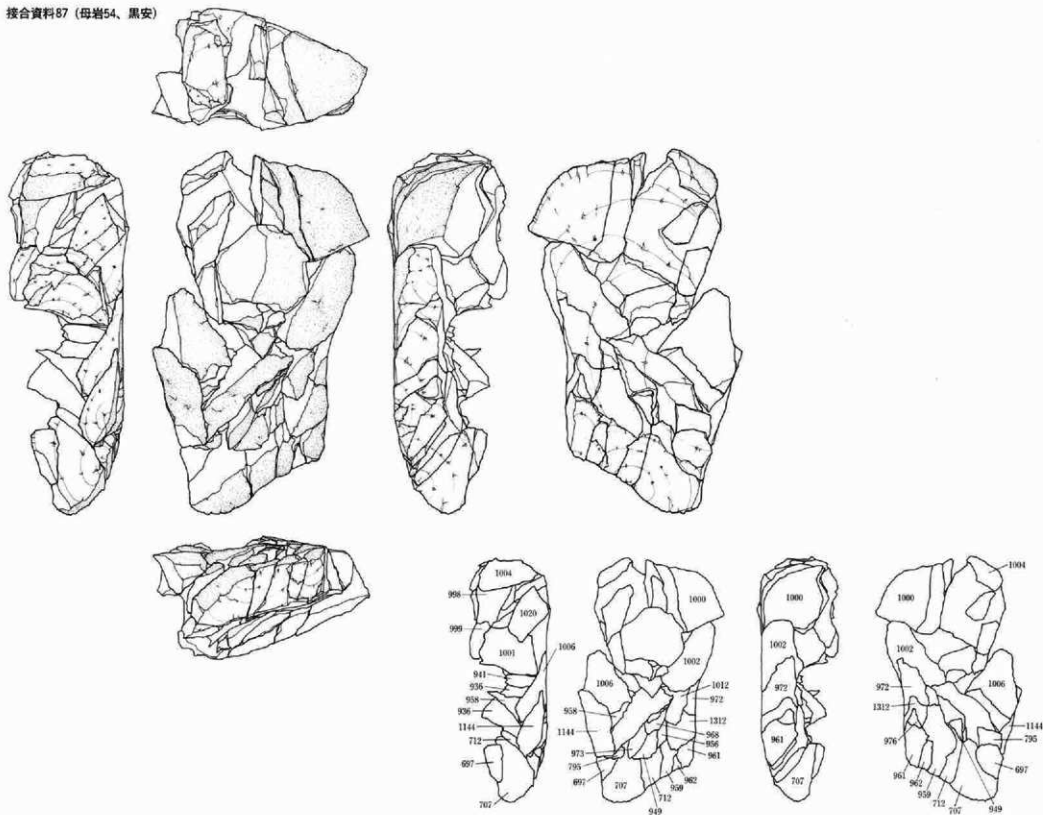
本資料は、母岩別資料79に分別される剥片と石核1点による計5点の接合資料である。比較的確品の目立つ黒色安山岩の分割礫を素材に、素材の分割面を打面に数度の剝離を施したのち、礫面ないしは平坦な剝離面へ打面を転移させ連続的に剥片剝離を行ったものである。その結果、185が残核として残される。

接合資料123 (母岩別資料80 第307図, 図版81)

○→358+1203+353→1211+1212…?

本資料は、母岩別資料80に分別される剥片と加工痕を有する剥片1点を含む5点の接合資料である。黒色安山岩による大形の分割礫を素材としたもので、素材の礫面ないしは平坦な剝離面から剥片剝離を行ったもの

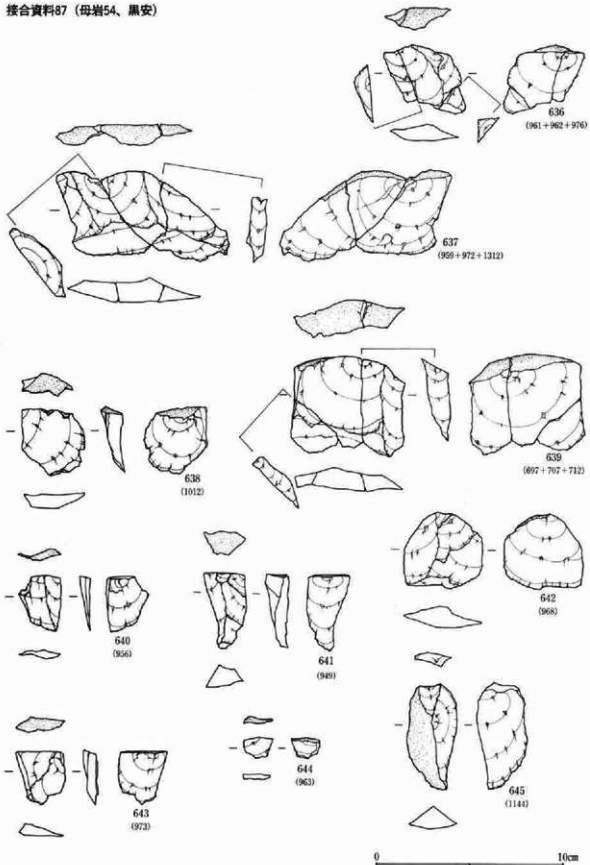
接合資料 87 (母岩54、黒安)



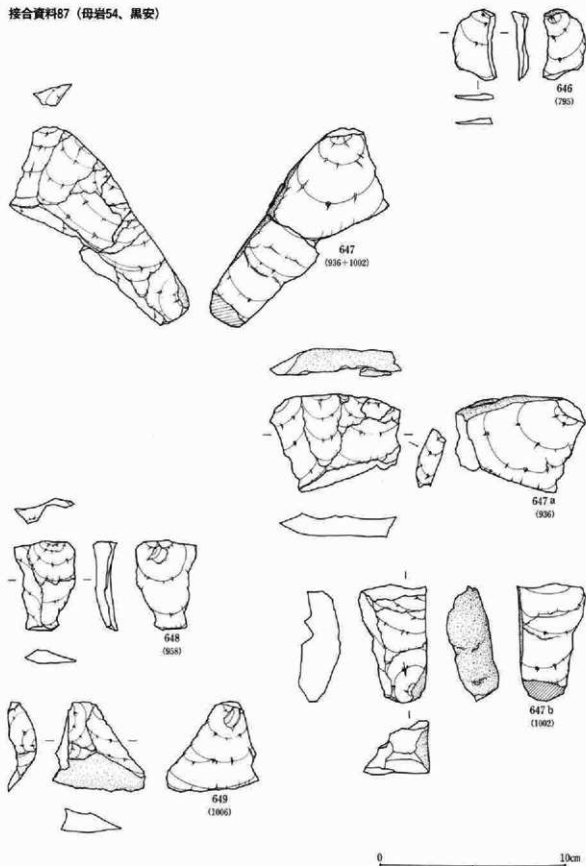
第279図 第11文 接合・母岩別資料

0 10cm

接合資料87 (母岩54、黒安)

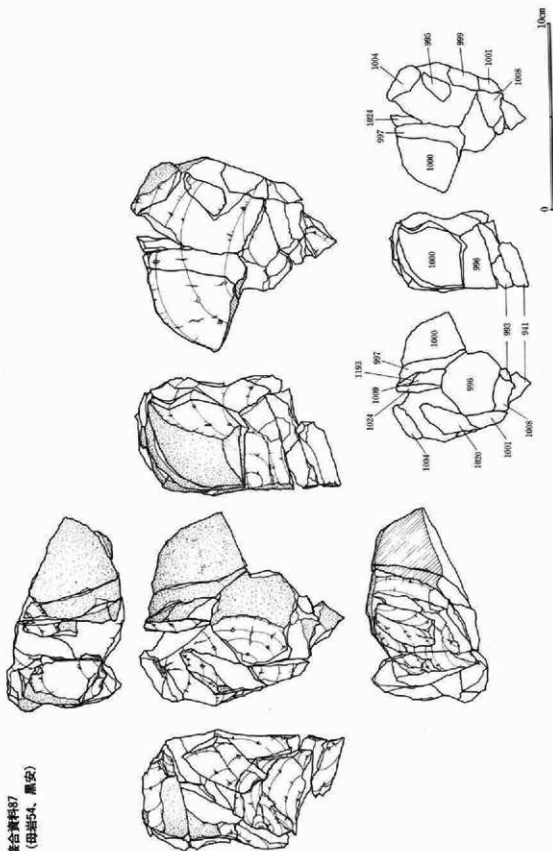


第280図 第II文 接合・母岩別資料



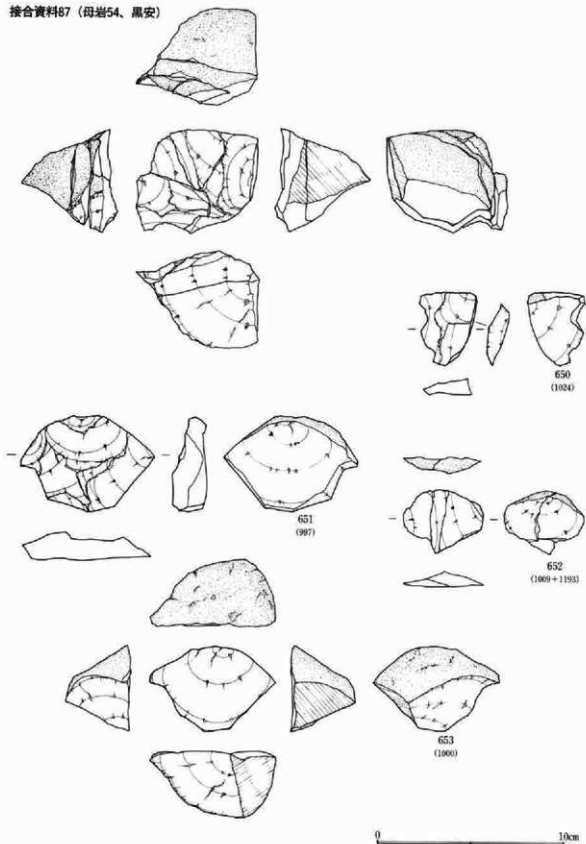
第281圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料87
(母岩54、黒安)



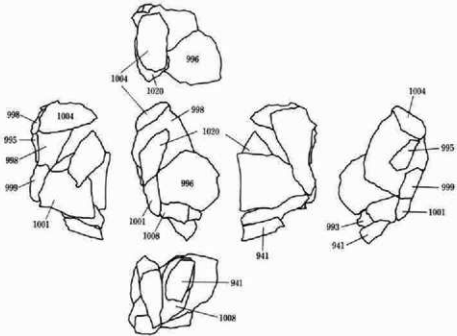
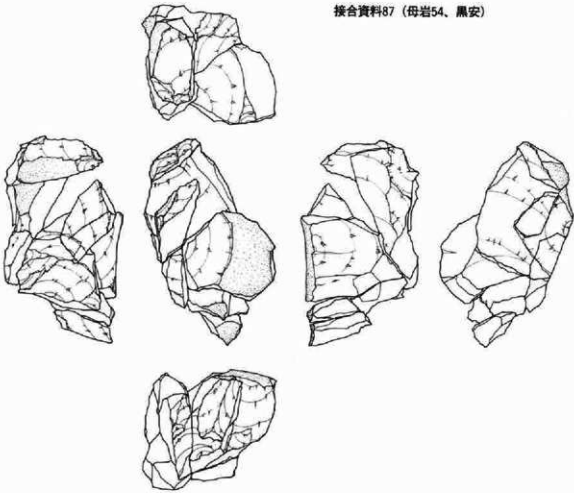
第282図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料67 (母岩54、黒安)



第283図 第II文 接合・母岩別資料

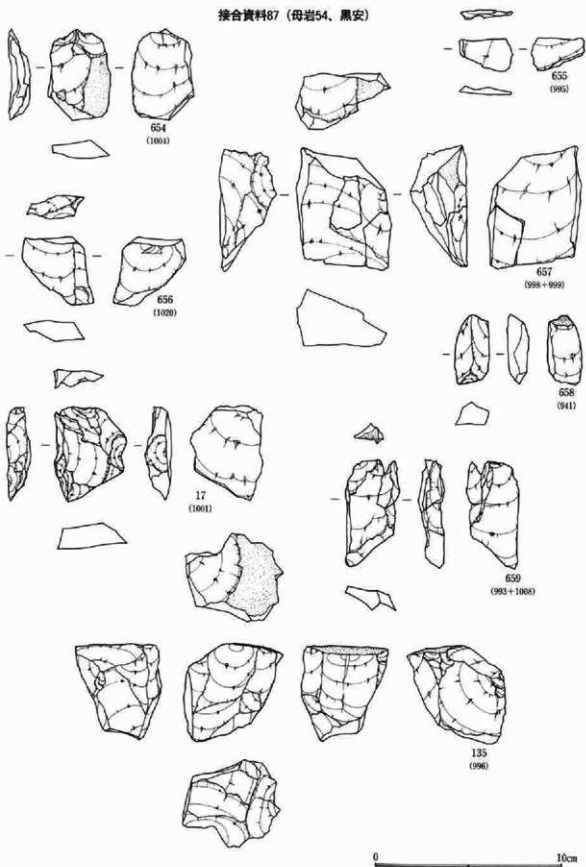
接合資料87 (母岩54、黒安)



0 10cm

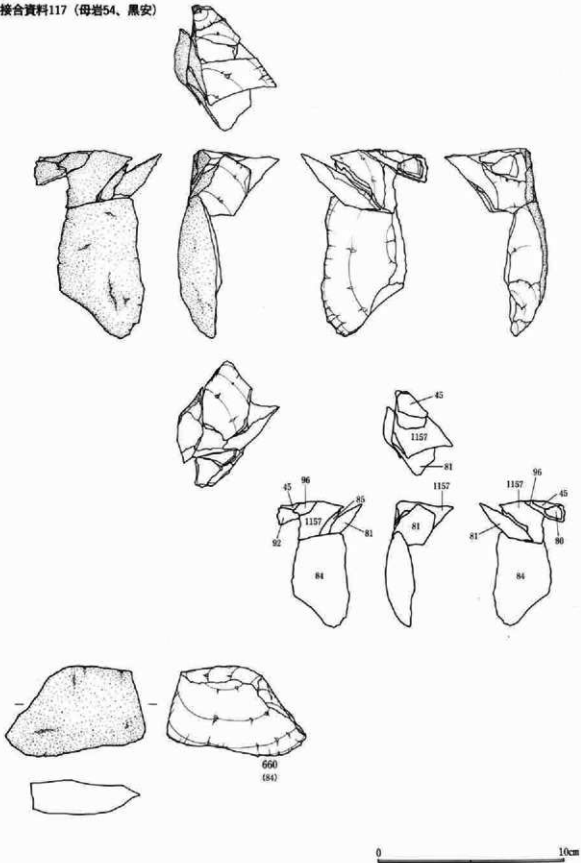
第284図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料87 (母岩54、黒安)



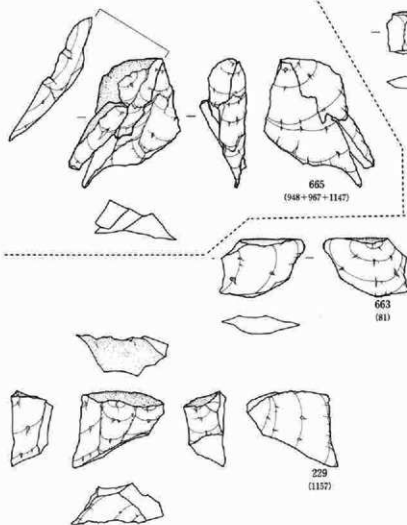
第285図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料117 (母岩54、黒安)

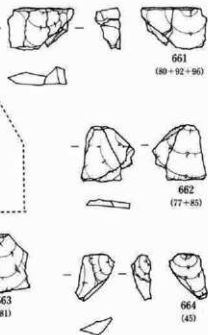


第286図 第II文 接合・母岩別資料

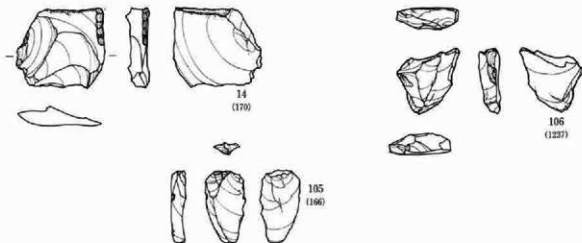
(母岩54、黒安)



接合資料117 (母岩54、黒安)



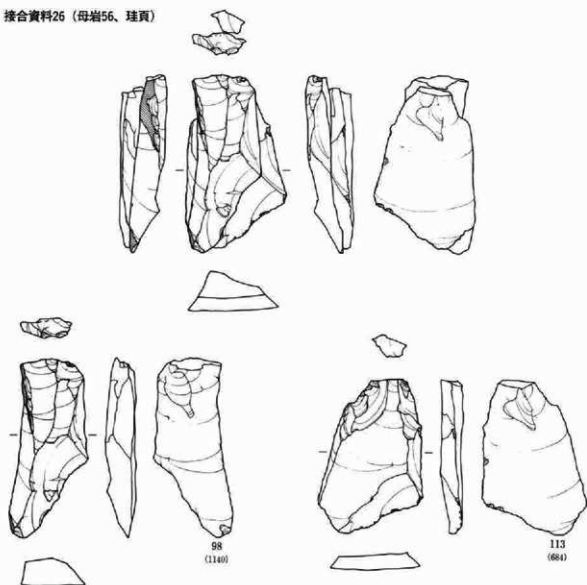
(母岩55、珪質)



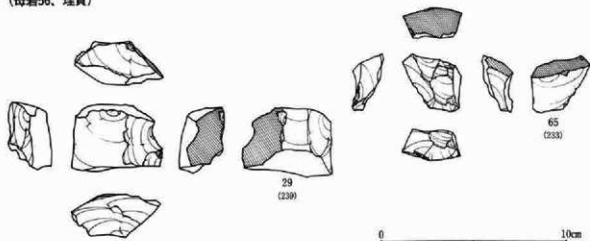
0 10cm

第287図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料26 (母岩56、珪頁)

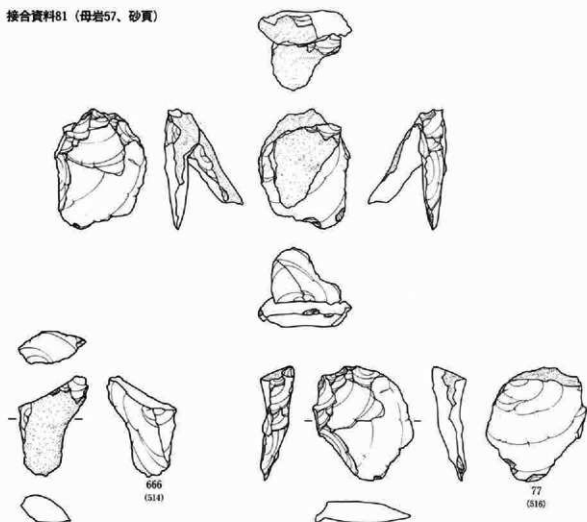


(母岩56、珪頁)

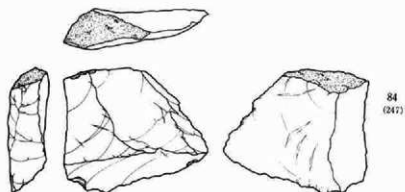


第286図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料81 (母岩57、砂頁)

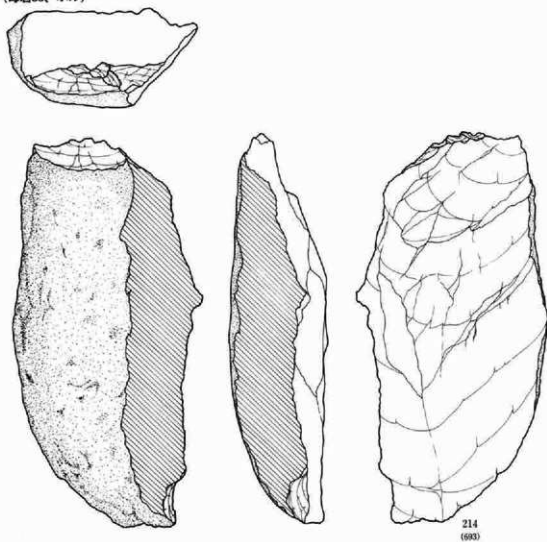


(母岩57、砂頁)



0 10cm

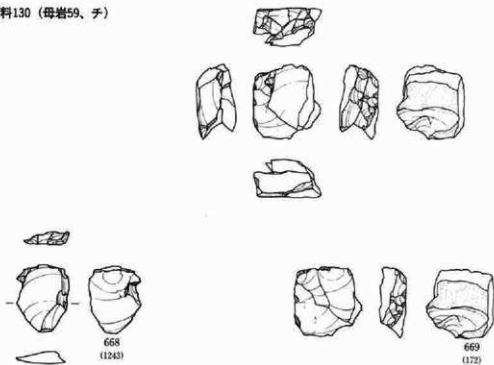
(母岩58、ホル)



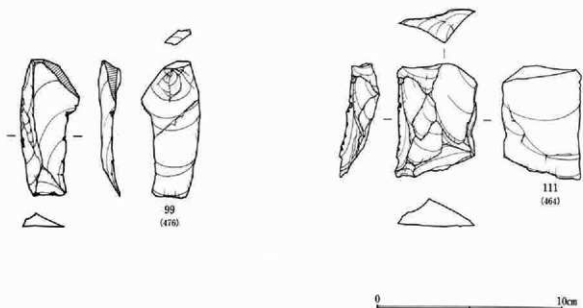
0 10cm

第290図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料130 (母岩59、子)

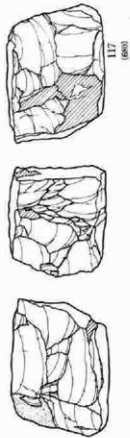
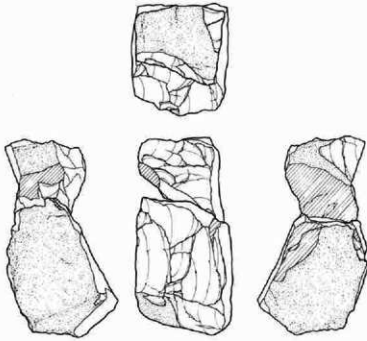
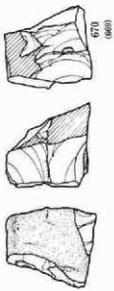


(母岩59、子)



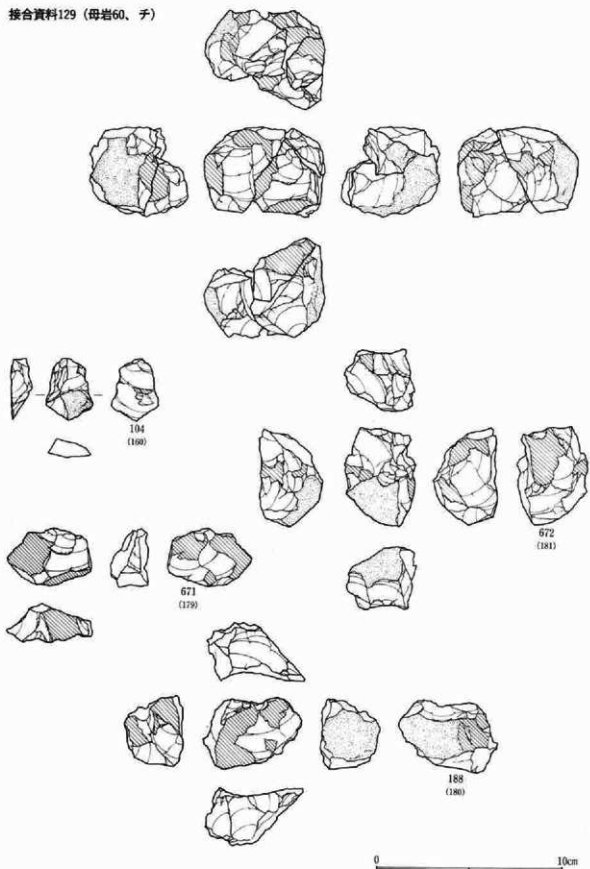
第291圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料128 (母岩61, 子)



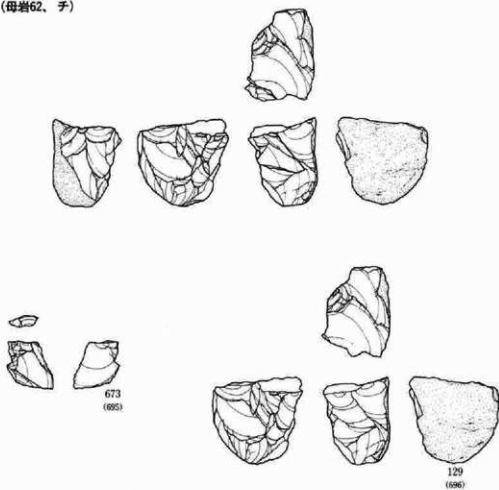
第292圖 第II文 接合・母岩別資料

接合資料129 (母岩60、子)

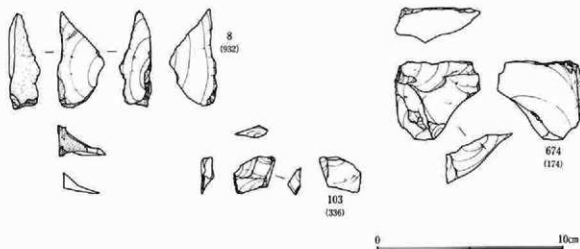


第293図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料127 (母岩62、子)

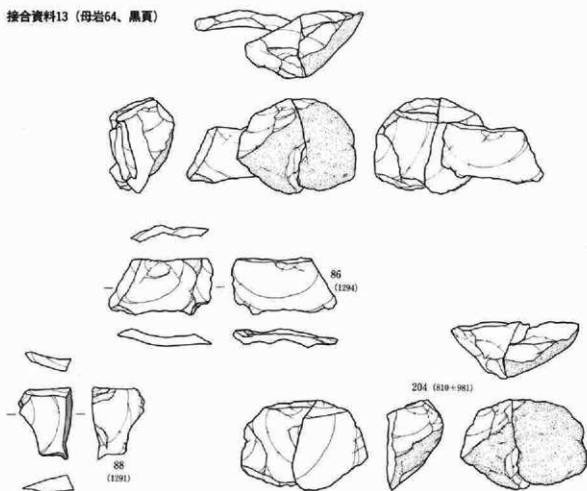


(母岩63、子)

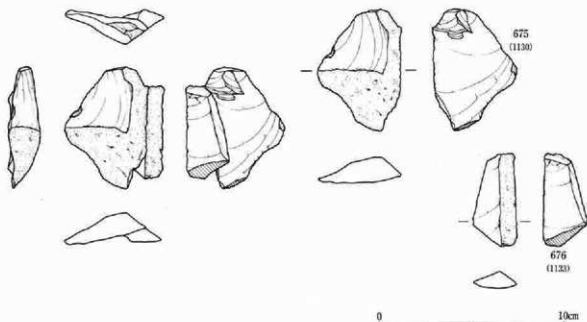


第294図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料13 (母岩64、黒頁)

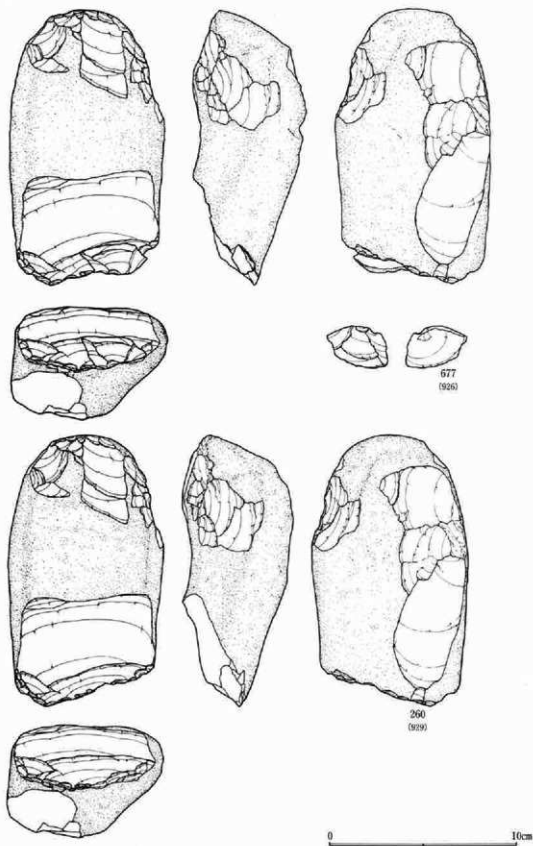


接合資料34 (母岩66、黒頁)



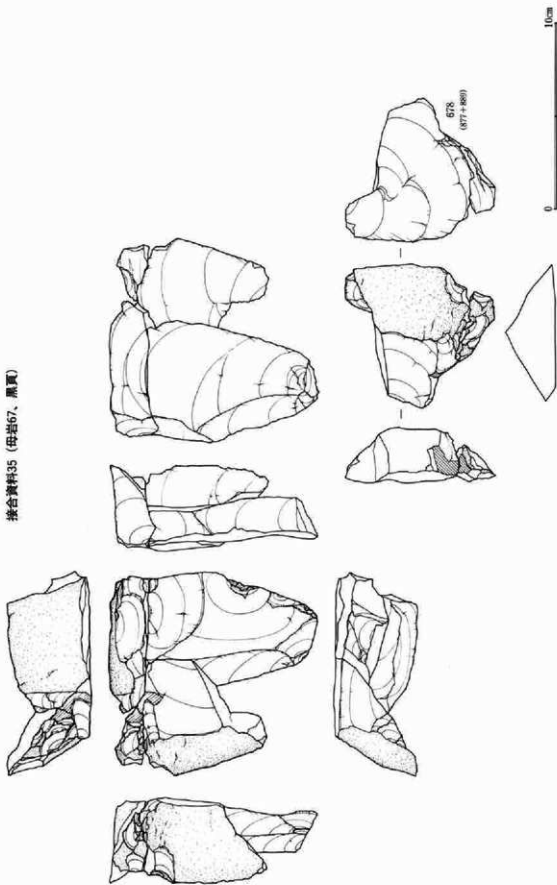
0 10cm

接合資料23 (母岩65、黒頁)



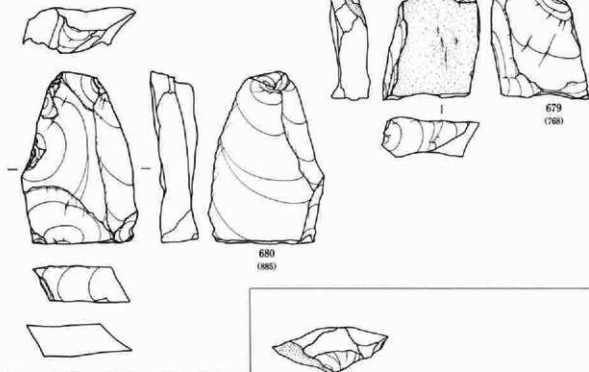
第296図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料35 (母型67、黒頁)

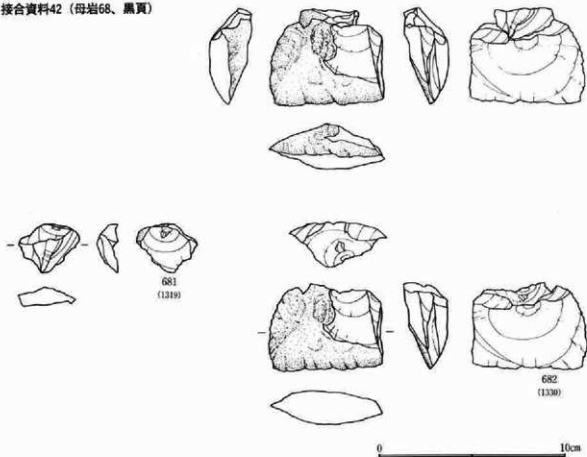


第257図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料35 (母岩67、黒頁)

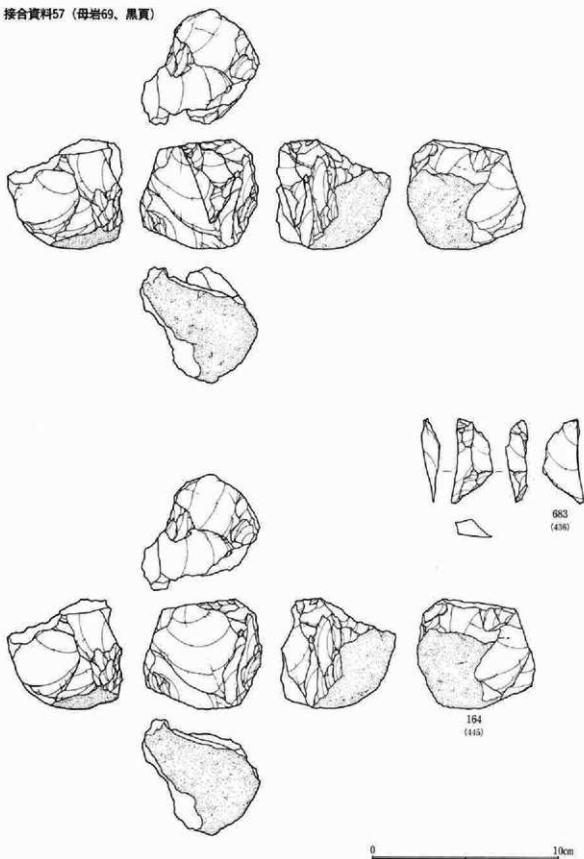


接合資料42 (母岩68、黒頁)



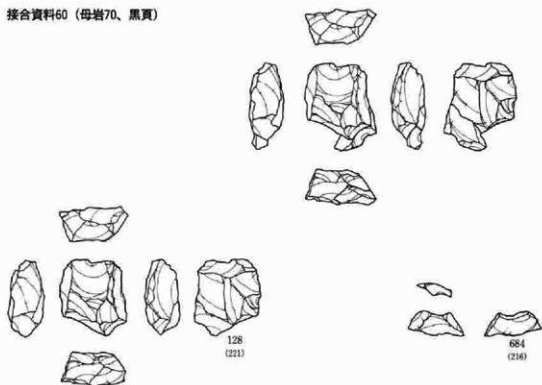
第298図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料57 (母岩69、黒頁)

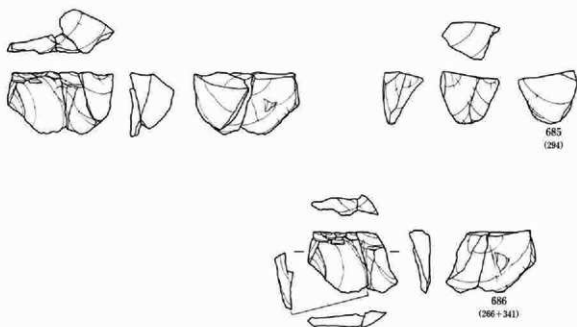


第299図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料60 (母岩70、黒頁)

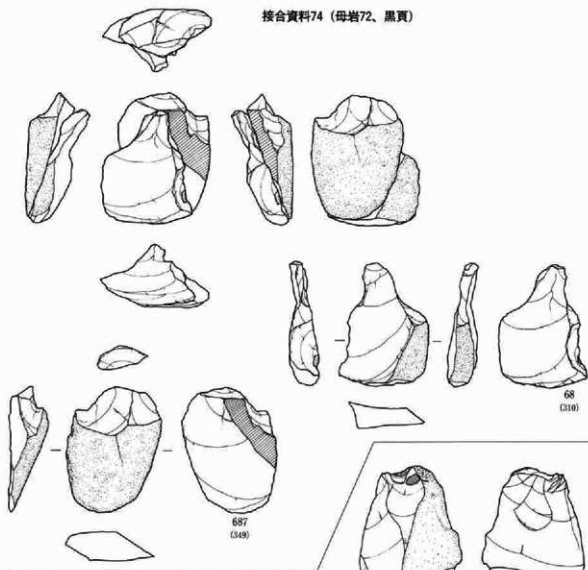


接合資料71 (母岩71、黒頁)

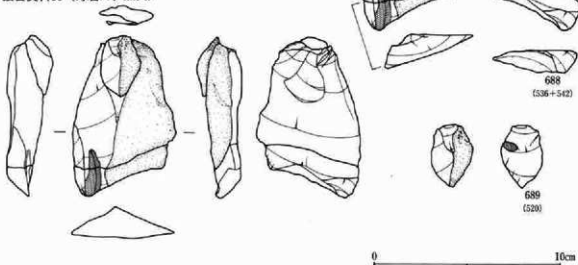


0 10cm

接合資料74 (母岩72、黒頁)

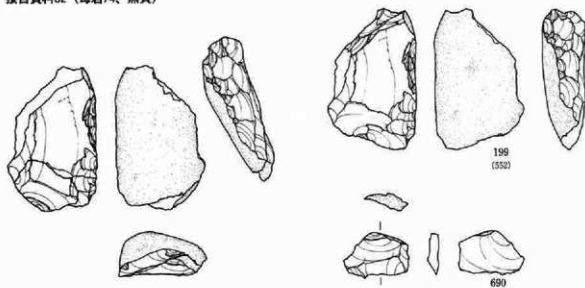


接合資料80 (母岩73、黒頁)

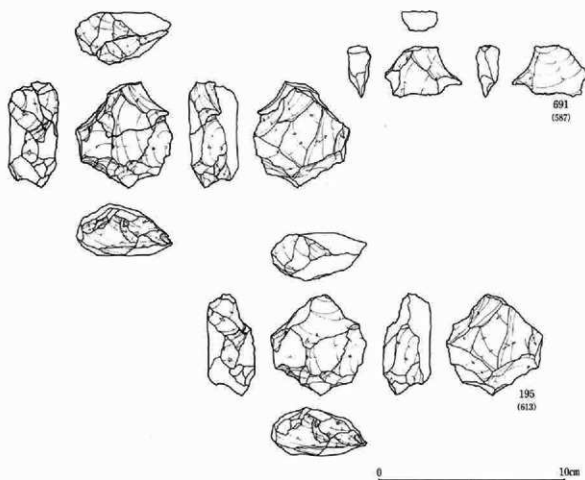


第301図 第II文 接合・母岩別資料

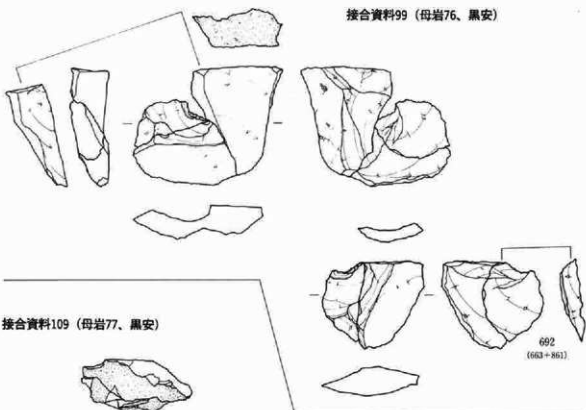
接合資料82 (母岩74、黒頁)



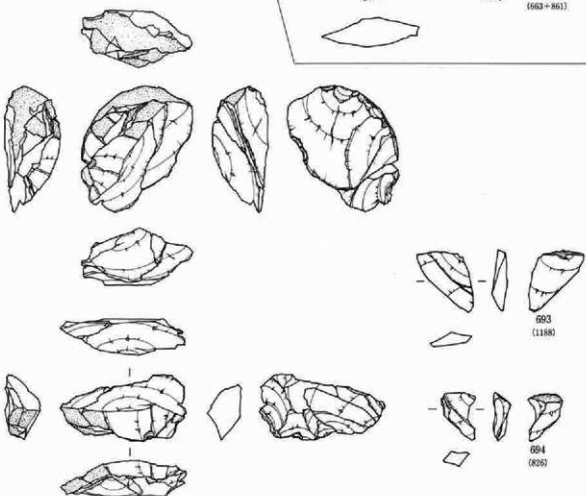
接合資料91 (母岩75、黒安)



接合資料99 (母岩76、黒安)

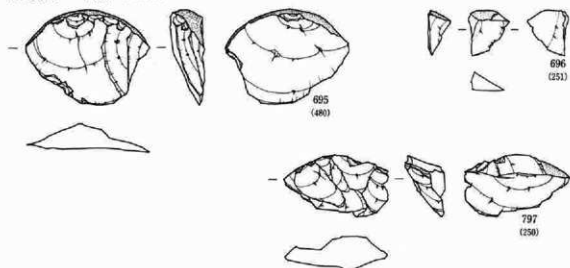


接合資料109 (母岩77、黒安)

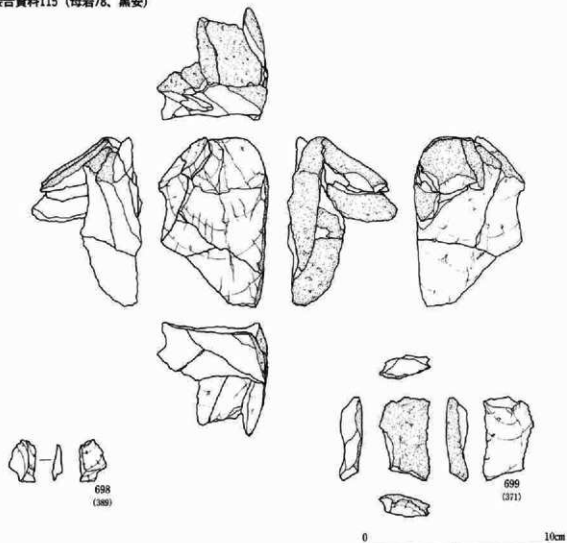


第303図 第II文 接合・母岩別資料

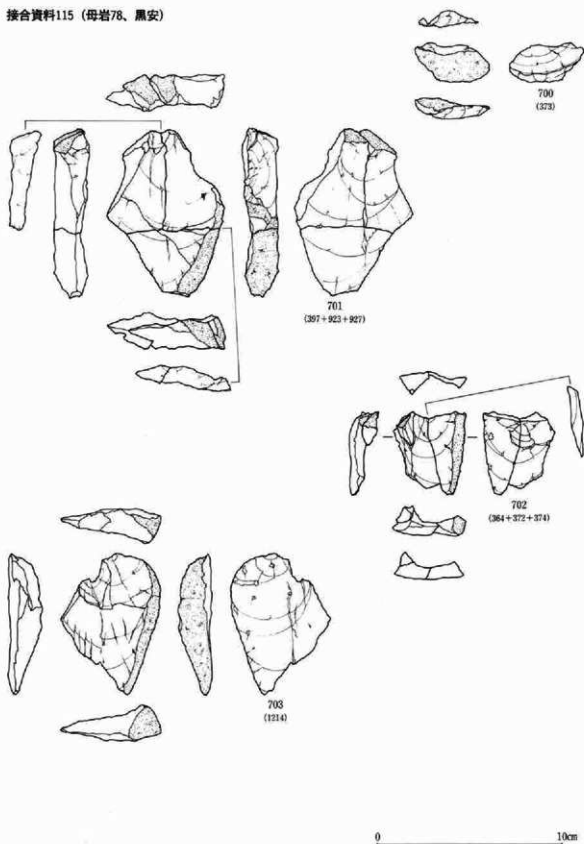
接合資料109 (母岩77、黒安)



接合資料115 (母岩78、黒安)

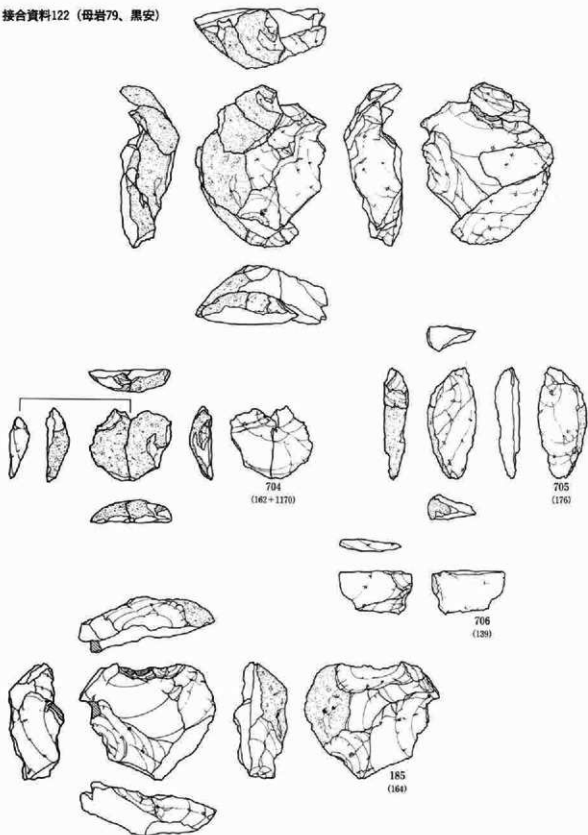


第304図 第II文 接合・母岩別資料

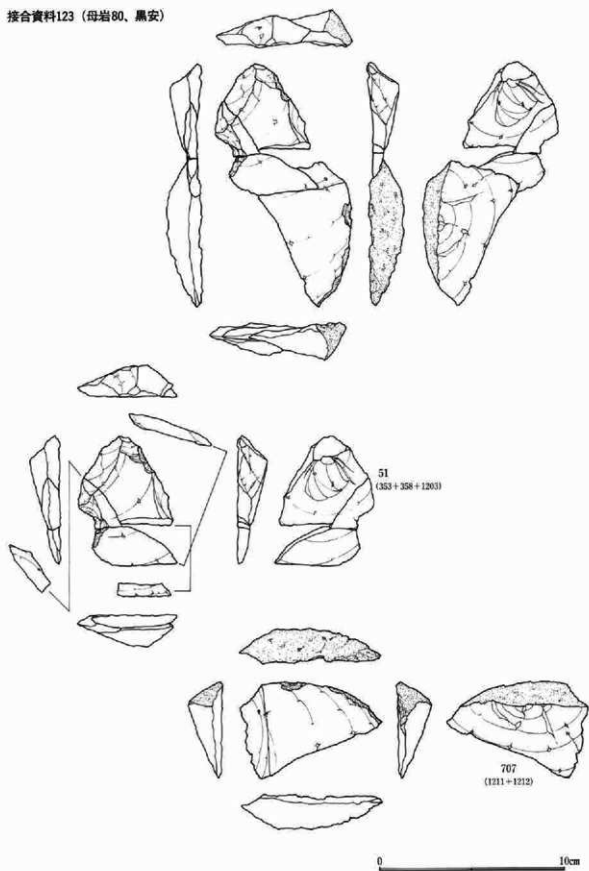


第305図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料122 (母岩79、黒安)

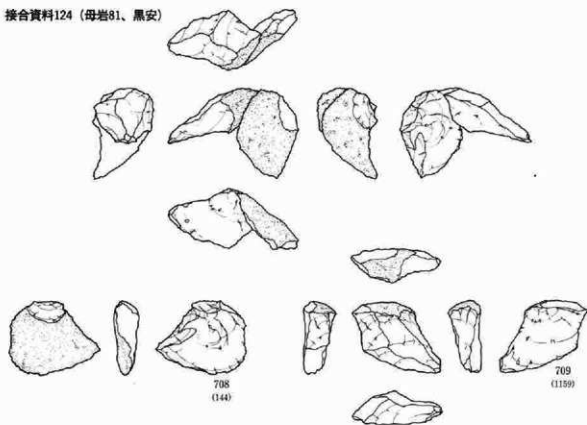


第306図 第II文 接合・母岩別資料

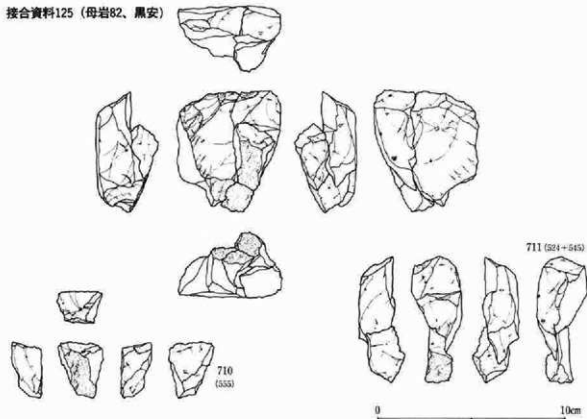


第307図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料124 (母岩81、黒安)

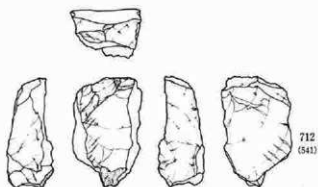


接合資料125 (母岩82、黒安)

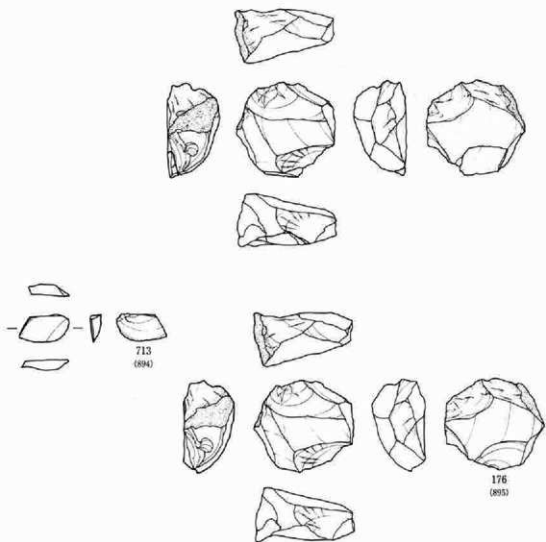


第308図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料125 (母岩82、黒安)

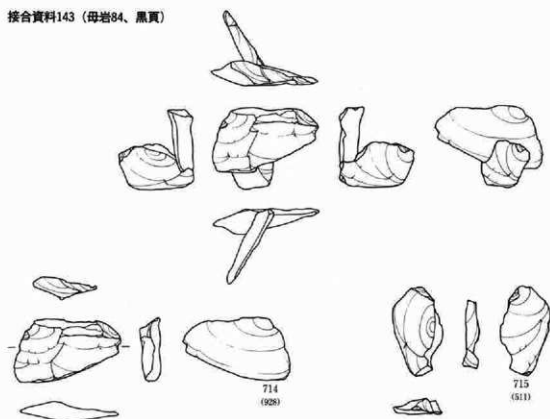


接合資料136 (母岩83、黒安)

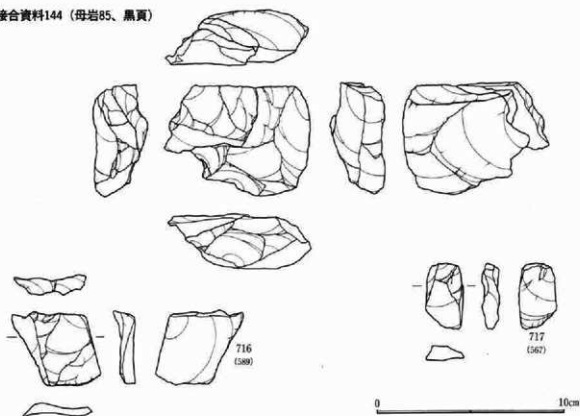


0 10cm

接合資料143 (母岩84、黒頁)

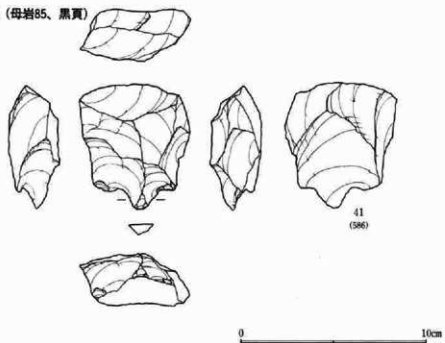


接合資料144 (母岩85、黒頁)



第310図 第II文 接合・母岩別資料

接合資料144 (母岩85、黒頁)



第311圖 第II文 接合・母岩別資料

のである。作出された剥片は、不定形なものがみられ、51の側縁には調整加工が施されており加工痕を有する剥片として使用されている。

接合資料124 (母岩別資料81 第308図, 図版81)

○→144→1159…?

本資料は、母岩別資料81に分別される剥片2点による接合資料である。黒色安山岩を石材に、打面転移を繰り返して剥片剥離を行ったものである。

接合資料125 (母岩別資料82 第308・309図, 図版81)

○→555→○…?…○→541+545+524…?

本資料は、母岩別資料82に分別される剥片4点による接合資料である。黒色安山岩を石材に、平坦な剝離面を同一打面として連続的に剥片剥離を行ったものである。

接合資料136 (母岩別資料83 第309図, 図版81)

○→894→895

本資料は、母岩別資料83に分別される剥片と石核1点による接合資料である。微化石を含む黒色頁岩を石材に、肉厚な大形の剥片を素材としたもので、素材の周囲から剥片剥離を行っている。作出された剥片は、比較的小形の不定形なものが多く、176が残核として残される。

接合資料143 (母岩別資料84 第310図, 図版81)

○→928→○…?…○→511…?

本資料は、母岩別資料84に分別される剥片2点による接合資料である。微化石を含む黒色頁岩を石材に、打面転移を繰り返しながら剥片剥離が行われたもので、不定形な剥片が作出されている。

接合資料144 (母岩別資料85 第310図, 図版81)

○→589→○→567→○→586

本資料は、母岩別資料85に分別される剥片と錐形石器1点を含む3点による接合資料である。黒色頁岩による肉厚な大形剥片を素材に、裏面側から素材剥片の周囲に剝離を施し形状を整えた後、刃部を作出するための調整加工(剥片717)が両側に加えられている。

(谷藤)

第5節 母岩別・接合別資料の分布

第II文化層から出土した多くの石器は、先に述べたように22箇所のブロックから検出され、そして多くの接合資料が確認できた。この接合資料を基に、石材の特徴を加味し、接合資料および接合外の資料について、同一母岩によるものと特定できるものを対象とし分別を行った。その結果、総数847点の石器が対象となり、85種類の母岩別資料に分別された。これは、出土総点数の約63%にも達する数値である。これら分別し得た資料の分布は、以下の通りである。なお、母岩別資料の説明にあたり、接合資料の分布についても併せて述べている。

母岩別資料1（第333図、付図14-2）

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料62の14点の他に3点の計17点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片2点（20号ブロック出土）、使用痕を有する剥片1点（20号ブロック出土）、石核5点（20号ブロック4点、11号ブロック1点）、剥片9点で構成され、20号ブロックの51B15グリッドを中心とした径4m程の範囲の中に13点が集中し、11号ブロックに3点、1号ブロックに1点の3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料62の分布は、第333図に示すごとく20号ブロックの12点を主に、11号ブロックから2点出土し、その最長距離は15.8mを測る。

母岩別資料2（第314図、付図20）

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料12の13点の他に3点の計16点が分別される。これらの資料は、石核1点（2号ブロック出土）、剥片15点で構成され、2号ブロックの58B29グリッドを中心とする径4mの範囲の中に12点が集中し、1号ブロックに1点、10号ブロックに1点、17号ブロックに2点の4ブロックに跨り分布している。このうち接合資料12の分布は、第314図に示すごとく2号ブロックに11点、10号ブロックに1点、17号ブロックに1点出土し、その最長距離は27.2mを測る。

母岩別資料3（第335図、付図19-1）

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料66の21点の他に2点の計23点が分別される。これらの資料は、石核1点（4号ブロック出土）、剥片22点で構成され、21号ブロックの54・55B13・14グリッドを中心とした径6mの範囲に21点が集中し、4号ブロックおよび22号ブロックに各1点の3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料66の分布は、第335図に示すごとく21号ブロックの19点を主体に、4号ブロックから1点、22号ブロックから1点出土し、その最長距離は36mを測る。

母岩別資料4（第312図、付図14-1）

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料1の21点と接合資料28の2点、他7点の計30点が分別される。これらの資料は、石核1点（1号ブロック出土）、掻・削磨1点（1号ブロック出土）、剥片28点で構成され、1号ブロックの50・51B33・34グリッドを中心とした径3mの範囲に20点が集中し、5号ブロックに4点、2・7・13・19・21・22号ブロックに各1点と8ブロックに跨り分布している。このうち接合資料1の分布は、第312図に示すごとく1号ブロックから19点、2号ブロックから1点、5号ブロックから2点出土し、その最長距離は20.24mを測る。また、接合資料28は5号ブロックから出土した2点で、その距離は32cmを測る。

母岩別資料5（第338図、付図21）

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料79の6点の他に1点の計7点が分別される。

これらの資料は、石核1点(22号ブロック出土)と剥片6点で構成され、22号ブロックの58B14グリッドを中心とした径2mの範囲に6点が、21号ブロックに1点が分布している。このうち接合資料79の分布は、第338図に示すごとく22号ブロックから出土した6点で、その最長距離は1.98mを測る。

母岩別資料6(第336図, 付図19-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料69の12点の資料のみが分別される。これらの資料は、鏃・削器が1点(22号ブロック出土)、石核1点(21号ブロック出土)、剥片10点で構成される。分布は第336図に示すごとく、21号ブロックの54B13・14グリッドを中心とした径4mの範囲に11点が集中し、22号ブロックへ1点の2つのブロックに跨る。その最長距離は7.71mを測る。

母岩別資料7(第316図, 付図15-1)

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料22の3点と接合資料24の2点、他1点の計6点が分別される。これらの資料は石核2点(4号ブロック出土)、剥片4点で構成され、4号ブロックの50・51B29グリッドに5点が集中し、他8号ブロックに1点の2ブロックに跨り分布している。このうち接合資料22・24の分布は、第316図に示すごとく、共に4号ブロックから出土しており、接合資料22は3点が1.5mの距離をもって分布し、接合資料24は2点が75cmを隔て分布する。

母岩別資料8(第312図, 付図14-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料5の2点が分別される。これらの資料は石核2点で、ともに1号ブロックの51B33グリッドに50cmを隔て分布する。

母岩別資料9(第325図, 付図18-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料46の4点が分別される。これらの資料は石核1点(16号ブロック出土)、剥片3点で構成される。分布は第325図に示すごとく、16号ブロックの56B19グリッドを中心とした2mの範囲に3点と18号ブロックに1点の2つのブロックに跨り、その最長距離は2.64mを測る。

母岩別資料10(第313図, 付図20)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料16の2点の他に2点の計4点が分別される。これらの資料は、石核2点(2・14号ブロック出土)、剥片2点で構成され、2号ブロックの56B31・58B30グリッドに2点と、14号ブロックに1点、21号ブロックに1点の3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料16の分布は、第313図に示すごとく2号ブロックから2点が出土しており、その距離は3.32mを測る。

母岩別資料11(第327図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料52の5点の他1点の計6点が分別される。これらの資料は、石核2点(18号ブロック出土)、剥片4点で構成され、18号ブロックの57B16グリッドを中心とした径2.7mの範囲に5点と、6号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料52の分布は、第327図に示すごとく18号ブロックから5点出土し、その最長距離は2.61mを測る。

母岩別資料12(第319・328図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料25の9点と接合資料55の3点の計12点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片2点(18号ブロック出土)、石核2点(1号ブロック出土)、剥片8点で構成され、5号ブロックの48B29・30グリッドを中心とした径3mの範囲に8点が集中し、1号ブロックに1点、18号ブロックに3点の3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料25の分布は、

第319図に示すごとく1号ブロックから1点、5号ブロックから8点出土し、その最長距離は7.62mを測る。また接合資料55の分布は、第328図に示すごとく18号ブロックから3点が出土し、その最長距離は90cmを測る。

母岩別資料13 (第316図, 付図15-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料20の6点が分別される。これらの資料は石核2点(4・9号ブロック出土)、加工痕を有する剥片1点(9号ブロック出土)、剥片3点で構成される。分布は第316図に示すごとく、4号ブロックの51B29グリッドに3点と54B28グリッドに1点、9号ブロックに2点の2つのブロックに跨り、その最長距離は6.45mを測る。

母岩別資料14 (第327図, 付図17-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料49の3点と接合資料50の3点、他2点の計8点が分別される。これらの資料は総て剥片で構成され、17号ブロックの53・54B17グリッドを中心とした径3.6mの範囲に7点が集中し、14号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料49の分布は、第327図に示すごとく17号ブロックに3点出土し、その最長距離は3.75mを測る。また接合資料50についても同ブロックに3点が出土し、最長距離は1.56mを測る。

母岩別資料15 (第321図, 付図14-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料36の2点の他に2点の計4点が分別される。これらの資料は総て剥片で構成され、10号ブロックの57B24グリッドに2点、58B23グリッドに1点、20号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料36の分布は、第321図に示すごとく10号ブロックから2点出土し、その最長距離は3.12mを測る。

母岩別資料16 (第324図, 付図17-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料43の3点の他に3点の計6点が分別される。これらの資料は石核1点、剥片5点で構成され、14号ブロックの41B13グリッドを中心とした径5mの範囲に6点が分布している。このうち接合資料43の分布は、第324図に示すごとく同ブロックに3点出土し、その最長距離は5.1mを測る。

母岩別資料17 (第314図, 付図20)

本母岩別資料に含まれるものには、珉質頁岩による接合資料14の3点が分別される。これらの資料は、槌・削器1点(4号ブロック出土)、剥片2点で構成される。分布は第314図に示すごとく2号ブロックの56B29・30グリッドに2点、隣接した4号ブロックに1点出土し、最長距離は3.66mを測る。

母岩別資料18 (第337図, 付図19-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料75の3点、接合資料76の2点、接合資料77の2点の計7点が分別される。これらの資料は剥片6点、砕片1点で構成され、21号ブロックの53B12・13グリッドを中心とした径4.8mの範囲に7点が集中して分布する。このうち接合資料75の分布は3点が同ブロックから出土し、その最長距離は4.28mを測る。また第337図に示すごとく、接合資料76の分布は、同ブロックから1.92mの距離をもち出土し、接合資料77は2点が4.23mの距離をもち出土する。

母岩別資料19 (第326図, 付図18-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料45の8点が分別される。これらの資料は石核2点(16号ブロック出土)、剥片6点で構成される。分布は第326図に示すごとく、16号ブロックの55・56B21グリッドを中心とした径2.8mの範囲に7点が集中し、10号ブロックに1点の2つのブロックに跨り、その最長距離は7.88mを測る。

母岩別資料20 (第319図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料29の3点が分別される。これらの資料は石核1点・剥片2点で構成される。分布は第319図に示すごとく、7号ブロックの45B24・25グリッドに3点が出土し、その最長距離は1.17mを測る。

母岩別資料21 (第313・314図, 付図20)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料17の2点と接合資料18の2点、他7点の計11点が分別される。これらの資料は石核4点(2号ブロックに3点、7号ブロックに1点出土)、剥片7点で構成され、2号ブロックの57B30グリッドを中心とした径5.5mの範囲に5点が集中し、7号ブロックに3点、3・14・21号ブロックに各1点の5つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料17の分布は、第314図に示すごとく2号ブロックに2点出土し、その距離は1.47mを測る。また接合資料18の分布は第313図に示すごとく、2号ブロックに2点出土し、その距離は96cmを測る。

母岩別資料22 (付図16-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による剥片3点が分別され、7・19・22号ブロックの三つのブロックに跨り1点づつ分布する。

母岩別資料23 (付図15-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による石核1点(8号ブロック出土)、剥片3点の計4点が分別され、1・4・8・22号ブロックの4つのブロックに跨り分布する。

母岩別資料24 (第330・331・333図, 付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料59の4点と、接合資料72の3点、接合資料142の2点の計9点が分別される。これらの資料は石核2点(19号ブロック出土)、剥片7点で構成され、19号ブロックの48B15・16・17グリッドに6点が集中し、21号ブロックに3点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料59の分布は、第331図に示すごとく19号ブロックに3点が出土し、その最長距離は2.97mを測る。接合資料72の分布は、第333図に示すごとく21号ブロックに3点が出土し、その最長距離は6.6mを測る。また接合資料142の分布は、第330図に示すごとく19号ブロックに2点が出土し、その距離は15cmを測る。

母岩別資料25 (第326図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、点紋頁岩による接合資料48の2点と接合資料56の2点、他24点の計28点が分別される。これらの資料は、掘・削器1点(16号ブロック出土)、加工痕を有する剥片1点(16号ブロック出土)、石核1点(18号ブロック出土)、剥片25点で構成され、18号ブロックの56B15グリッドを中心とした径4.8mの範囲に15点が集中し、7号ブロックに6点、16号ブロックに3点、21号ブロックに2点、1・4号ブロックに各1点の6つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料48の分布は、第326図に示すごとく16号ブロックから2点が出土し、その距離は2.28mを測る。また接合資料56は、18号ブロックから2点が出土しその距離は1.12mを測る。

母岩別資料26 (第317・325・327・329図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料19の6点と、接合資料47の3点、接合資料51の9点、接合資料53の3点の計21点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片3点(9号ブロックに1点、16号ブロックに2点)、使用痕を有する剥片1点(16号ブロック出土)、石核4点(4・9・18・22号ブロックに各1点)、剥片13点で構成され、18号ブロックの56・57B15グリッドを中心とした径5.8mの範

圃に9点が集中し、4・16号ブロックに各3点、9号ブロックに2点、1・10・11・22号ブロックに各1点の8つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料19の分布は、第317図に示すごとく4号ブロックから3点、9号ブロックから2点、10号ブロックから1点が出土し、その最長距離は10.47mを測る。接合資料47の分布は、第325図に示すごとく16号ブロックから3点が出土し、その最長距離は11.89mを測る。接合資料51の分布は、第329図に示すごとく18号ブロックの6点を主に、1・11・22号ブロックに各1点が出土し、その最長距離は40.4mを測る。接合資料53の分布は、第327図に示すごとく18号ブロックから3点が出土し、その最長距離は1.02mを測る。

母岩別資料27 (第336図, 付図19-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料68の16点の他に8点の計24点が分別される。これらの資料は、石核4点(5・18号ブロックから各1点、21号ブロックから2点出土)、剥片20点で構成され、21号ブロックの54B14・15グリッドを中心とした径5mの範囲に13点が集中し、4号ブロックに3点、2・18号ブロックに各2点、1・5・20・22号ブロックに各1点の8つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料68の分布は、第336図に示すごとく21号ブロックの13点を主に、18号ブロックから2点、22号ブロックから1点出土し、その最長距離は8.16mを測る。

母岩別資料28 (第312・320・322・334図, 付図19-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料2の4点と接合資料3の4点、接合資料4の2点、接合資料6の2点、接合資料7の2点、接合資料10の2点、接合資料32の2点、接合資料38の2点、接合資料40の3点、接合資料67の13点、他13点の計49点が分別される。これらの資料は、掻・削器1点(21号ブロック出土)、使用痕を有する剥片1点(21号ブロック出土)、石核2点(21号ブロック出土)、剥片44点、破片1点で構成され、1号ブロックの51B33・52B32グリッドを中心とした径5mの範囲に22点、21号ブロックの54・55B14グリッドを中心とした径8mの範囲に16点が集中し、11号ブロックに3点、8・10・20号ブロックに各2点、9・19号ブロックに各1点の8つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料2・3の分布は、第312図に示すごとく2号ブロックにともに4点が出土し、その最長距離は接合資料2が4.32m、接合資料3が3.06mを測る。接合資料10の分布は第312図に示すごとく1号ブロックと11号ブロックから各1点出土し、その距離は18.8mを測る。接合資料32の分布は、第320図に示すごとく8号ブロックから2点出土し、その距離は2.04mを測る。接合資料40の分布は第322図に示すごとく1・9・11号ブロックから各1点が出土し、その最長距離は19.2mを測る。接合資料67の分布は、第334図に示すごとく21号ブロックから13点が出土し、その最長距離は7.71mを測る。なお、接合資料4・6・7は総て1号ブロックから、接合資料38は10号ブロックから出土した2点によるもので、それぞれ同一剥片となるものである。

母岩別資料29 (第338図, 付図21)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料137の3点と接合資料140の2点、接合資料145の2点、他5点の計49点が分別される。これらの資料は総て剥片で、22号ブロックの58・59B14グリッドに6点が集中し、18号ブロックに4点、13・16号ブロックに各1点の4つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料137の分布は、第338図に示すごとく22号ブロックから2点、13号ブロックから1点出土し、その最長距離は34.28mを測る。接合資料140は、18号ブロックから2点が出土し、その距離は12cmを測る。接合資料145は22号ブロックから2点が出土し、その距離は1.44mを測る。

母岩別資料30 (第337図, 付図19-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料70の4点の他1点の計5点が分別される。こ

これらの資料は石核1点と剥片4点で構成され、21号ブロックの55B14グリッドを中心とした径4mの範囲に5点が分布している。このうち接合資料70の分布は、第337図に示すごとく21号ブロックから4点が出土し、その最長距離は3.87mを測る。

母岩別資料31 (第314・317図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料15の2点と接合資料21の4点、他6点の計12点が分別される。これらの資料は、掻・削器1点(16号ブロック出土)、加工痕を有する剥片1点(2号ブロック出土)、石核2点(2・21号ブロック出土)、剥片7点、砕片1点で構成され、4号ブロックの52・53B29グリッドを中心とした径5.3mの範囲に4点、2号ブロックに3点、16・17・19・20・21号ブロックに各1点の7つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料15の分布は、第314図に示すごとく2号ブロックから2点出土し、その距離は54cmを測る。また接合資料21の分布は、第317図に示すごとく4号ブロックから3点、2号ブロックから1点が出土し、その最長距離は11.8mを測る。

母岩別資料32 (第319・320図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料30の2点と接合資料31の3点、他1点の計6点が分別される。これらの資料は総て剥片で、8号ブロックの50B26グリッドに5点、7号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料30の分布は、第319図に示すごとく7号ブロックと8号ブロックに1点づつ出土し、その距離は14.6mを測る。また接合資料31の分布は、第320図に示すごとく8号ブロックに3点出土し、その最長距離は2.04mを測る。

母岩別資料33 (第313・325図, 付図18-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料78の2点と接合資料135の2点、接合資料138の3点、接合資料139の2点、他6点の計15点が分別される。これらの資料は石核2点(2・16号ブロック出土)、剥片13点で構成され、2号ブロックの59B29グリッドに5点、16号ブロックに4点、21号ブロックに3点、17号ブロックに2点、10号ブロックに1点の5つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料78は21号ブロックから2点出土し、その距離は1.4mを測る。接合資料135の分布は第313図に示すごとく2号ブロックから2点が出土し、その距離は24cmを測る。接合資料138の分布は、第325図に示すごとく16号ブロックから3点出土し、その最長距離は2.76mを測る。なお、接合資料139は17号ブロックから出土する2点で、同一剥片となるものである。

母岩別資料34 (第328図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料54の3点が分別され、石核1点と剥片2点で構成される。分布は、第328図に示すごとく18号ブロックの55・56B15グリッドに3点が出土し、その最長距離は1.92mを測る。

母岩別資料35 (第322図, 付図17-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料39の14点の他に10点の計24点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片3点(11・13・17号ブロック出土)、石核1点(11号ブロック出土)、剥片20点で構成され、11号ブロックの50B22グリッドを中心とした径8.8mの範囲に15点が集中し、21号ブロックに4点、19号ブロックに2点、8・13・17号ブロックに各1点の6つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料39の分布は、第322図に示すごとく11号ブロックから14点出土し、その最長距離は8.7mを測る。

母岩別資料36 (第312・330図, 付図16-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料11の2点と接合資料141の3点、他13点の計18点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剝片1点(4号ブロック出土)、石核1点(19号ブロック出土)、剝片16点で構成され、8・16・19号ブロックに各3点、2・22号ブロックに各2点、1・3・4・11・20号ブロックに各1点の10ブロックに跨り分布している。このうち接合資料11の分布は、第312図に示すごとく1号ブロックから1点、20号ブロックから1点出土し、その距離は33mを測る。また接合資料141の分布は、第330図に示すごとく19号ブロックから2点、16号ブロックから1点出土し、その最長距離は14.4mを測る。

母岩別資料37 (第327図, 付図18-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料116の5点と接合資料126の2点、他1点の計8点が分別される。これらの資料は、掻・削器1点と剝片7点で構成され、18号ブロックの56B15グリッドを中心とした径2.8mの範囲に8点が集中して分布している。このうち接合資料116の分布は、第327図に示すごとく同ブロックから5点出土し、その最長距離は2.7mを測る。また接合資料126は、同ブロックから2点が56cmの距離をもち出土する。

母岩別資料38 (付図15-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による石核1点(1号ブロック出土)と剝片3点の計4点が分別され、1号ブロックの51・52B32グリッドに2点、13・16号ブロックに各1点の3つのブロックに跨り分布している。

母岩別資料39 (付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による剝片2点が分別され、19号ブロックの50・51B17グリッドに分布する。

母岩別資料40 (第331図, 付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料61の2点が分別され、ともに剝片である。分布は、第331図に示すごとく19号ブロックから2点が出土し、その距離は4.59mを測る。

母岩別資料41 (第333図, 付図14-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料65の2点が分別され、石核1点、剝片1点で構成される。分布は、第333図に示すごとく20号ブロックから2点が出土し、その距離は60cmを測る。

母岩別資料42 (第330図, 付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料58の5点が分別され、総て剝片である。分布は、第330図に示すごとく19号ブロックの48B16・17グリッドに4点、20号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布する。その最長距離は、10.17mを測る。

母岩別資料43 (第315・321・322・323・326図, 付図17-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料86の6点と接合資料89の2点、接合資料94の3点、接合資料96の21点、接合資料98の6点、接合資料100の2点、接合資料108の5点の計45点が分別される。これらの資料はナイフ形石器1点(22号ブロック出土)、掻・削器2点(3・10号ブロック出土)、加工痕を有する剝片3点(10号ブロックから2点、11号ブロックから1点出土)、石核9点(3・13号ブロックから各1点、4・16号ブロックから各2点、11号ブロックから3点出土)、剝片29点、砕片1点で構成される。分布は、11号ブロックの50B22グリッドを中心とした径9mの範囲に27点が集中し、16号ブロックに6点、10号ブロックに4点、3号ブロックに3点、4・13号ブロックに各2点、22号ブロックに1点の7つのブロッ

クに跨っている。このうち接合資料86の分布は、第315図に示すごとく3号ブロックから3点、13号ブロックから2点、10号ブロックから1点出土し、その最長距離は33.68mを測る。接合資料89は、4号ブロックから2点出土し、その距離は1.12mを測る。接合資料94の分布は、第321図に示すごとく10号ブロックから3点出土し、その最長距離は1.05mを測る。接合資料96の分布は、第323図に示すごとく11号ブロックの19点を主に、16・22号ブロックから各1点出土し、その最長距離は24.8mを測る。接合資料98の分布は第322図に示すごとく11号ブロックから6点出土し、その最長距離は6.64mを測る。接合資料100の分布は、第321図に示すごとく11号ブロックから2点出土し、その距離は2.73mを測る。接合資料108の分布は、第326図に示すごとく16号ブロックから5点出土し、その最長距離は1.5mを測る。

母岩別資料44 (第315図, 付図20)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料83の6点と接合資料84の5点、他1点の計12点が分別される。これらの資料は加工痕を有する剥片1点(2号ブロック出土)、石核1点(2号ブロック出土)、剥片10点で構成され、2号ブロックの57B31グリッドを中心とした径6.4mの範囲に10点が集中し、4・9号ブロックに1点づつの3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料83の分布は、第315図に示すごとく2号ブロックから6点出土し、その最長距離は3.9mを測る。また接合資料84の分布は、同図に示すごとく2号ブロックから3点、4・9号ブロックから各1点出土し、その最長距離は17.68mを測る。

母岩別資料45 (第318図, 付図15-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料88の7点が分別される。これらの資料は、楔形石器1点(4号ブロック出土)、加工痕を有する剥片1点(22号ブロック出土)、石核1点(4号ブロック出土)、剥片4点で構成され、4号ブロックの51B27グリッドを中心とした径4mの範囲に5点、22号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料88の分布は、第318図に示すごとく4号ブロックから5点、22号ブロックから2点が出土し、その最長距離は31.8mを測る。

母岩別資料46 (付図14-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料95の2点の他2点の計4点が分別される。これらの資料は、剥片3点と碎片1点で構成され、10号ブロックの56B24・57B23グリッドに3点、21号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料95は10号ブロックから2点出土し、その距離は2.32mを測る。

母岩別資料47 (第331図, 付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料118の8点と、接合資料119の6点、接合資料120の5点、接合資料121の2点、他17点の計38点が分別される。これらの資料は、剥片33点、碎片5点で構成され、19号ブロックの49B17グリッドを中心とした径6.5mの範囲の中に34点が集中し、20号ブロックに2点、9・22号ブロックに各1点の4つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料118・119の分布は第331図に示すごとく、ともに19号ブロックから出土する。その最長距離は、接合資料118(8点)が4.8m、接合資料119(6点)が5.94mを測る。

母岩別資料48 (第326図, 付図18-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料112の2点が分別される。これらの資料は、石核1点と剥片1点で構成される。分布は、第326図に示すごとく16号ブロックの56B18・20グリッドから2点が出土し、その距離は2.28mを測る。

母岩別資料49 (付図17-2)

本母岩別資料に含まれるものには、デイサイトによる播磨1点と剥片1点が分別され、15号ブロックの46 B12グリッドに2点が分布する。

母岩別資料50 (付図18-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による加工痕を有する剥片3点(1・7・8号ブロック出土)と石核1点(11号ブロック出土)が分別され、4つのブロックに跨り分布している。

母岩別資料51 (第324・325図, 付図17-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料101の8点と、接合資料102の3点、接合資料103の2点、接合資料104の10点、接合資料105の3点、接合資料106の3点、接合資料107の2点、他11点の計42点が分別される。これらの資料は、播・削器1点(17号ブロック出土)、加工痕を有する剥片5点(14号ブロックから3点、15号ブロックから2点出土)、石核1点(15号ブロック出土)、剥片32点、砕片3点で構成され、15号ブロックの47 B13グリッドを中心とした径4mの範囲に21点、14号ブロックの42 B13グリッドを中心とした径5.3mの範囲に16点が集中し、5・8・17・20・21号ブロックに各1点の7つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料101の分布は、第324図に示すごとく14号ブロックから6点、15号ブロックから2点出土し、その最長距離は11.65mを測る。接合資料102の分布は、第324図に示すごとく14号ブロックから3点が出土し、その最長距離は4.83mを測る。接合資料103は14号ブロックから2点が出土し、その距離は40cmを測る。接合資料104の分布は、第325図に示すごとく15号ブロックから15点出土し、その最長距離は3.6mを測る。接合資料105・106の分布は、第325図に示すごとく15号ブロックからともに3点出土し、その最長距離は接合資料105が1.2m、接合資料106が2.4mを測る。接合資料107は、14・15号ブロックから1点づつ出土し、その距離は11.76mを測る。

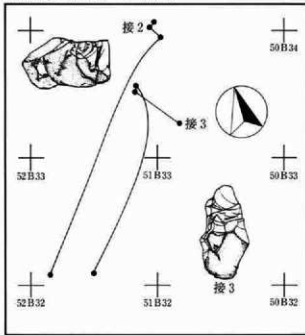
母岩別資料52 (第321・325図, 付図19-2)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料92の2点と、接合資料93の2点、接合資料110の4点、接合資料111の2点、接合資料113の2点、接合資料114の2点、他26点の計40点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片1点(21号ブロック出土)、石核1点(9号ブロック出土)、剥片33点、砕片4点で構成され、16号ブロックの56 B20グリッドを中心とした径4mの範囲に7点、19号ブロックの49 B16グリッドを中心とした径4.2mの範囲に7点、9・21号ブロックに各6点、7号ブロックに5点、10・17号ブロックに各2点、1・12・13・15・20号ブロックに各1点の12のブロックに跨り分布している。このうち接合資料92は、9号ブロックから2点出土し、その距離は3.56mを測る。接合資料93の分布は、第321図に示すごとく9号ブロックから2点出土し、その距離は1.41mを測る。接合資料110の分布は、第325図に示すごとく16号ブロックから3点、21号ブロックから1点出土し、その最長距離は14.4mを測る。接合資料111は、16号ブロックから2点出土し、その距離は4cmである。接合資料113の分布は、第325図に示すごとく16号ブロックから2点出土し、その距離は2.52mを測る。接合資料114は、17号ブロックから2点出土し、その距離は30cmである。

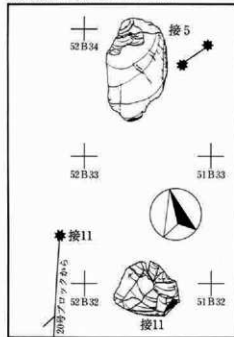
母岩別資料53 (第320図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、灰色安山岩による接合資料90の12点が分別される。これらの資料は、石核2点、剥片9点、砕片1点で構成され、第320図に示すごとく7号ブロックの45 B24・25グリッドを中心に12点が集中して分布し、その最長距離は2.46mを測る。

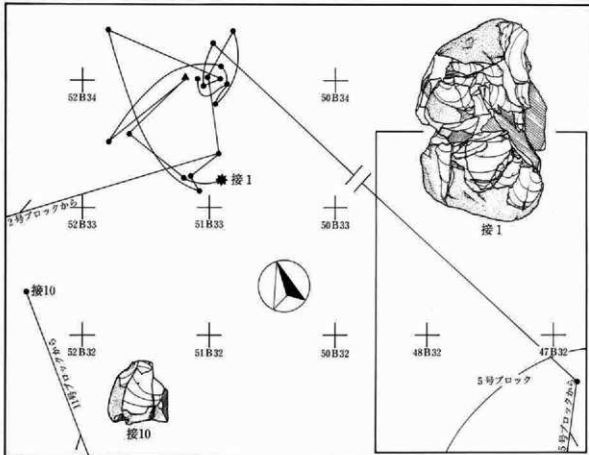
接合資料 2 (母28)・3 (母28)



接合資料 5 (母8)・11 (母36)

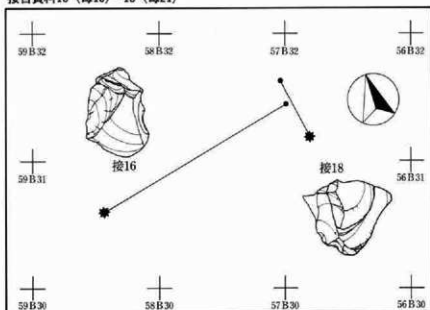


接合資料 1 (母4)・10 (母28)

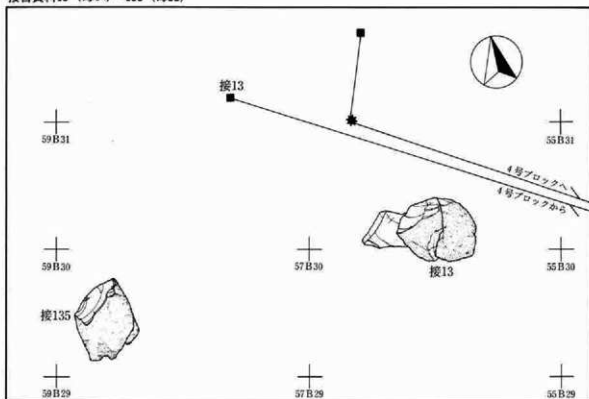


第312図 1号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料16 (母10)・18 (母21)

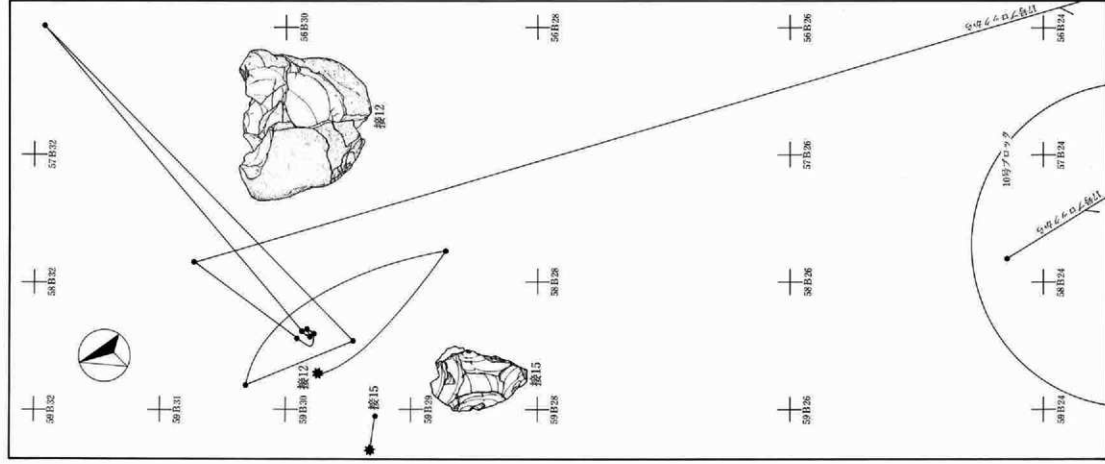


接合資料13 (母64)・135 (母33)

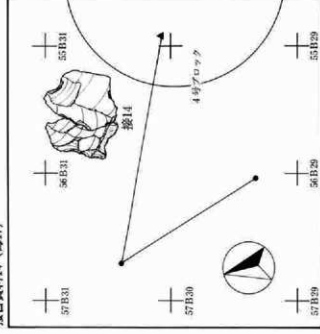


第313図 2号ブロック接合分布図 S=1/60

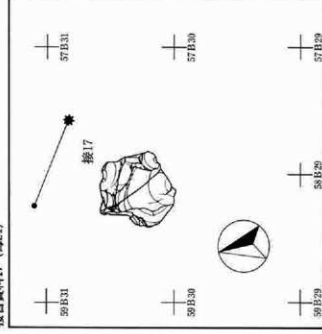
接合資料12 (母 2)・15 (母31)



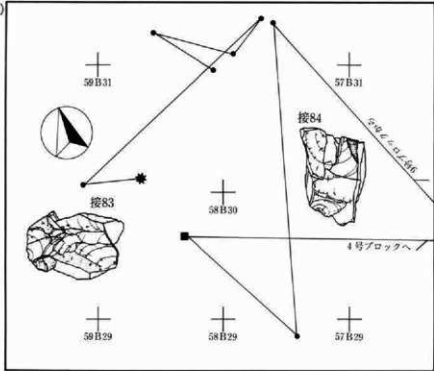
接合資料14 (母17)



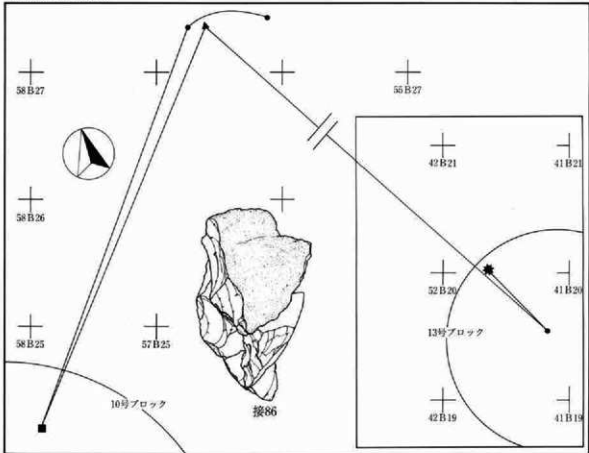
接合資料17 (母21)



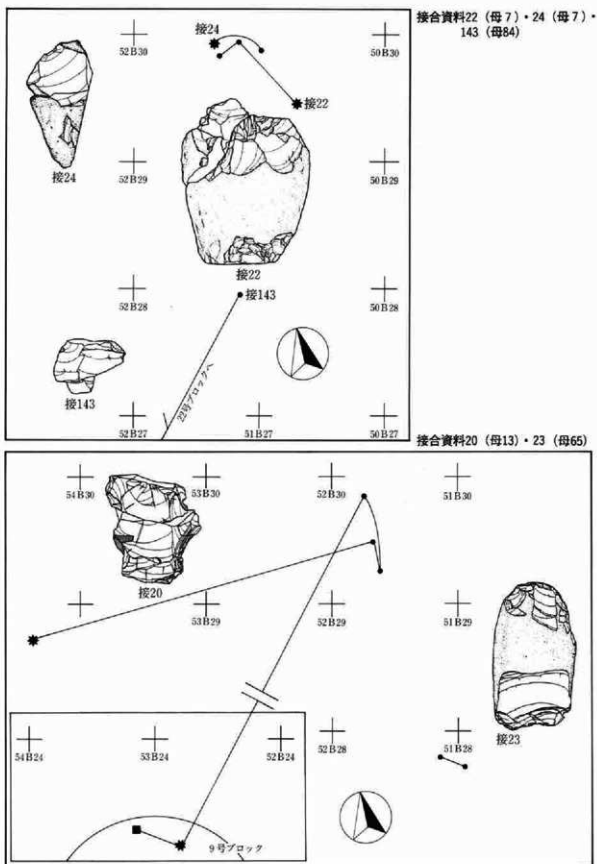
接合資料83 (母44)・84 (母44)



接合資料86 (母43)

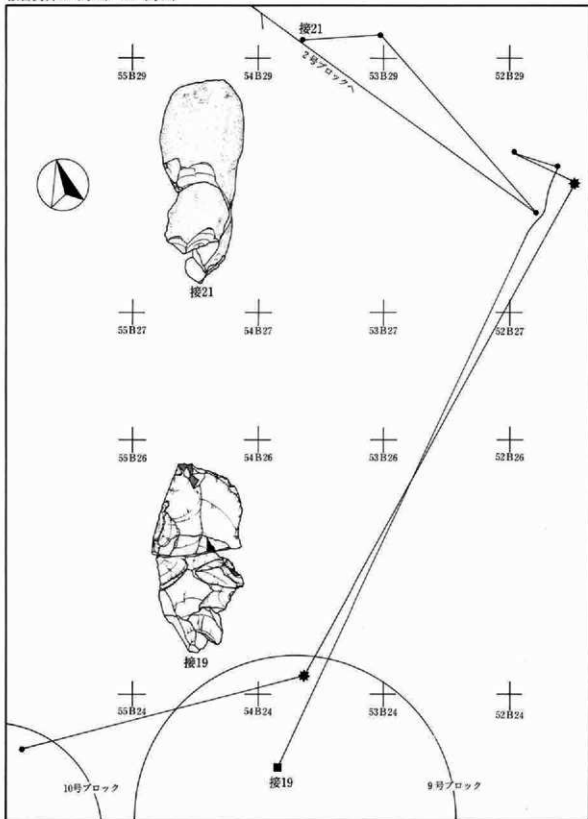


第315図 2・3号ブロック接合分布図 S=1/60



第316図 4号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料19 (母26)・21 (母31)



第317図 4号ブロック接合分布図 S=1/60

母岩別資料54 (第318・332図, 付図15-1)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料87の36点と、接合資料117の9点、接合資料146の3点、他33点の計81点が分別される。これらの資料は、掻・削器1点(4号ブロック出土)、石核3点(4号ブロックから2点、19号ブロックから1点出土)、剥片74点、砕片3点で構成され、4号ブロックの52・53B29グリッドを中心とした径6.5mの範囲の中に57点が集中し、19号ブロックの49B17グリッドを中心とした径4mの範囲に14点、5号ブロックに3点、2号ブロックに2点、1・9・12・17・19・21号ブロックに各1点の9つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料87の分布は、第318図に示すごとく4号ブロックから31点、5号ブロックから3点、2・21号ブロックから1点ずつ出土し、その最長距離は38.08mを測る。接合資料117の分布は、第332図に示すごとく19号ブロックから9点出土し、その最長距離は、4.8mを測る。また、接合資料146は4号ブロックから3点出土し、その最長距離は4.2mを測る。

母岩別資料55 (付図16-2)

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による掻・削器1点(20号ブロック出土)、使用痕を有する剥片2点(21・22号ブロック出土)が分別され、3つのブロックに跨り分布している。

母岩別資料56 (第319図, 付図15-2)

本母岩別資料に含まれるものには、珪質頁岩による接合資料26の2点他3点の計5点が分別される。これらの資料は、掻・削器1点(17号ブロック出土)、加工痕を有する剥片1点(17号ブロック出土)、使用痕を有する剥片2点(5号ブロック出土)、剥片1点で構成され、5・17号ブロックに2点、16号ブロックに1点の3つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料26の分布は、第319図に示すごとく5号ブロックから2点出土し、その距離は60cmを測る。

母岩別資料57 (第338図, 付図21)

本母岩別資料に含まれるものには、砂岩質頁岩による接合資料81の2点他2点の計4点が分別される。これらの資料は加工痕を有する剥片2点(16・22号ブロック出土)、剥片2点で構成され、22号ブロックの58B12・59B13グリッドに2点、5・16号ブロックに各1点の3つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料81の分布は、第338図に示すごとく22号ブロックから2点出土し、その距離は1.44mを測る。

母岩別資料58 (付図15-2)

本母岩別資料に含まれるものには、ホルンフェルスによる石核1点(5号ブロック出土)、剥片2点(4・16号ブロック出土)が分別され、3つのブロックに跨り分布している。

母岩別資料59 (第334図, 付図14-2)

本母岩別資料に含まれるものには、チャートによる接合資料130の2点他3点の計5点が分別される。これらの資料は、使用痕を有する剥片2点(16号ブロック出土)、剥片3点で構成され、20号ブロックの52B15・53B16グリッドに3点、16号ブロックに2点の2つのブロックに跨り分布している。このうち接合資料130の分布は、第334図に示すごとく20号ブロックから2点出土し、その距離は1.2mを測る。

母岩別資料60 (第334図, 付図14-2)

本母岩別資料に含まれるものには、チャートによる接合資料129の4点他2点の計6点が分別される。これらの資料は、使用痕を有する剥片1点(20号ブロック出土)、石核1点(20号ブロック出土)、剥片4点で構成され、20号ブロックの50B15グリッドを中心とした径2.7mの範囲に5点、21号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布する。このうち接合資料129の分布は、第334図に示すごとく20号ブロックから4点出土し、その最長距離は2.4mを測る。

母岩別資料61 (第320図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、チャートによる接合資料128の2点が分別される。これらの資料は、石核1点、剥片1点で構成され、第320図に示すごとく8号ブロックの47・48B26グリッドに2点が分布し、その距離は1.2mを測る。

母岩別資料62 (第319図, 付図16-1)

本母岩別資料に含まれるものには、チャートによる接合資料127の2点が分別される。これらの資料は、石核1点、剥片1点で構成され、第319図に示すごとく5号ブロックの47B30グリッドに2点が分布し、その距離は87cmを測る。

母岩別資料63 (付図16-2)

本母岩別資料に含まれるものには、チャートによるナイフ形石器1点(8号ブロック出土)、使用痕を有する剥片1点(18号ブロック出土)、剥片1点(20号ブロック出土)の3点が分別され、3つのブロックに跨り分布する。

母岩別資料64 (第313図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料13の4点が分別される。これらの資料は、石核2点(2・4号ブロック出土)と加工痕を有する剥片2点(2号ブロック出土)で構成され、第313図に示すごとく2号ブロックの56・57B31グリッドに3点、4号ブロックに1点の2つのブロックに跨り分布し、その最長距離は2.3mを測る。

母岩別資料65 (第316図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料23の2点が分別される。これらの資料は、礫器1点、剥片1点で構成され、第316図に示すごとく4号ブロックの50・51B27グリッドに2点が分布し、その距離は45cmを測る。

母岩別資料66 (第320図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料34の2点が分別される。これらの資料は、剥片のみで、第320図に示すごとく8号ブロックの49B25・26グリッドに2点が分布し、その距離は1.38mを測る。

母岩別資料67 (第321図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料35の4点が分別される。これらの資料は、剥片のみで第321図に示すごとく9号ブロックの52B24・53B23・54B24グリッドに4点が分布し、その距離は2.52mを測る。

母岩別資料68 (第324図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料42の2点が分別される。これらの資料は、剥片のみで第324図に示すごとく13号ブロックの42B18・20グリッドに2点が分布し、その距離は3.06mを測る。

母岩別資料69 (第327図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料57の2点が分別される。これらの資料は、石核1点と剥片1点で構成され、第327図に示すごとく18号ブロックの55B17グリッドに2点が分布し、その距離は2mを測る。

母岩別資料70 (第330図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料60の2点が分別される。これらの資料は石核

1点と剥片1点で構成され、第330図に示すごとく19号ブロックの50B17グリッドに2点が分布し、その距離は63cmを測る。

母岩別資料71 (第337図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料71の3点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第337図に示すごとく21号ブロックの55B13・14グリッドに2点、22号ブロックに1点の二つのブロックに跨り分布している。その最長距離は4.89mを測る。

母岩別資料72 (第334図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料74の2点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片1点と、剥片1点で構成され、第334図に示すごとく21号ブロックの55B14グリッドに2点が分布し、その距離は84cmを測る。

母岩別資料73 (第338図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料80の3点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第338図に示すごとく22号ブロックの58B13・14グリッドに3点が分布し、その最長距離は2.1mを測る。

母岩別資料74 (第338図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料82の2点が分別される。これらの資料は、石核1点と剥片1点で、第338図に示すごとく22号ブロックの59B14グリッドに2点が分布し、その距離は51cmを測る。

母岩別資料75 (第320図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料91の2点が分別される。これらの資料は、石核1点と剥片1点で、第320図に示すごとく7号ブロックの44B24・45B25グリッドに2点が分布し、その距離は81cmを測る。

母岩別資料76 (第321図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料99の3点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第321図に示すごとく11号ブロックの47・53B23グリッドおよび48B24グリッドに3点が分布し、その最長距離は5.25mを測る。

母岩別資料77 (第326図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料109の5点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片1点と剥片4点で構成され、第326図に示すごとく16号ブロックの53B21グリッドを中心として5点が分布する。その最長距離は4.92mを測る。

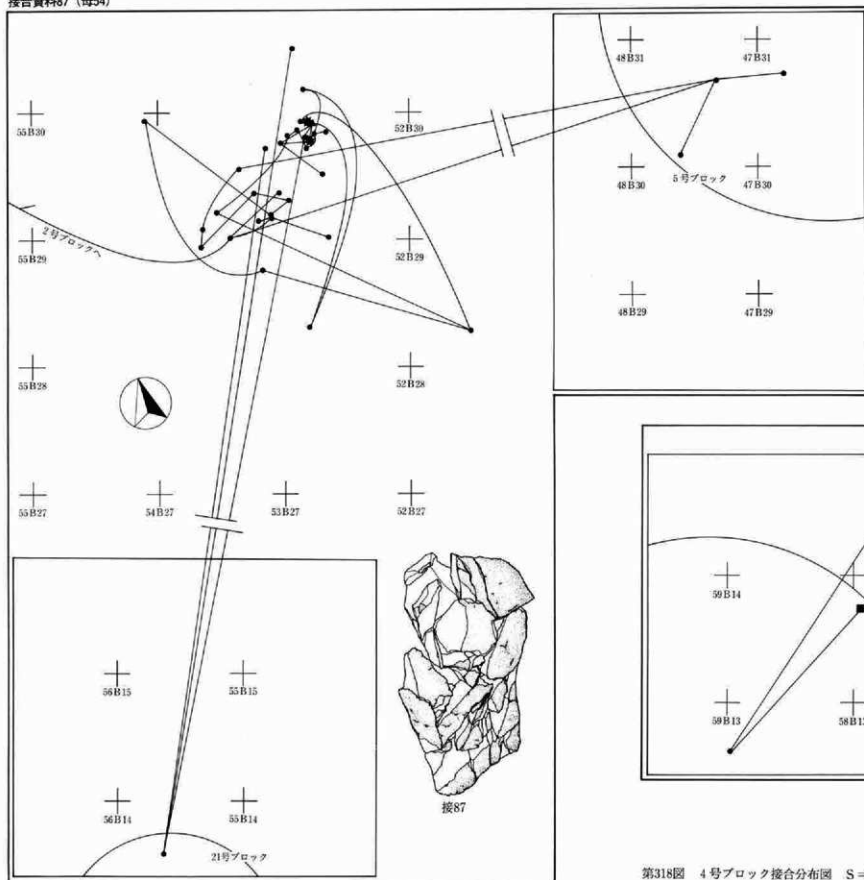
母岩別資料78 (第328図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料115の10点が分別される。これらの資料は、剥片9点と砕片1点で構成され、第328図に示すごとく18号ブロックの55・56B15グリッドに8点、4号ブロックに4点が分布する。その最長距離は27.88mを測る。

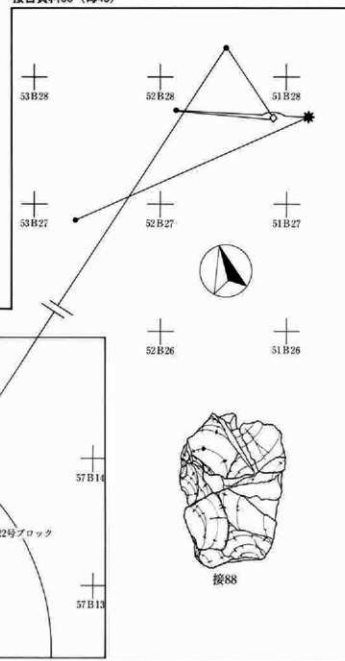
母岩別資料79 (第334図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料122の5点が分別される。これらの資料は、石核1点と剥片4点で構成され、第334図に示すごとく20号ブロックの51B14グリッドを中心として5点が分布している。その最長距離は4.08mを測る。

接合資料87 (母54)

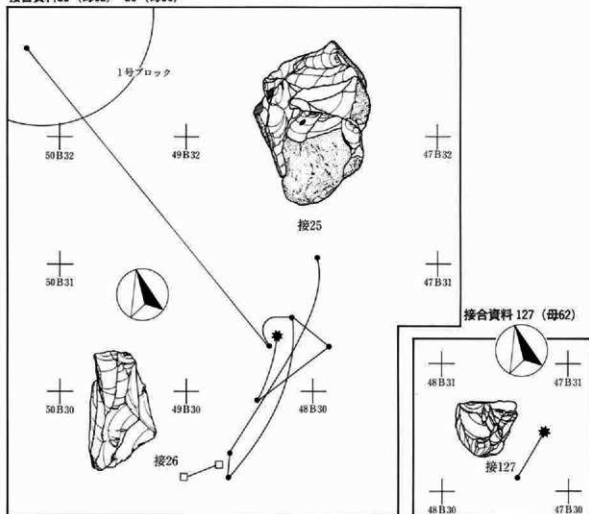


接合資料88 (母45)

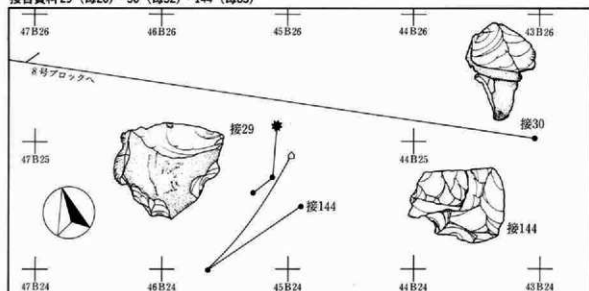


第318図 4号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料25 (母12)・26 (母56)

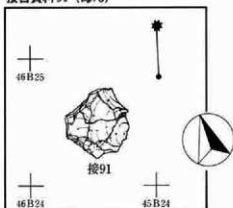


接合資料29 (母20)・30 (母32)・144 (母85)

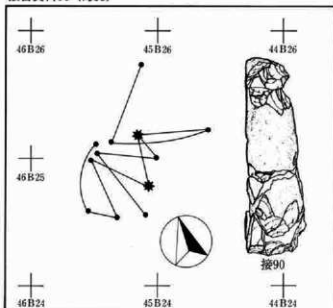


第319図 5・7号ブロック接合分布図 S=1/60

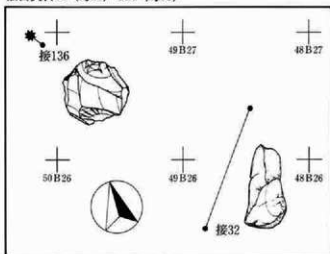
接合資料91 (母75)



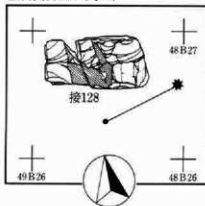
接合資料90 (母53)



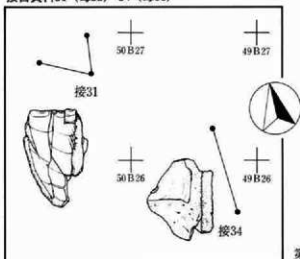
接合資料32 (母28)・136 (母83)



接合資料128 (母61)

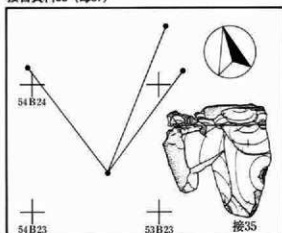


接合資料31 (母32)・34 (母66)

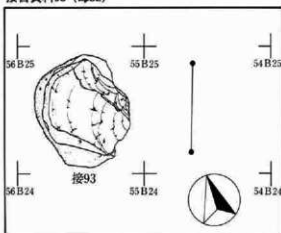


第320図 7・8号ブロック接合分布図 S=1/60

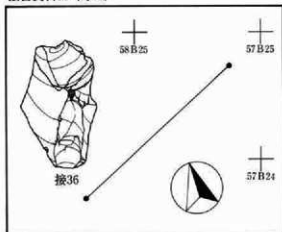
接合資料35 (母67)



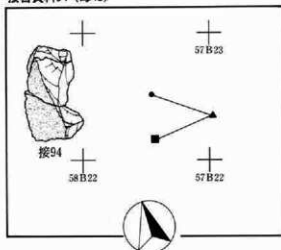
接合資料93 (母52)



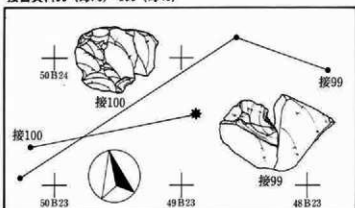
接合資料36 (母15)



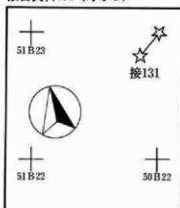
接合資料94 (母43)



接合資料99 (母76)・100 (母43)

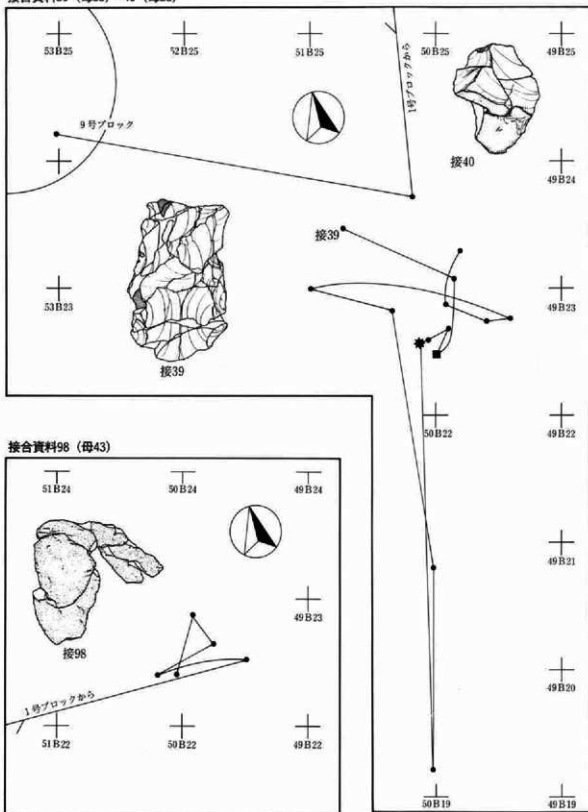


接合資料131 (母なし)



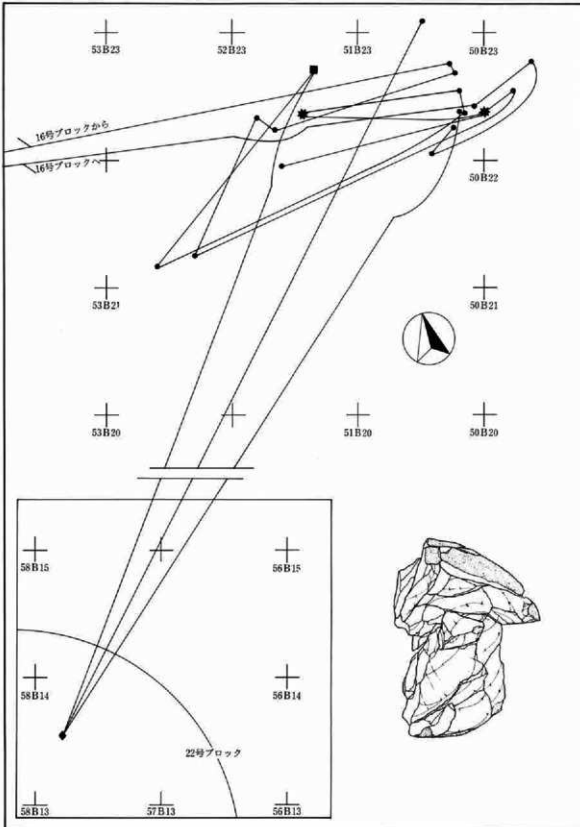
第321図 9・10・11号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料39 (母35)・40 (母28)



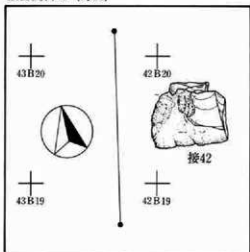
第322図 11号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料96 (母43)

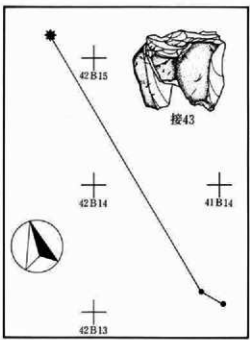
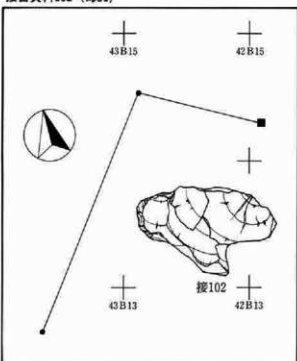


第323図 11号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料42 (母68)

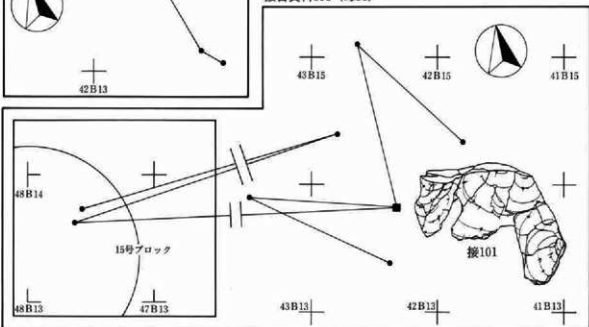


接合資料102 (母51)



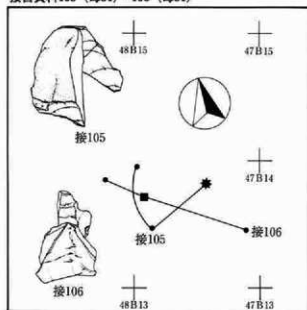
接合資料43 (母16)

接合資料101 (母51)

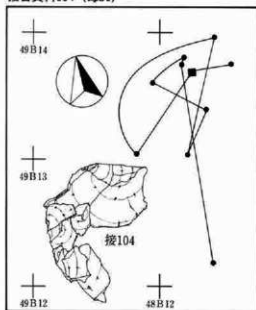


第324図 13・14号ブロック 接合分布図 S=1/60

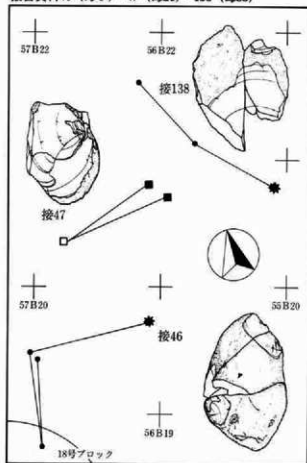
接合資料105 (母51)・106 (母51)



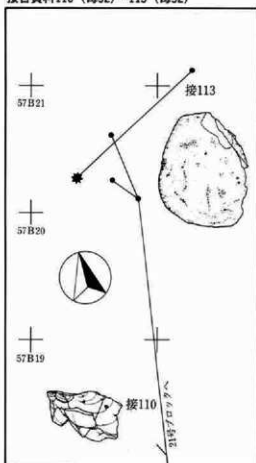
接合資料104 (母51)



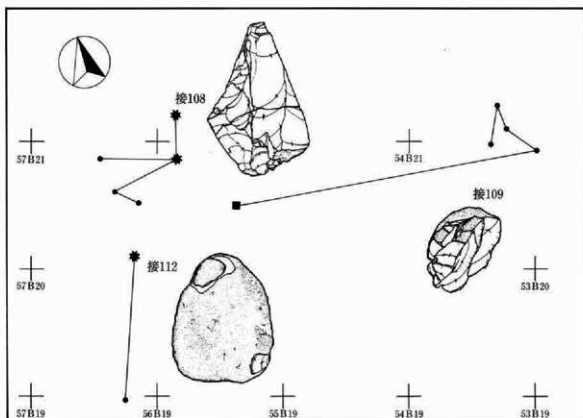
接合資料46 (母9)・47 (母26)・138 (母33)



接合資料110 (母52)・113 (母52)

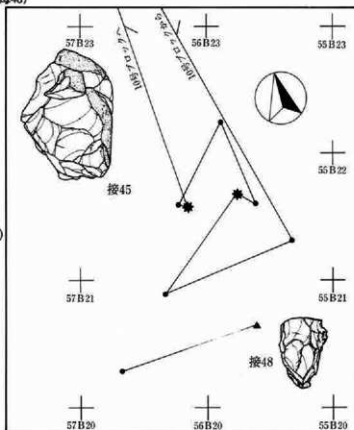


第325図 15・16号ブロック接合分布図 S=1/60



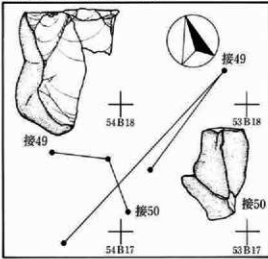
接合資料108 (母43)・109 (母77)・112 (母48)

接合資料45 (母19)・48 (母25)

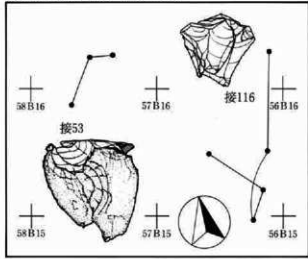


第326図 16号ブロック接合分布図 S=1/60

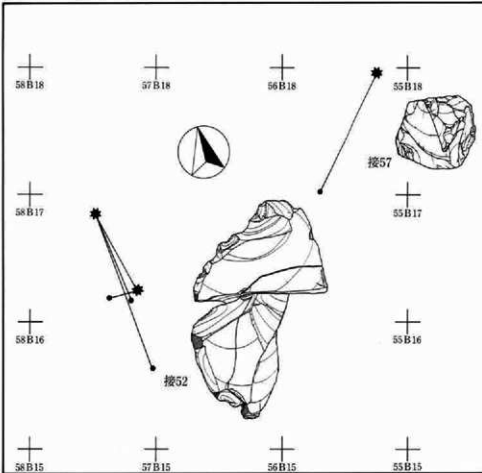
接合資料49 (母14)・50 (母14)



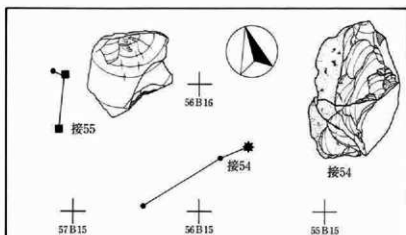
接合資料53 (母26)・116 (母37)



接合資料52 (母11)・57 (母69)

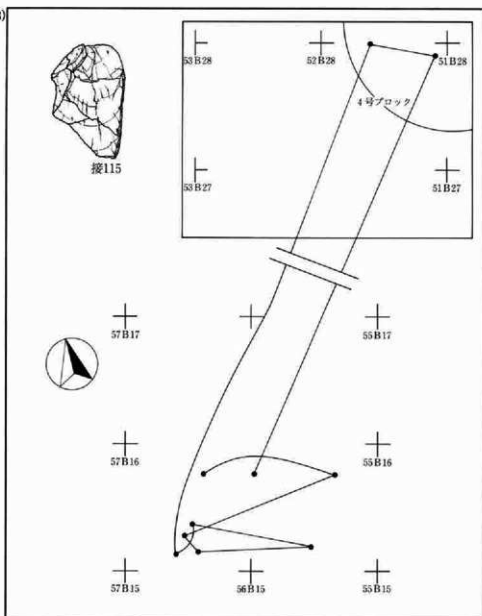


第327図 17・18号ブロック接合分布図 S=1/60



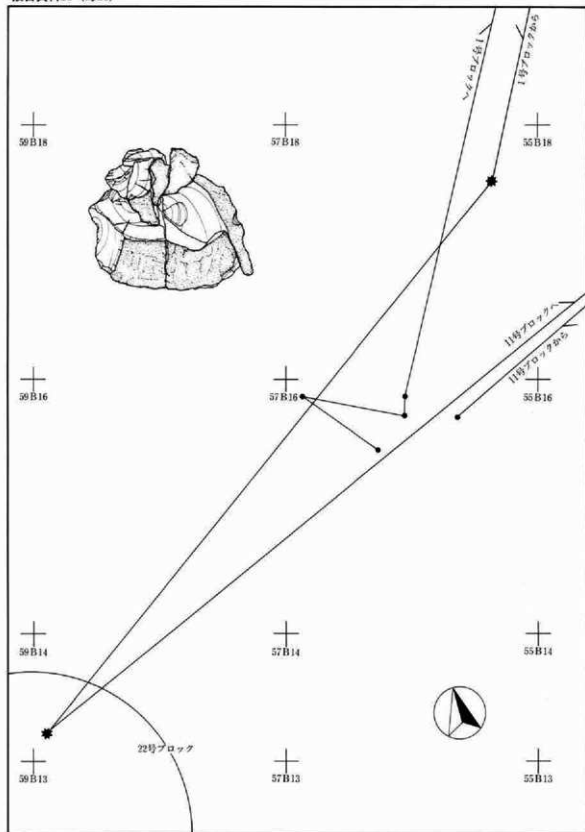
接合資料54 (母34)・55 (母12)

接合資料115 (母78)



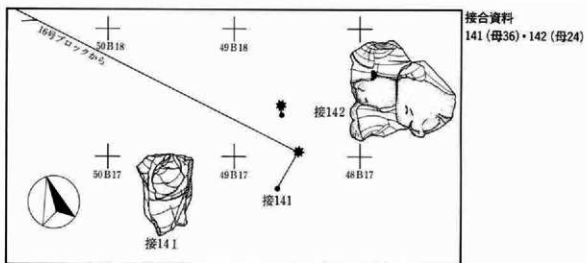
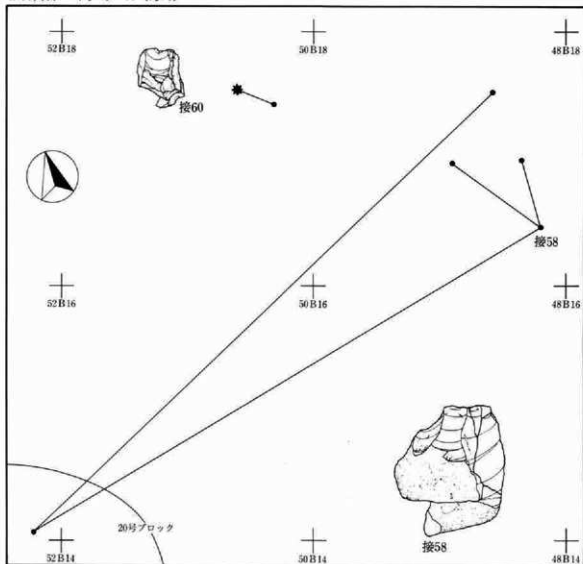
第328図 18号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料51 (母26)

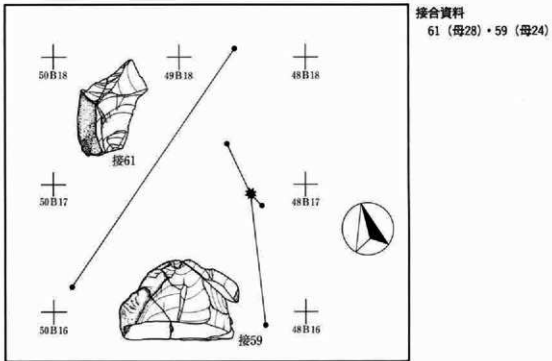


第329図 18号ブロック接合分布図 S=1/60

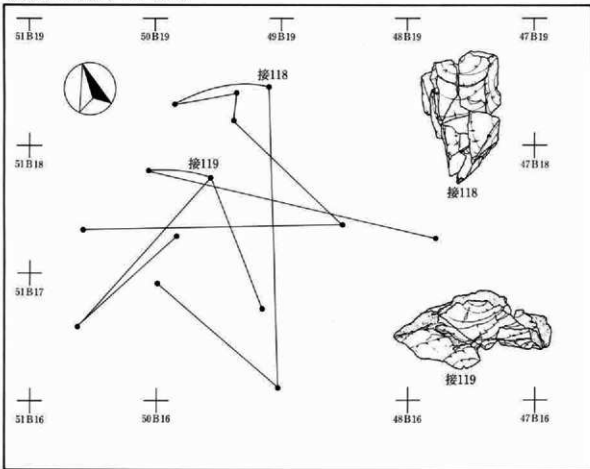
接合資料58 (母42)・60 (母70)



第330図 19号ブロック接合分布図 S=1/60

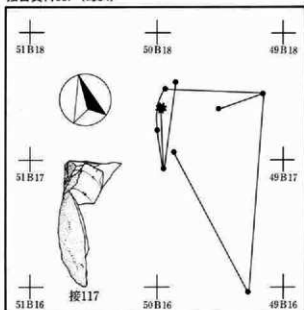


接合資料118 (母47)・119 (母47)

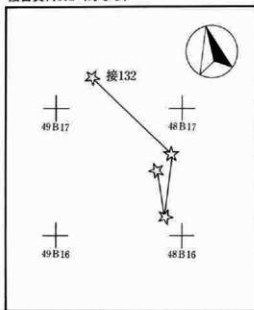


第331図 19号ブロック接合分布図 S=1/60

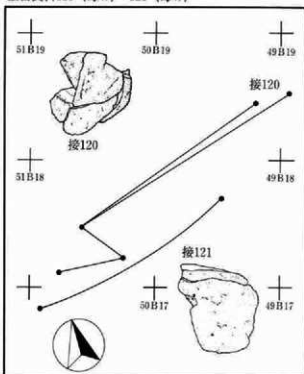
接合資料117 (母54)



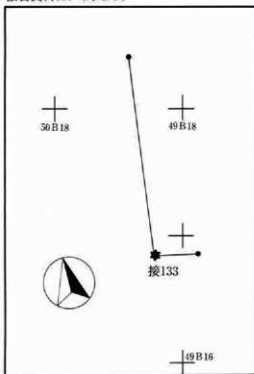
接合資料132 (母なし)



接合資料120 (母47)・121 (母47)

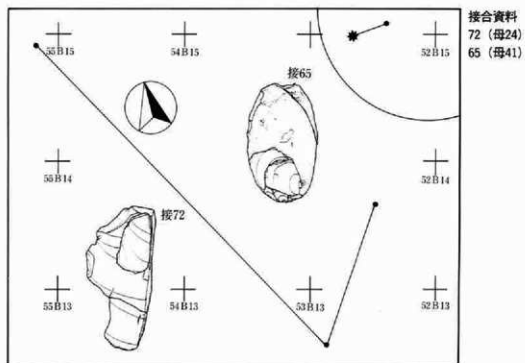
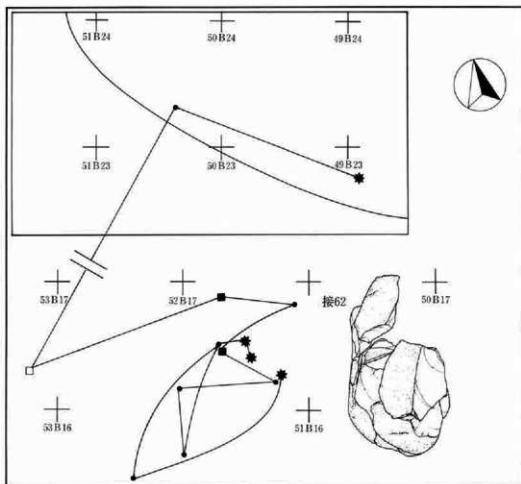


接合資料133 (母なし)



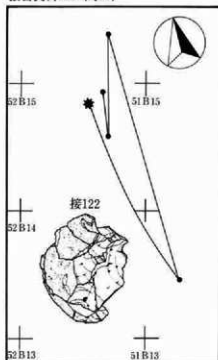
第332図 19号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料
62 (母1)

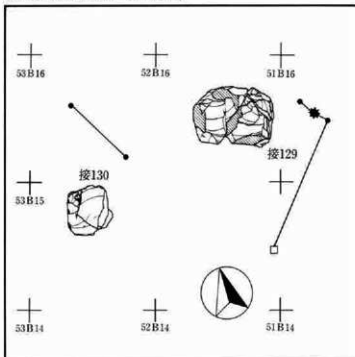


第333図 20・21号ブロック接合分布図 S=1/60

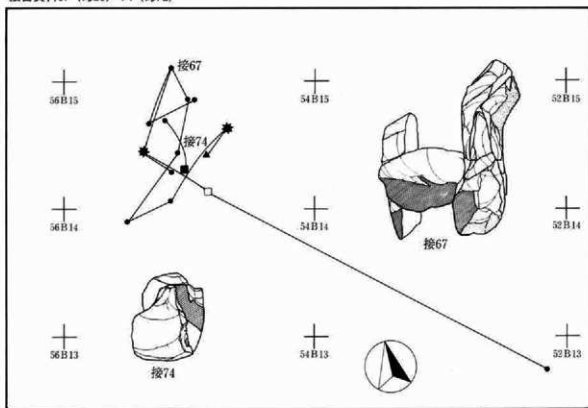
接合資料122 (母79)



接合資料129 (母60)・130 (母59)

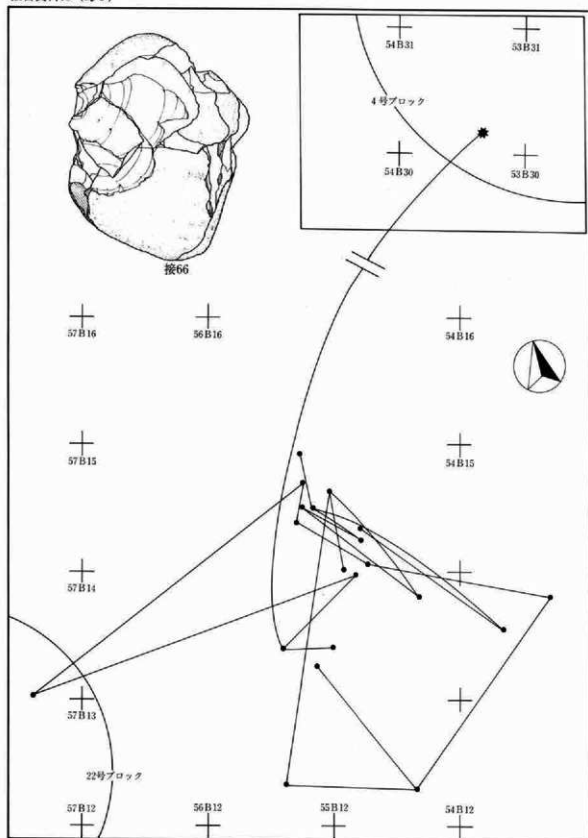


接合資料67 (母28)・74 (母72)



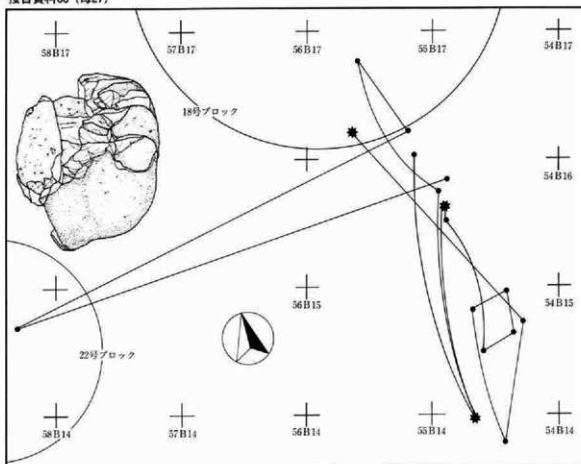
第334図 20・21号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料66 (母3)

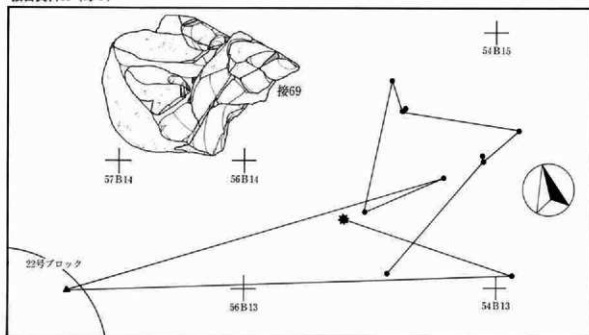


第335図 21号ブロック接合分布図 S=1/60

接合資料68 (母27)

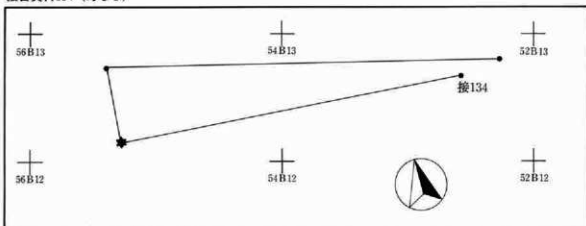


接合資料69 (母6)

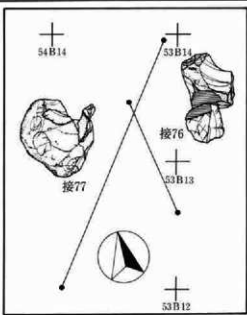


第336図 21号ブロック接合分布図 S=1/60

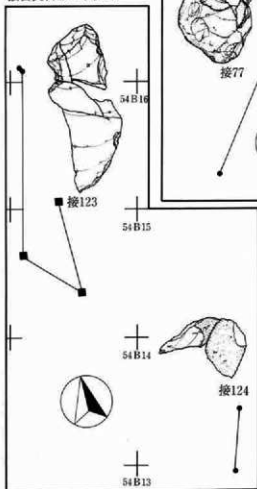
接合資料134 (母なし)



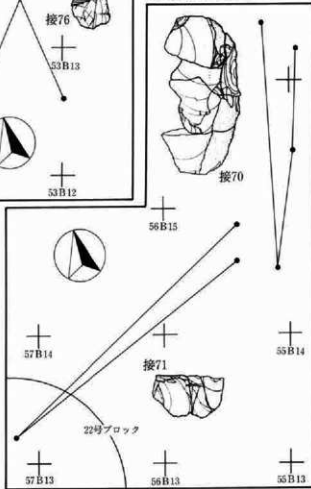
接合資料76 (母18)
77 (母18)



123 (母80)
接合資料124 (母81)

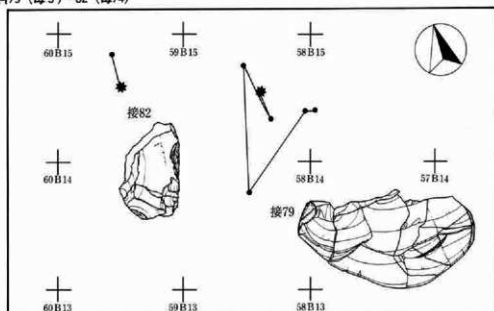


70 (母30)
接合資料71 (母71)

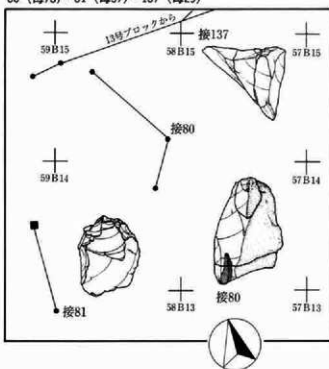


第337図 21号ブロック接合分布図 S=1/60

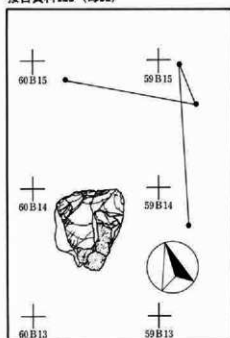
接合資料79 (母5)・82 (母74)



接合資料
80 (母73)・81 (母57)・137 (母29)



接合資料125 (母82)



第338図 22号ブロック接合分布図 S=1/60

母岩別資料80 (第337図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料123の5点が分別される。これらの資料は、加工痕を有する剥片3点と剥片2点で構成され、第337図に示すごとく21号ブロックの54B14・15グリッドを中心として5点が分布している。その最長距離は3.72mを測る。

母岩別資料81 (第337図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料124の2点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第337図に示すごとく21号ブロックの53B12・13グリッドに2点が分布し、その距離は99cmを測る。

母岩別資料82 (第338図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色安山岩による接合資料125の4点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第338図に示すごとく22号ブロックの58B14グリッドを中心に4点が分布し、その最長距離は3.06mを測る。

母岩別資料83 (第320図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料136の2点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第320図に示すごとく8号ブロックの50B26グリッドに2点が分布し、その距離は24cmを測る。

母岩別資料84 (第316図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料143の2点が分別される。これらの資料は剥片のみで、第316図に示すごとく4号ブロックの51B27グリッドと22号ブロックの59B12グリッドに1点づつ分布し、その距離は34.88mを測る。

母岩別資料85 (第319図)

本母岩別資料に含まれるものには、黒色頁岩による接合資料144の3点が分別される。これらの資料は、錐形石器1点と剥片2点で構成され、第319図に示すごとく7号ブロックの44・45B24グリッドに3点が分布している。その最長距離は2.25mを測る。

(谷藤)

第6節 出土石器群の分析

本文化層から検出された22ヶ所のブロックから出土した1,340点余りの石器群は、これまで述べてきた通りナイフ形石器を主体とした始良Tn火山灰下の石器製作の場であることが理解できた。本項では、これらの遺構・遺物をもとに石器群の分析を行うことで、本遺跡の性格および石器製作の工程、石器群の位置づけを考えてみたい。

1 ブロックについて

ブロックは、石器が残されたことによって形成されるもので、石器がある広がりをもって出土する状況をそう呼んでいる。このブロックの性格については、そこに住居を想定したり(近藤1976)、廃棄の単位であるとするなどのいくつかの考え方(岡村1979)があるが、それらはそのブロックの具体的な内容を詳細に検討しなければ明確にならないものと思われる。本文化層では、そのようなブロックが22ヶ所確認され、既にそれらについて記述してきた(第3章2節)。ここでは、ブロックの具体的な性格に迫るために、ブロックの組成、母岩の保有状況を考察し、その性格の一端を明らかにしたい。

(1)各ブロックの器種組成

本文化層から出土した石器群の器種組成と、石材については表23～25に示した通りである。では、検出された各ブロックの器種組成と、その特徴について考えてみたい。

1号ブロック (第339図)

出土した80点のうち、母岩別資料1・2・23・25～27・36・52・54に分別されるものは剥片を1点づつ有しており、このうち26は接合資料51に、36は接合資料11に含まれる。母岩別資料4(接合資料1)は、掻・削器1点(接合)、石核1点(接合)、剥片18点(接合16点)。母岩別資料8(接合資料5)は、石核2点(接合)。母岩別資料12(接合資料25)は、石核1点(接合)。母岩別資料28は剥片・砕片22点を有するが、このうち接合資料2に4点、接合資料3に4点、接合資料4に2点、接合資料6に2点、接合資料7に2点、接合資料10に1点、接合資料40に1点がそれぞれ接合する。母岩別資料38は、石核1点と剥片1点。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、4と28である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、掻・削器1点、彫器2点、石核2点、加工痕を有する剥片1点、敲石3点が数えられる。組成の特徴としては、本文化層出土彫器3点のうち2点を有するほか、掻・削器、加工痕を有する剥片、石核(A・B・C・D類)等が存在する。

2号ブロック (第340図 上段)

出土した73点のうち、母岩別資料2(接合資料12)に分別されるものは、石核1点(接合)、剥片11点(接合10点)を有する。母岩別資料4(接合資料1)および54(接合資料87)は、ともに剥片1点(接合)。母岩別資料10(接合資料16)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料17(接合資料14)は、剥片2点(接合)。母岩別資料21(接合資料17・18)は、石核3点(接合2点)、剥片2点(接合)。母岩別資料27・36は、ともに剥片2点を有する。母岩別資料31(接合資料15・21)は、石核1点(接合)、加工痕を有する剥片1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料33(接合資料135)は、石核1点、剥片4点(接合2点)。母岩別資料44(接合資料83・84)は、石核1点(接合)、加工痕を有する剥片1点(接合)、剥片8点(接合7点)。母岩別資料64(接合資料13)は、石核1点(接合)、加工痕を有する剥片2点(接合)を有する。この

うち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、2と44である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、石核3点、加工痕を有する剥片2点、礫3点が数えられる。組成の特徴としては、石核(B・C・D・E類)、加工痕を有する剥片等は保有しているが、それ以外の石器は存在していない。

3号ブロック(第340図 下段)

出土した11点のうち、母岩別資料21・36に分別されるものには、それぞれ剥片1点を有する。母岩別資料43(接合資料86)は、掻・削器1点(接合)、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。本ブロックに主体をおく母岩別資料は、ないものと考えられる。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、加工痕を有する剥片1点がある。出土点数が少ないためか、組成内容は貧弱で、むしろそのことがブロックを特徴づけているようでもある。

4号ブロック(第341図)

出土した137点のうち、母岩別資料3(接合資料66)・64(接合資料13)に分別されるものには、それぞれ石核1点(接合)を有する。母岩別資料7(接合資料22・24)は、石核2点(接合)、剥片3点(接合)。母岩別資料13(接合資料20)は、石核1点(接合)、剥片3点(接合)。母岩別資料17(接合資料14)は、掻・削器1点(接合)。母岩別資料23・25・44・58・84は、それぞれ剥片1点を有するが、このうち44は接合資料84に、84は接合資料143に接合する。母岩別資料26(接合資料19)は、石核1点(接合)、剥片2点(接合)。母岩別資料27は、剥片3点。母岩別資料31(接合資料21)は、剥片4点(接合3点)。母岩別資料36は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料43は、石核2点(接合)。母岩別資料45(接合資料88)は、楔形石器1点(接合)、石核1点(接合)、剥片3点(接合)。母岩別資料54(接合資料87・146)は、掻・削器1点(接合)、石核2点(接合)、剥片類54点のうち28点は接合資料87に、3点は接合資料146に接合する。母岩別資料65(接合資料23)は、礫器に剥片が1点接合。母岩別資料78(接合資料115)は、剥片2点(接合を有するものである)。このうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、54である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、掻・削器3点、楔形石器1点、石核4点、加工・使用痕を有する剥片3点、礫器1点、礫1点が数えられる。組成の特徴としては、ナイフ形石器は伴わないものの、多くの器種が保有され、中でも楔形石器や礫器が特徴として上げられる。石核には、A・B・C・D類がある。

5号ブロック(第342図)

出土した34点のうち、母岩別資料4(接合資料1・28)に分別されるものには、剥片4点(それぞれの接合資料に2点づつ接合)を有する。母岩別資料12(接合資料25)は、石核1点(接合)、剥片7点(接合)。母岩別資料27・58は、それぞれ石核を1点づつ。母岩別資料51・57は、それぞれ剥片1点づつ。母岩別資料54(接合資料87)は、剥片3点(接合)。母岩別資料56(接合資料26)は、使用痕を有する剥片2点(接合)。母岩別資料62(接合資料127)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料としては、12が上げられる可能性がある。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、ナイフ形石器1点、掻・削器1点、石核2点、使用痕を有する剥片2点、敲石1点が数えられる。組成の特徴としては、ナイフ形石器をはじめ、使用痕を有する剥片や縦長剥片素材の石器等を保有していることが特徴として上げられる。石核には、A・B・C・D・E・F類がある。

6号ブロック(第343図 上段)

出土した17点のうち、母岩別資料11に分別されるものには、剥片1点のみが上げられる。このブロックに組成させるほかの器種には、ナイフ形石器1点、斧形石器1点、使用痕を有する剥片1点、敲石1点、そして礫11点が存在する。こうした組成は、他のブロックと比較すると、出土した石器点数が少ないにもかかわらず

第3章 第II文化層

らず、器種が揃っていることや、石核が存在しないこと、石器製作に係わる剥片が極端に少ないこと、さらには礫が多く存在することなどが特徴として上げられる。

7号ブロック (第343図 下段)

出土した61点のうち、母岩別資料4・22・32に分別されるものには、それぞれ剥片1点づつを有するが、32に分別される剥片は接合資料30に接合する。母岩別資料20 (接合資料29) は、石核1点 (接合)、剥片2点 (接合)。母岩別資料21は、石核1点、剥片2点。母岩別資料25は、剥片6点。母岩別資料50は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料52は、剥片5点。母岩別資料53 (接合資料90) は、石核2点 (接合)、剥片類10点 (接合)。母岩別資料75 (接合資料91) は、石核1点 (接合)、剥片1点 (接合)。母岩別資料85 (接合資料144) は、錐形石器1点 (接合)、剥片2点 (接合) を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、53である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、ナイフ形石器1点、石核2点、加工痕を有する剥片2点、敲石2点、礫2点が数えられる。組成の特徴としては、器種は少ないものの、他のブロックにはみられない錐形石器を保有していることである。石核については、B・D・F類がある。

8号ブロック (第344図 上段)

出土した40点のうち、母岩別資料7・35・51に分別されるものには、それぞれ剥片1点づつを有する。母岩別資料23は、石核1点。母岩別資料28 (接合資料32) は、剥片2点 (接合)。母岩別資料32 (接合資料31) は、剥片5点 (接合3点)。母岩別資料36は、剥片3点。母岩別資料50は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料61 (接合資料128) は、石核1点 (接合)、剥片1点 (接合)。母岩別資料66 (接合資料34) は、剥片2点 (接合)。母岩別資料83 (接合資料136) は、石核1点 (接合)、剥片1点 (接合)。母岩別資料63は、ナイフ形石器1点を有している。このうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、掻・削器1点、石核4点、加工痕を有する剥片2点が数えられる。組成は、ナイフ形石器を伴うものの、他のブロックに比べ貧弱である。石核には、A・B・C・G類がある。

9号ブロック (第344図 下段)

出土した27点のうち、母岩別資料13 (接合資料20)・26 (接合資料19) に分別されるものには、それぞれ石核1点、加工痕を有する剥片1点づつを有するが、13の石核と加工痕を有する剥片は接合する。母岩別資料28 (接合資料40)・44 (接合資料84)・47は、それぞれ剥片1点づつを有するが、28・44については互いに接合するものである。母岩別資料52 (接合資料92・93) は、石核1点、剥片5点 (接合するもの2点づつ)。母岩別資料54は、砕片1点。母岩別資料67 (接合資料35) は、剥片4点 (接合) を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、石核1点、使用痕を有する剥片1点、礫器1点、敲石1点、礫1点が数えられる。組成は、使用痕を有する剥片と礫器、さらにはB・C・D類の石核と敲石を保有するのみで貧弱である。

10号ブロック (第345図 上段)

出土した52点のうち、母岩別資料2 (接合資料12)・19 (接合資料45)・26 (接合資料19)・33に分別されたものには、それぞれ剥片1点づつを有しているが、2・19・26の剥片は接合する。母岩別資料15 (接合資料36) は、剥片3点 (接合2点)。母岩別資料28 (接合資料38)・52は、それぞれ剥片2点を有するが、28の剥片は接合する。母岩別資料40は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料43 (接合資料86・94) は、掻・削器1点 (接合)、加工痕を有する剥片2点 (接合)、剥片1点 (接合)。母岩別資料46 (接合資料95) は、剥片類3点 (接合2点) を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、ナイフ形石器1点、石核1点、加工痕を有する剥片2点、敲石2点、

礫2点、原石1点が数えられる。組成は、大振りで肉厚なナイフ形石器や加工痕を有する剥片を伴うものの、バラエティーに欠け貧弱である。唯一の石核は、D類である。

11号ブロック (第345図 下段)

出土した86点のうち、母岩別資料1(接合資料62)に分別されるものには、石核1点(接合)、剥片2点(接合1点)を有する。母岩別資料26(接合資料51)・36は、それぞれ剥片1点を有するが、26の剥片は接合する。母岩別資料28(接合資料10・40)は、剥片3点(1点ずつの接合)。母岩別資料35(接合資料39)は、石核1点(接合)、加工痕を有する剥片1点(接合)、母岩別資料43(接合資料96・98・100)は、石核3点(接合)、加工痕を有する剥片1点、剥片23点(接合)。母岩別資料50に、石核1点。母岩別資料76(接合資料99)は、剥片3点(接合)を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、35と43である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、播・削器2点、石核3点、加工・使用痕を有する剥片3点、礫6点、原石1点が数えられる。組成の特徴は、石核(A・B・C・G・F類)は多く保有されているものの、敲石は存在せず、他の器種も貧弱である。

12号ブロック (第346図 上段)

出土した9点のうち、母岩別資料52・54に分別されるものには、それぞれ剥片1点ずつを有している。本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、挿入状石器1点、使用痕を有する剥片1点、礫1点が数えられる。組成の特徴は、出土量の少なさもあるが、器種の貧弱さが上げられる。敲石や石核は、存在していない。

13号ブロック (第346図 中段)

出土した19点のうち、母岩別資料4・29(接合資料137)・52・38に分別されるものには、それぞれ剥片1点ずつを有しているが、29の剥片は接合資料である。母岩別資料43(接合資料86)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料35は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料68(接合資料42)は、剥片2点(接合)を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、礫1点が数えられる。組成は、敲石も存在せずかなり貧弱である。唯一の石核は、B類である。

14号ブロック (第346図 下段)

出土した39点のうち、母岩別資料10に分別されるものには、石核1点を有する。母岩別資料14・21は、それぞれ剥片1点。母岩別資料16(接合資料43)は、石核1点(接合)、剥片5点(接合2点)。母岩別資料51(接合資料101・102・103・107)は、加工痕を有する剥片3点(接合2点)、剥片類13点(接合10点)を有する。本ブロックに主体をおく母岩別資料には、51がある。また、母岩別資料に分別し得なかったものには、石核2点、礫1点が数えられる。組成は貧弱で、敲石は存在しない。石核は、C類である。

15号ブロック (第347図 上段)

出土した28点のうち、母岩別資料49に分別されるものには、播・削器1点、剥片1点を有する。母岩別資料52は、剥片類1点。母岩別資料51(接合資料104・105・106・107)は、石核1点(接合)、加工痕を有する剥片2点、剥片類18点(接合14点)を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、51である。組成は、播・削器等を保有しているが貧弱で、石核はD類をもつ。

16号ブロック (第347図 下段)

出土した82点のうち、母岩別資料9(接合資料46)に分別されるものには、石核1点(接合)、剥片2点(接合)を有する。母岩別資料19(接合資料45)は、石核2点(接合)、剥片4点(接合)。母岩別資料25(接合

第3章 第II文化層

資料48)は、掘・削器1点(接合)、加工痕を有する剥片1点、剥片1点(接合)。母岩別資料26(接合資料47)は、加工痕を有する剥片2点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料29・38・56・58は、それぞれ剥片を1点。母岩別資料31は、掘・削器1点。母岩別資料33(接合資料138)は、石核1点(接合)、剥片3点(接合2点)。母岩別資料36(接合資料141)は、剥片3点(接合1点)。母岩別資料43(接合資料96・108)は、石核2点(接合)、剥片類4点(接合)。母岩別資料48(接合資料112)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料52(接合資料110・111・113)は、石核1点、剥片6点(接合)。母岩別資料57は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料59は、使用痕を有する剥片2点。母岩別資料77(接合資料109)は、加工痕を有する剥片1点(接合)、剥片4点(接合)を有している。これら多くの母岩別資料をもってはいるものの、本ブロックを主体とする母岩別資料は見あたらないようである。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、掘・削器2点、石核1点、敲石1点、礫6点、原石1点が数えられる。組成の特徴は、ナイフ形石器はないものの、他のブロックに比べ掘・削器や加工・使用痕を有する剥片などを多く保有しており、敲石も存在する。石核には、A・B・C・E・G類がある。

17号ブロック(第348図 上段)

出土した31点のうち、母岩別資料2(接合資料12)は、剥片2点(接合1点)を有する。母岩別資料14(接合資料49・50)は、剥片7点(接合4点)。母岩別資料31は、剥片類1点。母岩別資料33(接合資料139)・52(接合資料114)・54は、それぞれ剥片2点づつを有しているが、33と52は各々接合している。母岩別資料35は、加工痕を有する剥片1点。母岩別資料51は、掘・削器1点。母岩別資料56は、掘・削器1点、加工痕を有する剥片1点を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、敲石4点、原石1点が数えられる。組成の特徴としては、石核も出土しておらず貧弱な内容ではあるが、敲石の量の多いが目立つ。

18号ブロック(第348図 下段)

出土した95点のうち、母岩別資料9(接合資料46)・47に分別されるものには、それぞれ剥片1点づつを有しているが、9の剥片は接合する。母岩別資料11(接合資料52)は、石核2点(接合)、剥片3点(接合)。母岩別資料12(接合資料55)は、加工痕を有する剥片2点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料25(接合資料56)は、石核1点、剥片14点(接合2点)。母岩別資料26(接合資料51・53)は、石核1点(接合)、剥片8点(接合)。母岩別資料27(接合資料68)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料29(接合資料140)は、剥片4点(接合2点)。母岩別資料34(接合資料54)は、石核1点(接合)、剥片2点(接合)。母岩別資料37(接合資料116・126)は、掘・削器1点、剥片7点(接合)。母岩別資料63は、使用痕を有する剥片1点。母岩別資料69(接合資料57)は、石核1点(接合)、剥片1点(接合)。母岩別資料78(接合資料115)は、剥片類8点(接合)を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、25と26が上げられる。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、掘・削器1点、石核3点、加工痕を有する剥片1点、使用痕を有する剥片1点、敲石1点、礫4点、原石2点が数えられる。組成の特徴としては、掘・削器等の他に多くの石核(A・B・C・D類)を保有していることである。

19号ブロック(第349図)

出土した107点のうち、母岩別資料4・22・28・31に分別されるものには、それぞれ剥片1点づつを有している。母岩別資料24(接合資料59・142)は、石核2点(接合)、剥片4点(接合)。母岩別資料35・39は、それぞれ剥片2点づつ。母岩別資料36(接合資料141)は、石核1点(接合)、剥片2点(接合1点)。母岩別資料40(接合61)は、石核1点、剥片3点(接合2点)。母岩別資料42(接合資料58)は、剥片4点(接合)。

母岩別資料47（接合資料118・119・120・121）は、剥片類33点（接合23点）。母岩別資料52は、剥片類7点。母岩別資料54（接合資料117）は、石核1点（接合）、剥片類13点（接合8点）。母岩別資料70（接合資料60）は、石核1点（接合）、剥片1点（接合）を有している。これらのうち本ブロックの主体となる母岩別資料は、47と54である。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、石核2点、敲石3点、礫9点が数えられる。組成の特徴としては、石核（A・B・D・G類）と剥片類で構成されるのみで、他と比べるとかなり貧弱である。

20号ブロック（第350図）

出土した77点のうち、母岩別資料15・27・31・36（接合資料11）・42（接合資料58）・51・52・63に分別されるものには、それぞれ剥片1点を有しているが、36と42の剥片はそれぞれ接合する。母岩別資料1（接合資料62）は、石核4点（接合3点）、加工痕を有する剥片2点（接合）、使用痕を有する剥片2点（接合）、剥片6点（接合）。母岩別資料28・47は、それぞれ剥片2点づつ。母岩別資料41（接合資料65）は、石核1点（接合）、剥片1点（接合）。母岩別資料55は、掻・削器1点。母岩別資料59（接合資料130）は、剥片3点（接合2点）。母岩別資料60（接合資料129）は、石核1点（接合）、使用痕を有する剥片1点（接合）、剥片3点（接合2点）。母岩別資料79（接合資料122）は、石核1点（接合）、剥片4点（接合）を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、1が上げられる。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、ナイフ形石器1点、掻・削器3点、彫器1点、石核5点、加工痕を有する剥片3点、礫2点、原石1点が数えられる。組成の特徴としては、他のブロックに比べナイフ形石器をはじめとする多くの器種が保有されていること、石核（A・B・C・D・G類）の量もかなり多いことが上げられる。しかし、敲石は存在していない。

21号ブロック（第351図）

出土した176点のうち、母岩別資料3（接合資料66）に分別されるものには、剥片21点を有するが、このうち19点が接合する。母岩別資料4・5・10・21・46・51・60・54（接合資料87）は、それぞれ剥片を1点づつ有するが、54の剥片は接合する。母岩別資料6（接合資料69）は、石核1点（接合）、剥片10点（接合）。母岩別資料18（接合資料75～77）は、剥片類7点（接合）。母岩別資料24（接合資料72）は、剥片3点（接合）。母岩別資料25・71（接合資料71）は、それぞれ剥片2点づつをもつが、71の剥片は接合する。母岩別資料27（接合資料67）は、石核2点（接合）、剥片11点（接合）。母岩別資料28（接合資料67）は、掻・削器1点（接合）、石核2点（接合）、使用痕を有する剥片1点（接合）、剥片12点（接合9点）。母岩別資料30（接合資料70）は、石核1点、剥片4点（接合）。母岩別資料31は、石核1点。母岩別資料33（接合資料78）は、剥片3点（接合2点）。母岩別資料35は、剥片4点。母岩別資料52（接合資料110）は、加工痕を有する剥片1点、剥片5点（接合1点）。母岩別資料55は、使用痕を有する剥片1点。母岩別資料72（接合資料74）は、加工痕を有する剥片1点（接合）、剥片1点（接合）。母岩別資料80（接合資料123）は、加工痕を有する剥片3点（接合）、剥片2点（接合）。母岩別資料81（接合資料124）は、剥片2点（接合）を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、3・6・27・28が上げられる。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、加工痕を有する剥片3点、敲石4点、礫5点が数えられる。組成は、加工・使用痕を有する剥片が多く保有され、石核にはA・B・C・D類があり、縦長となる形状を示す剥片も多く出土し、敲石も伴っている。

22号ブロック（第352図）




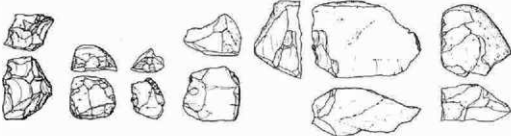

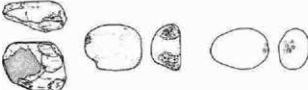
出土した71点のうち、母岩別資料3（接合資料66）・4・22・23・27（接合資料68）・47・71（接合資料71）・84（接合資料143）は、それぞれ剥片1点づつを有しているが、このうち1・27・71・84の剥片は接合するも

表23 器種別・石材別出土量表


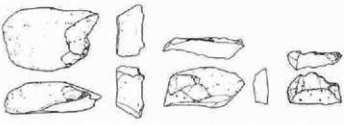
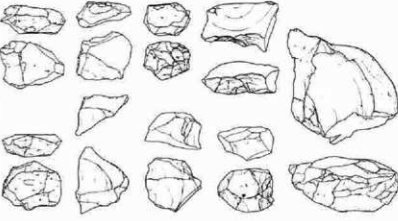
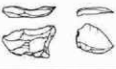




器種 (単位)	土イ	土ロ	形器	集形	模形	挟入	所形	石版	加削	模削	剥片	砕片	礫器	臺石	小礫	礫	原石	合計	%	
土瓦	2	17	2	1		1	1	74	31	9	537	25	2	2			4	708	52.30	
瓦葺	1	3						5	2	5	38	1					1	56	4.10	
瓦葺									2		2							4	0.30	
砂瓦								1	1	26								29	2.10	
点瓦	1																	403	29.80	
土瓦	1	6		2			32	23		201	38	1				2		5	0.40	
土瓦								1										63	4.70	
土瓦							2			9	1						3	16	1.20	
土瓦								2										1	0.10	
土瓦							9	2		6	13							34	2.50	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		2	0.10	
土瓦																		2	0.10	
土瓦																		2	0.10	
土瓦																		11	0.80	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		1	0.10	
土瓦																		2	0.10	
土瓦																		5	0.40	
土瓦																		1	0.10	
合計	7	28	3	1	2	1	1	126	61	29	954	70	3	24	1	30	30	10	1,352	100.00

表24 ブロック別器物種別出土層表

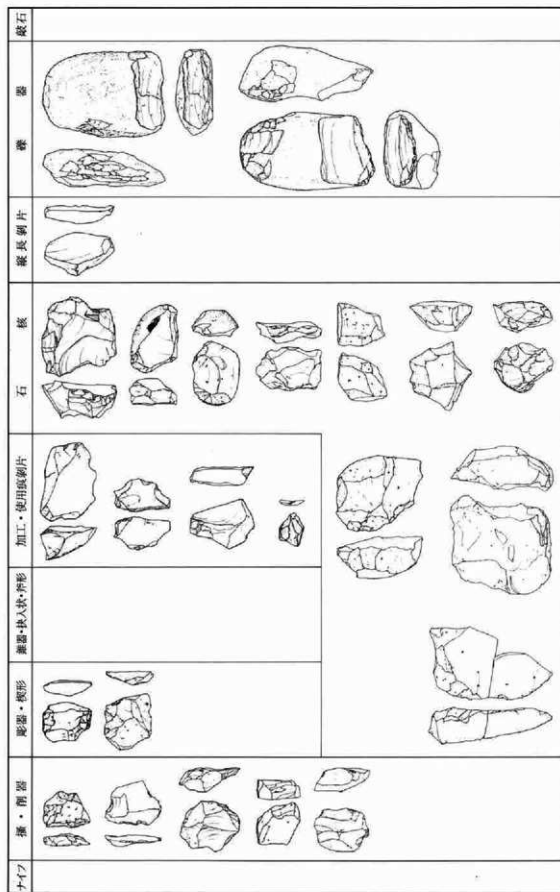
ブロック 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	合計	%		
ナイフ					1	1	1	1		1													1	7	0.50	
短剣			1	5	1					1	2				1	4	2	2			1	1	1	28	2.10	
長剣	2																				1			3	0.20	
鐙形																									1	0.10
鐙形				2																				2	0.10	
鉄入												1												1	0.10	
片刃																								1	0.10	
石版	7	12	1	15	6	1	7	7	4	1	9			4	1	9		10	8	12	7	5	126	9.20		
加削	2	6	1	2			3	3	2	5	4	1	3	2	7	2	2	3	5	8	2	1	61	4.50		
加削					4	1	1	1	1	1	1	1				3	2	2	2	2	2	1	20	1.50		
割片	62	52	8	102	21	2	30	25	16	33	61	5	16	29	21	48	20	65	76	49	137	47	934	69.10		
割片	2						6	1	1	5	3	1		2	3	3	2	6	11	11	7	7	70	5.20		
割片																								3	0.20	
片刃	3				1	1	2		1	2						1	4		3	5	1	1	24	1.80		
片刃											3			1	5	5	4	3	2	4	1	1	30	2.20		
小片				1		11	2	1	3	1	1	3	1	1		1	1	1	6	1	2	2	30	2.20		
原石										1	1					1	1	2		1	2	2	10	0.70		
合計	80	73	11	137	34	17	61	40	27	52	86	9	19	39	28	82	31	95	107	77	176	71	1,352	100.00		

ナイフ	
器・削器	
彫器・楔形	
簾器・状入状・斧形	
加工・使用痕剥片	
石	
核	
縦長剥片	
礮器	
鏡	
石	



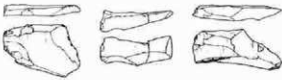
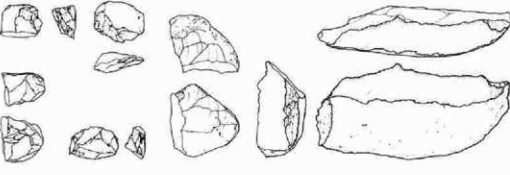


第339図 1号プロットの器類構成

ナイフ	鏃・箭鏃	尖部・横形	鏃部・柱入状・弁形	加工・使用痕跡片	石核	縦長剥片	礫	石
								
								









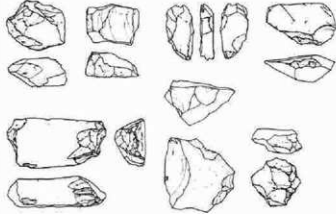

340図2 (上段)・3 (下段) 号ブロックの器種構成



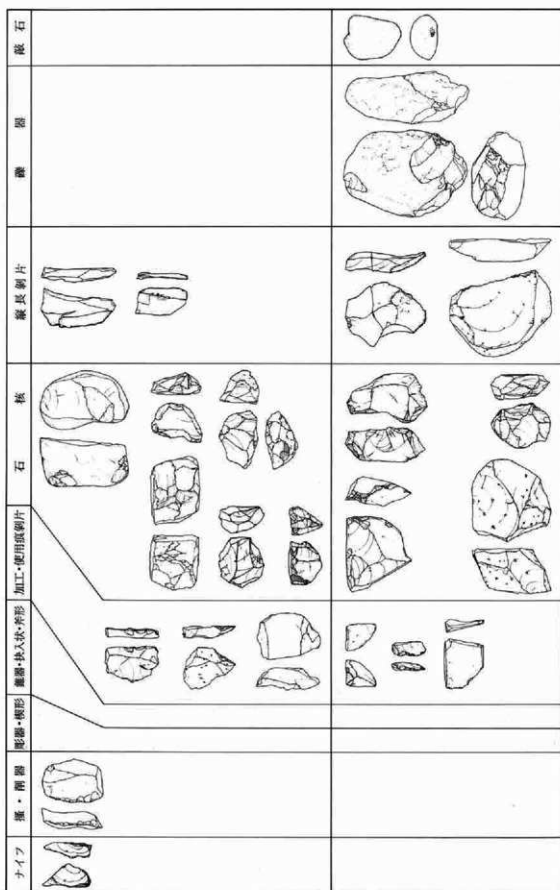
第341図 4号ブロックの器種構成

ナイフ	
槌・刮器	
彫器・衝形	
鎌器・投入状・斧形	
加工・使用痕削片	
石	
礫	
礫長削片	
石器	
礫	

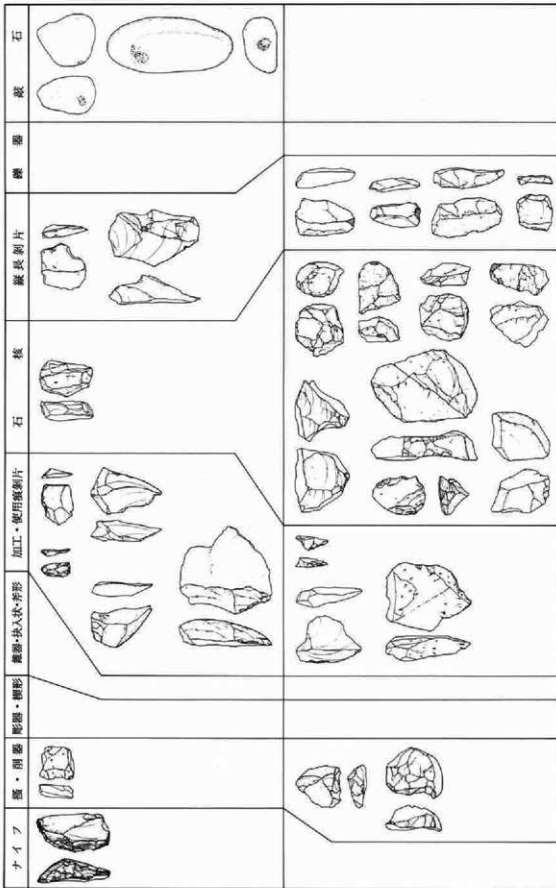
第342図 5号プロットの器種構成

ナイフ	掘・削器	彫器・楔形	産器・抉入状・斧形	加工・使用痕跡	石核	縦長剥片	鏢器	鏃	石
									
									



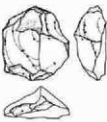
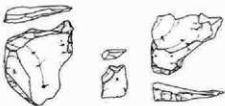
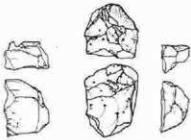

第343図 6 (上段)・7 (下段) 号ブロックの器種構成









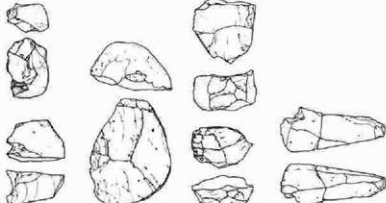

第344図 8 (上段)・9 (下段) 号ブロックの器類構成



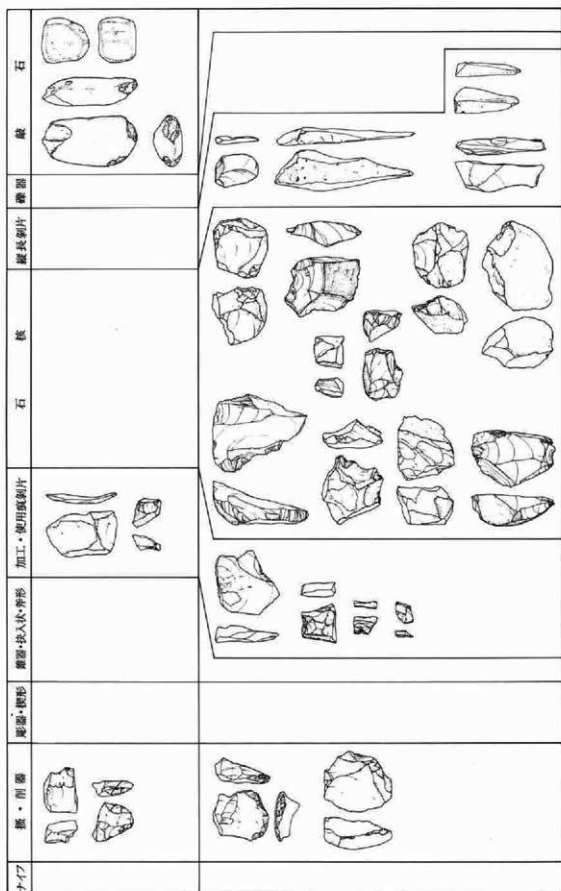
第345図 10 (上段)・11 (下段)号ブロックの器種構成

ナイフ	攝・前撮	彫器・模影	彫器・状入状・外形	加工・使用痕跡片	石 核	副長剥片	器	敵	石
									
									

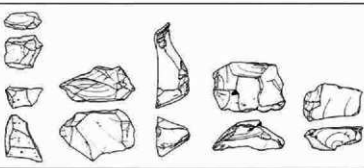
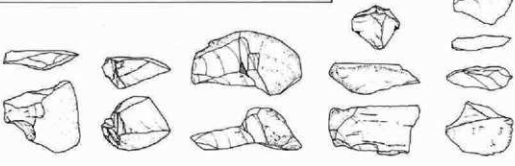


第346図 12 (上段)・13 (中段)・14 (下段) 号ブロックの器種構成

ナイフ	槌・用器	彫器・模形	磨器・球入状・斧形	加工・使用痕跡片	石	縦長薄片	磨器	破石
								
								






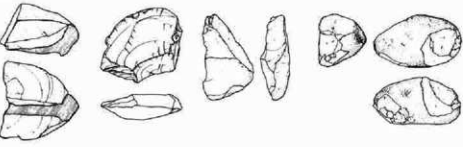

第347図 15 (上段)・16 (下段) 号ブロックの器種構成



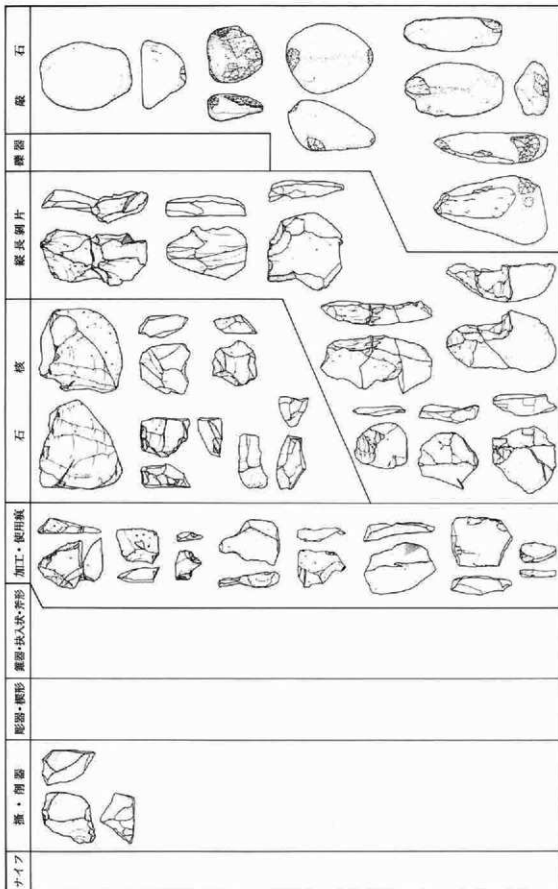
第348図 17 (上段)・18 (下段) 号ブロックの器種別構成

ナイフ	掘・削器	彫器・核形	鏃部・矢入状・斧形	加工・使用痕跡片	石核	鎌長剥片	掘器	敲石
								

349図 19号ブロックの遺物構成

ナイフ	
鏃・箭頭	
形器・鏃形	
鏃跡・突入状・浮彫	
加工・使用痕跡片	
石	
核	
破長剥片	
鏃器	
燧石	

第350図 20号プロットの器種構成



第351図 21号プロットの器種構成

ナイフ	
鏃・刮器	
彫刻・鑿形	
鏃頭・投入状・斧形	
加工・使用痕跡	
石核	
破長削片	
石器	
破石	

第352図 22号アブロックの器種構成

のである。母岩別資料5（接合資料79）は、石核1点（接合）、剥片5点（接合）。母岩別資料6（接合資料69）は、鏟・削器1点（接合）。母岩別資料26（接合資料51）は、石核1点（接合）。母岩別資料29（接合資料137・145）は、剥片6点（接合4点）。母岩別資料36は、剥片2点。母岩別資料43（接合資料96）は、ナイフ形石器1点。母岩別資料45（接合資料88）・57（接合資料81）は、それぞれ加工痕を有する剥片1点（接合）、剥片1点（接合）。母岩別資料55は、使用痕を有する剥片1点。母岩別資料73（接合資料80）は、剥片3点（接合）。母岩別資料74（接合資料82）は、石核1点（接合）、剥片1点（接合）。母岩別資料82（接合資料125）は、剥片4点（接合）を有している。これらのうち本ブロックに主体をおく母岩別資料は、見あたらない。また、母岩別資料に分別し得なかったものに、加工痕を有する剥片2点、敲石1点、台石1点、礫3点、原石2点が数えられる。組成の特徴としては、ナイフ形石器等の器種を保有し、石核にはB・E類をもつ。敲石や台石等も存在している。

(谷藤)

(2) ブロック相互の関係

本文化層における石器の接合資料は、全体の46.5%にもほっている。この状況は、旧石器時代の遺跡では特異であり、本文化層の特色として指摘できるものであろう。この石器の接合関係を検討することにより、石器製作の状況、遺跡での生活様式のあり方について重要な示唆を得ることができるものと考えられる。この個々の接合資料については、第3章4節で述べたとおりである。また、一つの石材としてのまとめ、石器製作の最も大きな単位となる母岩別資料については、第3章5節で述べたところである。

こうした接合資料・母岩別資料は、その資料自体の剥離状況から石器製作の実態や、剥片剥離技術のあり方を具体的に理解することができる。しかし、石器の接合や母岩別資料を剥離技術的な検討のみではなく、その遺跡内で実際に検出されたブロックと照らしてみることによって、日本旧石器時代の研究に新たな方向性を示してきた。砂川遺跡に始まったこの研究（戸沢 1968、砂川遺跡調査団 1974）によって、漠然としていたブロックの内容を具体的に、またブロック相互の関係を実証的に理解できるようになったのである。先項では、ブロックの組成・母岩の保有状況を述べたが、本文化層に残されたブロック全体について考察するためには、いくつかのブロックにわたって認められる接合資料・母岩別資料の検討が必要である。そのうち、特にブロック間の接合資料のあり方は、確実に同一の母岩であることが理解できることもさることながら、実際の剥片剥離工程に沿った検証が可能である。そのため、ブロック間の接合資料のあり方を、ブロック相互の関係を理解するための基礎として取り上げることとした。

本文化層では、33例のブロック間接合の資料を数え、その延べ総数は45例ある。それらの接合関係は、ほとんどのブロック間にみられるもので（第353図、表26）、この図を見ただけでも第II文化層全体のブロックが、相互に密接な関係を有していたことが理解されよう。では、具体的に検討してみる。

母岩別資料に分類された石材には、黒色頁岩、珪質頁岩、ダイサイト、黒色安山岩、灰色安山岩、ホルンフェルス、チャートがある。この母岩別資料の分類については、同一の母岩（原標）に分類されうるものを抽出したのである（このうち特に黒色頁岩・黒色安山岩については、その碎片にわたる全ての石器がそれらの石材の利用頻度が高いため、その分類に多少の問題を残すものもある）。ブロック間に接合関係のある石材は、黒色頁岩20例、珪質頁岩4例、黒色安山岩9例である。

これらの接合例を観察すると、そのほとんどは多くの資料が属するブロックと、2点以下の少ない資料しか含まないブロックがあるという関係がみられる。この多くの資料を含むブロックをここでは、その接合資料が主体的に属するという意味で「主ブロック」と呼ぶ。この主ブロックと他のブロックとの保有関係には、

その剥片剥離工程を検討することによって、およそ次の三つに分類できる。

A類……………二つのブロックに石核と剥片が存在し、双方のブロックで剥片剥離が行われたと推定できるもの。(分割)

B類……………剥片・石器・石核が、1ないし2点程他のブロックにみられ、それらの遺物の移動が想定されるもの。(移動)

C類……………剥片などの欠損したものを、ブロック間で分有するもの。(分有)

これらのうち、最も多いのはB類で38例あり、続いてA類が4例、C類に分類されるものに3例ある。

A類

A類に分類されるものは、接合資料62・20・19・86で、各々二つのブロックに石核と剥片が存在し接合することから、同一の母岩を用い、両ブロックで剥片剥離作業を行っていることを意味していると考えられる。

接合資料62は、主ブロックが20ブロックで分割した石核を含む3点、剥片など12点が存在する。このブロックで多くの剥片剥離作業が行われたことが理解できる。他方、11号ブロックに含まれる2点の資料は、20号ブロックの資料群とは大きな分割面を介して接合している。そのことは、母岩の原礫を分割した後、別々のブロックにその分割素材がもたれられ、一方が20号ブロックの剥片剥離作業（工程）で消費され、11号ブロックでは別の剥片剥離作業（工程）をたどったものと考えられる。

接合資料20は、大形の縦長剥片を剥離した石核を、中央から二分し、各々石核としたものである。分割した後の石核には、資料数の多い4号ブロックでは2点、9号ブロックでは1点の剥片が接合している。こうした状況から、元の大形石核を分割した後、それを原料として、4・9号ブロックで新たな剥片剥離作業が行われたことを意味していると考えられる。

接合資料19は、原礫から分割された大形剥片を二分し、4・9号ブロックに属する二つの石核に属する、二つの剥片剥離工程を辿るものである。4号ブロックに属する石核からは3点の剥片が剥離され、1点は9号ブロックに属するものである。9号ブロックに属する石核には、1点の剥片が接合するが、その剥片は10号ブロックに属するものである。こうした状況からは、いくつかの解釈が可能であろう。原材の分割から双方の石核を用いた剥片剥離作業の途中までを9号ブロックで行い、そこで剥離された剥片が10号ブロックに移動させられ、一方の石核を4号ブロックに持ち込んで剥離作業を行ったという想定と、原材の分割後は4・9号ブロックで剥片剥離作業を行ったが、4号ブロックで剥離された剥片が9号ブロックへ、9号ブロックで剥離された剥片が10号ブロックへ移動させられたとも想定できる。どちらがより妥当性を有するかは不明であるが、ブロック間で石核の原材、あるいは剥片剥離作業中の石核が移動させられたことは事実であろう。

接合資料86は、3号ブロックに多くの資料が含まれているが、初期の剥片剥離作業で剥離された剥片は10号ブロックに移動させられて、加工痕を有する剥片として利用されている。そして、掻・削器の素材となる剥片が剥離された後、石核が分離される。一方は3号ブロックに残され、他方が13号ブロックに移動させられ剥片剥離作業がなされている。

これらA類は、二つのブロックに石核が存在し、それを用いた剥片剥離作業が、各々で行われていたことが理解される。その途上では、石核（接合資料20・86）や剥片剥離作業の基となる原材（接合資料62・19）の分割の後、各ブロックで分有される状況が理解できる。このあり方は、本文化層における剥片剥離工程の特徴である大形剥片等による原材の準備に当たる部分で、分割された石核素材、あるいは石核を分割した原材の各々をブロック間で分有したことを意味するものであろう。

B類

最も多くの例があるB類に分類されるものは、接合資料12・66・1・69・46・25・14・45・19・51・68・40・137・21・30・11・141・58・86・96・84・88・101・110・87・13・71・115・143で、剥片・石器・石核という単体での石器の移動を意味している。この接合資料の主ブロックでは、その属する母岩別資料を多く含むことがわかる。そのような状況を見ると、主ブロックで主体的に剥片剥離作業が行われたものと考えることができよう。もちろん、石核がいくつかのブロック間を移動し、そうした状況が残されたことも想定しうる。しかし、その場合、主ブロック以外のブロックにおいても数点の資料が存在し、まとまった工程を示す接合資料が存在して良いはずである。しかし、3点以上（接合資料87の剥片3点は接合して、1点の剥片となる）の石器が主ブロック以外に存在しないことを考えると、やはり主ブロックを中心に剥片剥離作業が行われたと考えることが妥当であろう。

これらのB類は、主ブロックから移動させられた資料の内容によって、移動の対象が剥片である場合をB1類、石核である場合をB2類、機能を有する石器である場合をB3類という三つに細分できる。

B1類に属する資料は、接合資料12・66・1・46・45・19・51・68・40・137・30・36・141・58・96・84・88・101・110・87・71・115・143で、最も多い。移動の対象となる剥片は、どのような意味をもっていたのだろうか。それらは、あるいは石器の素材として、またそのまま石器として用いるために他のブロックへ移動させられたものと考えられるものが多い。しかし、小形の剥片を剥離する石核の原材と考えられるような、接合資料12・46・115などの剥片が存在することも事実である。

一定の機能をもった石器として他のブロックへの移動が考えられるB2類には、接合資料69・14・21・86・96・88がある。接合資料96ではナイフ形石器が、接合資料69・14では槌・削器が、接合資料21・86・88では加工痕を有する剥片がその移動の対象となっている。これらは明らかに石器として一定の機能を有することや、その有用性に基づく何等かの理由によって、その移動がなされたと考えられる。

石核の状況で移動が想定されるB3類には、接合資料66・25・51・13がある。このうち接合資料66・25・13は、石核の最終剥離に当たる資料までもが主ブロックに残されるものであり、接合資料51は最終剥離に近いものは接合していない。これらの石核は、その移動先のブロックでの剥片剥離作業が行われていないことを考えると、「残核」として打ち捨てられたものである可能性が指摘できる。しかし、他の石器と同様に、石核としての有用性を意識し、移動の対象となったことも想定できよう。

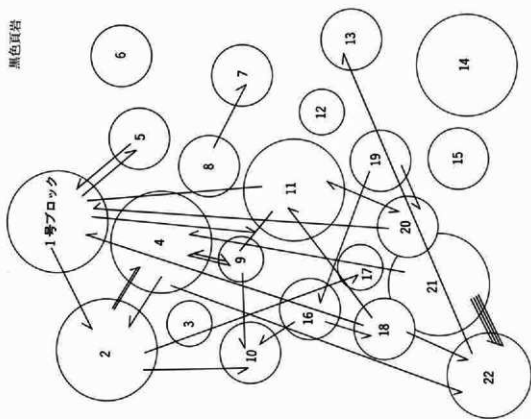
C類

C類に分類されるものは、接合資料10・107のみであるが、1点の剥片を二つのブロックで分有するものである。その分割された剥片が移動の対象となるということは、分割された剥片が、単体の石器として意味をもっていたと考えられるであろう。

これらのブロック間接合資料は、A類では原材・石核の分割をともなって剥片剥離作業の途中からブロック間を移動させられている。B1類のうちでも、石核の素材と考えられるものの移動や、石核の移動が想定されるB3類は、剥片剥離作業の途中での移動として捉え得る可能性がある。しかし、そのほかのB・C類は、主ブロックから1点ないし2点の単体の石器が移動しているものと考えられる。

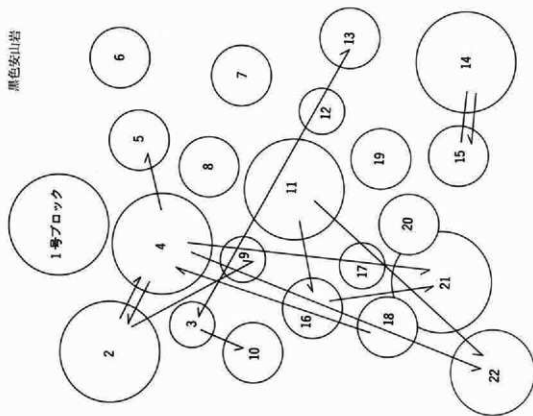
この状況を、石器製作の各段階に当てはめて考えると、一つの母岩としての原礫を分割して、あるいはその大形剥片を分割し、石核として剥片剥離作業を行うが、この分割時に移動の契機があるものがA類である。B1類の一部は石核の素材の状況で、B3類は剥片剥離途中あるいは終了した石核の状況で、移動の契機が

黒色頁岩



← 素材分標
 ⇌ 欠片・石核・toolの移動
 ——— 相互の関係不明

黒色安山岩



第353図 複合資料にみるブロック相互の関係図

表26 ブロック間接合の関係

接合%	母岩	石質	主ブロック	点数	内 容	ブロック	点数	内 容	分 類
62	1	黒色頁岩	20	12	剥片6 石核3 加割2 便利1	11	2	剥片1 石核1	A
12	2	珪質頁岩	2	11	剥片10 石核1	17	1	剥片1	B ₁
		黒色頁岩				10	1	剥片1	B ₁
66	3	黒色頁岩	21	19	剥片19	4	1	石核1	B ₁
						22	1	剥片1	B ₁
1	4	黒色頁岩	1	18	剥片16 石核1 礫削1	5	2	剥片2	B ₁
						2	1	剥片1	B ₁
69	6	黒色頁岩	21	11	剥片10 石核1	22	1	推削1	B ₂
46	9	黒色頁岩	16	3	剥片2 石核1	18	1	剥片1	B ₁
25	12	黒色頁岩	5	8	剥片1 石核1	1	1	石核1	B ₁
20	13	黒色頁岩	4	4	剥片3 石核1	9	2	石核1 加割1	A
						4	1	推削1	B ₁
14	17	珪質頁岩	16	7	剥片5 石核2	10	1	剥片1	B ₁
19	26	黒色頁岩	9	2	石核1 加割1	4	3	剥片2 石核1	A
						10	1	剥片1	B ₁
51	26	黒色頁岩	18	7	剥片6 石核1	11	1	剥片1	B ₁
						22	1	石核1	B ₁
						1	1	剥片1	B ₁
68	27	黒色頁岩	21	13	剥片12 石核1	18	2	剥片1 石核1	B _{1,3}
						22	1	剥片1	B ₁
10	28	黒色頁岩	1	1	剥片1	11	1	剥片1	C
40	28	黒色頁岩	1	1	剥片1	9	1	剥片1]B ₁
						11	1	剥片1]B ₁
137	29	黒色頁岩	22	2	剥片2	13	1	剥片1	B ₁
21	31	黒色頁岩	4	3	剥片3	2	1	加割1	B ₁
30	32	珪質頁岩	8	1	剥片1	7	1	剥片1	B ₁
11	36	黒色頁岩	20	1	剥片1	1	1	剥片1	B ₁
141	36	黒色頁岩	19	2	剥片1 石核1	16	1	剥片1	B ₁
58	42	珪質頁岩	19	4	剥片4	20	1	剥片1	B ₁
86	43	黒色安山岩	3	3	剥片1 石核1 礫削1	13	2	剥片1 石核1	A
						10	1	加割1	B ₁
96	43	黒色安山岩	11	19	剥片16 石核2 加割1	22	1	ナイフ1	B ₁
						16	1	剥片1	B ₁
84	44	黒色安山岩	2	3	剥片2 加割1	9	1	剥片1	B ₁
						4	1	剥片1	B ₁
88	45	黒色安山岩	4	5	剥片3 石核1 楔形1	22	2	剥片1 加割1	B _{1,3}
101	51	黒色安山岩	14	6	剥片5 加割1	15	2	剥片2	B ₁
107	51	黒色安山岩	14	1	剥片1	15	1	剥片1	C
110	52	黒色頁岩	16	3	剥片6	21	1	剥片1	B ₁
87	54	黒色安山岩	4	31	剥片28 石核2 礫削1	5	3	剥片3	B ₁
						2	1	剥片1	B ₁
						21	1	剥片1	B ₁
13	64	黒色頁岩	2	3	石核1 加割2	4	1	石核1	B ₁
71	71	黒色頁岩	21	2	剥片2	22	1	剥片1	B ₁
115	78	黒色安山岩	18	8	剥片8	4	2	剥片2	B ₁
143	84	黒色頁岩	4	1	剥片1	22	1	剥片1	B ₁

あるものと考えられる。B3類を除けば、剥片剥離作業を行うための石核素材として、ブロック間を移動する状況があることが理解できよう。また、それは1点の石核から行われる一連の剥片剥離作業が、いくつかのブロックにわたってみられる例がないことも指摘できることである。剥片剥離の最初の工程にあたる石核の素材としての原材の状態で、ブロック間の移動を考慮をできるが、その後の石核からの石器の素材を剥離する剥片剥離工程は、一つのブロックで集中して行われていたと考えることができるようである。母岩を分割した後の個々の剥片剥離作業を行う石核は、最も多くの資料を残した主ブロックにより管理され、そこで剥片剥離作業が行われたのであろう。そして、主ブロックで作出された剥片・石器・石核が、他のブロックに移動したという状況を読み取ることができる。

ブロック間を石器が移動していく契機は、いくつかの状況があることが理解できた。しかし、ブロック間接合資料から判断する限り、石核の基となる原材を準備した後の剥片剥離作業は、ある特定のブロックで集中して行われることが理解され、本文文化層のブロックにおける剥片剥離作業の特質として理解できるのではないだろうか。

ブロック間接合資料については、上記以外にも個々の資料について、別の解釈が可能であるかも知れない。しかし、個々に示した45例の接合資料のあり方の総体から、このような解釈が可能であると理解しておきたい。

さて、ここまではブロック間接合資料とその剥片剥離工程の関係について考察してきたが、次にこうしたブロック間での石器の移動の傾向、ブロック相互の石器の交換のあり方についてふれてみたい。ここでは、本文文化層の主要な石材である黒色頁岩および珪質頁岩と、黒色安山岩の二つに分けて記述していきたい。これら二者は、堆積岩と火成岩という岩石的な特徴の違いがあるが、それらは当時において本遺跡下の利根川河床で採集可能であったと考えられる。しかし、石目の状況や剥離面の形成のあり方等の剥離時の剥離力学的な部分に、両者には大きな違いがある。本文文化層における石器製作者が、この石材の違いに基づいた石器製作を行っていたことは、十分想像できることである。また、石器の移動を想定する場合、主ブロックでは剥片剥離作業が主体的に行われたことを指摘したが、その他のブロックへの移動は剥片剥離作業の行われた後、あるいはその途上の時点にあたるといえる。その意味では、剥片剥離の場所が移動の起点であり、移動させられた先のブロックは、その終点であるという関係が成り立つ。この場合、主ブロックでの作業が、時間的にやや先行することも理解できるのではなかろうか。

黒色頁岩は、類似した石材の珪質頁岩を含め24例のブロック間接合資料があり(第353図)、1・2・4・5・7～11・13・16～22号ブロックの間にその関係がみられる。このうち、1・4・22号ブロックは、他のブロックとブロック相互の接合関係を各7例と、多く確認された。以下には、2号ブロックの6例、21号ブロックの5例、9・11・18号ブロックの4例、10・16・20号ブロックの3例、5・19号ブロックの2例、7・8・13・17号ブロックの1例がある。特に、これらのブロックのうち1・4号ブロックでは、石器の移動の終点と起点の割合がほぼつりあう状況があるが、22号ブロックでは始点である資料は1例のみで、他のブロックとやや異なる状況がある。逆に、21号ブロックでは全ての資料の移動の始点となっており、22号ブロックへは4例の資料が移動させられていることから、両者の密接で特殊な関係が想定されよう。そのほか、10号ブロックでは3例の全てが移動の終点となっているが、他のブロックではおおそ始点と終点がつりあう状況があるようである。A類としたものには、4号ブロックと9号ブロックとが2例の関係をもち、11号ブロックと20号ブロックとの間にも1例がある。B類では、第II文化層全体にわたって広くブロック間接合

の例が存在する。そのうち、1ブロックと18・20号ブロック、4号ブロックと21・22号ブロック、13号ブロックと22号ブロックなどの距離の大きいブロック間での接合関係が目だっている。しかし、基本的には近接したブロック同士の関係が多いようである。

黒色安山岩では、9例の接合関係があり(第353図)、2・5・9・10・11・13・16・18・21・22号ブロックの間にその関係がみられる。このうち、4号ブロックが6例と最も多く、ついで2号ブロックの3例、2例の3・11・14・15・16・21・22号ブロックがあり、1例の5・9・10・13・18号ブロックがある。例の多い4号ブロックや2号ブロックでは、始点と終点がつりあう関係を有しているが、2例の11号ブロックでは始点のみ、21・22号ブロックでは終点のみである。A類としたものには、距離が大きく離れた3号ブロックと13号ブロック間のみで見られるだけである。B類では、4号ブロックと18・21・22号ブロックとの間、11号ブロックと22号ブロックの間に比較的距离のある接合関係が存在する。しかし、近距離のブロック同士の接合関係も多いことが窺える。

黒色頁岩・珪質頁岩と黒色安山岩のブロック間接合関係から、いくつかの相違点を指摘することができる。例の少ない黒色安山岩では、黒色頁岩の例よりも接合関係を有するブロックが少ないが、黒色頁岩で多くの例が存在した1号ブロックでの接合関係がみられないことが、まず指摘できる。この理由については、不明な点も多く、文化層全体を考える上で考察したい。そのほか、黒色頁岩での比較的接合関係のあった19・20号ブロックに黒色安山岩が登場しないことや、逆に3・14・15号ブロックに黒色安山岩のブロック間接合関係があること等である。共通点としては、双方の石材のブロック間接合のうち、距離の大きいものは北側の1・4号ブロック、南側の20・21・22号ブロックの間にみられるものが多く、東西の方向では少ないという傾向がある。

以上、石材別のブロック間接合について述べてきたが、双方を重複させるようにして検討してみる。

5例以上の多くのブロック間接合例に関与するのは、1・2・4・9・11・16・18・21・22号ブロックである。このブロック間接合の多いブロックでは、移動の起点と終点が多くブロックでほぼ均衡するが、22号ブロックでは終点となる場合が8例であるのに対し、起点となる場合が1例しかない。それ以外では、4例の10号ブロック、2例の13号ブロックでは、全てが終点となっている。主ブロックとして2例以上の接合関係があるブロックは、1・2・4・14・16・18～21号ブロックである。このブロック間接合例の多いブロックや、主ブロックになることの多いブロックは、本遺跡内での石器製作のあり方と、それに伴い他のブロックといかに密接な関係を有していたのかを反映するものであると考えられる。

次に、これまで述べてきたブロック相互の関係を、そのブロック間接合のあり方を基に検討してみたい。

まず、隣あったブロックでは、比較的その関係が密であることが窺える。そして、距離の大きい例では、南北の方向の接合関係が多いことが指摘できよう。こうした全般的な関係があるものの、隣あったブロック同士であっても、ブロック間接合関係のないものもある。1号ブロックと4号ブロック、19・20号ブロックと21・22号ブロック、さらに21・22号ブロックは18号ブロックともそうした関係がみられない。これらのブロックでは、比較的多くのブロック間接合例を有するもので、接合率が非常に高い本文化層の中でも特に接合資料を多く含むものであり、やや不自然である。

ところで、長距離のブロック間接合例では、1号ブロックと18・20号ブロックとの関係が指摘でき、4号ブロックと18・21・22号ブロック間の接合関係が指摘できる。隣あいつつもブロック間接合関係がなく、距離が離れているにもかかわらずブロック間接合の関係があるものを検討すると、1・18・19・20号ブロック

のグループと4・21・22号ブロックのグループのあることが指摘できそうである。それでは、これら二つのグループは、まったく時間的に異なるものであったのだろうか。

1号ブロックと4号ブロックは、近接する2・5号ブロックとの接合関係を介して間接的な関係にあり、18・19・20号ブロックと21・22号ブロックとは一部では直接に、あるいは近接した11・16号ブロックのブロック間接合を介して間接的な関係が指摘できる。そして、母岩別資料の保有状況からは、1号ブロックと21号ブロック間で母岩別資料28が、4号ブロックと19号ブロック間では母岩別資料54が共通している。また、母岩別資料25は1・4・18・21号ブロックに分有され、母岩別資料31は19・21号ブロック間で分有されている。このように、共通する母岩の保有状況からも、これら二つのグループが接合という直接的な関係を有しているが、何らかの関係があったことは確かであろう。これら二つのブロックのグループは、あるいは母岩別資料の保有状況からも、こうした間接的な関係を介して、決して時期差を含むような差異を有していたと考えることはできないであろう。であるとすれば、ブロックの背後にいたであろう集団の交流のあり方を反映しているのだろうか。しかし、二つのグループが近接していること自体、不自然でもある。

この二つのグループのあり方を、ここでは時期差を有しない時間差をもって残されたブロックであると考えておきたい。そしてそれは、本遺跡内での石器製作に、ある時間差を想定させるものではなからうか。母岩消費の石器製作作業の一サイクル内での集団が、ある時間をおいて、再び本遺跡に回帰した状況が想定できるのではなからうか。直接の接合関係を有しないのは、一母岩を完全に消費してしまうような長い時間ではないが、他所での剥片剥離作業が、その間に介しているためであるとは考えられないであろうか。また、ブロック間接合関係の起点と終点の関係から、1・18～20号ブロックのグループと4・21・22号ブロックのグループでは、前者が後者よりも時間的に先に形成されたブロックであると想定できる。

この同一遺跡への同一集団の回帰の問題は、以前に砂川遺跡を例にした想定がなされている(稲田1978)。本文文化層での想定は、砂川遺跡でみられたような少数のブロック間接合ではなく、多くの例が錯綜した状況であった。そのため、必ずしも明快にその状況を明らかにし得ない部分があることは否めない。しかし、遺跡の構造や、集団の移動に関する重要な問題の緒がそこにあるものと思われ、今後の課題として十分に検討されるべきことであろう。

(小音)

(3) ブロックの性格と遺跡の構造

前項までは、第II文化層ブロックの組成と母岩の保有状況を、ブロック間の接合関係について検討してきた。石器組成は、ブロックでの生活活動の一端を反映したものであろうし、ブロックに主体をおく母岩のあり方は、そこでの石器製作という母岩の消費と、その管理が背後にあると考えられる。ブロック間接合資料は、主ブロックと呼んだ石器製作の中心となるブロックと、そこから石器、剥片等を移動させられた側のブロックがあるという相互関係が明らかとなった。また、石核の素材を分割し、他のブロックでの石器製作に供された状況からも、ブロック相互の関係が明らかとなった。この関係から、二つの石器製作状況の異なるブロックのグループの存在が理解された。そして、これら二つのグループが、微妙な時間差をもって本遺跡を利用した結果残されたものと考えることができた。また、この時間差を持ったブロックのグループが、同一の母岩を用いていること、他のブロック間の接合関係を通して間接的に接合関係を有することから、同一集団が本遺跡から他の遺跡へ移動し、再び帰ってくるという「回帰」として捉えることが可能であると理解された。次に、これまで検討したブロックの石器組成と母岩保有状況、ブロック間の接合関係を総合してみる。

各ブロックの石器組成の上では、1・4～11・16～18・20～22号ブロックは、比較的多くの種類と数量の

器種を保有し、組成的に安定している。ナイフ形石器等の代表的な石器を全て含むというような、完全な当時の石器組成を示しているわけではないが、これらのブロックでは搦・削器や敲石が比較的共通して保有されているほか、加工・使用痕を有する剥片をも保有していることが理解できる。ブロックに残された石器が、そのブロックで用いられた石器の全てであるということではないが、これらの石器には加工具的な機能が想定されているところから、これらのブロックは共通してこうした石器を用いるような諸作業が行われたか、あるいはそれに深く係わりあう場所であったものと捉えることができよう。

各ブロックの母岩保有状況では、1・2・4・5・7・14・15・18～21号ブロックに一つ以上の母岩へ含まれる資料の多くが検出され、その母岩が保有され、消費されていたものと考えられることができる。また、ブロック間接合資料では、それが5例以上と頻繁にみられるものは1・2・4・9・11・16・18・21・22号ブロックであり、2例以上主ブロックとして捉えられるものは1・2・4・9・14・16・18～21号ブロックである。これらの状況は、ほぼ母岩の保有状況と一致している。つまり、これらのブロックでは、母岩の保有と消費が、そのブロック内で行われていたことが理解できる。

これらのブロックと母岩の保有状況、ブロック間接合のあり方から、1・4・5・7・18・20・21号ブロックでは、本文化層において母岩の保有と消費という石器製作と、石器組成から想定される使用の場を兼ね備えたブロックといえる。ブロック間接合の関係からは、他のブロックと密接な関係を持ちつつ、本遺跡で位置を占めていたものと考えることが可能であろう。また、9・11・16・22号ブロックも、これらに準じた意味合いを持っていたものと考えられる。以上のことから、これらのブロックが、本文化層での生活痕跡の最も良く残された部分と想定できるであろうし、その一つの単位として認識できるのではないだろうか。

ところで、本遺跡では直径4mから6mほどの大きさでブロックを確認することができたが、その大きさは縄文時代等の住居跡の大きさとほぼ等しいか、あるいはやや大き目である。ブロックが住居跡であるかどうかの議論はあるが(近藤1976)、本遺跡の場合そこに住居が存在したかどうかは別として、それらのブロックがそのような居住の単位を反映した可能性が高いと考えられる。また、これらのブロックは、ブロック間接合の状況から、本遺跡においては他のブロックと関係を持ちつつ存在していたといえる。

なお、双方の条件を満たさなかったものには、2・3・6・8・10・12～15・17・19号ブロックがある。3・6・12・13号ブロックは、出土点数も十数点以下と少なく、範囲も狭い。何等かの石器製作や、その使用に関する地点であると考えられる。このうち6号ブロックは、縦長剥片以外はナイフ形石器、斧形石器などの完成された石器のみで、本文化層中では特殊なブロックであるといえる。14・15号ブロックは、調査区の南東に位置し、その多くは黒色安山岩の母岩51に含まれるものであり、その母岩による石器製作の場であったものと考えられる。2・19号ブロックは、母岩は保有されているものの、石器組成は貧弱であり、8・10・17号ブロックは石器組成は比較的豊かであるものの、母岩の保有状況は貧弱である。3・8・17号ブロックは、周囲のブロックよりも小規模で、他のブロックと共に「ユニット」としてまとめられる可能性がある。これらのブロックは、その多くが調査区東側に分布し、石器製作など、ある特殊な機能を有したブロックである可能性がある。また、2・10・19号ブロックは、石器組成や母岩の保有に問題があるが、その規模からすれば、あるいは居住の一単位を反映したものであるかも知れない。

以上、第II文化層のブロックの性格について述べてきた。居住の一単位を反映したものが多く、そのほか他のブロックと係わってユニットを構成するもの、特定の機能を有するものなどが指摘できた。それらを総合的に遺跡内における分布位置をも踏まえて考察することにより、本文化層全体での生活活動や居住のあり

方が明かとなるであろう。

本遺跡は赤城山西麓に位置し、東から西へ延びる台地上にある。本遺跡での第II文化層の調査区は、その南傾斜した部分に位置している。このような調査区内において、居住の一単位を反映したものは、1・4・5・7・18・20・21号ブロックや、9・11・16・22号ブロックであると考えられ、調査区西側に偏った分布を示している。調査区西側のこれらのブロック群が居住や生活の中心であったものと考えられる。そして、2・3・8・10・17・19号ブロックは居住の一単位を反映したものか、あるいはその一部であろう。調査区東側の小規模な6・12～15号ブロックは、石器作りなどのある特定の機能を有した場と考えられる。つまり（今回の調査によって、当時のムラ全体が調査されたとはいえないが）、調査区西側は居住の一単位を反映したブロックが集中した居住の中心の場、調査区東側は遺跡内でも特定の機能を有した場と考えることができる。

ところで、先に述べたが、これら調査区西側のブロックでは、ブロック間の接合関係から二つのグループに分かれていることが指摘でき、このブロックの関係は「回帰」として捉えることが可能と理解された。これらのことを考え合わせると、居住の中心であった調査区西側のブロック群は、数度の回帰を繰り返しながらも居住の一拠点としてあり、その居住に対して東側の特定の機能を有したブロックが形成されたものと考えられる。すなわち、居住の中心である調査区西側は、数度の居住と移動の中心的な場所として機能し、調査区東側ではそれに付随し、ある特定の目的を持って利用された場であったと考えることが可能であろう。本遺跡は、これらの居住の場と特定の目的を持つ場が、有機的な関係を持ちつつ一つのまとまりを持つ「集落」であったものと考えられよう。

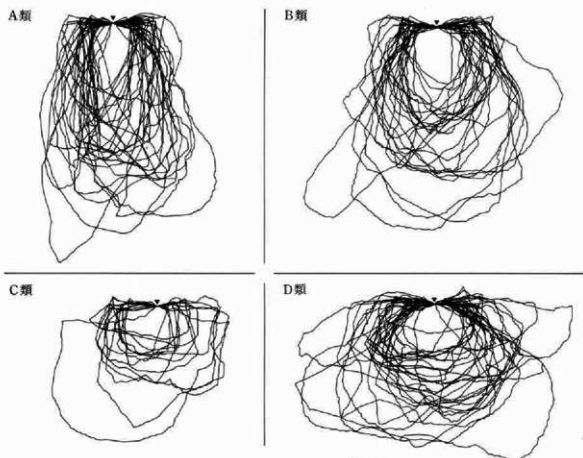
本文化層と同様の時期には、下触牛伏遺跡（岩崎1986）に代表される環状を呈する「集落」の存在が広く知られるようになった（橋本1989）。しかし、本遺跡の場合、全体のブロックの配置や形状・その内容が、そうした例とは大きく異なっている。下触牛伏遺跡にみられたような環状の集落は、ほぼ同時に全体のブロック群が形成されたものと考えられているが、本遺跡では時間の異なる二つのブロック群があり、全てが同時に形成されたものではないと想定できた。また、同一集団による「回帰」を含めて多少の時間差を持ちつつ、文化層全体のブロック群が形成されたと考えられることを提示しておきたい。（小菅）

2 剥片剥離技術について

本文化層より出土した接合資料については、先に述べてきた通りである。ここでは多くの接合資料の中から、その代表的なものを例に本遺跡で行われた剥片剥離技術について考えてみたい。

(1) 作出された剥片と接合資料

本文化層内で行われた剥片剥離による剥片については、第3章第3節で述べたように、長幅比が1.5以上の縦長剥片をA類、1から1.5の縦長ではあるが幅広となるB類、1ないしはそれ以下の方形となる横長剥片をC類、さらに長幅比が1以下の不定形幅広となる横長剥片をD類の4分類を行った。このうち、A・B・D類については従来より知られているものであるが、C類とした方形の剥片に関してはこれまで余り注目されていなかった本文化層に特徴的なものであり、ここで新たに他と同様の一つの形態として取り上げることとした。第354図は、出土したそれぞれの剥片の打点を合わせて、AからDまでの各型ごとに集合させてみたものである。この図からもわかるように、それぞれの形状の違いが見てとれる。特にC類については、A・B類としたものとは大きく異なり、同じ横長系のD類と比較してみても、打面と端部および側縁がほぼ平



第354図 剥片形状の分類と形状集合図

行となる点で明らかに違いをみせていることがわかる。

とりあえず、A・B類の縦長系のもと、C・D類の横長系とのものに大きく分けられ、この点を主に実際の接合資料での作出された剥片形状のあり方についてみる。(第355～357図)

例 1 (接合資料52)

大形剥片を素材に分割し、分割した両者からそれぞれ縦長剥片が数度にわたり剥離されている。これらの剥片は、打面に対し剥片の長軸方向が左右に振れてはいるが、A類に分別できる剥片である。また、その残核として石核A類がある。

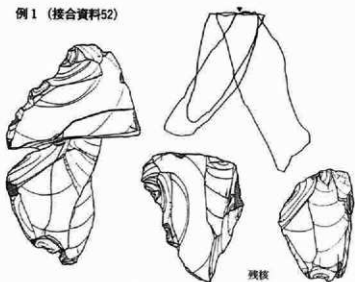
例 2 (接合資料58)

同一打面から同方向へ連続的に剥離を繰り返したもので、作出された剥片形状はすべて縦長となるものであるが、やや幅広となるものも含んでいる。剥片の分類からは、AとBに分別されるものである。また、この剥片剥離に伴う石核は存在しないが、石核A類が予測できよう。

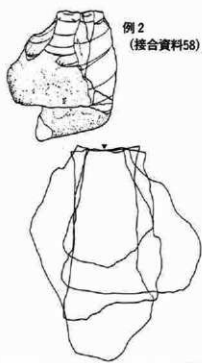
例 3 (接合資料62)

原礫を大きく分割させ、その分割面を打面に、また打面再生を行い同一方向への連続した剥片剥離を行ったので、作出された剥片形状は縦長となるものが主体を占め、打面再生に係わる剥片等に横長系の形状を呈する剥片がみられる。剥片の分類からは、前者がAないしはB類に、後者がD類に分別される。また、これに伴う石核には、石核A類が存在する。なお、この剥片剥離により作出された縦長剥片の一つ(最終段階で剥離されたもの)は、それを素材に新たな剥離が施され、不定形な横長となるD類に分別されるも

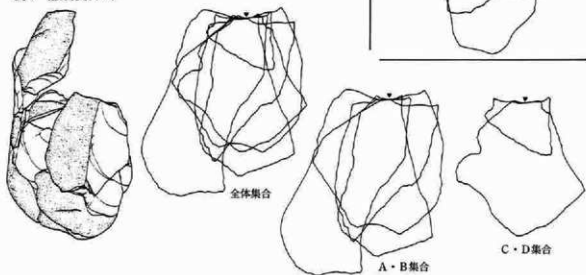
例1 (接合資料52)



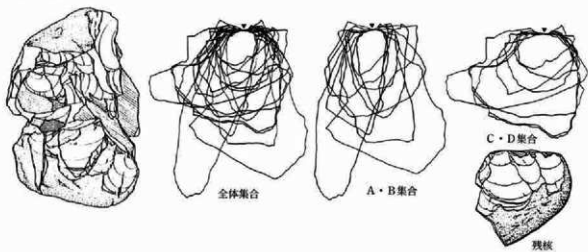
例2
(接合資料58)



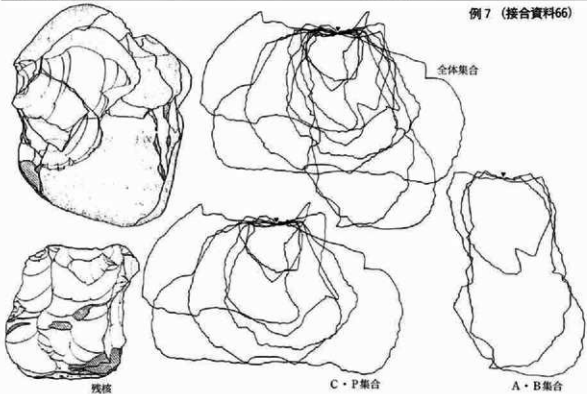
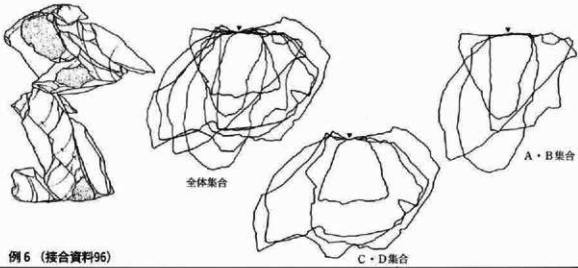
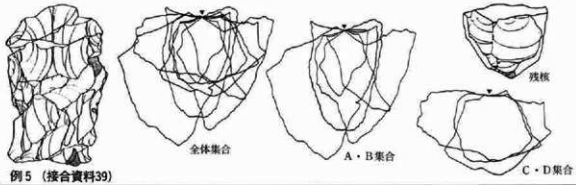
例3 (接合資料62)



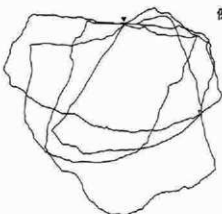
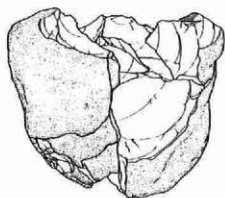
例4 (接合資料1)



第355図 接合資料にみる剥片形状集合図(1)



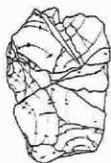
第356図 接合資料にみる剥片形状集合図(2)



例8 (接合資料12)



例9 (接合資料79)



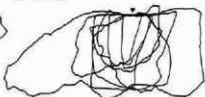
例10 (接合資料88)



全体集合



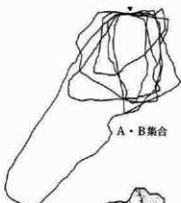
C・D集合



剥片剥離変化前の集合



剥片剥離変化後の集合



A・B集合



残核

例11 (接合資料87)

第357図 接合資料にみる剥片形状集合図(3)

のが剥離されている。

例 4 (接合資料1)

原礫から打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行ったもので、剥離作業の途中の段階において同一な打面からの剥離が数回行われることなどにより、そのつど石核の形状が変化している状況が窺える。石核形状の大きな変化の流れとすれば、両刃状の石核（E類）から片刃状の石核（F類）へ、さらに90度打面転移を繰り返して、最終的には縦長剥片を作出させる石核A類という経過を示している。そうした変化に対応するような形が、それぞれの剥片形状にも現れている。縦長系のA・B類に分別されるものは、比較的後半の90度打面転移や石核A類に付随し、C・D類の横長系のものは前半の剥片剥離初期ないし両・片刃状の石核の段階に作出されたものと理解される。

例 5 (接合資料39)

やはり打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行うものであるが、打面を転移する間に、比較的まとまった単位での同一打面からの剥離が行われているものである。作出された剥片形状は、縦長系のA・B類に分別されるものが多く、C・D類の横長系のものも存在する。接合資料体の形状（この段階での石核形状）は、断面形が三角形を呈した長方体を呈しているが、剥離作業が進行した残核形状は角錐形に近い形状をとどめており、石核A類に分別される。

例 6 (接合資料96)

分割礫を素材に打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行ったもので、比較的大型な剥片が作出されている。作出された剥片形状は、縦長系となるA・B類と、C・D類の横長系のもものが存在するが、打面転移を繰り返す作業途中で作出されたものと考えられる。これに伴う石核については不明であるが、この一連の剥片剥離によって採取された縦長剥片を素材としたナイフ形石器などの存在を考えると、打面転移を繰り返すある段階に、ある程度の縦長剥片が連続して剥離されたことを予測させる。

例 7 (接合資料66)

原礫から打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行ったもので、例4の接合資料1と同様に、剥離作業の途中の段階において同一な打面からの剥離が数回行われることなどにより、そのつど石核の形状が変化している状況が窺えるものである。石核形状の大きな変化の流れとすれば、両刃状の石核（E類）から片刃状の石核（F類）となり、最終的には大形の縦長剥片を作出させるという経過を示し、例4の場合とはやや違いをみせている。そうした変化に対応するような形が、それぞれの剥片形状にも現れている。縦長系のA・B類に分別されるものは、最終段階での片刃状の石核から剥離された大形の剥片であるのに対し、C・D類の横長系のもは剥片剥離初期から最終段階前までの両・片刃状の石核の段階に作出されたものである。量的には、横長系の剥片が多い。

例 8 (接合資料12)

原礫へ一方から上下へ交互に剥片剥離を繰り返しているもので、その結果としての石核形状は両刃状（E類）を呈する。また、作出された剥片形状は、剥片D類に分別される大形で不定形横長剥片が主体を成している。

例 9 (接合資料79)

原礫へ90度の打面転移を繰り返しながら剥片剥離を進行させるが、その剥離面が二方向に限定されているものである。作出された剥片の形状は、不定形横長剥片で、剥片D類に分別されるものである。また、これに伴う石核形状は、接合された状態から残核時まで両刃状の石核E類を保っている。

例 10 (接合資料88)

分割線ないしは大形の剥片を素材とし、主要剥離面側への剥片剥離と、主要剥離面を打面とした球的な周縁への剥片剥離を繰り返しているものである。作出された剥片の形状は、不定形な横長剥片（剥片D類）と、A類の縦長剥片とがある。不定形な横長剥片は、主要剥離面側への剥片剥離で作出され、縦長剥片は周縁へ剥離により剥離されたものである。また、これに伴う石核の形状は、亀甲状を呈する石核B類に分別される。

例 11 (接合資料87)

大きく分割した礫を素材に剥片剥離を行うもので、素材の端部から打面を一定とし徐々に後退するように連続的に剥離が繰り返され、その後大きく打面を転移させることにより剥離方向を変え、球心状に素材の周縁への剥離を連続的に施すものである。作出された剥片には、剥片A類ないしはB類の縦長系となるものと、横長系となるC類あるいはD類に分別できるものとの両者があり、量的にもどちらかへの偏りをみせていない。このことは、剥片剥離のあり方に起因するようで、先にも述べたように剥片剥離作業の途中において、大きく打面を転移させることにより剥片剥離のあり方を変化させていることで、作出される剥片の形状が異なるものと考えられる。つまり、剥離作業の前半では、片刃状（石核F類）ないしは盤状（石核D類）の石核から打面を一定に剥離を繰り返して剥片C類を主体とした横長系の剥片を、これに対し後半では主に打面転移と球心的な剥片剥離により縦長系の剥片を作出させ、石核形状もサイコロ状となる石核D類へと大きく変化していったものである。なお、後半の剥離作業中に大き目に剥離した（分割の可能性あり）剥片を素材に、一定方向への新たな剥片剥離が行われている。

以上、接合資料にみる剥片形状の類型と、それに係わる石核について、いくつかの例を上げて具体的な面にもふれてみた。

その結果、剥片A類とした縦長剥片を主体に作出させるものには石核A類が、例1や例2などから理解される。剥片A類ないしB類の縦長系の剥片を主体的に作出させるものにもやはり石核A類が多用されていることが、例3や例5に代表されよう。剥片D類とした不定形な横長剥片を主体に作出させるものには両刃状となる石核E類に顕著で、例8や例9に如実に現されていると言えよう。剥片C類とした方形の横長剥片を作出させるものには、接合資料68や例11の剥片剥離前半で行われていた剥片剥離がその代表的なもので、片刃状（石核F類）ないしは盤状（石核D類）を呈する素材石核から、打面を一定にし、徐々に打点を後退していくように剥片剥離を繰り返していたものと理解される。

また、この他にも多くの接合例から、石核A類と剥片A・B類との強い関係、石核B類と剥片BないしA類およびD類が、石核C類も剥片B類およびD類が、そして石核D類には剥片D類ないしはC類が、石核E類は剥片D類が強く関係し、石核F類には剥片C類およびD類が、一連の剥片剥離工程において関係しあひながら存在していることを知る事ができる。

このように、石核形状に特定された剥片剥離による剥片、あるいは目的とする剥片を作出するが為の剥片剥離によって残される石核との関係を知ることができた。次には、こうした剥片剥離のあり方の実態について考えてみる。

② 剥片剥離技術の実態

これまで特定の石核形状と、一連の剥片剥離技術と関係づけられる剥片について述べてきた。特定の石核形状は、いくつかの種類に分類される剥片の生産に係わっているものと考えられるが、その主目的となるべき類型

の剥片が存在していることが理解できた。しかし、そうした剥片と石核のあり様は、原材料からの一連の剥片剥離作業が単一的な剥片剥離技術でまかなわれているものだけではなく、いくつかの剥片剥離技術が複合された作業が行われていたことを多くの接合資料から理解することができよう。

例4や例11では、残された石核形状のみでは接合する剥片の類別に大きな差がみられ、その関係は単純には理解されるものではない。これらの例は、剥片剥離工程の作業途中で石核形状が大きく変化し、そこで剥離される剥片の類別も変化をきたしている。つまり一つの剥片剥離工程において、複数の剥片剥離技術を駆使して作業が行われていると言える。

一方、石核の原材料として盤状剥片を用いている場合が多い。それを用いた剥片剥離工程には、盤状の石核D類から直接的に剥片剥離を行ったもの(剥片C・D類を作出)、例1にみられるような石核Aから剥片A類を剥離させるもの、接合資料19のように剥片B・D類を剥離しつつ石核B類が残されるものもある。こうした状況からは、盤状剥片を素材とした複数の剥片剥離技術の存在も指摘できる。

こうした石核相互の関係は、剥片剥離の進行によって、あるいは打面転移の頻度やその角度の変化によって、当初の石核形状が他の石核形状に変化していく様相をみせている。このことは、個々の剥片剥離技術が独立して存在するのではなく、剥片剥離作業時の意識の中で多様な変化を可能としていたことを示しているであろう。

本遺跡の中でみられた剥片剥離技術は、いくつかの単位を持ちつつも、特に剥片C・D類に関する技術においては、それぞれが関連性を持ちながら存在することが特徴として上げられる。特に、剥片C類に関する剥片剥離は、本遺跡にみられる特徴的なものではなく、勝保沢中ノ山遺跡等にもみることができ、この時期の遺跡に普遍的にみられる剥片剥離標相の一つとも考えられ、今後の注意が必要となろう。

なお、当該記には組織的な縦長剥片剥離技術(石刃技法)の存在が知られている。それらには、打面作出・石核稜の形成・打面の再生等の工程がみられる。本遺跡の資料では、ナイフ形石器の素材や縦長剥片の一部に、そのような技術の存在が予想されるが、本遺跡中での接合資料にはそうした技術を物語るものは確認されなかった。

(谷藤)

3 石器群の位置付け

第II文化層の石器群は、その主要な石器がナイフ形石器であり、始良Tn火山灰降下以前の暗色帯上部(XVII層)に当たる出土層準であることから、日本の後期旧石器時代前半のナイフ形石器文化期に属することは明かであろう。当該期の研究は、概に南関東地方を中心にその研究が進展し、一定の成果を上げている(石器文化研究会 1991等)。また、南関東地方では、相模野台地・武蔵野台地・大宮台地・下総台地の各台地に共通した良好なローム層が発達し、その石器群の内容と出土層準から、いくつかの段階に分類できることが知られ、武蔵野台地の層位名を用いて呼ばれることが多い。北関東地方では、始良Tn火山灰降下以前の暗色帯が当該期石器群の出土層準であるが、その層厚が南関東に比べて薄く、出土層位の知見から石器群の前後関係を明かすることは難しい。そこで、石器群の内容によってその編年の位置づけを行いたい。そのため、ナイフ形石器、石器組成、剥片剥離技術について検討することとする。

(1) ナイフ形石器の形態

本文化層出土のナイフ形石器は、いくつかの形態を示している(第359図)。先端の尖る形態には、1~3がある。1は二側縁に調整加工が施されたものであり、2は一側縁に表面から裏面に集中した調整加工がみ

られ、また他の側縁の基部にも調整加工が施されたもの、3は基部を中心に調整加工されたナイフ形石器で、3つの別々の形態に細分できるものである。そのほか、本文化層の特徴的なナイフ形石器に、先端の尖らないもの(4・5)がある。これらは、やや分厚い剥片を用い、側縁に急角度で弧状に調整加工が施された中高のものである。

さて、当該期のナイフ形石器を南関東を中心に考えたとき、いくつかの段階を設定できる。古くX・IX層段階には、縦長剥片を用いた基部加工のナイフ形石器や台形状や切り出し状を呈した「台形椽石器」(佐藤1988)がある。VII層段階では、縦長剥片を用いて基部あるいは側縁に調整加工を施したナイフ形石器が主体となり、「台形椽石器」はほとんどみられなくなる。VI層段階は、黒曜石の小形縦長剥片を用いた側縁加工のナイフ形石器を主体とする時期というように区分することが可能である。

このようなナイフ形石器の形態と組合せから検討すると、本文化層には側縁加工のナイフ形石器が含まれ、「台形椽石器」が含まれないこと、黒曜石を用いたものはなく、全体に大型であることから、X・IX層段階、VI層段階よりはVII層段階に比定できるものと捉えることが可能かも知れない。

(2) 石器の器種組成

石器組成の全体としては、ナイフ形石器のほか、掻・削器28点、鏃形石器1点、楔形石器2点、抉入石器1点、斧形石器1点、鏃器3点、敲石25点、台石1点、加工痕を有する剥片61点、使用痕を有する剥片20点がある。石器群全体の中では、利器としての石器の比率が低いが、器種は比較的豊富であると言える。

個々の石器については、ナイフ形石器以外でも段階的な特徴を有する石器がみられる。斧形石器は、X・IX層の石器群に相伴するもので、VII層段階と考えられる後田遺跡の一例を除いては、VII・VI層段階の石器群には伴う例は見あたらない。本文化層から出土した斧形石器は、小形で撥形を呈したやや特殊なものであるが、X・IX層の石器群に相伴する斧形石器の一種として考えられる。掻・削器は、日本の後期旧石器時代を通じて、ごく一般的な石器器種であるが、本文化層にみられるものの中には、やや粗く急角度に調整加工を施して、極端的な刃部を作出したものがある。これらのうちには、素材となる剥片の裏面方向へ加工を施したものがある(12)。こうした特徴を持った石器は、東京都国際基督教大学構内遺跡第15地点、同高井戸東遺跡、群馬県諏訪西遺跡等のIX層段階相当の石器群に類例のあることが知られ、いわゆる「へら状石器」と呼ばれるものの一部に類似している。鏃器については、給良Tn火山灰以前の石器群の各段階にみられるが、特にX層段階が多く、次いでIX層段階に多くみられる石器である。

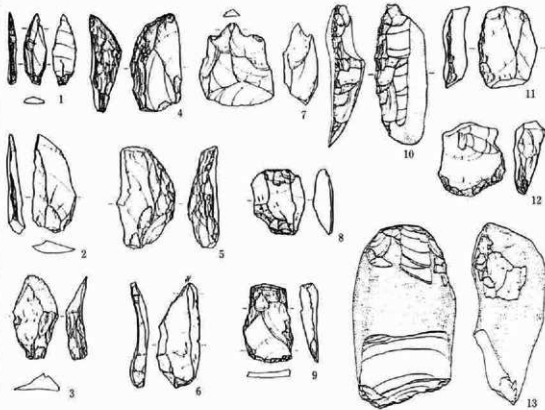
斧形石器や鏃器などの個々の石器の特徴からも、当該期の石器群のうち比較的古い段階に対比して考えられる。そして、石器組成全体からも、多くの石器器種を有するという石器群の特徴は、当該期でもX・IX層の古い時期に対応するものかも知れない。

(3) 剥片剥離技術

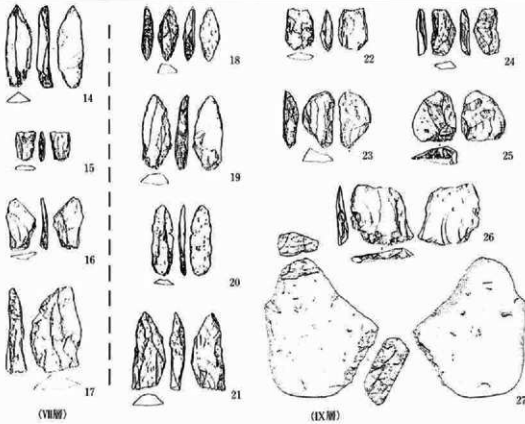
本文化層では、縦長剥片、縦長・幅広剥片を剥離するものと、横長剥片、横長・幅広(不定形)剥片を剥離する剥片剥離技術が存在することが明らかとなっている。こうした剥片剥離のあり方は、いわゆる「二極構造」(佐藤1988)と通じる部分があるかも知れない。しかし、これらの剥片剥離技術を用いて製作されたナイフ形石器は少なく、「台形椽石器」も本石器群に含まれず、それに対応して考えることはやや問題があろう。

個々の剥片剥離技術のうち縦長剥片剥離技術には、縦長剥片(A類)と縦長・幅広剥片(B類)の二つの形状を示す剥片が剥離されていた。これらの剥離方法には、長楕円形の礫をその長軸に直行するように大き

房
谷
戸
遺
跡



鈴
木
遺
跡



第358図 第II文化層の主な石器とその関連資料

く剥離して打面を作出し、その打面の周縁を回るように剥離作業を行うものと、大形の剥片を分割し、その分割面を打面に小口にあたる部分から剥片剥離作業を行うものがある。これら双方の剥片剥離作業は、打面調整はあまり行われておらず、石核稜の形成も行われていない。こうした剥片剥離技術によって残される石核は、A類およびC類の一部がそれにあたるようである。

横長剥片剥離技術には、比較的多くの剥片剥離技術が指摘できた。打面と作業面を入れ換えて剥片剥離作業を進行させ、石核がチョッピング・トウル状(両刃状)になるもの(E類)、広い一定の打面から作業面を後退させるように剥離作業をおこなうもの(F類)、90度の打面転移を繰り返すように剥片剥離を行い、石核がサイコロ状になるもの(C類)、厚手の大形剥片を用い横長剥片を剥離するもので、石核は「盤状剥片石核」(砂田1986)となるもの、作業面に対し打面がその周囲を回るように剥片剥離が行われるもので、石核は亀甲状になるもの(B類)等がそれである。

縦長剥片剥離技術は、石核調整や打面転移の方法など明確な石刃技法に比べ、やや簡略化された技術といえるが、こうした技術が時間的な指標とはならないであろう。横長剥片剥離技術は、比較的充実したものであると言え、こうした横長剥片剥離技術は、船良Tn火山灰以前では高井戸東遺跡などの例を引くまでもなく、X・IX層段階の古い段階に多くみられるものである。

これまで、ナイフ形石器の形態、石器の器種組成、剥片剥離技術について検討してきた。ナイフ形石器の形態では、VII層段階に相当するのではないかと考えたが、器種組成、剥片剥離技術等は、より古い段階に相当するのではないかと想定した。こうした石器群に対する3つの見方は、決して別々のものとしてあるのではなく、剥片剥離技術によって製作された剥片が石器の素材として用いられ、石器組成を成立させている。石器群の構造という点でも、全体的にやや古い時期に属するものと考えられる。ナイフ形石器の形態では、二側縁調整のナイフ形石器が含まれる点と、「台形様石器」を含まないということからVII層段階と想定した。このうち、「台形様石器」が含まれないということは、組成の偏りとして捉えることも可能であろう。そして、本文文化層には、それらにもまして特殊なナイフ形石器が含まれており、これらについても十分な検討がなされなければならないであろう。

では、ナイフ形石器について、より踏み込んだ検討を行うこととしたい。

以前に、ナイフ形石器をその素材の剥片剥離技術、調整加工技術、形状的な特徴によるまとまりを、タイプとして捉えたことがあった(小菅1991)。しかし、本文文化層のナイフ形石器は当概期にあって特殊であり、必ずしもそれらのタイプに含まれるものではない。そこで、本文文化層のナイフ形石器に類似したナイフ形石器を含む東京都鈴木遺跡(都道2・1・3号線用地内)の資料(鈴木遺跡調査団1980)を介らせて考察していきたい(第359図)。

鈴木遺跡のIX層の資料は、ナイフ形石器のほか、スクレイパー、礫器、敲石等を含んでいる。特にスクレイパーには、横長剥片に急峻な調整加工を施して、撻柄的な刃部を有するもの(25・26)が特徴的である。石核には、縦長剥片を剥離したの、サイコロ状を呈するもの、盤状剥片を素材としたもの等があり、豊富な剥片剥離技術の存在が想定できる。出土層位のみではなく、石器組成、剥片剥離技術の上からもIX層段階の一例と言える資料であろう。このIX層石器群には、二側縁調整のナイフ形石器(18)が含まれている。こうしたナイフ形石器がIX層段階でも少数であるが、高井戸東遺跡、千葉県中山新田I遺跡等で組成することが知られている。これらのナイフ形石器の特徴は、全体に丸みのある御葉形を呈しており、側刃縁の調整加工が身の中央付近まで施されるという特徴がある。VII層の東林跡タイプは、基部が挿入状になるなど全体に角のある三角形状を呈し、調整加工には対向調整が特徴的に用いられる。上記したVI層段階の二側縁調整の

ナイフ形石器には、対向調整の施された例はなく、形状・調整加工のあり方などからも、VII層段階の東林跡タイプと区別できる可能性があるだろう。

この石器群には、そのほかに一側縁に連続した調整加工が施され、側縁の基部にも調整加工を施した中山新田bタイプ(19)、基部調整の中山新田aタイプ(20)、武井タイプとした「台形様石器」(22)等が含まれている。これらのナイフ形石器のあり方は、IX層段階の典型的な一例として捉えることができる。また、21は裏面側に平坦な調整加工を施したナイフ形石器であるが、縦長剥片を用い、一側縁に連続した調整加工が施されるなど、中山新田bタイプに類するものと考えることが可能であろう。23は先端を持たず、湖上に調整加工を施した切截を機能とするようなナイフ形石器である。VII層には、縦長剥片を用い先端と基部に調整加工を有するナイフ形石器(14)、「台形様石器」と捉えられるもの(15・16)、厚みのある縦長剥片を用い、先端が尖らず弧状に調整加工がなされたナイフ形石器(17)などが指摘される。

ところで、このVII層の石器群は、ナイフ形石器に「台形様石器」が含まれ、石核にもサイコロ状のものや、亀甲状のものが含まれている。また、その石器分布は、IX層の石器群と重複しており、一部では一つのブロックを層位で分離している状況もある。無論石器群についての詳細な検討を行っていないので明言はできないが、VII層の石器群とされたもの一部は、本来IX層の石器群に含めて考えるべきものかも知れない。

本遺跡における第II文化層のナイフ形石器を再検討すると、二側縁調整のナイフ形石器(1)は、VII層の東林跡タイプよりは鈴木遺跡の例(18)などのIX層段階のものに近いと考えられる。裏面に連続した調整加工のあるナイフ形石器(2)は、鈴木遺跡のナイフ形石器(21)に類似し、中山新田bタイプと類似関係が認められそうであると共に、県内でも善上遺跡に類例があり、今後そうした資料との対比が問題となろう。厚手の素材を用い、弧状に調整加工の施した先端の尖らないナイフ形石器(4・5)は、鈴木遺跡のVII層(17)、IX層(23)の例に類似している。こうしたナイフ形石器は、概に当該期の地域的特徴をもったナイフ形石器として指摘されているが(岩崎1990)、切截を機能とする特殊なナイフ形石器として、本文下層の一特色と捉えることができるであろう。本文文化層に含まれるこれらの特殊なナイフ形石器は、鈴木遺跡のIX層の石器群のナイフ形石器に類似例をみいだすことができるものとする。ナイフ形石器の検討は、形態的な特徴にとどまることなく、そのナイフ形石器の素材、調整加工、形状を基礎としたナイフ形石器の型式的な検討が必要であろう。

以上、鈴木遺跡の例を介在させ、ナイフ形石器について再度検討した。当該期の後半では、VII・VI層段階に縦長剥片剥離技術が発達し、それを素材とした打越・東林跡タイプ、寺尾a・bタイプ等が発達する。ナイフ形石器以外の石器では、斧形石器や鏃器を含まなくなるなど、単純な組成を示すようになる。本文文化層は、ナイフ形石器に加え石器組成・剥片剥離技術の特徴を踏まえれば、IX層段階の石器群として位置づけることが可能であろう。当該期の研究では、IX層段階の時期細分や変遷を語るにはまだ問題があろうし、本文文化層の石器群がIX層段階のどの様な位置をしめるかも、今後の課題としておきたい。それでも、本文文化層の特殊なナイフ形石器のあり方は、比較的単純なVII・VI層段階と違った、IX層段階の多様性を示す一石器群として捉えられるものと考えられる。

(小菅)

第3章 第II文化層

参考文献

- 砂川先土器時代遺跡 1974 砂川遺跡調査団
小田静夫・重住 豊編 『高井戸東遺跡』 1977年 高井戸東遺跡調査会
高井戸東(駐車場西)遺跡 1977年 高井戸東(駐車場西)遺跡調査会
鈴木遺跡 I 1978年 鈴木遺跡刊行会
鈴木遺跡 II 1979年 鈴木遺跡刊行会
鈴木遺跡 III 1980年 鈴木遺跡刊行会
多摩園坂遺跡 1980年 国分寺市教育委員会
鈴木遺跡 IV 1981年 鈴木遺跡刊行会
和田遺跡 『笠懸村誌 別巻一 資料編』 1983年 笠懸村史編纂委員会
武蔵台遺跡 I 1984年 都立府中病院内遺跡調査会
見立・棚井遺跡 1985年 赤城村教育委員会
善上遺跡 1985年 月夜野町教育委員会
大竹遺跡 1985年 月夜野町教育委員会
分懸八崎遺跡 1986年 北埼玉教育委員会
諏訪西遺跡 1986年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
下懸・牛伏遺跡 1986年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
中山新田 I 遺跡 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書』 1986年 千葉県文化財センター
後田遺跡 (旧石部) 1987年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
『群馬県史 資料編 1』 原始古代 I 1988年 群馬県史編さん委員会
古城遺跡 1988年 群馬県安中市教育委員会
明治大学和泉校地遺跡 1988年 明治大学和泉校地遺跡発掘調査団
勝保沢中ノ山遺跡 II 1989年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
堀下八幡遺跡 1990年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
飯土井中央遺跡 1991年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
杉原荘介 『群馬県岩群遺跡発見の石器文化』 『明治大学文学部研究報告』 考古学 第1冊 1956年 明治大学
戸沢光剛 『埼玉県砂川遺跡の石器文化』 『考古学集刊』 4-1 1968年
近藤義郎 『先土器時代の集約構成』 『考古学研究』 22-4 1976年
杉原荘介 『群馬県竹井における二つの石器文化』 『明治大学文学部研究報告』 考古学 第7冊 1977年 明治大学
稲田孝司 『旧石器時代の小集団について』 『考古学研究』 24-2 1978年
戸田正勝 『南関東における石刃技法の起源』 『考古学ジャーナル』 №167 1979年
岡村道雄 『旧石器時代の基礎的理解について』 『考古学ジャーナル』 №169 1979年
服部実吾 『先土器時代石器群出現期における石器製作技術の一樣相』 『人間・遺跡・遺物』 1983年
砂田佳弘 『石斧について』 『神奈川考古』 第15号 1983年
白石浩之 『考古学と火山灰層序』 『第四紀研究』 第22巻3号 1983年
谷藤保彦・麻生敏雄・岩崎泰一 『最近の先土器時代遺跡の調査から』 『埋文月報』 8月号 1983年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
中東結志・飯島静男 『群馬県における旧石器・縄文時代の石器石材』 『群馬県立歴史博物館年報』 第5号 1983年 群馬県立歴史博物館
麻生敏雄 『群馬県におけるナイフ形石器の覚書』 『研究紀要』 第1号 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984年
先土器時代 『図説考古学ライブラリー 1』 1984年 千葉県文化財センター
麻生 優・織笠 昭・大塚俊雄 『千葉県鎌倉谷市東林跡遺跡の調査』 『日本考古学協会第50回発表要旨』 1984年
『遺跡は語る—最近の発掘調査の成果』 1984年 群馬県立歴史博物館
砂田佳弘 『盤状削片石核の系譜』 『神奈川考古』 第22号 1986年
岩浪亨一・藤波啓容 『武蔵野におけるVI-IX期の石器群の一考察』 『東京考古』 4 1986年
須藤隆司 『群馬県藤原遺跡の石器文化』 『明治大学考古学博物館報』 №2 1986年
麻生敏雄 『群馬県における黒色帯(A T下位)の石器群についての現状報告』 『日本海地域における旧石器時代の東西交流』 北埼玉
石器文化研究会・近畿旧石器文化研究会 1986年
白石典之 『分懸八崎遺跡の石刃群をめぐって、二、三の問題』 『群馬県史研究』 第26号 1987年 群馬県史編さん委員会
岩浪亨一 『A T降灰期前後の石器群—群馬県内石器群の分析—』 『群馬の考古学』 1988年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
橋本勝雄 『A T降灰以前における特殊な遺物分布の標相』 『考古学ジャーナル』 №309 1989年
『岩群遺跡40年—赤土にひそむ文化—』 1989年 群馬県立歴史博物館
田村 隆 『二項的モードの推移と巡回』 『先史考古学研究』 2 1989年
佐藤宏之 『後期旧石器時代前半期の研究』 『考古学ジャーナル』 №309 1989年
佐藤宏之 『後期旧石器時代前半期石器群構造の発生と成立』 『法政考古学』 第15集 1990年
『石器文化研究』 2 1990 石器文化研究会
『石器文化研究』 3 1991 石器文化研究会
『先史考古学論集』 第1集 1991年

第4章 第Ⅲ文化層

第1節 第III文化層の概要

本遺跡における第III文化層としたものは、基本土層の第XXII層から第XXIII層の間より出土した石器を当てている。

この第III文化層については、旧石器時代の調査と平行して進められていた調査範囲西側での中世館跡調査の際に、堀の底（底面はHr-HP層まで達している）近くから石器が出土したこと、さらには土層確認時の所見からHr-HP層までの土層の堆積状況がかなり安定していること等から、第II文化層の調査終了後、各地点においてHr-HP層（第XXIV層）の上位層にあたる第XXIII層までの試掘調査を行った。

その結果、第II文化層の石器群を出土させた調査対象地の南側（A地点）から、本遺跡が位置する赤城山西麓部にはみられない石材のものの出土が確認された。このことをうけて、出土地点周辺への調査区の拡張を行うと共に、調査対象地西側のD地点とした場所へも調査を展開していった。こうした展開のもと、第XXII層から第XXIII層中から多くの石が検出されたが、ローム層中に含まれる火山噴出物に混じり、片岩製のものが数点出土した。

これら片岩製のもの出土した層位は、基本土層第XX層（Hr-HA 約3万年前）と、第XXIV層（Hr-HP 約4万年前）とのちょうど中間にあることから、これらの遺物の年代は3万5千年前（推定）のものであると言えよう。

なお、両地点から出土した片岩製のもののうち、A地点からの2点は同一個体のもので接合することも確認され、3万年以前における、この地域での人間の存在が確認できる良好な資料といえる。

第2節 石器の分布と出土石器

1 石器の分布（第359, 360図）

本文化層出土の石器の分布については、先の概要の中でもふれたように、調査区の南側（A地点）において検出されたものと、調査区の西側（D地点）において検出されたものとの、大きく離れた2箇所から出土したことが確認されているのである。

A地点から出土したものは、51B20グリットからの2点（第361図 1, 2）の雲母片岩製のものである。この2点は、同一のグリット内において、約1.2m程の距離を持って出土しており、その出土層位は基本土層の第XXIII層上面から検出されたものである。

D地点から出土したものは、65B45グリットからの1点（第361図 3）である。やはり片岩製のもので、基本土層の第XXIII層上面近くから検出された。

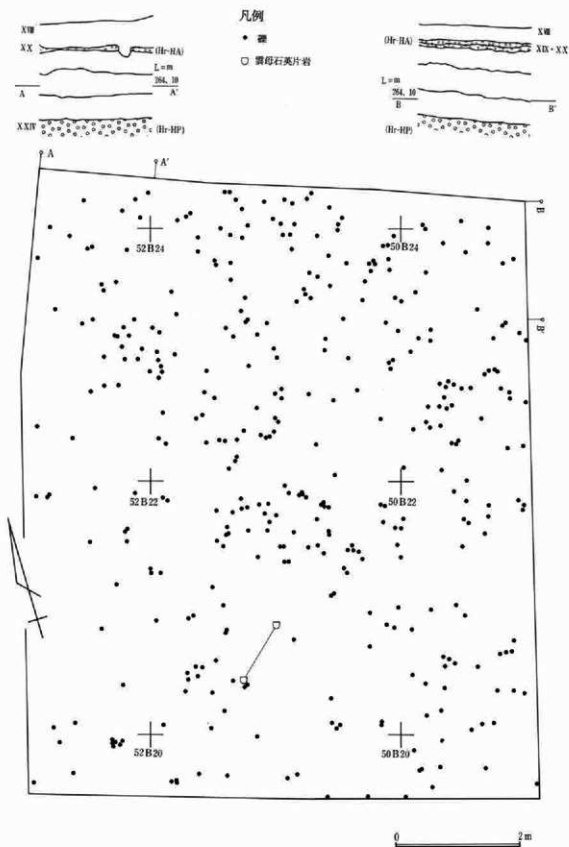
以上の3点以外のものについては、火山活動に伴う火山性噴出物による石であり、本文化層の遺物としては認められなかった。また、検出された2地点の距離は、直線距離にして約55m程の間をもっており、検出された石器は少ないが、ある程度の広がりをもっていることは否定できない事実である。さらには、この地域に産出しなない他の地域の石材であるということは、そこに何等かの人間行動があったものと考えることが妥当であろう。

（谷藤）

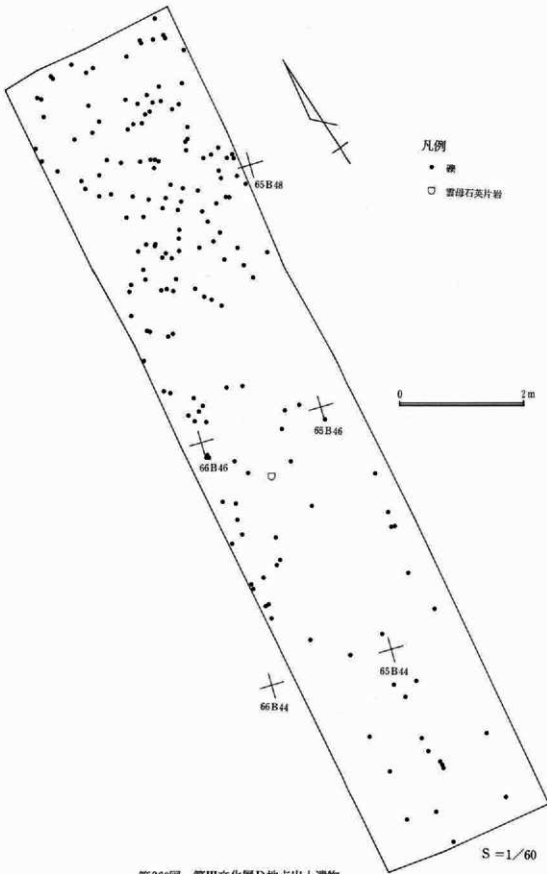
2 出土石器（第361図）

本文化層より出土した石器は、先にも述べてきたようにいずれも片岩系の石材であり、一定方向の劈開性

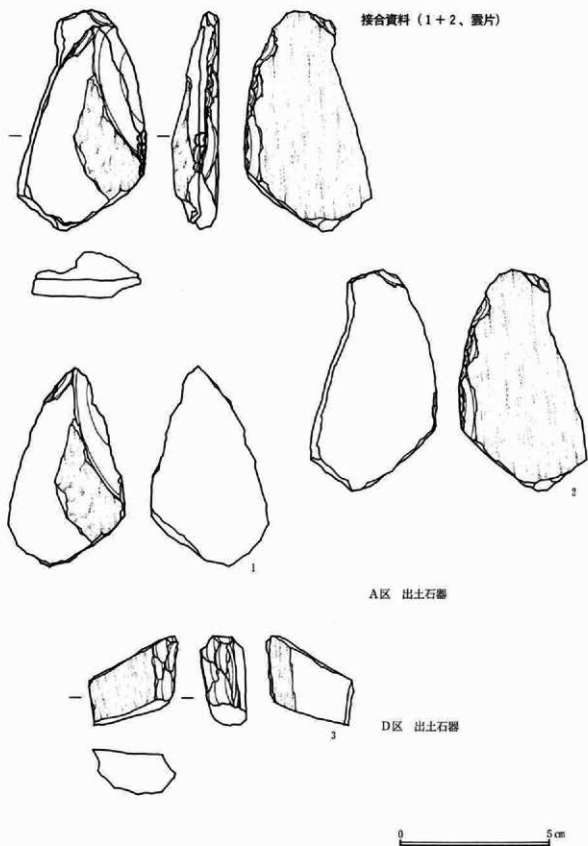
第4章 第III文化層



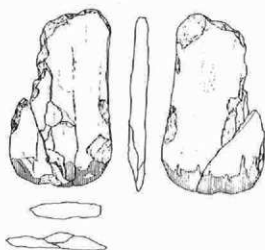
第359圖 第III文化層A地点出土遺物 S=1/60



第360図 第III文化層D地点出土遺物



第361圖 第Ⅲ文化層出土石器



第362図 下蝕牛伏遺跡第II文化層出土の
片岩製局部磨製石斧

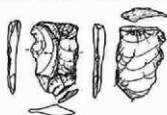
部、左半分、下半部は欠損しているものと考えられ、その全体形状は不明であるが、偏平な素材の周辺に調整加工を施した中形から大形の石器であると考えられる。

1および2は当接合資料を構成するものであるが、接合資料の右側縁の剥離面や調整加工面が両資料に共有されていることや、接合面が本石材特有の劈開面であり、剥離作業による分離よりは、剥落するように欠損したものと考えられる。1には、左上端に剥離痕が観察されるが、これは接合資料からの剥離時に弾けによるものと考えられる。当資料は、薄身でそれ自体が単体で使用されたものとするよりは、2と接合することによって一定の意味を有していたものと考えられる。

3は、石器の側縁部の一部と考えられる資料で、素材はやはり劈開によって剥離された緑色片岩の剥片を素材としているものと考えられる。表裏面の剥離面も劈開によるもので、剥離方向は不明である。側縁部には、表裏面に向かって、急角度で粗い調整加工が観察される。本資料の全体形状は不明であるが、素材や調整加工のあり方から、上記の接合資料に類似した資料であると考えられる。なお、当資料の上部と下部の欠損面は、石材に観察される節理による欠損面である。



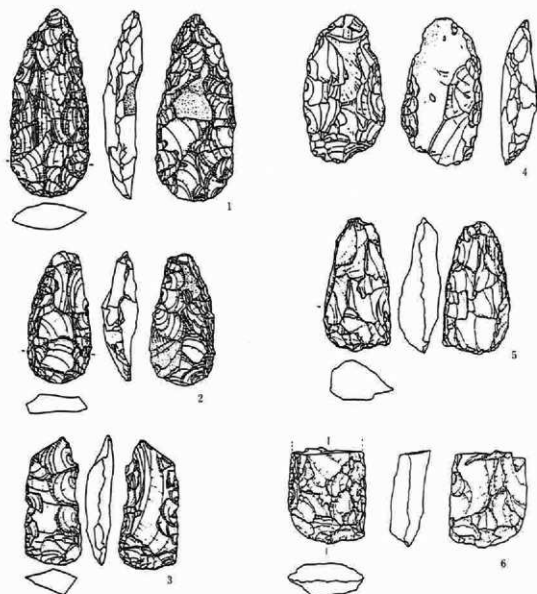
八崎軽石層(Hr-HP)直上出土



八崎軽石層(Hr-HP)直下出土

363図 勢多郡新里村入ノ沢遺跡出土石器
(岡矢 1988「考古学雑誌」より)





1～3 福島県大平遺跡 4 宮城県産散乱木遺跡(12層上面採集) 5 宮城県栗原山No.5遺跡(栗原Ⅶ層上面採集)
6 宮城県北前遺跡(15層上面)

第364図 各地にみる3万～5万年に位置づけられる斧形石器(参考資料)

上記のように第Ⅲ文化層では、接合資料を含め2点の石器が出土したが、双方とも欠損資料で断片的なものである。しかし、石器の側縁には、双方に調整加工が確認され、明らかに何らかの石器の一部と考えることが可能であろう。これらの石器には、雲母片岩や緑色片岩が用いられている。当該期には、片岩系の石材を用いた石器は知られていないが、緑色片岩を用いた石器として群馬県下触牛伏遺跡第Ⅱ文化層から局部磨製石斧が出土している(第362図)。素材は、やはり劈開によると考えられる盤状の素材を用いている。刃部の研磨という加工を別とすれば、素材の周縁にのみ調整加工が施されている。この他にも、下触牛伏遺跡と同様の時期には、数遺跡で片岩製の斧形石器が知られている。これらの石器に観察される石材により規制された盤状の素材と調整加工のあり方は、本石器群の2点の資料と共通点を有していると考えられる。このような石材、調整加工の類似性、およびその大きさ等から考えると、本文化層の石器は、周縁加工を施したやや大形の石器、例えば斧形石器という器種に分類される可能性があると考えられる。

一方、群馬県における当該期の石器群として本遺跡発掘調査後、八崎軽石層(Hr-HP)の直上および直下から安山岩や流紋岩の石核、加工痕を有する剥片等が出土した新里村入ノ沢遺跡がある(第364図、関矢1988)。しかし、本石器群と石器器種や石材の上でも、共通性を見いだすことができない。

そこで、本文化層との対比を行う意味で、当該期の斧形石器についてふれてみたい(第364図)。

当該期の研究上では、大形両面調整石器として捉えられることが多いが、最近の調査成果によるところの福島県大平遺跡から両面調整の定形した斧形石器が出土している(1~3)。また、それに類する資料は、宮城県座散乱木遺跡の断面表採資料(4)、同県葉山Na5遺跡(5)、同県北前遺跡(6)などがある。これらの石器を形態的に分類すると、撥形(1・2・4・5)と短冊形(3・6)の二者がある。撥形の石器には、上端部が尖るもの(1)、弧状のもの(4)、直線的なもの(2・5)があるなど、やや多様な状況を示している。年代的には、大平一座散乱木→葉山と考えているが、資料は少数であり、その変遷を語ることは難しいであろう。それでもこれらの石器が、それ以前の馬場塚A遺跡などの同様な石器からすれば、幅に対して長さが大きく、調整加工も齊一化し、石器形態が定形化している状況が理解できるであろう。

本遺跡の石器が、これらに類する石器の一部である可能性は高いと考えられ、定形化しつつある当該期の斧形石器に関連するものかも知れない。それでも、当該期の関連資料が数少なく、また石材でも3万年を遡る石器群では、片岩系の資料が知られていないなど、今後の資料の増加に期待したい。本資料の実年代は、その出土層位から約5万5千年前と考えられるが、それ以前の斧形石器の関連もさることながら、後期旧石器時代初期の斧形石器とどの様な関係にあるものかも知、他の石器の変遷と絡めて今後の問題点となるであろう。

(小菅・諸星)

参考文献

- 岡村道雄 「日本前期旧石器時代の起源と終末」 『考古学研究』 23-3 1976年 考古学研究会
 『座散乱木遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 石器文化談話会誌第1集 1978年
 『座散乱木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 石器文化談話会誌第2集 1981年
 『座散乱木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 石器文化談話会誌第3集 1983年
 『遺跡を語る一最近の発掘調査の成果一』 1984年 群馬県立歴史博物館
 『江合川流域の旧石器』 東北歴史資料館資料集14 1985年
 下船牛伏遺跡 1986年 群馬県埋蔵文化財調査事業課
 『馬場塚A遺跡Ⅰ』 東北歴史資料館資料集16 1986年
 鎌田徳昭 「宮城県における旧石器時代前・中期の諸問題」 『旧石器考古学』 34 1987年
 『群馬県史 資料編1』 原始古代1 1988年 群馬県史編さん委員会
 相沢忠洋・関矢晃 「赤城山麓の旧石器」 1988年
 『馬場塚A遺跡Ⅱ』 東北歴史資料館資料集23 1988年
 『馬場塚A遺跡Ⅲ』 東北歴史資料館資料集
 東京都埋蔵文化財センター調査研究部 「多摩ニュータウンNo471-B遺跡の調査概要」 『月刊文化財』 291 1987年
 関矢 晃 「群馬県勢多郡入ノ沢遺跡出土の前期旧石器」 『考古学雑誌』 第74巻第1号 1988年
 北陸旧石器文化研究会 「旧石器時代の石斧(斧形石器)をめぐって」 1989年 10
 東北日本の旧石器文化を語る会 第5回 1991年

第II文化層 石器計測値一覽表

第II文化層 石器計測値一覧表

1. 本遺物計測一覧表は、第II文化層から出土した全ての石器の計測値を掲載した。また、器種別における計測値も合わせて掲載した。

2. 遺物Noとは、遺物取り上げ時の番号で、遺物の注記Noである。

3. 出土位置は、出土ブロックを意味する。

4. 長さとは、cm単位で示し、接合し剥片となるものについては、接合状態での計測値を記載した。また()は、欠損を表す。重さは、小数点第3位を四捨五入し、g単位で示した。

5. 「器種」の欄の略号は、以下のことを意味する。

ナイフ：ナイフ形石器 鎌削：鎌削 楔形：楔形石器 抉入：抉入状石器 鎌器：鎌形石器

斧形：斧形石器 加削：加工痕を有する剥片 使削：使用痕を有する剥片

6. 「石材」の欄の略号は、以下の石材を意味する。

黒頁：黒色頁岩 珪頁：珪質頁岩 点頁：点紋頁岩 砂頁：砂岩質頁岩
赤頁：赤色頁岩 黒安：黒色安山岩 灰安：灰色安山岩 変安：変質安山岩
粗安：粗粒安山岩 黒石：黒曜石 チ：チャート 珪安：珪質変質岩
デイ：デイサイト ホル：ホルンフェルス 流紋：流紋岩 変玄：変質玄武岩
溶凝：溶結凝灰岩 雲片：雲母石英片岩 紋斑：紋象斑岩 閃緑：閃緑岩
輝緑：輝緑岩 橄欖：橄欖岩

遺物No	出土位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1	14	剥片	黒頁					1.75
2	14	剥片	黒頁		44			6.64
3	14	剥片	黒頁					16.63
4	14	剥片	黒頁		44			6.32
5	14	剥片	黒頁					3.24
6	14	剥片	黒頁					14.56
7	14	剥片	黒頁					12.18
8	14	剥片	黒頁					15.01
9	14	剥片	黒頁					15.86
10	14	剥片	黒頁					3.30
11	14	剥片	黒頁	14				14.89
12	15	砂片	黒安	51				1.30
13	15	剥片	黒安	51	104	1.8	4.3	5.72
14	15	剥片	黒頁					78.16
15	15	剥片	デイ	49		3.6	3.8	70.83
16	15	推削	デイ	49		5.9	4.7	63.15
17	15	砂片	黒安	52				0.31
18	15	剥片	黒安	51	104	2.6	2.8	8.34
19	15	剥片	黒安	51	107	4.2	3.7	7.26
20	15	剥片	黒安	51	104	1.5	2.2	1.08
21	15	剥片	黒安	51	106	(4.8)	(4.9)	13.56
22	15	剥片	黒頁					11.36
23	15	剥片	黒安	51	104	(3.8)	5.2	42.88
24	15	剥片	黒安	51	105	8.7	3.3	12.91
25	15	剥片	黒安	51				1.57
26	15	剥片	黒安	51	104	2.1	4.8	15.96
27	15	砂片	変安					3.88
28	15	剥片	黒安	51	106	3.8	2.8	7.92
29	15	加削	黒安	51	106	3.7	4.7	8.76
30	15	剥片	黒安	51	104	5.1	11.2	66.22
31	15	剥片	黒安	51	104	5.1	11.2	76.61
32	15	加削	黒安	51	104	7.3	4.0	35.43
33	15	剥片	黒安	51	101	5.1	7.8	50.22

遺物No	出土位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
34	15	剥片	黒安	51	101	1.2	2.6	1.26
35	15	剥片	黒安	51	104	3.8	4.7	14.09
36	15	石核	黒安	51	105	9.4	5.7	113.93
37	15	剥片	黒安	51	104	(3.5)	3.8	13.38
38	15	剥片	黒安	51	105	8.7	3.3	11.11
39	15	剥片	黒頁					4.63
40	19	剥片	黒頁	31		3.3	5.5	34.00
41	19	砂片	黒安	47				0.73
42	19	剥片	黒安	52				1.44
43	19	砂片	黒安	52				0.24
44	19	砂片	黒安	54				0.52
45	19	剥片	黒安	54	117	2.4	2.0	3.04
46	19	剥片	黒頁	35				8.48
47	19	剥片	黒頁	24	59	4.4	2.2	7.32
48	19	礫	粗安		132			402.50
49	19	剥片	黒安	47				3.61
50	19	剥片	黒安	47	118	3.0	3.3	6.56
51	19	剥片	黒頁	40	61	7.3	4.4	45.82
52	19	剥片	黒安	47				1.76
53	19	剥片	黒頁					8.98
54	19	剥片	黒安	47				1.36
55	19	砂片	黒安					0.12
56	19	砂片	黒安	52				1.50
57	19	剥片	黒頁	28		4.7	4.5	26.68
58	19	小礫	粗安					17.60
59	19	礫	粗安		132			179.50
60	19	剥片	黒安	49		7.0	5.7	77.30
61	19	礫	粗安		132			232.70
62	19	礫	粗安					2460.00
63	19	剥片	黒頁	24	59	1.9	5.4	13.01
64	19	石核	黒頁	24	59	8.0	5.4	168.00
65	19	剥片	珪頁	42	58	9.7	5.1	150.00
66	19	石核	黒頁	36	141	6.3	4.4	119.70

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
67	19	剥片	珉	真	42	58	11.7	6.9
68	19	剥片	珉	安	133			177.19
69	19	剥片	黒	安	52			59.19
70	19	剥片	黒	安	47			0.45
71	19	剥片	黒	安	47	119	3.0	2.47
72	19	剥片	黒	安	47			9.14
73	19	剥片	黒	安	47			2.52
74	19	剥片	黒	安	47	133	9.8	7.2
75	19	剥片	黒	安	54			600.50
76	19	剥片	黒	安	54			6.55
77	19	剥片	黒	安	54	117	2.9	2.8
78	19	剥片	黒	安	47	118	3.0	3.3
79	19	剥片	黒	安	54	117	2.0	3.4
80	19	剥片	黒	安	54	117	2.8	4.5
81	19	剥片	黒	安	47	119	2.2	1.7
82	19	剥片	黒	安	54	117	4.6	7.4
83	19	剥片	黒	安	54	117	2.9	2.8
84	19	剥片	黒	安	54			10.5
85	19	剥片	黒	安	47	119	8.7	7.9
86	19	剥片	黒	安	47	121	4.4	4.0
87	19	剥片	黒	安	47			1.55
88	19	剥片	黒	安	54			4.22
89	19	剥片	黒	安	54	117	2.0	3.4
90	19	剥片	黒	安	47			0.14
91	19	剥片	黒	安	47			0.53
92	19	剥片	黒	安	32			4.04
93	19	剥片	黒	安	54	117	2.0	3.4
94	19	剥片	黒	安	35			4.65
95	19	剥片	黒	安	35			10.99
96	19	剥片	黒	安	132			205.90
97	19	剥片	黒	安	24	59	3.8	4.5
98	19	剥片	黒	安	24	142	6.0	4.3
99	19	剥片	黒	安	24	142	7.8	5.3
100	19	剥片	黒	安	47	118	3.7	1.6
101	19	剥片	珉	真	42	58	6.2	4.9
102	19	剥片	黒	安	32			3.06
103	19	剥片	黒	安	32			1.27
104	19	剥片	黒	安	40	61	6.1	3.1
105	19	剥片	黒	安	22			49.73
106	19	剥片	黒	安	22			86.31
107	19	剥片	黒	安	36			9.97
108	19	剥片	黒	安	36			12.95
109	19	剥片	黒	安	47			3.03
110	19	剥片	黒	安	47			4.29
111	19	剥片	黒	安	47	120	(2.8)	2.2
112	19	剥片	黒	安	47	118	6.4	5.9
113	19	剥片	黒	安	47	120	(3.2)	(3.2)
114	19	剥片	黒	安	47	120	(3.2)	(3.2)
115	19	剥片	黒	安	40			13.48
116	19	剥片	黒	安	40			53.90
117	19	剥片	黒	安	47	118	6.4	5.9
118	19	剥片	黒	安	47	133		20.27
119	19	剥片	黒	安	47	118	(4.4)	(3.7)
120	19	剥片	黒	安	47			18.26
121	19	剥片	黒	安	47			34.00
122	19	剥片	黒	安	47			298.30
123	19	剥片	黒	安	47	118	6.4	5.9
124	21	剥片	黒	安	51			7.33
125	21	剥片	黒	安	51			2.32
126	21	剥片	黒	安	51			1.11
127	21	剥片	黒	安	51			1.71
128	21	剥片	黒	安	18	77	3.2	1.1

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
126	21	小	珉	安				1.53
127	21	小	剥片	黒	安			0.47
128	21	剥片	黒	安				7.36
129	21	剥片	黒	安	18	75	1.2	2.2
130	21	剥片	黒	安	18	76	3.7	2.9
131	21	剥片	黒	安	24	72	11.3	5.2
132	21	剥片	黒	安	31		5.2	4.2
133	21	剥片	黒	安		134		58.81
134	21	剥片	黒	安				18.24
135	21	剥片	黒	安	28	67	8.7	6.2
136	21	剥片	黒	安		134		6.98
137	21	剥片	黒	安				86.88
138	21	剥片	黒	安				3.82
139	21	剥片	黒	安	52			4.65
140	21	剥片	黒	安	79	122	(2.6)	3.9
141	21	剥片	黒	安				24.34
142	21	剥片	黒	安				6.86
143	21	剥片	黒	安				1.66
144	21	剥片	黒	安	81	124	3.9	4.8
145	21	剥片	黒	安				78.71
146	21	剥片	黒	安	6	69	5.6	3.9
147	21	剥片	黒	安				10.48
148	21	剥片	黒	安	3	66	(4.5)	(4.0)
149	21	剥片	黒	安				3.01
150	21	剥片	黒	安				22.43
151	21	剥片	黒	安	4			6.78
152	21	剥片	黒	安				29.13
153	21	剥片	黒	安				1.82
154	21	剥片	黒	安				51.31
155	21	剥片	黒	安				1.94
156	21	剥片	黒	安				3.65
157	21	剥片	黒	安				6.73
158	21	剥片	黒	安				1296.50
159	21	剥片	黒	安				4.44
160	21	剥片	黒	安	60			1.41
161	21	剥片	黒	安				13.66
162	21	剥片	黒	安	35			0.55
163	21	剥片	黒	安				16.72
164	21	剥片	黒	安	35			27.95
165	21	剥片	黒	安				3.20
166	21	剥片	黒	安	60	129	3.2	2.5
167	21	剥片	黒	安				6.80
168	21	剥片	黒	安				11.28
169	21	剥片	黒	安	79	122	3.8	4.3
170	21	剥片	黒	安	60			7.40
171	21	剥片	黒	安	60			0.87
172	21	剥片	黒	安	79	122	6.1	7.2
173	21	剥片	黒	安	63			87.32
174	21	剥片	黒	安				4.7
175	21	剥片	黒	安	55			1.7
176	21	剥片	黒	安	55			6.13
177	21	剥片	黒	安				11.61
178	21	剥片	黒	安				4.97
179	21	剥片	黒	安	27			30.72
180	21	剥片	黒	安	55			19.50
181	21	剥片	黒	安	51			4.5
182	21	剥片	黒	安	51			4.2
183	21	剥片	黒	安	39	130	3.7	3.6
184	21	剥片	黒	安	63			15.57
185	21	剥片	黒	安				21.38
186	21	剥片	黒	安	47			13.69
187	21	剥片	黒	安	63			27.30
188	21	剥片	黒	安	47			3.95
189	21	剥片	黒	安	79	122	5.0	2.6
190	21	剥片	黒	安	47			16.54
191	21	剥片	黒	安				3.01
192	21	剥片	黒	安				29.76
193	21	剥片	黒	安	60	129	2.8	4.5
194	21	剥片	黒	安	60	129	3.8	5.2
195	21	剥片	黒	安	60	129	5.2	3.6
196	21	剥片	黒	安				68.49
197	21	剥片	黒	安				1542.20
198	21	剥片	黒	安				5.92
199	21	剥片	黒	安				5.33

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
185	20	石 槌	赤 頁			4.1	3.6	27.70
186	20	削 片	黒 頁					5.45
187	20	削 片	黒 頁	1	62	2.7	3.6	10.73
188	20	撚 削	黒 頁			4.3	5.0	33.18
189	20	削 片	子	59				2.72
190	20	加 削	黒 頁			4.6	(4.2)	28.55
191	20	削 片	黒 頁	28		4.0	3.7	12.91
192	20	削 片	黒 頁	1	62	7.5	5.5	34.12
193	20	削 片	黒 頁					29.35
194	20	削 片	黒 頁	28		4.3	5.0	34.32
195	20	削 片	黒 頁	31		2.7	6.5	23.62
196	20	撚 削	黒 頁		63	4.7	1.7	3.62
197	20	加 削	黒 頁	1	62	7.0	7.0	37.11
198	20	加 削	黒 頁	1	62	5.6	6.9	109.81
199	20	削 片	黒 頁					6.13
200	20	削 片	黒 頁					31.11
201	20	削 片	黒 頁	1	62	9.5	6.6	128.37
202	20	石 槌	黒 頁	1	62	5.5	8.9	124.86
203	20	削 片	黒 頁					9.00
204	20	削 片	黒 頁					5.12
205	20	石 槌	黒 頁	1	62	7.1	4.4	75.99
206	20	石 槌	黒 頁	1	62	8.0	6.1	224.50
207	20	石 槌	黒 頁	1		3.8	4.9	61.37
208	20	削 片	黒 頁					16.49
209	19	削 片	黒 頁	4				6.89
210	19	削 片	黒 頁					6.41
211	19	削 片	黒 頁	47	119	4.1	2.8	14.19
212	19	削 片	黒 頁	47	121	6.0	7.3	15.59
213	19	削 片	黒 頁	47	119	6.3	5.0	16.09
214	19	削 片	黒 頁					23.71
215	19	削 片	黒 頁	47	120	6.3	5.0	3.84
216	19	削 片	黒 頁	70	60	1.0	2.9	1.96
217	19	削 片	黒 頁	47	118	2.9	3.1	10.15
218	19	巖 石	粗 安					540.60
219	19	巖 石	岩 倉					346.70
220	19	削 片	黒 頁	47	120	6.3	5.0	8.92
221	19	石 槌	黒 頁	70	60	4.0	3.5	29.25
222	19	削 片	黒 頁	29				104.61
223	19	削 片	黒 頁					31.40
224	19	石 槌	黒 頁			7.5	4.4	92.94
225	19	削 片	黒 頁	39				163.60
226	19	削 片	黒 頁	47	119	8.7	7.9	44.80
227	19	小 體	粗 安					4.29
228	17	削 片	黒 頁					6.92
229	17	削 片	黒 頁	14	50	(4.0)	(3.9)	16.63
230	17	巖 石	紋 庫			7.7	7.2	563.66
231	17	削 片	黒 頁	14	49	(5.6)	3.4	25.54
232	17	削 片	黒 頁					1.32
233	17	加 削	地 頁	56		(2.0)	3.2	11.72
234	17	巖 石	黒 頁			15.1	8.2	774.30
235	17	砂 片	雲 片					1.71
236	17	削 片	黒 頁	33	139			6.87
237	17	削 片	黒 頁	32	114	6.1	6.5	41.32
238	17	削 片	黒 頁	32	114	6.1	6.5	9.98
239	17	撚 削	地 頁	56		(3.2)	4.9	42.25
240	17	巖 石	粗 安					996.70
241	17	削 片	黒 頁	14	48	9.6	5.7	136.25
242	17	巖 石	紋 庫			14.0	13.3	1442.20
243	17	削 片	黒 頁					28.68

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
244	16	小 體	粗 安					43.45
245	11	小 體	粗 安					16.33
246	11	削 片	黒 頁	35	39	3.5	3.8	15.71
247	16	加 削	砂 頁	57		7.6	(6.6)	88.38
248	16	削 片	黒 頁					43.56
249	16	削 片	黒 頁					2.27
250	16	削 片	黒 頁	77	109	2.0	5.5	25.07
251	16	削 片	黒 頁	77	109	2.4	1.8	3.76
252	21	削 片	黒 頁	3	66	2.5	2.9	2.39
253	21	加 削	黒 頁			(2.7)	3.1	7.52
254	21	削 片	黒 頁					1.96
255	21	削 片	黒 頁					17.63
256	21	削 片	黒 頁	33				9.58
257	21	巖 石	安 支		134	15.6	8.6	962.80
258	21	削 片	黒 頁	3	66	(5.5)	3.5	22.12
259	21	削 片	黒 頁	52				3.36
260	21	削 片	黒 頁	10				8.27
261	22	削 片	黒 頁					2.05
262	22	砂 片	黒 頁					1.13
263	22	削 片	黒 頁					32.29
264	22	撚 削	黒 頁	6	69	6.4	6.0	54.00
265	22	削 片	黒 頁	3	66	10.9	6.5	194.36
266	22	削 片	黒 頁	71	71	3.2	4.7	4.65
267	22	巖 石	粗 安			13.8	11.9	1064.10
268	22	削 片	黒 頁	4		3.9	2.2	6.36
269	22	削 片	黒 頁	36				8.33
270	22	ナイフ	粗 安	43	96	8.0	4.7	85.68
271	22	削 片	黒 頁	23		2.7	8.2	104.81
272	22	加 削	黒 頁	45	88	4.7	(4.1)	31.57
273	21	削 片	黒 頁			5.9	8.3	59.23
274	21	削 片	地 頁	5		(3.5)	2.4	8.41
275	21	砂 片	安 支		134			1.15
276	21	削 片	黒 頁					6.46
277	21	巖 石	四 縁			14.6	10.8	1335.60
278	21	—	—					—
279	21	加 削	粗 安	32		5.0	4.0	22.21
280	21	小 體	粗 安					2.08
281	21	砂 片	黒 頁					0.74
282	21	削 片	黒 頁					8.02
283	21	削 片	黒 頁					7.71
284	21	削 片	黒 頁	28				6.82
285	21	削 片	黒 頁					6.74
286	21	削 片	黒 頁		73			3.56
287	21	削 片	黒 頁	3	66	10.0	5.5	89.93
288	21	削 片	黒 頁	3	66	2.5	2.9	2.70
289	21	削 片	黒 頁	52	110	3.5	6.0	4.77
290	21	石 槌	黒 頁	6	69	8.7	9.5	860.20
291	21	削 片	黒 頁	6	69	(1.2)	2.3	1.90
292	21	削 片	黒 頁	3				1.61
293	21	削 片	黒 頁	3				5.91
294	21	削 片	黒 頁	71	71	(2.8)	(3.1)	14.07
295	21	削 片	黒 頁	28	67	1.8	3.8	6.36
296	21	削 片	黒 頁					5.72
297	21	削 片	黒 頁	27	68	1.7	1.7	1.12
298	21	削 片	黒 頁	3	66	7.5	8.2	114.97
299	21	削 片	黒 頁	6	69	(4.7)	6.0	83.54
300	21	削 片	黒 頁	6	69	(5.5)	4.2	14.03
301	21	加 削	黒 頁			6.4	3.1	79.91
302	21	石 槌	黒 頁	27	68	3.3	3.4	20.40

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	
303	21	剥片	黒頁		3	66	2.3	(2.40)	3.02
304	21	剥片	黒頁		3	66	5.2	4.5	14.22
305	21	剥片	黒頁		35				14.75
306	21	剥片	黒頁						36.28
307	21	剥片	黒頁						2.54
308	21	剥片	黒頁		28	67	2.9	2.0	3.06
309	21	加割	黒頁				(4.5)	(3.8)	27.26
310	21	加割	黒頁		72	74	6.3	4.8	42.23
311	21	使割	黒頁		28	67	7.9	5.3	49.65
312	21	剥片	黒頁		3	66	3.3	3.5	4.33
313	21	剥片	黒頁						2.46
314	21	剥片	黒頁		3	66	6.9	7.3	116.40
315	21	剥片	黒頁		3	66	7.6	13.4	489.70
316	21	剥片	黒頁		6	69	7.8	8.7	196.18
317	21	剥片	黒頁		6	69	7.8	8.7	7.38
318	21	剥片	黒頁						12.77
319	21	剥片	黒頁		27	68	4.7	6.0	59.03
320	21	剥片	黒頁		27	68	4.7	6.0	21.82
321	21	剥片	黒頁						77.74
322	21	剥片	黒頁		27	68	3.1	5.9	40.21
323	21	石核	黒頁		28	67	3.1	5.7	52.16
324	21	剥片	黒頁		27	68	1.4	2.3	2.90
325	21	敲石	粗安			18.0	11.0		1163.50
326	21	剥片	黒頁		32				66.23
327	21	擦削	黒頁		28	67	5.7	5.4	98.54
328	21	剥片	黒頁		28	67	1.7	3.8	5.79
329	21	剥片	黒頁		3	66	6.5	7.1	89.34
330	21	石核	黒頁		28	67	9.4	10.1	211.20
331	21	剥片	黒頁		28				13.06
332	21	剥片	点頁		25		3.4	3.3	11.47
333	21	剥片	黒頁						13.59
334	18	使割	予				(2.4)	1.9	2.54
335	18	剥片	粗安		47				3.58
336	18	使割	予		63		1.7	2.7	2.36
337	18	原石	黒頁				10.5	9.2	495.70
338	18	剥片	黒頁		37	116	3.7	4.7	4.45
339	18	剥片	黒頁						3.72
340	21	石核	黒頁		30		4.8	4.8	40.37
341	21	剥片	黒頁		71	71	3.2	4.7	7.31
342	21	剥片	黒頁		3	66	(6.7)	4.9	39.55
343	21	剥片	黒頁		30	70	12.0	6.0	56.44
344	21	剥片	黒頁		3	66	5.2	4.5	14.13
345	21	剥片	黒頁		33	78	7.5	5.2	37.42
346	21	剥片	黒頁						2.55
347	21	剥片	黒頁		28	67	9.2	6.4	69.65
348	21	剥片	黒頁		3	66	10.9	6.5	60.22
349	21	剥片	黒頁		72	74	6.0	6.1	58.89
350	21	剥片	黒頁		3	66	5.1	8.5	92.87
351	21	剥片	黒頁		24	72	11.3	5.2	15.75
352	21	剥片	黒頁						58.72
353	21	加割	粗安		80	123	5.7	5.3	5.77
354	21	剥片	黒頁						1.41
355	21	剥片	黒頁		28	67	9.2	6.4	11.35
356	21	剥片	黒頁		28	67	(4.6)	(6.8)	17.47
357	21	剥片	点頁		25		9.3	5.1	110.32
358	21	加割	粗安		80	123	5.7	5.3	30.29
359	21	剥片	黒頁		33	78	7.5	5.2	67.77
360	21	剥片	黒頁		30	70	12.0	6.0	53.39
361	21	剥片	黒頁						3.38

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	
362	21	剥片	黒頁		28	67	(4.0)	(6.8)	19.88
363	18	剥片	黒頁						10.43
364	18	剥片	黒頁		78	116	3.8	3.8	6.99
365	18	剥片	黒頁						1.78
366	18	剥片	点頁		25		5.6	3.3	12.30
367	18	剥片	黒頁		37	116	3.7	4.7	1.17
368	18	剥片	黒頁						1.38
369	18	剥片	黒頁		26	51	3.4	2.4	7.12
370	18	剥片	黒頁		34	54	5.1	2.3	28.60
371	18	剥片	粗安		78	115	3.9	2.7	14.41
372	18	剥片	粗安		78	115	3.8	3.8	6.92
373	18	剥片	粗安		78	115	2.0	4.0	7.90
374	18	砕片	粗安		78	115	1.8	0.9	0.78
375	18	砕片	粗安						0.12
376	18	剥片	点頁		25				6.33
377	18	剥片	黒頁						69.56
378	18	剥片	黒頁		26	53	8.5	7.5	156.51
379	18	石核	粗安		25		3.2	3.4	27.36
380	18	剥片	点頁		25		4.6	3.5	13.51
381	18	加割	粗安		12	55	6.8	6.8	6.41
382	18	剥片	黒頁		11	52	7.2	2.1	21.87
383	18	剥片	点頁		25				9.38
384	18	剥片	粗安						1.69
385	18	剥片	点頁		25				7.46
386	18	剥片	点頁		25				9.91
387	18	—	—						2.48
388	18	砕片	粗安						0.23
389	18	砕片	粗安		78	115	2.1	1.4	1.44
390	18	剥片	黒頁						0.90
391	18	小礫	粗安						5.03
392	18	剥片	粗安						5.61
393	18	剥片	粗安						2.41
394	18	剥片	点頁		25	56	6.7	3.3	18.23
395	18	剥片	黒頁		37	126	3.0	4.3	8.78
396	18	剥片	黒頁		26	51	4.2	2.8	25.90
397	18	剥片	粗安		78	115	8.8	6.2	24.63
398	18	剥片	粗安		37	126	3.0	4.3	5.48
399	18	剥片	黒頁						5.29
400	18	剥片	黒頁						5.22
401	21	砕片	黒頁						1.23
402	21	剥片	黒頁		27	68	2.3	3.7	7.98
403	21	剥片	粗安		27	68	2.8	3.6	3.82
404	21	剥片	粗安						1.94
405	21	—	粗安						2610.00
406	21	剥片	黒頁		30	70	(3.0)	5.1	40.68
407	21	剥片	黒頁		27	68	4.4	7.4	67.54
408	21	剥片	黒頁						5.13
409	21	剥片	黒頁		27	68	2.5	4.6	20.17
410	18	石核	粗安		27	68	7.5	9.5	417.80
411	18	剥片	点頁		25	56	6.7	3.3	18.44
412	18	剥片	粗安		37	116	4.2	4.2	14.59
413	18	砕片	粗安						0.32
414	18	剥片	黒頁						83.93
415	18	砕片	粗安						0.58
416	18	加割	粗安		12	55	6.8	6.8	58.19
417	18	剥片	粗安		12	55	3.0	2.0	2.91
418	18	剥片	粗安		11	52	8.5	2.9	43.29
419	18	石核	粗安		11	52	10.1	8.2	268.20
420	18	剥片	粗安		26	53	4.8	6.2	22.39

第II文化層 石器計測値一覽表

遺物 №	出土 位置	器種	石材	母胎	檢合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
421	18	刮片	黒頁	11	52	6.3	2.7	24.86
422	18	刮片	黒頁	26	53	4.8	6.2	9.90
423	18	石核	黒頁			4.2	5.6	81.41
424	18	石核	黒頁	11	52	8.9	6.0	177.87
425	18	擦削	黒頁			7.3	6.4	149.62
426	18	刮片	黒頁					28.73
427	18	石核	黒頁			6.5	7.2	109.63
428	18	刮片	点頁	25				0.48
429	18	原石	灰安			16.3	14.1	1104.30
430	18	小礫	粗安					2.41
431	18	刮片	点頁	25				9.32
432								
433	17	刮片	黒頁	14	49	3.4	4.1	11.88
434	17	原石	灰安			16.5	12.3	2068.40
435	17	刮片	雜頁					13.59
436	18	刮片	黒頁	69	57	4.4	2.2	7.66
437	18	刮片	黒頁	29	140	7.8	10.7	287.60
438	18	刮片	黒頁	29	140	7.8	10.7	46.40
439	18	刮片	点頁	25		4.3	4.9	19.82
440	18	刮片	点頁	25				8.39
441	18	刮片	黒頁	29		9.0	7.4	192.60
442	18	石核	黒頁			5.9	6.9	138.60
443	18	刮片	黒頁	29		7.7	5.6	79.60
444	18	石核	黒頁	26	51	7.9	6.4	114.50
445	18	石核	黒頁	69	57	5.8	6.2	205.20
446	17	刮片	黒頁	14	50	5.6	4.6	24.79
447	17	刮片	黒頁	14	50	5.6	4.6	12.76
448	17	刮片	雜頁	2		3.4	5.4	29.31
449	17	刮片	雜頁	2	12	10.1	9.0	231.50
450	17	刮片	少					17.74
451	17	擦削	粗安	51		4.3	4.0	23.46
452	17	刮片	黒頁	14				2.23
453	17	刮片	黒頁	31				3.86
454	17	刮片	黒頁	54				13.32
455	17	加割	黒頁	35		7.6	4.8	37.45
456	17	刮片	黒頁	54				33.85
457	18	刮片	黒頁			11.4	4.3	94.70
458	18	原石	粗安			39.4	8.3	2076.00
459	18	加割	黒頁			(3.2)	4.2	27.13
460	18	刮片	黒頁	9	46	6.7	3.6	63.14
461	18	刮片	黒頁	48	112	1.6	2.9	3.69
462	16	刮片	黒頁	52	111	4.2	7.9	19.62
463	16	刮片	黒頁					54.77
464	16	擦削	少	59		8.1	4.3	47.46
465	16	原石	黒頁			29.6	12.6	2442.90
466	16	石核	黒頁	9	46	6.2	4.4	167.60
467	16	小礫	粗安					5.16
468	16	刮片	粗安					0.79
469	16	小礫	粗安					13.77
470	16	小礫	粗安					17.82
471	16	—	—					—
472	16	刮片	黒頁	9	46	4.0	2.0	10.26
473	16	刮片	黒頁					18.05
474	16	加割	黒頁			7.7	7.2	167.17
475	16	刮片	黒頁	36				4.41
476	16	擦削	少	59		7.1	3.1	19.70
477	16	刮片	黒頁	36	141	3.7	2.5	10.34
478	16	小礫	粗安					5.67
479	16	刮片	黒頁					39.69

遺物 №	出土 位置	器種	石材	母胎	檢合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
480	16	加割	粗安	77	109	4.5	6.6	49.57
481	16	加割	粗安			(1.1)	2.0	1.36
482	16	刮片	黒頁	52	110	3.5	6.0	9.36
483	16	石核	黒頁	48	112	16.0	8.0	550.10
484	16	刮片	黒頁	52	110	3.5	6.0	3.17
485	16	刮片	黒頁					12.85
486	16	石核	黒頁	52	113	8.6	11.2	518.80
487	16	刮片	点頁	25	48	2.1	2.0	2.73
488	16	擦削	黒頁	26	47	9.2	7.4	153.65
489	16	刮片	黒頁					7.98
490	16	刮片	黒頁					6.14
491	16	刮片	黒頁					1.02
492	16	刮片	黒頁	43	108	11.2	4.9	45.10
493	16	刮片	黒頁					1.88
494	16	刮片	黒頁	43	108	11.2	4.9	51.46
495	16	刮片	黒頁	52	110	(1.2)	2.8	1.16
496	16	刮片	黒頁	43	108	2.0	1.5	1.40
497	16	刮片	黒頁	19	45	1.8	2.2	1.94
498	16	擦削	黒頁			11.2	4.2	118.50
499	16	加割	黒頁	26	47	4.6	6.1	45.13
500	16	原石	黒頁			15.0	13.2	1076.20
501	16	加割	黒頁	26	47	2.6	3.5	5.62
502	16	石核	黒頁	43	108	11.2	4.6	57.96
503	16	石核	少			4.5	6.3	98.63
504	16	擦削	点頁	25	48	5.3	4.0	43.42
505	16	石核	黒頁	33	138	6.5	4.3	92.37
506	16	擦削	黒頁			5.1	6.6	64.87
507	22	小礫	粗安					3.14
508	22	石核	粗安			9.0	6.3	209.70
509	22	刮片	黒頁					2.16
510	22	刮片	黒頁			5.1	3.0	19.70
511	22	刮片	黒頁	64	143	4.7	2.6	8.52
512	22	刮片	黒頁	47				42.57
513	22	刮片	黒頁	45	88	4.3	2.2	6.92
514	22	刮片	砂頁	57	81	3.6	3.7	21.58
515	22	刮片	黒頁					1.72
516	22	加割	砂頁	57	81	5.4	5.3	49.24
517	22	石核	黒頁	26	51	2.4	6.2	64.95
518	22	刮片	黒頁			4.2	6.1	0.43
519	22	刮片	黒頁					22.86
520	22	刮片	黒頁	73	80	3.3	2.2	6.09
521	22	刮片	粗安	5	79	5.1	5.1	12.88
522	22	刮片	黒頁					0.39
523	22	刮片	黒頁					18.10
524	22	刮片	黒頁	82	125	5.9	2.7	5.88
525	22	刮片	黒頁					0.15
526	22	刮片	黒頁					4.84
527	22	台石	粗安			13.8	11.6	1264.30
528	22	刮片	黒頁					0.22
529	22	刮片	黒頁					0.44
530	22	刮片	黒頁					3.51
531	22	刮片	黒頁			2.3	1.1	0.48
532	22	刮片	黒頁			4.6	5.8	35.27
533	22	刮片	黒頁					13.69
534	22	刮片	粗安	5	79	5.5	6.7	62.33
535	22	刮片	黒頁					8.32
536	22	刮片	黒頁	73	80	5.4	8.4	71.93
537	22	刮片	粗安	5	79	2.9	7.0	16.08
538	22	石核	粗安	5	79	7.6	12.0	658.90

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
539	22	割片	黒頁	27	68	5.9	2.4	23.85
540	22	割片	埴頁	5	79	5.1	21.29	
541	22	割片	黒安	82	125	5.3	(3.7)	37.11
542	22	割片	黒頁	73	80	5.4	8.4	11.90
543	22	割片	黒安					0.67
544	22	石槌	黒頁			6.0	4.1	33.62
545	22	割片	黒安	82	125	5.9	2.7	36.53
546	22	割片	黒頁	29	137	4.0	4.5	30.72
547	22	割片	黒安					19.26
548	22	磨	黒安					1993.30
549	22	割片	黒頁	29	145	5.1	4.6	5.56
550	22	割片	黒頁	29	137	3.5	3.8	24.74
551	22	割片	黒頁	29				5.92
552	22	石槌	黒頁	74	82	7.6	4.7	101.86
553	22	割片	黒頁	22		6.8	4.2	33.78
554	22	割片	黒頁	74	82	2.0	2.4	5.42
555	22	割片	黒安	82	125	3.0	2.4	11.62
556	22	割片	黒頁	29		4.3	3.3	21.58
557	22	割片	黒頁	36				4.19
558	22	原石	黒頁			13.2	13.3	1382.00
559	22	原石	埴頁			16.6	13.9	2131.00
560	11	小磨	粗安					5.98
561	11	割片	黒頁	26	51	7.0	5.5	61.43
562	12	割片	黒安	32				12.37
563	12	剝削	黒頁			3.7	5.1	19.53
564	12	割片	黒頁			5.4	3.7	30.53
565	12	割片	黒頁					56.60
566	7	割片	黒安					9.57
567	7	割片	黒頁	85	144	3.5	2.0	7.36
568	7	割片	黒頁					15.74
569	7	砕片	黒頁					0.20
570	7	割片	灰安	53	90	3.7	3.5	10.35
571	7	割片	黒頁					26.77
572	7	小磨	粗安					14.82
573	7	加剝	ナ			(1.7)	(1.2)	1.63
574	7	割片	灰安	53	90	(1.7)	1.9	1.25
575	7	割片	灰安	53	90	2.4	4.5	17.17
576	7	割片	灰安	53	90	2.4	2.8	5.03
577	7	割片	黒頁	20	29	3.7	4.3	8.89
578	7	砕片	黒頁					1.77
579	7	割片	黒頁					1.96
580	7	割片	黒頁	20	29	3.7	4.3	9.11
581	7	石槌	ナ			1.5	3.0	32.19
582	7	石槌	灰安	53	90	10.4	5.2	228.90
583	7	石槌	黒頁	21		9.0	3.7	32.50
584	7	割片	黒頁					3.90
585	7	砕片	灰安	53	90	0.8	2.1	0.62
586	7	磨器	黒頁	85	144	6.6	5.9	102.78
587	7	割片	黒安	75	91	2.7	4.0	10.23
588	7	ナイフ	ナ			6.6	3.5	26.20
589	7	割片	黒頁	85	144	4.0	4.7	13.90
590	7	加剝	黒安	50		3.3	(3.3)	14.32
591	7	割片	黒頁					17.59
592	7	小磨	粗安					15.22
593	7	割片	黒安	52				5.88
594	7	割片	黒頁	21				9.55
595	7	原石	粗安			9.8	7.3	435.30
596	7	割片	黒頁			5.1	8.5	118.87
597	7	加剝	黒頁			6.3	4.2	37.10

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
598	7	割片	埴頁	32				27.39
599	7	割片	埴頁	32	30	4.8	5.7	43.50
600	7	割片	埴頁	21				14.20
601	7	割片	黒頁	22		(4.9)	2.2	8.92
602	7	割片	点頁	35		5.6	2.2	16.36
603	7	割片	点頁	25		(5.9)	2.2	22.81
604	7	原石	灰安			11.2	6.4	403.30
605	7	割片	点頁	25				3.24
606	7	割片	点頁	25				6.80
607	7	割片	黒頁	25				71.62
608	7	割片	点頁	25				1.70
609	7	割片	黒頁					5.08
610	7	割片	点頁	25				2.52
611	7	砕片	黒安					0.43
612	7	割片	灰安	53	90	2.2	3.3	3.37
613	7	石槌	黒安	75	91	5.3	5.1	65.55
614	7	石槌	黒頁	30	29	7.5	8.9	247.20
615	7	石槌	灰安	53	90	6.3	5.2	103.74
616	7	割片	黒頁	4				3.82
617	7	砕片	黒頁					1.13
618	7	割片	黒安	32				13.54
619	7	割片	灰安	53	90	3.6	6.0	44.36
620	7	砕片	黒頁					3.35
621	7	割片	灰安	53	90	2.7	2.7	7.28
622	7	割片	黒安	52				1.24
623	7	割片	黒安	52				8.07
624	7	割片	灰安	53	90	3.4	2.3	7.21
625	7	石槌	粗安			5.6	4.4	71.94
626	6	磨	粗安					1340.50
627	6	磨	粗安					5560.00
628	6	磨	粗安					1419.70
629	6	原石	輝緑			7.1	7.2	385.00
630	6	磨	粗安					1819.00
631	6	磨	粗安					1324.90
632	6	磨	粗安					6600.00
633	6	磨	粗安					1932.20
634	6	割片	黒頁	11		6.5	2.4	19.21
635	6	磨	粗安					4500.00
636	6	割片	黒頁			12.9	5.1	86.62
637	6	磨	埴頁			8.0	3.5	25.38
638	6	磨	粗安					577.19
639	6	磨	粗安					880.40
640	6	磨	粗安					2390.00
641	6	ナイフ	黒頁			7.8	3.4	27.60
642	6	砕片	黒頁			6.3	4.1	37.13
643	12	磨	粗安					1195.10
644	12	割片	黒頁			5.2	5.2	43.43
645	12	抉入	黒頁			5.2	3.6	22.10
646	12	割片	黒安	54				3.25
647	12	砕片	黒安					0.30
648	11	割片	黒頁					6.40
649	11	石槌	黒頁	1	82	5.0	6.3	143.11
650	11	石槌	黒頁			5.2	5.5	109.86
651	11	石槌	黒安	43	100	5.2	4.9	62.55
652	11	割片	黒頁	28				9.40
653	11	割片	黒頁					4.27
654	11	割片	黒頁	38		9.3	6.3	187.52
655	11	加剝	黒頁			(3.9)	6.4	41.56
656	11	割片	黒安					1.47

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (#)
457	11	砕片	黒安					0.52
458	11	削片	黒安					20.80
609	11	削片	黒安	76	99	(5.9)	(6.0)	50.30
660	11	削片	黒安					34.66
661	11	削片	黒安					2.54
662	11	削片	黒安					15.57
663	11	削片	黒安	76	99	4.5	5.4	12.14
664	11	加削	黒安			(8.1)	7.0	132.22
665	8	削片	黒安	28	32	2.0	6.5	52.76
666	8	削片	黒安	51				48.75
667	8	石核	黒安			4.2	6.1	80.83
668	8	削片	黒安	36				3.81
669	8	削片	チ	61	128	5.0	4.1	90.31
670	8	砕片	黒安					0.96
671	8	削片	黒安	28	32	2.3	1.4	2.02
672	8	削片	黒安					17.97
673	8	石核	チ			3.6	3.6	21.52
674	8	礫	粗安					1798.10
675	8	削片	黒安					11.70
676	8	石核	黒安			5.4	4.2	53.93
677	8	削片	黒安	36				6.21
678	8	削片	黒安		33			8.06
679	8	石核	黒安			3.5	4.6	46.20
680	8	石核	チ	61	128	5.8	7.2	294.30
681	8	原石	粗安			18.3	9.2	1690.40
682	5	原石	ホル			11.8	9.1	494.80
683	5	削片	黒安	12	25	3.7	2.8	7.07
684	5	使削	珪質	56	26	7.8	5.5	49.07
685	5	削片	黒安	12	25	(3.4)	2.0	4.23
686	5	削片	黒安					2.69
687	5	削片	黒安	12	25	4.4	(3.3)	13.28
688	5	石核	黒安	27		5.3	4.4	42.18
689	5	石核	チ			5.2	3.4	36.73
690	5	削片	黒安	4	1	2.4	(5.9)	33.83
691	5	石核	珪質			4.7	3.5	47.81
692	5	使削	黒安		27	7.7	3.1	8.03
693	5	石核	ホル	58		29.6	10.2	1222.30
694	5	使削	黒安		27	7.7	3.1	26.70
695	5	削片	チ	62	127	2.4	2.4	4.72
696	5	石核	チ	62	127	4.6	4.8	82.99
697	5	削片	黒安	54	87	4.4	6.1	6.75
698	5	削片	黒安	12	25	2.1	3.3	8.04
699	5	ナイフ	珪質			(5.7)	1.9	6.54
700	5	石核	黒安	12	25	7.3	7.7	343.60
701	5	削片	黒安	12	25	2.9	3.0	5.53
702	5	削片	黒安	51		(5.0)	3.5	19.61
703	5	削片	黒安			(7.6)	3.5	65.30
704	5	削片	黒安	12	25	7.8	5.4	77.17
705	5	削片	黒安	12	25	8.0	6.6	80.19
706	5	礫	粗安			7.3	5.1	58.37
707	5	削片	黒安	54	87	4.4	6.1	33.93
708	5	削片	砕質	57				45.31
709	5	削片	黒安	4	28			10.29
710	5	削片	黒安					13.01
711	5	削片	黒安	4	28			7.72
712	5	削片	黒安	54	87	4.4	6.1	12.82
713	5	削片	黒安	4	1	4.4	7.4	77.77
714	10	削片	黒安					8.85
715	2	削片	黒安					10.06

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (#)
716	16	削片	珪質	56				5.97
717	16	削片	黒安					19.22
718	16	削片	黒安					1.67
719	16	削片	黒安	29				2.62
720	16	石核	黒安	43	108	11.2	4.6	41.72
721	16	削片	黒安	33	130	(3.2)	2.3	6.13
722	16	削片	黒安	19	45	2.6	2.8	7.61
723	16	削片	黒安	38		3.0	5.0	14.73
724	16	礫	粗安	31		2.3	5.8	8.01
725	16	削片	黒安	43	96	5.5	5.3	24.52
726	16	削片	黒安	19	45	1.6	3.3	6.83
727	16	石核	黒安	19	45	6.7	6.9	211.10
728	16	削片	黒安	36		8.0	5.8	67.13
729	16	—	—					—
730	16	—	—					—
731	16	削片	黒安					1.44
732	16	石核	黒安	19	45	5.1	7.3	63.35
733	16	削片	黒安	19	45	4.1	2.8	9.15
734	16	削片	黒安	33				4.56
735	16	—	—					—
736	16	—	—					—
737	10	削片	黒安					38.49
738	10	削片	黒安	43	94	(1.8)	(3.5)	4.82
739	10	使削	黒安			5.8	4.5	31.97
740	10	加削	黒安	43	94	4.0	4.5	22.85
741	10	礫	粗安	43	94	3.5	3.5	20.98
742	16	削片	珪質	19	45	6.4	3.7	29.67
743	16	礫	粗安					2370.00
744	10	削片	黒安		37			5.21
745	10	小礫	粗安					24.30
746	10	削片	点質					9.31
747	10	加削	チ			3.1	1.6	3.00
748	10	砕片	黒安					5.04
749	10	削片	黒安					2.14
750	10	礫	粗安					1331.90
751	10	削片	黒安		37			1.54
752	10	削片	黒安					19.84
753	9	削片	黒安	52	92	7.6	7.4	161.66
754	9	礫	粗安					2716.00
755	10	原石	砂岩			20.1	9.0	1410.20
756	10	削片	黒安	36	19	2.3	2.1	10.88
757	10	削片	黒安	52				3.57
758	10	削片	黒安	46	95	2.8	6.0	4.68
759	10	削片	黒安			4.5	4.9	25.74
760	10	砕片	黒安					0.35
761	10	砕片	黒安	46				0.65
762	10	削片	黒安					2.38
763	10	加削	黒安	43	86	9.8	9.3	201.50
764	10	削片	黒安	15				9.45
765	10	削片	黒安					1.09
766	10	削片	黒安	28	38			15.42
767	9	削片	黒安	52	93	10.6	9.0	192.95
768	9	削片	黒安	67	35	(5.2)	5.1	88.52
769	9	削片	黒安	52	93	8.7	9.6	134.86
770	9	石核	黒安	52		8.3	8.8	458.00
771	10	削片	黒安			9.4	9.3	144.83
772	10	原石	粗安			9.3	8.4	546.60
773	10	削片	黒安					18.21
774	10	削片	黒安	46	95	2.8	6.0	5.49

第II文化層 石器計測値一覽表

遺物 No.	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
775	10	刮片	黒頁		28	38		4.28
776	10	刮片	黒頁					36.03
777	10	刮片	黒頁		15	36	9.3	6.0
778	3	刮片	黒安		43	96	4.1	4.3
779	3	擦刮	黒安		43	96	10.5	4.2
780	3	刮片	黒安				3.5	6.3
781	3	刮片	黒頁		21		5.7	2.8
782	3	刮片	黒頁					36.70
783	3	石核	黒安		43	96	4.9	8.8
784	3	刮片	黒頁					1.15
785	3	刮片	黒頁		36		7.1	4.1
786	3	刮片	黒頁					61.99
787	3	刮片	黒安					3.97
788	2	刮片	珪頁		2	12	6.5	9.3
789	2	刮片	黒安		44	84	7.6	4.8
790	4	砂片	黒頁					0.96
791	4	石核	黒頁				5.0	7.3
792	4	石核	黒頁		13	20	7.9	8.3
793	4	刮片	黒安		54			2.02
794	4	刮片	黒安		54			2.26
795	4	刮片	黒安		54	87	3.3	2.3
796	2	刮片	珪頁		17	14	3.5	3.1
797	2	小礫	粗安					5.68
798	2	刮片	珪頁		17	14	5.4	3.4
799	4	擦刮	珪頁		17	14	5.9	4.7
800	4	刮片	黒安					40.51
801	2	刮片	黒安					20.89
802	2	小礫	粗安					2.96
803	2	刮片	珪頁		2	12	5.8	11.2
804	2	刮片	黒頁		36			3.03
805	2	石核	黒頁		21	17	5.9	5.6
806	2	刮片	黒頁					50.51
807	2	刮片	黒安		44	83	1.3	2.25
808	2	刮片	黒安		44	83	2.5	2.0
809	2	刮片	黒安		44	84	7.6	4.8
810	2	石核	黒頁		64	13	4.8	6.7
811	2	石核	黒安				4.9	4.1
812	2	石核	黒頁		21	18	5.7	7.0
813	2	加割	黒頁		31	21	10.3	6.7
814	2	石核	黒安				6.3	5.2
815	2	石核	黒安				5.5	7.4
816	2	刮片	黒安				4.7	4.7
817	2	刮片	黒頁				6.1	5.6
818	2	刮片	黒安		44			2.97
819	2	刮片	黒頁					70.23
820	2	刮片	黒頁		4	1	5.3	5.8
821	2	刮片	黒頁		21	18	4.0	4.7
822	2	刮片	黒頁		36		5.0	7.6
823	16	刮片	黒頁					6.00
824	16							3.70
825	16	刮片	黒頁					15.99
826	16	刮片	黒安		77	109	2.3	1.2
827	16	刮片	小丸		58		2.2	3.8
828	11	刮片	黒安		43	96	(5.1)	4.4
829	11	刮片	黒頁					29.50
830	11	刮片	黒安		43	96	5.8	8.6
831	16	刮片	黒頁				7.7	3.5
832	11	刮片	黒安		43	98	2.7	4.1
833	11	刮片	黒安		43	96	3.9	4.5

遺物 No.	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
834	11	刮片	黒安					1.26
835	11	刮片	黒安		43	96	7.3	4.3
836	11	刮片	黒安		43	96	5.8	8.6
837	11	砂片	黒安					1.04
838	11	石核	黒安		43	96	11.2	7.6
839	11	加割	黒安		43	96	3.4	1.5
840	11	刮片	黒頁		35	39	4.7	2.0
841	11	刮片	黒安		43	96	4.5	3.8
842	11	刮片	黒安					1.77
843	11	刮片	黒安		43	96	4.5	3.8
844	11	刮片	黒安		43	98	5.4	(4.1)
845	11	刮片	黒頁		43	96	1.0	1.0
846	11	刮片	黒安		43	96	3.7	3.7
847	11	刮片	黒安		43	98	7.6	5.2
848	11	刮片	黒安		43	96	3.5	4.2
849	11	加割	黒頁		35	39	5.1	5.0
850	11	刮片	黒頁		35	39	4.2	3.2
851	11	石核	黒頁		35	39	5.8	6.7
852	11	刮片	黒安		43	96	6.3	9.6
853	11	扉石	安玄				18.8	11.1
854	11	刮片	黒安					7.60
855	11	刮片	黒安		43	96	4.8	5.7
856	11	刮片	黒頁		35			7.08
857	11	刮片	黒安		43	96	5.5	5.3
858	11	刮片	黒頁		35	39	5.5	2.7
859	11	砂片	黒安					0.62
860	11	礫	安玄		131	26.5		8.9
861	11	刮片	黒安		76	99	4.5	5.4
862	11	刮片	黒安		43	96	1.0	2.3
863	11	刮片	黒安		43	100	3.3	3.6
864	11	擦刮	黒頁				(4.3)	4.8
865	11	刮片	黒頁		1	62	3.6	4.8
866	11	擦刮	黒頁				5.9	5.3
867	11	刮片	黒頁		28	40	7.7	7.0
868	11	刮片	黒頁					21.45
869	11	刮片	黒頁		35	39	6.7	5.4
870	11	刮片	黒安					116.05
871	9	刮片	黒安					12.96
872	9	石核	黒頁		13	20	8.6	5.1
873	9	敲石	仄安				8.3	7.2
874	9	加割	黒頁		13	20	3.6	1.5
875	9	礫	黒頁				13.2	9.3
876	9	石核	黒頁				6.3	4.7
877	9	刮片	黒頁		67	35	8.0	7.5
878	9	加割	黒頁		26	19	3.0	2.8
879	9	刮片	黒安		52			1.36
880	9	刮片	黒安		52	92	7.6	7.4
881	9	刮片	黒安					4.42
882	9	石核	黒頁		26	19	7.0	8.0
883	9	刮片	黒頁					52.61
884	9	刮片	黒安		47			17.03
885	9	刮片	黒頁		67	35	(8.3)	6.1
886	9	砂片	黒安		54			0.81
887	9	刮片	黒頁				3.5	5.7
888	9	刮片	黒頁		28	40	7.7	7.0
889	9	刮片	黒頁		67	35	8.0	7.5
890	9	刮片	黒安		44	84	4.8	2.4
891	9	擦刮	黒頁				4.1	5.4
892	8	刮片	珪頁		32	30	5.7	3.4

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
893	8	石核	黒頁		23	9.5	6.2	469.20
894	8	削片	黒頁	83	136	1.4	2.7	2.47
895	8	石核	黒頁	83	136	4.8	5.3	71.62
896	8	削片	黒頁					15.79
897	8	削片	黒頁	32	31	4.0	4.5	17.60
898	8	加削片	黒頁	58		5.2	4.3	21.03
899	8	削片	黒頁					12.55
900	8	削片	黒頁	32	31	7.9	4.1	49.37
901	8	削片	黒頁	32		5.9	3.6	12.87
902	8	削片	黒頁	32	31	5.4	2.8	9.98
903	4	使削片	ナ			2.5	3.5	3.43
904	4	削片	黒頁	45	88	5.8	6.1	73.68
905	4	使削片	黒頁			5.9	4.6	67.70
906	4	使削片	黒頁			5.5	5.3	70.71
907	4	使削片	ホル			12.9	9.2	711.90
908	4	削片	黒安					35.76
909	4	削片	黒安					32.03
910	4	削片	黒安	23		5.4	4.2	35.59
911	4	削片	黒安					8.04
912	4	削片	黒安	27		3.9	3.1	10.32
913	4	削片	黒安					32.61
914	4	削片	黒安	27		4.1	4.1	12.61
915	4	削片	黒安					15.41
916	4	削片	黒安	54				5.35
917	4	削片	黒安	54				3.14
918	4	使削片	黒安			6.9	5.2	68.05
919	4	削片	黒安	45	88	1.4	2.1	2.02
920	4	削片	黒安					58.75
921	4	削片	黒安			5.7	6.3	66.47
922	4	削片	黒安	31	21	4.0	4.8	52.73
923	4	削片	黒安	78	115	8.8	6.2	37.06
924	4	削片	黒安	54				6.92
925	4	使削片	黒安	45	88	5.0	6.0	48.29
926	4	削片	黒安	65	23	1.7	3.2	2.90
927	4	削片	黒安	78	115	8.8	6.2	22.86
928	4	削片	黒安	84	143	3.3	5.7	19.90
929	4	使削片	黒安	65	23	14.3	8.3	884.50
930	4	石核	黒安	45	88	9.2	8.9	263.40
931	8	削片	黒安	7				64.47
932	8	ナイフ	ナ	63		5.1	2.5	10.29
933	4	砂片	黒安					2.08
934	4	石核	黒安	26	19	6.4	6.5	152.99
935	4	削片	黒安					2.67
936	4	削片	黒安	54	87	11.5	5.2	58.85
937	4	削片	黒安	26	19	2.2	4.1	16.30
938	4	削片	黒安	26	19	2.2	2.3	7.58
939	4	削片	黒安	54				1.59
940	4	削片	黒安					9.94
941	4	削片	黒安	54	87	3.1	1.8	9.99
942	4	加削片	黒安	36		5.9	3.5	47.17
943	4	削片	黒安	27		4.1	2.6	7.96
944	4	削片	黒安					16.16
945	4	石核	黒安			6.3	5.3	97.25
946	4	削片	黒安					9.73
947	4	削片	黒安	54				3.50
948	4	削片	黒安	54	146	6.8	5.9	22.52
949	4	削片	黒安	54	87	3.8	2.3	9.13
950	4	削片	黒安	54				1.53
951	4	削片	黒安					1.01

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
952	4	削片	ホル	58				9.66
953	4	削片	黒安					1.02
954	4	使削片	黒安			5.2	4.3	36.64
955	4	削片	黒安	54				1.49
956	4	削片	黒安	54	87	2.8	2.3	3.21
957	4	削片	黒安	31	21	2.1	3.4	4.57
958	4	削片	黒安	54	87	4.7	3.2	13.73
959	4	削片	黒安	54	87	4.3	9.2	22.01
960	4	削片	黒安	54				35.96
961	4	削片	黒安	54	87	3.2	4.3	9.50
962	4	削片	黒安	54	87	3.2	4.3	2.33
963	4	削片	黒安	54	87	(1.0)	(1.5)	0.77
964	4	削片	黒安	54				2.77
965	4	削片	黒安	54				8.20
966	4	削片	黒安	54				0.52
967	4	削片	黒安	54	146	6.8	5.9	23.48
968	4	削片	黒安	54	87	3.7	4.2	29.64
969	4	削片	黒安	54				0.58
970	4	削片	黒安	54				1.00
971	4	削片	黒安	54				7.80
972	4	削片	黒安	54	87	4.3	9.2	16.48
973	4	削片	黒安	54	87	2.7	2.6	5.47
974	4	削片	黒安	31	21	(3.1)	5.7	29.58
975	4	削片	黒安	54				0.84
976	4	削片	黒安	54	87	3.2	4.3	0.83
977	4	削片	黒安					4.64
978	4	削片	黒安	13	20	2.9	4.0	2.90
979	4	削片	黒安			7.4	4.5	52.27
980	4	石核	黒安	43	89	13.0	7.6	100.29
981	4	石核	黒安	64	13	4.8	6.7	34.95
982	4	石核	黒安	7	22	11.7	9.8	957.50
983	4	石核	黒安	7	24	5.8	4.9	89.39
984	4	削片	黒安					1.97
985	4	削片	黒安	7	22	3.3	6.2	114.26
986	4	—	—					—
987	4	削片	黒安	7	22	6.0	4.3	60.07
988	4	削片	黒安	7	24	4.3	3.3	66.85
989	4	石核	黒安	43	89	13.0	7.6	212.30
990	4	加削片	黒安			6.0	8.2	149.41
991	4	削片	黒安	13	20	3.2	3.4	5.79
992	4	削片	黒安	13	20	2.9	4.0	13.59
993	4	削片	黒安	54	87	2.5	1.2	1.62
994	4	削片	黒安	54				1.10
995	4	削片	黒安	54	87	(1.7)	2.8	2.54
996	4	石核	黒安	54	87	5.2	5.2	137.15
997	4	削片	黒安	54	87	4.7	7.1	68.17
998	4	削片	黒安	54	87	6.0	5.0	85.31
999	4	削片	黒安	54	87	6.0	5.0	6.74
1000	4	石核	黒安	54	87	4.4	6.6	84.36
1001	4	使削片	黒安	54	87	4.7	3.8	32.25
1002	4	削片	黒安	54	87	11.5	5.2	65.42
1003	4	削片	黒安	54				0.83
1004	4	削片	黒安	54	87	4.8	3.3	20.32
1005	4	石核	黒安			5.0	6.7	96.93
1006	4	削片	黒安	54	87	4.4	4.9	23.56
1007	4	削片	黒安	54				35.58
1008	4	削片	黒安	54	87	5.3	2.5	18.90
1009	4	削片	黒安	54	87	3.0	4.3	7.77
1010	4	削片	黒安	54				5.73

第II文化層 石器計測値一覽表

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1011	4	削片	黒安	44	84	5.8	2.4	30.42
1012	4	削片	黒安	54	87	3.0	3.3	11.12
1013	4	砕片	黒安					0.41
1014	4	砕片	黒安	54				0.50
1015	4	—	—					0.27
1016	4	削片	黒安					5.74
1017	4	砕片	黒安					0.38
1018	4	削片	点頁	25				1.95
1019	4	削片	黒安					3.07
1020	4	削片	黒安	54	87	(3.3)	3.8	14.94
1021	4	削片	黒頁	31				2.87
1022	4	砕片	黒頁					0.70
1023	4	小礫	頁岩					15.64
1024	4	削片	黒安	54	87	3.6	3.1	11.27
1025	4	石核	黒頁			7.1	4.6	76.79
1026	4	撈削	黒安			4.5	4.5	45.96
1027	4	削片	黒安					19.56
1028	4	削片	黒安					1.37
1029	2	削片	珪頁	2	12	5.7	5.7	19.35
1030	1	削片	黒頁	28	7			7.31
1031	1	削片	黒頁	27		3.4	3.9	13.49
1032	1	削片	黒頁	28				19.78
1033	1	削片	黒頁					2.57
1034	1	削片	黒頁	28				8.90
1035	1	削片	黒頁					11.47
1036	1	削片	黒頁					8.34
1037	1	砕片	黒頁	28	3	3.6	2.0	6.97
1038	1	加削	黒安			6.5	6.5	54.30
1039	1	削片	黒頁	28	2	4.8	5.5	45.49
1040	1	削片	黒頁		9	8.0	5.5	21.49
1041	1	削片	点頁	25		2.8	3.2	5.43
1042	1	加削	黒安	50		4.6	(3.2)	23.21
1043	1	削片	黒頁	36	11	5.9	6.1	96.03
1044	1	削片	黒頁	28				3.68
1045	1	削片	黒頁	36	51	4.0	3.0	16.09
1046	1	削片	黒頁					3.15
1047	1	削片	黒頁	28				7.59
1048	1	削片	黒安	52				9.74
1049	1	削片	黒頁	28	10	4.9	4.9	5.99
1050	1	削片	黒頁	38				7.12
1051	1	礫石	安安			9.0	7.4	484.90
1052	1	削片	黒頁					3.25
1053	1	削片	黒頁	23				5.49
1054	1	削片	黒頁	28		3.1	4.7	10.81
1055	1	石核	黒頁	38		5.2	6.7	148.77
1056	1	削片	黒頁		9	8.0	5.5	117.14
1057	1	石核	黒安			3.5	4.3	30.36
1058	1	礫石	粗安			9.3	6.5	398.40
1059	1	石核	黒頁	12	25	6.0	5.7	156.41
1060	1	削片	黒頁	8		5.7	5.3	19.17
1061	1	石核	黒頁	4	1	7.4	7.6	250.50
1062	1	削片	黒頁	28	3	8.7	5.0	58.90
1063	1	石核	黒安			4.9	4.5	83.33
1064	1	削片	黒頁	4	1	5.3	5.8	36.91
1065	1	削片	黒頁	4	1	3.5	4.0	8.40
1066	1	削片	黒頁		8	5.7	5.3	31.83
1067	1	削片	黒頁	28	40	5.0	3.4	14.46
1068	1	削片	黒頁	4	1	3.1	2.6	11.24
1069	1	削片	黒頁	4	1	5.4	2.7	20.97

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1070	1	削片	黒頁					1.82
1071	1	削片	黒頁	4				7.46
1072	1	削片	黒頁					2.38
1073	1	彫器	黒頁			2.9	3.7	9.66
1074	1	削片	黒頁	28		4.0	2.5	27.17
1075	1	削片	黒頁	28	4			8.32
1076	1	撈削	黒頁			6.7	4.2	47.91
1077	1	削片	黒頁	4	1	2.4	3.3	12.01
1078	1	削片	黒頁	4	1	4.3	1.6	4.78
1079	1	削片	黒安	54				4.77
1080	1	削片	黒頁	1		5.7	3.5	31.96
1081	1	削片	黒頁	28	6			3.06
1082	1	削片	黒頁	28	6			19.46
1083	1	削片	黒頁	28	3	8.7	5.0	20.88
1084	1	削片	黒頁	28	3	8.7	5.0	6.43
1085	1	彫器	黒頁			5.3	2.4	10.20
1086	1	石核	珪頁	8	5	4.7	6.7	48.59
1087	1	削片	黒頁	28	7			14.00
1088	1	削片	黒頁			3.8	6.6	55.20
1089	1	礫石	砂岩			10.2	8.0	489.30
1090	1	削片	黒頁	4	1	3.5	6.1	27.97
1091	1	石核	珪頁	8	5	11.5	8.1	474.20
1092	1	削片	黒頁	4	1	9.5	4.0	69.56
1093	1	削片	黒頁			5.3	8.0	65.99
1094	1	削片	黒頁	28	2	4.7	5.3	38.50
1095	1	削片	黒頁	4	1	8.0	6.5	37.73
1096	1	削片	黒頁	4	1	2.5	1.7	2.68
1097	1	削片	黒頁	4	1	6.2	4.2	70.19
1098	1	削片	黒頁	4	1	4.5	3.7	72.30
1099	1	削片	黒頁	4	1	4.0	2.9	12.61
1100	1	削片	黒頁	28	4			4.77
1101	1	削片	黒頁	4		2.9	2.3	4.59
1102	1	削片	黒頁	28	2	4.9	4.1	9.85
1103	1	削片	黒頁	4	1	8.0	6.5	78.72
1104	1	撈削	黒頁	4	1	4.5	4.6	12.51
1105	1	削片	黒頁	4	1	1.8	3.0	5.47
1106	1	砕片	珪頁					14.19
1107	11	石核	黒安	43	96	11.2	7.6	113.65
1108	11	石核	黒安			5.6	4.0	60.53
1109	11	削片	黒頁	35	39	4.2	6.0	54.50
1110	11	石核	黒安	50		4.4	3.5	60.37
1111	11	削片	黒安	42	98	3.7	4.4	29.27
1112	11	削片	黒頁	35	39	5.5	6.7	27.18
1113	11	削片	黒安	43	96	4.0	6.9	33.06
1114	11	削片	黒安	43	96	(5.3)	4.4	37.70
1115	11	削片	黒頁					28.56
1116	11	削片	黒安	42	98	5.4	5.3	50.18
1117	11	削片	黒頁	35	39	4.2	3.2	7.78
1118	11	削片	黒安					12.40
1119	11	削片	黒頁	35	39	5.3	3.9	47.28
1120	11	削片	黒安	43	98	3.4	4.9	27.37
1121	11	削片	黒頁	1				15.84
1122	11	礫	安安		131	26.5	8.9	1767.50
1123	11	礫	粗安					3.06
1124	11	削片	黒頁	35	39	6.7	5.4	33.93
1125	11	—	—					—
1126	11	削片	黒頁	35	39	3.9	(2.3)	12.59
1127	11	石核	才			6.2	4.9	74.18
1128	11	削片	黒頁	28	10	4.9	4.9	25.01

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1129	11	小 槌	黒	安				1.59
1130	8	割片	黒	頁	66	34	4.9	2.4
1131	8	加割	黒	頁			(6.8)	5.0
1132	8	割片	黒	頁				21.84
1133	8	割片	黒	頁	66	34	6.4	4.5
1134	8	割片	黒	頁				3.74
1135	8	割片	黒	頁	36			7.88
1136	8	割片	黒	頁				4.11
1137	8	槌柄	黒	頁			6.5	4.6
1138	8	割片	黒	頁	35		4.1	4.6
1139	8	加割	黒	頁			5.7	3.9
1140	5	槌柄	珪	頁	56	26	8.8	4.3
1141	22	割片	黒	安				0.96
1142	4	割片	黒	安	54			1.86
1143	4	割片	黒	安				6.71
1144	4	割片	黒	安	54	87	5.0	2.7
1145	4	割片	黒	安	45	88	2.9	4.2
1146	4	割片	黒	安				2.65
1147	4	割片	黒	安	54	146	6.8	5.9
1148	4	石核	黒	安	3	66	10.8	10.4
1149	1	割片	珪	頁	2		2.5	6.2
1150	1	割片	黒	頁	28	2	4.9	4.1
1151	7	割片	灰	安	53	90	2.8	2.2
1152	1	割片	黒	頁	4	1	3.4	3.8
1153	19	割片	珪	頁				28.58
1154	19	割片	珪	頁	42	58	11.7	6.9
1155	19	割片	黒	頁	36	141	(1.4)	(2.6)
1156	19	割片	黒	安	47	119	8.7	7.9
1157	19	石核	黒	安	54	117	4.0	4.8
1158	21	割片	黒	頁	18	76	4.8	4.2
1159	21	割片	黒	安	81	124	3.5	4.7
1160	21	割片	黒	安	52			42.74
1161	21	割片	黒	安	24	72	5.2	2.6
1162	21	割片	黒	安				59.14
1163	21	割片	黒	安	18	77	5.5	5.9
1164	21	割片	黒	頁	3	66	5.9	5.9
1165	21	割片	黒	頁	18	75	4.8	8.5
1166	21	割片	黒	頁	6	69	6.8	(5.7)
1167	21	割片	黒	頁	18	75	4.8	8.5
1168	21	砥石	輝	緑			8.9	9.0
1169	20	割片	珪	頁	42	58	8.0	7.6
1170	20	割片	黒	安	79	122	3.8	4.3
1171	20	石核	黒	安	41	65	9.2	5.5
1172	20	石核	黒	安			5.7	6.6
1173	20	彫跡	ナ				8.4	3.5
1174	20	割片	黒	頁	41	65	5.6	3.8
1175	20	加割	黒	頁			5.3	5.8
1176	20	割片	黒	頁	1	62	7.5	5.5
1177	20	割片	黒	安	52			1.68
1178	20	ナイフ	ナ				5.9	4.6
1179	20	割片	黒	頁	64	4.5	4.4	18.29
1180	20	割片	黒	頁				5.33
1181	20	割片	黒	頁				28.77
1182	20	割片	黒	頁				1.98
1183	20	石核	黒	頁			5.5	4.8
1184	20	割片	黒	頁	1	62	8.3	5.1
1185	20	割片	黒	頁	1	62	7.0	7.0
1186	20	石核	黒	頁			8.4	8.1
1187	17	割片	黒	頁	33	139		4.45

遺物 No	出土 位置	器種	石材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1188	16	割片	黒	安	77	109	2.8	2.3
1189	21	割片	黒	頁	21			7.99
1190	21	小 槌	粗	安				30.48
1191	21	小 槌	珪	安				5.38
1192	21	割片	黒	頁	3	66	10.0	5.5
1193	21	割片	黒	安	54	87	3.0	4.3
1194	21	割片	黒	頁	6	69	(2.2)	2.6
1195	21	砂片	黒	頁				0.17
1196	21	割片	黒	頁	28			5.01
1197	21	割片	黒	頁				1.79
1198	21	割片	黒	頁				32.53
1199	21	割片	黒	頁				24.53
1200	21	割片	黒	頁	35			23.27
1201	21	割片	黒	頁	6	69	(5.5)	4.2
1202	21	割片	黒	頁				56.56
1203	21	加割	黒	安	80	123	5.7	5.3
1204	21	割片	黒	頁	28	67	2.4	2.6
1205	21	割片	黒	頁	3	66	5.1	8.5
1206	21	割片	黒	頁	6	69	8.4	5.7
1207	21	割片	黒	安	46		1.5	4.9
1208	21	割片	黒	直	27	68	3.3	(2.7)
1209	21	石核	黒	頁	27	68	5.5	5.3
1210	21	割片	黒	頁	27	68	5.1	(5.9)
1211	21	割片	黒	安	80	123	3.9	7.5
1212	21	割片	黒	安	80	123	3.9	7.5
1213	21	割片	黒	安	30	70	12.0	6.0
1214	18	割片	黒	安	78	115	7.4	5.3
1215	18	割片	黒	頁	26	51	3.8	2.3
1216	18	石核	黒	頁	34	54	6.0	6.8
1217	18	割片	黒	頁	34	54	3.7	6.0
1218	18	割片	黒	頁	26	51	3.4	1.6
1219	18	割片	黒	頁	37	116	5.0	5.0
1220	18	割片	黒	頁				1.33
1221	18	割片	黒	頁	37	116	3.7	4.7
1222	18	小 槌	粗	安				4.67
1223	18	割片	点	頁	25			1.97
1224	18	割片	点	頁	25		3.6	3.5
1225	18	小 槌	粗	安				5.94
1226	18	割片	黒	頁	26	51	3.4	4.0
1227	18	槌柄	黒	頁	37		5.2	3.3
1228	18	割片	黒	頁	27	68	3.0	(4.7)
1229	18	割片	黒	頁				24.38
1230	16	割片	黒	安	52	111	4.2	7.9
1231	16	割片	黒	頁	9	46	6.9	4.8
1232	16	加割	点	頁	25		2.2	3.5
1233	16	割片	黒	安	52	113	4.0	6.4
1234	16	割片	黒	頁				1.85
1235	19	割片	黒	安	47		7.6	5.3
1236	22	割片	黒	安				2.74
1237	22	尖刺	珪	頁	53		3.3	3.4
1238	22	割片	黒	安	29	145	5.1	4.6
1239	22	小 槌	粗	安				354.80
1240	20	割片	黒	頁				2.58
1241	20	割片	黒	頁	64	4.5	4.4	27.86
1242	20	割片	黒	頁				3.29
1243	20	割片	ナ		59	130	3.5	2.6
1244	20	割片	ナ					1.12
1245	20	割片	黒	頁	36	11	4.6	4.6
1246	20	割片	黒	頁	15			14.77

第II文化層 石器計測値一覧表

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1247	20	加	黒			5.3	4.9	40.09
1248	20	加	黒					8.34
1249	20	加	黒					90.90
1250	20	加	黒	1	62	7.0	6.8	106.63
1251	22	加	黒	5	79	5.7	4.2	62.45
1252	10	加	黒	52				73.29
1253	10	加	黒			3.9	(4.3)	14.32
1254	10	加	黒	40		7.6	4.9	53.61
1255	10	加	黒					1.40
1256	10	加	黒					8.23
1257	10	加	黒					13.74
1258	10	石	黒			5.7	3.8	61.60
1259	10	加	黒					0.51
1260	10	加	黒					0.95
1261	10	加	黒	15	36	3.5	4.2	6.38
1262	10	原	黒			18.1	10.1	1424.60
1263	10	ナイフ	黒			7.8	4.0	77.06
1264	10	加	黒					0.33
1265	10	加	黒					6.24
1266	10	加	黒					27.12
1267	10	加	黒	2	12	10.1	9.0	1.64
1268	10	加	黒	19	45	4.5	4.2	14.70
1269	10	加	黒	33				2.14
1270	11	加	黒	35	39	3.5	2.5	6.16
1271	5	加	黒	33				3.80
1272	2	加	黒	44	84	7.8	3.1	75.07
1273	2	加	黒	27		4.3	6.1	31.87
1274	2	加	黒	2	12	6.8	9.3	4.22
1275	2	加	黒	2	12	6.8	9.3	117.16
1276	2	加	黒	2	12	6.8	9.3	14.35
1277	2	石	黒	2	12	11.6	12.1	758.40
1278	2	加	黒					19.71
1279	2	礫	粗					220.00
1280	2	石	黒	33		4.5	4.7	61.97
1281	2	加	黒	33				78.41
1282	2	石	黒	31	15	6.9	5.0	93.33
1283	2	加	黒	33	135	6.0	4.9	74.35
1284	2	加	黒	33		3.8	5.6	69.30
1285	2	加	黒	31	15	2.9	4.1	20.42
1286	2	加	黒					22.61
1287	2	加	黒			6.8	8.1	149.99
1288	2	加	黒	2				6.44
1289	2	加	黒	2	12	5.7	5.7	12.39
1290	2	石	黒	21		8.3	5.2	146.95
1291	2	加	黒	64	13	3.8	2.8	8.35
1292	2	加	黒	10	16	3.4	3.0	9.91
1293	2	加	黒	27		4.8	3.1	25.10
1294	2	加	黒	64	13	2.9	5.5	12.06
1295	2	加	黒					7.81
1296	2	石	黒	44	83	5.9	4.6	107.68
1297	2	加	黒					5.30
1298	2	加	黒	2	12	5.4	6.2	59.69
1299	2	加	黒	44	83	2.7	3.9	14.37
1300	2	加	黒			5.7	(3.3)	30.33
1301	2	加	黒					2.12
1302	2	加	黒					20.89
1303	2	加	黒					5.58
1304	2	石	黒	10	18	5.9	5.1	84.97
1305	2	加	黒					4.73
1306	2	加	黒	44	83	3.3	3.6	3.87

遺物 No	出土 位置	器 種	石 材	母岩	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1307	2	加	黒	21	17	5.1	3.5	27.61
1308	2	加	黒	85	2.3	3.9		3.15
1309	2	加	黒					6.68
1310	2	加	黒	85	2.3	3.9		2.43
1311	2	加	黒	44	83	3.3	3.6	7.42
1312	2	加	黒	54	87	4.3	9.2	19.60
1313	3	加	黒					5.1
1314	2	加	黒	2	12	6.8	9.3	9.64
1315	2	加	黒	2	12	6.8	9.3	18.76
1316	2	加	黒	33	135	4.6	(1.7)	8.50
1317	16	加	黒	33	138	9.8	(4.2)	112.44
1318	13	加	黒					9.0
1319	13	加	黒	68	42	2.1	3.2	5.99
1320	13	加	黒	4				4.76
1321	13	加	黒					14.60
1322	13	加	黒					4.14
1323	13	加	黒	41	5.0	7.6		14.39
1324	13	加	黒	43	86	2.2	2.7	4.51
1325	13	加	黒			(4.8)	5.4	3.70
1326	13	加	黒					87.56
1327	13	石	黒	43	86	7.1	7.8	151.68
1328	13	加	黒	41	5.0	7.6		28.96
1329	13	小	黒					6.65
1330	13	加	黒	68	42	4.5	6.1	60.06
1331	13	加	黒	52				32.74
1332	13	加	黒					43.49
1333	13	加	黒	29	137	4.8	5.2	37.37
1334	13	加	黒					27.04
1335	13	加	黒	38	4.3	6.0		34.37
1336	13	加	黒	35	4.5	4.2		12.92
1337	13							
1338	14	加	黒	51	102	3.4	3.9	26.84
1339	14	加	黒	51	103	3.0	3.0	0.87
1340	14	加	黒	51	103	3.0	3.0	4.26
1341	14	加	黒	51	101	6.9	4.8	58.91
1342	14	石	黒			5.8	7.7	290.90
1343	14	小	粗					20.19
1344	14	石	黒			5.1	6.9	40.56
1345	14	加	黒	51	101	3.5	4.1	8.78
1346	14	加	黒	51	102	3.4	8.9	4.65
1347	14	加	黒	51	101	4.2	5.1	4.53
1348	14	加	黒	51	107	4.2	3.7	11.30
1349	14	石	黒	10	2.9	5.3		44.00
1350	14	加	黒	51	101	7.5	9.0	85.07
1351	14	加	黒	51				12.62
1352	14	加	黒	51				1.76
1353	14	加	黒	16				6.95
1354	14	加	黒	51	101			9.63
1355	14	加	黒	51		2.2	2.7	7.83
1356	14	加	黒	16		(4.2)	3.6	29.31
1357	14	加	黒	51				0.72
1358	14	加	黒	16	43	5.5	4.2	38.22
1359	14	加	黒	16	43	4.5	4.0	31.39
1360	14	加	黒	51	102	7.0	6.5	62.26
1361	14	加	黒	51	101	4.2	5.1	20.76
1362	14	加	黒	16				17.36
1363	14	加	黒					29.70
1364	14	加	黒	21		9.6	4.4	73.19
1365	14	石	黒	16	43	4.8	5.8	92.92

ナイフ形石器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
270	57 B13	264.12	22	黒安	43	96	8.0	4.7	85.68	
308	45 B24	265.71	7	ナ			6.5	2.5	26.20	
641	41 B11	265.97	6	黒安		7.8	2.4	27.40		
699	48 B20	265.29	5	黒安		5.7	1.5	6.54		
802	50 B27	265.27	8	ナ	63		5.1	2.5	10.29	
1178	52 B15	264.45	20	ナ			5.9	4.6	33.19	
1203	58 B23	264.47	10	黒安		7.8	4.0	77.08		

槌形石器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
525	51 B27	265.22	4	黒安	45	88	5.0	6.0	48.29	
554	53 B28	265.30	4	黒安			5.2	4.3	36.64	

彫器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
1023	51 B23	265.33	1	黒安			2.9	3.7	9.66	
1085	51 B23	265.31	1	黒安			3.5	2.4	10.20	
1173	52 B15	264.28	20	ナ			8.4	3.5	27.41	

鏝形石器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
306	44 B24	265.74	7	黒安	85	144	6.6	5.9	102.76	

槌・消器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
16	46 B12	263.68	13	ナ	4	49		5.9	4.7	63.13
165	52 B14	264.55	20	黒安			4.7	1.7	2.09	+106
170	52 B15	264.37	20	黒安	55		4.5	4.2	19.30	
188	53 B15	264.35	20	黒安			4.3	5.0	32.16	
199	51 B16	264.70	20	黒安			4.7	1.7	3.62	+165
229	53 B18	264.68	17	黒安	56		3.2	4.9	42.35	
264	57 B12	263.49	22	黒安	6	69		6.4	6.0	94.00
327	54 B14	264.25	21	黒安	28	67		5.7	5.4	66.54
425	57 B16	264.44	18	黒安			7.3	6.4	146.62	
451	54 B18	264.77	17	黒安	51		4.3	4.0	23.46	
498	56 B20	264.69	16	黒安			11.2	4.2	138.50	
504	55 B20	264.69	16	黒安	35	48		5.3	4.0	43.42
506	55 B20	264.77	16	黒安			5.1	5.6	64.37	
706	47 B11	265.60	5	黒安			7.3	5.1	38.37	
724	51 B21	265.00	16	黒安	31		2.3	2.8	6.01	
741	56 B22	264.62	19	黒安	41	94		3.5	3.5	20.98
779	56 B27	264.79	3	黒安	43	86		10.5	4.2	82.31
799	54 B20	265.01	4	黒安	17	14		5.9	4.7	25.39
864	56 B23	265.27	11	黒安			4.3	4.8	42.66	
866	56 B23	265.23	11	黒安			3.9	5.3	83.54	
905	53 B27	265.13	4	黒安			5.9	4.6	67.70	
906	53 B27	265.14	4	黒安			5.5	5.3	70.71	
1001	52 B29	265.27	4	黒安	54	67		4.7	3.8	32.25
1026	53 B20	265.21	4	黒安			4.5	4.5	45.96	
1076	52 B23	265.16	1	黒安			6.7	4.2	47.91	
1104	51 B24	265.32	1	黒安	4	1		4.3	4.6	12.31
1137	49 B26	263.44	8	黒安			6.5	4.6	59.98	
1127	55 B16	264.45	18	黒安	37		5.2	5.3	67.40	

挟入状石器

遺物 No	グリッド (m)	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
645	46 B20	265.34	12	黒安			5.2	3.6	22.16	

加工痕を有する剥片

遺物 No	タイプ	標高 (m)	出土 位置	石材	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
28	47-B13	265.94	15 庫裏	頁	51	106	3.7	4.7	8.25	
32	47-B13	265.85	15 庫裏	頁	51	104	7.3	4.0	35.45	
190	52-B16	264.74	20 庫裏	頁	1	62	4.6 (4.2)	28.35		
197	51-B16	264.67	20 庫裏	頁	1	62	7.0	7.0	37.11	+1185
198	51-B16	264.82	20 庫裏	頁	1	62	5.6	6.9	109.81	
233	53-B17	264.78	17 庫裏	頁	56	127	11.7	11.72	11.72	
247	53-B20	264.83	16 庫裏	頁	57	7.6	6.6	88.38		
253	54-B12	265.03	21 庫裏	頁	45	88	4.7	4.1	31.57	
279	57-B13	264.19	22 庫裏	頁	52	6.4	5.0	22.21		
301	54-B14	264.30	21 庫裏	頁	52	6.4	5.1	70.91		
306	55-B14	264.31	21 庫裏	頁	72	7.1	6.3	4.8	42.23	
310	55-B14	264.24	21 庫裏	頁	80	12.3	5.7	5.3	5.77	
333	54-B15	264.38	21 庫裏	頁	80	12.3	5.7	5.3	30.29	+1203+1203
358	54-B15	264.38	21 庫裏	頁	12	55	6.8	6.8	6.44	+106
381	57-B15	264.46	18 庫裏	頁	12	55	6.8	6.8	38.10	
616	57-B16	264.45	18 庫裏	頁	12	55	7.6	4.8	37.45	
655	54-B18	264.67	17 庫裏	頁	35	43.2	4.2	27.13		
659	57-B18	264.49	18 庫裏	頁	35	43.2	4.2	27.13		
674	54-B20	264.73	16 庫裏	頁	77	109	7.7	7.2	107.17	
680	55-B20	264.76	16 庫裏	頁	92	109	4.5	6.6	49.57	
683	55-B20	264.82	16 庫裏	頁	92	113	2.0	1.26		
699	56-B20	264.68	16 庫裏	頁	96	47	4.8	6.1	45.13	
501	56-B20	264.91	16 庫裏	頁	26	47	2.6	3.5	5.62	
516	59-B13	264.03	22 庫裏	頁	57	81	5.4	3.3	49.24	
573	45-B24	265.83	7 庫裏	頁	57	81	4.7	1.2	1.63	
590	44-B24	265.79	7 庫裏	頁	50	3.3	3.3	14.32		
597	43-B24	265.92	7 庫裏	頁	63	4.2	37.10	6.3	4.2	37.10
654	47-B23	265.37	11 庫裏	頁	43	6.3	4.2	37.10		
664	48-B24	265.47	11 庫裏	頁	43	6.3	4.2	37.10		
740	57-B22	264.60	10 庫裏	頁	43	94	4.0	4.3	22.85	
747	57-B22	264.87	10 庫裏	頁	43	94	4.0	4.3	22.85	
763	57-B24	264.58	10 庫裏	頁	43	86	9.8	9.3	201.20	
839	51-B22	264.38	11 庫裏	頁	31	21	10.2	6.7	261.90	
849	56-B22	264.38	11 庫裏	頁	43	96	3.4	1.5	4.95	
874	50-B23	266.22	9 庫裏	頁	28	39	5.1	5.0	48.94	
874	50-B23	266.22	9 庫裏	頁	33	20	3.6	1.5	5.30	
878	53-B23	264.93	9 庫裏	頁	26	19	3.0	2.8	6.60	
898	56-B26	265.41	8 庫裏	頁	50	56	5.2	4.3	21.03	

遺物 No	タイプ	標高 (m)	出土 位置	石材	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
942	32-B26	265.16	4 庫裏	頁	36	5.9	3.5	47.17		
990	51-B29	265.21	4 庫裏	頁	36	6.9	8.2	149.41		
1038	51-B32	265.22	1 庫裏	頁	50	6.5	6.5	54.30		
1042	52-B32	265.28	1 庫裏	頁	50	4.6	3.2	23.21		
1131	49-B28	265.44	8 庫裏	頁		(6.8)	5.0	74.63		
1139	49-B27	265.47	8 庫裏	頁		5.7	3.9	26.77		
1175	49-B15	264.36	20 庫裏	頁		5.3	5.8	48.42		+338+258
1203	54-B14	264.22	21 庫裏	頁	60	12.3	5.7	5.3	4.11	
1232	55-B20	264.61	16 庫裏	頁	35	2.2	2.2	2.5	7.36	
1247	52-B15	264.37	20 庫裏	頁		5.3	4.9	40.09		
1253	49-B22	264.33	19 庫裏	頁		2.9	2.9	14.32		
1254	49-B22	264.33	19 庫裏	頁	40	7.6	4.9	33.01		
1272	58-B29	264.64	2 庫裏	頁	44	8.4	7.8	3.1	75.07	
1291	57-B31	264.76	2 庫裏	頁	64	6.8	8.1	149.09		
1294	56-B31	264.78	2 庫裏	頁	64	13	3.8	5.5	12.08	
1300	58-B28	264.79	2 庫裏	頁	64	13	3.8	5.5	12.08	
1313	58-B26	264.63	3 庫裏	頁		5.1	4.1	34.57		
1336	42-B19	265.15	13 庫裏	頁	35	4.5	4.2	12.92		例I-A 19
1355	42-B13	263.35	14 庫裏	頁	51	7.5	9.0	85.07		例I-A 33
1355	41-B14	263.69	14 庫裏	頁	51	2.2	2.7	7.83		例I-A 38
1360	41-B14	263.47	14 庫裏	頁	51	102	7.0	6.5	62.38	

斧形石器

遺物 No	タイプ	標高 (m)	出土 位置	石材	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
642	45-B23	265.68	6 庫裏	頁		6.3	4.1	37.13		

使用痕を有する剥片

遺物 No	タイプ	標高 (m)	出土 位置	石材	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備	考
169	51-B14	264.35	20 庫裏	頁	60	129	3.2	2.5	6.86	
169	53-B14	264.34	21 庫裏	頁	55	3.5	2.2	6.13		
311	54-B14	264.27	21 庫裏	頁	28	67	7.0	5.3	49.63	
334	56-B14	264.27	18 庫裏	頁		12.4	1.9	2.84		

第Ⅱ文化層 石硯計測値一覧表

遺物 No	ドリット (m)	標高 位置	石 材	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考
302	54-013	264.22	21 黒頁	27	68	3.3	24.49	
323	34-014	264.29	21 黒頁	28	67	3.1	32.16	
330	35-014	264.29	21 黒頁	28	67	3.4	21.29	
340	35-014	264.40	21 黒頁	29	68	4.8	40.37	
379	37-015	264.44	18 黒頁	27	68	3.2	34.4	27.86
410	35-016	264.46	18 黒頁	25	66	7.5	9.5	417.88
419	37-016	264.46	18 黒頁	11	52	10.1	8.2	208.29
423	37-016	264.43	18 黒頁	11	52	4.2	5.6	81.41
424	37-016	264.41	18 黒頁	11	52	8.9	6.9	177.87
427	37-016	264.45	18 黒頁	6.5	7.2	100.63		
441	35-017	264.40	18 黒頁	28	31	7.9	6.4	114.59
445	35-017	264.62	18 黒頁	69	37	5.8	6.2	206.29
466	36-019	264.63	19 黒頁	9	46	6.2	4.4	107.00
483	36-020	264.63	16 黒頁	48	112	10.0	8.0	506.19
486	36-020	264.63	16 黒頁	52	113	8.6	11.2	518.89
502	35-020	264.76	16 黒頁	43	108	11.2	4.6	57.96
503	35-020	264.70	16 黒頁			4.5	6.3	96.63
505	35-020	264.77	22 黒頁	33	126	6.5	4.3	92.37
508	36-022	263.81	22 黒頁	28	9.0	6.3	209.70	
517	36-013	263.99	22 黒頁	26	31	2.4	6.2	64.95
538	36-014	264.16	22 黒頁	5	79	7.6	12.0	628.09
544	36-014	264.24	22 黒頁			6.0	4.1	33.62
552	39-014	264.13	22 黒頁	74	82	7.6	4.7	101.88
581	45-024	265.74	7 灰 子	53	90	10.4	5.2	228.90
582	45-024	265.74	7 灰 子	29	9.0	3.7	32.50	
583	45-025	265.77	7 黒頁	25	91	5.3	5.1	85.35
614	45-025	265.74	7 黒頁	29	7.5	8.0	247.29	
615	45-025	265.74	7 灰 子	53	90	6.3	5.2	102.74
625	43-036	265.87	7 粗 砂			5.6	4.4	71.94
649	48-022	265.44	11 黒頁	1	62	5.0	6.3	143.11
650	48-022	265.35	11 黒頁			5.2	5.5	109.66
651	48-023	265.38	11 黒頁	43	100	5.2	4.9	82.55
667	48-025	265.54	8 黒頁			4.2	6.1	60.83
673	48-038	265.47	8 黒頁			3.6	3.6	21.52
676	48-038	265.39	8 黒頁			5.4	4.2	32.93
679	47-026	265.78	8 黒頁			3.5	4.6	46.29
680	47-026	265.55	8 黒頁	61	128	5.8	7.2	294.30
688	46-039	265.76	5 黒頁			5.3	4.4	43.18
689	46-039	265.80	5 黒頁			5.2	3.4	26.72

遺物 No	ドリット (m)	標高 位置	石 材	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考
326	56-014	264.25	18 砂	63	1.7	2.7	2.36	
464	34-010	264.76	16 砂	59	6.1	4.3	47.46	
476	34-020	264.81	16 砂	59	7.1	3.1	19.70	
488	36-020	264.62	16 黒頁	56	9.2	7.4	133.65	
363	44-021	265.48	12 粗 砂	37	3.7	5.1	19.33	
637	44-030	265.87	6 粗 砂	26	8.0	3.5	25.38	
684	48-029	265.48	5 粗 砂	56	7.8	5.5	49.07	
692	46-030	265.64	5 粗 砂	27	7.7	3.1	8.63	+684
694	47-020	265.74	5 粗 砂	27	7.7	3.1	26.70	+692
891	52-025	265.06	9 粗 砂		4.1	5.4	31.97	
893	51-027	265.29	4 粗 砂		2.5	2.5	37.45	
918	52-027	265.16	4 粗 砂		6.9	2.2	66.65	
1140	49-029	265.44	5 粗 砂	56	8.8	4.3	52.25	
1237	58-014	264.15	22 粗 砂	55	3.3	3.4	10.89	
1259	53-016	264.21	29 粗 砂	1	62	7.0	6.9	106.53

石
板

遺物 No	ドリット (m)	標高 位置	石 材	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考
26	47-013	263.94	15 灰 安	51	105	9.4	5.7	112.93
64	48-016	264.70	19 粗 砂	24	39	8.0	5.4	106.00
66	48-017	264.75	19 粗 砂	36	141	6.3	4.4	110.70
82	56-017	264.77	19 粗 砂	24	142	3.6	8.9	112.49
101	48-017	264.84	19 粗 砂	24	142	7.8	5.3	131.75
115	49-018	264.87	19 粗 砂	31	6.3	3.9	33.99	
123	52-012	265.79	21 粗 砂	31	5.2	4.2	58.81	
164	54-014	264.45	29 粗 砂	79	122	6.1	7.2	97.32
178	54-015	264.26	29 粗 砂	60	129	3.3	4.1	29.76
180	50-015	264.44	29 粗 砂	1	62	3.8	3.2	53.71
185	51-015	264.54	29 粗 砂	1	4.1	3.6	37.70	
202	51-016	264.59	29 粗 砂	1	62	5.5	8.9	124.86
206	51-016	264.69	29 粗 砂	1	62	7.1	4.4	75.99
208	51-016	264.63	29 粗 砂	1	62	8.0	6.1	224.59
207	51-016	264.66	29 粗 砂	1	62	3.8	4.9	61.37
211	50-017	264.97	19 粗 砂	70	60	4.0	3.5	29.25
224	51-017	264.77	19 粗 砂	6	69	7.5	4.4	92.94
290	35-013	264.67	21 粗 砂	6	69	8.7	9.5	680.29

遺物 No.	グリップ (m)	幅高 (m)	出土位置	石材	厚径	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備考	
1066	51-53X	385-29	1 埋瓦	埋瓦	5	4.7	6.7	46.59		
1091	51-53X	385-27	1 埋瓦	埋瓦	8	5	11.5	8.1	474.20	
1107	49-B22	385-22	11 埋瓦	埋瓦	43	96	11.2	7.6	113.65	+808
1108	49-B22	385-31	11 埋瓦	埋瓦	43	96	5.6	4.0	60.32	
1110	49-B22	385-39	11 埋瓦	埋瓦	90	144	4.4	5.5	60.37	
1127	55-B21	385-32	11 埋瓦	埋瓦	3	66	6.2	4.9	74.19	
1148	53-B23	384-09	4 埋瓦	埋瓦	3	66	10.8	10.4	545.00	
1157	49-B17	384-73	19 埋瓦	埋瓦	54	117	4.0	4.8	37.66	
1171	52-B15	384-34	20 埋瓦	埋瓦	41	65	9.2	5.5	333.86	
1172	53-B15	384-34	20 埋瓦	埋瓦	41	65	5.7	6.6	110.57	
1183	53-B16	384-31	20 埋瓦	埋瓦	41	65	5.5	4.8	37.30	
1186	52-B16	384-51	20 埋瓦	埋瓦	41	65	8.4	8.1	384.60	
1209	54-B15	384-45	21 埋瓦	埋瓦	27	68	5.5	5.3	69.20	
1216	54-B15	384-36	18 埋瓦	埋瓦	34	54	6.0	6.8	194.86	
1258	58-B23	384-53	10 埋瓦	埋瓦	2	12	5.7	3.8	51.60	
1277	58-B29	384-64	2 埋瓦	埋瓦	2	12	11.6	12.1	758.40	
1280	59-B29	384-57	2 埋瓦	埋瓦	23	45	4.5	4.7	51.87	
1282	59-B29	384-58	2 埋瓦	埋瓦	31	15	6.9	5.0	93.53	
1286	58-B29	384-66	2 埋瓦	埋瓦	21	83	8.3	5.2	146.92	
1296	58-B29	384-68	2 埋瓦	埋瓦	44	83	5.9	4.6	107.66	
1304	58-B29	384-68	2 埋瓦	埋瓦	10	16	5.9	5.1	84.97	備1-A10
1327	43-B19	383-27	13 埋瓦	埋瓦	43	80	7.1	7.8	351.66	備1-A25
1332	43-B14	383-66	14 埋瓦	埋瓦	10	10	5.8	7.7	290.90	備1-A32
1344	42-B14	383-66	14 埋瓦	埋瓦	10	10	5.1	6.9	40.56	備1-A37
1349	42-B13	383-49	14 埋瓦	埋瓦	10	10	2.9	5.3	41.00	備1-A32
1365	42-B15	383-86	14 埋瓦	埋瓦	16	43	4.8	5.8	92.87	備1-A48

破石

遺物 No.	グリップ (m)	幅高 (m)	出土位置	石材	厚径	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備考
73	49-B16	384-70	19 埋瓦	埋瓦	133	9.8	7.2	600.56	
152	50-B13	384-15	21 埋瓦	埋瓦	11.3	13.8	11.3	1296.60	
218	50-B17	384-74	19 埋瓦	埋瓦	19	19	5.0	540.60	
219	50-B17	384-74	19 埋瓦	埋瓦	19	19	5.0	346.70	
230	53-B17	384-66	17 埋瓦	埋瓦	7.7	7.7	7.2	562.60	
234	52-B18	384-68	17 埋瓦	埋瓦	15.1	15.1	8.2	774.30	
240	52-B18	384-72	17 埋瓦	埋瓦	14.6	14.6	13.3	995.70	
242	53-B18	384-73	17 埋瓦	埋瓦	14.6	14.6	13.3	1447.30	

遺物 No.	グリップ (m)	幅高 (m)	出土位置	石材	厚径	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	備考	
461	47-B38	385-71	5 埋瓦	埋瓦	38	4.7	3.5	47.81		
493	48-B38	385-67	5 埋瓦	埋瓦	38	20.6	16.2	1222.30		
696	47-B38	385-66	5 埋瓦	埋瓦	62	127	4.6	4.8	87.89	
709	48-B38	385-53	5 埋瓦	埋瓦	12	25	7.3	7.7	343.60	
729	55-B21	384-89	16 埋瓦	埋瓦	43	108	11.2	4.9	41.72	+802
727	55-B21	384-74	16 埋瓦	埋瓦	19	45	6.7	6.9	211.19	
732	55-B21	384-69	16 埋瓦	埋瓦	19	45	5.1	7.3	63.35	
779	55-B24	384-85	2 埋瓦	埋瓦	52	83	8.8	458.00		
783	56-B27	384-84	2 埋瓦	埋瓦	43	80	4.9	8.8	87.20	
791	54-B28	384-99	4 埋瓦	埋瓦	13	20	5.0	7.3	127.18	
792	54-B28	384-98	4 埋瓦	埋瓦	13	20	7.3	5.3	274.86	
805	57-B38	384-78	2 埋瓦	埋瓦	21	17	5.9	6.6	132.96	
810	56-B31	384-91	2 埋瓦	埋瓦	64	13	4.8	6.7	44.34	+804
812	56-B31	384-88	2 埋瓦	埋瓦	21	18	5.7	7.0	88.44	
814	56-B31	384-86	2 埋瓦	埋瓦	21	18	6.3	5.2	73.20	
815	56-B31	384-89	2 埋瓦	埋瓦	21	18	5.5	7.4	79.93	
838	51-B22	385-09	11 埋瓦	埋瓦	43	96	11.2	7.6	136.74	+1107
851	56-B22	385-21	11 埋瓦	埋瓦	35	39	5.8	6.7	227.26	
862	52-B23	384-92	9 埋瓦	埋瓦	13	20	8.6	5.1	158.48	
865	53-B23	384-98	9 埋瓦	埋瓦	13	20	6.3	4.7	84.86	
868	53-B24	384-99	9 埋瓦	埋瓦	26	19	7.0	8.9	170.33	
883	58-B28	385-36	8 埋瓦	埋瓦	23	9.3	6.2	460.30		
885	59-B27	385-29	8 埋瓦	埋瓦	83	336	4.8	5.3	71.62	
899	59-B27	385-25	8 埋瓦	埋瓦	45	88	5.2	8.6	382.40	
934	51-B28	385-24	4 埋瓦	埋瓦	26	19	6.4	6.5	152.89	
945	53-B28	385-05	4 埋瓦	埋瓦	43	6.3	5.3	97.25		
988	51-B29	385-27	4 埋瓦	埋瓦	43	89	13.0	7.6	100.29	+889
981	51-B29	385-23	4 埋瓦	埋瓦	64	13	4.8	6.7	34.95	+810
982	59-B29	385-39	4 埋瓦	埋瓦	7	22	11.7	9.8	867.59	
983	59-B29	385-35	4 埋瓦	埋瓦	7	24	5.8	4.9	80.29	
989	51-B29	385-24	4 埋瓦	埋瓦	43	89	13.0	7.6	212.30	+880
996	52-B29	385-16	4 埋瓦	埋瓦	54	87	5.2	5.2	137.15	
1009	52-B29	385-12	4 埋瓦	埋瓦	54	87	4.4	6.6	84.36	
1025	52-B29	385-14	4 埋瓦	埋瓦	54	87	5.0	6.7	96.93	
1025	52-B29	385-11	4 埋瓦	埋瓦	7.1	1.1	4.6	76.79		
1053	51-B32	385-25	1 埋瓦	埋瓦	38	5.2	6.7	148.77		
1057	51-B32	385-22	1 埋瓦	埋瓦	38	5.2	6.7	30.36		
1059	59-B32	385-31	1 埋瓦	埋瓦	12	25	6.0	5.7	156.41	
1061	59-B33	385-25	1 埋瓦	埋瓦	4	1	7.4	7.6	250.59	
1063	59-B33	385-26	1 埋瓦	埋瓦	4	1	4.9	4.5	83.23	

第II文化層 石器計測値一覧表

建物 No	グリッド	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩 種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
661	48-B27	265.48	8 床 瓦			18.3	9.2	1659.40	
853	50-B27	265.20	11 床 瓦			18.8	11.1	1682.50	
1262	58-B23	264.52	10 床 瓦			18.1	10.1	1424.60	

台石

建物 No	グリッド	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩 種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
527	50-B14	264.07	22 相 瓦			13.8	11.6	1364.30	

建物 No	グリッド	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩 種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
257	56-B12	262.78	21 家 瓦		134	15.6	8.6	962.80	
267	57-B13	264.02	22 横 礎			13.8	11.9	1064.10	
277	54-B12	263.95	21 四 礎			14.6	10.8	1335.60	
325	54-B14	264.37	21 相 瓦			18.0	11.0	1163.30	
458	57-B18	264.51	18 相 瓦			30.4	8.3	2070.00	
509	56-B20	264.66	16 瓦 瓦			15.0	13.2	1070.20	
595	43-B24	265.88	7 相 瓦			9.8	7.3	435.20	
604	43-B25	265.93	7 家 瓦			11.2	6.4	403.20	
629	44-B29	265.66	6 横 礎			7.1	7.2	265.00	
682	48-B29	265.43	5 土 石			11.8	9.1	491.80	
735	35-B23	264.82	10 砂 石			20.1	9.0	1410.20	
772	56-B24		10 相 瓦			9.3	8.4	546.60	
873	53-B23	264.99	9 床 瓦			8.3	7.2	391.50	
1051	52-B32	265.13	1 家 瓦			9.0	7.4	464.50	
1058	51-B32	265.27	1 相 瓦			9.3	6.5	398.40	
1089	51-B33	265.25	1 砂 石			10.2	8.0	489.20	
1168	55-B14	264.20	21 横 礎			8.9	9.0	456.10	

礎石

建物 No	グリッド	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩 種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
875	53-B23	265.00	9 床 瓦			13.2	9.3	799.00	
907	53-B27	265.05	4 土 石			12.9	9.2	711.50	
929	50-B27	265.21	4 床 瓦		65-23	14.3	8.3	684.50	

原石

建物 No	グリッド	標高 (m)	出土 位置	石材	母岩 種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
182	50-B15	264.43	20 家 瓦			19.3	9.9	1542.20	
337	56-B14	264.20	18 床 瓦			10.5	9.2	880.20	
429	56-B16	264.40	18 床 瓦			10.2	14.1	1104.20	
434	54-B17	264.61	17 床 瓦			16.3	12.3	2006.40	
465	55-B19	264.64	16 床 瓦			25.6	12.6	2442.00	
568	58-B15	264.24	22 床 瓦			13.2	13.3	1382.00	
539	58-B15	264.24	22 床 瓦			16.6	13.9	2131.00	

写 真 图 版



新川文化層 遺物出土状態全景 (北から望む)



新川文化層 遺物出土状態全景 (南から望む)

第II文化層
遺物出土状態全景



第II文化層
拡張区試掘全景

第II文化層
遺物出土状態全景



第II文化層
東側々道遺物出土状態



第II文化層
8号ブロック遺物出土状態

第II文化層
1号ブロック遺物出土状態



第II文化層
11号ブロック遺物出土状態



第II文化層
4号ブロック遺物出土状態

第II文化層
4号ブロック遺物出土状態

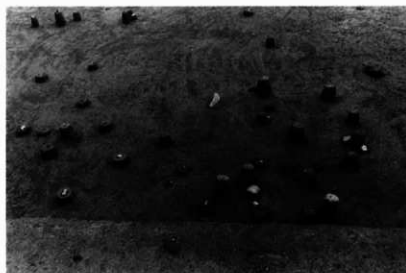


第II文化層
21号ブロック遺物出土状態



第II文化層
22号ブロック遺物出土状態

第II文化層
16号ブロック遺物出土状態





第II文化層 5号ブロックNo.699出土状態



第II文化層 6号ブロックNo.641出土状態



第II文化層 16号ブロックNo.498出土状態



第II文化層 20号ブロックNo.170出土状態



第II文化層 6号ブロックNo.642出土状態



第II文化層 6号ブロックNo.637出土状態



第II文化層 4号ブロックNo.907出土状態



第II文化層 6号ブロックNo.636出土状態

第III文化層
遺物出土状態



第III文化層
遺物出土状態

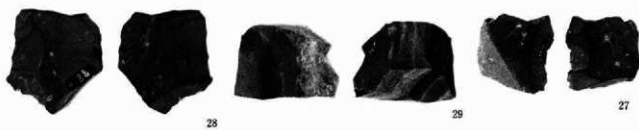
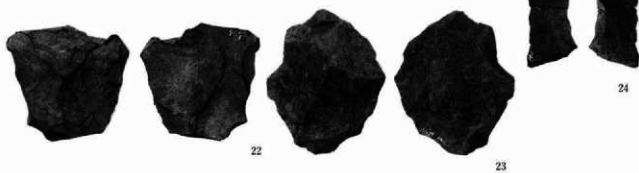
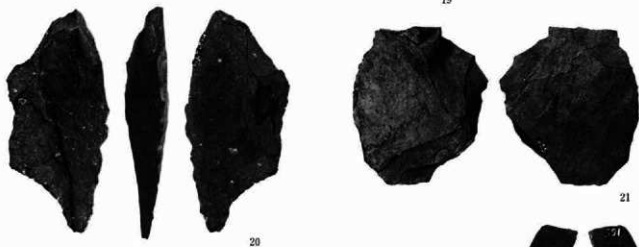


土層剝ぎ取り作業

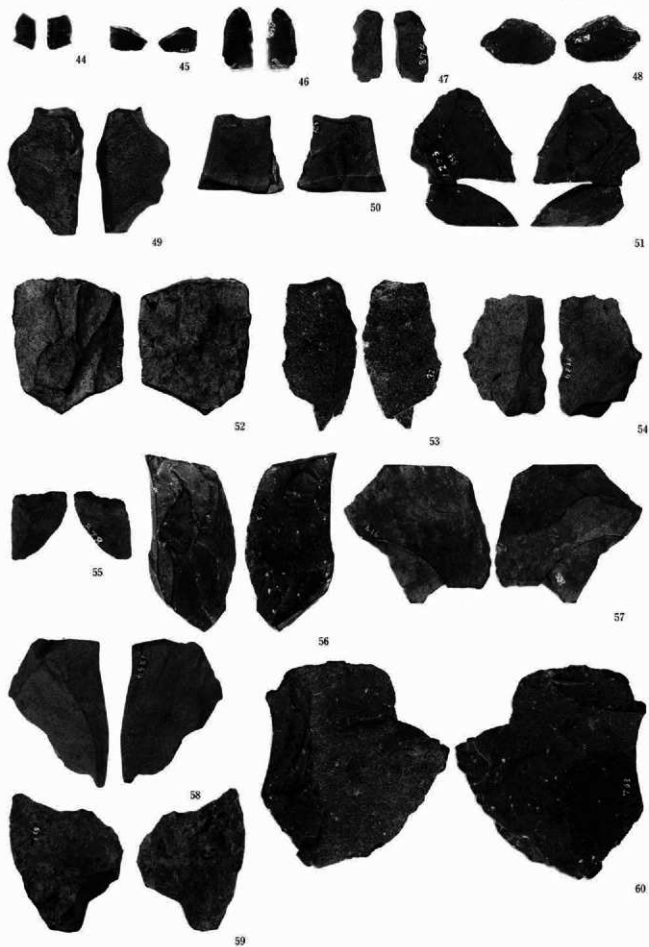


土層剝ぎ取り作業

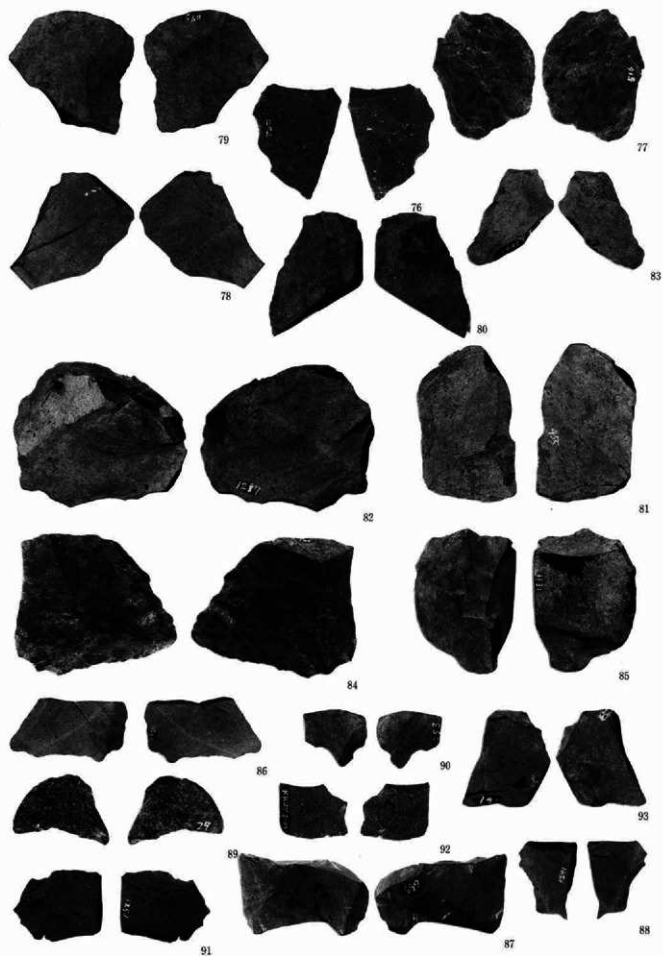




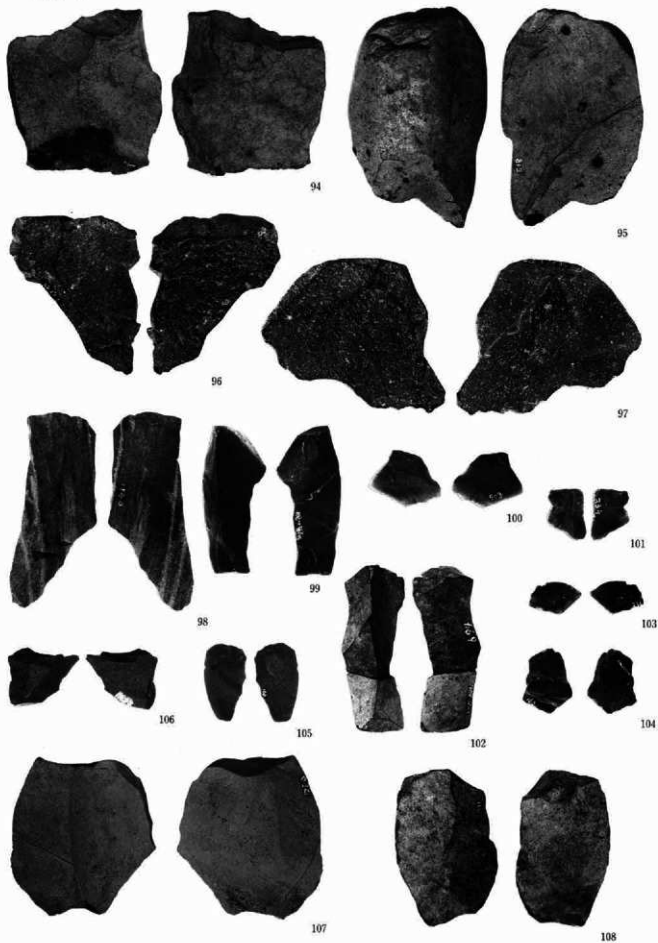


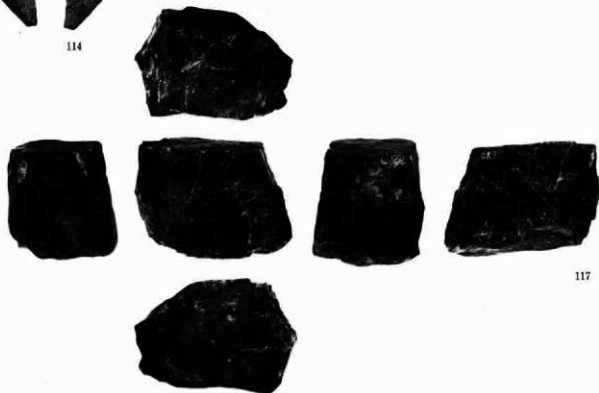
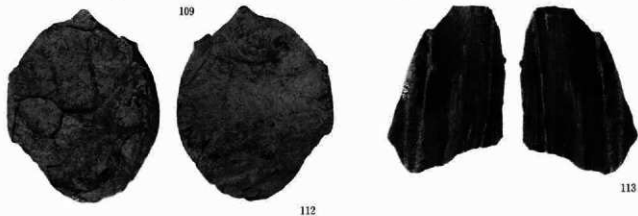






第II文化層 出土石器









124



125



126



127



130



129



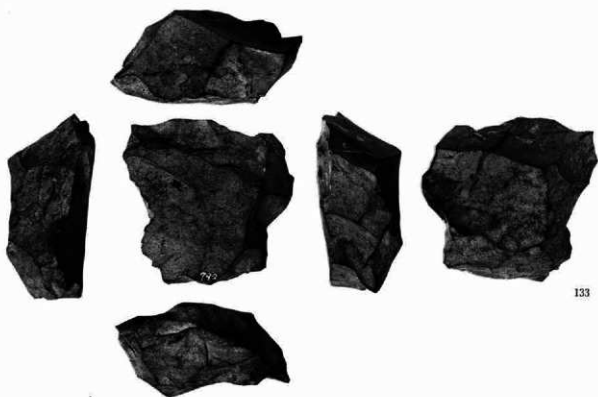
128



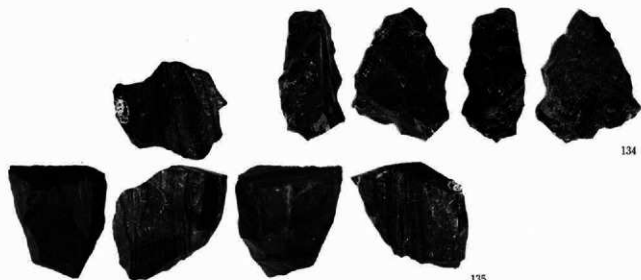
132



131



133



134



136



138



187



139

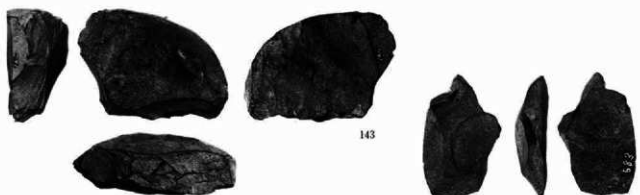


140



141

142



143

144

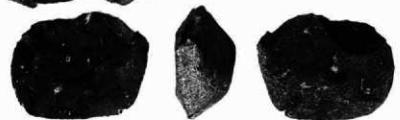


146

145



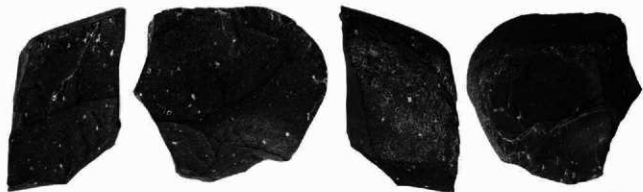
147



148



149



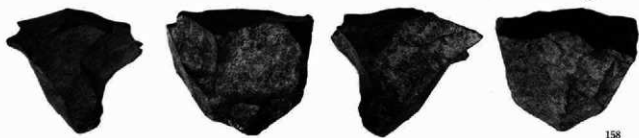
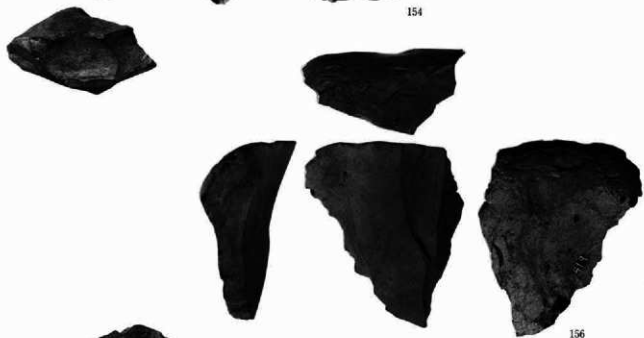
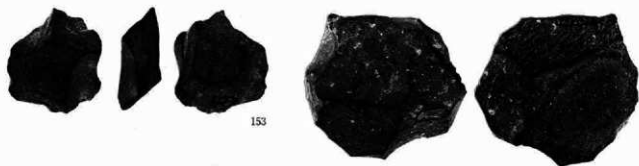
150



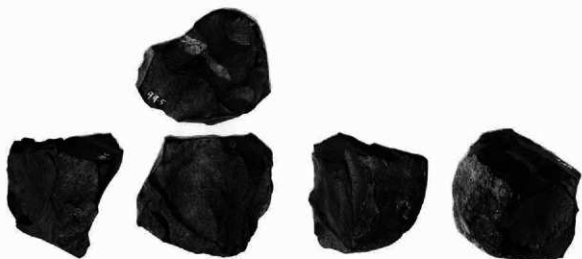
151



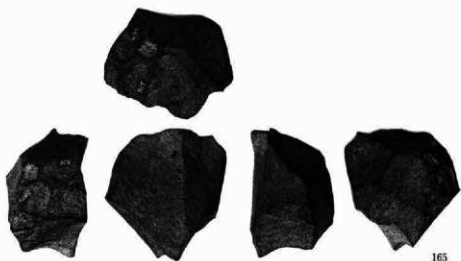
152



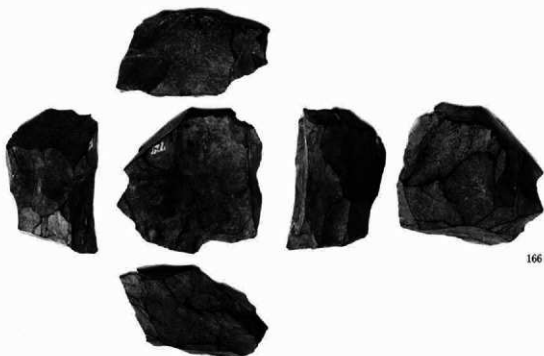




164



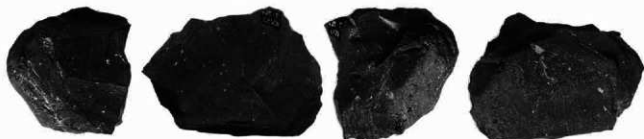
165



166



168



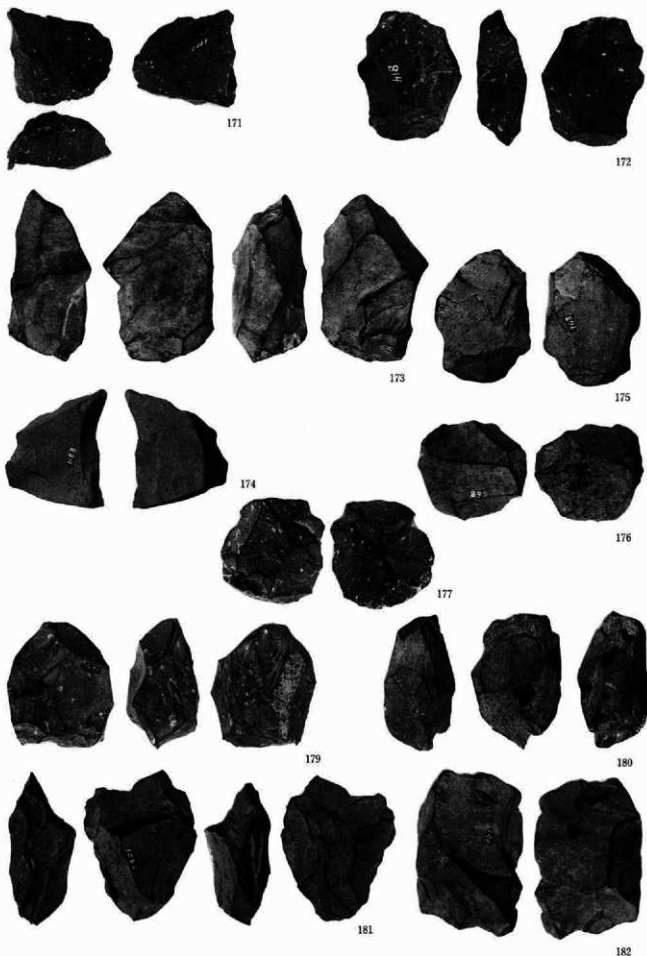
169



167

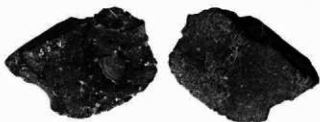
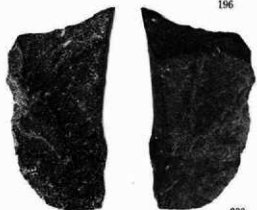


170





192





205



207



208



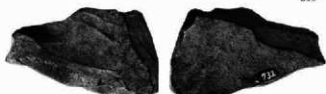
206



209



210

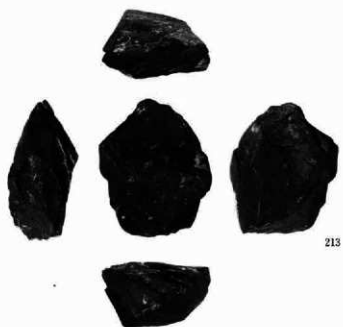


211



212





213



214



215



216



217

219



220



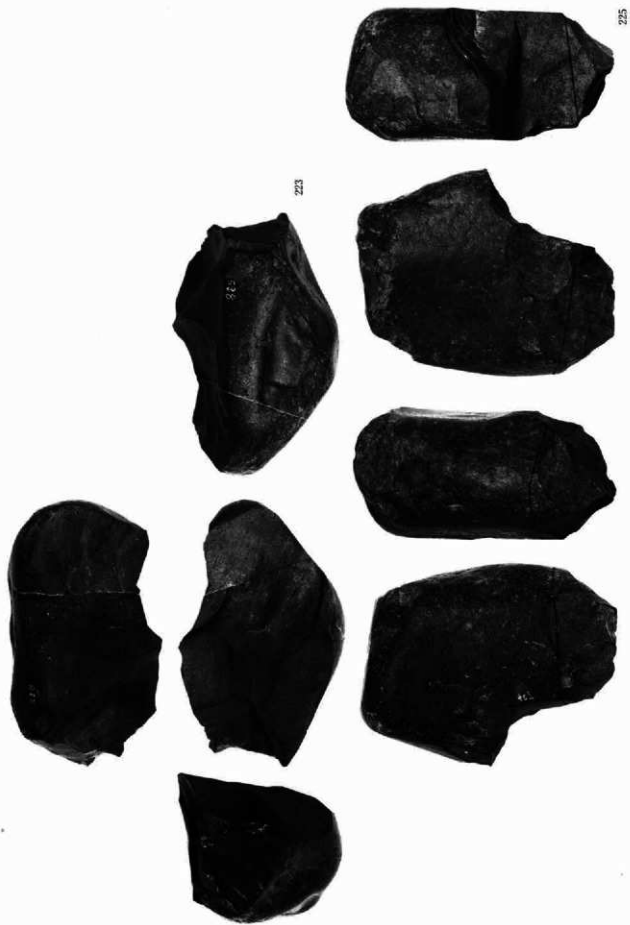
221

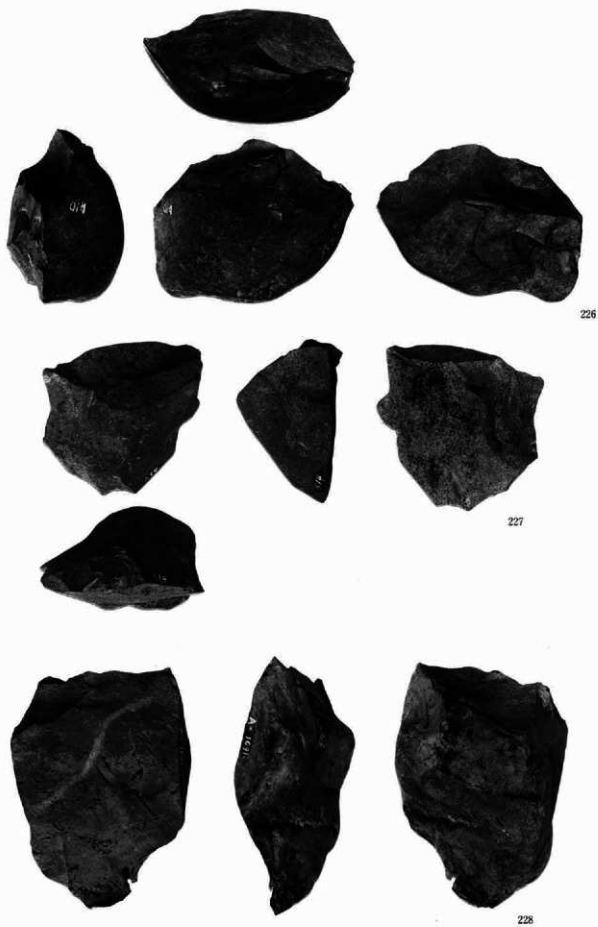


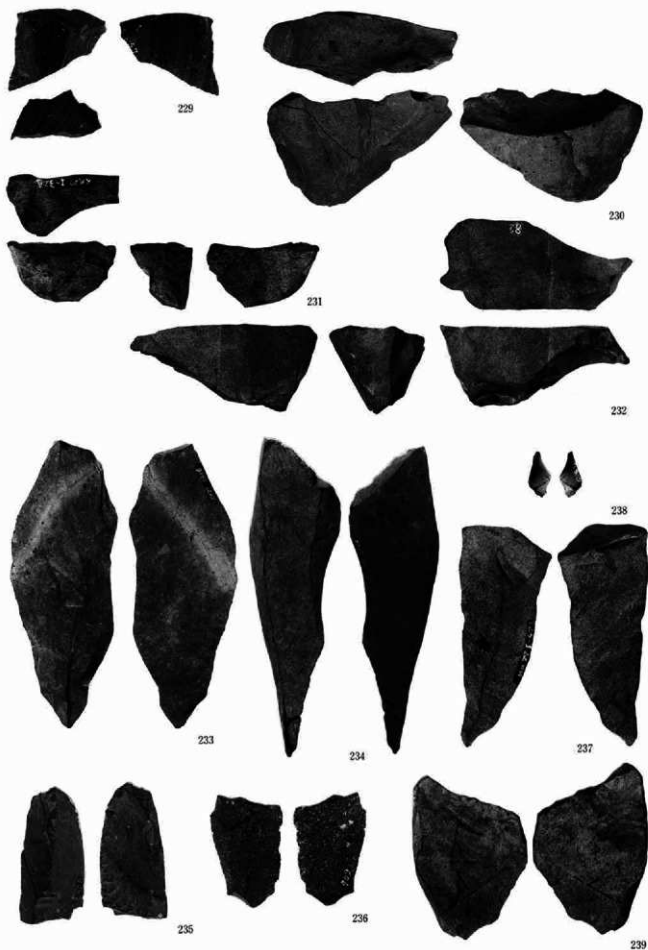
222

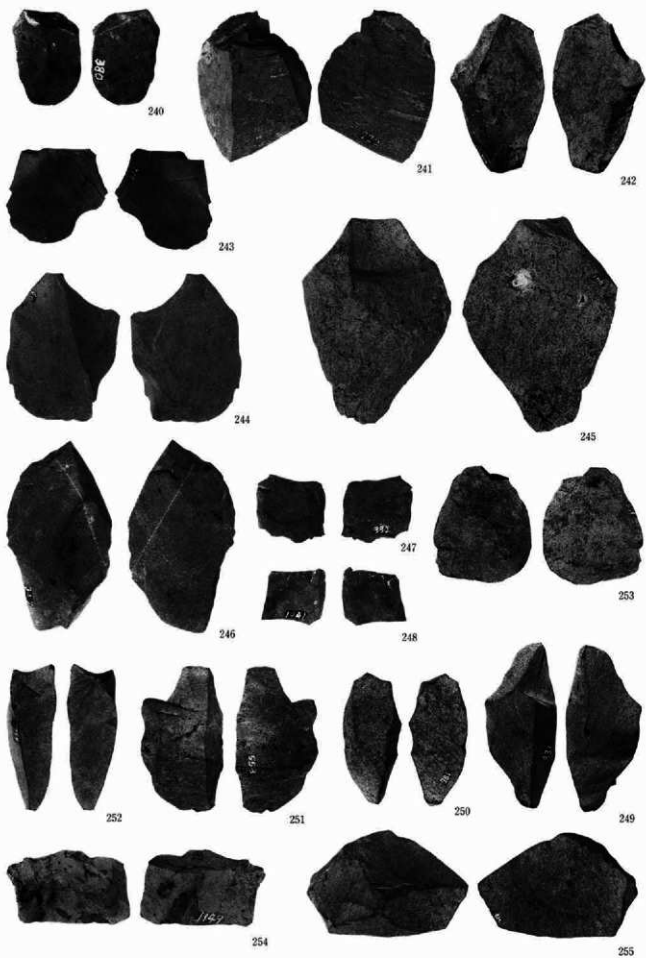


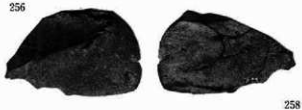
224













261



262

第II文化層 出土石器



263



264



265



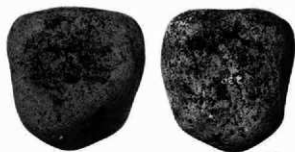
267



269



266



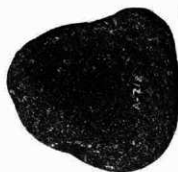
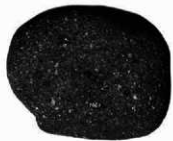
268



271



270



273



272





274



275



276



277



260



278



279



277



283



280



281



284





285



287



291



286



288



289



292



295



299



298



300



294



296



接合資料②
(09B1)





接合資料12
(原寸)

综合资料66
(图版 1)



第II文化層 出土石器综合資料





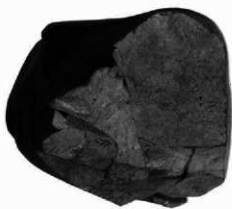
綜合資料1
(原形4)



第II文化層 出土石器綜合資料



接合資料79
(傳習3)



考古資料69
(傳世品)



综合资料22
(00017)



接合資料5
(母體8)



接合資料16
(母體10)

接合資料46
(母體9)

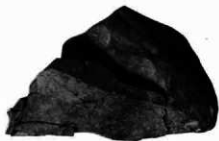


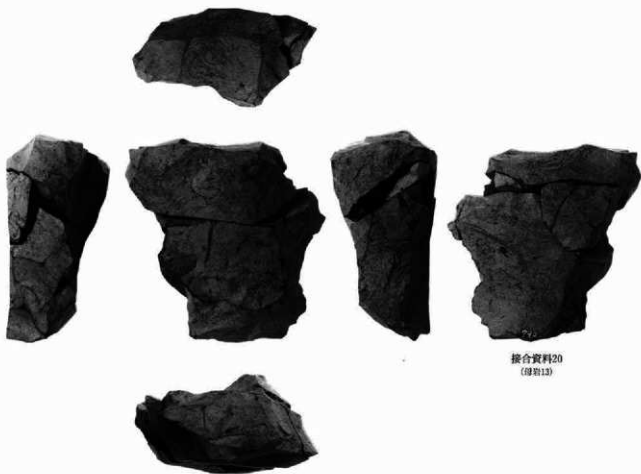
接合資料52
(母體11)

综合资料55
(图3112)



综合资料25
(图3112)





接合資料20
(母岩13)



接合資料49
(母岩14)



接合資料50
(母岩14)



接合資料36
(母岩15)



接合資料14
(母岩17)



接合資料76
(母岩18)



接合資料43
(母岩16)



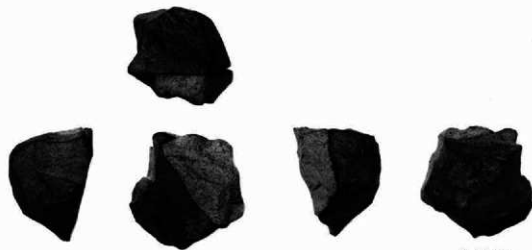
接合資料77
(母岩16)



接合資料45
(母岩19)



接合資料29
(母岩20)



接合資料17
(母岩21)



接合資料18
(母岩21)



接合資料72
(母岩24)



接合資料59
(母岩24)



接合資料142
(母岩24)



接合資料19
(母岩26)



接合資料48
(母岩25)



接合資料47
(母岩26)



接合資料51
(母岩26)



接合資料48
(原寸2/3)



接合資料53
(原寸2/3)



综合资料67
(049123)



接合資料 2
(母岩28)



接合資料32
(母岩28)

接合資料 3
(母岩28)



接合資料40
(母岩28)



接合資料137
(母岩29)



接合資料10
(母數30)



接合資料21
(母數31)



接合資料15
(母數31)



接合資料30
(母體32)



接合資料31
(母體32)



接合資料138
(母體33)



接合資料135
(母體33)



接合資料54
(母體34)



组合资料11
(编号36)



组合资料41
(编号36)



组合资料39
(编号35)



组合资料116
(编号37)





接合資料61
(母岩40)



接合資料65
(母岩41)



接合資料58
(母岩42)





接合資料86
(母岩43)



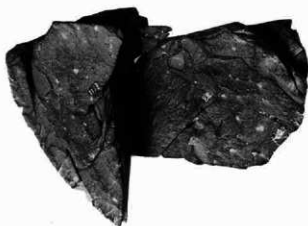
接合資料98
(母岩43)



综合资料94
(99043)

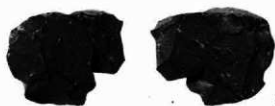


综合资料95
(99043)



第II文化層 出土石器综合资料





接合資料100
(母岩43)



接合資料108
(母岩43)



接合資料83
(母岩44)



接合資料84
(母岩40)



接合資料88
(母岩45)



接合資料118
(母岩47)



接合資料119
(母岩47)



接合資料120
(母岩47)



接合資料112
(95-0458)



接合資料121
(95-0447)



接合資料101
(95-0451)



接合資料105
(母形51)



接合資料102
(母形51)



接合資料106
(母形51)



接合資料110
(母形52)



接合資料104
(母形51)





接合資料93
(母體52)



接合資料113
(母體52)



接合資料90
(母體63)



综合材料87
(自然色)





接合資料128
(E9201)



接合資料81
(E9257)



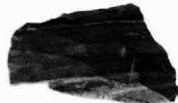
接合資料117
(E9254)



接合資料130
(E9259)



接合資料126
(E9256)





组合资料129
(母体6)

组合资料34
(母体5)



组合资料13
(母体4)

组合资料23
(母体5)



组合资料127
(母体2)



接合資料35
(092957)



接合資料42
(092960)



接合資料57
(母岩69)



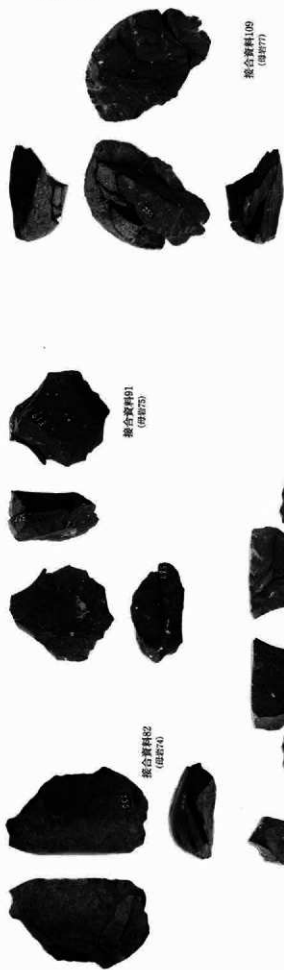
接合資料60
(母岩70)



接合資料74
(母岩72)



接合資料80
(母岩73)



綜合資料81
(88773)

綜合資料82
(88774)

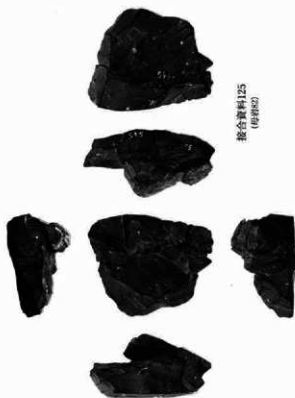
綜合資料109
(88777)



綜合資料99
(88780)

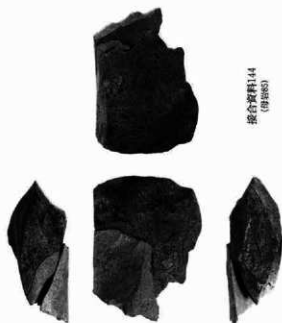
綜合資料112
(88779)

綜合資料115
(88778)



接合資料125
(09382)

接合資料124
(09381)



接合資料144
(09383)



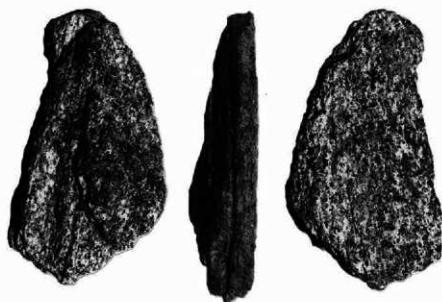
接合資料123
(09380)

接合資料135
(09385)

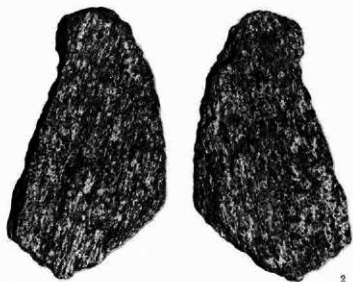


接合資料143
(09384)





接合資料 (1 + 2 覆片)
A区出土石器



2



1

D区出土石器



3

群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第129集

《第Ⅱ・Ⅲ文化層編》
一岡越自動車道(新山線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第40集一

房谷戸遺跡Ⅱ

平成4年3月21日 印刷

平成4年3月25日 発行

編集／群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話(0272)23-1111

群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

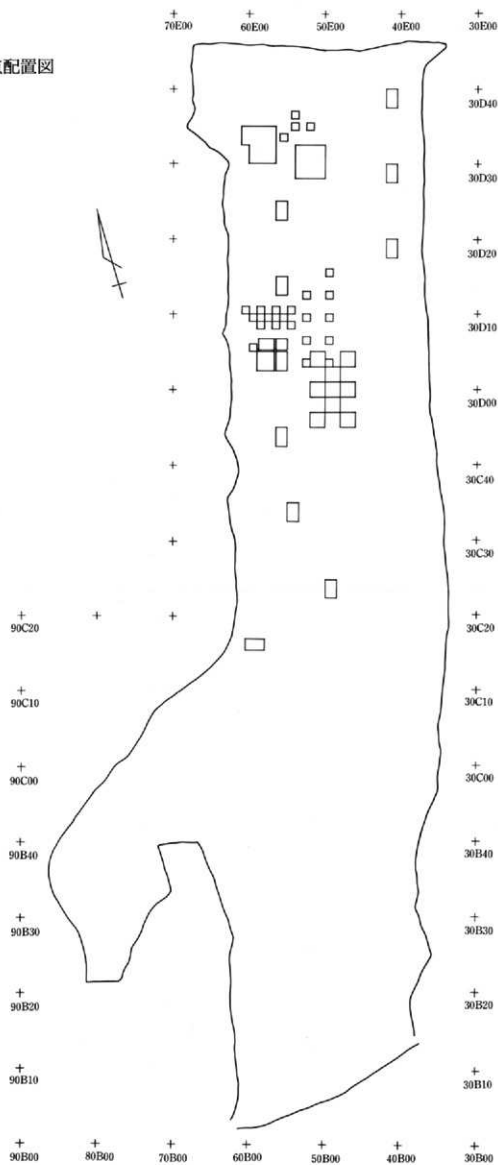
発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

付図 1

第 I 文化層試掘トレンチ・調査地点配置図

石器出土範囲



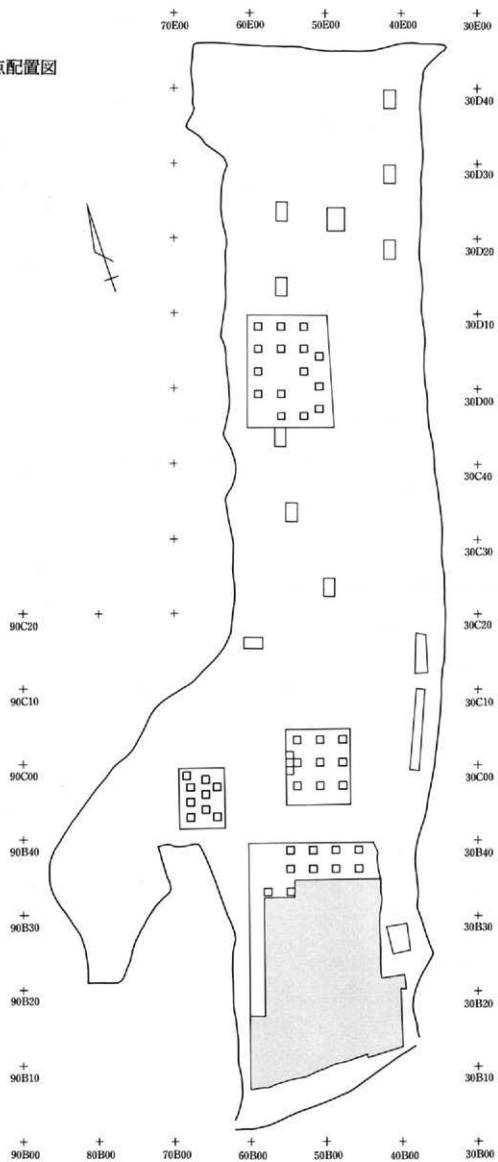
0 25m

S = 1/1000

付図 2

第II文化層試掘トレンチ・調査地点配置図

石器出土範囲



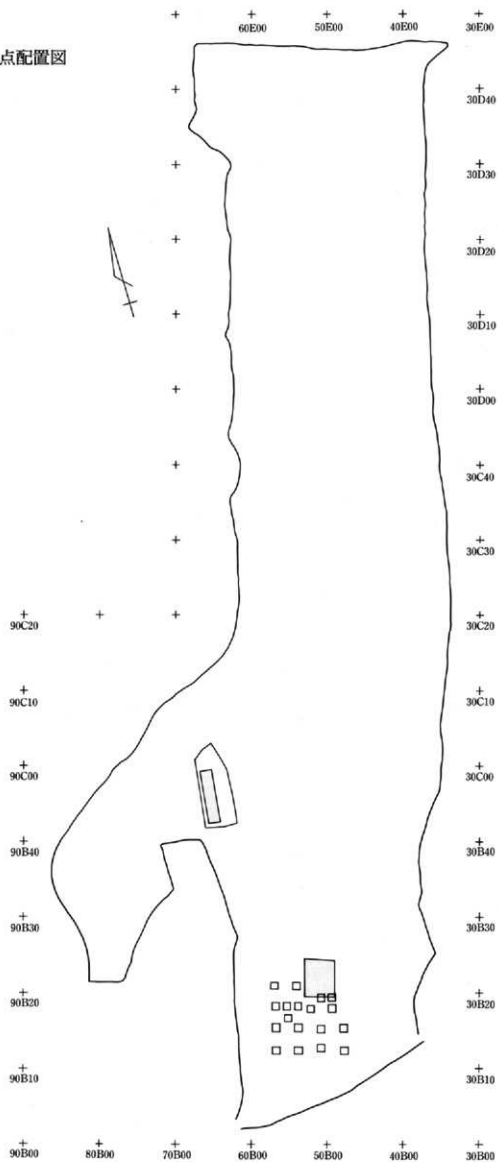
0 25m

S = 1/1000

付図3

第III文化層試掘トレンチ・調査地点配置図

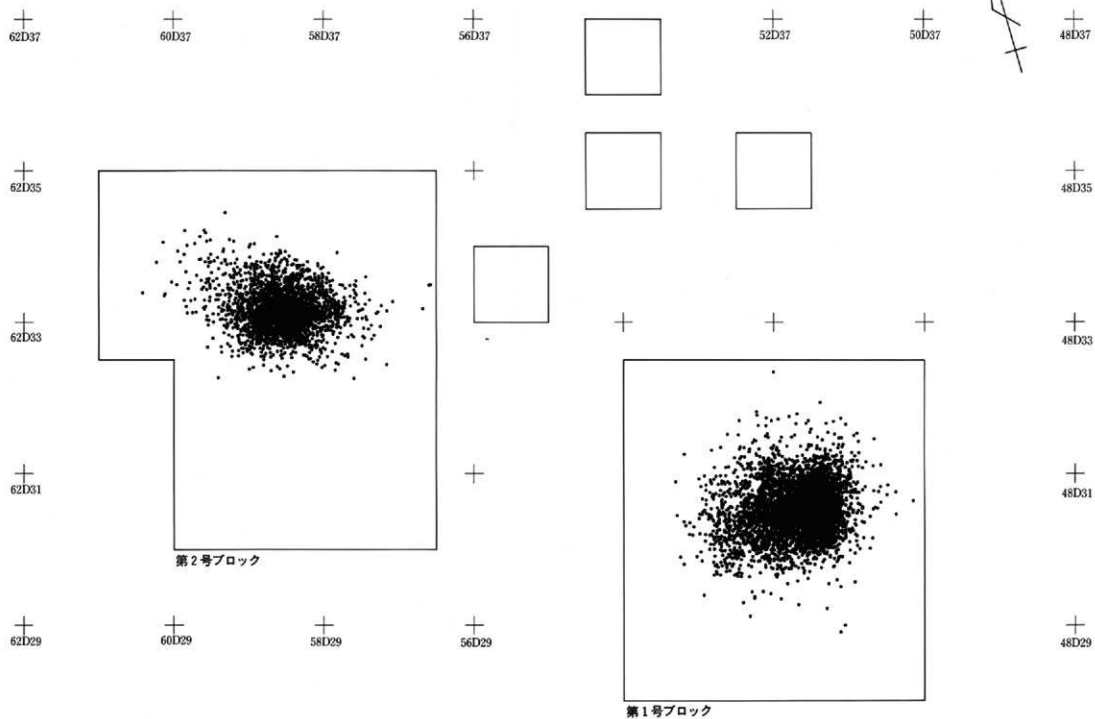
□ 石器出土範囲

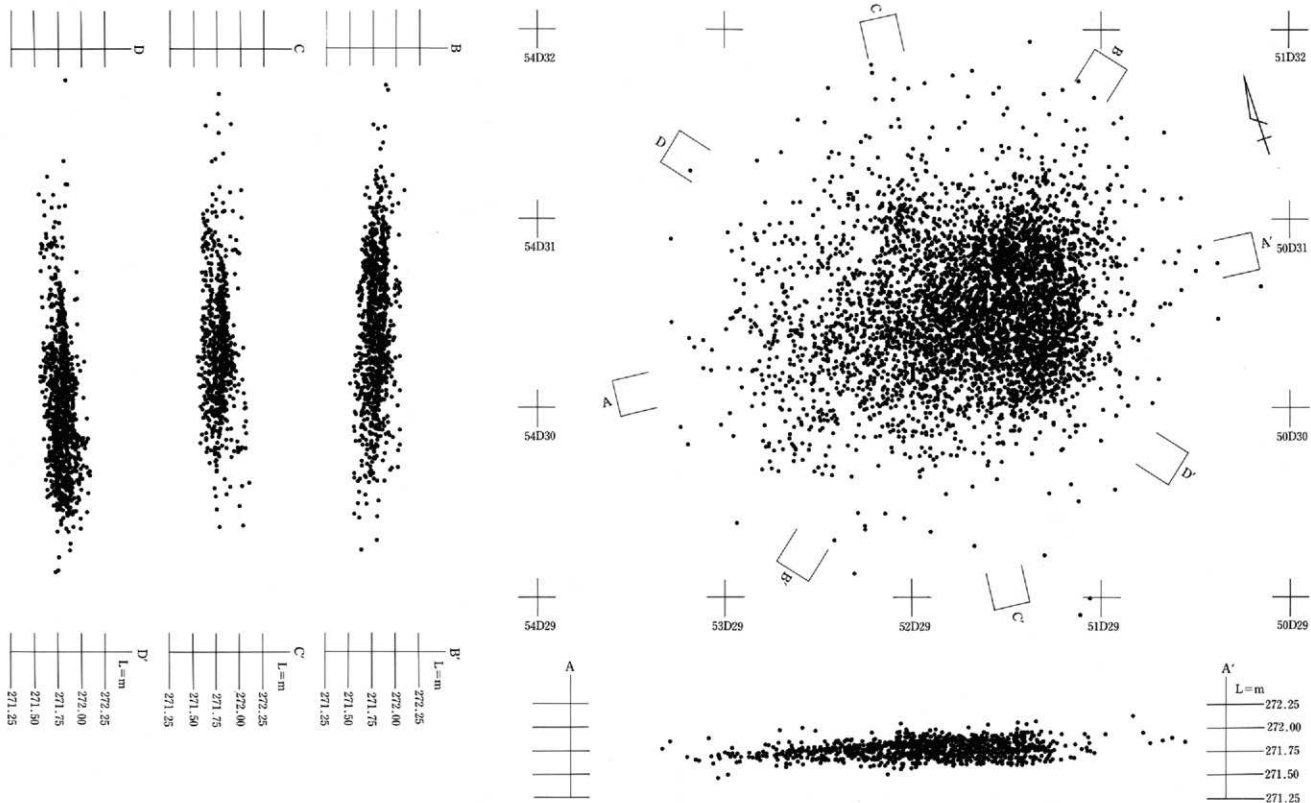


0 25m S=1/1000

付図 4

第 1 文化層石器出土分布図

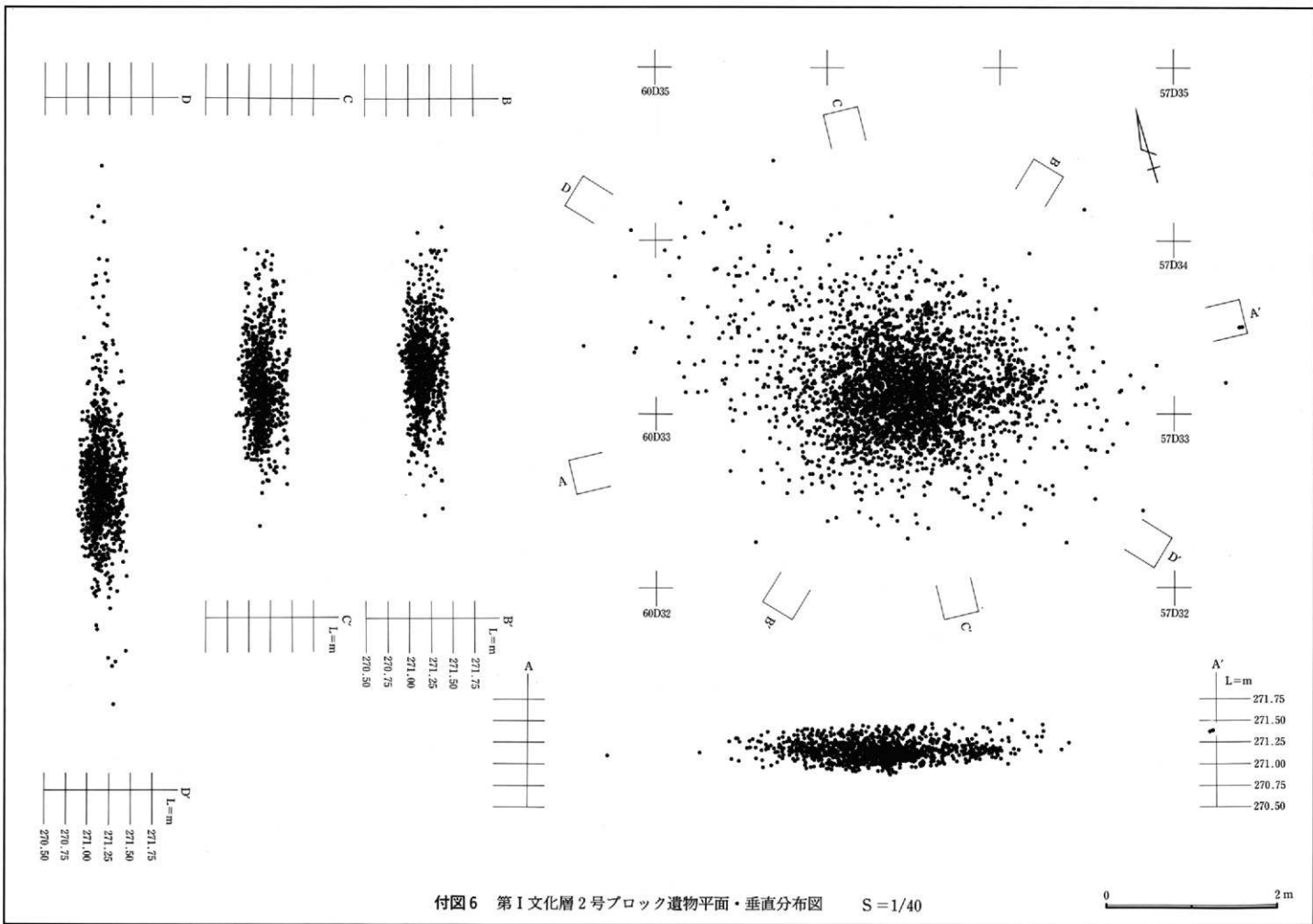




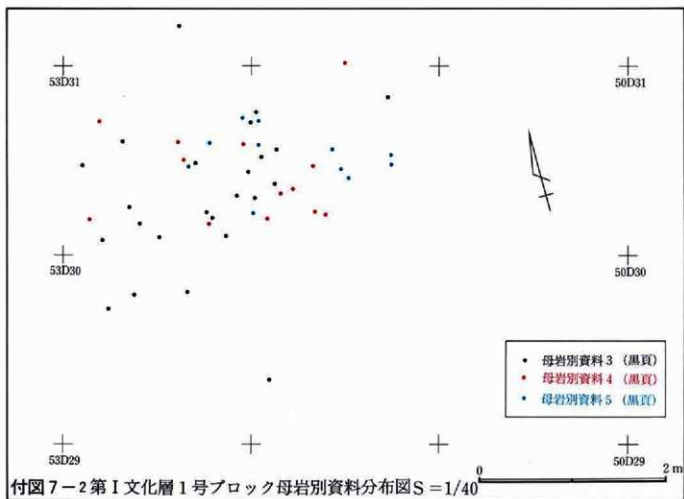
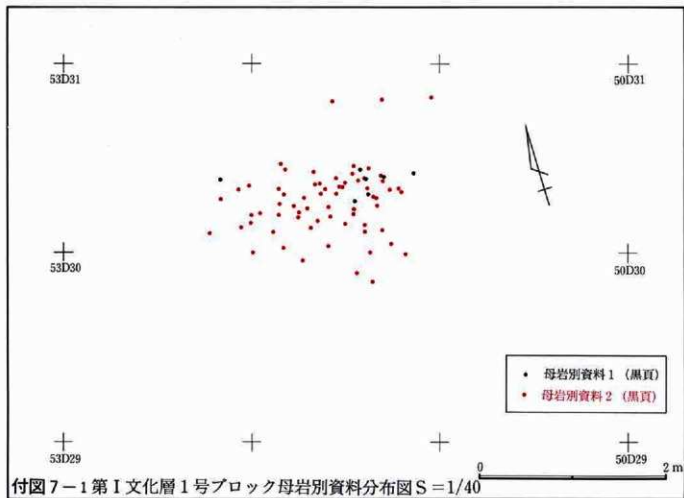
付図5 第1文化層1号ブロック遺物平面・垂直分布図

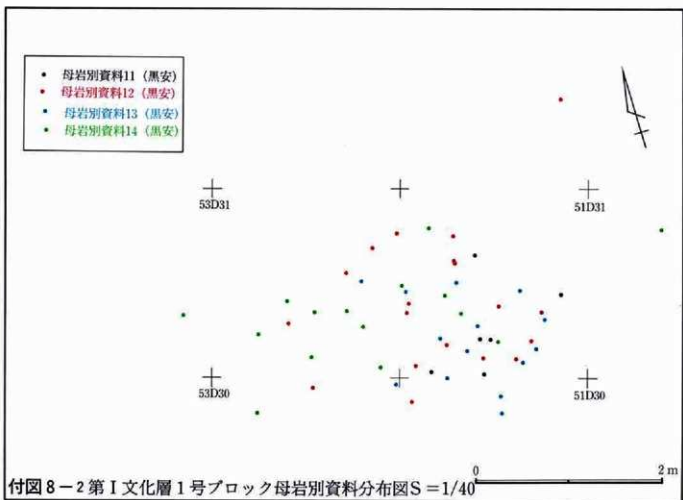
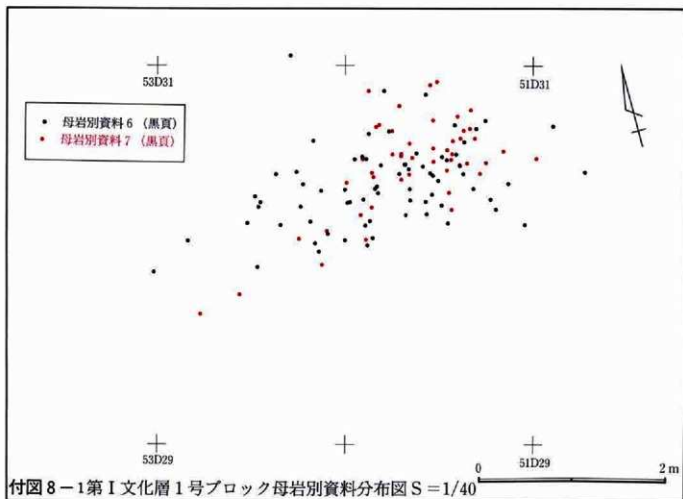
S=1/40

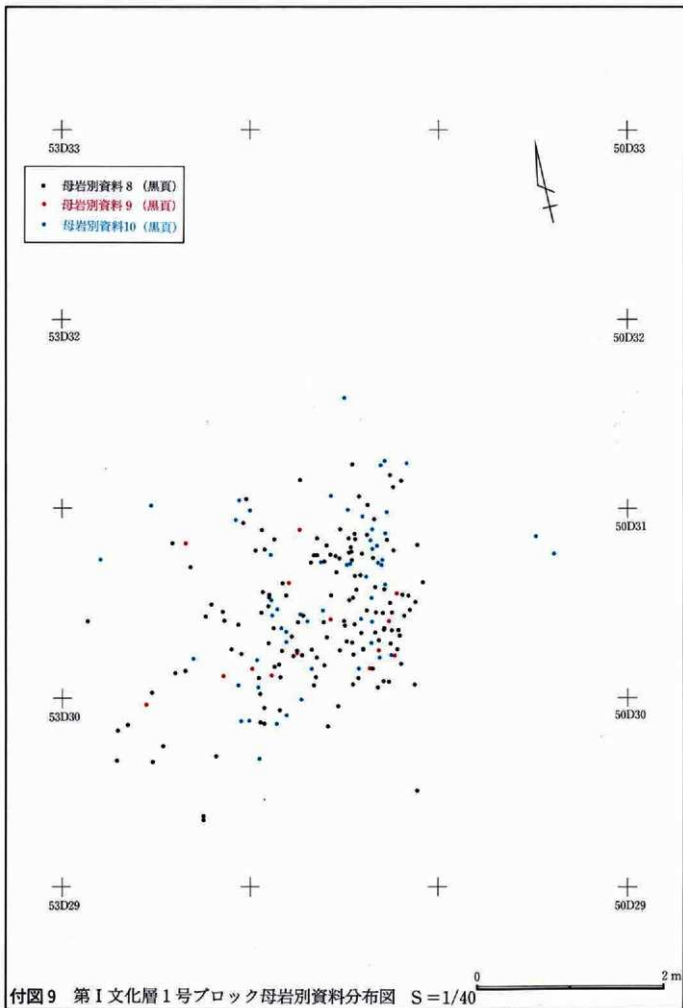
0 2 m



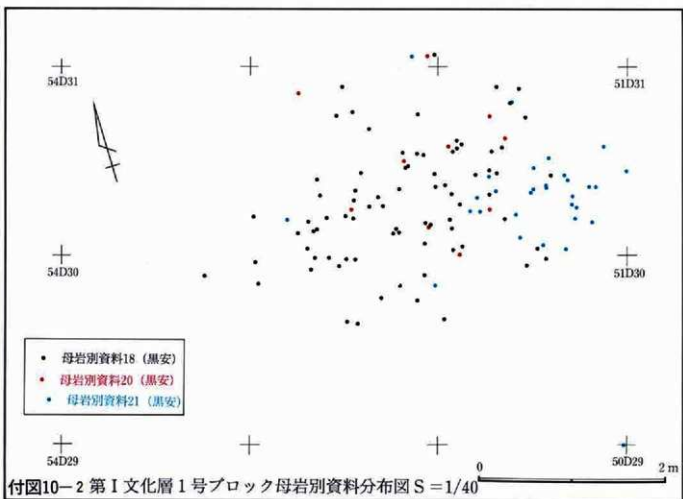
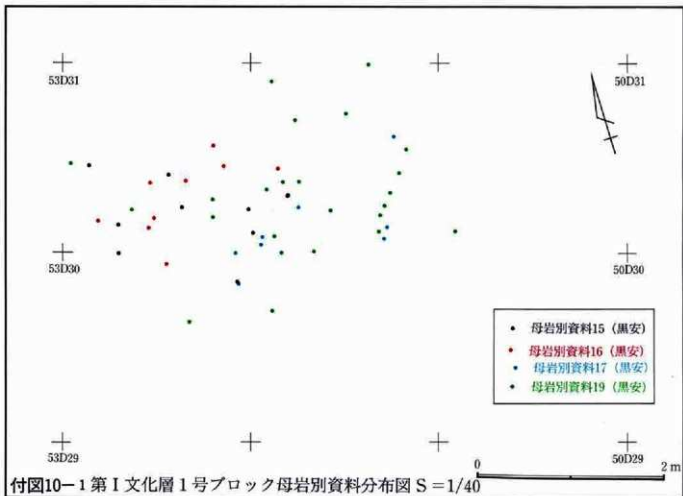
付図6 第1文化層2号ブロック遺物平面・垂直分布図 S=1/40

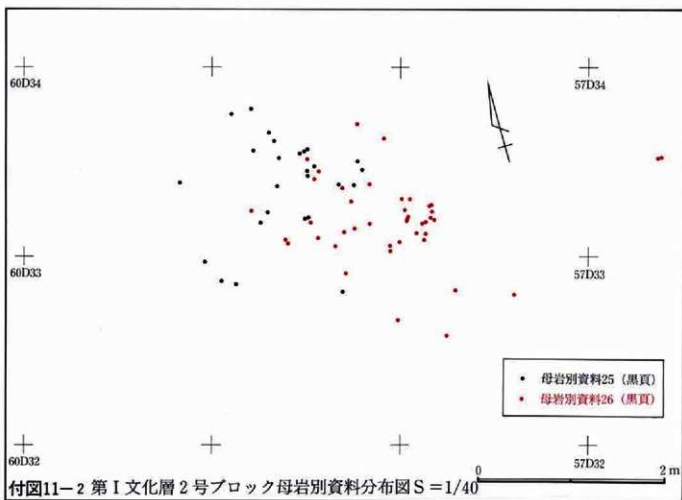
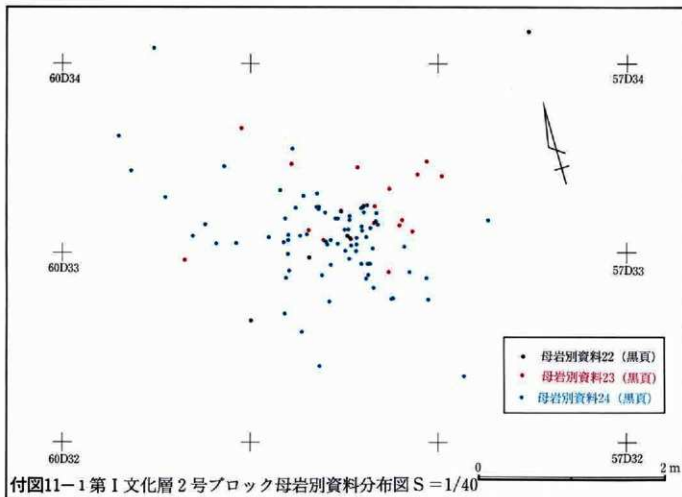


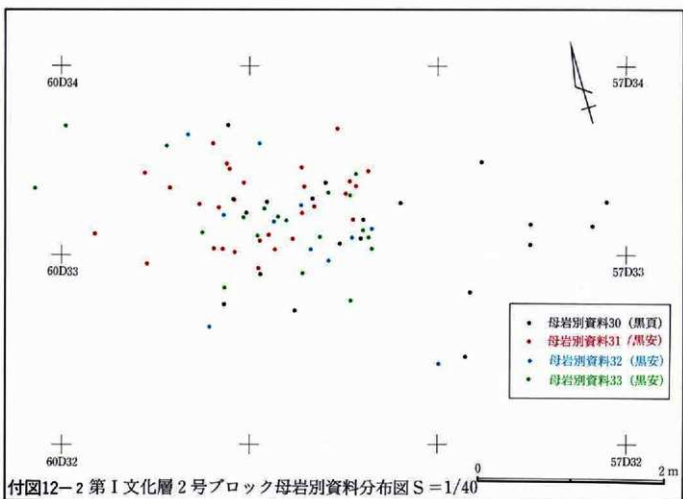
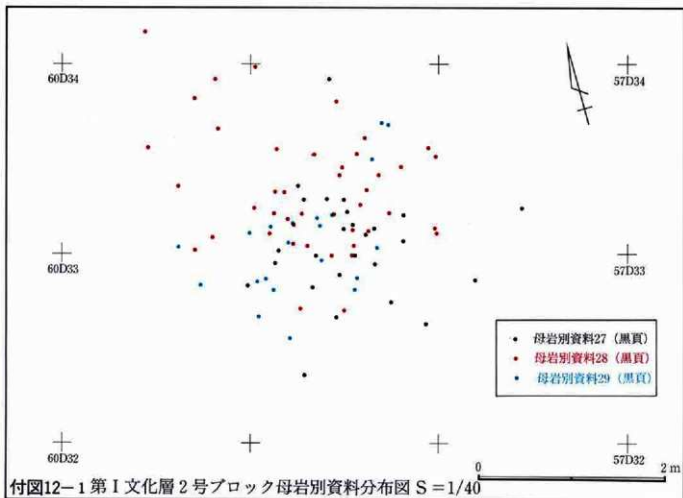


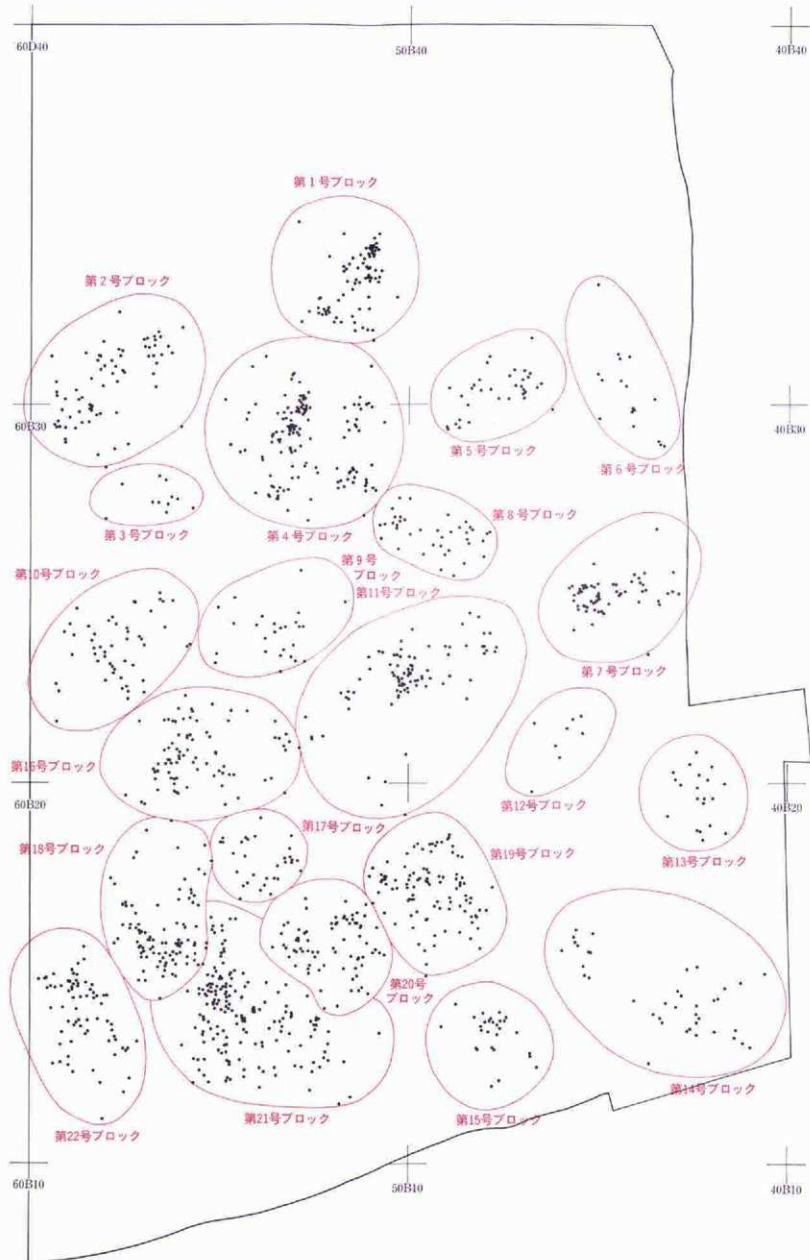


付図9 第I文化層1号ブロック母岩別資料分布図 S=1/40

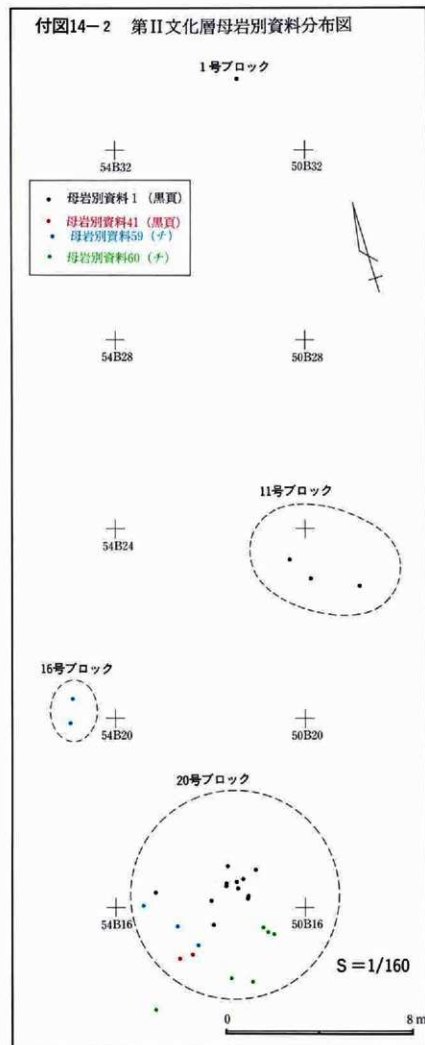
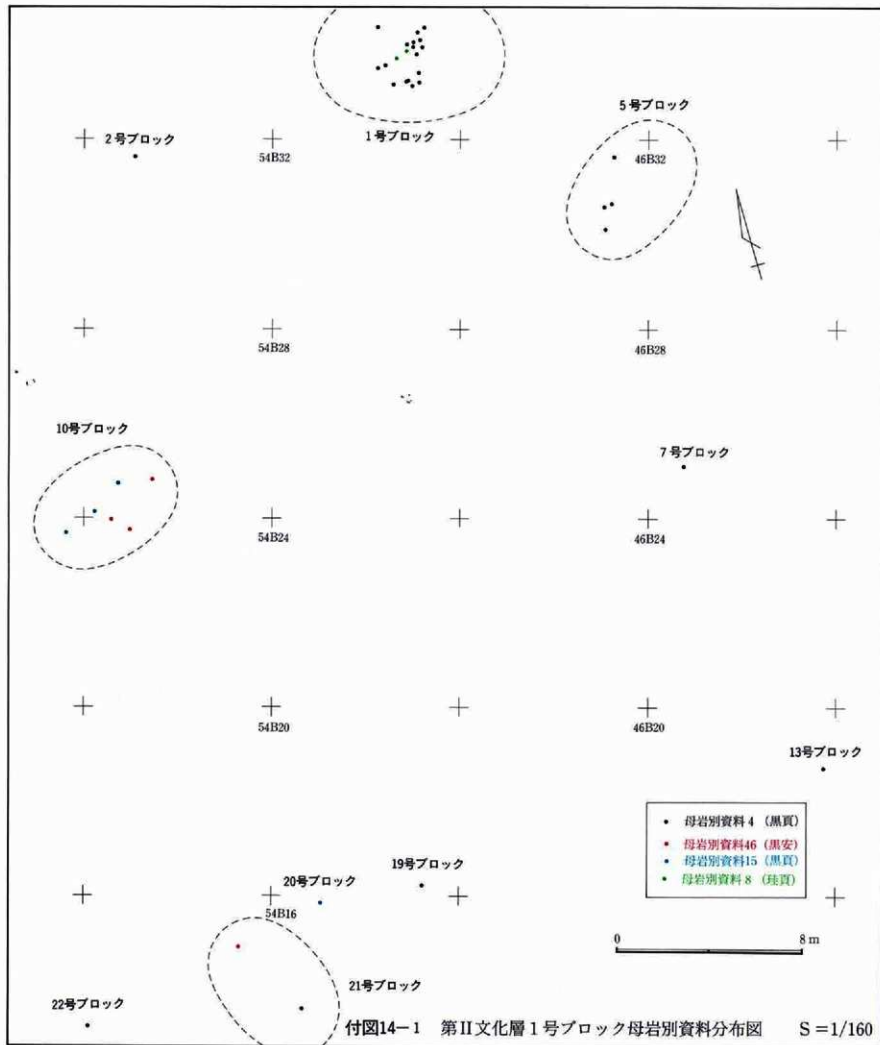


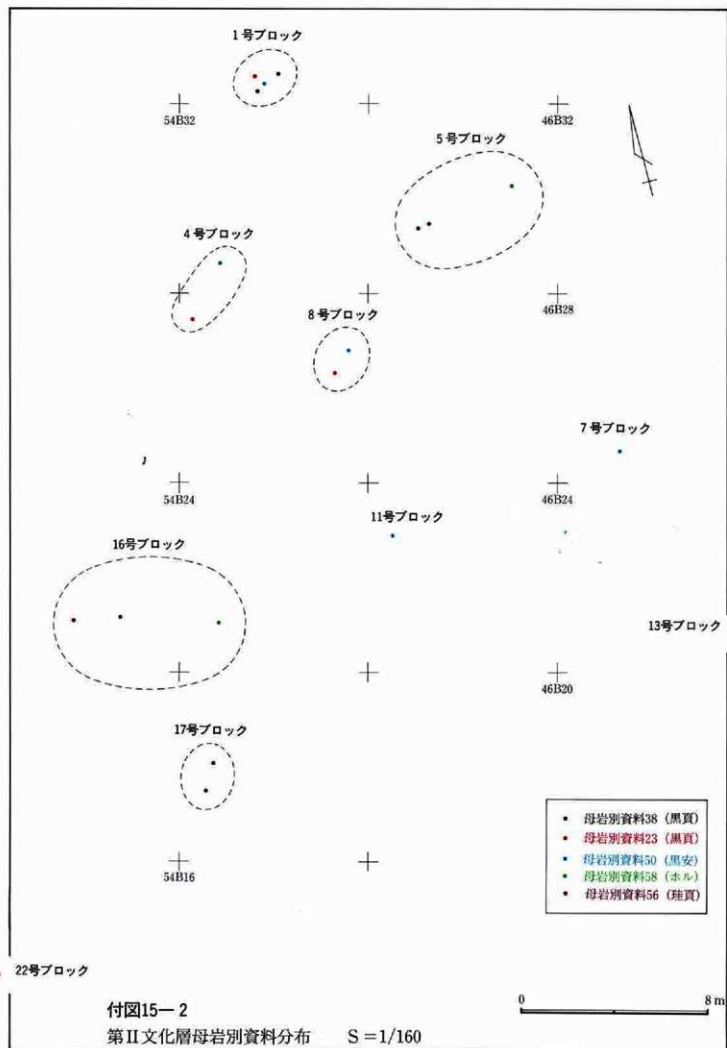
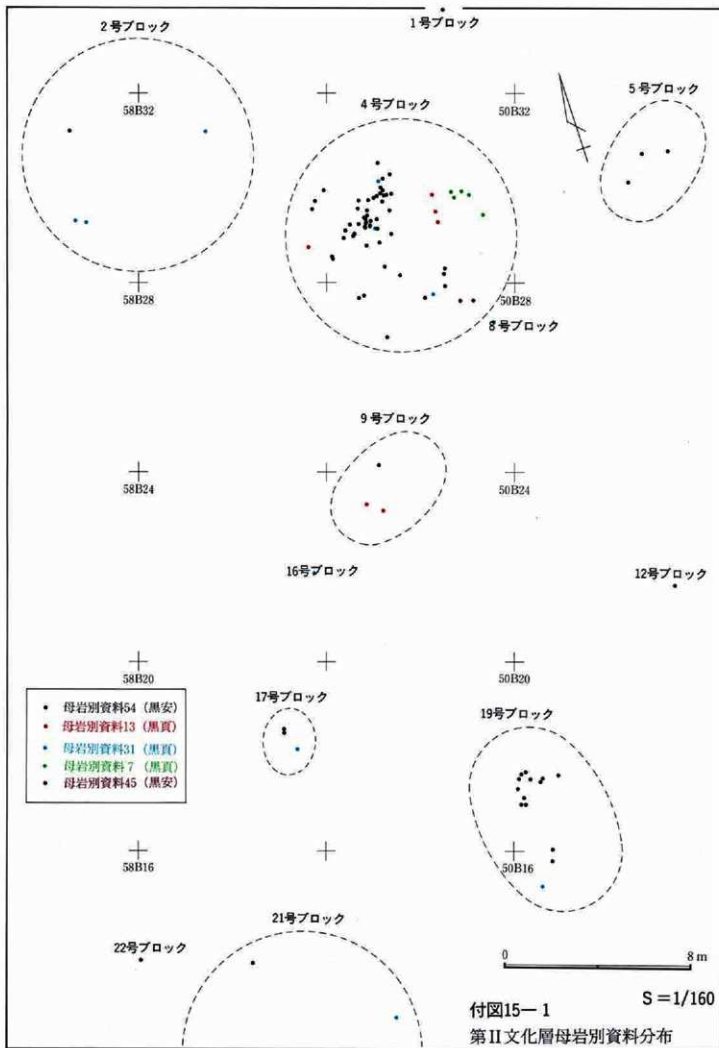


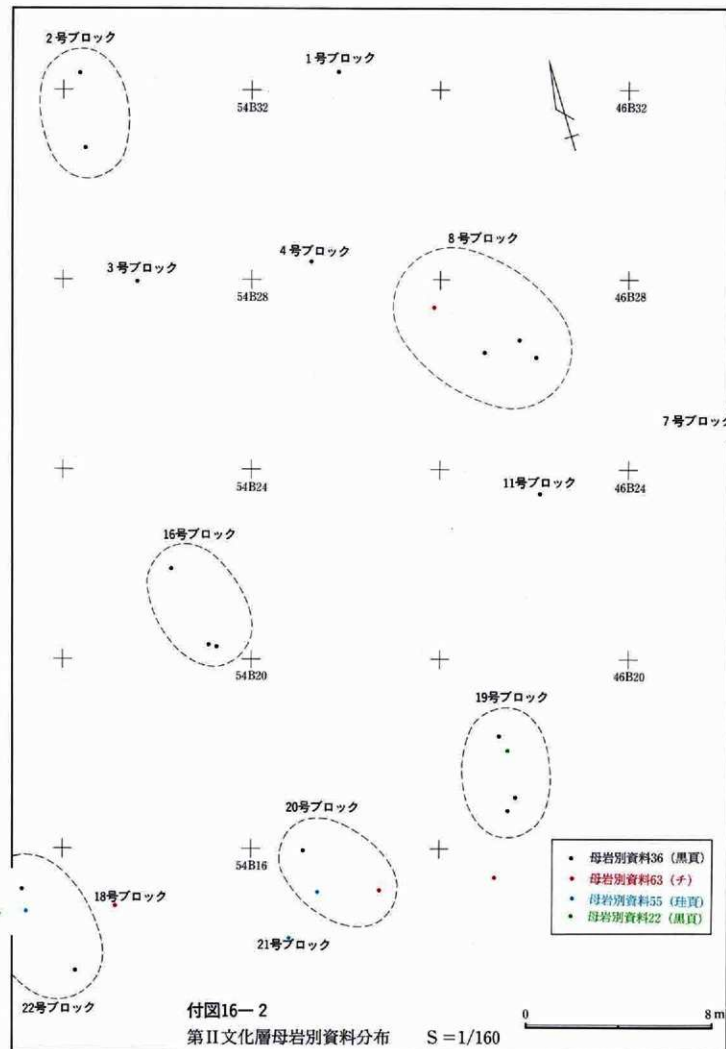
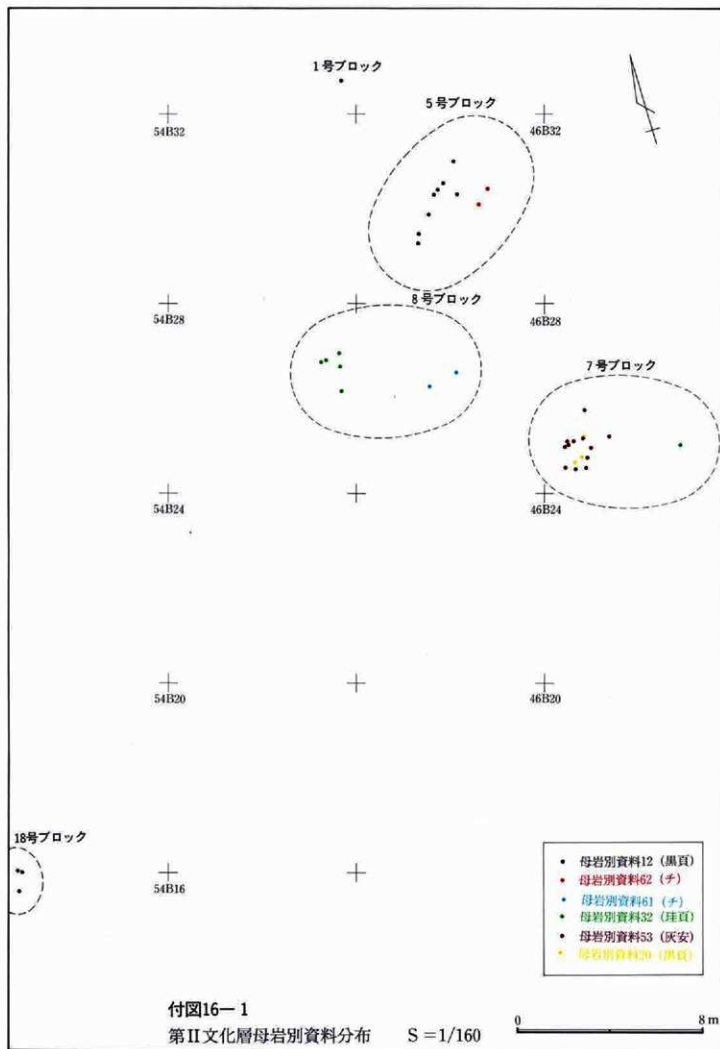


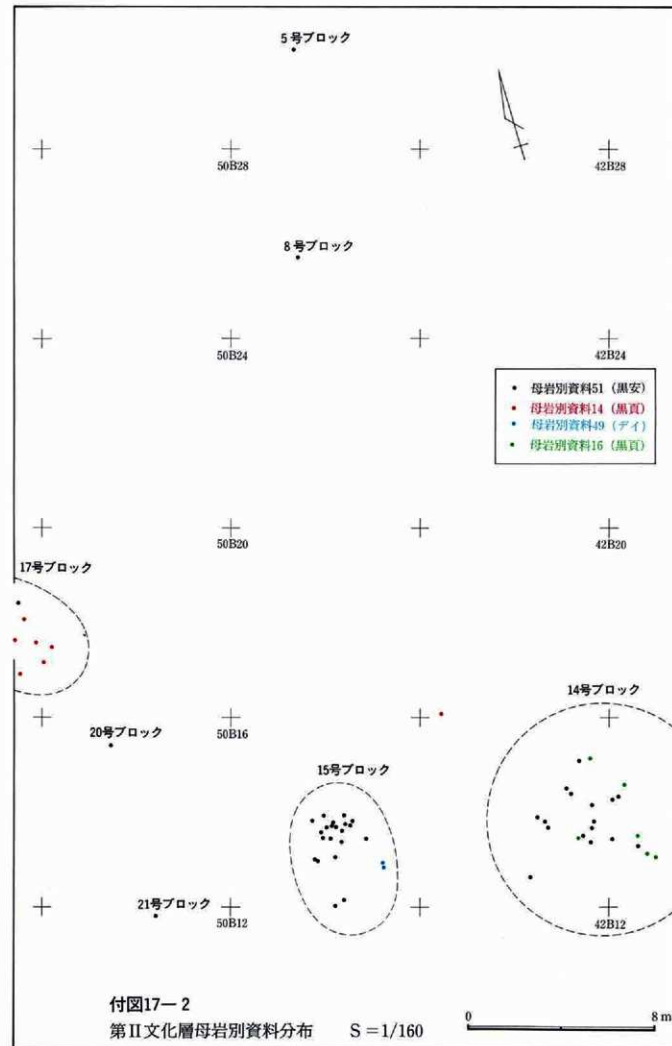
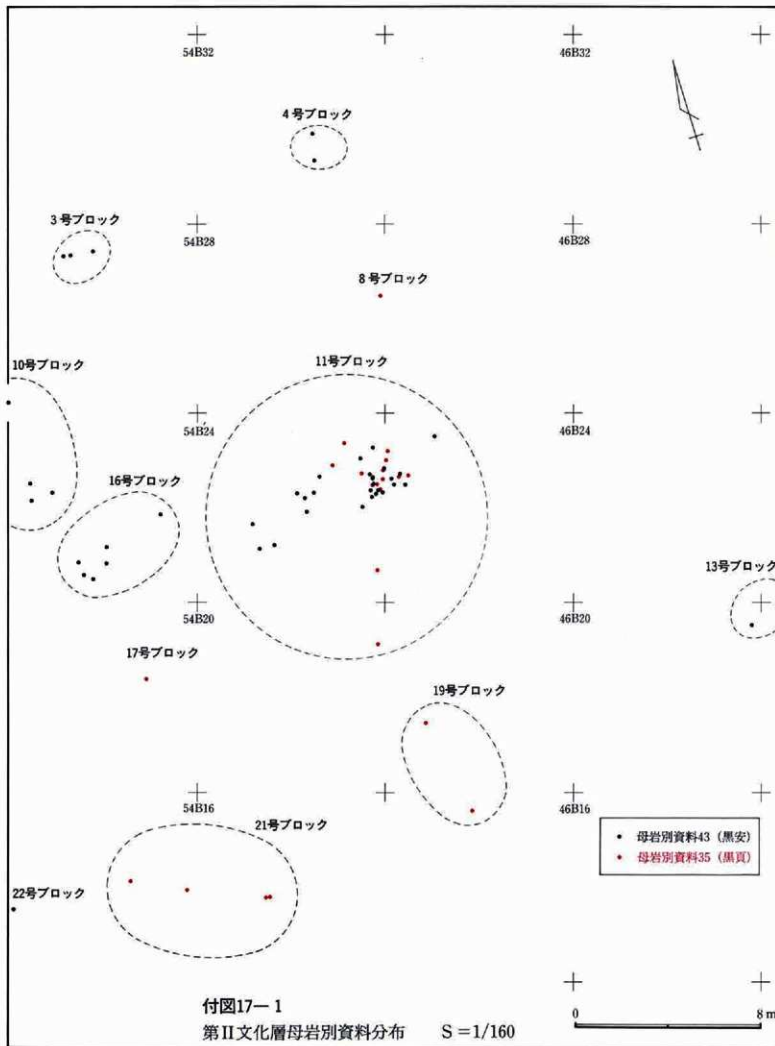


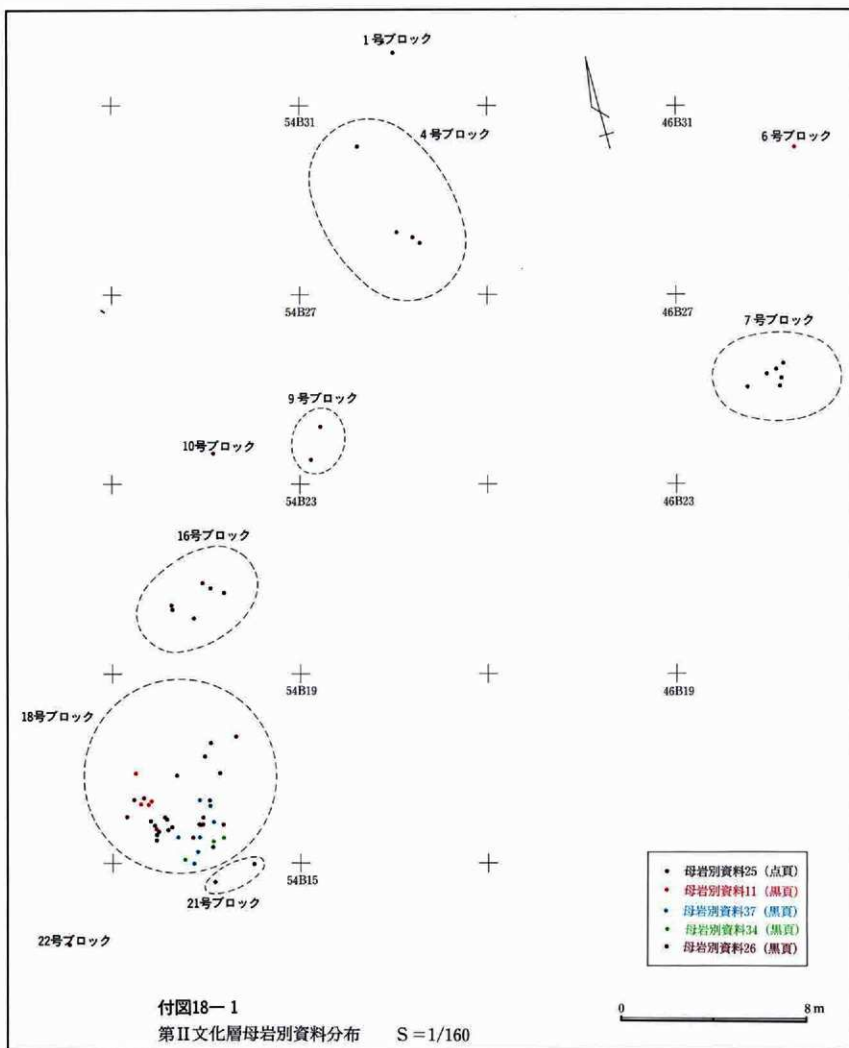
付図13







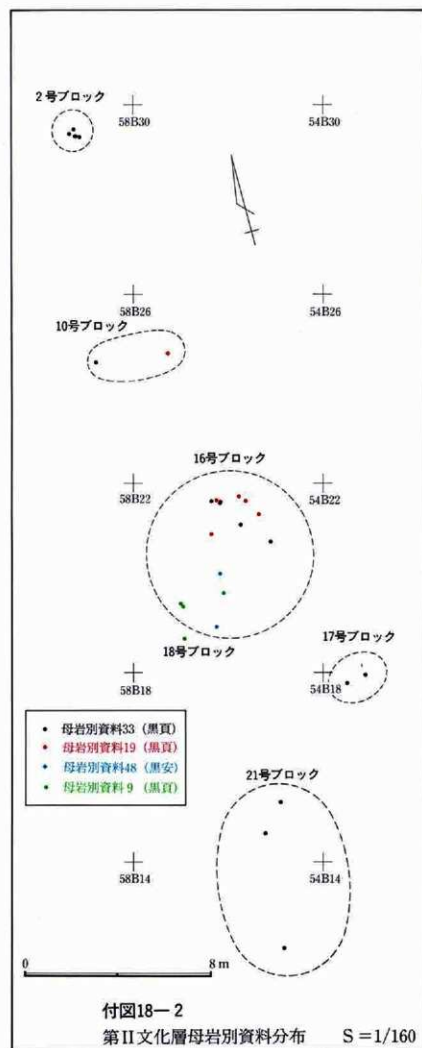




付図18-1

第II文化層母岩別資料分布

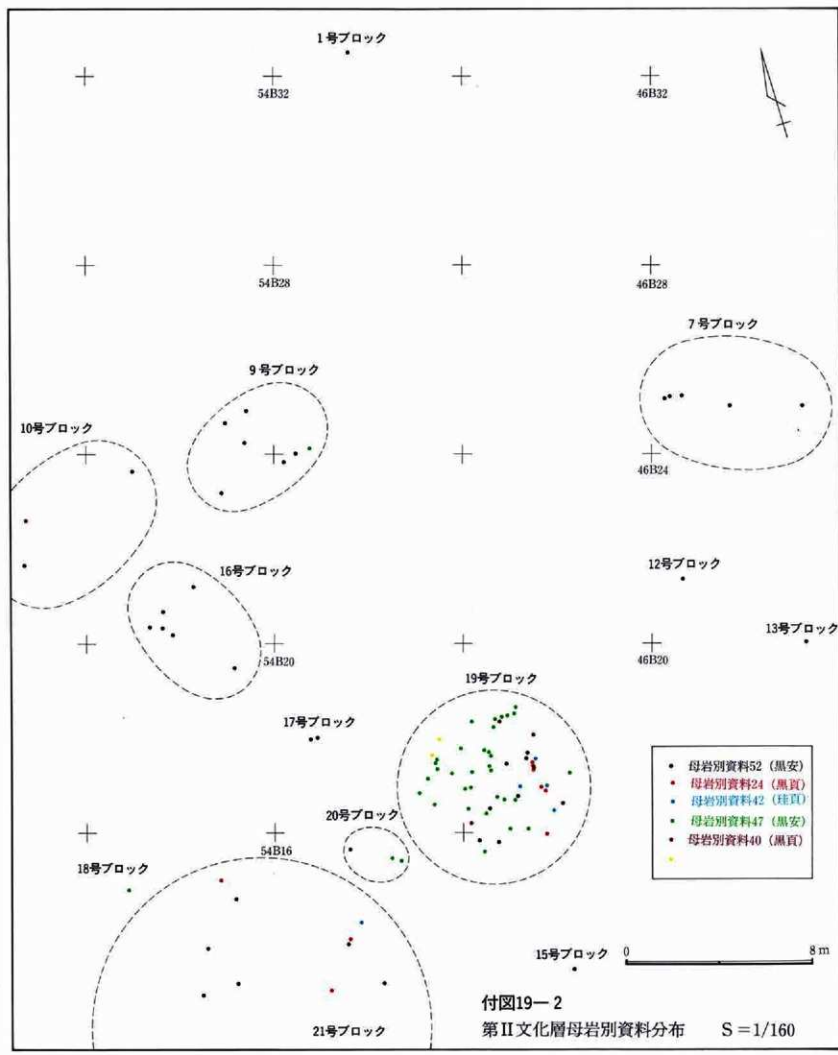
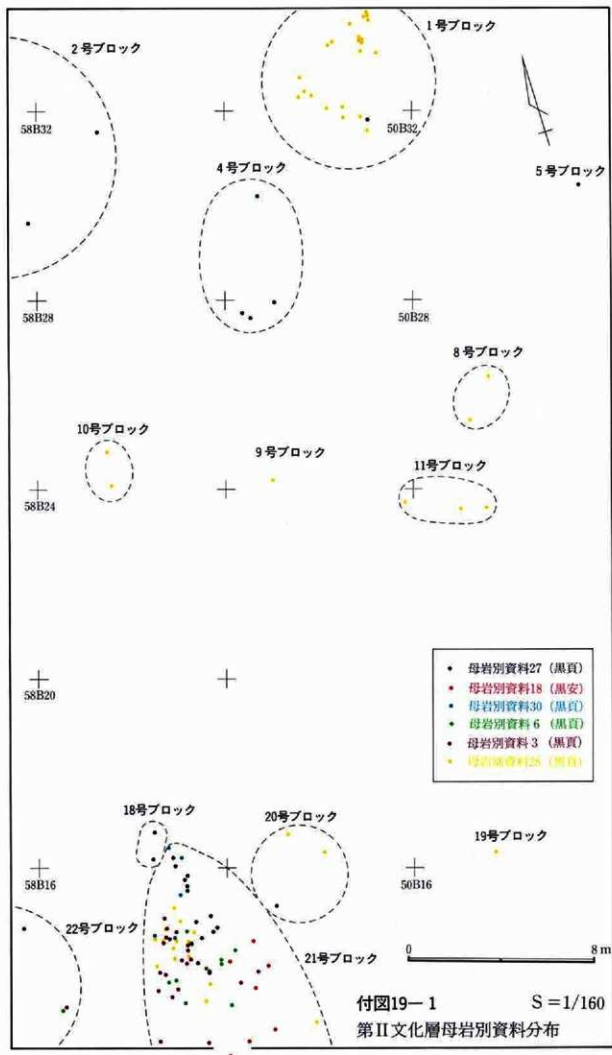
S = 1/160

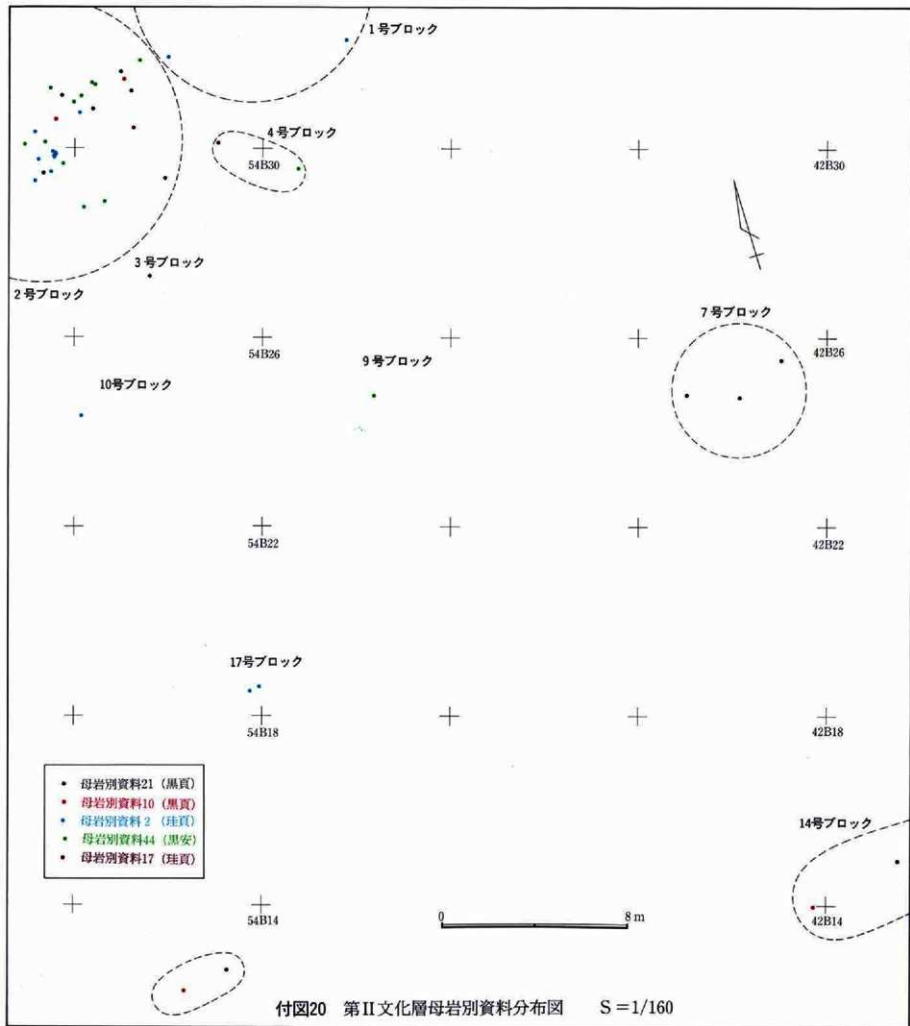


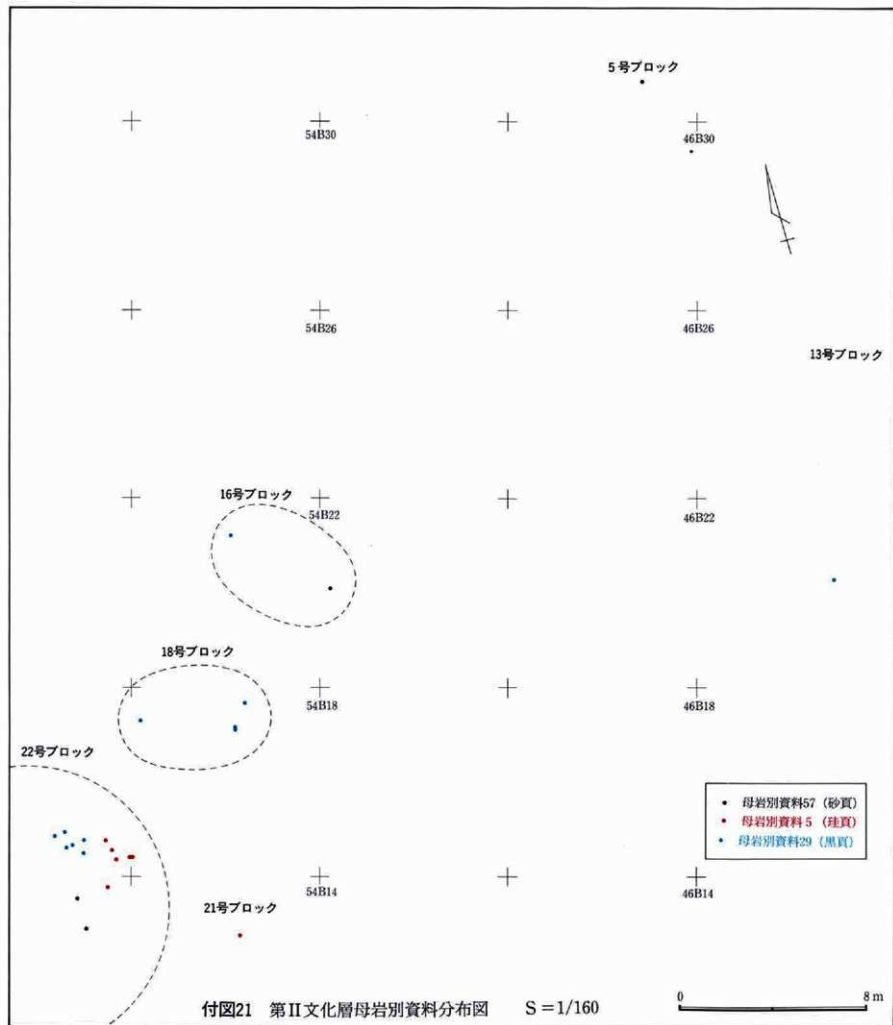
付図18-2

第II文化層母岩別資料分布

S = 1/160







付図21 第II文化層母岩別資料分布図 S=1/160